

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第5集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 4

2009, 3

ふじみ野市教育委員会



上福岡貝塚第1 地点1号住居跡遺物出土状況（南から）



上福岡貝塚第1 地点1号住居跡完掘（南から）



上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況（南から）



上福岡貝塚第1地点2号住居跡完掘（南から）



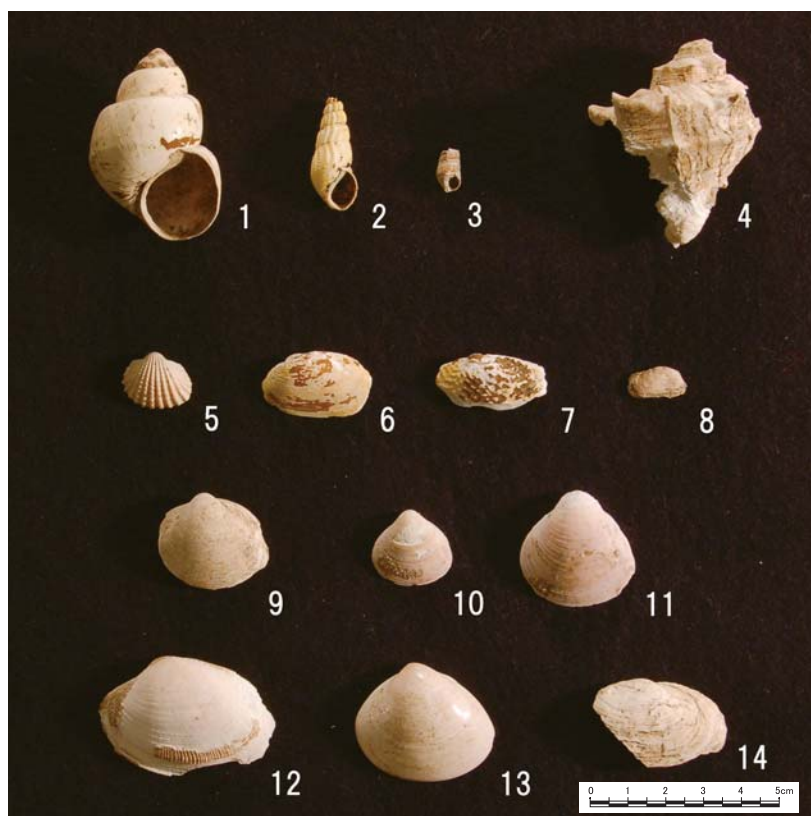
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物①



上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物②



上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物



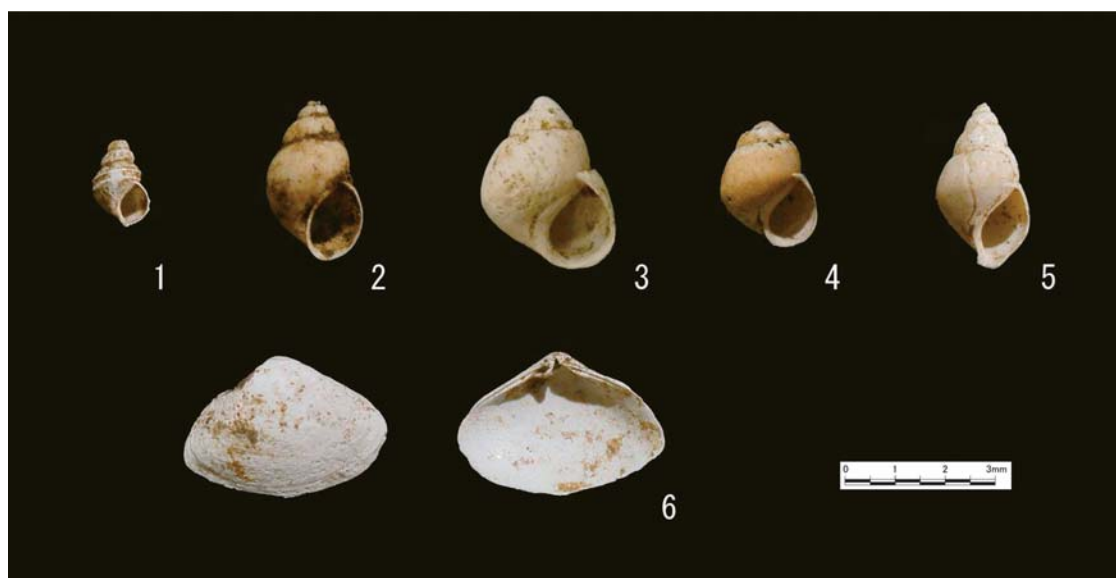
上福岡貝塚第1地点から産出した大型貝類遺体群

1: オオタニシ、2: チリメンカワニナ、3: ウミニナ類、4: アカニシ、5: ハイガイ、6: イシガイ、
7: マツカサガイ、8: ウネナシトマヤガイ、9: シオフキ、10・11: ヤマトシジミ、12: アサリ、
13: ハマグリ、14: オオノガイ

(*1・2・5~7・12~14: 1号住居跡貝層2、3: 1号住居跡貝層1、4: 1号住居跡貝層7、8・9: 1号住居跡貝層4、10・11: 2号住居跡貝層II)

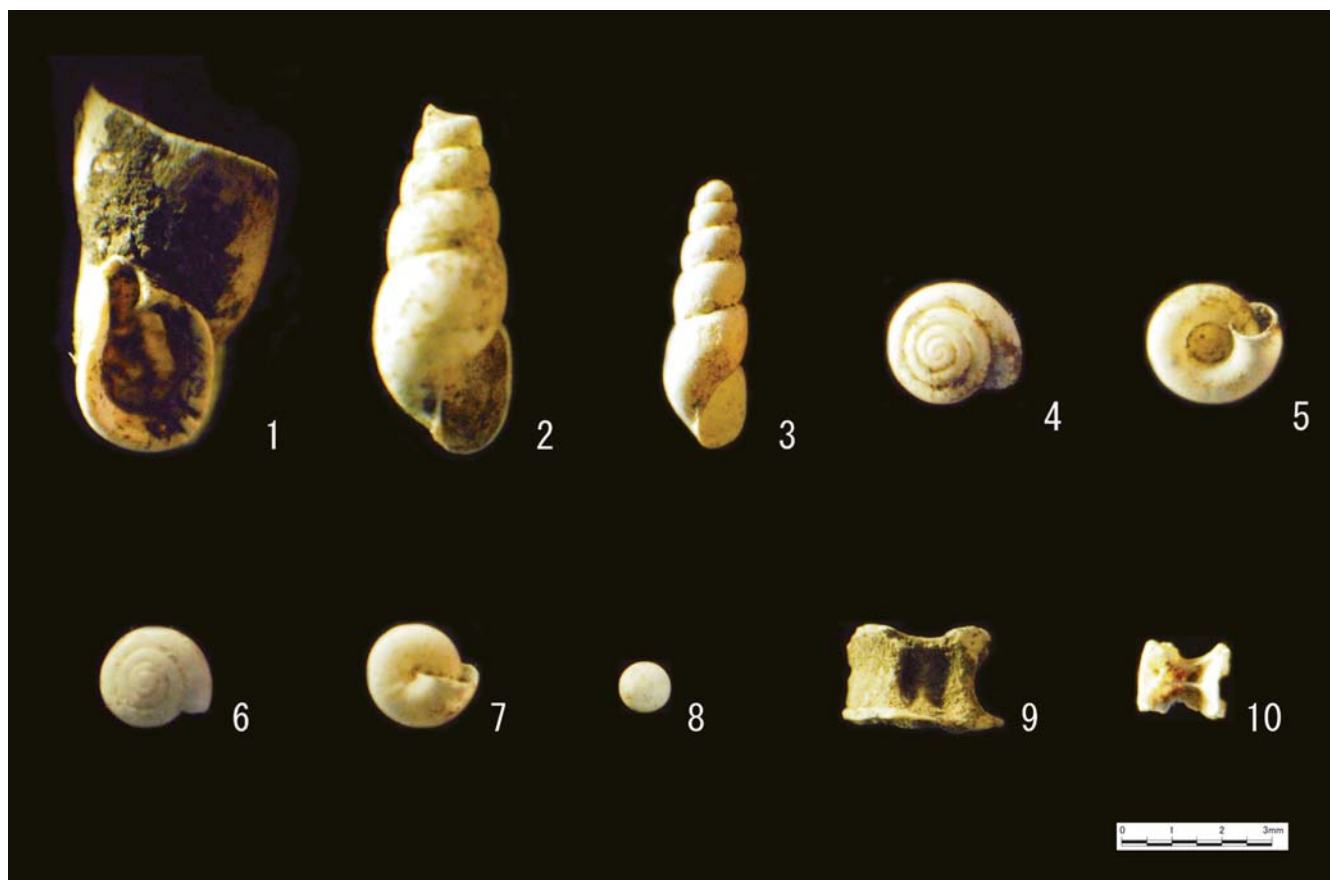


上福岡貝塚第1地点(2号住居跡貝層II)から産出したマガキ



上福岡貝塚第1地点から産出した主要な水生微小貝類遺体群

1: チリメンカワニナ幼貝(1号住居跡貝層12)、2: カワグチツボ(1号住居跡貝層2)、3: ヒラドカワザンショウ(2号住居跡貝層II)、4: ムシヤドリカワザンショウ(2号住居跡貝層II)、5: カキウラクチキレモドキ(1号住居跡貝層2)、6: ヒラタヌマコダキガイ(1号住居跡貝層2)



上福岡貝塚第1地点から産出した主要な陸生貝類遺体群及び脊椎動物遺体群

1: ヒカリギセル(1号住居跡貝層2・1層(東側))、2: オカチョウジガイ(2号住居跡貝層I・3層)、3: ホソオカチョウジガイ(2号住居跡貝層II C3・1層)、4: ヒメコハクガイの一種(表)(1号住居跡貝層2・5層)、5: ヒメコハクガイの一種(裏)、6: ヒメベッコウガイ類似種(表)(1号住居跡貝層2・1-3層・3'層(西側))、7: ヒメベッコウガイ類似種(裏)、8: 陸生貝類・卵(1号住居跡貝層8・1層(東側))、9: エイ類椎骨(1号住居跡貝層9・1層(東側))、10: コイ科尾椎(1号住居跡貝層9・1層(東側))



西遺跡第1 地点20・23号住居跡全景（南西から）



西遺跡第1 地点調査区全景（南西から）



西遺跡第1 地点調査区全景（南東から）



西遺跡第1地点23号住居跡炉体土器 No.96



西遺跡第1地点23号住居跡炉体土器 No.97



亀居遺跡第62地点土坑9出土土器 No.3



東台遺跡第49地点屋外埋甕出土土器 No.50



東台遺跡第49地点出土土偶 No.106



亀居遺跡第62地点土坑9 土器出土状況



亀居遺跡第62地点南側調査区（北から）



亀居遺跡第62地点北側調査区（西から）



滝遺跡第14地点14号住居跡完掘（南から）



滝遺跡第14地点調査区全景（南から）



滝遺跡第14地点14号住居跡竈遺物出土状況



滝遺跡第14地点13～16・19号住居跡出土遺物



浄禅寺跡遺跡第29地点調査区全景（左：北西から、右：北東から）



浄禅寺跡遺跡第29地点調査区全景（南西から）



浄禅寺跡遺跡第30地点調査区全景（西から）



浄禅寺跡遺跡第30地点調査区全景（南から）



浄禅寺跡遺跡第31地点 3号住居跡



3号住居跡炉遺物出土状況



3号住居跡埋甕出土状況



3号住居跡埋甕 1



3号住居跡埋甕 2



大井宿遺跡第15地点出土播鉢 No.9



大井宿遺跡第15地点出土焙烙 No.11



川崎遺跡第22地点出土花瓶 No.32



川崎遺跡出土瓦塔・瓦 (第1・2次、第22地点)

はじめに

平成の大合併と呼ばれた市町村合併のなか、平成17年10月1日に上福岡市と大井町がひとつになり「ふじみ野市」が誕生しました。

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュや大規模都市基盤整備事業が計画・実施されてきました。近年では東武東上線「ふじみ野駅」周辺の区画整理事業や、「上福岡駅」周辺の再開発事業が進み、人口の増加も伴って周辺の自然や社会環境は大きく変化しつつあります。

いろいろな環境が変化するなか、ふじみ野市内には実に多くの文化財が存在します。普段は地中であって目にするのでできない埋蔵文化財もその一つですが、徳川家康が訪れ休憩したと伝えられる権現山古墳群、旧大井町の町名の由来となった復元大井戸などは現地で直に見て・触れることの出来る遺跡として保存されています。しかし、人と地域社会が作り出した、真に地域に根ざした埋蔵文化財の多くは現状のまま保存されることが望ましいのですが、開発によりやむをえず現状変更を余儀なくされ、記録保存という形で発掘調査されることが多いのが実情です。

本報告書に収められた発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各原因者の皆様からの費用負担をお願いして実施した、「市内遺跡群発掘調査」から得られた成果の記録書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力、そして地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、日本考古学協会員の今井堯先生をはじめ、文化庁・埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教育長 松下勇司

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2007(平成19)年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。
2. 2007(平成19)年度に行なった試掘調査および整理作業は、総経費14,092,027円に対し、国庫(7,000,000円)、県費(3,500,000円)の補助金の交付を受け、2007(平成19)年4月10日から2008(平成20)年3月31日まで実施したものである。
3. 民間開発を原因として行なった6件の本調査は、開発原因者から委託を受けふじみ野市教育委員会が主体となって行なった。開発原因者・委託者等は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行なった。

| 遺跡・地点名 | 委託者 | 協定期間 |
|-------------|-------------|----------------------------|
| 亀居遺跡第62地点 | 鈴木 武 | 2008. 1. 7 ~ 2009. 3. 31 |
| 西遺跡第1地点 | (株)Di-Frame | 2007. 6. 1 ~ 2009. 3. 31 |
| 上福岡貝塚第1地点 | (株)新日本無線 | 2007. 5. 17 ~ 2009. 3. 31 |
| 滝遺跡第14地点 | (株)奥山建設 | 2007. 11. 20 ~ 2009. 3. 31 |
| 浄禅寺跡遺跡第29地点 | 安野信二 他3名 | 2007. 9. 20 ~ 2009. 3. 31 |
| 浄禅寺跡遺跡第30地点 | 安野信二 | 2007. 10. 10 ~ 2009. 3. 31 |

4. 調査組織

| | | |
|-----------|-------------------------------|--------------|
| 調査主体者 | ふじみ野市教育委員会 | 文化財保護係 |
| 担当課 | 生涯学習課文化財保護係 | 調査担当者 高崎直成 |
| 教育長 | 吉野英明 (2005.11.25 ~ 2008.9.16) | 調査担当者 鍋島直久 |
| | 松下勇司 (2008.12.12 ~) | 庶務担当 松原靖子 |
| 教育次長 | 伊藤 修 | 発掘調査員補 越村 篤 |
| 生涯学習課長兼次長 | 田中節子 | 嘱託員 藤牧守絵 |
| 文化財保護係長 | 坪田幹男 | 臨時的任用職員 高橋京子 |

5. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

本書の編集は鍋島が行ない、第Ⅱ部第2章Ⅰ(2)を笹森健一、第Ⅱ部第2章Ⅲ(3)を阿部常樹・一木絵理が執筆し文末に記した。文末に執筆者を記したものの以外は鍋島が行なった。また、各遺跡出土の近世・近代の遺物観察表は越村篤が、同縄文時代石器観察表は大久保明子が作成した。報告書作成全般にわたり、坪田・高崎・越村の協力を得た。上福岡貝塚第1地点の調査全般と西遺跡第1地点の整理作業については笹森健一氏の絶大な援助と協力を得た。上福岡貝塚の貝層調査から動物遺体の整理作業・分類について、東京大学埋蔵文化財調査室の阿部常樹氏、東京大学大学院新領域創成科学研究科の一木絵理氏のご指導とご協力を賜った。また整理作業全般において日本考古学協会の今井堯の指導と援助を得た。挿図割付：高橋けい子 写真図版割付：青山奈保美、大久保明子 遺物接合・復元：中田藤子
土器実測：石垣ゆき子、大久保明子、高橋智也、寺井美和子、秋本太郎、守谷健吾
消火栓実測：明石千とせ、大久保明子 石器実測・トレース：大久保明子 遺構・土器トレース：小林登喜江
土器拓本：石垣ゆき子 図版作成：石垣ゆき子・須藤さち子・高橋けい子・丹治つや子・鈴木千恵子・青山奈保美
遺構写真：鍋島直久・高崎直成・越村篤 遺物写真：大久保明子、阿部常樹・一木絵理(上福岡貝塚出土貝類)
(株)東京航業研究所に土器・石器実測、図版作成の一部を、(有)文化財COMに土器実測の一部を委託した。自然科学分析に関しては(株)古環境研究所に委託した。

上福岡貝塚第1地点出土の植物については、国立歴史民俗博物館の住田雅和氏に分析を依頼した。上福岡貝塚第1地点出土縄文土器の縄文原体については下村克彦氏より御教示を、同出土消火栓については(株)建設工業社の小宮山亮次会長、富家克彦氏より史料の提供及び御教示を賜った。

上福岡貝塚出土の遺物洗浄、フローテーション等について富士見市教育委員会から機材等の協力を得た。

6. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)

新井和之、会田明、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、石井良、石川安司、伊藤順一、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、

岡田賢治、岡田勇介、小川卓也、奥野麦生、小澤毅、加藤秀之、加藤恭朗、梶原勝、梶原喜世子、亀井建太郎、神木繁嘉、川名広文、國見徹、隈本健介、黒坂禎二、黒濟和彦、黒濟玉恵、小泉功、小出輝雄、酒井智晴、桜井信枝、佐藤啓子、佐藤良博、塩野賀一、渋谷寛子、清水理史、下村克彦、鈴木清、鈴木徳雄、瀬崎克己、高木文夫、高野博光、高橋喜代隆、高橋清文、田中和之、田中信、丹治剛、角田史雄、富元久美子、中村愛、永井智教、鍋島智恵子、西井幸雄、根本靖、芳賀拓真、橋本鶴人、橋本裕可子、原口雅樹、早坂廣人、坂野千登勢、比嘉洋子、藤波啓容、藤野一之、毒島正明、堀善之、松本富雄、水村孝行、宮昌之、向出博之、柳井章宏、柳澤健司、山口逸弘、山内清子、領塚正浩、和田晋治(独)国立文化財機構奈良文化財研究所、埼玉県教育局生涯学習文化財課、埼玉県立歴史と民俗の博物館、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団、大井郷土資料館、上福岡歴史民俗資料館、大井遺跡調査会、(有)文化財COM、(有)アルケーリサーチ、(株)東京航業研究所、新日本無線(株)、(株)建設工業、(株)立売堀製作所

7. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。(敬称略)

〈発掘調査・整理作業参加者〉明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、井川弘、壹岐ヒサ子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、内田潔、遠藤忠志、大久保明子、大曾根キク子、大野英理子、長田弘毅、小野沢保孝、金子君子、川中ひろみ、菊口繁子、木下一郎、小林こずい、西城満期子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、篠崎忠三、清水公子、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、滝沢久嘉、寺井美和子、中村正、沼澤岩男、根岸年男、野岡由紀子、比嘉洋子、一木絵理、福田美枝子、増沢勝実、宮崎達夫、山内康代、吉田寛、若林紀美代

※太字は発掘調査・整理作業参加者、細字は発掘調査のみ参加者

〈整理作業参加者〉青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤綾那、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、寺井美和子、中田藤子、一木絵理

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。




(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図・土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3、1:6 銭貨 1:1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 

土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○

(4) 土器断面図は、「網目」(上福岡貝塚出土土器は■)が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わす。

(5) 縄文土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(6) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

(7) 遺構・遺物実測図の▲(三角マーク)は図の連続、接合部を示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。整理作業時に遺構名称を変更したものについては、新旧の名称を表等に記している。

3. 本文中の各表内における()付の数値は残存値を示す。

4. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

市内遺跡群 4 目次

| | | | |
|-----------------------------|------|-----------------------|-----|
| はじめに | i | 第7章 長宮遺跡の調査 | 26頁 |
| 例言 | ii | I 遺跡の立地と環境 | 26頁 |
| 凡例 | iii | II 長宮遺跡第27地点 | 26頁 |
| 目次 | iv | III 長宮遺跡第28地点 | 28頁 |
| 挿図目次 | vi | IV 長宮遺跡第29地点 | 32頁 |
| 表目次 | vii | 第8章 亀居遺跡の調査 | 36頁 |
| 写真図版目次 | viii | I 遺跡の立地と環境 | 36頁 |
| | | II 亀居遺跡第62地点 | 36頁 |
| 第I部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果 ... | 1頁 | 第9章 松山遺跡の調査 | 39頁 |
| 第1章 遺跡と調査の概要 | 1頁 | I 遺跡の立地と環境 | 39頁 |
| I 調査に至る経過 | 1頁 | II 松山遺跡第43地点 | 40頁 |
| II 立地と環境 | 3頁 | 第10章 江川東遺跡の調査 | 42頁 |
| III 市内の遺跡 | 4頁 | I 遺跡の立地と環境 | 42頁 |
| 第2章 鶴ヶ岡外遺跡の調査 | 8頁 | II 江川東遺跡第14地点 | 42頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 8頁 | III 江川東遺跡第15地点 | 42頁 |
| II 鶴ヶ岡外遺跡第5地点 | 8頁 | 第11章 東久保遺跡の調査 | 44頁 |
| 第3章 西遺跡の調査 | 10頁 | I 遺跡の立地と環境 | 44頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 10頁 | II 東久保遺跡第65地点 | 44頁 |
| II 西遺跡第1地点 | 10頁 | 第12章 東中学校西遺跡の調査 | 46頁 |
| 第4章 川崎遺跡の調査 | 12頁 | I 遺跡の立地と環境 | 46頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 12頁 | II 東中学校西遺跡第31地点 | 46頁 |
| II 川崎遺跡第22地点 | 14頁 | 第13章 駒林遺跡の調査 | 47頁 |
| III 川崎遺跡第24地点 | 15頁 | I 遺跡の立地と環境 | 47頁 |
| 第5章 上福岡貝塚の調査 | 19頁 | II 駒林遺跡第4地点 | 48頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 19頁 | 第14章 福岡新田遺跡の調査 | 49頁 |
| II 上福岡貝塚第1地点 | 19頁 | I 遺跡の立地と環境 | 49頁 |
| 第6章 滝遺跡の調査 | 22頁 | II 福岡新田遺跡第1地点 | 49頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 22頁 | 第15章 西ノ原遺跡の調査 | 54頁 |
| II 滝遺跡第13地点 | 22頁 | I 遺跡の立地と環境 | 54頁 |
| III 滝遺跡第14地点 | 25頁 | II 西ノ原遺跡第135地点 | 55頁 |

| | | | |
|---------------------------|------|-------------------------------|----------|
| III 西ノ原遺跡第140地点 | 55頁 | 第2章 上福岡貝塚第1地点の本調査 | 136頁 |
| IV 西ノ原遺跡第141地点 | 55頁 | I 遺跡の概要 | 136頁 |
| 第16章 神明後遺跡の調査 | 58頁 | II 本調査の概要 | 142頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 58頁 | III 発掘調査の成果 | 143頁 |
| II 神明後遺跡第31地点 | 58頁 | 第3章 滝遺跡第14地点の本調査 | 190頁 |
| III 神明後遺跡第32地点 | 59頁 | I 本調査の概要 | 190頁 |
| 第17章 苗間東久保遺跡の調査 | 60頁 | II 遺構と遺物 | 190頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 60頁 | 第4章 亀居遺跡第62地点の本調査 | 202頁 |
| II 苗間東久保遺跡第25地点 | 61頁 | I 本調査の概要 | 202頁 |
| 第18章 浄禅寺跡遺跡の調査 | 62頁 | II 遺構と遺物 | 202頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 62頁 | 第5章 浄禅寺跡遺跡第29地点の本調査 | 207頁 |
| II 浄禅寺跡遺跡第9地点 | 62頁 | I 本調査の概要 | 207頁 |
| III 浄禅寺跡遺跡第29地点 | 64頁 | II 遺構と遺物 | 207頁 |
| IV 浄禅寺跡遺跡第30地点 | 65頁 | 第6章 浄禅寺跡遺跡第30地点の本調査 | 230頁 |
| V 浄禅寺跡遺跡第31地点 | 71頁 | I 本調査の概要 | 230頁 |
| VI 浄禅寺跡遺跡第32地点 | 75頁 | II 遺構と遺物 | 230頁 |
| 第19章 大井宿遺跡の調査 | 77頁 | 第III部 まとめ | 238頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 77頁 | 第1章 2007年度の調査について | 238頁 |
| II 大井宿遺跡第15地点 | 77頁 | 第2章 上福岡貝塚第1地点の調査成果について | 242頁 |
| 第20章 大井氏館跡遺跡の調査 | 82頁 | I 上福岡貝塚縄文時代前期住居跡の 配置について | 242頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 82頁 | II 上福岡貝塚第1地点出土土器について | 243頁 |
| II 大井氏館跡遺跡第22地点 | 82頁 | III 今後の課題 | 244頁 |
| 第21章 大井戸上遺跡の調査 | 86頁 | 附編 自然科学分析 | |
| I 遺跡の立地と環境 | 86頁 | 浄禅寺跡遺跡第30地点調査の放射性炭素年代測定 | 247・248頁 |
| II 大井戸上遺跡第6地点 | 87頁 | 引用参考文献 | 241頁 |
| 第22章 東台遺跡の調査 | 89頁 | 抄録 | 249・250頁 |
| I 遺跡の立地と環境 | 89頁 | | |
| II 東台遺跡第49地点 | 93頁 | | |
| 第II部 民間開発に伴う本調査の成果 | 100頁 | | |
| 第1章 西遺跡第1地点の本調査 | 100頁 | | |
| I 本調査の概要 | 100頁 | | |
| II 遺構と遺物 | 100頁 | | |

挿 図 目 次

| | | | | | |
|------|--|-----|-------|---|------|
| 第1図 | ふじみ野市の位置と周辺の地形 | 5頁 | 第58図 | 浄禪寺跡遺跡第32地点堀跡・ピット(1/60)、出土土器(1/4) | 76頁 |
| 第2図 | ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000) | 6頁 | 第59図 | 大井宿遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 77頁 |
| 第3図 | 鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区(1/10,000)、 鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区域図(1/3,000)、土層図(1/60) | 9頁 | 第60図 | 大井宿遺跡第15地点遺構配置図(1/300) | 78頁 |
| 第4図 | 西遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 10頁 | 第61図 | 大井宿遺跡第15地点トレンチ1土坑・ピット①(1/60) | 79頁 |
| 第5図 | 川崎遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 12頁 | 第62図 | 大井宿遺跡第15地点トレンチ2ピット②・溝(1/60) | 80頁 |
| 第6図 | 川崎遺跡第22・24地点遺構配置図(1/300)、 第24地点土層図(1/150) | 15頁 | 第63図 | 大井宿遺跡第15地点出土遺物(1/4・1/6) | 81頁 |
| 第7図 | 川崎遺跡第22地点地下式坑1・2、穴蔵・土坑(1/60) | 16頁 | 第64図 | 大井氏館跡遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 82頁 |
| 第8図 | 川崎遺跡第22地点炉穴・土坑・溝(1/60) | 17頁 | 第65図 | 大井氏館跡遺跡第22地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150) | 83頁 |
| 第9図 | 川崎遺跡第22地点出土遺物(1/4) | 18頁 | 第66図 | 大井氏館跡遺跡第22地点礎石(1/30)、土坑・ピット(1/60) | 84頁 |
| 第10図 | 上福岡貝塚の地形と調査区(1/4,000) | 19頁 | 第67図 | 大井氏館跡遺跡第22地点出土遺物(1/4) | 85頁 |
| 第11図 | 上福岡貝塚第1地点試掘調査区域図(1/300)、土層図(1/150) | 20頁 | 第68図 | 大井戸上遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 86頁 |
| 第12図 | 上福岡貝塚第1地点水溜・不凍消火栓・配水管(1/60・1/12) | 21頁 | 第69図 | 大井戸上遺跡第6地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/150) | 86頁 |
| 第13図 | 滝遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 22頁 | 第70図 | 大井戸上遺跡第6地点ピット(1/60) | 88頁 |
| 第14図 | 滝遺跡第13地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150) | 23頁 | 第71図 | 東台遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 89頁 |
| 第15図 | 滝遺跡第13地点焼土・土坑・ピット・溝(1/60) | 24頁 | 第72図 | 東台遺跡の調査区と遺構分布図(1/2,000) | 92頁 |
| 第16図 | 滝遺跡第14地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/200) | 25頁 | 第73図 | 東台遺跡第49地点遺構配置図(1/500) | 93頁 |
| 第17図 | 長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 26頁 | 第74図 | 東台遺跡171号住居跡・炉(1/60・1/30)、 第49地点屋外埋甕・集石土坑・ピット(1/30) | 95頁 |
| 第18図 | 長宮遺跡第27・28地点遺構配置図(1/300) | 28頁 | 第75図 | 東台遺跡172～176号住居跡遺物出土状況図(1/60) | 96頁 |
| 第19図 | 長宮遺跡第28地点土坑・ピット①(1/60) | 29頁 | 第76図 | 東台遺跡第49地点粘土採掘坑・土坑・溝(1/60) | 97頁 |
| 第20図 | 長宮遺跡第28地点井戸・ピット②(1/60) | 30頁 | 第77図 | 東台遺跡第49地点出土遺物①(1/4) | 98頁 |
| 第21図 | 長宮遺跡第28地点出土遺物(1/4) | 32頁 | 第78図 | 東台遺跡第49地点出土遺物②(1/4) | 99頁 |
| 第22図 | 長宮遺跡第29地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/150)、 井戸・土坑・ピット(1/60) | 33頁 | 第79図 | 西遺跡第1地点遺構配置図(1/400) | 101頁 |
| 第23図 | 長宮遺跡第29地点堀跡・溝(1/150) | 34頁 | 第80図 | 西遺跡第1地点2号住居跡・炉(1/60・1/30) | 103頁 |
| 第24図 | 長宮遺跡第29地点出土遺物(1/4・1/6) | 35頁 | 第81図 | 西遺跡第1地点9・10号住居跡・炉(1/60・1/30) | 104頁 |
| 第25図 | 亀居遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 36頁 | 第82図 | 西遺跡第1地点12・22号住居跡①・ 12号住居跡炉(1/60・1/30) | 105頁 |
| 第26図 | 亀居遺跡の調査区と遺構分布図(1/1,500) | 37頁 | 第83図 | 西遺跡第1地点12・22号住居跡②(1/60) | 106頁 |
| 第27図 | 松山遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 39頁 | 第84図 | 西遺跡第1地点16号住居跡・炉(1/60・1/30) | 107頁 |
| 第28図 | 松山遺跡第43地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、 土坑・堀跡・溝(1/60)、出土遺物(1/4・2/3) | 41頁 | 第85図 | 西遺跡第1地点20・23号住居跡(1/60) | 109頁 |
| 第29図 | 江川東遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 42頁 | 第86図 | 西遺跡第1地点23号住居跡炉(1/30) | 110頁 |
| 第30図 | 江川東遺跡第14・15地点調査区域図(1/300)、土層図(1/150)、 出土遺物(1/4) | 43頁 | 第87図 | 西遺跡第1地点集石土坑①(1/30) | 111頁 |
| 第31図 | 東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 44頁 | 第88図 | 西遺跡第1地点集石土坑②(1/30)、出土遺物(1/4) | 112頁 |
| 第32図 | 東久保遺跡第65地点調査区域図(1/400)、土層図(1/150) | 45頁 | 第89図 | 西遺跡第1地点土坑・ピット①(1/60) | 113頁 |
| 第33図 | 東中学校西遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 46頁 | 第90図 | 西遺跡第1地点ピット②・溝(1/80) | 114頁 |
| 第34図 | 東中学校西遺跡第31地点調査区域図(1/300) | 46頁 | 第91図 | 西遺跡第1地点ピット③(1/60) | 115頁 |
| 第35図 | 駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000) | 47頁 | 第92図 | 西遺跡1・2・3号住居跡出土土器(1/4) | 119頁 |
| 第36図 | 駒林遺跡第4地点遺構配置図(1/500)、土層図(1/150)、 土坑(1/60) | 48頁 | 第93図 | 西遺跡4号住居跡出土土器①(1/4) | 120頁 |
| 第37図 | 福岡新田遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 49頁 | 第94図 | 西遺跡4号住居跡出土土器②(1/4) | 121頁 |
| 第38図 | 福岡新田遺跡第1地点遺構配置図(1/500)、土層図(1/150) | 50頁 | 第95図 | 西遺跡4号住居跡③・5・7号住居跡出土土器(1/4) | 122頁 |
| 第39図 | 福岡新田遺跡第1地点井戸・土坑・ピット・溝(1/80) | 51頁 | 第96図 | 西遺跡5・6・8号住居跡出土土器(1/4) | 123頁 |
| 第40図 | 福岡新田遺跡第1地点出土遺物(1/4・2/3) | 53頁 | 第97図 | 西遺跡10・12号住居跡出土土器(1/4) | 124頁 |
| 第41図 | 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 54頁 | 第98図 | 西遺跡13・15号住居跡出土土器(1/4) | 125頁 |
| 第42図 | 西ノ原遺跡第135地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/150)、 土坑・ピット(1/60) | 56頁 | 第99図 | 西遺跡16号住居跡出土土器①(1/4) | 126頁 |
| 第43図 | 西ノ原遺跡第140・141地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、 土坑・ピット(1/60) | 57頁 | 第100図 | 西遺跡16号住居跡②・19・20号住居跡出土土器(1/4) | 127頁 |
| 第44図 | 神明後遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 58頁 | 第101図 | 西遺跡22・23号住居跡、第1次調査土坑3・6・19・66・遺構外、 第1地点土坑6・10、ピット1・8・13・14・24出土土器(1/4) | 128頁 |
| 第45図 | 神明後遺跡第31・32地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、 土坑(1/60)、出土遺物(1/4) | 59頁 | 第102図 | 西遺跡出土塗彩土器、口縁部突起(1/4) | 129頁 |
| 第46図 | 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第25地点遺構配置図 (1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)、出土土器(1/4) | 60頁 | 第103図 | 西遺跡出土土器①(1/4・2/3) | 131頁 |
| 第47図 | 浄禪寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000) | 62頁 | 第104図 | 西遺跡出土土器②(1/4) | 132頁 |
| 第48図 | 浄禪寺跡遺跡第9地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)、 出土遺物(1/4) | 64頁 | 第105図 | 西遺跡出土土器③(1/4) | 133頁 |
| 第49図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点遺構配置図(1/800) | 65頁 | 第106図 | 西遺跡出土土器④(1/4) | 134頁 |
| 第50図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点遺構配置図(1/300)、 土層図(1/60・1/150) | 66頁 | 第107図 | 西遺跡出土土器⑤(1/4・1/6) | 135頁 |
| 第51図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点炉穴(1/30)、落とし穴1～5(1/60) | 67頁 | 第108図 | 上福岡貝塚遺構配置図(1/2,500) | 140頁 |
| 第52図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点落とし穴6(1/60) | 68頁 | 第109図 | 上福岡貝塚C・D・F・G・I・J・K・M地点竪穴住居址(1/120) | 141頁 |
| 第53図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点土坑(1/60) | 69頁 | 第110図 | 上福岡貝塚第1地点遺構配置図(1/200)、堀土層図(1/60) | 142頁 |
| 第54図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点ピット・溝(1/60) | 70頁 | 第111図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡(1/60) | 146頁 |
| 第55図 | 浄禪寺跡遺跡第31・32地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、 3号住居跡・土坑1・ピット1(1/60)、炉・埋甕(1/30) | 72頁 | 第112図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況図①(1/60) | 147頁 |
| 第56図 | 浄禪寺跡遺跡第31地点炉穴(1/30)、ピット(1/60) | 73頁 | 第113図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況図②、 1号住居跡炉(1/30) | 148頁 |
| 第57図 | 浄禪寺跡遺跡3号住居跡・土坑・ピット・ 遺構外出土遺物(1/4・2/3) | 75頁 | 第114図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層出土状況図(1/30) | 149頁 |
| | | | 第115図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物①(1/4) | 155頁 |
| | | | 第116図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物②(1/4) | 156頁 |
| | | | 第117図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物③(1/4) | 157頁 |
| | | | 第118図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物④(1/4) | 158頁 |
| | | | 第119図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑤(1/4) | 159頁 |
| | | | 第120図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑥(1/4) | 160頁 |
| | | | 第121図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑦(1/4) | 161頁 |
| | | | 第122図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑧(1/4) | 162頁 |
| | | | 第123図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺構確認状況図(1/60) | 163頁 |
| | | | 第124図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡(1/60)、炉(1/30) | 164頁 |

| | | |
|-------|--|------|
| 第125図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況図・貝層グリッド設定図(1/60)、土層図(1/30) …………… | 167頁 |
| 第126図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層形成図・マガキ層①・②出土状況図(1/60)、土層図(1/30) …………… | 168頁 |
| 第127図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層形成図①(1/60) …………… | 169頁 |
| 第128図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物①(1/4) …………… | 170頁 |
| 第129図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物②(1/4・2/3) …………… | 171頁 |
| 第130図 | 上福岡貝塚第1地点集石土坑(1/30) …………… | 172頁 |
| 第131図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡における各貝層の規模(最小個体数) …………… | 177頁 |
| 第132図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡における各貝層の貝類組成(最小個体数) …………… | 177頁 |
| 第133図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ・Ⅱの層位 …………… | 178頁 |
| 第134図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類重量の層位変化 …………… | 179頁 |
| 第135図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類組成(重量) …………… | 179頁 |
| 第136図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類組成(最小個体数) …………… | 179頁 |
| 第137図 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡産出陸生貝類遺体群組成 …………… | 184頁 |
| 第138図 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出陸生貝類遺体群組成 …………… | 184頁 |
| 第139図 | 滝遺跡遺構分布図(1/2,000) …………… | 190頁 |
| 第140図 | 滝遺跡第14地点遺構配置図(1/300) …………… | 191頁 |
| 第141図 | 滝遺跡第14地点13・16・18号住居跡(1/60) …………… | 193頁 |
| 第142図 | 滝遺跡第14地点13号住居跡竈(1/30) …………… | 194頁 |
| 第143図 | 滝遺跡第14地点13・16号住居跡遺物出土状況図(1/60) …………… | 195頁 |
| 第144図 | 滝遺跡第14地点14号住居跡・遺物出土状況図(1/60) …………… | 196頁 |
| 第145図 | 滝遺跡第14地点14号住居跡竈(1/30) …………… | 197頁 |
| 第146図 | 滝遺跡第14地点15・17号住居跡(1/60) …………… | 198頁 |
| 第147図 | 滝遺跡第14地点出土遺物(1/4) …………… | 199頁 |
| 第148図 | 滝遺跡第14地点17号住居跡出土遺物(1/4) …………… | 200頁 |

| | | |
|-------|--|------|
| 第149図 | 滝遺跡第14地点土坑・溝(1/120)、第14地点出土石器・石製品(1/4・2/3) …………… | 201頁 |
| 第150図 | 亀居遺跡第62地点遺構配置図(1/500)、土坑①(1/60) …………… | 203頁 |
| 第151図 | 亀居遺跡第62地点土坑②・ピット(1/60) …………… | 204頁 |
| 第152図 | 亀居遺跡第62地点出土遺物(1/4) …………… | 206頁 |
| 第153図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点遺構配置図(1/800) …………… | 207頁 |
| 第154図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点地下式坑1・井戸①(1/60) …………… | 209頁 |
| 第155図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点井戸②(1/60) …………… | 210頁 |
| 第156図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝①(1/80) …………… | 212頁 |
| 第157図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝②(1/80) …………… | 213頁 |
| 第158図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝③(1/80) …………… | 214頁 |
| 第159図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝④(1/80) …………… | 215頁 |
| 第160図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑤(1/80) …………… | 216頁 |
| 第161図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑥(1/80) …………… | 217頁 |
| 第162図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑦(1/80) …………… | 218頁 |
| 第163図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑧(1/80) …………… | 219頁 |
| 第164図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑨・堀跡(1/80) …………… | 222頁 |
| 第165図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点掘立柱建物跡1~3(1/80) …………… | 223頁 |
| 第166図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点出土遺物①(1/4・1/6・1/1) …………… | 227頁 |
| 第167図 | 浄禪寺跡遺跡第29地点出土遺物②(2/3・1/4・1/6) …………… | 228頁 |
| 第168図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点遺構配置図(1/300) …………… | 230頁 |
| 第169図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点茶毘跡1・3(1/30) …………… | 232頁 |
| 第170図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点茶毘跡2・4・5(1/30) …………… | 233頁 |
| 第171図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点木炭窯・土坑①・ピット①(1/60) …………… | 234頁 |
| 第172図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点土坑②(1/60) …………… | 235頁 |
| 第173図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点土坑③・ピット②・溝(1/60) …………… | 236頁 |
| 第174図 | 浄禪寺跡遺跡第30地点出土遺物(1/4・2/3・1/1) …………… | 237頁 |
| 第175図 | 川崎遺跡第1・2次調査出土瓦(1/4) …………… | 241頁 |
| 第176図 | 上福岡貝塚地形測量(住居址配置図)(1/4,000) …………… | 245頁 |

表 目 次

| | | |
|------|-------------------------------------|-----|
| 第1表 | 過去3年間の調査件数と面積一覧表 …………… | 1頁 |
| 第2表 | 2007(平成19)年度埋蔵文化財調査一覧表 …………… | 2頁 |
| 第3表 | 2007(平成19)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内) …… | 3頁 |
| 第4表 | 2007(平成19)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外) …… | 3頁 |
| 第5表 | ふじみ野市遺跡一覧表 …………… | 7頁 |
| 第6表 | 縄文時代中期時期細対比表 …………… | 7頁 |
| 第7表 | 鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表 …………… | 8頁 |
| 第8表 | 西遺跡調査一覧表 …………… | 11頁 |
| 第9表 | 川崎遺跡調査一覧表 …………… | 13頁 |
| 第10表 | 川崎遺跡第22地点炉穴一覧表 …………… | 14頁 |
| 第11表 | 川崎遺跡第22地点出土遺物観察表 …………… | 18頁 |
| 第12表 | 上福岡貝塚第1地点水溜ピット一覧表 …………… | 20頁 |
| 第13表 | 滝遺跡調査一覧表 …………… | 23頁 |
| 第14表 | 滝遺跡第13地点土坑・ピット一覧表 …………… | 25頁 |
| 第15表 | 長宮遺跡調査一覧表 …………… | 27頁 |
| 第16表 | 長宮遺跡第28地点土坑・ピット一覧表 …………… | 28頁 |
| 第17表 | 長宮遺跡第28地点井戸一覧表 …………… | 28頁 |
| 第18表 | 長宮遺跡第28地点出土遺物観察表 …………… | 31頁 |
| 第19表 | 長宮遺跡第29地点土坑・ピット・井戸一覧表 …………… | 32頁 |
| 第20表 | 長宮遺跡第29地点溝一覧表 …………… | 35頁 |
| 第21表 | 長宮遺跡第29地点出土遺物観察表 …………… | 35頁 |
| 第22表 | 亀居遺跡調査一覧表 …………… | 38頁 |
| 第23表 | 亀居遺跡住居跡一覧表 …………… | 38頁 |
| 第24表 | 松山遺跡調査一覧表 …………… | 40頁 |
| 第25表 | 松山遺跡第43地点土坑一覧表 …………… | 40頁 |
| 第26表 | 江川東遺跡調査一覧表 …………… | 43頁 |
| 第27表 | 福岡新田遺跡調査一覧表 …………… | 50頁 |
| 第28表 | 福岡新田遺跡第1地点溝一覧表 …………… | 50頁 |
| 第29表 | 福岡新田遺跡土坑・ピット・井戸一覧表 …………… | 52頁 |
| 第30表 | 福岡新田遺跡第1地点出土遺物観察表 …………… | 53頁 |
| 第31表 | 西ノ原遺跡第135地点土坑・ピット一覧表 …………… | 55頁 |
| 第32表 | 神明後遺跡第31地点土坑一覧表 …………… | 58頁 |
| 第33表 | 苗間東久保遺跡調査一覧表 …………… | 61頁 |
| 第34表 | 苗間東久保遺跡第25地点ピット一覧表 …………… | 61頁 |
| 第35表 | 浄禪寺跡遺跡調査一覧表 …………… | 63頁 |
| 第36表 | 浄禪寺跡遺跡第30地点落とし穴一覧表 …………… | 68頁 |
| 第37表 | 浄禪寺跡遺跡第30地点土坑一覧表 …………… | 68頁 |
| 第38表 | 浄禪寺跡遺跡第30地点ピット一覧表 …………… | 71頁 |
| 第39表 | 浄禪寺跡遺跡第31地点土坑・ピット一覧表 …………… | 74頁 |
| 第40表 | 大井宿遺跡第15地点土坑・ピット一覧表 …………… | 78頁 |

| | | |
|------|--|----------|
| 第41表 | 大井宿遺跡第15地点出土遺物観察表 …………… | 78頁 |
| 第42表 | 大井氏館跡遺跡第22地点礎石・土坑・ピット一覧表 …………… | 83頁 |
| 第43表 | 大井氏館跡遺跡第22地点出土遺物観察表 …………… | 85頁 |
| 第44表 | 大井戸上遺跡第6地点ピット一覧表 …………… | 87頁 |
| 第45表 | 東台遺跡調査一覧表 …………… | 90頁 |
| 第46表 | 東台遺跡住居跡一覧表 …………… | 91頁 |
| 第47表 | 東台遺跡第49地点遺構一覧表 …………… | 94頁 |
| 第48表 | 東台遺跡第49地点集石土坑・出土礫観察表 …………… | 94頁 |
| 第49表 | 西遺跡住居跡一覧表 …………… | 100頁 |
| 第50表 | 大井戸上遺跡第1地点2・10・12・16号住居跡ピット一覧表 …… | 102頁 |
| 第51表 | 西遺跡第1地点20・22・23号住居跡一覧表 …………… | 108頁 |
| 第52表 | 西遺跡第1地点20・23号住居跡ピット一覧表 …………… | 108頁 |
| 第53表 | 西遺跡第1地点集石土坑・出土礫観察表 …………… | 108頁 |
| 第54表 | 西遺跡第1地点ピット一覧表 …………… | 110頁 |
| 第55表 | 西遺跡第1地点土坑一覧表 …………… | 112頁 |
| 第56表 | 西遺跡第1次・第1地点出土土器観察表 …………… | 116~118頁 |
| 第57表 | 西遺跡出土土器観察表 …………… | 129~130頁 |
| 第58表 | 上福岡貝塚調査一覧表 …………… | 136頁 |
| 第59表 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡ピット一覧表 …………… | 144頁 |
| 第60表 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡・堀・水溜ピット出土遺物観察表 …… | 151~154頁 |
| 第61表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡ピット一覧表 …………… | 163頁 |
| 第62表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物観察表 …………… | 166頁 |
| 第63表 | 上福岡貝塚第1地点集石土坑・出土礫観察表 …………… | 172頁 |
| 第64表 | 上福岡貝塚第1地点より産出した動物遺体群種名表 …………… | 173頁 |
| 第65表 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡の貝層における混貝率 …………… | 174頁 |
| 第66表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡の貝層における混貝率(層別別) …… | 174頁 |
| 第67表 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡から産出した水生貝類遺体群の組成 …………… | 175頁 |
| 第68表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡から産出した水生貝類遺体群の組成 …………… | 176頁 |
| 第69表 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡から産出した水生貝類遺体群一覧表 …………… | 177頁 |
| 第70表 | 上福岡貝塚第1地点から産出した水生微小貝類遺体群の組成(最小個体数) …………… | 180頁 |
| 第71表 | マガキ(左殻)の殻高に関する記述統計量及びヒストグラム …… | 181頁 |
| 第72表 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡産出のヤマトシジミの殻長(推定値)に関する記述統計量及びヒストグラム …………… | 181頁 |

| | | |
|------|--|------|
| 第73表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出のヤマトシジミの殻長(推定値)に関する記述統計量及びヒストグラム | 182頁 |
| 第74表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出のヤマトシジミの殻長に関する平均値の差の検定(最小有意差法) | 183頁 |
| 第75表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における陸生貝類遺体産出数比較(グロット間) | 185頁 |
| 第76表 | 上福岡貝塚第1地点産出脊椎動物遺体群一覧表 | 186頁 |
| 第77表 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層別出土種実一覧表 | 189頁 |
| 第78表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ出土層位別種実一覧表 | 189頁 |
| 第79表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ出土層位別種実一覧表 | 189頁 |
| 第80表 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅲ・Ⅳ住居跡一括出土種実一覧表 | 189頁 |
| 第81表 | 滝遺跡古代住居跡一覧表 | 191頁 |

| | | |
|------|--------------------|----------|
| 第82表 | 滝遺跡第14地点出土遺物観察表 | 200頁 |
| 第83表 | 亀居遺跡第62地点土坑一覧表 | 202頁 |
| 第84表 | 亀居遺跡第62地点ピット一覧表 | 202頁 |
| 第85表 | 浄禪寺跡遺跡第29地点井戸一覧表 | 224頁 |
| 第86表 | 浄禪寺跡遺跡第29地点堀跡・溝一覧表 | 224頁 |
| 第87表 | 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑一覧表 | 224頁 |
| 第88表 | 浄禪寺跡遺跡第29地点ピット一覧表 | 225~226頁 |
| 第89表 | 浄禪寺跡遺跡第29地点出土遺物観察表 | 229頁 |
| 第90表 | 浄禪寺跡遺跡第30地点出土遺物観察表 | 231頁 |
| 第91表 | 川崎遺跡出土瓦観察表 | 240頁 |
| 第92表 | 川崎遺跡縄文時代前期住居跡一覧表 | 246頁 |
| 第93表 | 上福岡貝塚縄文時代前期住居跡一覧表 | 246頁 |

写真目次

| | | |
|--------|---|------|
| 巻頭図版 1 | 上福岡貝塚第1地点1号住居跡 | |
| 巻頭図版 2 | 上福岡貝塚第1地点2号住居跡 | |
| 巻頭図版 3 | 上福岡貝塚第1地点1・2号住居跡出土遺物 | |
| 巻頭図版 4 | 上福岡貝塚第1地点産出貝類遺体群 | |
| 巻頭図版 5 | 上福岡貝塚第1地点産出貝類遺体群及び脊椎動物遺体群 | |
| 巻頭図版 6 | 西遺跡第1地点20・23号住居跡、第1地点調査区全景 | |
| 巻頭図版 7 | 西遺跡第1地点23号住居跡・亀居遺跡第62地点土坑9・東台遺跡第49地点屋外埋甕出土土器・土偶 | |
| 巻頭図版 8 | 亀居遺跡第62地点 | |
| 巻頭図版 9 | 滝遺跡第14地点14号住居跡、調査区全景 | |
| 巻頭図版10 | 滝遺跡第14地点14号住居跡竈、13~16・19号住居跡出土遺物 | |
| 巻頭図版11 | 浄禪寺跡遺跡第29地点調査区全景 | |
| 巻頭図版12 | 浄禪寺跡遺跡第30地点調査区全景 | |
| 巻頭図版13 | 浄禪寺跡遺跡第31地点3号住居跡、埋甕1・2 | |
| 巻頭図版14 | 大井宿遺跡第15地点・川崎遺跡出土遺物 | |
| 写真図版 1 | 鶴ヶ岡外遺跡第5地点、西遺跡第1地点① | 251頁 |
| 写真図版 2 | 西遺跡第1地点② | 252頁 |
| 写真図版 3 | 西遺跡第1地点③ | 253頁 |
| 写真図版 4 | 西遺跡第1地点④ | 254頁 |
| 写真図版 5 | 西遺跡第1地点⑤ | 255頁 |
| 写真図版 6 | 西遺跡第1地点⑥ | 256頁 |
| 写真図版 7 | 西遺跡第1地点⑦ | 257頁 |
| 写真図版 8 | 西遺跡第1地点⑧ | 258頁 |
| 写真図版 9 | 西遺跡第1地点⑨ | 259頁 |
| 写真図版10 | 西遺跡第1地点⑩ | 260頁 |
| 写真図版11 | 西遺跡第1地点⑪ | 261頁 |
| 写真図版12 | 西遺跡第1地点⑫ | 262頁 |
| 写真図版13 | 西遺跡第1地点⑬ | 263頁 |
| 写真図版14 | 西遺跡第1地点⑭ | 264頁 |
| 写真図版15 | 西遺跡第1地点⑮ | 265頁 |
| 写真図版16 | 西遺跡第1地点⑯ | 266頁 |
| 写真図版17 | 西遺跡第1地点⑰ | 267頁 |
| 写真図版18 | 西遺跡第1地点⑱ | 268頁 |
| 写真図版19 | 西遺跡第1地点⑲ | 269頁 |
| 写真図版20 | 西遺跡第1地点⑳ | 270頁 |
| 写真図版21 | 西遺跡第1地点㉑ | 271頁 |
| 写真図版22 | 西遺跡第1地点㉒ | 272頁 |
| 写真図版23 | 西遺跡第1地点㉓ | 273頁 |
| 写真図版24 | 西遺跡第1地点㉔ | 274頁 |
| 写真図版25 | 川崎遺跡第22地点① | 275頁 |
| 写真図版26 | 川崎遺跡第22地点②、24地点 | 276頁 |
| 写真図版27 | 上福岡貝塚第1地点① | 277頁 |
| 写真図版28 | 上福岡貝塚第1地点② | 278頁 |
| 写真図版29 | 上福岡貝塚第1地点③ | 279頁 |
| 写真図版30 | 上福岡貝塚第1地点④ | 280頁 |
| 写真図版31 | 上福岡貝塚第1地点⑤ | 281頁 |
| 写真図版32 | 上福岡貝塚第1地点⑥ | 282頁 |
| 写真図版33 | 上福岡貝塚第1地点⑦ | 283頁 |
| 写真図版34 | 上福岡貝塚第1地点⑧ | 284頁 |
| 写真図版35 | 上福岡貝塚第1地点⑨ | 285頁 |
| 写真図版36 | 上福岡貝塚第1地点⑩ | 286頁 |
| 写真図版37 | 上福岡貝塚第1地点⑪ | 287頁 |
| 写真図版38 | 上福岡貝塚第1地点⑫ | 288頁 |
| 写真図版39 | 上福岡貝塚第1地点⑬ | 289頁 |
| 写真図版40 | 上福岡貝塚第1地点⑭ | 290頁 |
| 写真図版41 | 上福岡貝塚第1地点⑮ | 291頁 |
| 写真図版42 | 上福岡貝塚第1地点⑯ | 292頁 |

| | | |
|--------|---------------------------------------|------|
| 写真図版43 | 上福岡貝塚第1地点⑰ | 293頁 |
| 写真図版44 | 上福岡貝塚第1地点⑱ | 294頁 |
| 写真図版45 | 上福岡貝塚第1地点⑲ | 295頁 |
| 写真図版46 | 上福岡貝塚第1地点㉑ | 296頁 |
| 写真図版47 | 上福岡貝塚第1地点㉒ | 297頁 |
| 写真図版48 | 滝遺跡第13地点、14地点① | 298頁 |
| 写真図版49 | 滝遺跡第14地点② | 299頁 |
| 写真図版50 | 滝遺跡第14地点③ | 300頁 |
| 写真図版51 | 滝遺跡第14地点④ | 301頁 |
| 写真図版52 | 滝遺跡第14地点⑤ | 302頁 |
| 写真図版53 | 滝遺跡第14地点⑥ | 303頁 |
| 写真図版54 | 長宮遺跡第27地点、28地点① | 304頁 |
| 写真図版55 | 長宮遺跡第28地点② | 305頁 |
| 写真図版56 | 長宮遺跡第28地点③、29地点① | 306頁 |
| 写真図版57 | 長宮遺跡第29地点② | 307頁 |
| 写真図版58 | 亀居遺跡第62地点① | 308頁 |
| 写真図版59 | 亀居遺跡第62地点② | 309頁 |
| 写真図版60 | 松山遺跡第43地点 | 310頁 |
| 写真図版61 | 江川東遺跡第14・15地点、東久保遺跡第65地点、東中学校西遺跡第31地点 | 311頁 |
| 写真図版62 | 駒林遺跡第4地点、福岡新田遺跡第1地点① | 312頁 |
| 写真図版63 | 福岡新田遺跡第1地点② | 313頁 |
| 写真図版64 | 福岡新田遺跡第1地点③ | 314頁 |
| 写真図版65 | 福岡新田遺跡第1地点④、西ノ原遺跡第135地点 | 315頁 |
| 写真図版66 | 西ノ原遺跡第140地点、141地点 | 316頁 |
| 写真図版67 | 神明後遺跡第31・32地点、苗間東久保遺跡第25地点 | 317頁 |
| 写真図版68 | 浄禪寺跡遺跡第9地点、29地点① | 318頁 |
| 写真図版69 | 浄禪寺跡遺跡第29地点② | 319頁 |
| 写真図版70 | 浄禪寺跡遺跡第29地点③ | 320頁 |
| 写真図版71 | 浄禪寺跡遺跡第29地点④ | 321頁 |
| 写真図版72 | 浄禪寺跡遺跡第29地点⑤ | 322頁 |
| 写真図版73 | 浄禪寺跡遺跡第29地点⑥ | 323頁 |
| 写真図版74 | 浄禪寺跡遺跡第29地点⑦ | 324頁 |
| 写真図版75 | 浄禪寺跡遺跡第29地点⑧、30地点① | 325頁 |
| 写真図版76 | 浄禪寺跡遺跡第30地点② | 326頁 |
| 写真図版77 | 浄禪寺跡遺跡第30地点③ | 327頁 |
| 写真図版78 | 浄禪寺跡遺跡第30地点④ | 328頁 |
| 写真図版79 | 浄禪寺跡遺跡第30地点⑤ | 329頁 |
| 写真図版80 | 浄禪寺跡遺跡第30地点⑥ | 330頁 |
| 写真図版81 | 浄禪寺跡遺跡第31地点① | 331頁 |
| 写真図版82 | 浄禪寺跡遺跡第31地点② | 332頁 |
| 写真図版83 | 浄禪寺跡遺跡第31地点③ | 333頁 |
| 写真図版84 | 浄禪寺跡遺跡第32地点、大井宿遺跡第15地点① | 334頁 |
| 写真図版85 | 大井宿遺跡第15地点② | 335頁 |
| 写真図版86 | 大井宿遺跡第15地点③ | 336頁 |
| 写真図版87 | 大井氏館跡遺跡第22地点① | 337頁 |
| 写真図版88 | 大井氏館跡遺跡第22地点②、大井戸上遺跡第6地点、東台遺跡第49地点① | 338頁 |
| 写真図版89 | 東台遺跡第49地点② | 339頁 |
| 写真図版90 | 東台遺跡第49地点③ | 340頁 |
| 写真図版91 | 東台遺跡第49地点④ | 341頁 |
| 写真図版92 | 東台遺跡第49地点⑤ | 342頁 |
| 写真図版93 | 東台遺跡第49地点⑥ | 343頁 |
| 写真図版94 | 発掘調査風景① | 344頁 |
| 写真図版95 | 発掘調査風景② | 345頁 |
| 写真図版96 | 整理作業風景① | 346頁 |
| 写真図版97 | 整理作業風景② | 347頁 |

第 I 部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果

第 1 章 遺跡と調査の概要

I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏30km圏内の県南西部に位置する。2005(平成17)年10月1日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積14.67km²、人口は2009(平成21)年3月現在105,829人である。

旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道(大井宿)や新河岸川(福岡河岸)、東武東上線(上福岡駅)などの交通網が発達した交通の要所でもあった。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(火工廠)が建設され、戦後の昭和30年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和60年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も活発に行なわれた。現在は上福岡駅周辺の再開発とふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行なわれている。

ふじみ野市では平成17年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」(旧上福岡市、旧大井町では昭和53年度から合併まで)として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は、庁内関係各課と連絡調整を行

ない、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、建設課からの建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)の提出を受けて事前協議を行った。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ、現地踏査を実施し現地の状況を確認の上、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者に連絡をして協議を行なった。

協議後、文化財保護法第99条第5項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施してきている。また専その個人の用に供する住宅(個人住宅)の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2007年度の試掘及び発掘調査は第2表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査は25件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査3件、公共事業に伴う本調査2件、民間開発に伴う本調査を8件行なった。開発面積は69,902m²で、そのうち実質調査面積は試掘8,238(本調査3,497)m²である。過去3年間の調査件数と調査面積を第1表にあげてみる。また、2007年度に行なった調査は第2表のとおりである。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び調査体制の強化が求められるところである。

第 1 表 過去 3 年間の調査件数と面積一覧表

| 年度 | 件数・内訳 | | | 調査原因の内訳 |
|--------------|----------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|--|
| | 試掘件数 開発面積m ² | 個人住宅 本調査件数 開発面積m ² | 原因者負担 本調査件数 開発面積m ² | |
| 2005(平成17)年度 | 56件 | 3件 | 10件 | 個人住宅26、共同住宅4、分譲住宅10、店舗7、店舗併用住宅2、鉄塔1、宅地造成3、公園造成1 |
| | 33,253 | 509 | 8,340 | |
| 2006(平成18)年度 | 54件 | 8件 | 9件 | 個人住宅23、共同住宅7、集合住宅・店舗1、分譲住宅5、店舗4、園舎改築1、建物解体1、宅地造成8、学生寮1、保育所1、小学校1、コンテナボックス設置1 |
| | 59,934 | 1,340 | 26,988 | |
| 2007(平成19)年度 | 33件 | 4件 | 9件 | 個人住宅11、共同住宅6、分譲住宅4、共同住宅及び分譲住宅1、消防分団車庫1、変電所1、公民館分館1小学校2、寺院・庫裏2、駐車場1、学習塾1店舗兼事務所1、道路築造1 |
| | 69,902 | 1,580 | 55,564 | |

第2表 2007(平成19)年度埋蔵文化財調査一覧表

| | 遺跡・地点名 | 申請地住所 | 試掘面積(m ²) | 開発面積(m ²) | 原因 | 試掘期間 | 調査措置 |
|-----|--------------|--|------------------------|-----------------------|--------------|--------------------------------|----------|
| | | | 本調査面積(m ²) | | | 本調査期間 | |
| 1 | 鶴ヶ岡外遺跡第5地点 | 鶴ヶ岡5-188-1, 741-1, 198-1, 199-1, 214-1 | 2,960 400 | 43,449 | 共同住宅建設 | 12/11~1/30 2/20~3/7 | 試掘調査、本調査 |
| 2 | 西遺跡第1地点 | 西2-2068-1・3・4, 2069-1 | 284 1,200 | 3,467 | 共同住宅及び分譲住宅建設 | 3/12~26, 4/2~20 6/4~8/1 | 試掘調査、本調査 |
| 3 | 川崎遺跡第22地点 | 川崎171-1, 174-10 | 104 104 | 104 | 消防分団車庫建設 | 2007.4.16~23 2007.4.24~5.22 | 試掘調査、本調査 |
| 4 | 川崎遺跡第24地点 | 川崎字宅地添225-3 | 26 | 319 | 共同住宅建設 | 10/4 | 試掘調査 |
| 5 | 上福岡貝塚第1地点 | 福岡2-1500-23・63 | 55 124 | 250 | 変電所増築 | 4/26~5/17 5/21~6/12 | 試掘調査、本調査 |
| 6 | 滝遺跡第13地点 | 滝2-2-6 | 113 | 737 | 共同住宅建設 | 10/24~11/1 | 試掘調査 |
| 7 | 滝遺跡第14地点 | 滝2-5-11・17 | 254 92 | 692 | 分譲住宅建設 | 11/8~19 11/20~12/6 | 試掘調査、本調査 |
| 8 | 長宮遺跡第27地点 | 長宮2-1-4 | 15 | 174 | 個人住宅建設 | 5/30~31 | 試掘調査 |
| 9 | 長宮遺跡第28地点 | 長宮2-1-8 | 135 135 | 188 | 個人住宅建設 | 5/31~6/5 6/6~22 | 試掘調査、本調査 |
| 10 | 長宮遺跡第29地点 | 長宮2-4-6の一部 | 145 145 | 618 | 共同住宅建設 | 11/20~12/3 12/4~12/5 | 試掘調査、本調査 |
| 11 | 亀居遺跡第62地点 | 亀久保2-12-3 | 151 170 | 1,284 | 共同住宅建設 | 11/12~26 1/7~18 | 試掘調査、本調査 |
| 12 | 松山遺跡第43地点 | 築地2-5-2 | 281 | 668 | 分譲住宅建設 | 4/11~24 | 試掘調査 |
| 13 | 江川東遺跡第14地点 | 東久保1-174-38 | 30 | 67 | 個人住宅建設 | 5/25~29 | 試掘調査 |
| 14 | 江川東遺跡第15地点 | 東久保1-136-5 | 91 | 344 | 公民館分館建設 | 9/11~13 | 試掘調査 |
| 15 | 東久保遺跡第65地点 | ふじみ野2-22-2, 22-5~7 | 51 | 260 | 小学校増築 | 1/18~28 | 試掘調査 |
| 16 | 駒林遺跡第4地点 | 駒林B地区7街区-3, 4 | 72 | 1,866 | 共同住宅建設 | 6/11~13 | 試掘調査 |
| 17 | 福岡新田遺跡第1地点 | 駒林字寺脇861-1, 866-1, 865.862.864の一部 | 185 | 1,754 | 寺院建設 | 10/9~24 | 試掘調査 |
| 18 | 西ノ原遺跡第135地点 | うれし野1-5-2 | 25 | 257 | 集合住宅駐車場造成 | 11/5~12 | 試掘調査 |
| 19 | 西ノ原遺跡第140地点 | 旭1-16-14の一部 | 208 | 487 | 学習塾建設 | 5/7~10 | 試掘調査 |
| 20 | 西ノ原遺跡第141地点 | 市沢1-8-8 | 81 | 735 | 店舗兼事務所 | 5/8~9 | 試掘調査 |
| 21 | 神明後遺跡第31地点 | 苗間284 | 72 | 499 | 個人住宅建設 | 8/3~7 | 試掘調査 |
| 22 | 神明後遺跡第32地点 | 苗間247-2 | 31 | 136 | 個人住宅建設 | 3/13 | 試掘調査 |
| 23 | 苗間東久保遺跡第25地点 | 苗間字東久保631-3 | 176 | 414 | 個人住宅建設 | 7/11~23 | 試掘調査 |
| 24 | 浄禅寺跡遺跡第9地点 | 苗間字神明後353-4 | 70 | 529 | 個人住宅建設 | 1994.10.18 5/22~5/24 | 本調査 |
| 25 | 浄禅寺跡後遺跡第29地点 | 苗間570-1, 2, 571-1, 2, 575 | 1,251 818 | 4,920 | 分譲住宅建設 | 8/7~9/21 9/25~11/6 | 試掘調査、本調査 |
| 26 | 浄禅寺跡遺跡第30地点 | 苗間359-1 | 414 100 | 1,298 | 分譲住宅建設 | 9/14~10/9 10/9~11/2 | 試掘調査、本調査 |
| 27 | 浄禅寺跡遺跡第31地点 | 苗間字神明後342-14の一部 | 109 109 | 171 | 個人住宅建設 | 2/19 2/19~3/5 | 試掘調査、本調査 |
| 28 | 浄禅寺跡遺跡第32地点 | 苗間字神明後342-15・10、340-17 | 40 | 188 | 個人住宅建設 | 2/25~3/4 | 試掘調査 |
| 29 | 大井宿遺跡第15地点 | 大井1-5-3 | 65 | 429 | 個人住宅建設 | 8/1~10 | 試掘調査 |
| 30 | 大井氏館跡遺跡第22地点 | 大井字西原954-1 | 37 | 1,962 | 寺院庫裏建設 | 11/27~12/1 | 試掘調査 |
| 31 | 大井戸上遺跡第6地点 | 大井字東台798-1 | 30 | 889 | 個人住宅建設 | 3/25~3/28 | 試掘調査 |
| 32 | 東台遺跡第45地点 | 東台717-3 | 573 | 573 | 小学校増築 | 2007.5.22~6.19 | 試掘調査 |
| 33 | 東台遺跡第49地点 | 大井字東台646, 647-1, 665 | 174 30 | 174 | 道路築造 | 1/28~30, 2/4~19 1/31~2/1 | 試掘調査、本調査 |
| 合 計 | | | 8,238 3,497 | 69,902 | | | |

第3表 2007(平成19)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内)

| | 遺跡・地点名 | 申請地住所 | 開発面積(m ²) | 原因 | 立会い日 | 調査の成果 |
|----|--------------|----------------|-----------------------|------------|-------|--------------|
| 1 | 西遺跡第1地点内 | 西2-2068-3 | 2 | PHSアンテナ撤去 | 6/26 | 遺構・遺物なし |
| 2 | 北野遺跡 | 北野1-3061-13 | 75 | 個人住宅建設 | 10/23 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 3 | 北野遺跡 | 北野2-2069-4・12 | 142 | 個人住宅建設 | 12/19 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 4 | 長宮遺跡 | 西原2-5-31 | 119 | 個人住宅建設 | 10/15 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 5 | 亀居遺跡第62地点内 | 亀久保2-12-3・2の一部 | 1,284 | テニスコート施設撤去 | 10/16 | 遺構・遺物なし |
| 6 | 鶴ヶ舞遺跡 | 鶴ヶ舞1-105-8 | 66 | 個人住宅建設 | 7/23 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 7 | 鶴ヶ舞遺跡 | 鶴ヶ舞1丁目69番13 | 102 | 個人住宅建設 | 2/26 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 8 | 東中学校西遺跡第31地点 | ふじみ野4-3-14 | 165 | 個人住宅建設 | 2/14 | 遺構・遺物なし |
| 9 | 新田前遺跡 | 駒林字新田前256 | 296 | 個人住宅建設 | 11/16 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 10 | 苗間東久保遺跡 | 苗間字東久保648-17 | 100 | 個人住宅建設 | 4/24 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 11 | 苗間東久保遺跡 | 苗間字神明後334-3 | 287 | 個人住宅建設 | 8/20 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 12 | 苗間東久保遺跡 | 苗間字東久保652-20 | 72 | 個人住宅建設 | 10/15 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 合計 | | | 1,088 | | | |

第4表 2007(平成19)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外)

| | 遺跡・地点名 | 申請地住所 | 開発面積(m ²) | 原因 | 立会い日 | 調査の成果 |
|----|-------------------------|---------------------------|-----------------------|----------|--------------|--------------|
| 1 | 東久保南遺跡縁辺 | ふじみ野1-7-5~7 | 2,131 | 店舗建設 | 5/2 | 遺構・遺物なし |
| 2 | 石塔畑遺跡縁辺 | 大井字東台817-1・9 | 1,956 | 工場兼事務所建設 | 7/23,8/20・23 | 遺構・遺物なし |
| 3 | 1000m ² 以上開発 | 上福岡2丁目1502-1.3,1503-1.5.6 | 1,195 | 店舗建設 | 2/12 | 遺構・遺物なし |
| 4 | 亀居遺跡縁辺 | 鶴ヶ岡2-9-3,4 | 1,362 | 共同住宅建設 | 9/27 | 遺構・遺物なし |
| 5 | 駒林遺跡縁辺 | 駒林土地区画整理14-1・2 | 1,261 | 店舗建設 | 12/11 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 6 | 亀居遺跡縁辺 | 鶴ヶ岡1-3-4の一部 | 280 | 小学校増築 | 2/5 | 保護層有、遺構・遺物なし |
| 7 | 神明後隣接地 | 苗間字神明前390-3の一部 | 88 | 個人住宅建設 | 3/10 | 遺構・遺物なし |
| 合計 | | | 8,273 | | | |

II 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には富士見川越有料道路、東武東上線、川越街道(国道254号線)、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡町域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15~20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、

北と南に高台が続き、その中間に低位台地(大井台)がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道(埋没河川)、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

Ⅲ 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代の立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保掘跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷲森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ローム

第Ⅲ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめの中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連綿と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるAT降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの南側台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。

またハケ遺跡からは銚帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

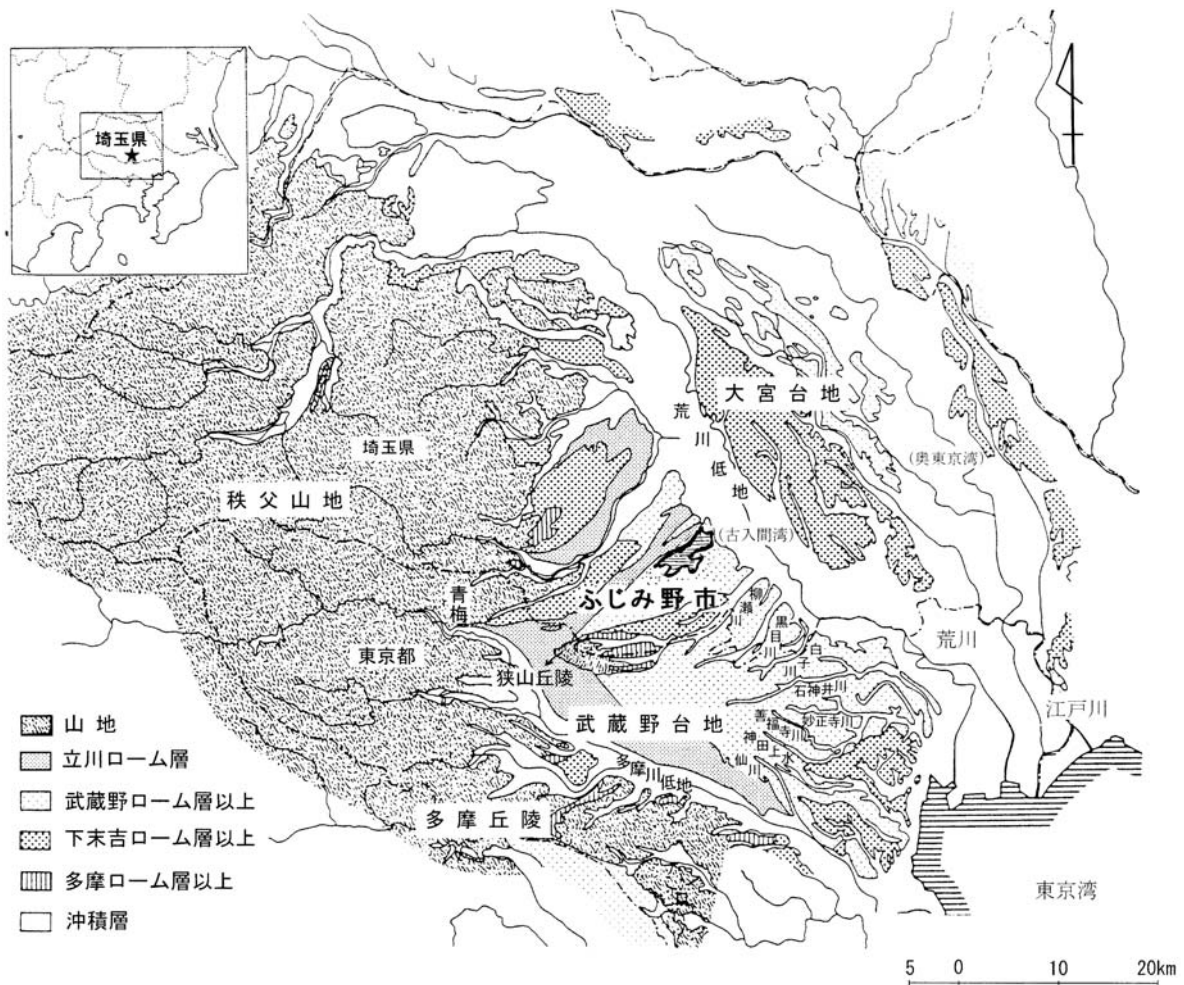
16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禅寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から

続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地藏院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禅寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷲森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である造兵廠東京工廠福岡工場（通称火工廠）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枘などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

第5表 ふじみ野市遺跡一覧表

| No. | 遺跡名 | 主な時代 | 遺跡番号 | No. | 遺跡名 | 主な時代 | 遺跡番号 |
|-----|--------------|-------------------------------|--------|-----|---------|-------------------------------|--------|
| 1 | 西遺跡 | 縄文中期の集落跡 | 25-001 | 24 | 亀居遺跡 | 旧石器、縄文前期・中期の集落跡 | 30-030 |
| 2 | 北野遺跡 | 縄文中期の散布地 | 25-002 | 25 | 鶴ヶ舞遺跡 | 旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡 | 30-046 |
| 3 | 川崎遺跡 | 旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡 | 25-003 | 26 | 江川南遺跡 | 旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡 | 30-007 |
| 4 | 川崎横穴墓群 | 古墳後期の横穴墓 | 25-004 | 27 | 江川東遺跡 | 奈良・平安、近世の集落跡 | 30-045 |
| 5 | ハケ遺跡 | 縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡 | 25-005 | 28 | 東久保遺跡 | 旧石器、縄文中期、近世の集落跡 | 30-009 |
| 6 | 上福岡貝塚 | 縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡 | 25-006 | 29 | 亀久保掘跡遺跡 | 中世の掘跡 | 30-006 |
| 7 | 権現山遺跡(古墳群) | 古墳前期の集落跡・古墳群 | 25-007 | 30 | 東久保西遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡 | 30-042 |
| 8 | 滝遺跡 | 古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡 | 25-008 | 31 | 東中学校西遺跡 | 縄文早期・中期、近世の集落跡 | 30-008 |
| 9 | 長宮遺跡 | 縄文前期、中・近世の集落跡 | 25-009 | 32 | 東久保南遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡 | 30-032 |
| 10 | 松山遺跡 | 奈良・平安の集落跡 | 25-010 | 33 | 西ノ原遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡 | 30-001 |
| 11 | 富士見台横穴墓群 | 古墳後期の横穴墓 | 25-011 | 34 | 中沢前遺跡 | 縄文早期・中期、近世の集落跡 | 30-044 |
| 12 | 駒林新田前遺跡 | | 25-028 | 35 | 神明後遺跡 | 旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡 | 30-041 |
| 13 | 駒林遺跡(駒林中世墳墓) | 近世の堀跡・中世の墳墓(駒林中世墳墓を2007年に統合) | 25-013 | 36 | 苗間東久保遺跡 | 旧石器、縄文早期～後期 | 30-020 |
| 15 | 福岡新田遺跡 | 散布地 | 25-015 | 37 | 浄禅寺跡遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡 | 30-022 |
| 16 | 福遺跡 | 古墳後期の横穴墓 | 25-023 | 38 | 小田久保遺跡 | 旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡 | 30-040 |
| 17 | 鷺森遺跡 | 縄文前期の集落跡 | 25-017 | 39 | 大井宿遺跡 | 近世～近代の宿場跡 | 30-010 |
| 18 | 天神廻遺跡 | 古墳中期の散布地 | 25-018 | 40 | 大井氏館跡遺跡 | 旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡 | 30-037 |
| 19 | 城山遺跡 | 中・近世の館跡 | 25-019 | 41 | 本村遺跡 | 旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡 | 30-034 |
| 20 | 川袋遺跡 | 奈良・平安の散布地 | 25-020 | 42 | 西台遺跡 | 旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡 | 30-039 |
| 21 | 伊佐島遺跡 | 古墳前期、平安の集落跡 | 25-021 | 43 | 大井戸上遺跡 | 旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡 | 30-014 |
| 22 | 鶴ヶ岡外遺跡 | 旧石器、縄文早期の集落跡 | 30-036 | 44 | 東台遺跡 | 旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡 | 30-024 |
| 23 | 鶴ヶ岡遺跡 | 旧石器、縄文早期・中期の集落跡 | 30-047 | 45 | 大井宿木戸跡 | 近世～近代の宿場跡 | |
| | | | | 46 | 石塔畑 | 中世の散布地 | 30-027 |

第6表 縄文時代中期時期細分対比表

| 本書 2009 ① | 安孫子昭二 1988 鈴木・山本 1988 ② | 植木 弘 ③ 1994 | 黒尾和久 ④ 1995 | 谷井 他 ⑤ 1982 | 考古学協会 ⑥ 1981 |
|-----------------|-------------------------------|----------------|----------------|----------------|--|
| 猪沢・阿玉台1b古 | 阿玉台1b古・猪沢 | 猪沢・阿玉台1b | | 阿玉台1b前 Ⅱb | Ⅱ期 阿玉台出現期 |
| 勝坂1古・新道古・阿玉台1b新 | 勝坂第Ⅰ様式 | 勝坂Ⅰ様式 | 中前 | 1a中 1a新 | Ⅲ期 (勝坂最古段階) |
| 勝坂1新・新道新・阿玉台Ⅱ古 | Ⅱ様式 | Ⅱ | 期 | 1b | |
| 勝坂Ⅱ古・藤内古・阿玉台Ⅱ新 | Ⅲ様式 | Ⅲ | 中半 | 2a古 | Ⅳ期 |
| Ⅱ新・藤内新 | Ⅳ様式 | Ⅳ | 葉 | 2a新 | (勝坂盛時段階) |
| 勝坂Ⅲ古・井戸尻・阿玉台Ⅲ古 | Ⅴ様式 | Ⅴ | 後 | 2b | Ⅴ期 (勝坂終末) |
| 新 阿玉台Ⅲ新 | Ⅵ様式 | Ⅵ | 坂 | 3a | |
| 加曾利EⅠ古 | 加曾利EⅠ様式 | 加曾利EⅠ直前b | 半 | 3b古 3b新 | 加曾利EⅠ古 |
| 古相 | | | c | E 1a | Ⅸa Ⅸb X Ⅺ Ⅻa Ⅻb Ⅼ Ⅽ |
| 加曾利EⅠ新 | 加曾利EⅡ様式 | 加曾利EⅠ式 | 1 | 1 1b | |
| 中相 | | | 2 | 期 1c | |
| 新相 | | | 3 | 後 2a | |
| | | | 4 | 半 E 2b | Ⅺ Ⅻa Ⅻb |
| 加曾利EⅡ | 加曾利EⅢ様式 | 加曾利EⅡ式 | 1 | 2 2c古 | |
| 古相 | | | 2 | 加 2c新 | |
| 中相 | | | 3 | 曾 E 3a | Ⅼ Ⅽ |
| 新相 | | | 4 | 期 E 3b | |
| 加曾利EⅢ | 加曾利EⅣ様式 | 加曾利EⅢ式 | 1 | 3 3c | Ⅼ Ⅽ |
| | | | 2 | E 3c | |
| 加曾利EⅣ | | | E4 | 4 | Ⅾ |

第2章 鶴ヶ岡外遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡外遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高27～50mの台地北縁、低地との比高差4mあまりの緩斜面上に立地する南北100m、東西3.5km以上の細長い崖線上にまたがる遺跡である。

周辺の遺跡は、江川下流に鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、西遺跡があり、八幡神社遺跡と西遺跡には縄文時代の集落が広がる。また、本遺跡の対岸でも旧石器時代の石器が表採されている。

2003年11月、鶴ヶ岡遺跡に隣接地において事業所の建設に伴う事前協議があり、同年12月に試掘調査を行なったところ（第1地点）、旧石器時代（立川ロームIV層）の石器群と礫群を検出したため、2004年1月10日包蔵地の変更増補をして鶴ヶ岡外遺跡として新規登録した。また、2005年1月に第2地点を調査した際、崖線に沿って遺跡範囲確認の踏査を行なった結果、さらに上流でも旧石器時代の石器を表面採取したため、同年9月に包蔵地の変更増補を行なった。主たる時代は旧石器時代～縄文時代早・前期である。

II 鶴ヶ岡外遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007（平成19）年6月12日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は川越江川右岸の台地上に位置する。隣接する北側の第2地点の調査で、旧石器時代から縄文時代の遺構と遺物が確認されているため、原因者と協議の結果、遺跡の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年12月11日から2008年1月30日まで行なった。開発区が広大なため試掘調査区を便宜的に調査区A区・B区・C区・D区に分けた。開発区を南北に走る市道を境とし西側にA区とB区を、東側にC区とD区を設置しそれぞれの調査区名をトレンチ名とした。

調査区A区は既存建物の上に幅3.5～4mのトレンチを設定した。調査区B区は既存建物の北側で、最も斜面に近い場所に幅4m～25mの調査区に沿った範囲にトレンチを設定した。調査区C区は一辺25～30mの三角形のトレンチとし、調査区D区は幅4m、長さ230mの長大なトレンチを設定した。

調査区・トレンチの表土除去は、文化財保護係の職員立会いのもと、開発事業者より重機とオペレーターの提供・協力を受け実施した。重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。さらに旧石器時代の遺構と遺物を確認するため、調査区A区・B区・C区に2×2mのグリッドを3～10m間隔に設定し深掘りした結果、調査区B区とC区の地表面から約50cmの深さで、旧石器時代の石器群を確認した。

原因者と再協議の結果、開発の変更ができず遺跡への影響も避けられないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は2008年2月20日から3月7日まで行ない、旧石器時代の石器群3ヶ所を検出した。（現在整理作業、報告書作成中）

第7表 鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表

| 地点 | 調査年 | 面積(m ²) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 |
|----|-----------|---------------------|--------|------------------------|---------------------------|
| 1 | 2003・2004 | 5,526 | 事業所 | 旧石器時代石器群6・礫群7、縄文落とし穴3 | 町内遺跡群XII 大井遺跡調査会報告第20集 |
| 2 | 2004・2005 | 5,000 | 老人介護施設 | 旧石器時代石器群3、縄文炉穴群1・落とし穴1 | 町内遺跡群XII 大井遺跡調査会報告第20集 |
| 3 | 2005 | 160 | 鉄塔建設 | 遺構・遺物なし | 市内遺跡群2 |
| 4 | 2003 | 5,911 | 給食センター | 遺構・遺物なし | 町内遺跡群XII |
| 5 | 2007・2008 | 43,449 | 共同住宅 | 旧石器時代石器群3、石器 | 市内遺跡群5 |



第3図 鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区 (1/10,000)、鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区域図 (1/3,000)、土層図 (1/60)

第3章 西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西遺跡は、藤間江川に面した標高22mの台地北縁、低地との比高差8m以上の急峻な崖面上に立地する南北150m、東西200m以上の遺跡である。上福岡駅まで約600mに位置する利便性のため、早くから宅地開発が進み遺跡の大部分は住宅地となっている。

周辺の遺跡は、西側に隣接して縄文時代中期の集落である鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡がある。約800m上流に旧石器時代の礫群・石器群が広がる鶴ヶ岡外遺跡がある。また、藤間江川の支谷をはさんだ対岸には川越市藤原町遺跡があり、八幡神社遺跡とともに縄文時代の集落が広がる。さらに下流へ向かうと、「川崎貝塚」として著名な川崎遺跡、川崎横穴墓群があり、旧石器時代から縄文、古墳、飛鳥・奈良・平安中・近世にわたる複合遺跡となる。

本遺跡は1992年3月、駐車場造成に伴い約3,000㎡が発掘調査され、縄文時代中期中葉の勝坂期～加曽利E I期の住居跡17軒、集石土坑や土坑等を多数検出、1996年の第2・3次調査でも縄文時代中期の住居跡を検出し、弧状に分布する縄文集落が明らかとなってきた。2008年12月現在、13ヶ所で試掘及び発掘調査が行なわれ、時期不明の溝跡等も検出している。主たる時代は縄文時代中期である。

II 西遺跡第1地点

調査は共同住宅及び分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年1月24日付で、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は1992年に「西遺跡第1次調査」として調査済みであるが、当時の開発は駐車場造成のため、遺構保存として試掘調査のみを行なった未調査区域があり、特に旧石器時代の遺構については未確認であった。今回開発申請のあったマンション建設区域ではローム面の掘削も予定されているため、旧石器時代と未調査部分の確認を主眼に再調査をすることとなった。

試掘調査は2007年3月12日から同年4月20日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。前回調査した住居跡の他、新たな住居跡3軒と集石土坑等を確認した。そこで申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。本調査は2007年6月4日から8月1日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、縄文時代中期の住居跡3軒、集石土坑6基、土坑12基を新たに検出した。本調査の成果は、第II部第1章に掲載した。



第4図 西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第8表 西遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (㎡) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 |
|------------|--------------------------|---|-----------|----------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1991年試掘 | 西2-5905 | 1991.7.23～7.31 | 350 | 防火水槽 | 遺構・遺物なし | 埋蔵文化財の調査(14) |
| 第1次 | 西2-2068 | (1992.1.14～3.19) | 3,061 | 駐車場 | 縄文中期住居17、集石遺構17、土坑65 | 上福岡市遺跡調査会報告書第2集、上福岡市史資料編第1巻自然史・考古 |
| | | 1992.3.23.～5.2 | | | | |
| 1992年試掘(1) | 西2-1845 | 1992.4.24～25 | 200 | 共同住宅 | 遺構・遺物なし | 埋蔵文化財の調査(15) |
| 1992年試掘(2) | 西2-2068-2 | 1992.12.3～12.9 | 559.2 | 共同住宅 | 縄文中期土器細片 | 埋蔵文化財の調査(15) |
| 第2次 | 西2-2072-8 | 1996.5.29～6.5 | 100 | 個人住宅 | 縄文中期住居1、溝1、縄文土器、石器 | 埋蔵文化財の調査(19) |
| 第3次 | 西2-2072-12 | 1996.6.6～6.14 | 111.2 | 個人住宅 | 土坑2、集石土坑、溝、縄文土器、石器 | 埋蔵文化財の調査(19) |
| 1996年試掘 | 西2-2071-1 | 1996.5.21～5.28 | 1,146.2 | 宅地造成 | 縄文中期住居跡、集石土坑、溝(第2・3次地点試掘調査) | 埋蔵文化財の調査(19) |
| 1996年試掘① | 西2-5891-3他 | 1996.7.17 | 1,400 | プール改築 | | 埋蔵文化財の調査(19) |
| 1996年試掘② | 西2-1827-2 | 1996.10.16 | 47.4 | 個人住宅 | 遺構・遺物なし | 埋蔵文化財の調査(19) |
| 1999年試掘(1) | 西2-1828-1 | 1999.4.23～26 | 497.6 | 共同住宅 | 遺構なし、縄文土器片 | 埋蔵文化財の調査(22) |
| 1999年試掘(2) | 西2-1835-4 | 1999.5.14～17 | 324 | 個人住宅 | 遺構なし、縄文土器片 | 埋蔵文化財の調査(22) |
| 2001年試掘 | 西2-1833-3・4 | 2001.4.9～11 | 202.5 | 宅地造成 | 溝1条、縄文土器片 | 埋蔵文化財の調査(24) |
| 第1地点 | 西2-2068-1・3・4、 2069-1 | (2007.3.12～26、 4.2～20) 2007.6.4～8.1 | 3,467 | 共同住宅及び 分譲住宅 | 縄文中期住居跡3、集石土坑6基、土坑12基、ピット68、溝1本 | 市内遺跡群4 |

第4章 川崎遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400~500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917（大正6）年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928（昭和3）年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来2008年12月末現在58ヶ所で調査が行なわれ、37ヶ所で遺構が確認されている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第5図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第9表 川崎遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (㎡) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 |
|-----------------------|-----------------|---------------------------|--------------------|----------------|---|------------------------------|
| 予備発掘調査 | 川崎160 | (1974.3.25~4.4) | 84 | 1次調査に先立つ保存状況把握 | 炉穴3、土坑2、ピット群、縄文土器、石器 | 上福岡市遺跡調査報告書 |
| 1次 | 川崎162~176 | 1974.7.20~9.19 | 1,800 (予定2,510) | 5ヶ年計画による事前調査 | 住居跡11(縄文前期3、古墳前期1、国分7)、溝3、掘2、土坑5、地下式坑6、集石1 | 川崎遺跡 第1次調査概報 |
| 緊急発掘調査 (新井氏宅) | 大字川崎字宮後168-3 | 1975.3.30~5.10 | 198.53 | 個人住宅 | 溝3、縄文土器、石器、平安土師器・須恵器・灰釉陶器・布目瓦・瓦塔 | 上福岡市遺跡調査報告書 |
| 宅地添1次 (A地区) | 大字川崎字宅地添122 | 1975.6.829 | 50 | 個人住宅 | 縄文早期住居1、縄文土器、石器、礫 | 上福岡市遺跡調査報告書 |
| 2次 | 川崎137~174 | 1975.9.4~12.5 | 3055 | 5ヶ年計画による事前調査 | 縄文住居9、古墳住居6、奈良平安住居10、中世遺構他 | 川崎遺跡 第2次調査概報 |
| 3次 | 川崎149-6 | 1977.11.1~12.3 | 300 | 住宅建設 | 縄文住居3(7.8)、奈良平安住居(1.2.4~6.9)、焼土散布、柱穴、溝 | 川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡 |
| 宅地添2次 (B地区) | 川崎198 | 1978.5.15~25 | 170 | 宅地造成 | 土坑3、ピット | 埋蔵文化財の調査(I) |
| 宅地添3次 (C地区) | 川崎230 | 1978.5.23~31 | 130 | 宅地造成 | 井戸跡2、地下坑1、溝1 | 埋蔵文化財の調査(I) |
| 4次 | 川崎2-5-2 | 1979.4.19~5.11 | 304 | 宅地造成 | 縄文前期住居1、溝1 黒浜式土器、貝類 | 埋蔵文化財の調査(II) 埋蔵文化財の調査(IV) |
| 5次 | 川崎1-1-4 | 1979.9.26~10.10 | 152 | 宅地造成 | 溝状遺構 | 埋蔵文化財の調査(II) |
| 1979年度試掘 (清見) | 清見4-3-11 | (1979.11.12~19) | 260 | 宅地造成 | 溝1 | 埋蔵文化財の調査(II) |
| 6次 | 川崎102-5 | 1979.12.3~8 | 30 | プレハブ家屋 | 縄文前期住居2、縄文土器片、平安住居2 | 埋蔵文化財の調査(II) |
| 7次 | 川崎124-3 | 1981.11.27~30 | 316 | 個人住宅 | 遺構なし、平安土器片 | 埋蔵文化財の調査(IV) |
| 8次 | 大字川崎字宮脇148-1 | 1984.1.17~26 | 400 | 住宅建設 | 溝1 | 埋蔵文化財の調査(VI) |
| 宅地添4次 | 川崎宅地添219 | 1984.9.25~10.9 | 301 | 住宅建設 | 縄文住居1、平安住居1 | 埋蔵文化財の調査(VII) |
| 9次 | 川崎字宮後口172-1,2 | 1986.9.11~20 | 495 | 個人住宅 | 溝2、縄文後・晩期、平安土器散布 | 埋蔵文化財の調査(IX) |
| 10次 | 川崎224-1 | 1987.11.24~30 | 603 | 個人住宅 | 溝1 | 埋蔵文化財の調査(X) |
| 11次 | 川崎2-6-2 | 1988.5.10~17 | 289 | 住宅建設 | なし | 埋蔵文化財の調査(11) |
| 1988年度試掘 (市道402号線) | 市道402号線 | (1988.9.19~21) | 60 | 下水道設置 | 住居1 | 埋蔵文化財の調査(11) |
| 1989年度試掘(1) | 川崎字宅地添196-1 | (1989.4.10~18) | 1045 | 住宅建設 | なし | 埋蔵文化財の調査(12) |
| 1989年度試掘(2) | 川崎字宮前98-2 | (1989.10.3~6) | 264 | 住宅建設 | なし | 埋蔵文化財の調査(12) |
| 12次 | 川崎字宮前149-4+5 | 1990.4.20~27 | 311 | 住宅建設 | 溝2 | 埋蔵文化財の調査(13) |
| 13次 | 大字川崎字宮前122 | 1990.5.1~17 | 480 | 住宅建設 | 奈良住居1 | 埋蔵文化財の調査(13) |
| 1990年度試掘(1) | 大字川崎字宮前122 | (1990.5.18~23) | 530 | 範囲確認調査 | なし | 埋蔵文化財の調査(13) |
| 14次 | 大字川崎字宮前145 | 1990.10.1~31 | 499 | 住宅建設 | 縄文前期住居1、貝塚、平安住居1 | 埋蔵文化財の調査(13) |
| 15次 | 川崎字宮後口160-1 | 1991.10.23~11.20 | 499 | 個人住宅 | 平安住居7、土坑1 | 埋蔵文化財の調査(14) |
| 1992年度試掘(1) | 大字川崎字山向9-5 | (1993.2.18~19) | 168 | 店舗併用住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(15) |
| 1993年度試掘(1) | 川崎2-2-10,11 | (1993.8.24) | 131 | 個人住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(16) |
| 1993年度試掘(2) | 川崎1-1-1の一部 | (1993.9.10~13) | 422.37 | 個人住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(16) |
| 1994年度試掘(1) | 川崎字台258他1筆 | (1994.11.17~24) | 230 | 機材置場敷設 | なし | 埋蔵文化財の調査(17) |
| 1995年度試掘(1) | 川崎2-7-2,3 | (1995.10.13~16) | 1126.34 | 消防署 | なし | 埋蔵文化財の調査(18) |
| 16次 | 川崎字宮脇150-2,3 | 1995.12.11~1996.3.8 | 828 | 駐車場及び資材置場敷設 | 縄文前期(黒浜期)大形住居1、同期住居跡2・土坑2、平安住居跡4・掘立柱建物跡6、中世竪穴状遺構2 | 7年度教育要覧 |
| 17次 | 川崎字宅地添204の一部 | 1996.7.15~23 | 779.69 | 個人住宅 | 平安住居1 | 埋蔵文化財の調査(19) |
| 18次 | 川崎字宮脇148-3 | 1996.11.18~25 | 198 | 個人住宅 | 平安住居1 | 埋蔵文化財の調査(19) |
| 1997年度試掘(1) | 川崎字山向21 | (1997.4.14) | 367.21 | 宅地造成 | 溝1(時期不明) | 埋蔵文化財の調査(20) |
| 1997年度試掘(2) | 川崎字宮後口165-6 | (1997.10.20) | 204.34 | 個人住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(20) |
| 1997年度試掘(3) | 川崎字宅地添199-1,2,5 | (1998.2.12~16) | 780.36 | 個人住宅 | なし | 9年度教育要覧 |
| 1998年度試掘(1) | 川崎字宅地添197-1 | (1998.10.27~11.6) | 996.09 | 宅地造成 | 縄文前期土坑1ほか | 埋蔵文化財の調査(21) |
| 市道402号線 2次 | 川崎字宮前、宮脇地内 | 2000.2.21~25 | 496 | 道路築造 | 縄文前期住居跡1 | 11年度教育要覧 |
| 2000年度試掘(1) | 川崎字宅地添209の一部 | (2000.6.19~22) | 123.3 | 個人住宅 | 貝塚の一部 | 埋蔵文化財の調査(23) |
| 範囲確認調査 | 川崎字宅地添209 | (2001.6.12~25) | 100 | 車庫 | 溝1 | 埋蔵文化財の調査(24) |
| 19次 | 川崎字宮脇157の一部 | 2001.9.18~10.4 | 289.2 | 個人住宅 | 平安初頭住居1 | 埋蔵文化財の調査(24) |
| 2001年度試掘(1) | 川崎字宅地添204-1 | (2001.10.29,30) | 825.42 | 宅地造成 | なし | 埋蔵文化財の調査(24) |
| 2002年度試掘(1) | 川崎249-1の一部 | (2002.5.13) | 341.32 | 倉庫 | なし | 埋蔵文化財の調査(25) |
| 2002年度試掘(2) | 川崎210-1,2の一部 | (2002.10.28,29) | 551 | 共同住宅 | 溝1【盛土保存】 | 埋蔵文化財の調査(25) |
| 2002年度試掘(3) | 川崎2-4-16 | (2002.12.24) | 228 | 個人住宅 | なし | 14年度教育要覧 |
| 2002年度試掘(4) | 川崎2-2-12 | (2003.3.13) | 165 | 個人住宅 | なし | 14年度教育要覧 |
| 2002年度試掘(5) | 川崎字宮脇155先 | (2003.3.26) | 164 | 市道401号線舗装工事 | なし | 14年度教育要覧 |
| 2003年度試掘(1) | 川崎137-1の一部 | (2003.8.6,7) | 257.5 | 個人住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(26) |
| 2003年度試掘(2) | 川崎字宅地添226-14 | (2003.12.8,19) | 381 | 個人住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(26) |
| 宅地添地区5次 | 川崎字宅地添222-3先 | 2004.2.16~18 | 88 | ? | 古墳初頭竪穴住居跡1【調査実施】 | 15年度教育要覧 |
| 2004年度試掘(1) | 川崎字宮脇157-1の一部 | (2004.6.14,15) | 421 | 個人住宅 | 平安竪穴住居のカマドの一部 | 埋蔵文化財の調査(27) |
| 2004年度試掘(2) | 川崎2-5-1 | (2004.11.1~4) | 881 | 宅地造成 | なし | 埋蔵文化財の調査(27) |
| 20次 | 川崎字宮脇153-5 | 2005.11.28~12.2(11.22~27) | 257 | 個人住宅 | 古墳住居1 | 市内遺跡群1 |
| 第21地点 | 川崎1-6-10 | (2006.4.11)2006.4.14~20 | 298 | 個人住宅 | 奈良住居1、溝 | 市内遺跡群3 |
| 第22地点 | 川崎171-1,174-10 | (2007.4.16~23) | 104 | 消防分団倉庫 | 炉穴4、地下式坑2、穴蔵1、土坑2 | 市内遺跡群4 |
| 第23地点 | 川崎字宮前102-4,6 | (2007.6.4) | 240.6 | 個人住宅 | 工事着工済みの為工事立会い | 市内遺跡群4 |
| 第24地点 | 川崎字宅地添225-3 | (2007.10.4) | 319 | 共同住宅 | なし | 市内遺跡群4 |

II 川崎遺跡第22地点

(1) 調査の概要

調査はふじみ野市消防団上福岡第1分団車庫の建設に伴うもので、ふじみ野市長より2007年1月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の西端部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年4月16日から、調査区の西側半分を重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。その結果、縄文時代から中世期の遺構を確認した。遺構の一部は東側の残土置き場の下にも延びていることから、開発区域のほぼ全域に遺構が広がっており、また遺構確認面まで約30cmと浅く工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。

本調査は2007年4月24日から5月22日まで、残土置き場の関係から調査区を東西に分けて行なった。本調査の結果、縄文時代の炉穴4基、中世の地下式坑2基、近世以降の穴蔵1基、縄文時代土坑2基、溝1条を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

検出した炉穴と土坑は、覆土層の観察から縄文時代のものともみられ、溝の時期は不明である。

①炉穴

第10表 川崎遺跡第22地点炉穴一覧表 (単位cm)

| No. | 平面形態 | 規模 (上端径・底径・深さ) | 焼土範囲 規模 | 足場 |
|-----|------|-------------------|------------|----|
| 1 | 楕円形 | 35×40・9×15・3.9 | 20×22 | なし |
| 2 | 不明 | 63×(-)・35×(-)・9.1 | - | 不明 |
| 3 | 楕円形 | 59×80・(-)・4.5 | 35×60 | なし |
| 4 | 楕円形 | 43×57・15×17・11.4 | 28×30 | なし |

②土坑

土坑1の平面形は不整形を呈し、規模は上端90～126cm下端60～96cm、確認面からの深さは27.2cmを測る。土坑2は溝に切られるため全容は不明である。残存部の規模は上端127～(60)cm、下端60～(23)cm、確認面からの深さは28.3cmを測る。

③地下式坑

【地下式坑1】方形の入口を南東部に持ち、室部は長方形である。入口部の底部は室部の底部より約40cm高いが、双方の底部とも平坦である。遺構長軸355cm、短

軸(室部)313cm、短軸(入口部)120cm、深さ1764cm、室部幅285cm・奥行き243cm、入口部幅105cm・奥行き103cmを測る。

【地下式坑2】入口は南東部に持つが、大部分は調査区外へ延びるため未調査である。室部は長方形で底部は平坦である。室部幅300cm・奥行き213cm、深さ170cmを測る。

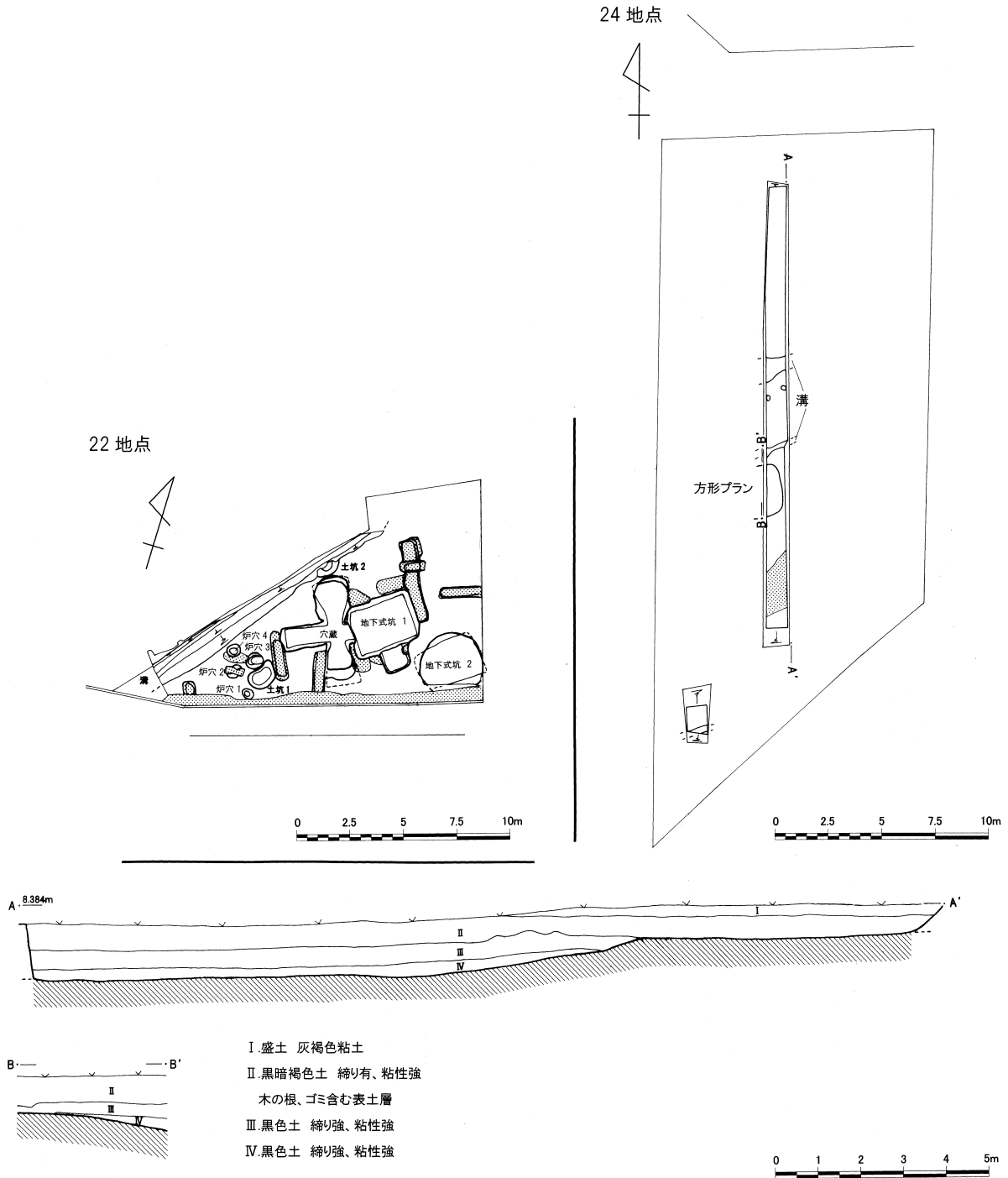
④穴蔵

近世以降のサツマイモ貯蔵用の「アナグラ」とみられ、遺構覆土層にはガラスの一升瓶やプラスチックゴミなどが廃棄されているが、正確な遺構の時期は不明である。

竪坑は遺構の中央部にあったと思われるが横穴の天井が崩落しているため詳細は不明である。横穴の室は四方向に延びる。地山確認面からの深さは170cmである。北側の室は台形で、奥壁幅175cm、奥行き220cmである。南側の室も台形で、奥壁幅160cm、奥行き210cm、天井高102cm。西側の室は長方形で奥壁幅88cm、奥行き205cm、天井高115cm。東側の室は地下式坑を切って掘り込まれているが、天井部崩落時に立ち上がり部分も崩落しており詳細は不明である。推定奥行き122cm以上。

⑤出土遺物 (第9図)

1は胎土に繊維を含む貝殻条痕文土器で早期末。2・3は胎土に繊維を含みRとRL縄文を施す、前期。4は深鉢胴部で浮線文に斜位の刻みを施す諸磯b式。5は浅鉢口縁部で隆帯に連続刺突を、6も浅鉢の口縁部で隆帯の区画に刺突文と竹管状工具内側で半隆帯を施す勝坂式。8は2本の沈線を、9は深鉢胴部で沈線を施す。10・13は沈線を施し、中期から後期とみられる。12・14は沈線の区画内に縄文を施す堀ノ内式。15は口縁部に隆帯を巡らす、11は沈線を施す中期。17は口唇部に刻み状刺突と歯状工具で波状文を施す。16は無文。18は先端が長方形の工具による刺突を施す。18は須恵器坏底部。19は須恵器碗底部。20は須恵器。21は須恵器坏で1/3底部糸切り痕。32は14世紀中葉の瀬戸の陶器で尊式花瓶。25、26は土師器質の瓦塔初軸破片である。26は基壇部、25は初軸上部片で長押の意匠が貼り付けられる。『埼玉県指定文化財』の三郷町東山遺跡出土瓦塔・瓦堂と比べると、四隅柱の意匠が弱い。図示したものの以外に細片3点が出土する。他の遺物については第11表の出土遺物観察表に記した。



第6図 川崎遺跡第22・24地点遺構配置図 (1/300)、第24地点土層図 (1/150)

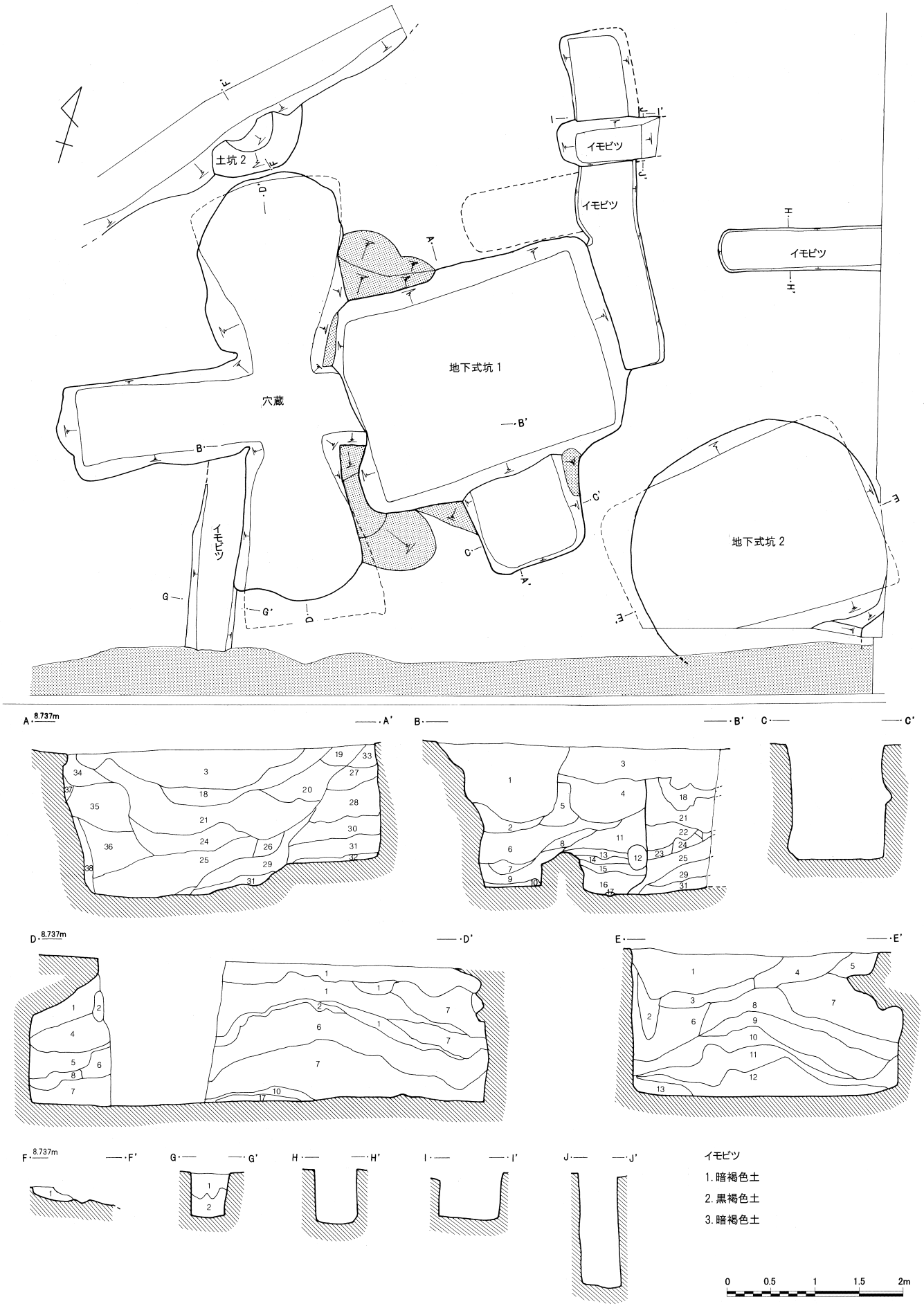
III 川崎遺跡第24地点

調査は共同住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年8月23日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東側に位置し、現在の新河岸川から約70m離れている。

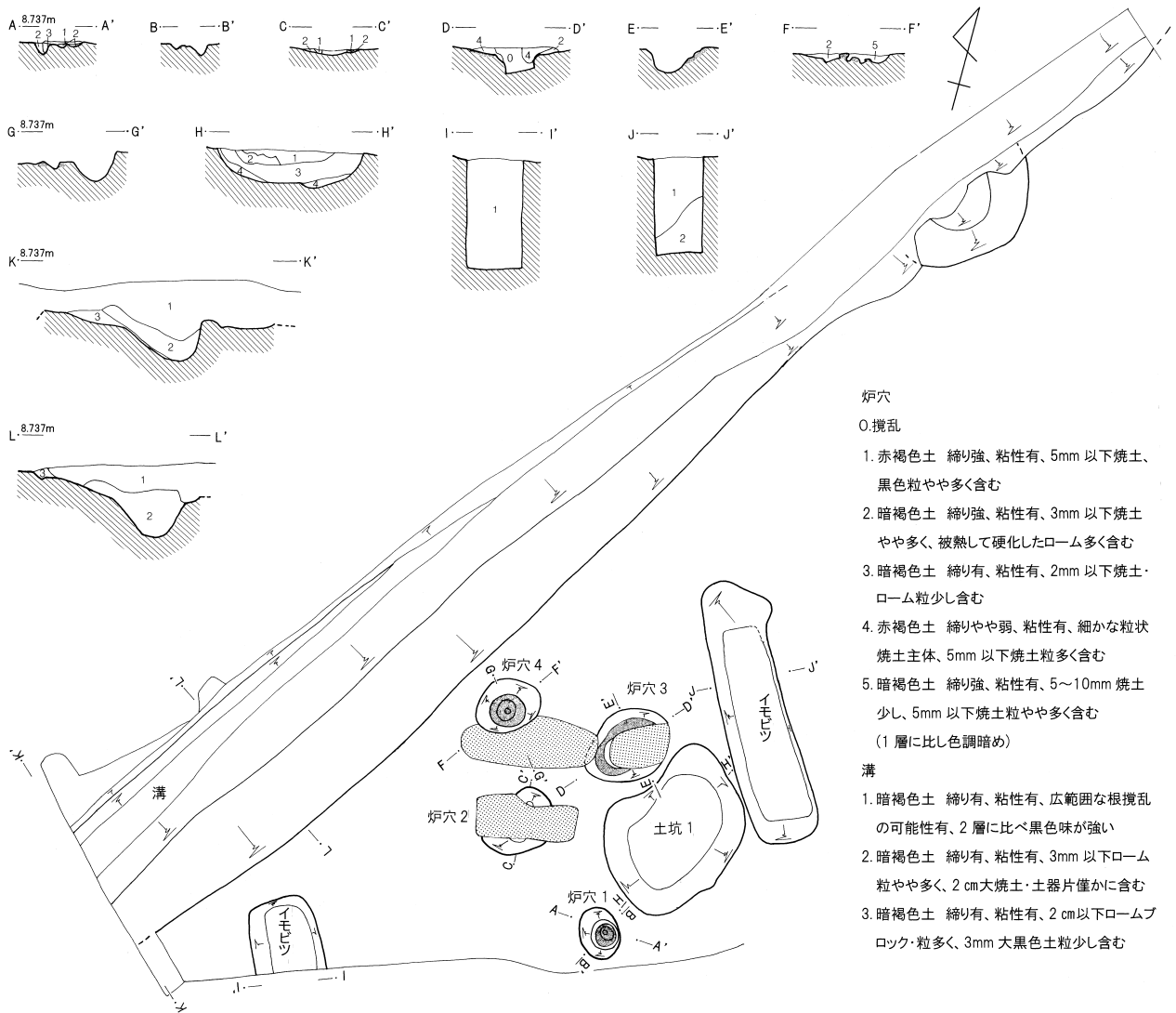
試掘調査は同年10月4日に行なった。幅約1mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。

調査区の地山面は南から北に傾斜しており、調査区南側ではローム層が確認できたが、北側では茶褐色土

の地山層であった。トレンチ2の中央部付近で隅丸形状の黒色土プランを確認、また同トレンチ内の4m北側で円形と溝状プランを確認した。堆積土の状況から遺構の可能性も考えられる。出土遺物は方形状プラン上の表土層から磨滅著しい土器器片数点が出土している。黒色プランの確認面からの深さは90~130cmで、建築予定建物の基礎の深さより30cm以上の保護層が確保されるため、開発においては慎重工事の措置をとり、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。



第7図 川崎遺跡第22地点地下式坑1・2、穴蔵・土坑 (1/60)



炉穴

0.攪乱

- 1. 赤褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下焼土、黒色粒やや多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下焼土 やや多く、被熱して硬化したローム多く含む
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下焼土・ローム粒少し含む
- 4. 赤褐色土 締りやや弱、粘性有、細かな粒状焼土主体、5mm 以下焼土粒多く含む
- 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、5~10mm 焼土少し、5mm 以下焼土粒やや多く含む (1層に比し色調暗め)

溝

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、広範囲な根攪乱の可能性有、2層に比べ黒色味が強い
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、2cm 大焼土・土器片僅かに含む
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2cm 以下ロームブロック・粒多く、3mm 大黒色土粒少し含む

土坑 1

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、5mm 以下ローム粒やや多く含む
- 2. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有、5~30mm ロームブロック、5mm 以下ローム粒多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~15mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く、12cm 以下大型の円礫多く含む
- 4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体ソフトロームにハードロームブロック混入、黒褐色土若干混入

土坑 2

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、2cm 以下ロームブロック・粒多く、3mm 大黒色土粒少し含む

地下式坑 1・穴蔵

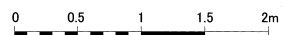
- 1. 黒~暗褐色土 締り有、粘性有、炭化物比較的多く、ビニール、陶磁器類含む
- 2. 黒~暗褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム粒主体
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム土やや多く含む茶色味、植物痕入る

- 4. 黒~暗褐色土 締り有、粘性有
- 5. 黒~暗褐色土 締り有、粘性有
- 6. 黒~暗褐色土 締り有、粘性やや弱
- 7. ローム土 締り強、粘性有、暗褐色土をシミ状に含む、天井部崩落土と考えられる
- 8. 暗褐色土 締り有、粘性有、2層に似た土質
- 9. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 10. 黒褐色土 締り強、粘性有
- 11. ローム土 締りやや弱、粘性有
- 12. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 13. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 14. ローム土 締り有、粘性やや弱
- 15. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 16. 暗褐色土ベース 締り有、粘性有
- 17. ローム土主体 締り強、粘性有
- 18. 黒~暗褐色土 締り有、粘性有
- 19. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 20. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 21. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 22. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱
- 23. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 24. 黒褐色土 締り有、粘性有
- 25. ローム土 締り有、粘性有

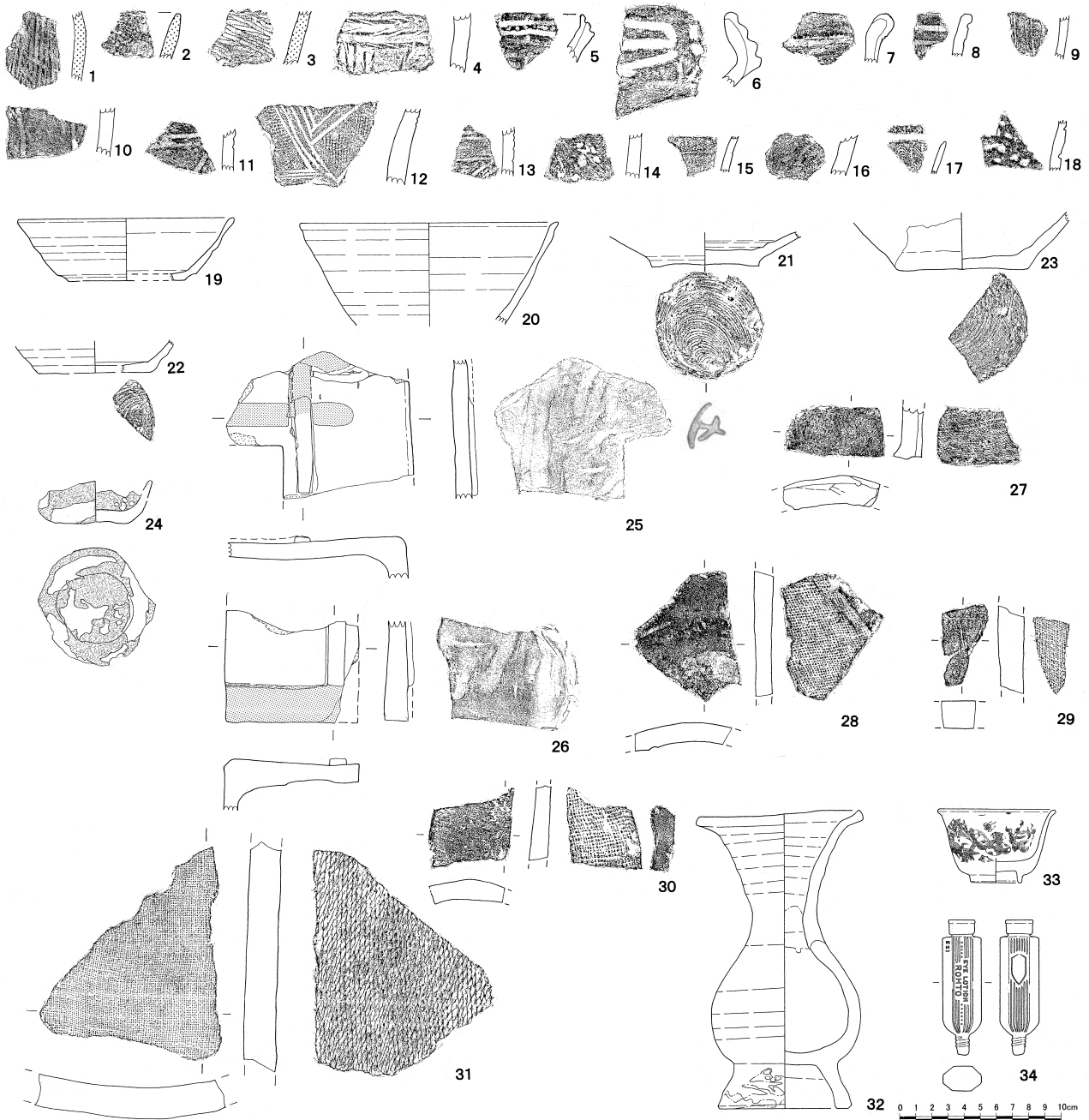
- 26. 暗褐色土 締り有、粘性有
- 27. ローム土 締り強、粘性有
- 28. 暗褐色土 締り有、粘性有
- 29. 暗褐色土 締り強、粘性有
- 30. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱
- 31. ローム 締り強、粘性有、貼ったようなロームの緻密な堆積
- 32. 黒褐色土 締り強、粘性有
- 33. 暗褐色土 締り有、粘性有
- 34. 暗褐色土 締り有、粘性有
- 35. ソフトローム主体 締り有、粘性有
- 36. ソフトローム主体 締り有、粘性やや弱
- 37. ソフトローム主体 締り有、粘性有
- 38. ハードローム 締り強、粘性有、地山に比し、ハードローム主体の密な堆積

地下式坑 2

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有
- 6. 暗褐色土 締り強、粘性有
- 7. 暗褐色土 締り強、粘性有
- 8. 暗褐色土 締り強、粘性有
- 9. 暗褐色土 締り強、粘性有
- 10. 黒褐色土 締り強、粘性有
- 11. ローム土主体 締り強、粘性有
- 12. 黒褐色土 締り強、粘性有
- 13. ロームブロック主体 締りやや弱、粘性やや弱



第8図 川崎遺跡第22地点炉穴・土坑・溝 (1/60)



第9図 川崎遺跡第22地点出土遺物 (1/4)

第11表 川崎遺跡第22地点出土遺物観察表

| No | 出土遺構名 | 種別・器種 | 単位cm・g(括弧付きは残存値) | | | 技法・文様・その他 | 推定産地 | 推定年代 | 残存・備考 |
|----|-------|------------|------------------|---------|-----------|--|--------------------|-------------|-------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅・内径 | 高さ・厚さ | | | | |
| 19 | 地下式坑2 | 須恵器/坏 | (13.4) | (8.4) | 3.9 | 黄橙色/轆轤成形/底部回転系切り/2mm以下砂粒少量含む | - | 9世紀~ | 1/3 |
| 20 | | 須恵器/坏 | (16.0) | - | (6.0) | 青灰色/轆轤成形/2mm以下砂粒少量含む | 南比企 | 8~9世紀 | 口縁~体部 |
| 21 | | 須恵器/皿 | - | 6.5 | (2.1) | 灰オリーブ色/轆轤成形、底部回転系切り/4mm以下砂粒少量含む、底部墨書有り「土」?判読不明 | 東金子 | 9世紀 | 底部 |
| 22 | | 須恵器/坏 | - | (8.0) | (2.0) | 灰白色/轆轤成形/底部回転系切り/3mm以下砂粒少量含む | 東金子 | - | 底部片 |
| 23 | | 須恵器/甕 | - | (7.6) | (3.5) | にぶい黄褐色/轆轤成形/底部回転系切り/3mm以下砂粒少量含む | - | - | 底部1/4 |
| 24 | | 土器/かわらけ | (7.2) | 4.4 | 2.6 | にぶい褐色/轆轤成形/底部回転系切り・板状圧痕有り、体部丸味有り、内外面煤付着 | 在地 | 14世紀 | 3/4 |
| 25 | | 土製品/瓦塔 | (9) | (11.4) | (1~1.7) | 浅橙色/粘土板作/土師質/初軸部、四天柱・長押・頭貫貼付 | - | 9世紀 | 初軸部片 |
| 26 | | 土製品/瓦塔 | (6.8) | 8.3 | (6.9) | 土製品/瓦塔 | - | 9世紀 | - |
| 27 | | 瓦/丸瓦 | (3.7) | (8) | (1.2~1.8) | 暗灰黄色/粘土紐作り/須恵質/広端面撫で、凸面自然釉付着、凹面布目・縄圧痕有り | - | 9世紀 | 広端面片 |
| 28 | | 地下式坑1 | 瓦/丸瓦 | (8) | (6.2) | (1.1~1.4) | 暗灰黄色/須恵質/凸面撫で、凹面布目 | - | 9世紀 |
| 29 | 地下式坑2 | 瓦/丸瓦 | (5.6) | (2.9) | (1.6~1.7) | 暗灰黄色/須恵質/凸面撫で、凹面布目 | - | 9世紀 | 小破片 |
| 30 | | 瓦/丸瓦 | (5.6) | (5) | (1~1.4) | にぶい黄褐色/粘土紐作り/須恵質/側面・凸面撫で、凹面布目 | - | 9世紀 | 広端面片 |
| 31 | | 瓦/平瓦 | (13) | (11.2) | (1.7~2.1) | にぶい黄褐色/一枚作り/須恵質/凸面縄目、凹面布目 | - | 9世紀 | 中形破片 |
| 32 | 穴蔵 | 陶器/花瓶/尊式花瓶 | 10.4 | 8.2 | 18.4 | 轆轤/灰釉/付高台 | 瀬戸 | 14世紀中葉 | 完形 |
| 33 | | 磁器/坏/端反形坏 | 7.3 | 3.1 | 4.5 | 轆轤/銅版染付松竹梅宝文 | - | 1890年代以降 | 4/5 |
| 34 | | ガラス製品/目薬瓶 | 8.3 | 2.4 | 1.5 | 型吹き/スクリュエ-粒/陽刻「EYE LOTION, ROHTO」[S21] 銘 | - | 1930-1940年代 | 完形 |

第5章 上福岡貝塚の調査

I 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、武蔵野台地北東部の標高16.0～17.0mに位置する。台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。遺跡をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約9～10m、新河岸川の水面からでは約12mの急崖を成す。南側にはかつて新河岸川に流れ込む小河川が東流し、河川が形成した立川段丘面に緩やかに傾斜する。周辺の遺跡は、北側に縄文時代前期集落の川崎遺跡と中期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡（古墳群）が隣接する。上福岡貝塚は1917年に安部立郎氏により紹介され、学史に残る著名な遺跡として世間に広く知れたのは、1937（昭和12）年の山内清男、関野克両博士による発掘調査と調査成果をもとにした研究報告等の功績によることは周知のとおりである。この調査で縄文時代の貝層を伴う住居跡24軒の内8軒を検出、古墳時代とみられる住居跡（竈跡）6軒、古墳4基も確認している。1992年奈良国立文化財研究所から、1994年・1999年には上福岡市教育委員会から上福岡貝塚に関する報告書と市史が刊行されている。

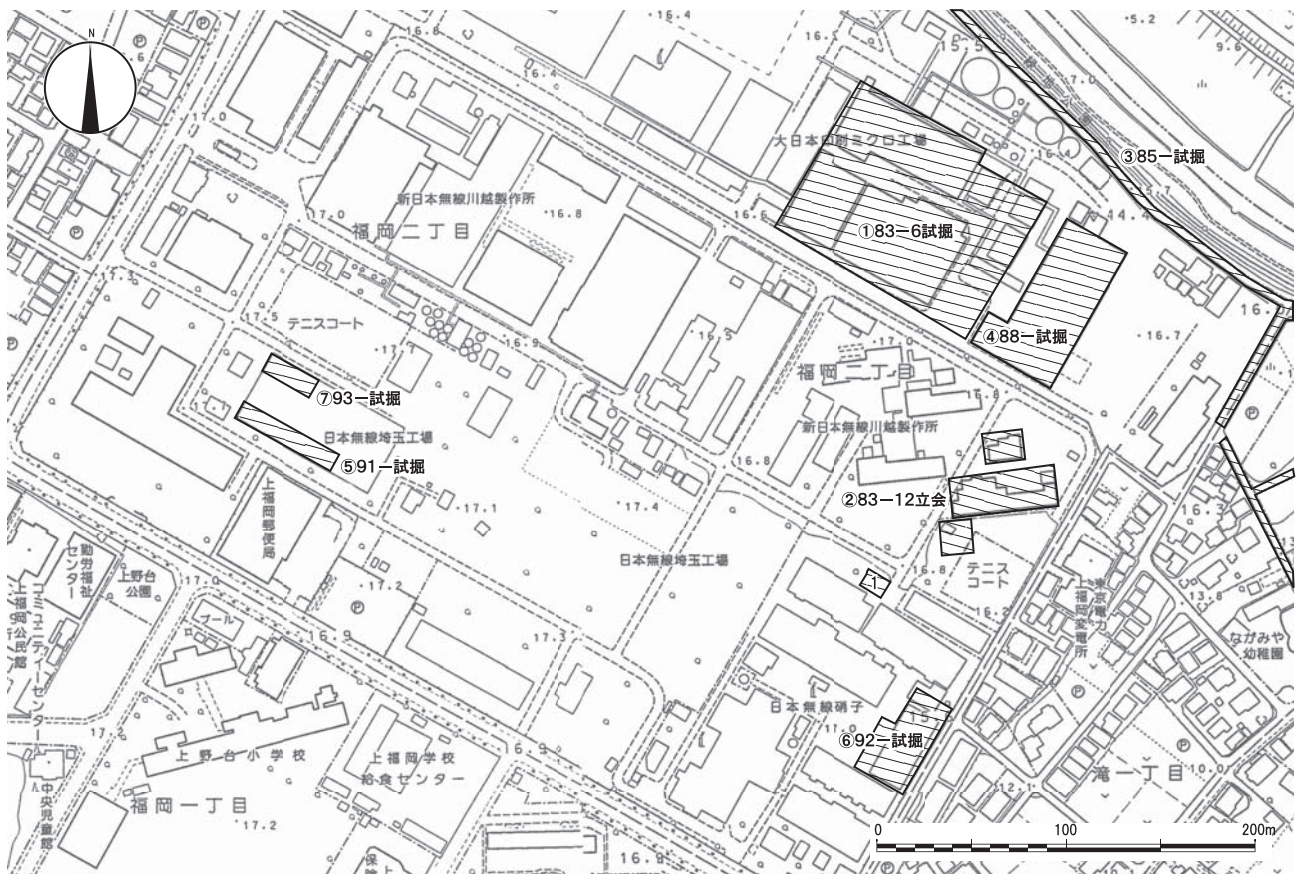
II 上福岡貝塚第1地点

（1）調査の概要

調査は変電設備を格納する建物の増設に伴うもので、原因者より2007年4月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は遺跡範囲の南東部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年4月26日から、開発区域北側部分の5.5×11mを重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。表土除去の重機は、原因者の新日本無線㈱のご好意により提供を受けた。試掘調査の結果、縄文時代前期の貝層を伴う住居跡2軒・縄文時代の集石土坑1基・時期不明の堀跡1本の他、旧日本陸軍の造兵廠東京工廠福岡工場（以下火工廠）の遺構等を確認した。住居跡等の遺構は西側と南側に延びていた。確認面までの深さは70～100cmであるが、掘削・地盤改良が地表面下180cmに及び遺跡に影響を与える為、2007年5月21日から6月12日まで本調査を行なった。本調査の成果は、第II部第2章に掲載した。



第10図 上福岡貝塚の地形と調査区（1/4,000）

(2) 遺構と遺物

①水溜

調査区の中央部でコンクリート製の水溜を検出した。平面は円形で、円筒型を呈し西側の上面部に幅12cm、深さ6.7cmの凹状の受けを設ける。水溜本体の規模は、上面外径2.73~2.8m、内径2.45~2.55m、上面から底部内面までの深さは1.982mである。側面外壁にはコンクリート成形時の木枠痕が残り、コンクリート内部には直径約10mmの鉄筋が多数使用されている。水溜を埋設する為の掘り方は、直径約3.8mのほぼ円形を呈する。

水溜の周辺にはコンクリート製の防護柵を埋設するためのピット(本来6本有)が4基(P1~4)検出された。規模は第12表のとおりである。

②不凍消火栓・配水管

調査区内南西部の壁沿いに、南西から北東に延びる配水管とそれに接続する消火栓を検出した。

1は鉄製の地上式双口型不凍消火栓本体である。ほぼ完形であるが、消火栓角ボックスハンドル(上部を回すハンドル)、口元キャップ(放水口のカバー)、キャ

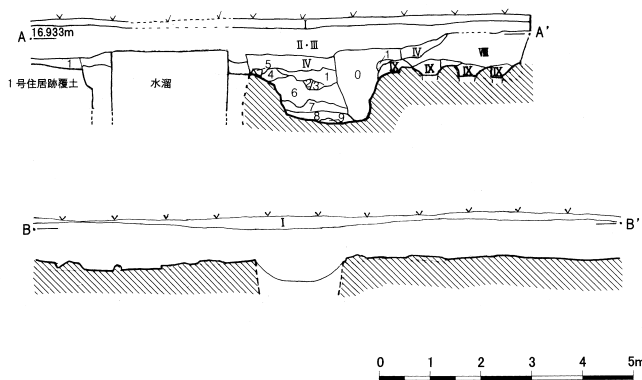
ップを本体に繋ぐ鎖等はみられない。正面に、「特許 ◊CEC◊ 自動 不凍消火栓」の刻印がみられる。双口の間に黒色の文字らしきものが見られるが判読出来ない。

2は鉄製配水管で、外径120mm・内径100mm、長さは調査区外へと延びており不明である。配水管外面と接合部らしき部分の2ヶ所に「⊕100×100=250 ●昭和十三年」と「⊕●昭和十三年△オ」の刻印がある。また本管と消火栓を結ぶ乙型継手管部分には「⊕100×90●昭和十二年△」の刻印がある。本体中央部2ヶ所のフランジと、本管と乙型継手管を結ぶフランジは4ヶ所のボルトで固定されている。「CEC」は、(株)建設工業社の社章で、現在も消防設備を取り扱われている。

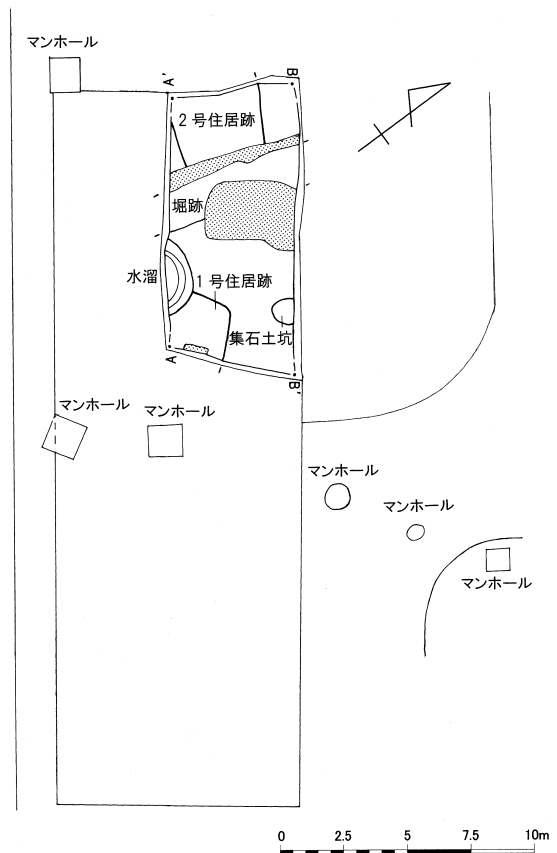
第12表 上福岡貝塚第1地点水溜ピット一覧表

(単位cm)

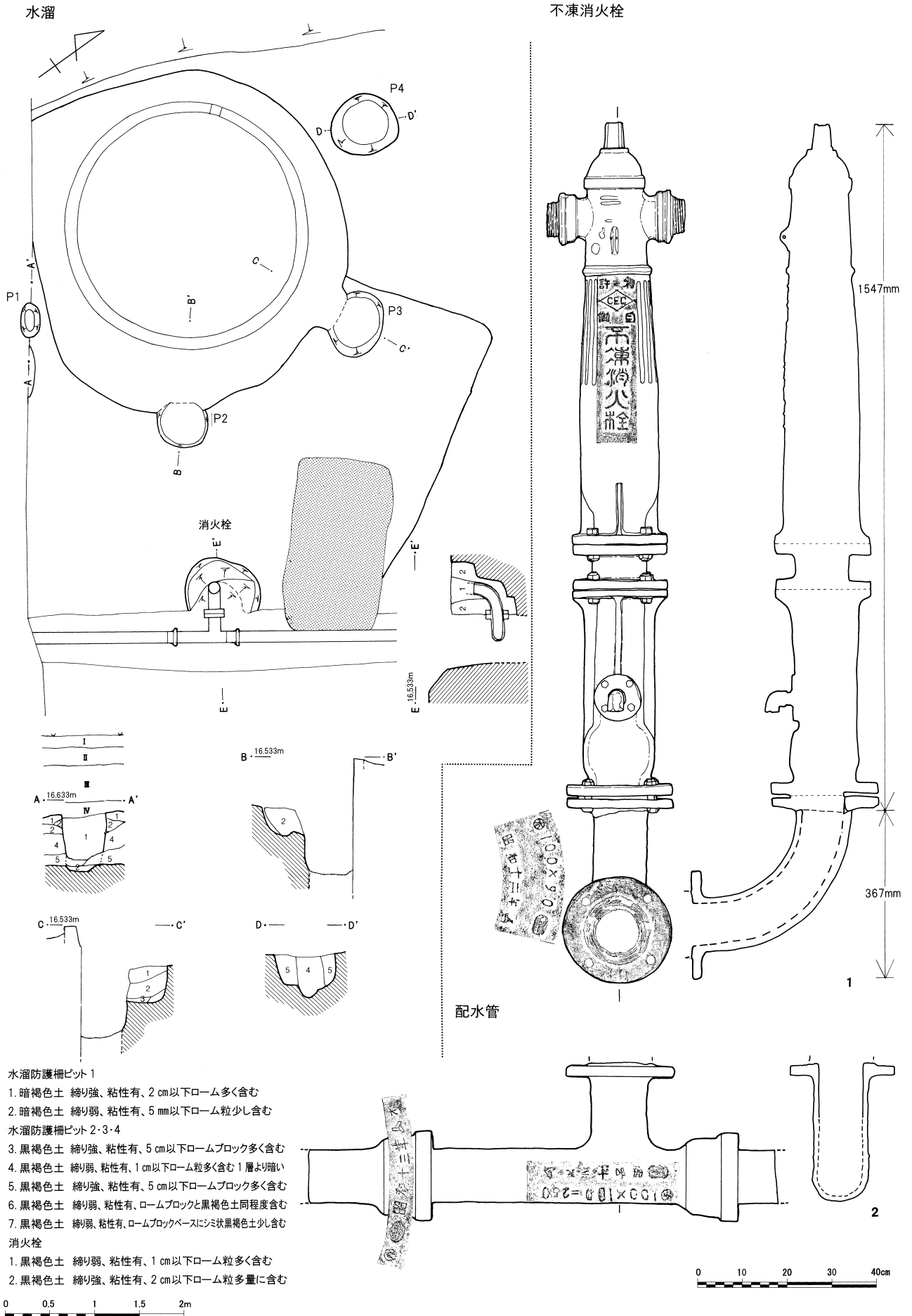
| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|---------|---------|------|----|
| 1 | 不明 | (48) | (36) | 66 | |
| 2 | 楕円形 | 57 | 52 | 37.8 | |
| 3 | 円形 | (55)~75 | (50)~58 | 52.3 | |
| 4 | 円形 | 68~75 | 48~52 | 56.3 | |



- I. 現表土 駐車場砂利砕石
 - II. ローム主体盛土(戦後の盛土)に黒色土含む
 - III. 黒色土主体盛土 締り強、粘性有、2cm以下ローム多量含む
 - IV. 黒色土主体盛土 締り弱、粘性有、1cm以下ローム少し含む
 - V. 暗褐色土 締り強、粘性有、10cm大ロームブロック多く含む
 - VI. 黒色土 締りやや弱、粘性有、2mm以下ローム粒多く、礫少し含む
 - VII. 黒色土 締りやや弱、粘性有、1cm以下ローム多く含む
 - VIII. 黒色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む
 - IX. 黒色土+暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム土と黒色土を斑状に含む畝跡(旧耕作土)
 - X. 暗褐色土 締り強、粘性有、10cm大シミ状ソフトローム、ローム粒もシミ状に極少し含む
- O. 攪乱
 - 1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm大ローム粒少し、1mm以下ローム粒多量含む
 - 2. 黒色土 3層ベースでややローム粒少ない、木根痕か?
 - 3. 黒色土 2mm大ローム粒少し、1mm以下ローム粒1層程度含む
 - 4. 黒褐色土 3層よりやや明い、ローム粒ほぼ同程度含む
 - 5. 暗褐色土 シミ状黒褐色土含む、ローム粒ほとんど含まない
 - 6. 黒褐色土 3mm以下ローム粒多量含む
 - 7. 黒褐色土+褐色土 黒褐色土ベースに5mm以下ローム粒多量含む、6層よりローム粒多い
 - 8. 褐色土 ポロポロするが、ほぼ地山ロームブロック
 - 9. 暗褐色土 ロームブロック(BB IIブロック)



第11図 上福岡貝塚第1地点試掘調査区域図(1/300)、土層図(1/150)



- 水溜防護柵ピット 1
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2 cm以下ローム多く含む
 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、5 mm以下ローム粒少し含む
- 水溜防護柵ピット 2・3・4
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 cm以下ロームブロック多く含む
 4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1 cm以下ローム粒多く含む 1層より暗い
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 cm以下ロームブロック多く含む
 6. 黒褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックと黒褐色土同程度含む
 7. 黒褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックベースにシミ状黒褐色土少し含む
- 消火栓
1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1 cm以下ローム粒多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2 cm以下ローム粒多量に含む

第12図 上福岡貝塚第1地点水溜・不凍消火栓・配水管 (1/60・1/12)

第6章 滝遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中・近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺

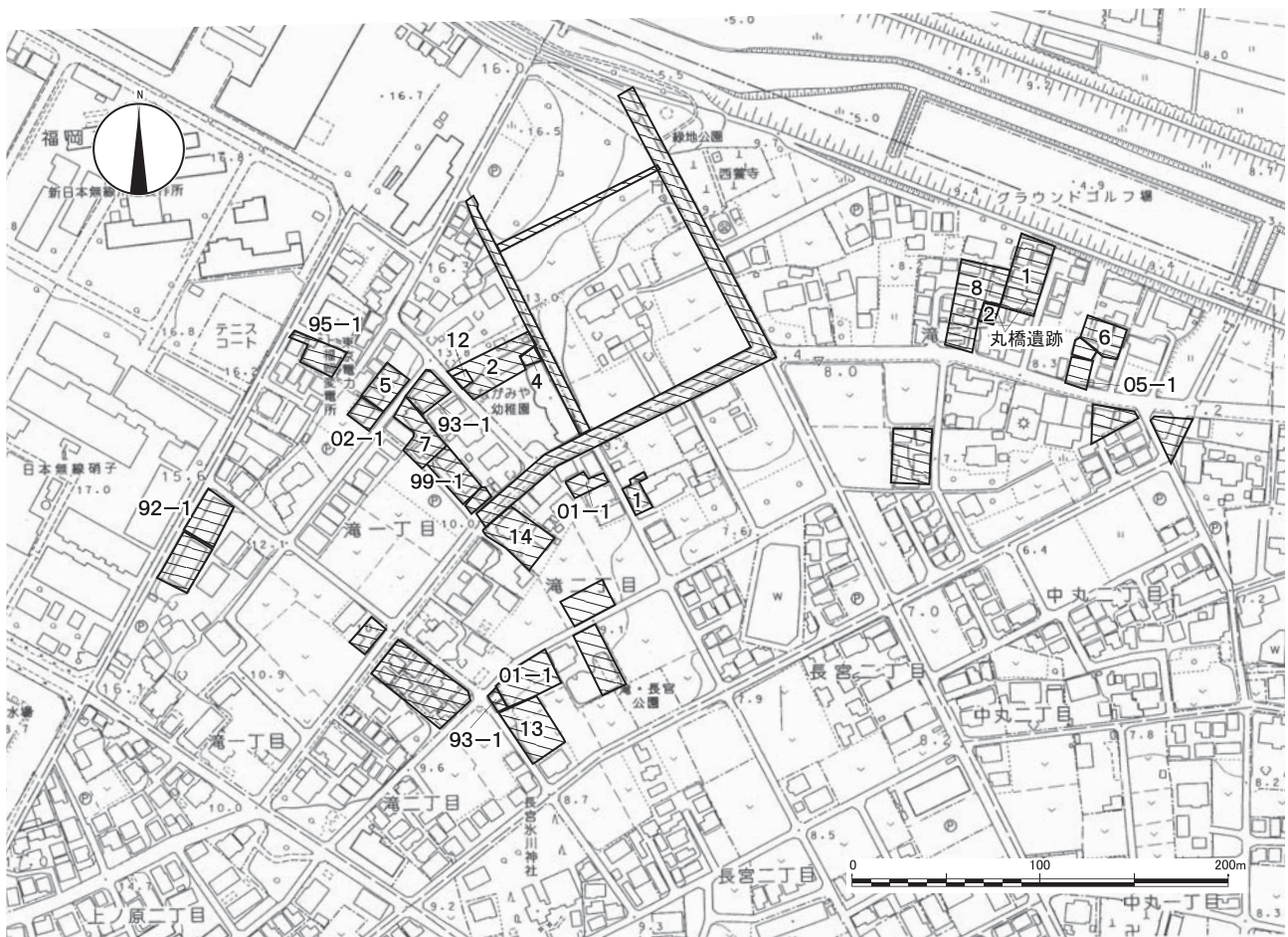
跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来21ヶ所で調査が行なわれている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査(1)は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。

II 滝遺跡第13地点

(1) 調査の概要

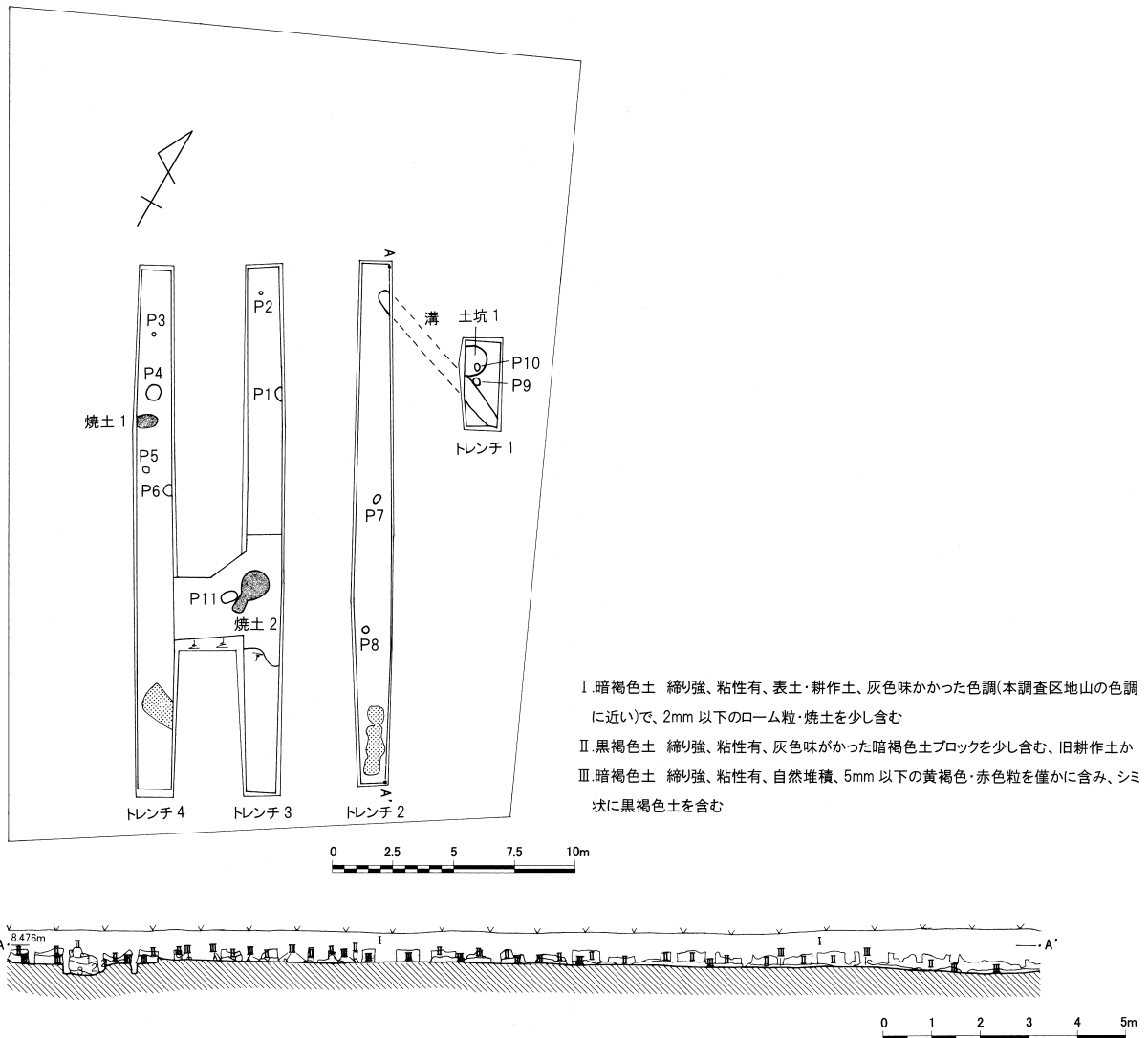
調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007年9月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の外側に位置するが、申請者と協議の結果、遺跡範囲を確



第13図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第13表 滝遺跡調査一覧表

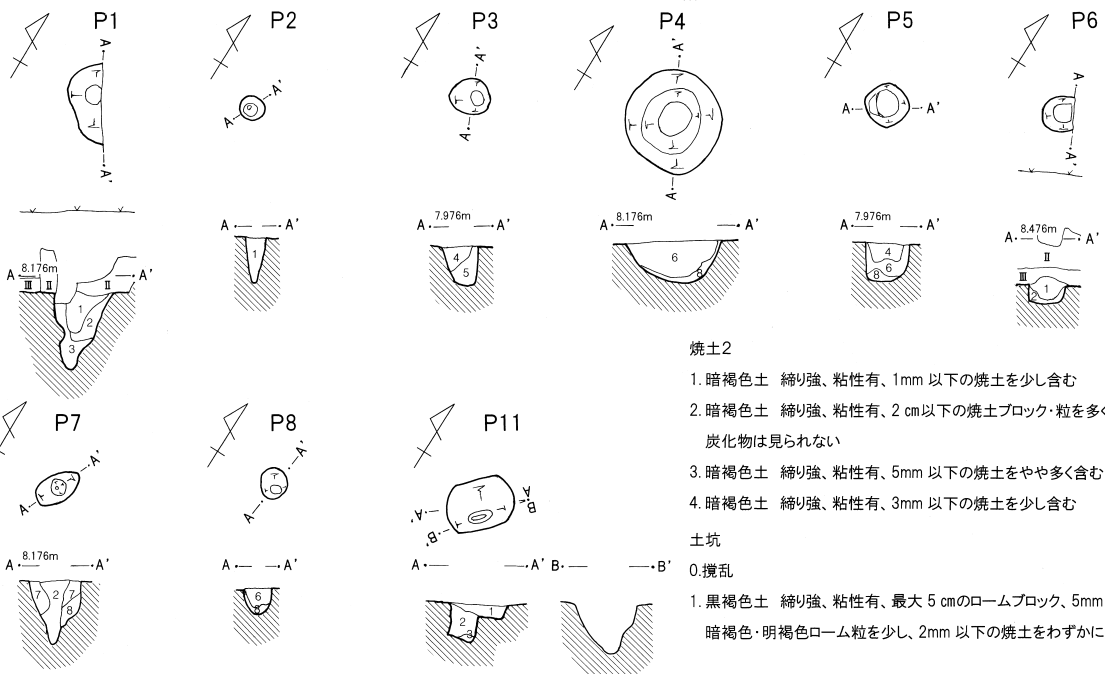
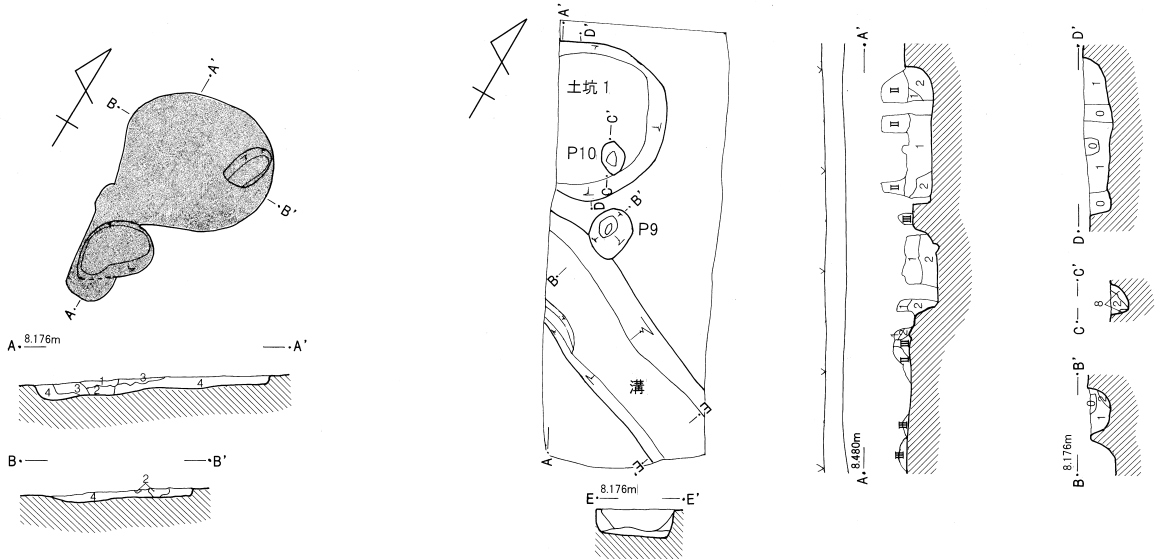
| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積(m ²) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 | 備考 |
|-------------|------------------|----------------------------------|---------------------|------------|-----------------------------|---------------|-------------|
| 丸橋1次 | 滝3-3-77~81 | (1976.6.26・27) 1976.7.24~8.12 | 543 | 建売住宅 | 古墳前期住居1・後期住居1 | 上福岡市遺跡調査報告書 | 丸橋遺跡は滝遺跡へ統合 |
| 丸橋2次 | 滝3-3-13 | 1978.7.26~8.6 | 210 | 住宅建設 | 古墳前期土坑1、現代溝1 | 埋蔵文化財の調査(I) | |
| 1次 | 滝2-6-11 | 1978.10.2~13 | 129 | 住宅建設 | 住居跡1、土師器 | 埋蔵文化財の調査(II) | |
| 2次 | 滝1-4-2 | 1979.4.15~5.7 | 278 | 幼稚園プール | 住居跡5、周溝、土坑、長甕、土器 | 埋蔵文化財の調査(III) | |
| 3次 | 滝1-4-15 | 1980.6.27~7.3 | 76 | 住宅建設 | 権現山遺跡1地点に変更。欠番とする。 | 埋蔵文化財の調査(III) | 権現山遺跡へ変更 |
| 4次 | 滝1-4-15 | 1980.7.7~12 | 105 | 住宅建設 | 遺構なし、平安土師器片 | 埋蔵文化財の調査(III) | |
| 5次 | 滝1-3-21 | 1980.7.20~31 | 330 | 住宅建設 | 権現山遺跡2地点に変更。欠番とする。 | 埋蔵文化財の調査(III) | 権現山遺跡へ変更 |
| 6次 | 滝3-3-6 | 1980.11.20~12.2 | 166 | 住宅建設 | 縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土器他 | 埋蔵文化財の調査(III) | |
| 7次 | 滝1-1-19 | 1981.7.30~31 | 400 | 個人住宅 | 遺構なし、縄文土器片 | 埋蔵文化財の調査(IV) | |
| 8次 | 滝3-3-15他 | 1983.11.14~26 | 990 | 住宅建設 | 古墳住居2 | 埋蔵文化財の調査(V) | |
| 9次 | 滝1-4-4 | 1984.5.11~22 | 466 | 住宅建設 | 権現山遺跡5地点に変更。欠番とする。 | 埋蔵文化財の調査(VI) | 権現山遺跡へ変更 |
| 10次 | 滝1-3-17 | 1984.6.1~12 | 363 | 住宅建設 | 権現山遺跡6地点に変更。欠番とする。 | 埋蔵文化財の調査(VI) | 権現山遺跡へ変更 |
| 11次 | 滝1-4-2 | 1984.6.28~30 | 33.12 | 物置建設 | 権現山遺跡7地点に変更。欠番とする。 | 埋蔵文化財の調査(VI) | 権現山遺跡へ変更 |
| 12次 | 滝1-4-2 | 1984.12.22~24 | 94 | 住宅建設 | なし | 埋蔵文化財の調査(VI) | |
| 1992年度試掘(1) | 滝1-2-14の一部 | (1992.7.6~8) | 400 | 倉庫建設 | なし | 埋蔵文化財の調査(15) | |
| 1993年度試掘(1) | 滝1-1-4 | (1993.4.23~28) | 313.08 | 共同住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(16) | |
| 1993年度試掘(2) | 滝2-2-7 | (1993.8.25) | 99 | 個人住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(16) | |
| 1995年度試掘(1) | 滝1-3-13 | (1995.11.27~30) | 462 | 共同住宅 | 権現山遺跡14地点に変更。欠番とする。 | 埋蔵文化財の調査(18) | |
| 1999年度試掘(1) | 滝1-1-6 | (1999.10.21~26) | 511.09 | 宅地造成(土地分譲) | なし | 埋蔵文化財の調査(22) | |
| 2000年度試掘(1) | 滝2-5-20 | (2001.1.23~24) | 154.7 | 個人住宅 | なし | 埋蔵文化財の調査(23) | |
| 2001年度試掘(1) | 滝2-2-8 | (2001.4.17~20) | 519.64 | 共同住宅 | 奈良初頭住居跡1 | 埋蔵文化財の調査(24) | |
| 2002年度試掘(1) | 滝1-3-49 | (2002.5.29~30) | 165 | 個人住宅 | 権現山遺跡17地点に変更。欠番とする。 | 埋蔵文化財の調査(25) | |
| 2005年度試掘(1) | 滝3-5-3-143 | (2005.6.24~27) | 350 | 個人住宅 | なし | 市内遺跡群1 | |
| 現地立会 | 滝1-4-1-26・27 | (2006.4.15) | 2,492 | 幼稚園 | なし | | |
| 第12地点 | 滝2-5-3の一部、5-4の一部 | 2007.2.6 | 472 | 個人住宅 | なし | 市内遺跡群3 | |
| 第13地点 | 滝2-2-6 | 2007.10.24~11.1 | 737.7 | 共同住宅 | 焼土範囲2箇所、ビット8 | 市内遺跡群4 | |
| 第14地点 | 滝2-5-11・17 | (2007.11.8~19) 11.20~12.6 | 692 | 分譲住宅 | 住居跡7軒、溝3条、井戸1基、須恵器、土師器 | 市内遺跡群4 | |



第14図 滝遺跡第13地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)

焼土 2

土坑 1、P9・10、溝



焼土2

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下の焼土を少し含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下の焼土ブロック・粒を多く含むが炭化物は見られない
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下の焼土をやや多く含む
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下の焼土を少し含む

土坑

- 0. 攪乱
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、最大5cmのロームブロック、5mm以下の暗褐色・明褐色ローム粒を少し、2mm以下の焼土をわずかに含む

溝 (A-A')

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、15mm以下の暗褐色ロームブロック・粒をやや多く、2mm以下の焼土をわずかに含む
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、最大70mm、平均15mm以下の暗褐色ロームブロック、明黄褐色ロームブロックをやや多く、2mm以下のローム粒を少し含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、15mm以下のロームブロック・粒をシミ状に多く含む、15~50mmの黒色土ブロックも少し含む

溝 (E-E')

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下のローム粒を少し、1mm以下の焼土を僅かに含む
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下の明黄褐色ロームブロック・粒をやや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム分を多く含む色調明るめ、10mm以下の明黄褐色ロームブロック・粒をやや多く含む

ピット 1~5・7・8・10

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下の暗褐色ロームブロックを少し、5mm大の焼土を僅かに含む
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下の明黄褐色ロームブロック・粒を少し含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下の明黄褐色ロームブロック・粒を多く含む
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mm以下のローム粒を少し含む
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、暗褐色ローム土を含み、茶褐色味がある
- 6. 黒色土 締り強、粘性有、3cm以下のシミ状の暗褐色土ブロックを少し含む
- 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下の明黄褐色ローム粒を少し含む
- 8. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム土を多く、黒褐色土をシミ状に少し含む

ピット 6

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下の焼土を比較的多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、含有物少ない

ピット 9

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下のシミ状ローム粒と1mm以下の焼土を少し含む
- 2. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム分を多く含む、1cm以下のロームブロックを少し含む

ピット 11

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下のローム粒を少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下のロームブロック・粒を多く含む
- 3. 黒褐色土ベース 黄灰色のロームブロック主体



第15図 滝遺跡第13地点焼土・土坑・ピット・溝 (1/60)

第7章 長宮遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

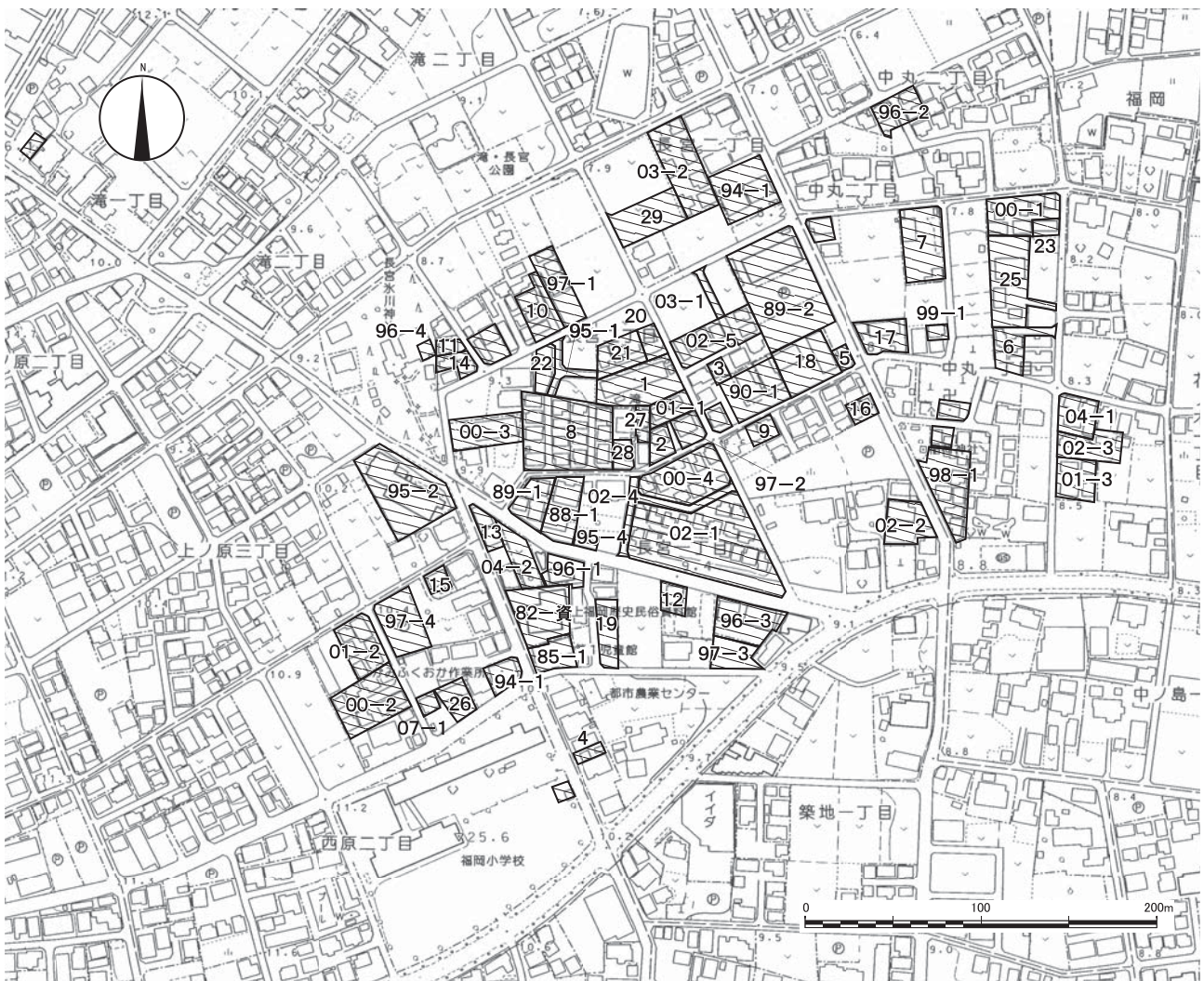
遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安

時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中・近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2007年11月現在69ヶ所で調査を行なっている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。

II 長宮遺跡第27地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年4月4日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、西側に隣接する8次調査区では中世から近



第17図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

世の屋敷地とみられる遺構群と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年5月30・31日に行なった。現地表面下約90cmにおいて時期不明の溝

を確認したが、工事による掘削は現地表面下35cmであり、30cm以上の保護層が設けられるため、工事立会いの措置をとることとし、写真撮影・構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

第15表 長宮遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (㎡) | 調査原因 | 確認された 遺構と遺物 | 所収 報告書 |
|----------|-------------|---------------------|-----------|-------------|---------------------------|----------------|
| 1次 | 長宮2-1-23 | 1977.10.3 ~30 | 1,000 | 保育園 | 溝3、土坑48、柱穴 | 川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡 |
| 2次 | 長宮2-1-27 | 1978.4.25 ~5.15 | 235 | 民間宅地 | 溝2、土坑1、石磨臼、板碑、砥石、古銭、陶器、馬骨 | 埋(Ⅰ) |
| 3次 | 長宮2-5-11 | 1978.7.24 ~30 | 111 | 民間宅地 | 土坑1 | 埋(Ⅰ) |
| 4次 | 長宮1-1-14 | 1978.10.6 ~9 | 37 | | 住居跡1、土師器、須恵器、鉄製品 | 埋(Ⅰ) |
| 5次 | 長宮2-5-2 | 1979.4.16 ~20 | 110 | | 縄文前期住居1、縄文土器片 | 埋(Ⅱ)(Ⅳ) |
| 6次 | 中丸1-4-13 | 1980.4.21 ~30 | 515 | | 遺構なし、中世以降陶器片 | 埋(Ⅲ) |
| 7次 | 中丸1-3-6 | 1980.5.13 ~31 | 869 | | 溝、井戸跡、縄文土器、中世以降陶器片 | 埋(Ⅲ) |
| 8次 | 長宮2-1-10~13 | 1980.9.8 ~10.8 | 1,900 | 宅地造成 | 中世溝、井戸、土坑、板碑、砥石、陶磁器、古銭、馬骨 | 遺調1集 |
| 9次 | 長宮1-4-10 | 1980.9.21 ~30 | 200 | | 遺構なし、中世以降陶器片 | 埋(Ⅲ) |
| 10次 | 長宮2-3-4 | 1980.12.5 ~15 | 485 | | 溝、土坑他、縄文前期土器・石器、中世以降古銭、陶器 | 埋(Ⅲ) |
| 11次 | 長宮2-2-10 | 1980.12.16 ~22 | 117 | | 溝、縄文土器片、中世以降陶器 | 埋(Ⅲ) |
| 12次 | 長宮1-2-7 | 1981.5.26 ~30 | 160 | 個人住宅 | 溝1、中世陶器片、縄文土器片 | 埋(Ⅳ) |
| 13次 | 長宮1-2-13 | 1981.6.3 ~11 | 251 | 個人住宅 | 遺構なし、中世陶器片 | 埋(Ⅳ) |
| 1982試 | 長宮1-2-12 | (?) | 1,000 | 歴史民俗資料館 | 溝2 | 57年教59年度報告? |
| 14次 | 長宮2-2-1 | 1985.9.24 ~27 | 156 | 個人住宅 | 溝1 | 埋(Ⅷ) |
| 15次 | 西原2-5-8 | 1985.10.22 ~31 | 116 | 個人住宅 | なし | 埋(Ⅷ) |
| 1985試 | 長宮1-2-11 | (1986.3.6 ~15) | 400 | 学童保育 | 溝2 | 60年教 |
| 16次 | 長宮1-4-7 | 1986.6.9 ~17 | 173 | 個人住宅 | 縄文土器片 | 埋(Ⅸ) |
| 17次 | 中丸1-3-11 | 1987.6.19 ~30 | 504 | 個人住宅 | 縄文前期土器散布 | 埋(X) |
| 1988試 | 長宮1-3-8 | (1988.9.13 ~16) | 657 | 住宅建設 | なし | 埋(11) |
| 1989試(1) | 長宮1-3-9 | (9.20~30) | 448 | 住宅建設 | なし | 埋(12) |
| 1989試(2) | 長宮2-5-19 | (1989.11.14 ~24) | 1,778 | 住宅建設 | なし | 埋(12) |
| 1990試 | 長宮2-5-4 | (1990.11.27 ~30) | 919 | 共同住宅 | なし | 埋(13) |
| 18次 | 長宮2-5-3 | 1992.10.6 ~12.2 | 925 | 共同住宅 | 縄文住居跡1、中近世土坑2、溝5 | 埋(15) |
| 19次 | 長宮1-2-21,35 | 1993.12.17 ~1.22 | 467 | 駐車場 | 古墳末期住居跡1 | 埋(15) |
| 1993試 | 長宮2-4-2の一部 | (1994.2.10 ~28) | 1,502 | 共同住宅 | 溝2、土坑1、中世後期板碑 | 5年教 |
| 1994試 | 西原2-5-1 | (1994.7.25 ~8.2) | 314 | 心身障害者デイケア施設 | 断面函形溝1 | 埋(17) |
| 20次 | 長宮2-1-22の一部 | 1995.4.10 ~5.9 | 170 | 個人住宅 | 中近世溝4 | 埋(18) |
| 21次 | 長宮2-1-63,65 | (1995.6.19 ~8.8) | 361 | 個人住宅 | 中近世溝1、井戸7 | 埋(18) |
| 1995試(1) | 長宮2-1-20外 | (1995.8.9 ~28) | 421 | 市道敷設 | なし | 埋(18) |
| 1995試(2) | 上ノ原3-1-6外4筆 | (1995.10.4 ~12) | 1,528 | 共同住宅 | 溝1 | 埋(18) |
| 1995試(3) | 長宮2-1-60 | (1995.10.23 ~25) | 269 | 駐車場 | 中近世溝1、井戸4 | 埋(18) |
| 22次 | 長宮2-1-60 | 1995.10.27 ~11.9 | 269 | 駐車場 | 中近世井戸跡4、溝1、陶器、板碑破片、かわらけ | 遺調6集 |
| 1995試(4) | 長宮1-3-13 | (1995.12.12 ~25) | 120 | 駐車場 | なし | 埋(18) |

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (㎡) | 調査原因 | 確認された 遺構と遺物 | 所収 報告書 |
|----------|-------------|--------------------------------|-----------|------------|--------------------------|-----------|
| 1996試(1) | 長宮1-2-16 | (1996.7.12 ~18) | 349 | 宅地造成 | なし | 埋(19) |
| 1996試(2) | 中丸2-2-9他3筆 | (1996.11.7) | 568 | 宅地造成 | なし | 埋(19) |
| 1996試(3) | 長宮1-2-4 | (1997.1.14 ~21) | 794 | 共同住宅 | 古墳~奈良住居1 | 埋(19) |
| 1996試(4) | 長宮2-2-4 | (1997.2.24) | 205 | 社務所改築 | なし | 8年教 |
| 1997試(1) | 長宮2-3-3 | (1997.4.8 ~9) | 611 | 農地天地返し | 溝1(時期不明) | 埋(20) |
| 1997試(2) | 長宮2-1-2 | (1997.4.9 ~11) | 289 | 個人住宅 | 土坑1(時期不明) | 埋(20) |
| 1997試(3) | 長宮1-2-36,37 | (1997.6.4 ~5) | 423 | 駐車場 | 溝1 | 埋(20) |
| 1997試(4) | 西原2-5-6 | (1997.8.15 ~21) | 753 | 駐車場 | 中近世堅穴状遺構1 | 埋(20) |
| 1998試 | 中丸1-2-4 | (1998.11.24 ~27) | 1,014 | 宅地造成 | なし | 埋(21) |
| 1999試 | 中丸1-3-12 | (1999.11.8 ~16) | 98 | 個人住宅 | 溝1、縄文前期集石2 | 埋(22) |
| 2000試(1) | 中丸1-4-7 | (2000.7.4 ~11) | 932 | 宅地造成(土地分譲) | 縄文前期(関山期)住居跡5、土坑13 | 埋(23) |
| 2000試(2) | 西原2-4-8,10 | (2000.7.17 ~24) | 1,081 | 宅地造成(土地分譲) | なし | 埋(23) |
| 2000試(3) | 長宮2-1-17 | (2000.8.21 ~23) | 687 | 共同住宅 | なし | 埋(23) |
| 2000試(4) | 長宮1-3-3A,4A | (2001.1.17 ~23) | 1,119 | 宅地造成(土地分譲) | 近世以降土坑1 | 埋(23) |
| 23次 | 中丸1-4-7 | 2001.7.18 ~26 | 137 | 個人住宅 | 土坑6(縄文早期後葉1、縄文前期4、近世以降1) | 埋(24) |
| 2001試(1) | 長宮2-1-3 | (2001.4.20 ~24) | 330 | 個人住宅 | なし | 埋(24) |
| 2001試(2) | 西原2-4-7 | (2001.5.25) | 634 | 共同住宅 | なし | 埋(24) |
| 2001試(3) | 中丸1-1-3 | (2001.8.7 ~24) | 513 | 共同住宅 | 道路状遺構1、縄文前期土坑1 | 埋(24) |
| 2001試(4) | 長宮2-8-6 | (2001.11.6) | 130 | 個人住宅 | なし | 13年教 |
| 2002試(1) | 長宮1-3-2~5 | (2002.6.5 ~11) | 3,536 | 宅地造成(土地分譲) | 住居跡2【盛土保存】 | 埋(25) |
| 2002試(2) | 長宮1-4-3 | (2002.6.20 ~7.2) | 575 | 確認調査 | 住居跡2、溝2 | 埋(25) |
| 2002試(3) | 中丸1-1-5 | (2002.9.3 ~11) | 622 | 宅地造成(土地分譲) | 道路状遺構1 | 埋(25) |
| 2002試(4) | 長宮1-3-31 | (2002.9.20 ~25) | 362 | 地区計画道路 | 溝1 | 埋(25) |
| 24次 | 長宮1-4-3 | 2003.1.30 ~2.14 | 72 | 個人住宅 | 住居跡2 | 14年教 |
| 2002試(5) | 長宮2-5-6 | (2003.3.10 ~12) | 827 | 宅地造成 | 住居跡1【盛土保存】 | 14年教 |
| 2003試(1) | 長宮2-5-30,32 | (2003.9.16) | 197 | 区画道路 | なし | 埋(26) |
| 2003試(2) | 長宮2-4-7 | (2003.12.16 ~18) | 1,123 | 宅地造成 | 井戸跡1 | 埋(26) |
| 2004試(1) | 中丸1-1-11 | (2004.11.26) | 488 | 宅地造成 | なし | 埋(27) |
| 2004試(2) | 長宮1-2-15 | (2004.12.7 ~9) | 466 | 農地改良 | なし | 埋(27) |
| 25 | 中丸1-4-8 | (2007.2.15 ~16) | 1,161 | 個人住宅 | 縄文遺構検出 | 市内3 |
| 26 | 西原2-5-2の一部 | (2007.3.28) | 594 | 個人住宅 | | 市内3 |
| 27 | 長宮2-1-4 | (2007.5.30 ~31) | 175 | 個人住宅 | | 市内4 |
| 28 | 長宮2-1-8 | (2007.5.31~6.5) 2007.6.6~22 | 188 | 個人住宅 | | 市内4 |
| 工事立会い | 西原2-5-31 | 2007.10.15 | 120 | 個人住宅 | 保護層有り、遺構遺物なし | 市内4 |
| 29 | 長宮2-4-6の一部 | (2007.11.20 ~12.5) | 618 | 共同住宅 | | 市内4 |

*埋 = 埋蔵文化財の調査、遺調 = 遺跡調査会報告書、教 = 教育要覧、市内 = 市内遺跡群

Ⅲ 長宮遺跡第28地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年5月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、西側に隣接する8次調査区では中世から近世の遺構群と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年5月31日から6月5日まで行なった。残土置き場の関係から調査区を南北に分け、初めに北側半分を重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。北側調査区の試掘調査で、井戸・土坑・ピットなどの遺構が確認されたため、申請者と協議の結果、本調査を行なうこととした。

本調査は翌日6月6日から22日まで、調査区を南北に分けて行ない、井戸5基、土坑10基、ピット13基を検出、陶磁器などの遺物多数が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

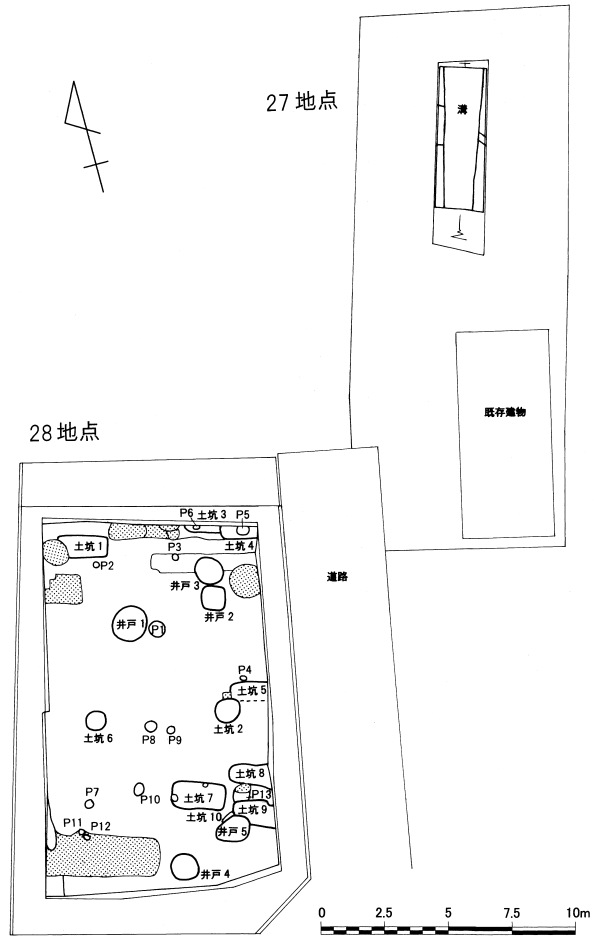
(2) 遺構と遺物

①土坑・ピット

土坑10基、ピット13基を検出したが、土層の観察から全て中・近世以降の時期とみられる。

第16表 長宮遺跡第28地点土坑・ピット一覧表 (単位cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|------|------|-----------|----------|------|
| 土坑1 | 長方形 | (203)×89 | (152)×64 | 87.3 |
| 土坑2 | 円形 | 103×88 | 30×30 | 64.6 |
| 土坑3 | 不明 | (150×25) | (96×17) | 19.6 |
| 土坑4 | 不明 | (137×46) | (128×40) | 48 |
| 土坑5 | 不明 | (146×92) | (130×93) | 14.1 |
| 土坑6 | 円形 | 87×76 | 65×63 | 21.3 |
| 土坑7 | 長方形 | 214×111 | 186×86 | 22.5 |
| 土坑8 | 長方形 | (166)×87 | (158)×75 | 16.7 |
| 土坑9 | 長方形 | (168)×102 | (156)×87 | 24.2 |
| 土坑10 | 不明 | 68×(18) | 65×(8) | 22.0 |
| P1 | 円形 | 58×56 | 36×33 | 62.4 |
| P2 | 円形 | 23×17 | 8×4 | 56 |
| P3 | 楕円形 | (27)×20 | 9×6 | 45.8 |
| P4 | 楕円形 | 31×20 | 10×2 | 47.7 |
| P5 | 不明 | 49×(30) | (19)×33 | 42.2 |
| P6 | 不明 | (18)×25 | 12×9 | 44.8 |
| P7 | 方形 | 38×35 | 26×24 | 28.8 |
| P8 | 円形 | 51×46 | 35×21 | 26 |
| P9 | 円形 | 28×26 | 17×5 | 31.8 |
| P10 | 楕円形 | 58×35 | 25×20 | 34.8 |
| P11 | 円形 | (24)×20 | 11×7 | 32.5 |
| P12 | 円形 | 25×23 | 14×7 | 21.9 |
| P13 | 不明 | 58×(-) | 45×(-) | 13.7 |



第18図 長宮遺跡第27・28地点遺構配置図 (1/300)

②井戸

井戸は5基検出し、全て素掘りである。井戸1・2には足掛け穴があり、井戸5は上部が舌状に開く。

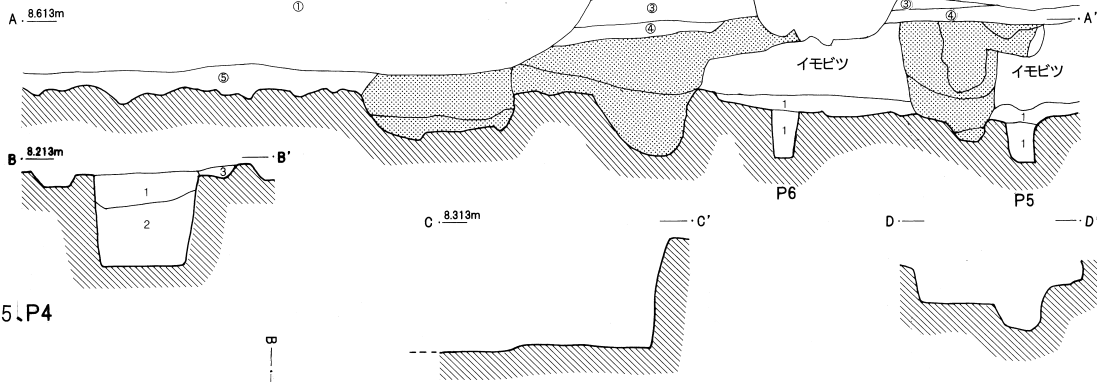
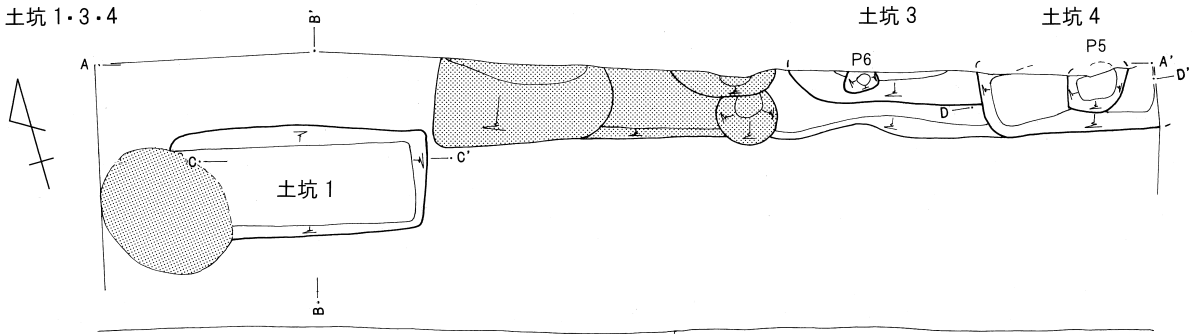
第17表 長宮遺跡第28地点井戸一覧表 (単位cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|---------|-------|-----|-------|
| 井戸1 | 円形 | 145×132 | 55×40 | 175 | 足掛け穴2 |
| 井戸2 | 円形 | 98×95 | 58×55 | 157 | 足掛け穴4 |
| 井戸3 | 円形 | 120×100 | 59×58 | 140 | |
| 井戸4 | 円形 | 108×103 | 53×52 | 124 | |
| 井戸5 | 不整形 | 134×103 | 40×40 | 109 | 舌状に開く |

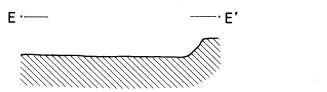
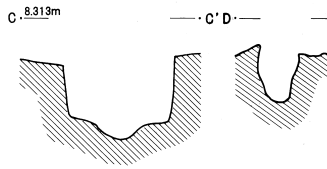
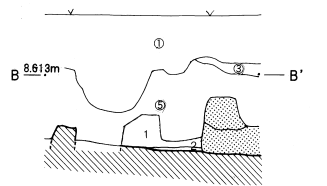
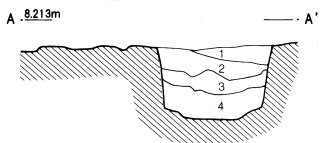
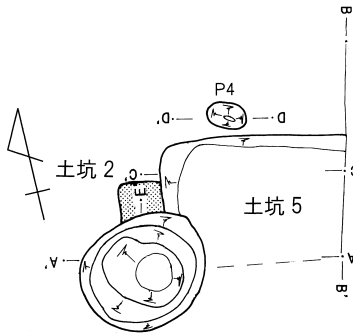
③出土遺物

井戸1・3からややまとまった遺物が出土している。近世以降の陶磁器などが含まれないことから、15世紀後半以降の時期と考えられる。その他は遺構外出土のもので、第18表長宮遺跡第28地点出土遺物観察表のとおりである。

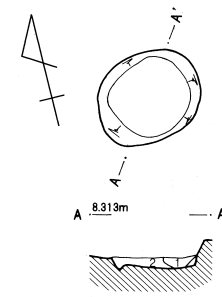
土坑 1・3・4



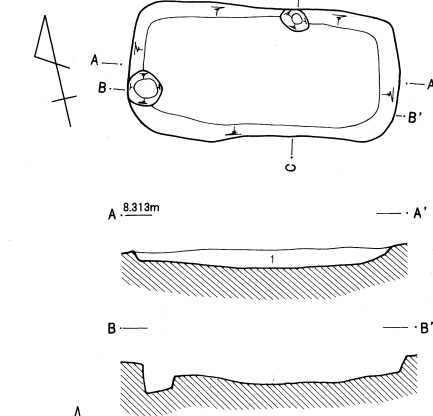
土坑 2・5、P4



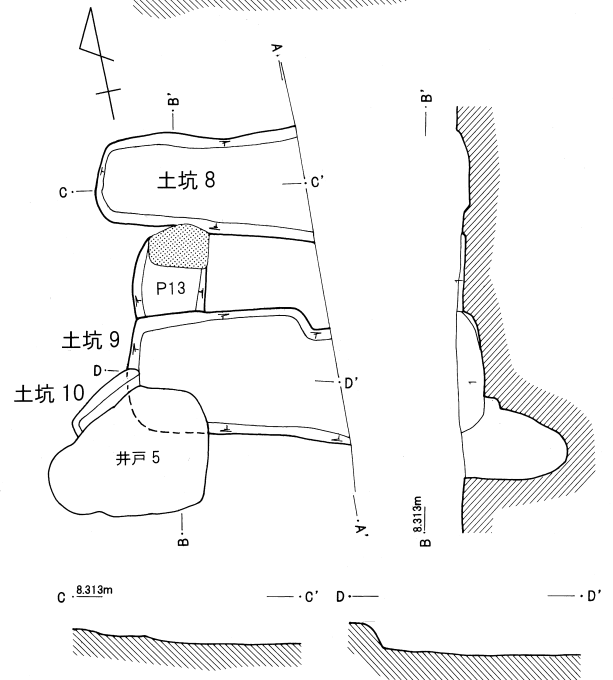
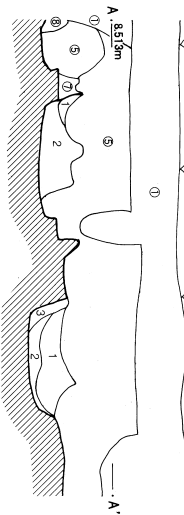
土坑 6



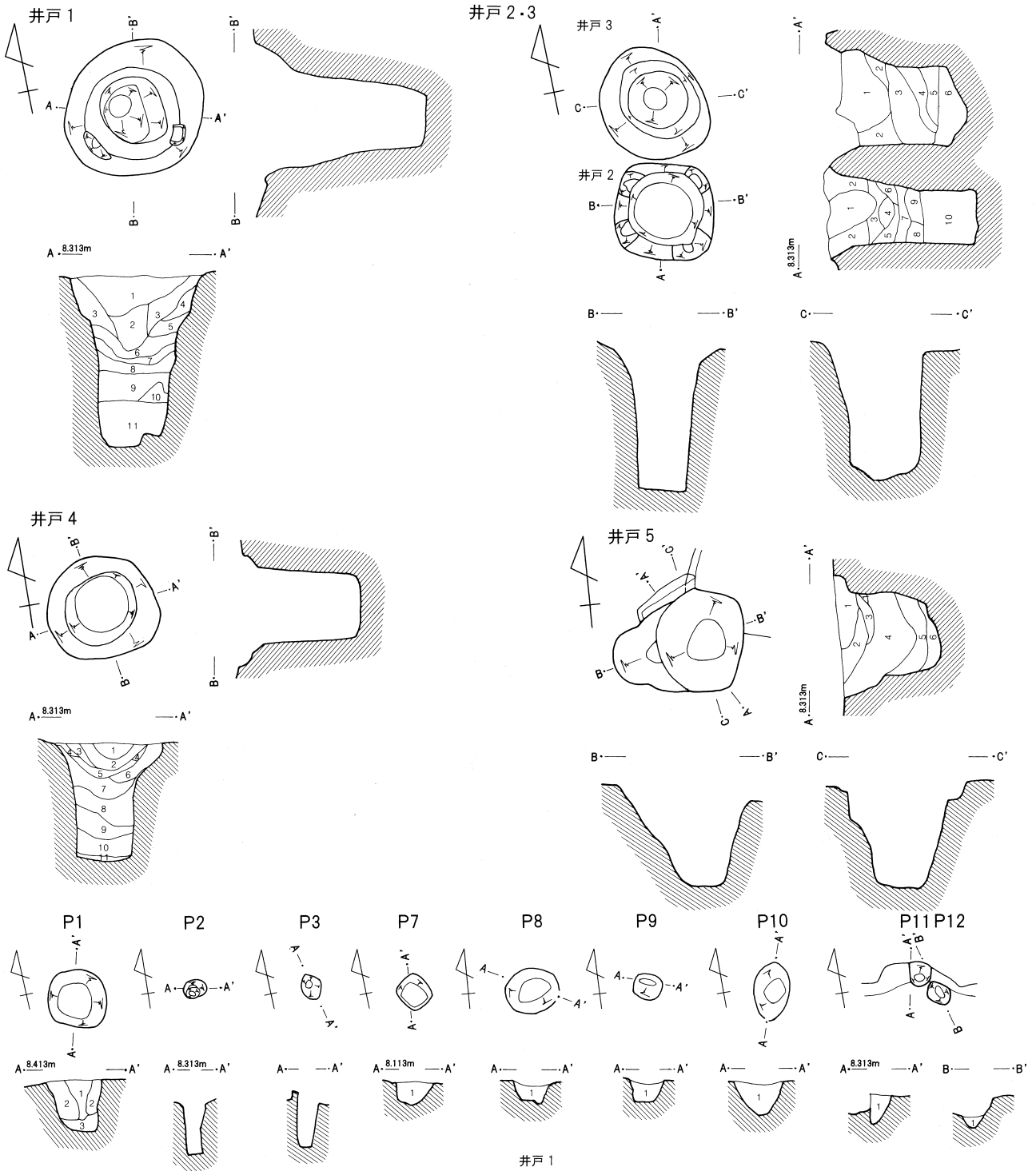
土坑 7



土坑 8~10、P13



第19図 長宮遺跡第28地点土坑・ピット① (1/60)



ピット 1

- 1. 暗褐色土(耕作跡) 締り弱、粘性弱、5 cm以下ロームブロック多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1~5 cmロームブロックと5mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、4 cm以下ブラックバンドロームブロックやや多く含む

ピット 2~4・7~12

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒多く含む

ピット 5

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、1.5 cm以下ロームブロック少し含み下部はややボソボソする

ピット 6

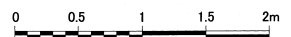
- 1. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、5mm以下ローム粒少し含む

ピット 13

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~10mmロームブロックと3mm以下ローム粒少し含む

井戸 1

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、1~3 cm大ロームブロック僅か、5mm以下ローム粒少し、遺物と19 cm以下礫多く含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、1.5 cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 3. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 4. 黄褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、ローム主体、シミ状暗褐色土少し含む
- 5. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、3mm以下ローム粒多く含む
- 6. 黄褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、1 cm以下ロームブロック・粒主体
- 7. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、1 cm以下ロームブロック・粒やや多く含む、6・8層(同質)の間層
- 8. 6層に同じ
- 9. 黒褐色土 締り有、粘性有、2.5 cm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む、ロームは酸化・赤化目立つ
- 10. 黄褐色土 締り有、粘性弱、3 cm以下ロームブロック・粒主体、ロームは灰色味がある一方、酸化・赤化土が目立つ
- 11. 黄褐色土 締り有、粘性有、10層に似るが、締り、粘性有り黒褐色土も含む



第20図 長宮遺跡第28地点井戸・ピット② (1/60)

長宮遺跡遺構土層説明

井戸 2

1. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、2 cm以下ロームブロック少し 5mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黄褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム主体で 2 cm以下ロームブロック少し含む
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含むシミ状黒褐色土含む
4. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒多く含む 3層に比し色調暗く締り弱め
5. 暗黄褐色土 締り有、粘性有、ローム土・粒主体、3 cm以下ロームブロック少し含む全体に灰色気味
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
7. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、5mm以下ローム粒やや多く含む
8. 黄褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒主体、酸化・赤化目立つ
9. 黒褐色土 締り有、粘性有、2 cm以下ロームブロック 5mm以下ローム粒少し含む
10. 黄褐色土 締りやや弱、粘性有、ローム粒主体 3 cm以下ロームブロック少し含む、酸化・茶褐色化目立つ

井戸 3

1. 黄褐色土 締り強、粘性有、8 cm以下ロームブロック主体
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味強い、7 cm以下ロームブロックやや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 cm大ロームブロック少し含む
4. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、5 cm以下ロームブロック多く含む 2層に似る
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、混入物少ない、細かなローム粒僅かに含む
6. 黒褐色土 締り有、粘性有、黄褐色・黄灰色のソフトロームブロック主体の薄い層が上部、下部は 4 cm以下ロームブロック、2mm以下ローム粒少し含む、槽鉢出土

井戸 4

1. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、暗黄褐色ロームブロック主体で緻密な堆積
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、最大 8 cmのロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm大ロームブロックと 2mm以下ローム粒少し含む
4. 暗黄褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム土主体
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、全体に黒色味があり、5mm以下ローム粒やや多く含む
6. 黄褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、ローム粒主体、5~10mmロームブロック少し含む、最下部に褐色土の薄い層を挟む
7. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒やや多く、5~10mmロームブロック少し含む
8. 黄褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒主体 5~20mmロームブロック・黒褐色土少し含む
9. 黒褐色土 締り有、粘性有、混入物少 5mm大ロームブロック 2mm以下ローム粒僅かに含む
10. 暗黄褐色土 締り有、粘性有、明黄褐色ローム粒多く含む、若干酸化が見られる
11. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒僅かに含む

井戸 5

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5~30mmロームブロック、3mm以下ローム粒やや多く含む、井戸 5の北にある掘り方の覆土
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、8 cm以下ロームブロック、1mm以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土ベースにソフト質ローム土主体 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒主体
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し 1 cm以下ロームブロック僅かに含む、やや酸化が目立つ 5層との層理面に 2 cm厚の薄いソフトロームを挟む
5. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、ソフトローム粒僅かに含む、やや酸化が目立つ
6. 黒褐色土 締りやや弱、粘性強、2mm以下ローム粒やや多く含む、やや酸化が目立つ

土坑 1

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、締り・粘性弱め、3.5 cm以下ロームブロック・粒やや多く含む、全体の色調は畝跡に似て灰色味がある
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、締り・粘性弱め、4 cm以下ロームブロックやや多く 5mm以下ローム粒少し含む
3. 暗褐色土(耕作跡) 締り強、粘性有、2 cm以下ロームブロック多く含む、シミ状黒褐色土少し含む

土坑 2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、最大 5mm 平均 2mm以下ローム粒少し酸化土粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調明るめの黒褐色土ブロックをシミ状に多く含む、ローム粒含まず酸化土粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、最大 5mm、平均 3mm以下ローム粒少し含む、3mm以下赤色酸化土粒を比較的多く含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒比較的多くブロック化した黒褐色土多く、酸化土少し含む、底に明黄褐色土が薄く堆積

土坑 3

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む茶褐色味強い

土坑 4

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、茶褐色味があり 5mm以下ローム粒少し含む

土坑 5

1. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、4 cm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒多く含む
2. 黒褐色土ベース 硬化有、2 cm以下ロームブロック・粒多く含む

土坑 6

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5~15mmロームブロック少し 2mm以下ローム粒やや多く含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、5~40mmロームブロックと 2mm以下ローム粒少し含む

土坑 7

1. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、5~20mmロームブロックと 3mm以下ローム粒多く含む、最下部はやや黒色味がある

土坑 8

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、1~4 cmロームブロック、5mm以下ローム粒やや多く含む、耕作で攪乱された 2層土の可能性有り
2. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5~30mmロームブロック、3mm以下ローム粒多く含む、5~25mm 黒褐色土ブロック僅かに含む

土坑 9

1. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5~40mmロームブロック 3mm以下ローム粒多く含む
3. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、5~40mmロームブロック多く含む 3mm以下ローム粒 1層に比べ少ない
4. 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む、ロームブロック含まない

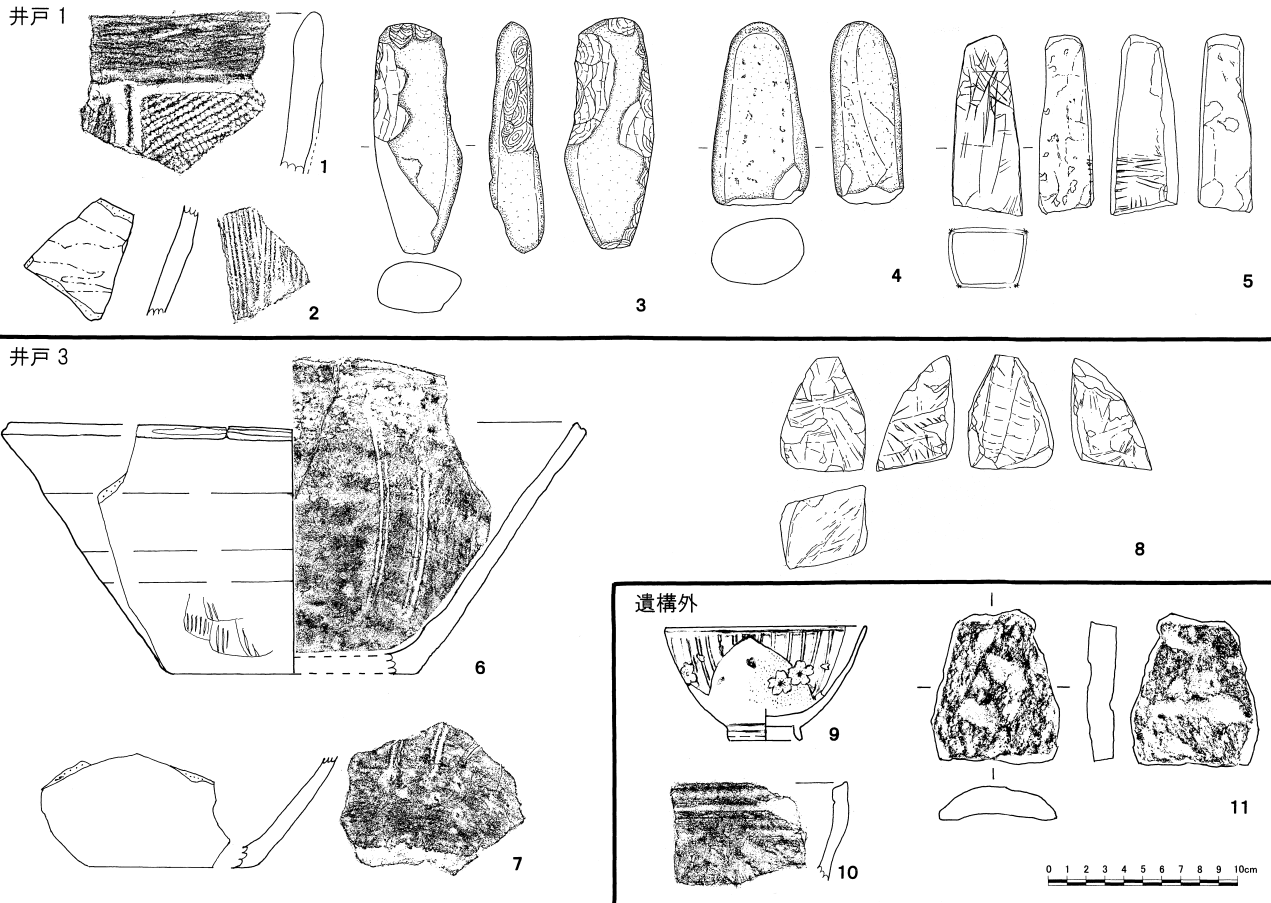
土坑 5

- ①暗褐色土 締り有、粘性有、ロームブロック多く、タイル、漆喰様の薄片含む
- ②暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック多く、灰色汁とブロック少し、ビニール含む
- ③ローム主体盛土 締り強、粘性有、10 cm以下礫含む
- ④灰色シルト 締り強、粘性有、漆喰様の薄片断面が横走する
- ⑤暗褐色土・耕作土 締り有、粘性有、10 cm以下ロームブロックが畝間溝付近に集中、2.5 cm以下ロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く、炭化物微量含む
- ⑥暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し、5mm以下焼土・2 cm以下炭化物目立つ
- ⑦締り有、粘性やや弱、5~40mmロームブロック主体、最下部に薄く黒褐色土堆積、何らかの掘り込み
- ⑧暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5~10mmロームブロック、3mm以下ローム粒多く、5mm大黒褐色土ブロック少し含む

第18表 長宮遺跡第28地点出土遺物観察表

(単位cm)

| No. | 出土遺構名 | 種別・器種 | 単位cm・g(括弧付きは残存値) | | | | 技法・文様・その他 | 推定産地 | 推定年代 | 備考 |
|-----|-------|-------------|------------------|---------|--------|--------|--------------------------------|-------|----------|--------------------------------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅・内径 | 高さ・厚さ | 重量 | | | | |
| 1 | 井戸1 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | - | 口唇部無文帯、微隆帯の区画間磨り消し、区画内LR縄文 | - | 加曾利 E IV | |
| 2 | 井戸1 | 陶器/槽鉢 | - | - | - | - | 轆轤/鎗釉 | 瀬戸・美濃 | - | 細片 |
| 3 | 井戸1 | 敲石・磨石 | 12.1 | 4.5 | 2.6 | 208.03 | 石質:砂岩 | - | 縄文時代 | |
| 4 | 井戸1 | 敲石・磨石 | 9.7 | 5.0 | 3.4 | 289.78 | 石質:安山岩 | - | 縄文時代 | |
| 5 | 井戸1 | 石製品/砥石/中砥 | 9.6 | 3.6 | 2.7 | 141.31 | 石質:凝灰岩/線刻複数有 | - | 中・近世 | |
| 6 | 井戸3 | 瓦質土器/「槽鉢」 | - | - | - | - | 轆轤/口唇部沈線/播目2本単位/胎土:白色礫(片岩など)多い | 在地系 | 15世紀後半 | 底部片、7と同一個体 口縁内のみ摩滅顕著、内外煤付着、6と同一個体 |
| 7 | | | (30.9) | (13.0) | (13.2) | - | | | | |
| 8 | 井戸3 | 石製品/砥石/中砥 | 6.0 | 4.5 | 3.6 | 120.8 | 石質:凝灰岩 /砥面 8面以上 | - | 中・近世 | |
| 9 | 遺構外 | 磁器/碗/「飯碗」 | 10.6 | 4.0 | 6.0 | - | 轆轤/ゴム版染付桜花文 | - | 1920年代以降 | 表土 |
| 10 | 遺構外 | 瓦質土器/焙烙 | - | - | - | - | 口唇部外縁上方へ突出・口縁内沈線 | 在地系 | - | 表土、破片 |
| 11 | 遺構外 | 石製品/板碑/基部破片 | (8.1) | (6.7) | (1.4) | 137.71 | 石質:緑色片岩ノミ痕有 | - | 中世 | 表土、破片 |



第21図 長宮遺跡第28地点出土遺物 (1/4)

IV 長宮遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007年9月15日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北部に位置し、西側の隣接地は2003年度に試掘調査を実施し溝と井戸を検出、板破片や捏鉢等が出土している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を11月20日から12月3日まで実施した。幅約1～1.7mのトレンチ5本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。一部遺構の確認された部分の本調査を12月4日から行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。12月5日機材を撤収して調査を終了した。調査の結果、土坑1基、井戸2基、堀跡1本、溝5本、ピット10基を検出した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

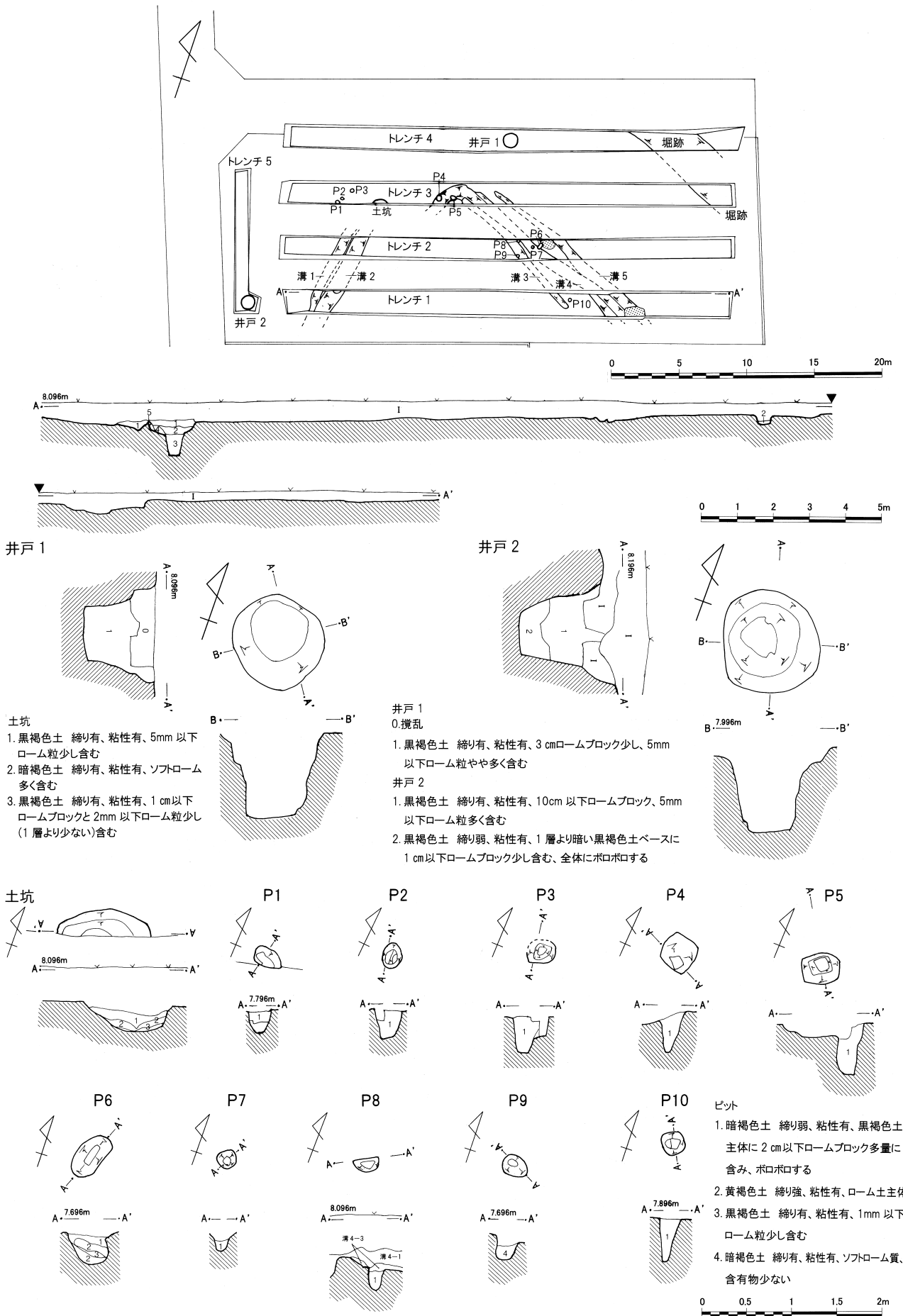
①土坑・ピット・井戸

土坑1基、井戸2基、堀跡1本、溝5本、ピット10基

を検出、土層の観察から全て古代以降の時期とみられる。

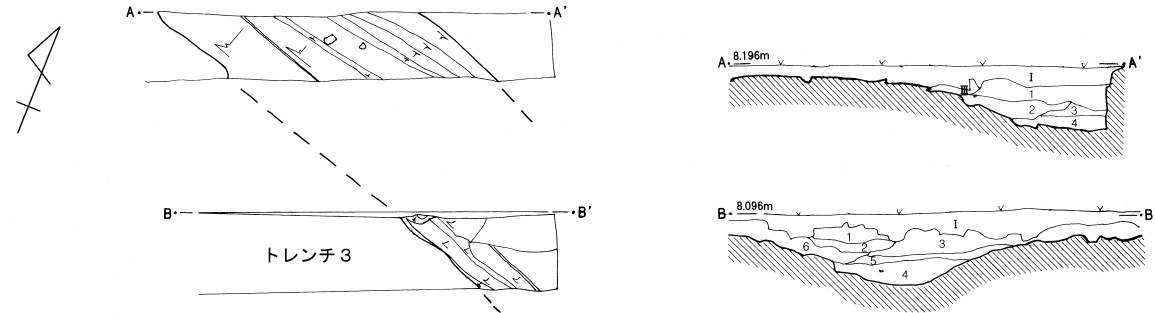
第19表 長宮遺跡第29地点土坑・ピット・井戸一覧表 (単位cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|----------|---------|-------|----|
| 土坑1 | 不明 | (103×29) | (33×9) | 34.6 | |
| P1 | 不明 | (35)×20 | (15)×11 | 24.5 | |
| P2 | 円形 | 29×22 | 11×6 | 48 | |
| P3 | 円形 | 31×26 | 12×9 | 42 | |
| P4 | 円形 | 39×38 | 15×12 | 48.9 | |
| P5 | 方形 | 43×35 | 16×14 | 55.5 | |
| P6 | 楕円形 | 55×30 | 25×7 | 3.3 | |
| P7 | 円形 | 21×20 | 9×9 | 20.9 | |
| P8 | 不明 | 30×(15) | 15×8 | 32.2 | |
| P9 | 円形 | 30×24 | 11×9 | 54.4 | |
| P10 | 円形 | 29×27 | 12×10 | 51 | |
| 井戸1 | 円形 | 108×100 | 74×63 | 108.3 | |
| 井戸2 | 円形 | 116×107 | 45×40 | 95.4 | |

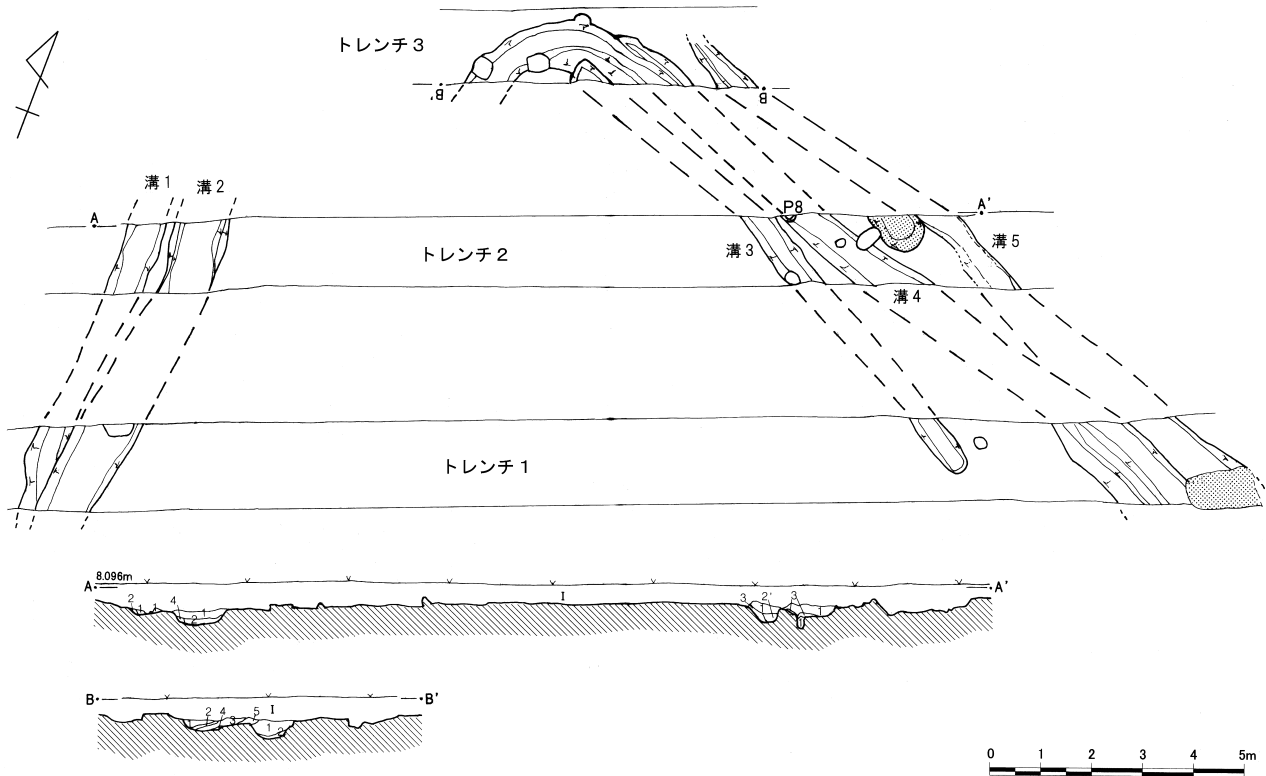


第22図 長宮遺跡第29地点遺構配置図 (1/400)、土層図 (1/150)、井戸・土坑・ピット (1/60)

堀跡



溝1～5



堀跡

- I. 黒褐色土 締り弱、粘性有、表土耕作土
 - II. 黒褐色土ベース 締り有、粘性弱、1 cm以下ロームブロック主体 *溝はII層を掘り込む
 - III. 黒褐色土 耕作痕
 - 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mmローム粒多く、同炭化物極少し含む、焼土はほとんど含まない
 - 2. 黒褐色土+暗褐色土 締り強、粘性有、2 cm以下ロームブロックと1mm大ローム粒多く含む、1mm大焼土・炭化物極少し含む
 - 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層にほぼ同じだがややローム粒少ない
 - 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1・2層より更にローム粒少なく、シミ状に暗赤褐色酸化鉄多く含む、水性堆積又は水流の跡、粘性強い
 - 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層よりローム粒少なく、4 cm以下ロームブロックやや多く含む
 - 6. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、7 cm以下ロームブロック・粒を2層より多く含む広範囲に広がる溝1
 - 1. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5～10mmロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒多く含む
 - 2. 暗褐色土ベース 地山に1層土が落ち込み、地山ロームがブロック状に見られる(2トレンチ有り)
- 溝2
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
 - 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、3mm以下焼土・炭化物僅かに赤褐色の酸化土ブロック少し含む
 - 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、やや白色化した4 cm以下ロームブロック主体、9 cm以下黒色土ブロック少し含む、ピット状の掘り込みに伴う
 - 4. 暗褐色土 締り有、粘性有、5～10mmロームブロック少し、ソフトローム粒多く含む
 - 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、地山ハードロームに暗褐色土混ざる、ブロック状にローム見える

溝3

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒均一にやや多く含む、黒色味強い
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mm焼けたロームブロック多く、3mm以下ローム粒少し含む黒色味強い
- 2'. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く(1層より多く)含む、1～5mm焼土が目立つ
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒主体、2mm以下焼土やや多く、中央に焼土混ざりの黒褐色土層(2cm厚)を挟む

溝4

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5～20mmロームブロック多く3mm以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒多く含む全体の色調暗め
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、10mm以下のロームブロックをやや多く、2mm以下のローム粒を多く含む
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、10mm大のロームブロックを少し、5mm以下のローム粒を多く含む

溝5

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム粒少し(トレンチャー痕より少ない)、1 cmロームブロック少し含む

第23図 長宮遺跡第29地点堀跡・溝 (1/150)

②溝・堀跡

溝2は溝1より新しく、溝4は調査区中央部で屈曲する。堀跡は北側の第30地点に延びる。

第20表 長宮遺跡第29地点溝一覧表 (単位cm)

| No. | 断面形態 | 上幅 | 下幅 | 深さ | 備考 |
|-----|---------|-----------|-------|------|-----|
| 1 | 浅い「V」字状 | 62~74 | 42~33 | 12.8 | |
| 2 | 葉研状 | 92~117 | 62~87 | 34.7 | |
| 3 | 「U」字状 | 40~60 | 25~30 | 37.5 | 12m |
| 4 | 浅い「U」字状 | 50~130 | 16~43 | 27.2 | |
| 5 | 浅い「U」字状 | 55~60 | 25~40 | 19 | |
| 堀跡 | 広い「V」字状 | (3.2~3.4) | 47~50 | 91.3 | |

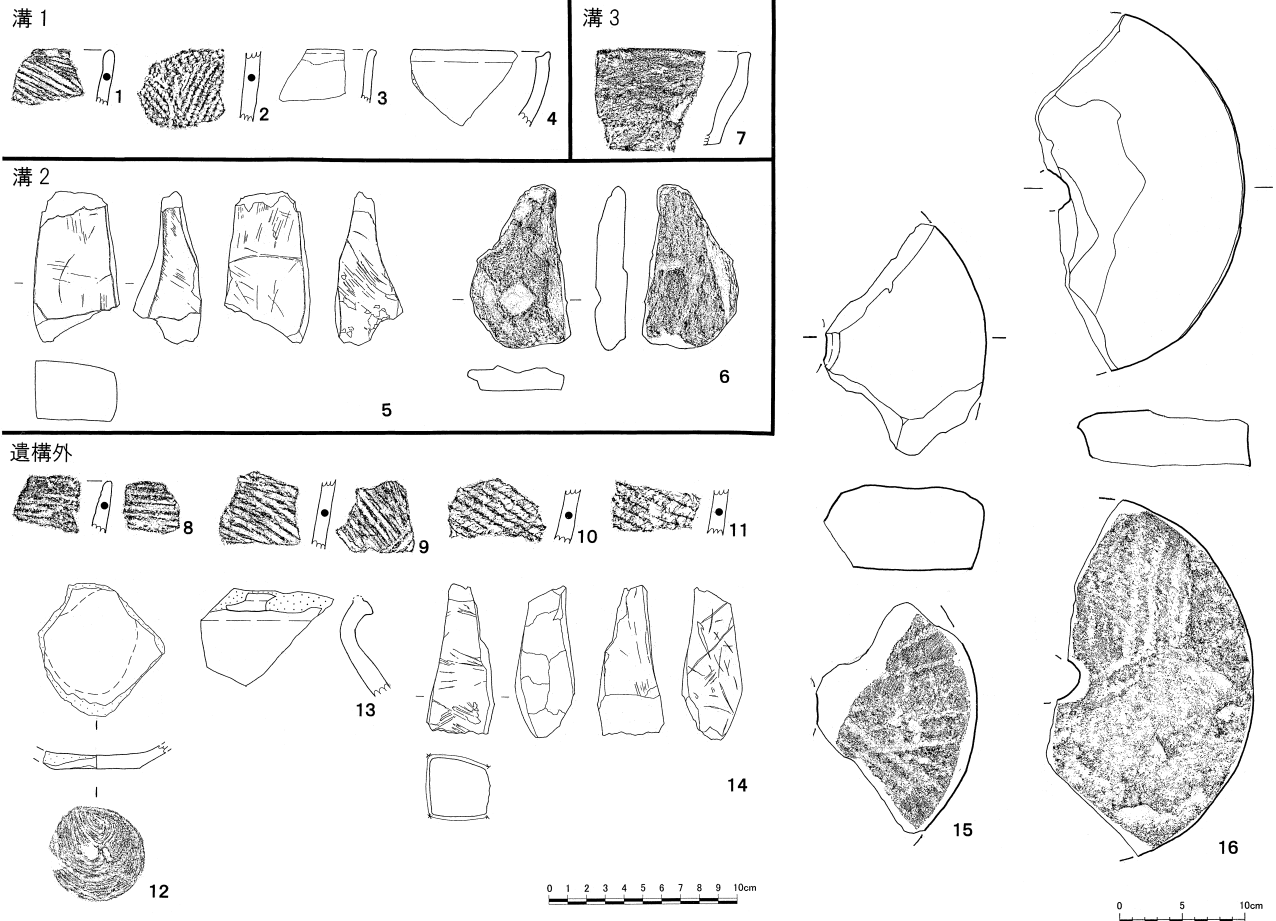
③出土遺物

出土遺物は全て遺構の覆土層より出土した。

1・8・9は縄文土器口縁部で表裏面に貝殻条痕文を施し胎土に繊維を含む早期条痕文系土器である。2は単節LR、RLの羽状縄文、10・11は無節LR縄文を施し胎土に繊維を含む前期黒浜式土器である。その他の遺物については第21表長宮遺跡第29地点出土遺物観察表のとおりである。

第21表 長宮遺跡第29地点出土遺物観察表

| No. | 出土遺構名 | 種別・器種 | 単位cm・g (括弧付きは残存値) | | | | 技法・文様・その他 | 推定産地 | 推定年代 |
|-----|---------|------------|-------------------|---------|-------|--------|-----------------------------|------|--------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅・内径 | 高さ・厚さ | 重量 | | | |
| 3 | 溝1 | 陶器/縁釉小皿 | - | - | - | - | 轆轤成形/灰釉 | 瀬戸美濃 | 15世紀後~16世紀前半 |
| 4 | 溝1 | 瓦質土器/焙烙 | - | - | 4.0 | - | 口唇部溝状 | 在地系 | 18世紀 |
| 5 | トレンチ2溝1 | 石製品/砥石 | 8.0 | 4.4 | 3.5 | 120.27 | 石質:凝灰岩 | - | 中・近世 |
| 6 | トレンチ2溝1 | 石製品/板碑 | (8.6) | (5.1) | (1.6) | 89.67 | 石質:緑色片岩 | - | - |
| 7 | トレンチ1溝3 | 瓦質土器/焙烙 | - | - | 5.2 | - | 口唇部溝状 | 在地系 | 17世紀 |
| 12 | トレンチ4 | 須恵器/坏・転用硯? | - | 4.4 | (1.2) | - | 轆轤成形、底部回転糸切り、内面磨り跡と僅かに墨痕?有り | 東金子 | 9世紀 |
| 13 | トレンチ5 | 陶器/甕 | - | - | 5.1 | - | 自然釉 | 常滑 | 13世紀後半~14世紀 |
| 14 | トレンチ4 | 石製品/砥石 | 7.9 | 3.5 | 3.7 | 97.77 | 石質:凝灰岩 | - | - |
| 15 | トレンチ4 | 石製品/石臼/下臼 | 25.0 | - | 6.7 | 1,900 | 石質:砂岩・摩滅顕著 | - | - |
| 16 | トレンチ4 | 石製品/石臼/上臼 | 30.0 | - | 4.4 | 2,820 | 石質:砂岩・目欠損 | - | - |



第24図 長宮遺跡第29地点出土遺物 (1/4・1/6)

第8章 亀居遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高25～26mで現谷底との比高差は5mを測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南遺の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縦横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977年の最初の調査から2007年3月現在まで62地点で調査され、旧石器時代では立川ローム層の第ⅣからⅤ層直上にかけての石器集中4ヶ所と礫群2ヶ所を検出、縄文時代では中期前半の住居跡16軒、屋外埋甕2基、集石土坑99基、土坑とピット多数が確認されている。ただし第21・22地点は未調査である。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。

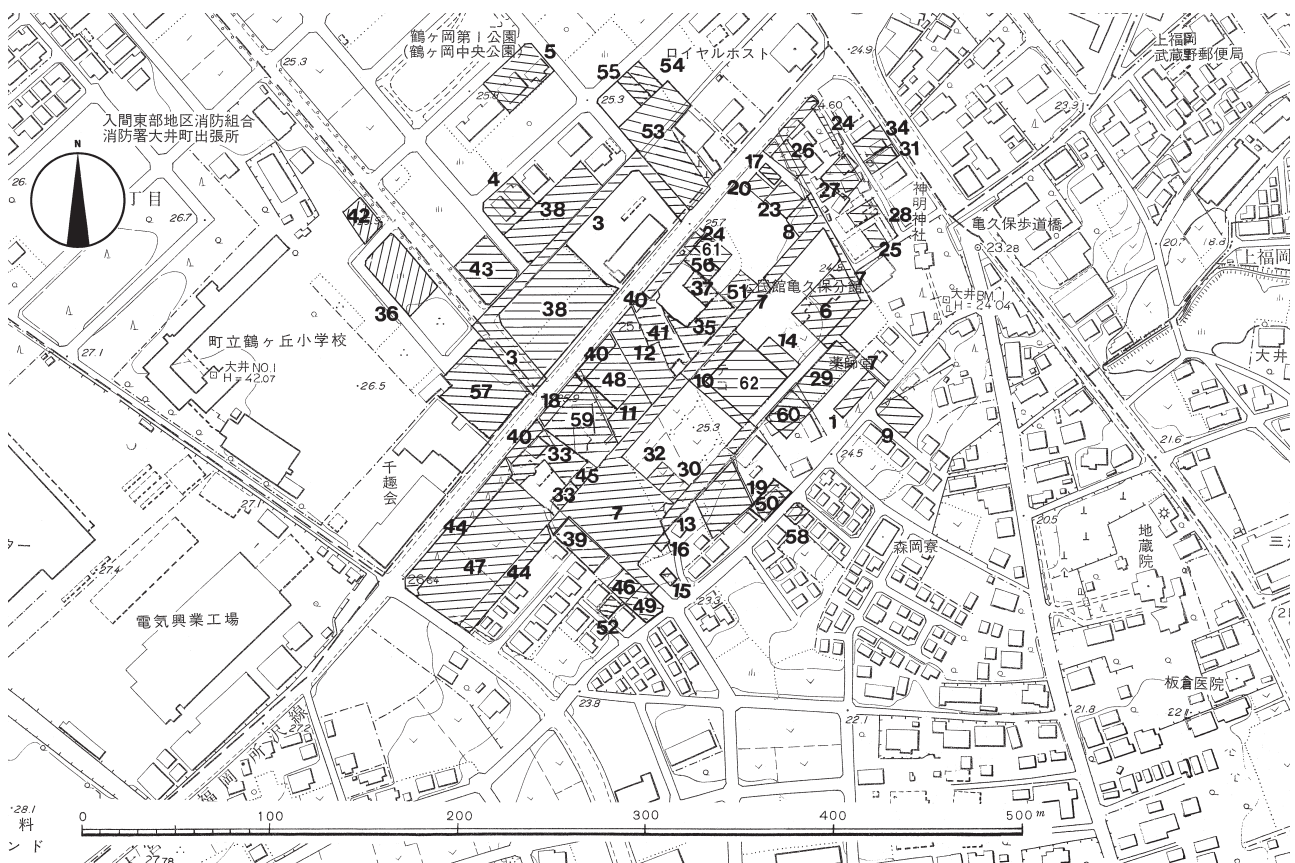
II 亀居遺跡第62地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年9月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し一部は第2・10地点の調査区と重なるため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年11月12日から26日まで行なった。幅約2mのトレンチ8本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、土坑等の遺構と遺物を確認した。確認面まで20～60cmを測るが、建物の基礎に伴う掘削が遺跡に影響を及ぼす事から、建物部分で遺構が確認された周辺を本調査することとした。

本調査は2008年1月7日から18日まで行なった。本調査の結果、縄文時代の土坑20基とピット28基を検出、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。本調査の成果は第Ⅱ部第4章に掲載した。



第25図 亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第26図 亀居遺跡の調査区と遺構分布図 (1/1,500)

第22表 亀居遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (m ²) | 調査原因 | 遺構と遺物 | | | | | | 所収報告書 |
|----|----------------------|----------------------|-------------------------|------|-------|------|----|-----|-----|-----|--------------------|
| | | | | | 住居 | 集石土坑 | 土坑 | ピット | 屋外埋 | その他 | |
| 1 | 亀久保1001 | 1972 | 155 | 農地転用 | | | | | | | 町史資料編1、 調査会報告8集 |
| 2 | 亀久保1005 | 1973 | 350 | 農地転用 | | | | | | | |
| 3 | 鶴ヶ岡161-1 | 1979.11~12 | 750 | 区画整理 | 2 | 1 | 6 | | | 1 | 東部遺跡群I、 調査会報告8集 |
| 4 | 鶴ヶ岡2-2 | (1984) | | 区画整理 | | | | | | | |
| 5 | 鶴ヶ岡2-4-3 | (1984) | | 区画整理 | | | | | 1 | | |
| 6 | 亀久保1000 | 1985 | 914 | 区画整理 | | 7 | 4 | 30 | | | 東部遺跡群 VI |
| 7 | 亀久保999 | 1986.8 | 2,740 | 区画整理 | 2 | 7 | 84 | 138 | | | 調査会報告 8集 |
| 8 | 亀久保1001 | 1986.8 | 181 | 個人住宅 | | 2 | 3 | 11 | | | 東部遺跡群 VII |
| 9 | 亀久保989-1 | (1986.9) | | 住宅建設 | | | | | | | |
| 10 | 亀久保1010-1 | 1986.10 | 650 | 区画整理 | 1 | | 20 | 17 | | | 調査会報告 8集 |
| 11 | 亀久保1011-3 | 1987.10.13 ~11.13 | 389 | 個人住宅 | | 2 | | 73 | | | 東部遺跡群 VIII |
| 12 | 亀久保1011-1 | 1987.11.16 ~12.16 | 387 | 個人住宅 | | 1 | | 48 | 1 | | 東部遺跡群 VIII |
| 13 | 亀久保1007-3 | 1988.8 | 242 | 区画整理 | 2 | | | | | | 調査会報告 8集 |
| 14 | 亀久保999-4 | (1988.7.22 ~8.3) | 165 | 個人住宅 | | | | | | | 東部遺跡群 IX |
| 15 | 亀久保1007 | (1989.2) | | 個人住宅 | | | | | | | 東部遺跡群 IX |
| 16 | 亀久保1007 | (1989.2) | 45 | 個人住宅 | | | | | | | 東部遺跡群 IX |
| 17 | 亀居995-3 | 1989.9.14 ~9.18 | 112 | 個人住宅 | | | 3 | 8 | | | 東部遺跡群 X |
| 18 | 県道拡幅 | 1990.3 | 210 | 区画整理 | | | | | | | 東部遺跡群 X |
| 19 | 亀居1007 | 1990.3.12 ~3.26 | 613 | 個人住宅 | | | | | | | 東部遺跡群 X |
| 20 | 亀久保1001-3 | 1990.5.21 ~5.25 | 118 | 個人住宅 | | | 1 | | | | 東部遺跡群 X I |
| 21 | 未調査 | | | | | | | | | | |
| 22 | 未調査 | | | | | | | | | | |
| 23 | 亀久保1001-14- 15 | 1990.9.3 ~9.10 | 160 | 個人住宅 | | | | | | 10 | 東部遺跡群 X I |
| 24 | 亀久保995-4 | 1990.12 | 1,324 | 区画整理 | | | 1 | 3 | | | 調査会報告 8集 |
| 25 | 亀久保995-7 | 1991.3.12 ~3.16 | 162 | 個人住宅 | | | | | | | 町内遺跡群 I |
| 26 | 亀久保1001-14 | 1991.2.14 ~3.15 | 259 | 個人住宅 | | 2 | | 60 | | | 町内遺跡群 I |
| 27 | 亀久保995-2 | 1991.5 | 249 | 個人住宅 | | | | | 5 | | 町内遺跡群 I |
| 28 | 亀久保995-6 | 1991.1.24 ~2.1 | 475 | 個人住宅 | | | 6 | | | | 東部遺跡群 X I |
| 29 | 亀久保992-2 | 1991.7 | 925 | 集合住宅 | 1 | 2 | | 36 | | | 調査会報告 3集 |
| 30 | 亀久保1007-3. 1008-3 | 1991.7 | 116 | 個人住宅 | | | | | | | 町内遺跡群 I |
| 31 | 亀久保995-2-7 | 1991.9 | 197 | 個人住宅 | | | | | | | 町内遺跡群 I |

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (m ²) | 調査原因 | 遺構と遺物 | | | | | | 所収報告書 |
|----|----------------------|--------------------------------------|-------------------------|--------------|-------|------|-------------|-----|-----|-----|---------------|
| | | | | | 住居 | 集石土坑 | 土坑 | ピット | 屋外埋 | その他 | |
| 32 | 亀久保1008-1 | 1991.12.3 ~12.9 | 115 | 個人住宅 | | | | | | 6 | 町内遺跡群 I |
| 33 | 亀久保1011-7 | 1991.12 ~1992.4 | 998 | 個人住宅 | 1 | 3 | | | | 42 | 町内遺跡群 II |
| 34 | 亀久保955-2 | (1992.2.13) | 634 | 個人住宅 | | | | | | | 町内遺跡群 I |
| 35 | 亀久保1012-7 | 1993.9.28 ~11.5 | 470 | 個人住宅 | 1 | 2 | 7 | 56 | | | 町内遺跡群 III |
| 36 | 鶴ヶ岡1-2-2 | (1994.2.17 ~2.18) | 798 | 礼拝所建設 | | | | 1 | | | 落し 穴1 |
| 37 | 亀久保1003-2-6 他 | 1994.2.18 ~2.25 | 566 | 店舗併用住 宅 | | | | 1 | | 13 | 町内遺跡群 III |
| 38 | 鶴ヶ岡2-1-1. 2-2-1 | (1994.8.22 ~8.30) 1994.9 | 3,162 | 店舗 | | | 37 | 21 | 29 | | 落し 穴2 |
| 39 | 亀久保1008-5 | (1994.8.26 ~8.29) | 342 | 駐車場造成 | | | | 1 | 5 | | 炬穴 4 |
| 40 | 亀久保1012-5 他 | 1995.5 | 380 | 道路築造 | | | | | | | 調査会報告 8集 |
| 41 | 亀久保995-23- 24 他 | 1995.5.31 ~8.4 | 530 | 道路築造 | 1 | | | | | 66 | 調査会報告 8集 |
| 42 | 鶴ヶ岡1-3-14 | (1995.7.11 ~7.18) | 196 | 歯科医院建 設 | | | | | | | 町内遺跡群 V |
| 43 | 鶴ヶ岡2-3-1 | (1995.8.9 ~8.30) | 818 | 店舗兼用 共同住宅 | | | 4 | 2 | | | 町内遺跡群 V |
| 44 | 亀久保1013-1 | 1995.10.22 ~12.4 | 1,030 | 道路築造 | | | 炬穴3、 礎群1 | 7 | 29 | | 調査会報告 8集 |
| 45 | 亀久保1008-5. 1011-5 | (1996.5.15 ~5.17) | 619 | 共同住宅 | | | | | 5 | | 炬穴 1 |
| 46 | 亀久保1007-17 | (1996.6.24 ~6.25) | 192 | 分譲住宅 | | | | | | | 町内遺跡群 VI |
| 47 | 亀久保1013-1 他 | (1996.9.11~9.17) 1996.10.1~12.11 | 2,741 | 共同住宅 | 1 | 14 | 4 | 174 | | | 落し 穴1 |
| 48 | 亀久保995-19 | (1997.1.20 ~1.29) | 858 | プレハブ事 務所 | | | | 1 | | | 炬穴 1 |
| 49 | 亀久保1007-14 | (1997.11.6 ~11.10) | 214 | 店舗併用住 宅 | | | | | | | 町内遺跡群 VI |
| 50 | 亀久保1007-5 | (1998.2.9 ~2.20) 1998.2.6 | 197 | 個人住宅 | 1 | | | 1 | | | 町内遺跡群 VI |
| 51 | 亀久保3街区 4画地 | 1999.6.15 ~7.9 | 722 | 個人住宅 | | | 6 | 4 | 11 | | 町内遺跡群 IX |
| 52 | 亀久保7街区 14画地 | (2000.2.1 ~2.2) | 121 | 個人住宅 | | | | | | | 町内遺跡群 IX |
| 53 | 鶴ヶ岡2-28-1 | (2000.10.30 ~2001.1.18) | 1,422 | 店舗 | | | | 7 | | | 町内遺跡群 X |
| 54 | 鶴ヶ岡2-28-17 | (2001.4.24 ~4.27) | 148 | 個人住宅 | | | | | | | 町内遺跡群 X I |
| 55 | 鶴ヶ岡2-28-16 | (2001.11.14 ~11.16) | 148 | 個人住宅 | | | | | | | 町内遺跡群 X I |
| 56 | 亀久保2-13-14 | 2002.11.5 ~11.21 | 172 | 個人住宅 | | | | | | 38 | 町内遺跡群 X II |
| 57 | 鶴ヶ岡1-1-1 | 2003.4.24 ~4.28 | 1356 | 店舗 | | | | | | | 町内遺跡群 X II |
| 58 | 亀久保2-975-19 -24 | (2005.4.18) | 79 | 個人住宅 | | | | | | | 市内遺跡群 2 |
| 59 | 亀久保2-10-5 | (2005.8.3 ~8.31) 2005.9.1~9.16 | 1,073 | 共同住宅 | 2 | 1 | 1 | | | | 調査会報告 18集 |
| 60 | 亀久保2-17-7 | (2005.9.16) | 293 | 個人住宅 | | | | | | | 市内遺跡群 2 |
| 61 | 亀久保2-13-4の 一部 | (2006.10.4) 2006.10.10 ~10.13 | 88 | 個人住宅 | 1 | 2 | 1 | 5 | | | 市内遺跡群 3 |
| 62 | 亀久保2-12-3 | (2007.11.12 ~26) 2008.1.7~18 | 1,284 | 共同住宅 | | | | 28 | 28 | | 市内遺跡群 4 |

第23表 亀居遺跡住居跡一覧表

(単位cm)

| 住居 番号 | 調査率 | 平面形 ()は推定 | 規模 ()は残存値 | 炉 | | | 埋 | 張 | 壁溝 | 備考 | 時期 | 文献 |
|----------|-----|---------------|---------------|----|----|----|---|---|----|------------|-----------|--------------------|
| | | | | 地床 | 埋設 | 石圍 | | | | | | |
| 1号 | 完掘 | 楕円形 | 680×445×40 | ○ | ② | | | | 有 | テラス状入口有 | 阿玉台 I b 古 | 東部遺跡群 I 調査会報告8集 |
| 2号 | 95% | 楕円形 | 650×530×40 | ○ | ○ | | | | 有 | 南東端未掘 | 阿玉台 II 古 | 調査会報告8集 |
| 3号 | 90% | 隅丸台形 | 478×410×25 | ○ | ○ | | | | | 北東部一部未掘 | 阿玉台 II 新 | 調査会報告8集 |
| 4号 | 95% | 楕円形 | 415×362×30 | ○ | ○ | | | | | 北端部区域外 | 阿玉台 II 新 | 調査会報告8集 |
| 5号 | 完掘 | 楕円形 | 415×360×30 | ○ | ○ | | | | | テラス状入口有 | 阿玉台 I b 古 | 町内遺跡群 III |
| 6号 | 完掘 | 円形 | 446×425×20 | ○ | ② | | | | 有 | テラス状入口有 | 勝坂 II 新 | 調査会報告8集 |
| 7号 | 98% | 楕円形 | (520×470) | ○ | ○ | | | | | 床面全面的に削平 | 阿玉台 I b 新 | 調査会報告8集 |
| 8号 | 完掘 | 楕円形 | (440×350) | ○ | ○ | | | | | 床面北半削平 | 阿玉台 I b 新 | 調査会報告8集 |
| 9号 | 完掘 | 不整形 | 480×470×30 | ○ | ○ | | | | | 柱穴内埋設土器 | 阿玉台 II 古 | 調査会報告8集 |
| 10号 | 完掘 | 楕円形 | 520×445×32 | ○ | ○ | | | | | テラス状入口有 | 阿玉台 I b 古 | 町内遺跡群 II |
| 11号 | 完掘 | 楕円形 | 482×338×30 | ○ | ○ | | | | 有 | テラス状入口有・貼床 | 勝坂 II 古 | 調査会報告8集 |
| 12号 | 完掘 | 楕円形 | 463×390×25 | ○ | ○ | | | | | | 阿玉台 II 古 | 調査会報告8集 |
| 13号 | 30% | (円形) | (380×?×40) | ○ | 未掘 | | | | | 覆土の土器量多い | 勝坂 I 古 | 町内遺跡群 VII |
| 14号 | 完掘 | 楕円形 | 425×370×20 | ○ | ○ | | | | 有 | | 勝坂 I 新 | 調査会報告18集 |
| 15号 | 完掘 | 楕円形 | 486×400×30 | ○ | ○ | | | | 有 | 床面中央部攪乱 | 勝坂 I 新 | 調査会報告18集 |
| 16号 | 25% | (楕円形) | (調査区域外)×50 | ○ | ○ | | | | | 埋設時に口縁はめ込む | 阿玉台 II 古 | 市内遺跡群 3 |

第9章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中・近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、

西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行なわれている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中・近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中・近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行なった。



第27図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第24表 松山遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (㎡) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収 報告書 | |
|------------|-------------|---------------------|-----------|------|--------------------------|--|--------------------------|
| 1次 | 松山2-5-4 | 1978.10.14~11.6 | 479 | | 住居跡2、 | 理(Ⅰ) | |
| 2次 | 松山2-6-7 | 1979.4.26~5.1 | 161 | | 住居跡1、土師器 | 理(Ⅱ) | |
| 3次 | 築地3-1-20 | 1979.8.7~16 | 733 | | 住居跡1、土器 | 理(Ⅲ) | |
| 4次 | 松山2丁目6-9 | 1982.9.13~24 | 277 | | 遺構なし、平安土器 | 理(Ⅳ) | |
| 5次 | 築地1丁目1-16 | 1983.4.20~28 | 1461 | | なし | 理(Ⅴ) | |
| 6次 | 松山2-6-16 | 1984.8.13~28 | 330 | | 住宅建設 | 理(Ⅵ) | |
| 7次 | 築地2-3-19 | 1986.1.13~21 | 237 | | 溝1、土坑5 | 理(Ⅶ) | |
| 8次 | 築地2-4-12 | 1986.7.1~8 | 319 | | 個人資材置場 | 理(Ⅷ) | |
| 9次 | 築地1-1-50 | 1987.10.1~3 | 288 | | 個人住宅 | 理(Ⅹ) | |
| 1988試 | 築地3-3-4 | (1989.1.9.10) | 370 | | 住宅建設 | 理(Ⅺ) | |
| 1989試 | 築地2-3-11 | (1989.6.27~30) | 1342 | | 共同住宅 | 理(Ⅻ) | |
| 1990試 | 松山2-2-9 | (1990.9.7~12) | 304 | | 個人住宅 | 理(Ⅼ) | |
| 10次 | 築地2-2-6 | 1991.10.14~18 | 450 | | 平安住居(国分期)1、溝1、土坑2、井戸状遺構1 | 理(Ⅽ) | |
| 11次 | 築地2-1-10 | 1991.10.18~21 | 2029 | | 宅地造成 | 理(Ⅾ) | |
| 1992試(1) | 松山2-6-22.23 | (1992.4.17~24) | 567 | | 駐車場 | 理(ⅰ) | |
| 1992試(2) | 松山2-4-7 | (1992.5.6~11) | 571 | | 駐車場 | 理(ⅱ) | |
| 12次 | 松山2-3-11 | 1992.5.12~20 | 393 | | 宅地造成 | 平安住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 13次 | 築地3-2-18 | 1992.5.18~30 | 234 | | 宅地造成 | 平安住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 14次 | 松山2-5-17 | (1992.5.21~30) | 432 | | 宅地造成 | 中世住居跡2 | 理(ⅱ) |
| 1992試(3) | 松山2-3-31.13 | (1992.6.12~18) | 871.9 | | 宅地造成 | なし | 理(ⅱ) |
| 1992試(4) | 築地1-3-17 | (1992.6.3~11) | 998 | | 共同住宅 | 溝遺構、井戸状遺構 | 理(ⅱ) |
| 1992試(5) | 松山1-4-32 | (1992.10.30) | 78.4 | | 共同住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 1993試(1) | 松山2-3-1 | (1993.4.5~16) | 509.19 | | 宅地造成 | なし | 理(ⅱ) |
| 15次 | 松山2-3-41 | 1993.4.19~28 | 148 | | 個人住宅 | 平安住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 17次 | 築地3-2-19 | 1993.5.10~24 | 597 | | 駐車場 | 古墳末期住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 16次 | 松山2-3-43.44 | 1993.7.2~15 | 156.76 | | 個人住宅 | 平安住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 1993試(3) | 築地3-1-17.31 | (1993.10.15~20) | 994.22 | | 共同住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 1993試(4) | 築地2-5-2の一部 | (1993.10.22~26) | 1246.63 | | 共同住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 18次 | 築地3-1-16 | 1993.12.1~7 | 290 | | 駐車場 | 奈良末~平安住居跡1 | 5年教 |
| 19次 | 松山2-5-9 | 1994.1.17~2.3 | 1531.38 | | 貸店舗 | 平安住居跡2、溝跡1 | 遺調3集 松山遺跡第43 次調査報告 |
| 1994試(1) | 築地2-2-3 | (1994.5.30) | 310.48 | | 分譲住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 20次 | 築地1-2-4 | 1994.6.24~7.1 | 559.17 | | 共同住宅 | 古墳末期堅穴住居跡1、土師器、須恵器破片 | 遺調5集 |
| 1994試(3) | 築地2-4-7 | (1994.8.3~12) | 532.36 | | 宅地造成 | なし | 理(ⅱ) |
| 1995試(1) | 築地3-1-9.10 | (1995.5.10~19) | 303 | | 宅地造成 | なし | 理(ⅱ) |
| 1995試(2) | 築地3-3-2 | (1995.5.22~6.15) | 542 | | 宅地造成 | 古墳末期住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 1995試(3) | 築地3-2-23 | (1995.10.17~20) | 153.25 | | 個人住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 21次 | 築地3-2-23 | 1995.10.17~20 | 378.53 | | 市道敷設 | 古墳末期住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 1995試(4) | 松山2-5-8.16 | (1995.12.22) | 413 | | 宅地造成 | なし | 理(ⅱ) |
| 1996試(2) | 松山2-2-1 | (1996.7.22~24) | 489 | | 宅地造成 | 溝1(時期不明) | 理(ⅱ) |
| 1997試(1) | 松山1-4-17 | (1997.9.11~18) | 591 | | 個人住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 22次 | 築地3-4-15.23 | 1997.12.15~24 | 419 | | 個人住宅 | 平安初頭住居1、奈良末期掘立柱礎跡3、縄文製石土師、土師器、須恵器、瓦文土器、墨書土器1 | 理(ⅱ) |
| 1998試(1) | 築地3-2-13.24 | (1998.4.16) | 240 | | 宅地造成 | 23次調査参照 | 理(ⅱ) |
| 1998試(2) | 築地3-2-23外2筆 | (1998.4.17.5.20~22) | 450 | | 宅地造成 | なし | 理(ⅱ) |
| 1998試(3.4) | 築地3-3-1 | (1998.4.20~5.20) | 922 | | 宅地造成 | 中近世溝1ほか | 理(ⅱ) |
| 23次 | 築地3-2-24の一部 | 1998.5.11~14 | 120 | | 個人住宅 | 奈良後半住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 1998試(5) | 築地1-3-18 | (1998.7.1) | 167.06 | | 個人住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 24次 | 築地3-2-4の一部 | 1998.9.8~21 | 50 | | 農地改良 | 飛鳥住居跡1 | 理(ⅱ) |
| 1998試(6) | 築地2-5-6 | (1998.9.1~4) | 363 | | 個人住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 25次 | 築地3-2-23外2筆 | 1999.3.3~12 | 240 | | 個人住宅 | 奈良初頭住居跡2 | 理(ⅱ) |
| 1999試(1) | 松山2-1-10 | (1999.4.16) | 166 | | 個人住宅 | なし | 理(ⅱ) |
| 1999試(2) | 松山2-3-3 | (1999.5.6~12) | 340 | | 宅地造成(土地分譲) | 溝1(時期不明) | 理(ⅱ) |
| 1999試(3) | 築地3-3-14.15 | (1999.6.22~24) | 778.29 | | なし | なし | 理(ⅱ) |

II 松山遺跡第43地点

(1) 調査の概要

調査は分譲宅建設に伴うもので、原因者より2007年3月23日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査の結果、時期不明の堀跡1本、溝2本、土坑2基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①土坑

土坑2基を検出したが、土層の観察から全て中・近世以降とみられる。土坑2は覆土層の観察から風倒木痕の可能性が高い。

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (㎡) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収 報告書 | |
|----------|-------------------|-----------------------------------|-----------|------|--------------|------------------------|-------|
| 1999試(4) | 築地3-5-15の一部.24.27 | (1999.8.2~6) | 745.58 | | ピット5(平安?) | 理(22) | |
| 1999試(5) | 築地3-5-28 | (1999.8.26~9.1) | 331.3 | | 個人住宅 | 溝1(時期不明) | 理(22) |
| 26次 | 築地1-3-21 | 2000.5.15~6.2 (2000.4.27~5.12) | 627.9 | | 市道設置 | 井戸2、堅穴住居1、土師器、須恵器、陶磁器片 | 理(23) |
| 2000試(2) | 築地1-3-5.25.27.35 | (2000.5.17~25) | 687.3 | | 共同住宅 | 土坑1 | 理(23) |
| 27次 | 仲2-1-10 | 2000.6.12~7.3 (2000.5.22~6.8) | 912 | | 共同住宅建設及び市道設置 | 奈良堅穴住居跡1、土師器、須恵器、陶磁器片 | 理(23) |
| 2000試(4) | 松山2-2-5 | (2000.10.30) | 592 | | 共同住宅 | なし | 理(23) |
| 28次 | 築地1-1-28 | 2001.2.8~21 | 165.6 | | 個人住宅 | 奈良住居跡1 | 理(23) |
| 2000試(5) | 築地3-1-28 | (2001.2.2~13) | 614 | | 宅地造成(土地分譲) | 飛鳥~奈良住居跡1 | 理(23) |
| 2000試(6) | 松山2-1-8.17 | (2001.3.21) | 174.9 | | なし | なし | 12年教 |
| 2001試(1) | 新田2-450-1 | (2001.4.12~13) | 204.15 | | 個人住宅 | なし | 理(24) |
| 2001試(2) | 仲2-1-10 | (2001.5.8.9.17.18) | 168 | | 地区計画道路 | 近代以降溝3 | 理(24) |
| 2001試(3) | 築地3-4-10 | (2001.5.10~15) | 434.59 | | 共同住宅 | なし | 理(24) |
| 2001試(4) | 仲1-1-2.3.14 | (2001.9.12) | 694.68 | | 個人住宅 | なし | 理(24) |
| 2002試(1) | 築地1-2-8 | (2002.5.20~23) | 978 | | 遺構の所在確認 | 堅穴住居跡1 | 理(25) |
| 2002試(2) | 築地3-5-35.36 | (2002.7.11) | 248.09 | | 宅地造成(土地分譲) | なし | 理(25) |
| 29次 | 築地1-2-8の一部 | 2002.7.2~8.9 | 36 | | 個人住宅 | 堅穴住居跡1 | 理(25) |
| 2002試(3) | 松山2-5-7 | (2002.8.5) | 358.57 | | 宅地造成(土地分譲) | なし | 理(25) |
| 2002試(4) | 築地1-3-28 | (2002.8.20~21) | 479 | | 共同住宅 | なし | 理(25) |
| 2002試(5) | 松山2-3-22.25.30 | (2002.8.22~28) | 640.68 | | 遺構の所在確認 | 堅穴住居跡1【盛土保存】 | 理(25) |
| 2002試(6) | 松山2-6-5 | (2002.9.9) | 147 | | 個人住宅建設 | なし | 理(25) |
| 2003試(1) | 新本町1-23.63 | (2003.4.16~21) | 1080.48 | | 共同住宅 | なし | 理(26) |
| 2003試(2) | 築地3-5-3他6筆 | (2003.8.19~20) | 2578.02 | | 宅地造成 | 飛鳥堅穴住居跡2【盛土保存】 | 理(26) |
| 30次 | 松山2-2-3 | 2003.10.3~10 | 142.47 | | 個人住宅 | 奈良堅穴住居跡1【調査実施】 | 理(26) |
| 2004試(1) | 築地3-1-16.32 | (2004.4.22~23) | 976 | | 宅地造成 | なし | 理(27) |
| 2004試(2) | 築地1-3-37 | (2004.4.26) | 165 | | 個人住宅建設 | なし | 理(27) |
| 2004試(3) | 松山2-6-11 | (2004.6.16) | 309 | | 宅地造成 | なし | 理(27) |
| 2004試(4) | 築地2-5-14.25.27 | (2004.8.5) | 280 | | 個人住宅 | なし | 理(27) |
| 2004試(5) | 築地3-4-12 | (2004.9.6~8) | 911 | | 宅地造成 | 溝1 | 理(27) |
| 2005試(1) | 松山2-2-4の一部 | (2005.4.6~7) | 313 | | 土地分譲 | なし | 市内1 |
| 2005試(2) | 築地3-1-32.34.43 | (2005.4.19~21) | 549 | | 土地分譲 | なし | 市内1 |
| 2005試(3) | 築地2-5-32 | (2005.4.28) | 132 | | 個人住宅 | なし | 市内1 |
| 31次 | 築地3-1-69 | 2005.6.14~23 (2005.6.9~13) | 120 | | 個人住宅 | 古墳住居1 | 市内1 |
| 2005試(8) | 築地2-5-3 | (2005.8.30~9.13) | 567 | | 宅地造成 | 平安住居1 | 市内1 |
| 32次 | 築地2-5-3の一部 | 2005.9.8~13 (2005.8.30~9.7) | 132 | | 個人住宅 | 平安住居1 | 市内1 |
| 2005試(5) | 築地2-5-36 | (2005.10.31) | 125 | | 個人住宅 | なし | 市内1 |
| 2005試(4) | 松山2-4-23 | (2005.10.20~21) | 161 | | 個人住宅 | なし | 市内1 |
| 2005試(6) | 仲1-4-26 | (2005.11.14) | 108 | | 個人住宅 | なし | 市内1 |
| 2005試(7) | 松山2-5-21 | (2006.2.18) | 100 | | 個人住宅 | なし | 市内2 |
| 37 | 松山2-6-10-13 | (2006.4.13) | 228 | | 個人住宅 | なし | 市内3 |
| 38 | 仲1-4-3.9.12.13.24 | (2006.5.29) | 2176 | | 宅地造成 | なし | 市内3 |
| 39 | 築地2-3-10 | (2007.1.10~20) | 937 | | 宅地造成 | なし | 市内3 |
| 40 | 築地1-1-5 | 2007.2.21~3.9 (2007.2.2~8) | 1047 | | 宅地造成 | 奈良住居跡1、中世遺構検出 | 市内3 |
| 41 | 中ノ島1-2-5 | 2007.2.21~3.5 (2007.2.7~9) | 1281 | | 宅地造成 | 中世遺構遺物検出 | 市内3 |
| 42 | 仲2-3-15 | (2007.2.13) | 108 | | 個人住宅 | なし | 市内3 |
| 43 | 築地2丁目5番2 | (2007.4.11~24) | 668.13 | | 分譲住宅 | 堀跡1、土坑1、旧石器ナイフ1点 | 市内4 |

第25表 松山遺跡第43地点土坑一覧表

(単位cm)

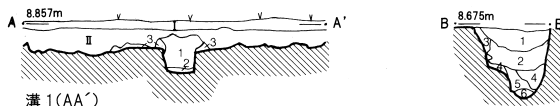
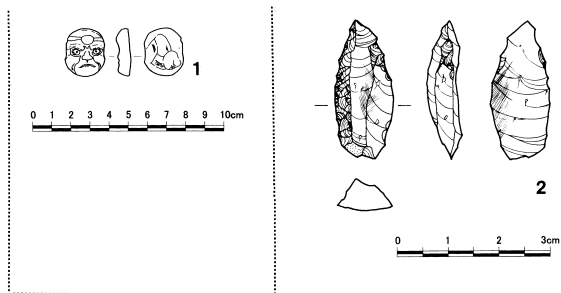
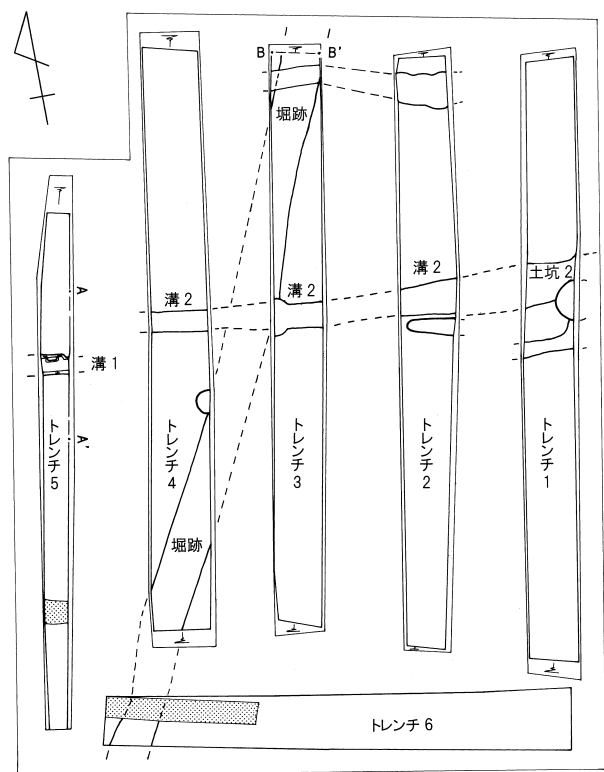
| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|-------|----------|-------|------|------|
| 土坑1 | (長方形) | 54×(205) | 35 | 62 | |
| 土坑2 | 不明 | 145×(70) | 33×29 | 93.2 | 石器出土 |

②堀跡

調査区を南西から北東方向に延びる堀跡を確認し、北側の一部を検出した。検出部の断面は「V」字状に開き中~下部は薬研状を呈する。検出部の上幅160cm、下幅15~30cm、深さ121cmである。覆土層の観察から古代~近世の可能性が高い。

③出土遺物

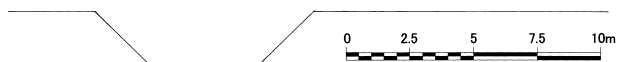
1は表土層出土の泥メンチで山伏の文様を施す。2は土坑2出土の旧石器時代の黒曜石製ナイフ形石器で、左側縁に細部調整が施される。長さ2.72cm、幅1.12cm、厚さ0.65cm、重量1.48gである。



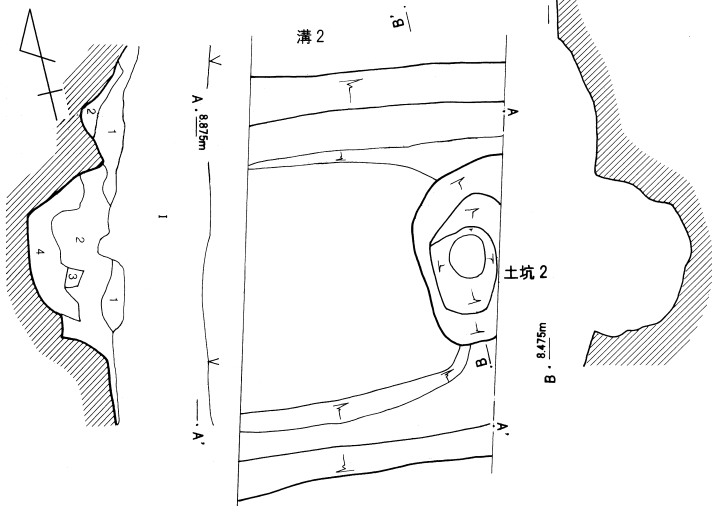
溝 1 (AA')

- I. 暗褐色土 締り弱、表土耕作土
- II. 暗褐色土 表土耕作土、3 cm以下ロームブロック少し含む
- III. 暗褐色土
 - 1. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、3 cm以下ロームブロック多量に含む
 - 2. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、3 cm以下ロームブロック極少し、5mm以下ローム粒多く含む
 - 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 cm以下ロームブロック多量に含む(1層より多く)ゴボウ耕作に同じ堀跡(BB')
 - 4. 黒色土 締りやや強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く同炭化物・焼土少し含む、2層より多く粒状
 - 5. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く同炭化物・焼土シミ状に少し含む、1層より明るく暗褐色に近い
 - 6. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、暗褐色土ローム多く含み斑状に1・2層少し含む
 - 7. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、3層よりロームベースでシミ状に2・5層少し含む
 - 8. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、3層より暗く5mm以下シミ状ローム・粒少し含む、2層よりやや明るい
 - 9. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームベースに2 cm以下黒褐色土シミ状少し含む

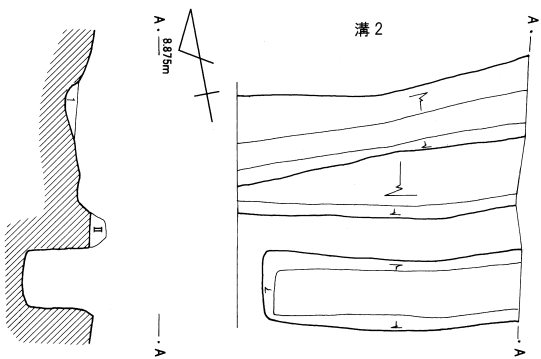
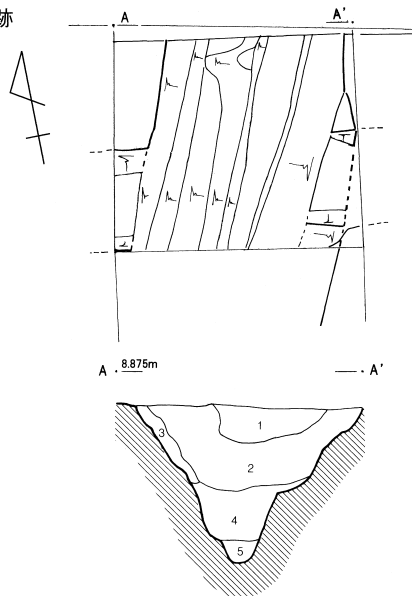
*水性堆積の跡は見られない、1・2・3・5層は類似、4・6層はロームベース



土坑 2・溝 2



堀跡



土坑 2

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土(ローム)ベースに5mm以下の褐色ローム粒を多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、地山ロームがグズグズになっている IV~VI層
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック IV~VI層
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ブラックバンド VII~IX層

溝 2

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、ロームブロック多量に含む
- 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下のローム粒を多く含む、手掘りゴボウ痕より新しい



第28図 松山遺跡第43地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑・堀跡・溝 (1/60)、出土遺物 (1/4・2/3)

第10章 江川東遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約700~1,000m程下った右岸に位置している。標高15~19mで現谷底との比高差は3mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に亀居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は旧大井町地域で最も早く市街化された区域内にあり、表面採取はほとんど不可能であるが、一部残された畑地には須恵器が散布する。第2地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2008年3月現在、15地点で試掘及び発掘調査を行なっている。

II 江川東遺跡第14地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年5月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2007年5

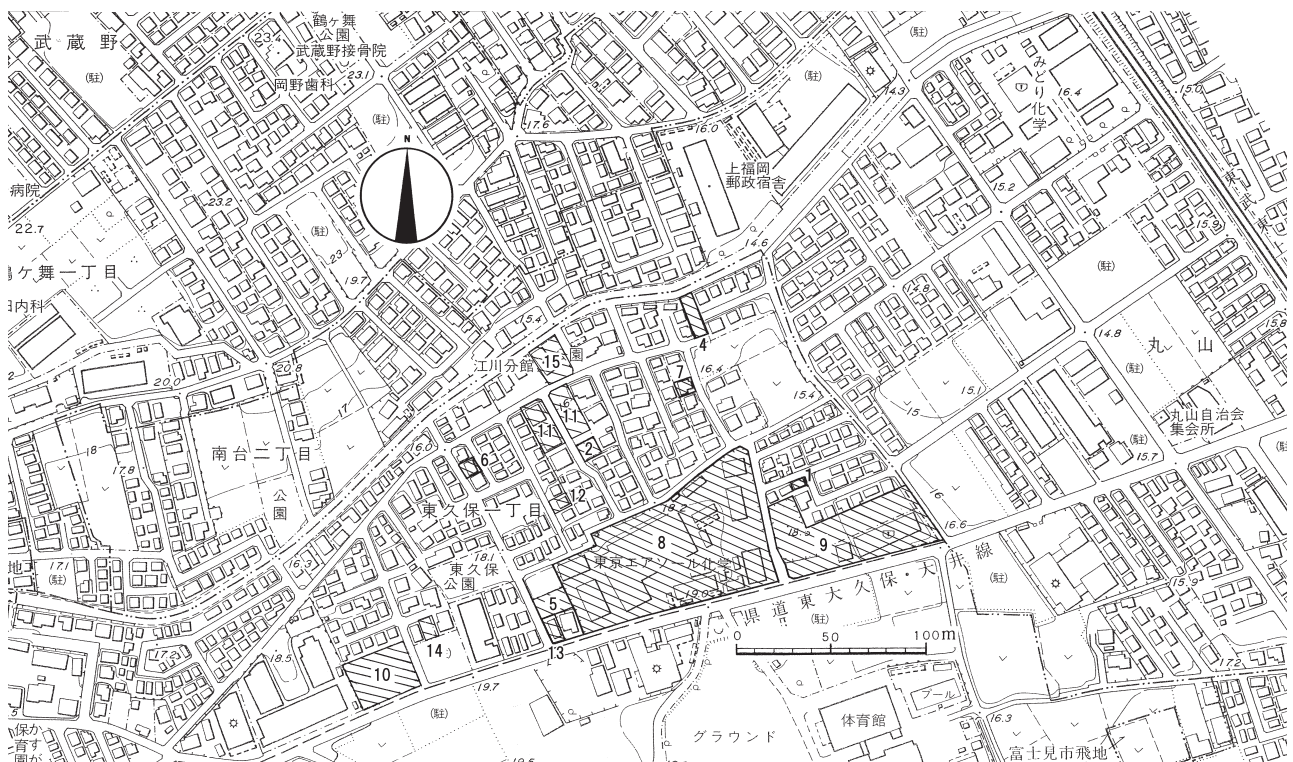
月25日から29日まで行なった。幅1mと2mのトレンチを各1本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構、遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

III 江川東遺跡第15地点

(1) 調査の概要

調査はふじみ野市立大井中央公民館江川分館の建替えに伴うもので、市立大井中央公民館長より2007年8月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲北部の江川沿いに位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年9月11日から13日まで行なった。幅2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構は確認されなかった。旧石器時代の確認調査も行なったが確認されなかった。表土層から須恵器の坏の口縁部片を1点採取した。胎土は灰褐色で、1mm大の砂粒を少し含む。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

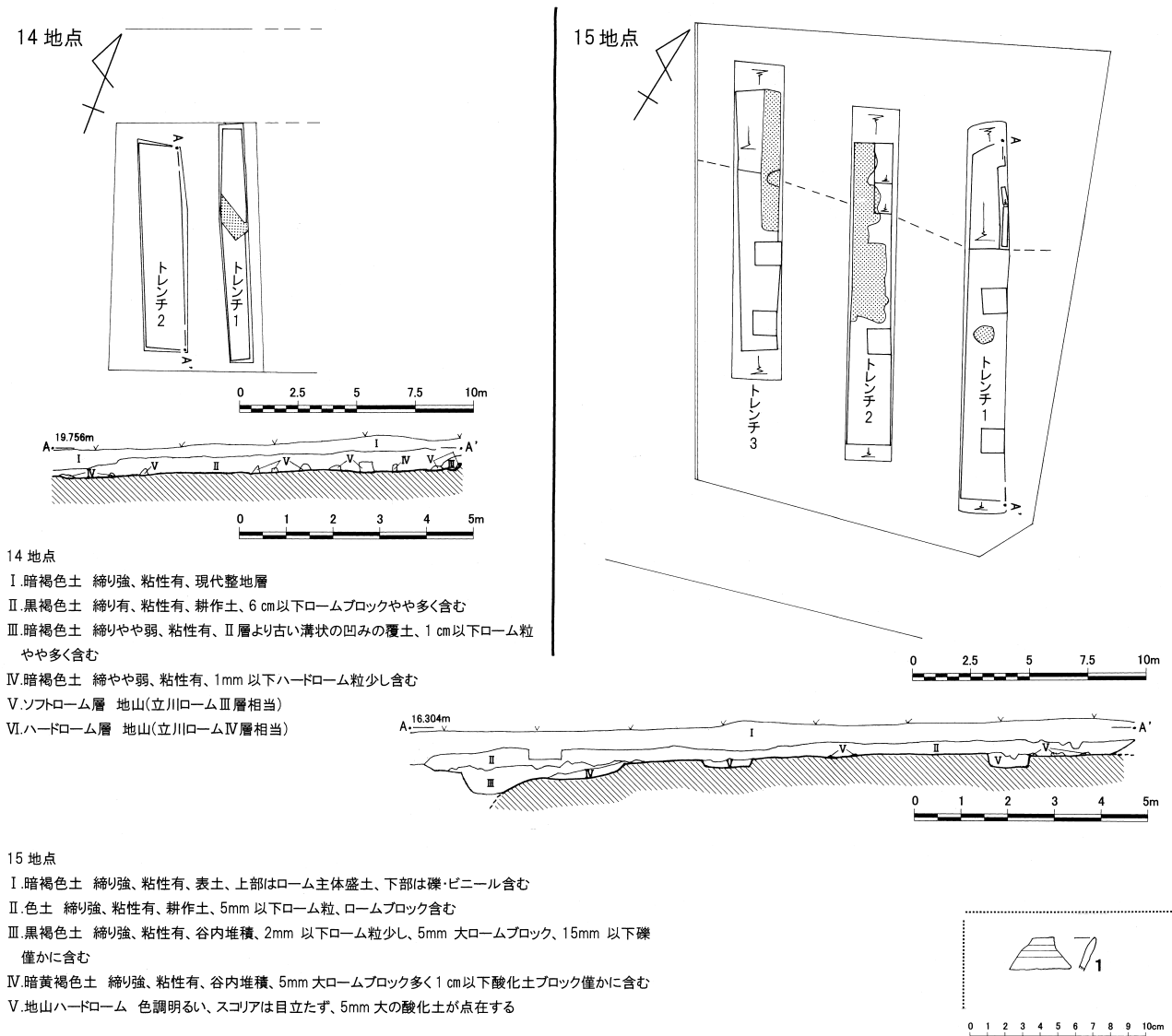


第29図 江川東遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第26表 江川東遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 調査面積 ()は開発面積 | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 |
|----|------------------|--------------------------------|------------------|-------|-----------------------------|----------------------|
| 1 | 東久保1-145-14 | (1994.3.24~3.25) | 52 | 個人住宅 | 溝状遺構、縄文土器・須恵器 | 町内遺跡群Ⅲ |
| 2 | 大字東久保1-162-34 | 1995.1.20~2.6 | 191 | 個人住宅 | 近世土坑17、ピット18、フレーク、須恵器、陶磁器 | 町内遺跡群Ⅳ |
| 4 | 大字亀久保138-4 | (1996.1.24~1.29) | 246 | 個人住宅 | ピット3、溝2、遺物なし | 町内遺跡群Ⅴ |
| 5 | 東久保1-155-6 | (1998.6.1~6.9) | 164 | 土地分譲 | ピット | 町内遺跡群Ⅷ |
| 6 | 東久保1-168-7 | (2001.7.17) | 15(71) | 個人住宅 | 遺構遺物なし | 町内遺跡群11 |
| 7 | 東久保1-160-47 | (2004.1.4) | 88 | 個人住宅 | 遺構遺物なし | 町内遺跡群Ⅻ |
| 8 | 東久保1-150他 | (2004.3.25~4.8) | 6,137 | 共同住宅 | 土坑1、溝、風倒木痕1 | 町内遺跡群Ⅻ |
| 9 | 東久保1-146-1,147-1 | (2004.5.11~19) 2004.5.10~25 | 464 | 保育園 | ピット40、溝2、縄文土器、駐車場部分 現状保存 | 町内遺跡群Ⅻ/ 調査会報告第14集 |
| 10 | 東久保1-174-1,36 | (2005.10.13~24) | 267(881) | 分譲住宅 | 土坑1、遺物なし | 市内遺跡群2 |
| 11 | 東久保1-162-1,14 | (2006.11.9~15) | 200(674) | 分譲住宅 | 遺構検出 | 市内遺跡群3 |
| 11 | 東久保1-162-1,14 | (2006.11.9~15) | | 分譲住宅 | 遺構検出 | |
| 12 | 東久保1-27-3 | (2006.11.10) | 6(72) | 宅地造成 | 遺構遺物なし | 市内遺跡群3 |
| 13 | 東久保1-155-4 | (2006.8.11) | 24(114) | 個人住宅 | 遺構遺物なし | 市内遺跡群3 |
| 14 | 東久保1-174-38 | (2007.5.25~29) | (67) | 個人住宅 | 遺構遺物なし | 市内遺跡群4 |
| 15 | 東久保1-136-5 | (2007.9.11~13) | (344) | 公民館分館 | 遺構遺物なし | 市内遺跡群4 |

町内遺跡群：大井町町内遺跡群、調査会報告：大井町遺跡調査会報告、市内遺跡群：ふじみ野市市内遺跡群



第30図 江川東遺跡第14・15地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/4)

第11章 東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。

本遺跡の調査は1976年以来2008年1月現在まで、65地点で試掘調査および発掘調査を行なっている。

これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑等、中・近世は溝や柵跡が確認されている。

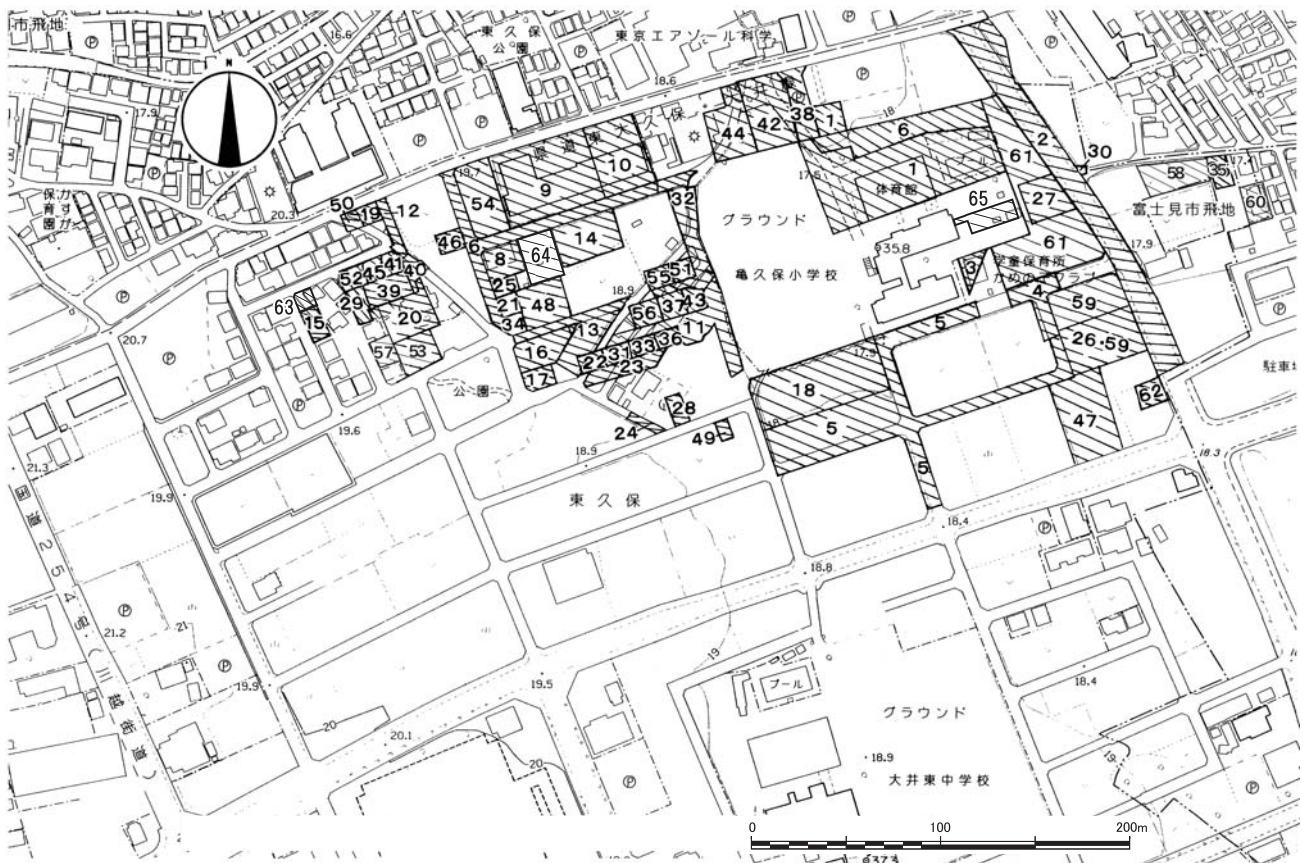
II 東久保遺跡第65地点

(1) 調査の概要

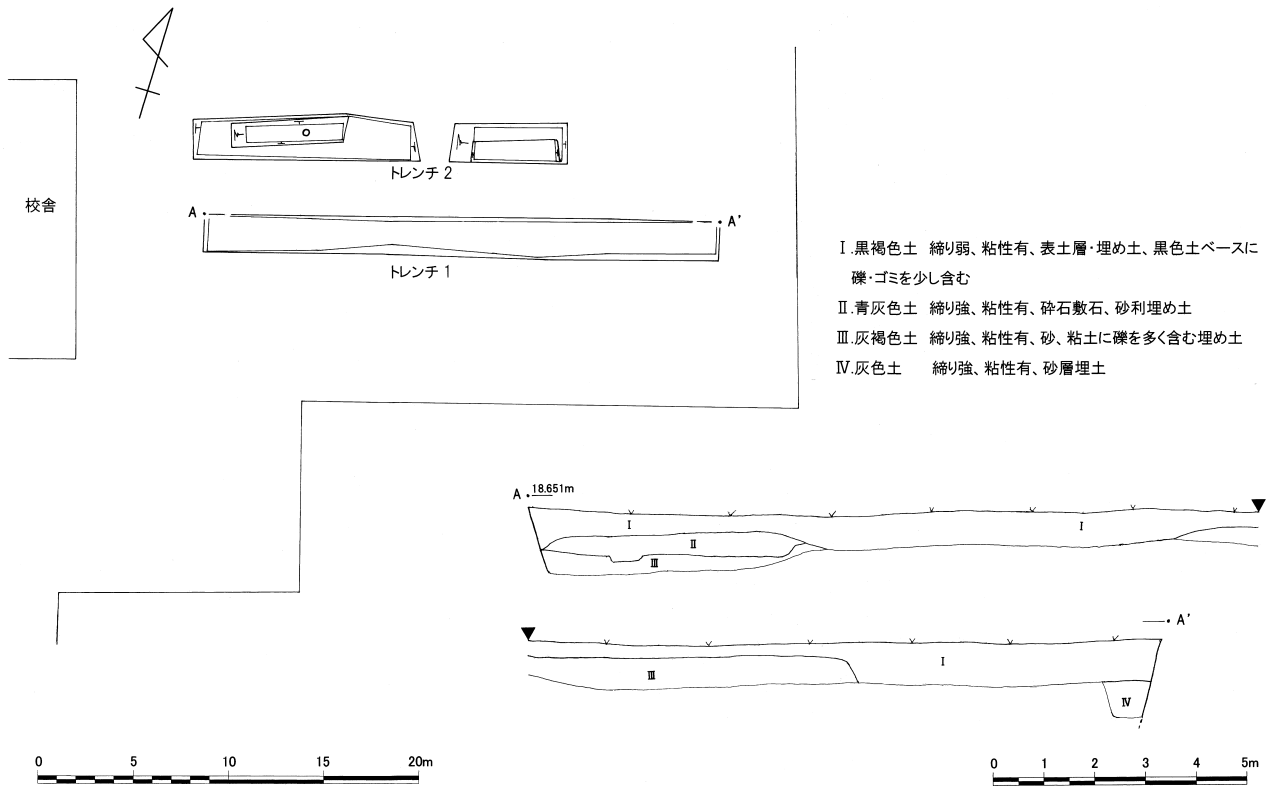
調査はふじみ野市立亀久保小学校本校舎の教室棟増築に伴うもので、ふじみ野市長より2007年11月14日付で「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。市立亀久保小学校は遺跡の中央部に位置し、東側にある第27地点の調査では縄文時代のピット等を検出している。

今回増築予定の教室は、管理・特別教室棟の東側部分で、大プールの南側である。建設工事の担当課である市教育委員会学校教育課と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2008年1月18日から28日まで行なった。幅2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構・遺物は確認されなかった。調査区は埋没河川（以前は用水路）に近いため周辺部より低く、小学校建設時以降60～160cmの厚さで盛土が行なわれている。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。



第31図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第32図 東久保遺跡第65地点調査区域図 (1/400)、土層図 (1/150)

第12章 東中学校西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間で標高は20.0～21.0mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川（現在用水路）が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

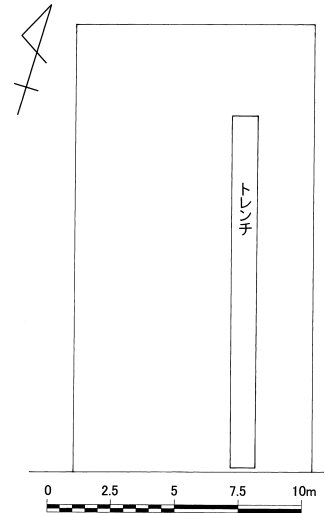
遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てて東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期は縄文時代早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋甕、落とし穴や集石土坑等を検出している。中・近世では墓壇・溝・柵列等が確認されている。本遺跡は区画整理事業と大規模開発による開発が進み遺跡面積約4haのうち約80%が調査されている。本遺跡の調査は1995年以来2008年1月現在、31地点で試掘調査および発掘調査を行なっている。

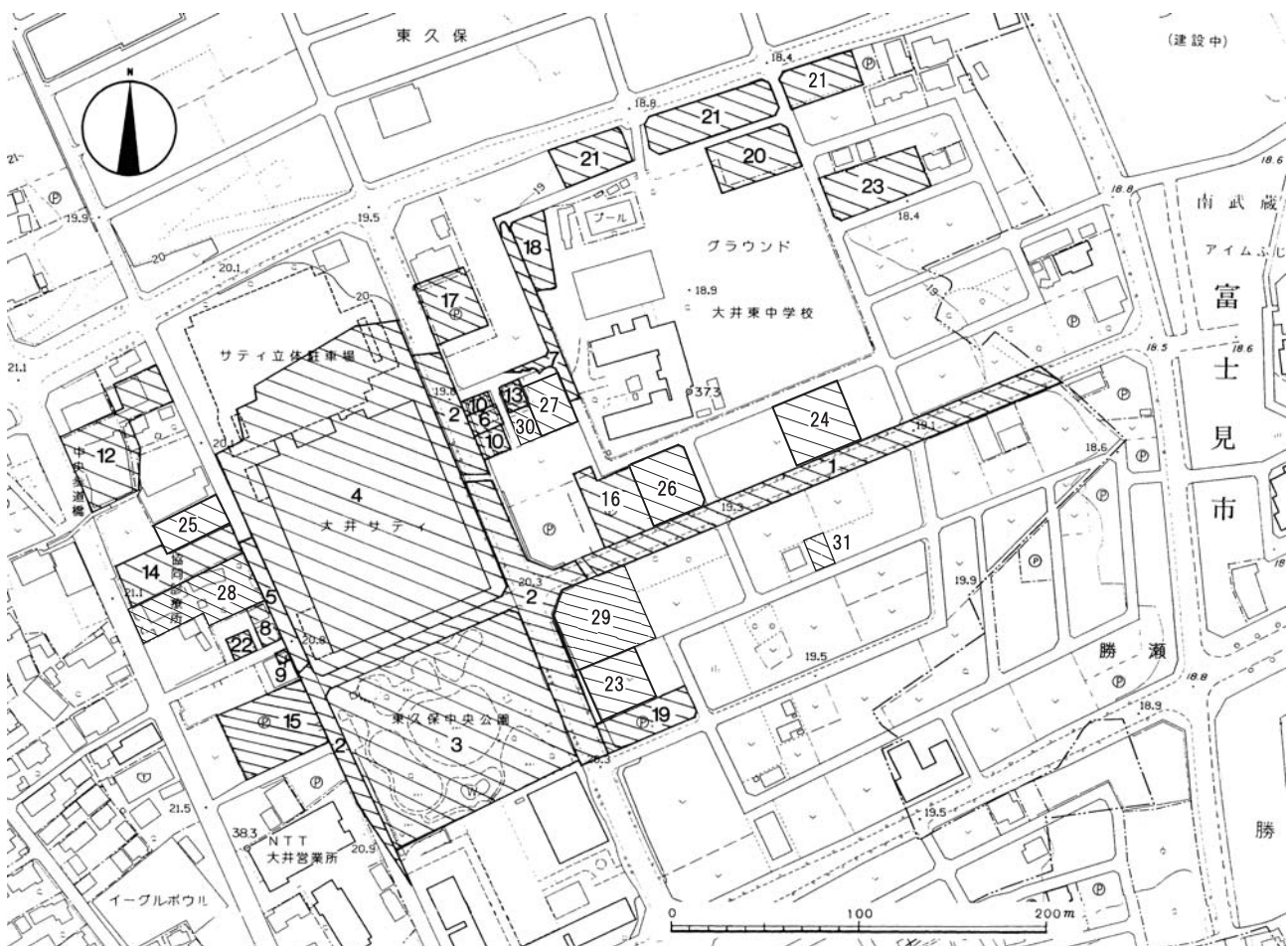
II 東中学校西遺跡第31地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年12月7日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置するため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在を確認する工事の立会いを2008年2月14日に行なった。重機の提供を受け、幅約1m、長さ13mのトレンチ1本を設定し、現地表面下約75cmで地山ローム層を確認、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影を行ない、工事立会いを終了した。



第34図 東中学校西遺跡第31地点調査区域図 (1/300)



第33図 東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 駒林遺跡第4地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007年4月27日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲外に位置するが、面積が1,000㎡を越えるため、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請者と協議の結果、遺構の分布を確認し遺跡範囲を明らかにするための試掘調査を実施した。試掘調査は同年6月11日から13日まで行なった。幅2mのトレンチ2本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の

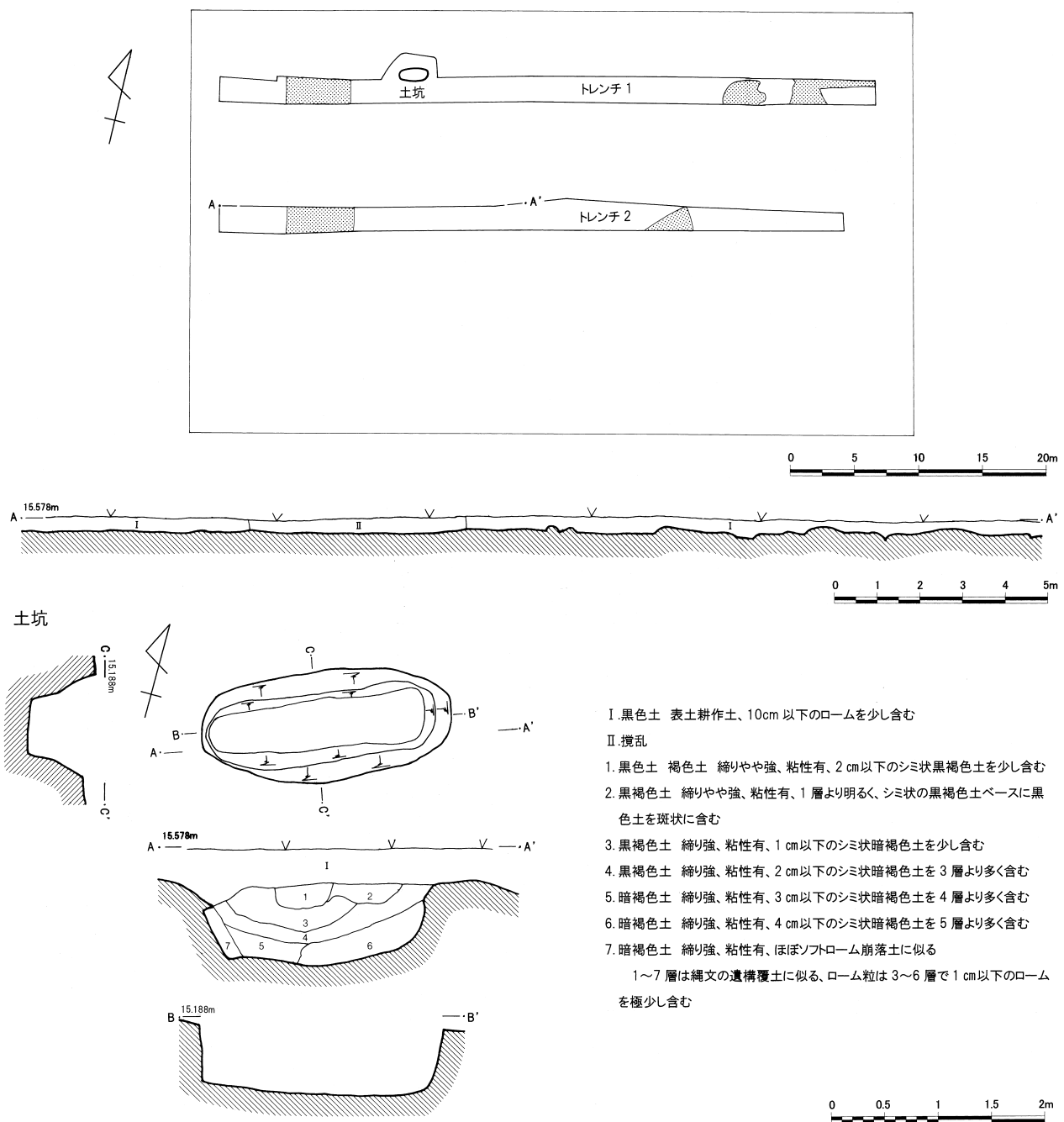
結果、土坑1基を検出した。遺構の時代は、覆土層の観察から縄文時代とみられる。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①土坑

調査区の北西部で土坑1基を検出した。覆土層の観察から縄文時代の時期とみられる。

土坑の平面形態は長方形を呈し、規模は確認面径236×105cm、底径205×47.0cm、深さ65.8cmを測る。



- I. 黒色土 表土耕作土、10cm以下のロームを少し含む
 - II. 攪乱
 - 1. 黒色土 褐色土 締りやや強、粘性有、2cm以下のシミ状黒褐色土を少し含む
 - 2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1層より明るく、シミ状の黒褐色土ベースに黒色土を斑状に含む
 - 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下のシミ状暗褐色土を少し含む
 - 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下のシミ状暗褐色土を3層より多く含む
 - 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下のシミ状暗褐色土を4層より多く含む
 - 6. 暗褐色土 締り強、粘性有、4cm以下のシミ状暗褐色土を5層より多く含む
 - 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、ほぼソフトローム崩落土に似る
- 1~7層は縄文の遺構覆土に似る、ローム粒は3~6層で1cm以下のロームを極少し含む

第36図 駒林遺跡第4地点遺構配置図 (1/500)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60)

第14章 福岡新田遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

福岡新田遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、標高7～10m前後の平坦地に位置する。遺跡周辺は福岡江川が僅かに南に湾曲しており、江川の侵食による蛇行なのか、埋没谷又は湧水などの影響によるものなのかは不明であるが、江川から南に広がる窪地と周辺部には僅かな微高地状の起伏もみられる。

福岡新田は江戸時代の慶安年間(1648～52年)に川越藩の新田開発により成立した村で、『新編武蔵風土記稿』によると村域は江川左岸の「東西25町許、南北5町」とあり、東西約2.7km・南北約500mである。

当初の遺跡範囲は、江川の北側に延びていたが、江川の北側は松山遺跡に統合し、南側のみを福岡新田遺跡とした。遺跡の範囲は南北230m、東西240mであるが、今後東西に広がる可能性もある。遺跡周辺は一部宅地開発されるが畑地も多く残っている。周辺の遺跡は、江川の対岸に松山遺跡、200m東側に鷲森遺跡、350m西側に駒林遺跡(2008年駒林新田前遺跡と統合)がある。本遺跡周辺の調査は、1982年新田2丁目の試掘調査以来、今回で7ヶ所目となる。過去の調査では遺構は確認されておらず、平安時代の土器片と縄文時代中期の土器片の散布が確認されている。

II 福岡新田遺跡第1地点

(1) 調査の概要

調査は安楽寺の本殿、客殿、庫裏等の建替えに伴うもので、原因者より2007年8月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲外に位置するが、遺跡縁辺部で面積が1,000㎡を越えるため、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請者と協議の結果、遺構の分布を確認し遺跡範囲を明らかにするための試掘調査を実施した。試掘調査は同年10月9日から24日まで行なった。幅2mのトレンチ3本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。

調査の結果、縄文時代の遺物包含層と、中・近世以降の土坑6基・溝5本等を検出した。なお、旧石器時代の確認調査は行なっていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

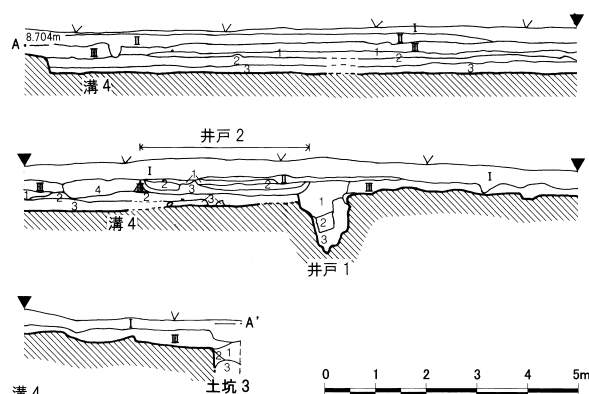
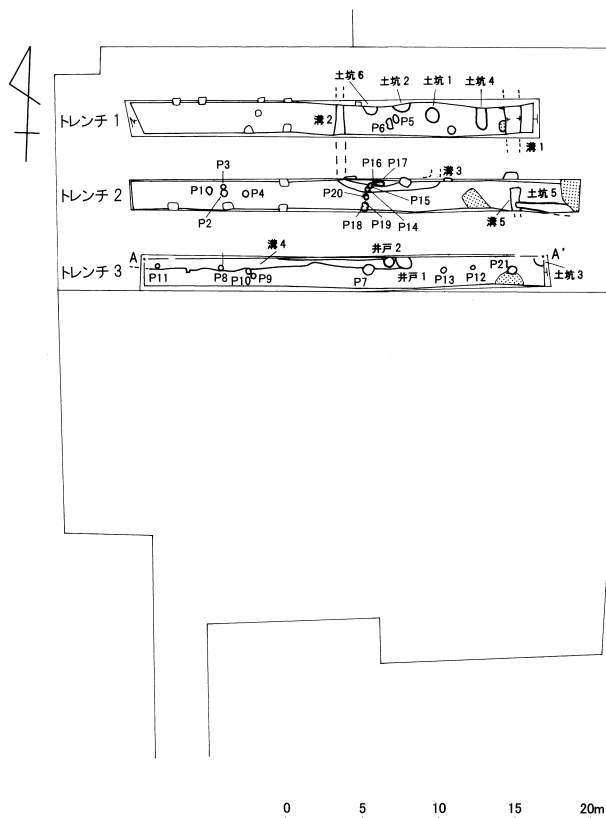
試掘調査の結果、縄文時代の遺物包含層と近世以降の遺構と遺物が確認されたため、2008年遺跡の範囲を東側と南側に広げる変更増補を行なった。



第37図 福岡新田遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第27表 福岡新田遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (m ²) | 調査原因 | 確認された遺構と 遺物 | 所収報告書 |
|---------------------|--------------|------------------|-------------------------|------|-------------------|------------------|
| 1982年度新田2丁目 遺跡試掘 | 新田2丁目481~482 | (1982.8.27~9.14) | 1454 | 民間開発 | 近世陶磁器、松山 遺跡に変更 | 埋蔵文化財の調査 (V) |
| 1989年度新田遺跡試掘 | 新田字本新田400-1 | (1989.6.22~27) | 495 | 宅地造成 | なし、松山遺跡に 変更 | 埋蔵文化財の調査 (12) |
| 1991年度福岡新田試掘 | 駒林817-1 | (1991.4.23~26) | 482 | 個人住宅 | 自然堤防ではなく 後世盛土 | 埋蔵文化財の調査 (14) |
| 1991年度駒林新田試掘 | 駒林新田727-1-3 | (1991.8.3) | 2186 | 共同住宅 | なし、駒林遺跡に 変更 | 埋蔵文化財の調査 (14) |
| 1992年度福岡新田試掘 | 中福岡362 | (1992.7.17~22) | 998 | 共同住宅 | なし、松山遺跡に 変更 | 埋蔵文化財の調査 (15) |



- 溝 4
- I. 黒色土 表土ガラを多く含む(本堂取り壊しのゴミ)
 - II. 黒色土 締り強、粘性有、下層にロームブロック(層状を成す)多く含む、上・中層に3cm以下ロームブロック多く含む
 - III. 黒色土 1cm以下ロームブロック少し、1mmローム粒・焼土粒・炭化物粒少し含む
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土粒・炭化物粒少し、灰褐色土の灰質粘質土多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より灰質粘質土を更に多量に含む
3. 黒褐色土+暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック多量に含む
4. III層ベースに2cm以下ロームブロック多量に含む、井戸1の1層に同じ
5. 2層ベースに多量に5mm以下ローム粒含む
- 井戸 2
- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5cm以下ロームブロックと黒褐色土混合、1~3層は炭化物・焼土はほとんど含まない
 - 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
 - 3. 褐色土 締り強、粘性有、ローム土に僅かにシミ状褐色土含むほろローム土のみ
- 土坑 3
- 1. 黒褐色土 III層に同じ、ややロームが少ないので分層
 - 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームベースに黒褐色土を間に含む
 - 3. 黒褐色土 黒褐色土ベースに2mm以下ローム粒・炭化物・焼土少し含む

第38図 福岡新田遺跡第1地点遺構配置図 (1/500)、土層図 (1/150)

(2) 遺構と遺物

確認した遺構は土坑、ピット、井戸、溝等である。礎石と溝4は解体された安楽寺に伴うものと考えられる。またトレンチ1中央部から縄文時代中期の土器がややまとまって出土したが、掘り込みは確認出来なかったため包含層出土とした。礎石出土の縄文土器も遺構の時期を示すものではない。

①土坑・ピット・井戸

土坑は6基検出した。土坑1は覆土層の観察から中・近世の時期に、他の土坑とピットは中・近世以降とみられる。土坑5は溝の可能性がある。

井戸は2基確認し、井戸2は溝4より新しい。

②溝

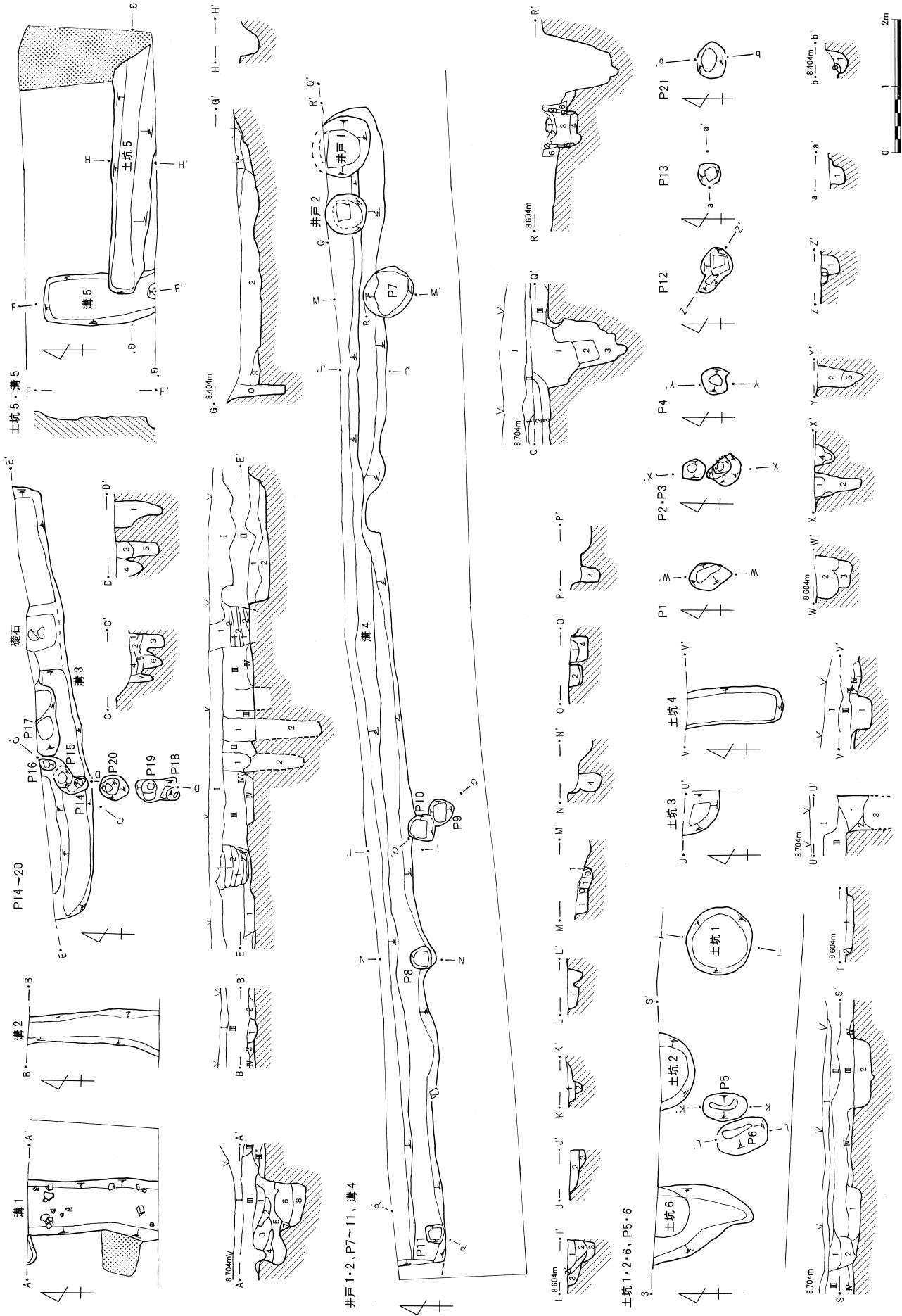
溝5本を確認した。溝2と溝3は繋がる可能性があるが、他の溝同様に全貌は不明である。

③出土遺物

土坑1・2、ピット7・17、礎石出土の縄文式土器は遺構の覆土層出土であるが、遺構自体の時期を示すものではない。

第28表 福岡新田遺跡第1地点溝一覧表 (単位cm)

| No. | 断面形態 | 上幅 | 下幅 | 深さ | 備考 |
|-----|--------|-------|-------|------|-------|
| 1 | 「U」状 | 75~80 | 52~60 | 51.3 | |
| 2 | 浅い「V」状 | 38~68 | 22~50 | 10 | |
| 3 | 浅い「U」状 | 45~60 | 32~34 | 24.4 | 長さ12m |
| 4 | 不明 | 80~ | 25~ | 39.5 | |
| 5 | 浅い「U」状 | 63~73 | 55~60 | 16.2 | |



第39図 福岡新田遺跡第1地点井戸・土坑・ピット・溝 (1/80)

福岡新田遺跡第1地点土層説明

- I. 黒色土 表土ガラを多く含む(本堂取り壊しのゴミ)
- II. 黒色土 締り強、粘性有、下層にロームブロック(層状を成す)多く含む、上・中層に 3 cm以下ロームブロック多く含む
- II'. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに 3 cm以下灰黒褐色土シミ状に多く、1 cm以下シミ状焼土多く含む火災による灰の混合土
- III. 黒色土 1 cm以下ロームブロック少し、1mm ローム粒・焼土粒・炭化物粒少し含む
- III'. 褐色土 締り強、粘性有、盛土ローム近・現代
- III''. 黒褐色土 締り強、粘性有、III層ベースに 3mm以下焼土粒、2mm以下炭化物粒多く含む、陶磁器少し含む
- III'''. 黒色土 締り強、粘性有、III層より黒色強クローム粒含む割合少ないシミ状暗褐色土少し含む
- IV. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースにシミ状暗褐色土と 1mm以下粒状ローム少し含む、縄文土器含む
- IV'. 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土と暗褐色土斑状に含む(ピット覆土)
- V. 褐色土 締り強、粘性有、地山ソフトローム

溝 1

1. 灰黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに灰黒褐色土を帯状に多量、2 cm以下焼土ブロック多く、1 cm炭化物少し含む
2. 黒褐色土 黒褐色土ベースに 1mm 大焼土・炭化物少し含む
3. 黒褐色土 黒褐色土ベースに 1mm以下ローム粒・焼土・炭化物やや多く含む
4. 暗褐色土 ロームブロックと黒褐色土の混合土
5. 黒褐色土 黒褐色土ベースに 2 cm以下ロームブロック少し、1mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少し含む
6. 褐色土 ロームブロック層、盛土状に溝全体に広がる
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に 2 cm以下ロームブロック多く含むややボロボロする
8. 暗褐色土 締り強、粘性有、3 cm以下ロームブロックと黒褐色土混合土、1 cm大焼土粒多く、5mm以下炭化物少し含む

溝 2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、III層よりローム・炭化物・焼土粒少ない
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層とIV層の混合土

溝 3

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、しみ状・ブロック状・粒状にローム多く含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、しみ状・ブロック状に黒褐色土含む

溝 5

1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm 大ローム粒極少し含む

礎石 3他

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームベースに暗(黒)褐色土斑状に 3mm以下焼土粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに 3 cm以下ロームブロック多く、3mm以下焼土粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに 2mm以下ローム・焼土粒少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームと黒褐色土斑状に 5mm以下焼土少し含む

礎石 7~9

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 cm以下灰黒褐色土、3 cm以下焼土・炭化物やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2 cm以下灰黒褐色土、3 cm以下焼土・炭化物やや多く含む

井戸 1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに 2 cm以下ロームブロック多量に含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層よりロームブロック少し 5mm以下ローム粒多く含む
3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、3 cm以下ロームブロックと黒褐色土混合土

井戸 2

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックの間に黒褐色土少し含む
2. 褐色土 締り強、粘性有、ロームベースにシミ状に黒褐色土極少し含む
3. 灰色 締り強、粘性有、灰色粘土にシミ状に酸化鉄多く含む
4. 褐色土 締り強、粘性有、2層に同じ
5. 褐色土 締りやや弱、粘性有、2・5層に黒褐色土を少し含み締り弱い
6. 溝 4 覆土

土坑 1・2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、地山ソフトロームに似た暗褐色土主体に 1mm 大ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 cm以下ロームブロック多く、同黒褐色土少し含む、土坑 1~3は焼土粒・灰黒・褐色土全く含まない、中世の遺構?

土坑 4

1. 黒褐色土ベース 締り強、粘性有、2 cm以下ロームブロック多量に含む

土坑 5

0. 攪乱

1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm 大ローム粒極少し含む
2. 黒色土 締り弱、粘性有、3 cm以下ロームブロック多く含む
3. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む

土坑 6

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、しみ状III層とローム粒を含む

土坑 7

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3 cm以下ロームブロック多く含む

ピット 7

0. 攪乱

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに 1.5 cm以下シミ状ローム多く、1mm 大ローム粒少し、土器片含む、トレンチ 1の縄文土器出土層も同じ
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層より明るく、シミ状に黒褐色土少し含む

ピット 12・13・21

0. 攪乱

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2 cm以下ローム多く、2mm以下焼土・炭化物少し含む

ピット 14~16・18~20

1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、5mm以下ローム粒・焼土・炭化物少し含む
2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックの間に黒褐色土含む
3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックの間に黒褐色土含む、2層よりローム多い
4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1層にほぼ同じ、焼土少ない
5. 褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロック層
6. 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土ベースにシミ状にローム少し含む
7. 黒褐色土 締り弱、粘性有、4層に同じ、下層にロームブロック少し含む

ピット 17

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、3 cm以下ロームブロック多く含む、焼土・炭化物ほとんど含まない
2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、5mm以下ローム粒少し焼土・炭化物ほとんど含まない灰黒褐色土含まない

第29表 福岡新田遺跡土坑・ピット・井戸一覧表

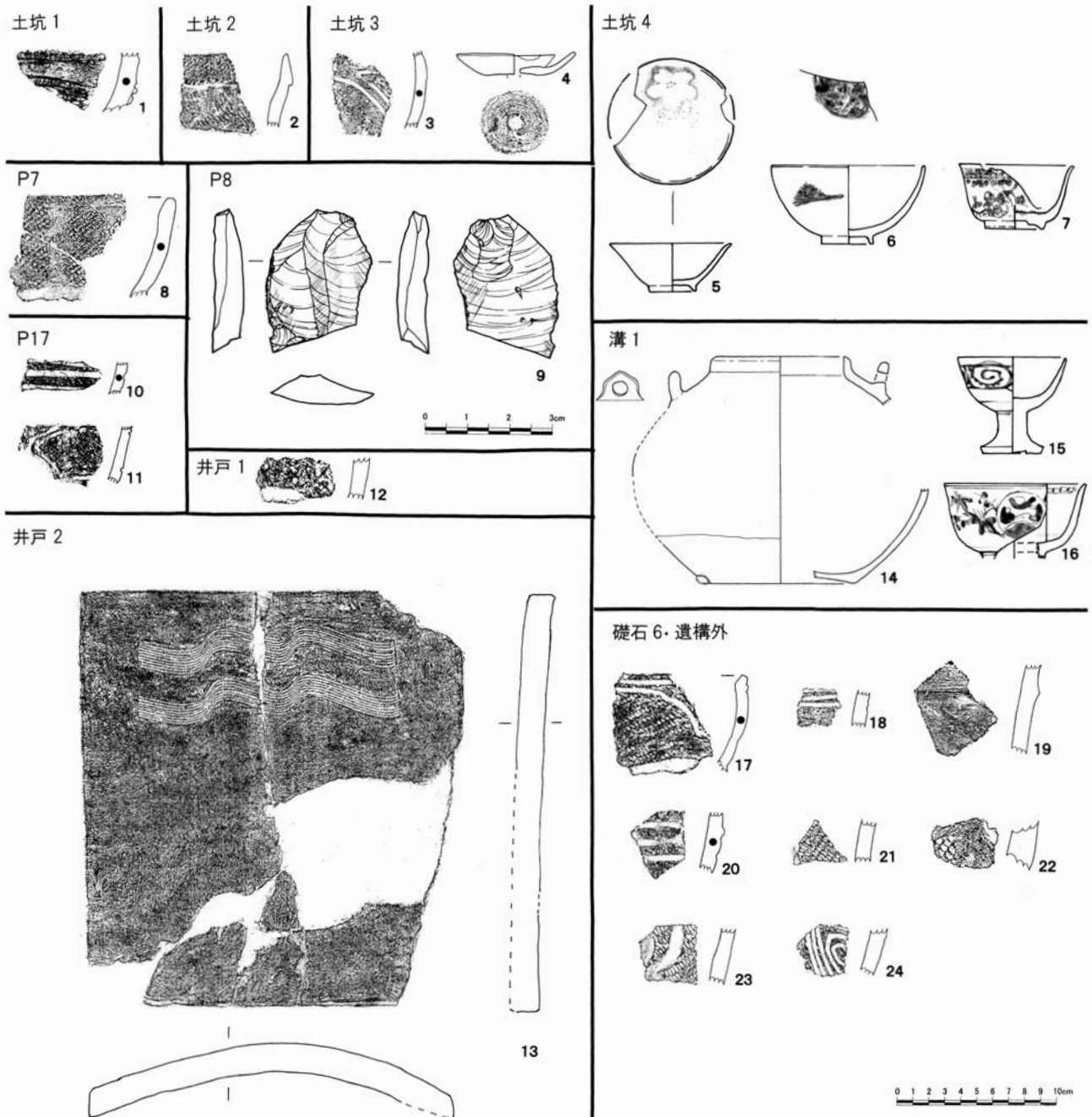
(単位:cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|------|-----------|----------|-------|
| 土坑1 | 円形 | 104×97 | 81×81 | 16.4 |
| 土坑2 | 不明 | 118×(51) | 85×(41) | 32.2 |
| 土坑3 | 不明 | (65×57) | 45×25 | 113.3 |
| 土坑4 | 不明 | (143)×56 | (135)×40 | 27.7 |
| 土坑5 | 不明 | (360)×65 | (351)×35 | 36.3 |
| 土坑6 | 不明 | (145)×119 | 75×(48) | 17.8 |
| P 1 | 楕円形 | 64×41 | 39×15 | 62 |
| P 2 | 円形 | 55×42 | 14×10 | 69.7 |
| P 3 | 円形 | 35×35 | 12×11 | 30.7 |
| P 4 | 円形 | 42×42 | 20×18 | 70 |
| P 5 | 楕円形 | 65×44 | 39×6 | 27.2 |
| P 6 | 楕円形 | 76×52 | 46×12 | 29.5 |
| P 7 | 円形 | 79×68 | 70×56 | 24.4 |
| P 8 | 円形 | 36×35 | 22×21 | 49.8 |
| P 9 | 方形 | 41×39 | 26×19 | 19.6 |

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|------|------|---------|-------|------|
| P 10 | 方形 | 40×39 | 27×24 | 34.9 |
| P 11 | 方形 | 29×29 | 20×18 | 42.3 |
| P 12 | 不整形 | 73×44 | 26×21 | 29.2 |
| P 13 | 円形 | 33×33 | 18×17 | 25.1 |
| P 14 | 不明 | 40×21 | 11×8 | 41.2 |
| P 15 | 方形 | 38×26 | 19×13 | 53.1 |
| P 16 | 方形 | 24×17 | 10×10 | 56 |
| P 17 | 不明 | (65)×35 | 37×25 | 80.7 |
| P 18 | 不明 | 35×(32) | 10×4 | 77.5 |
| P 19 | 不明 | 36×(35) | 10×10 | 66.5 |
| P 20 | 円形 | 45×39 | 15×11 | 73.8 |
| P 21 | 楕円形 | 57×43 | 35×22 | 31.8 |
| 井戸1 | 円形 | 60×60 | 40 | 50.3 |
| 井戸2 | 円形 | 80×68 | 60 | 143 |

第30表 福岡新田遺跡第1地点出土遺物観察表

| No | 出土遺構名 | 種別・器種 | 単位cm・g(括弧付きは残存値) | | | 技法・文様・その他 | 推定産地 | 推定年代 | 残存・備考 |
|----|-------|---------|------------------|---------|-------|-----------------------------|--------|---------------|---------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅・内径 | 高さ・厚さ | | | | |
| 1 | 土坑1 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 弧状に細かな角押文、金雲母含む | - | 縄文時代中期前半 | |
| 2 | 土坑2 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 折り返し状口唇部+体部外面Lr縄文 | - | 縄文時代中期 | |
| 3 | 土坑3 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 沈線文、金雲母含む | - | 縄文時代中期前半 | |
| 4 | 土坑3 | 土器/かわらけ | 7.3 | 4.0 | 1.2 | 轆轤成形/糸切底(右)/口縁部煤附着/底部に焼成後穿孔 | 在地系 | 1750年代~1860年代 | 蜀台に転用か |
| 5 | | 磁器/小坏 | 7.7 | 2.9 | 2.9 | 轆轤成形/吹墨/内面桜花文 | 瀬戸・美濃系 | ~昭和期前半 | |
| 6 | 土坑4 | 磁器/碗 | 5.0 | 3.2 | 5.0 | 轆轤成形/陰刻染付/外面松文、内面不明 | 瀬戸・美濃系 | 1840年代~ | |
| 7 | | 磁器/小坏 | 7.1 | 4.0 | 3.5 | 轆轤成形/蛇ノ目凹形高台/銅板転写染付/外面松下文人文 | 瀬戸・美濃系 | 1890年代~ | |
| 8 | P7 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 口縁部縦位RL縄文+頸部横位沈線 | - | 中期阿玉台系 | |
| 9 | P8 | 黒曜石/剥片 | - | - | - | 側縁に細部調整加工痕有り | - | 縄文時代 | |
| 10 | P17 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 沈線間に単節縄文、金雲母含む | - | 縄文時代中期 | |
| 11 | | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 2本の蛇行沈線+単節縄文 | - | 縄文時代中期 | |
| 12 | 井戸1 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 磨滅著しく文様不明 | - | 縄文時代 | |
| 13 | 井戸2 | 瓦/平瓦 | 26.1 | (23.0) | 2.0 | キッコミ1ヶ所、凸面に8条と9条の櫛型文を引く | 不明 | 1960年代初頭 | |
| 14 | | 陶器/土瓶 | 8.7 | 14.2 | 9.2 | 轆轤成形/二耳・三足貼付/藁灰釉 | 不明 | - | 注口欠損 |
| 15 | 溝1 | 磁器/仏飯具 | 6.5 | 3.7 | 6.0 | 轆轤成形/染付/外面渦巻き文 | 肥前系 | 18世紀~19世紀前半 | |
| 16 | | 磁器/碗 | 9.0 | - | (4.8) | 轆轤成形/染付/口縁内連鎖文、外面窓絵梅笹文 | 肥前系 | 1850年代~1860年代 | |
| 17 | 礎石6 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 沈線区画内RL縄文、金雲母含む | - | 中期阿玉台系 | |
| 18 | 包含層 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 横位2本沈線 | - | 縄文時代中期 | |
| 19 | | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 断面三角形微隆帯貼付 | - | 縄文時代中期 | 旧名称1号住居 |
| 20 | 表土 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 隆帯+沈線、金雲母含む | - | 縄文時代中期 | |
| 21 | | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | RL縄文+沈線 | - | 中期加曾利EII式 | |
| 22 | 包含層 | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | RL縄文+沈線 | - | 中期加曾利EII式 | |
| 23 | | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | RL縄文+沈線 | - | 後期称名寺式 | 旧名称1号住居 |
| 24 | | 縄文土器/深鉢 | - | - | - | 縄文+沈線 | - | 縄文時代中~後期 | |



第40図 福岡新田遺跡第1地点出土遺物 (1/4・2/3)

第15章 西ノ原遺跡の調査

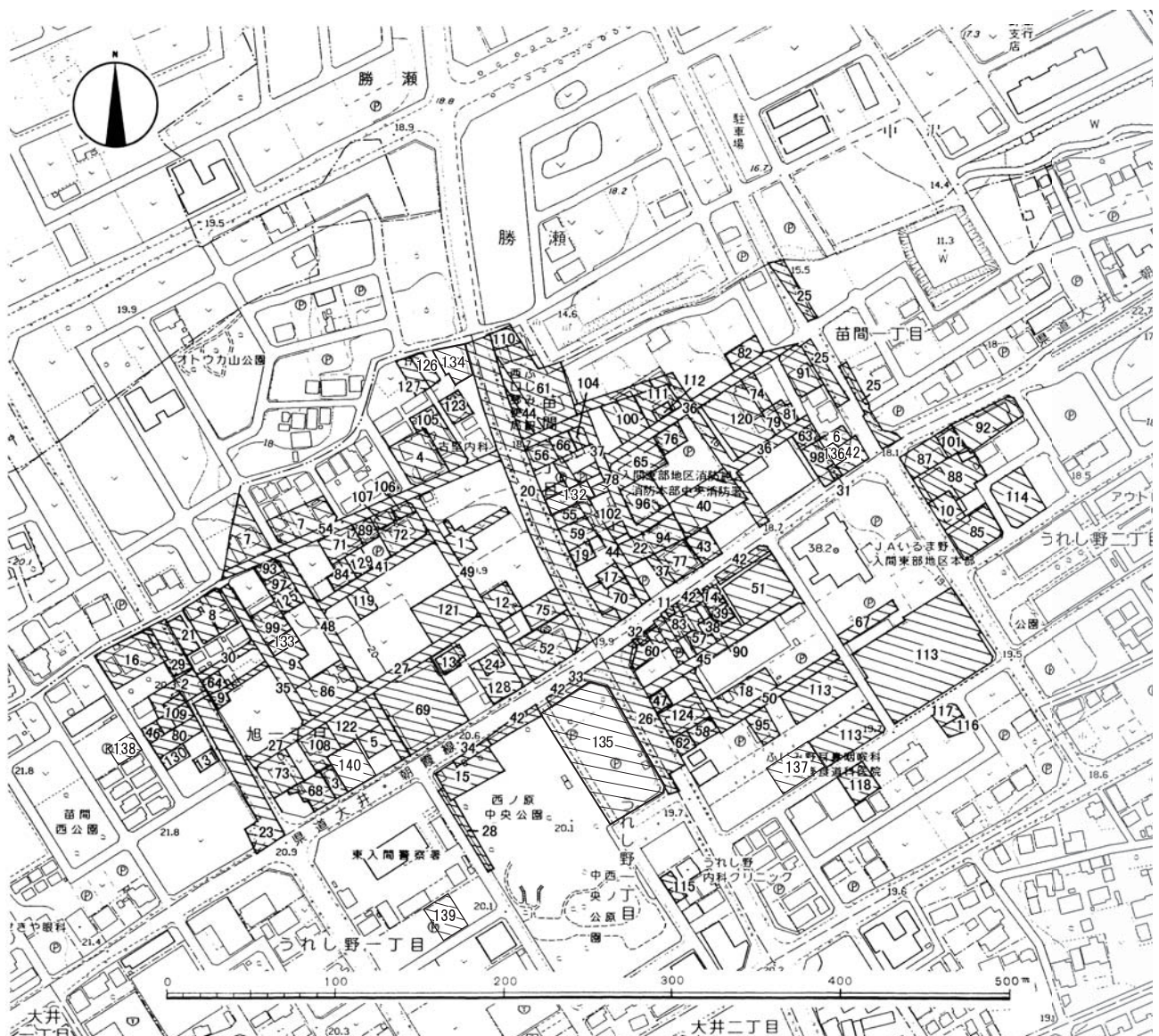
I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2008年1月現在で141地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、確認された遺構と遺物から旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通じた良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第41図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 西ノ原遺跡第135地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅の駐車場建設に伴うもので、原因者より2007年9月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央部に立地し、2006年5月29日から6月19日（試掘調査は同年3月14日から4月28日）まで共同住宅本体部分の本調査を行なった場所の北側部分にあたる。このため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年11月5日から12日まで行なった。幅1mと2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なった。

調査の結果、縄文時代の土坑1基、ピット3基を確認した。旧石器時代の確認調査は行なっていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構

土坑とピットは覆土層の観察から縄文時代とみられる。

第31表 西ノ原遺跡第135地点土坑・ピット一覧表

(単位:cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|------|----------|----------|------|
| 土坑 | 不明 | (146×55) | (144×50) | 37.4 |
| P1 | 不明 | (27)×26 | (15)×10 | 40.5 |
| P2 | 円形 | 26×24 | 16×15 | 44.7 |
| P3 | 不明 | 37×(15) | 12×(5) | 16.6 |

III 西ノ原遺跡第140地点

(1) 調査の概要

調査は学習塾建設に伴うもので、原因者より2007年4月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、北側に隣接する第122地点では縄文時代中期の住居跡と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年5月7日から10日まで行なった。幅2～2.5mのトレンチ7本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査区南側で県道に並行するように砂利が広がる旧道路跡を確認したが、縄文時代の遺構は確認されなかった。なお、旧石器時代の確認調査は行なっていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

IV 西ノ原遺跡第141地点

(1) 調査の概要

調査は店舗兼事務所建設に伴うもので、原因者より2007年4月23日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲外に位置するが申請者と協議の結果、遺構の分布を確認し遺跡範囲を明らかにするための試掘調査を実施した。試掘調査は同年5月8日、9日に行なった。幅1.7mと2.7mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。

調査の結果、土坑1基を検出した。遺構の時代は、覆土層の観察から縄文時代の落とし穴や風倒木痕と類似するが、出土遺物はない。ピットも覆土層が縄文時代のピットに類似するが出土遺物はない。

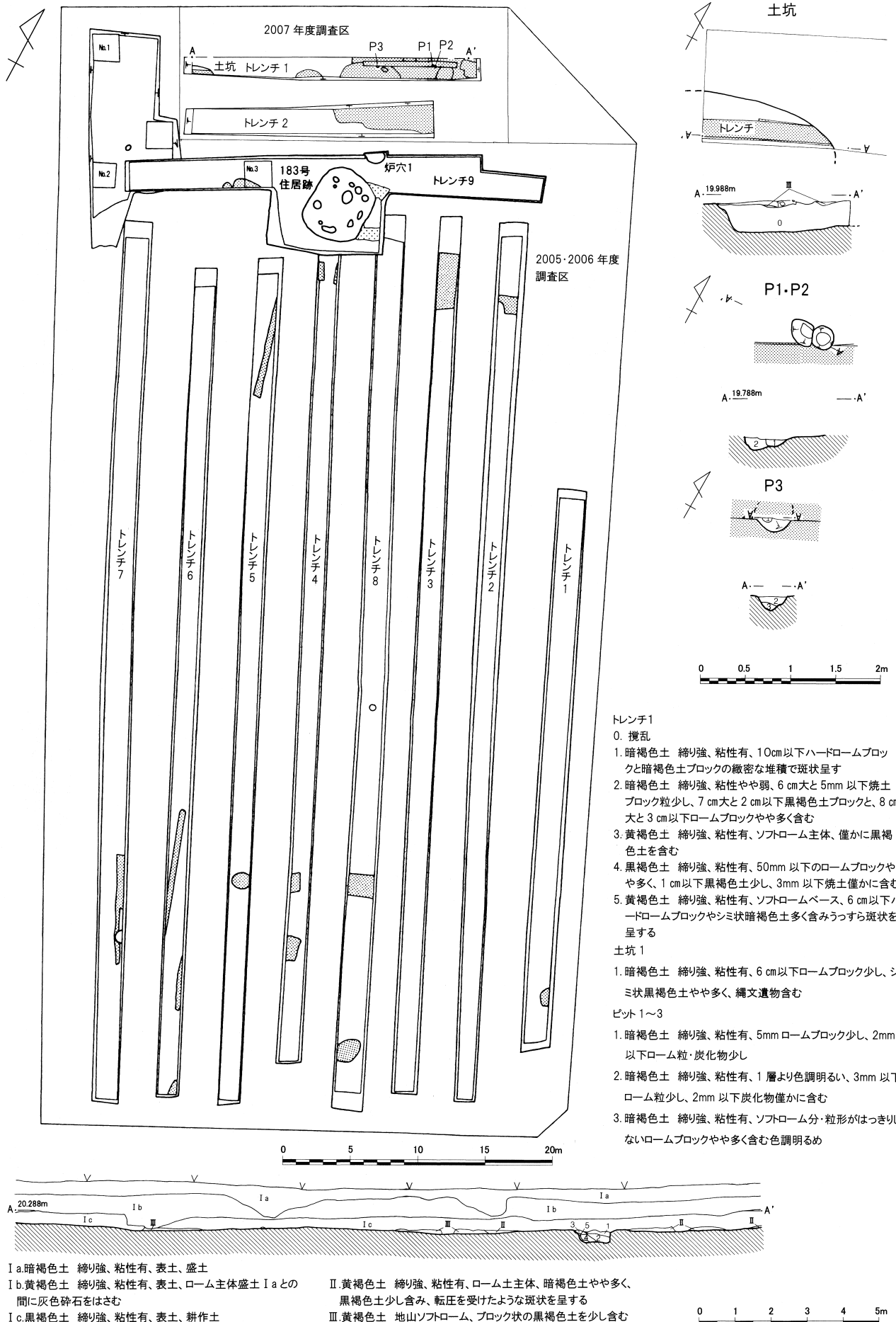
(2) 遺構と遺物

①土坑・ピット

土坑の上幅は70～110cm、深さは70cm以上である。

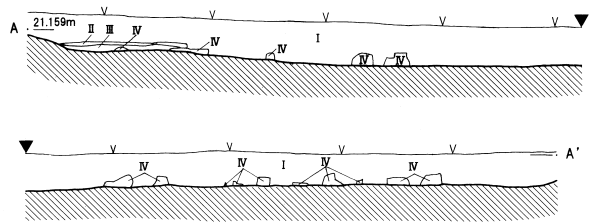
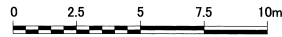
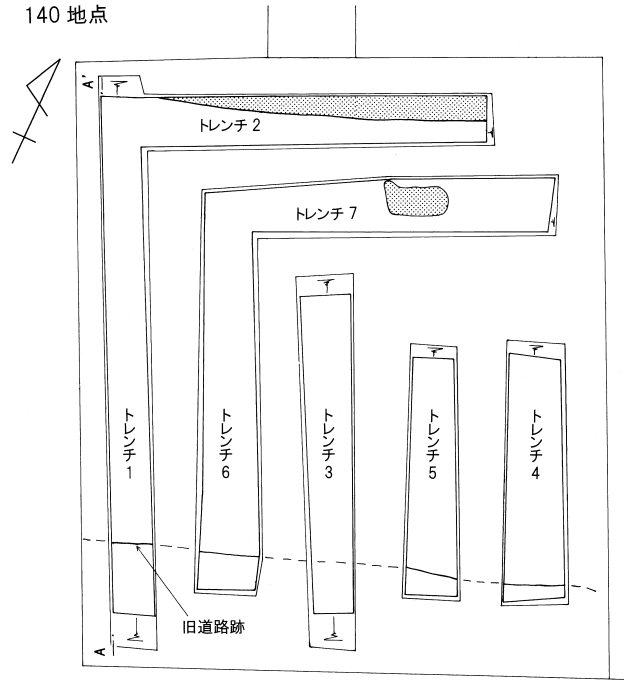
ピットの平面形は楕円形で、確認面径33×25cm、底径18×15cm、深さ17.1cmである。

今回の試掘調査では、旧石器時代の確認調査は行なっていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。



第42図 西ノ原遺跡第135地点遺構配置図 (1/400)、土層図 (1/150)、土坑・ピット (1/60)

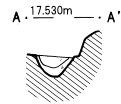
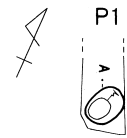
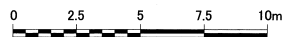
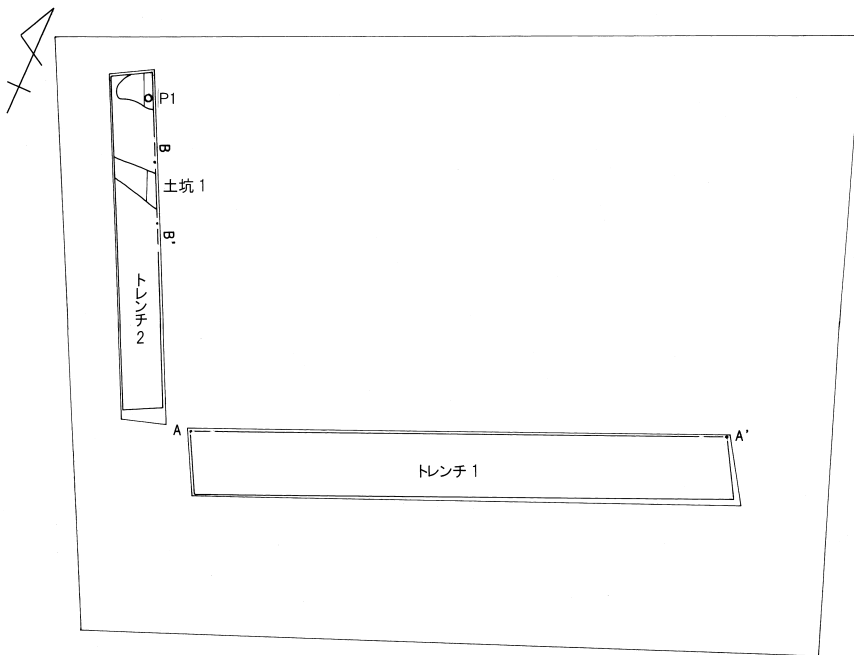
140 地点



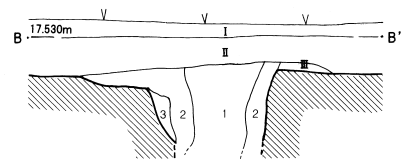
- I. 黒色土 締り弱、粘性有、旧耕作土
- II. 黒色土 締り強、粘性有、3 cm以下砂利多く含む、旧道路跡
- III. 暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土ベースにシミ状にロームを多く含む、ソフトローム
- IV. 褐色土 締り強、粘性有、地山ロームややソフト化している



141 地点

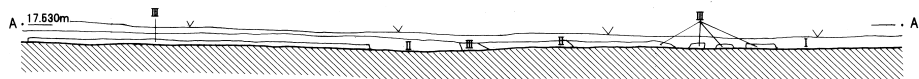
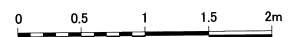


土坑 1



ピット 1

- 1. 黒色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層よりやや明るく、5mm以下シミ状ローム少し含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2層とロームブロック(3 cm以下)斑状に含む



- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土、耕作土
- II. 黒褐色土 締り弱、粘性有、表土、耕作土(ロームブロック多く含む)
- III. 褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム地山

土坑 1

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm大ローム粒・焼土粒少し含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層よりやや明るく、5mm以下シミ状ローム少し含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2層とロームブロック(3 cm以下)斑状に含む

* 下端は未確認、縄文の落し穴 or 風倒木痕に土層類似

土坑 1の平面プランは溝状にのびる



第43図 西ノ原遺跡第140・141地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑・ピット (1/60)

第16章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12~16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行なわれた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2008年1月現在30地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で縄文時代中期後半~後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

II 神明後遺跡第31地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年7月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年8月3日から7日まで行なった。幅2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。近・現代とみられる建物跡等の攪乱と、調査区北東隅で土坑2基を確認した。写真撮影・全測図等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

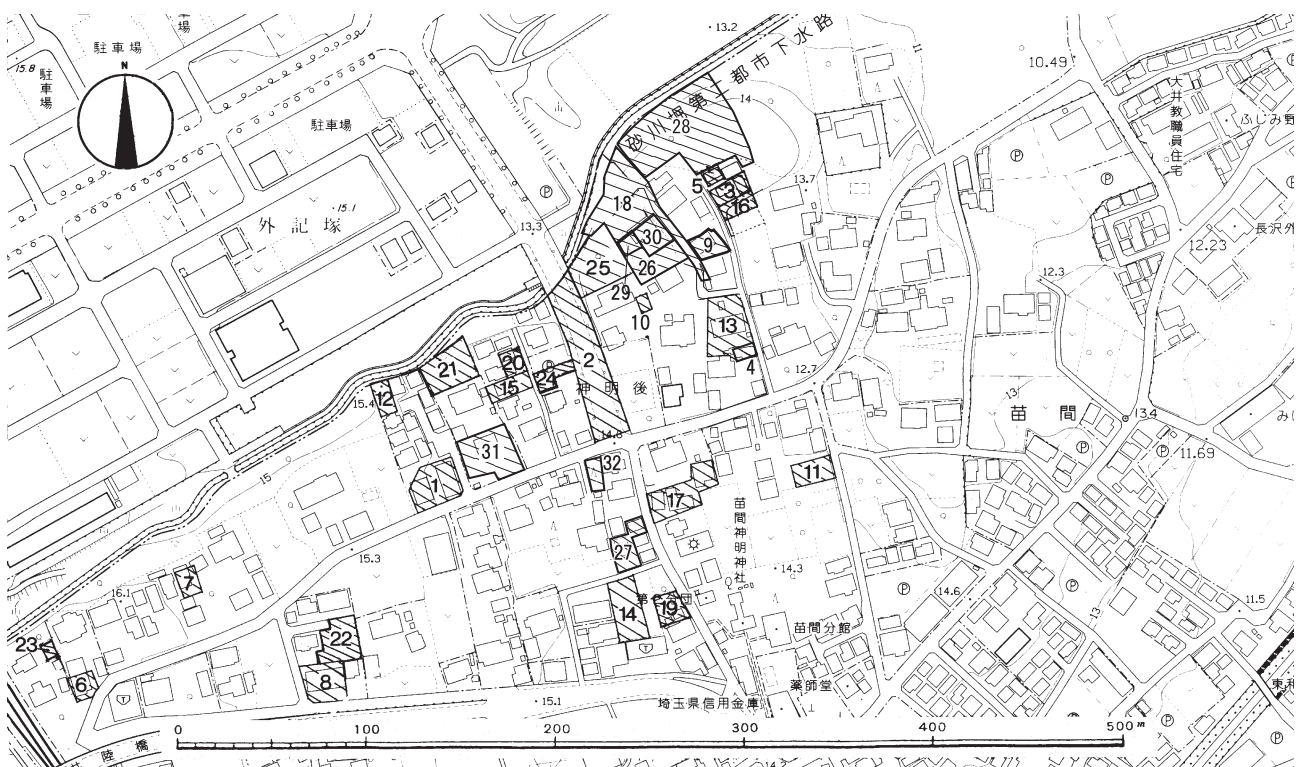
(2) 遺構

土坑は2基とも覆土層の観察等から同様の遺構とみられ、植栽痕の可能性はある。

①土坑

第32表 神明後遺跡第31地点土坑一覧表 (単位:cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|------|---------|-------|------|
| 土坑1 | 円形 | 83×(75) | 31×22 | 21.9 |
| 土坑2 | 円形 | 83×80 | 36×34 | 23.8 |



第44図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

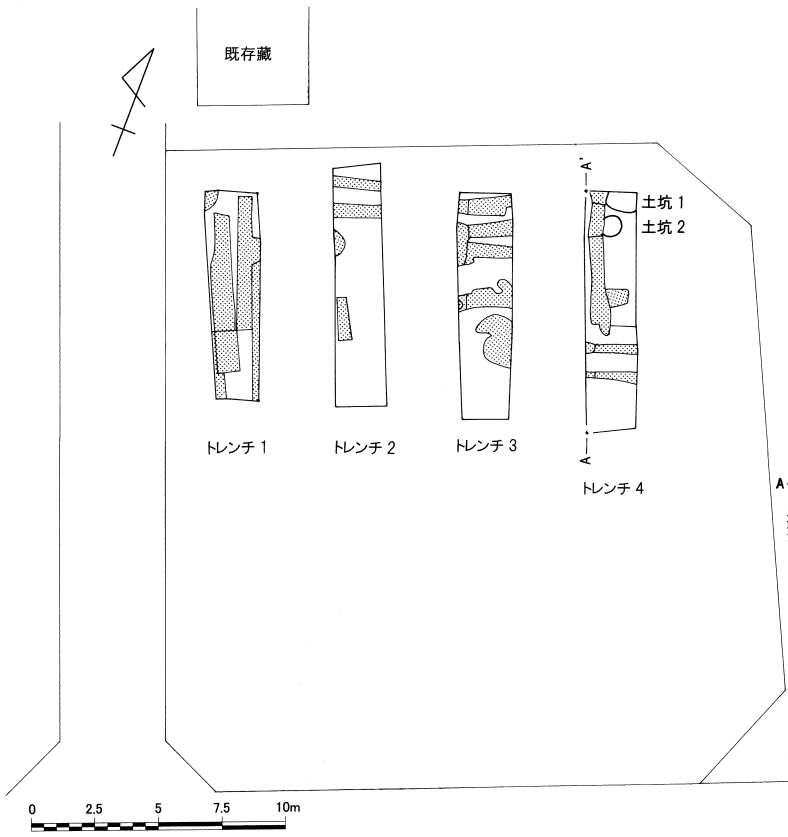
III 神明後遺跡第32地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年2月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年3月13日に行なった。幅1mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。

31 地点

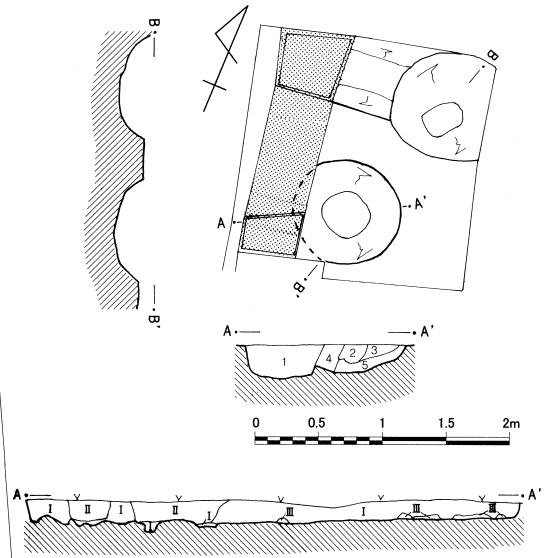


調査の結果、1トレンチ中央部で遺構らしきプラントと土層を確認したが、大部分を攪乱されており広がり等は不明である。近・現代とみられる建物跡やイモビツ跡等の攪乱が調査区全体に広がっており、遺構も破壊されている可能性が高い。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

出土遺物は、表土層から泥メンチ1点が出土した。重さ4.79gである。

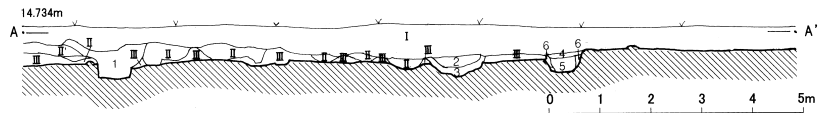
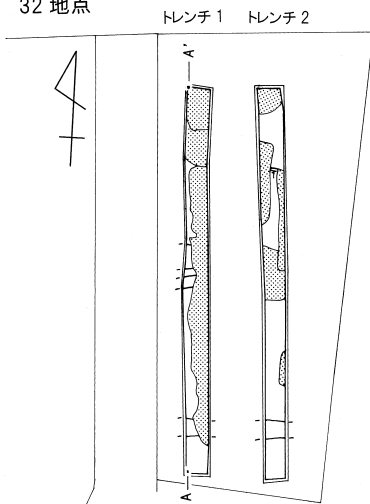
写真撮影・全測図等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

土坑 1・2

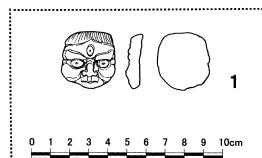


- I. 黒色土 締り強、粘性有
- II. 褐色土・黒褐色土 締り強、粘性有 既存建物基礎または埋土
- III. 褐色土 締り強、粘性有、ソフローム地山
- 土坑 1・2
- 1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2cm以下ローム多量に含む、1cm以下黒色土少し含む
- 2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm以下ローム粒と2cm以下黒色土少し含む
- 3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2層にほぼ類似、ローム粒やや蜜に含む
- 4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2・3層よりローム粒やや蜜に含むがほぼ同じ
- 5. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームベースに黒褐色土斑状に少し含む

32 地点



- I. 暗褐色土・黒褐色土 表土
- II' 暗褐色土 締り強、粘性有、大型のソフロームブロック含む、3mm以下ローム粒少し含む
- II. 黒褐色土 締り有、粘性有、耕作土
- III. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフロームと暗褐色土ベースに地山から巻き上げられたようにロームブロック多く含む
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、イモビツ覆土、2cm以下ロームブロック少し、3mm以下ローム粒均一にやや多く含む、泥メンチ1点出土
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、溝状遺構覆土、3mm以下ローム粒均一に少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、溝状遺構覆土、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、土坑状遺構覆土、1cm以下ロームブロック少し、ローム粒やや多く、1cm炭化物少し含む
- 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、土坑状遺構覆土、1.5cm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒多く、1cm炭化物少し含む
- 6. 暗褐色土 締り強、粘性有、土坑状遺構覆土、1cm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む



第45図 神明後遺跡第31・32地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第17章 苗間東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

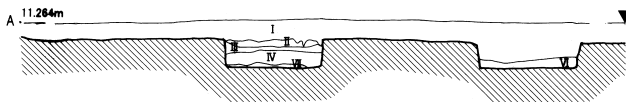
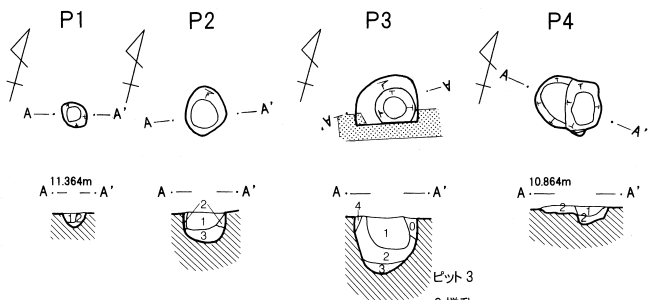
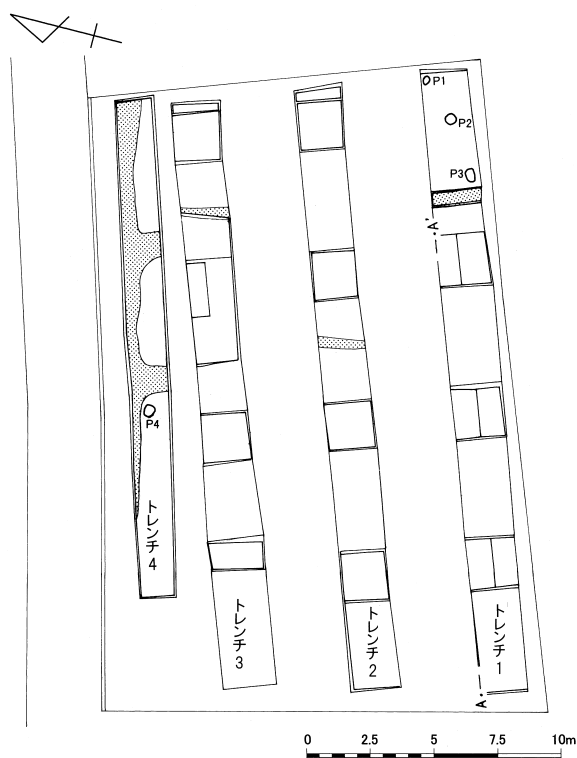
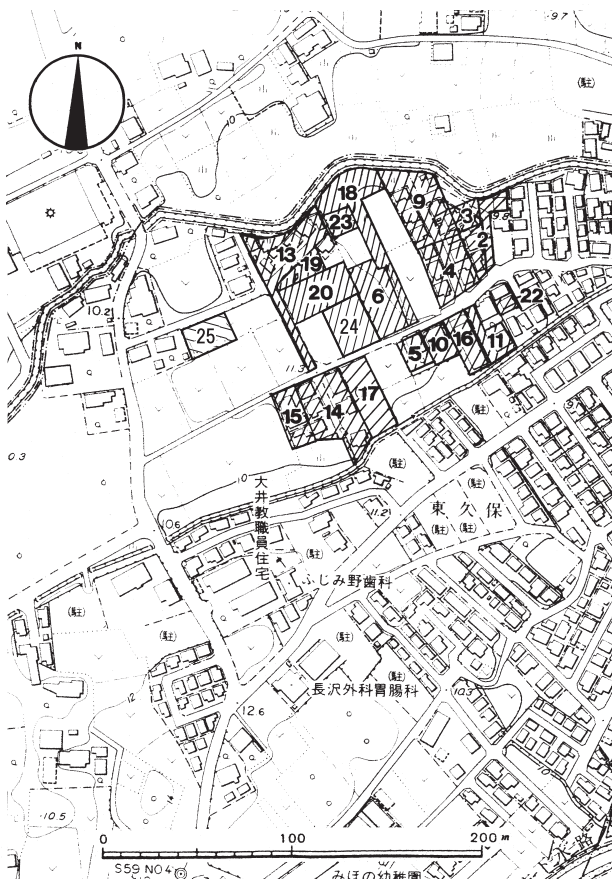
苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、さかい川の谷頭部から約1,800m下った右岸、さかい川と浄禅寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高10~11m、現谷底との比高差は1~1.5mを測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禅寺川対岸には浄禅寺跡遺跡がある。

遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1979年に開発に伴う緊急調査として行なわれた。2008年1月現在25ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で縄文時代中期後半~後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

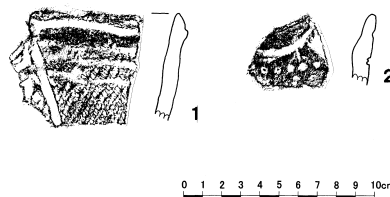


- I 暗黒褐色土 表土
- II 黄褐色土 地山層
- III 黄褐色ハードローム層(立川ロームIV層相当)
- IV 暗黄褐色ハードローム層(立川ロームV層相当)
- V 黄褐色ハードローム層(立川ロームVI層相当)
- VI 暗黄褐色ハードローム層(立川ロームVII・IX層相当)
- VII 黄褐色ハードローム層(立川ロームX層相当)

- ピット1
1. 暗褐色土 締り強、粘性有
 2. 暗褐色土 締り有、粘性有
- ピット2
1. 黒褐色土 締り強、粘性有
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有

- ピット3
0. 攪乱
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有
 4. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱

- ピット4
1. 暗褐色土 締り強、粘性有
 2. 暗褐色土 締り有、粘性有



第46図 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第25地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)、出土土器(1/4)

第33表 苗間東久保遺跡調査一覧表

| 地点 | 調査年 | 面積 (m ²) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 |
|----|------|-------------------------|------|---|----------|
| 1 | 1979 | 605 | 共同住宅 | 炉穴10、土坑14、加曾利EⅡ式土器・石器 | 東部遺跡群Ⅰ |
| 2 | 1979 | 530 | 共同住宅 | 住居1、縄文中期後半土器 | 東部遺跡群Ⅰ |
| 3 | 1980 | 200 | 共同住宅 | 遺構なし、縄文土器細片 | 東部遺跡群Ⅱ |
| 4 | 1980 | 750 | 共同住宅 | 住居2、土坑6、縄文中期後半土器 他 | 東部遺跡群Ⅱ |
| 5 | 1980 | 106 | 共同住宅 | 炉穴2、集石1、土坑3、柱穴32、ピット6、縄文早期・後期土器 | 東部遺跡群Ⅱ |
| 6 | 1980 | 577 | | 住居2、炉穴4、土坑23、柱穴群、縄文中期後半・称名寺式土器 | 東部遺跡群Ⅱ |
| 7 | 1982 | 396 | 共同住宅 | 遺構なし、縄文土器細片 | 東部遺跡群Ⅲ |
| 8 | 1982 | 360 | 共同住宅 | 遺構なし、遺物無し | 東部遺跡群Ⅳ |
| 9 | 1983 | 660 | 共同住宅 | 池状遺構、土坑1、縄文中・後期土器・石器 | 東部遺跡群Ⅴ |
| 10 | 1984 | 340 | | 土坑5、ピット45、縄文後期堀之内式土器 | 未報告 |
| 11 | 1984 | 560 | | 遺構なし、縄文中期勝坂式土器 他 | 未報告 |
| 12 | 1984 | 320 | 共同住宅 | 遺構なし、縄文中期加曾利E式土器 他 | 未報告 |
| 13 | 1984 | 900 | | 住居2、土坑88、ピット10、縄文堀之内式・加曾利B式土器 | 大井町史資料Ⅰ |
| 14 | 1987 | 923 | | 土坑7、ピット92、平安以降ピット6、縄文後期土器 | 東部遺跡群Ⅸ |
| 15 | 1988 | 447 | 共同住宅 | 土坑7、ピット21、縄文後期称名寺式・堀ノ内式土器 | 東部遺跡群Ⅸ |
| 16 | 1989 | 390 | 共同住宅 | 住居1、土坑2、縄文中期後半・後期前半土器 | 東部遺跡群ⅩⅠ |
| 17 | 1990 | 583 | 駐車場 | 土坑1、縄文前期・後期土器 | 町内遺跡群Ⅰ |
| 18 | 1992 | 906 | 分譲住宅 | 住居3、落とし穴5、土坑11、ピット14、縄文前期・後期土器 | 調査会報告5集 |
| 19 | 1994 | 350 | 宅地開発 | 落とし穴1、住居1、土坑5、ピット39、縄文早期後半・後期土器・石器・土製円盤 | 調査会報告12集 |
| 20 | 1998 | 664 | 個人住宅 | 土坑28、集石土坑5、ピット128、縄文後期土器、旧石器、泥面子 | 調査会報告12集 |
| 21 | 1999 | 350 | 個人住宅 | 土坑2、縄文土器・石鏃 | 町内遺跡群Ⅸ |
| 22 | 2001 | 99 | 個人住宅 | 遺構なし、縄文土器 | 町内遺跡群ⅩⅠ |
| 23 | 2004 | 104 | 個人住宅 | 遺構・遺物なし、 | 町内遺跡群ⅩⅡ |
| 24 | 2006 | 561 | 分譲住宅 | 土坑5、ピット45、縄文早期前半～後期中葉土器・石器 | 市内遺跡群2 |
| 25 | 2007 | 414 | 分譲住宅 | ピット3 | 市内遺跡群4 |

II 苗間東久保遺跡第25地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年6月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部北寄りに位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年7月11日から23日まで行なった。幅約1.7～2mのトレンチ4本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の結果、ピット4基を検出した。なお、旧石器時代の確認調査を行なったが遺構と遺物は確認されなかった。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①ピット

ピット4基を検出したが、覆土層の観察から縄文時代の時期とみられる。

第34表 苗間東久保遺跡第25地点ピット一覧表 (単位:cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|------|---------|-------|------|
| P1 | 楕円形 | 25×18 | 14×12 | 11.6 |
| P2 | 円形 | 39×32 | 23×22 | 47 |
| P3 | 不明 | 50×(37) | 17×17 | 53.7 |
| P4 | 楕円形 | 54×43 | 25×18 | 11.6 |

②出土土器

出土土器は表土層から採取したもので、全て破片である。1は口縁部に横位隆帯を巡らし、胴部は地文LR縄文に沈線文を施す堀之内Ⅰ式。2は沈線に円形刺突文を施す称名寺Ⅲ式である。

第18章 浄禅寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12~14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2008年1月現在32地点で試掘調査及び発掘調査が行なわれ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壇墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 浄禅寺跡遺跡第9地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、土地所有者より2007年3月13日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置する。本地点は、1994年10月18日に農地改良(1m以上の盛土等)に伴う試掘調査を行ない、池跡とみられる黒色土堆積や土坑らしき範囲と、大量の焼土や炭化物を確認している場所のうち、北側の約半分にあたる。このため申請者と協議の結果、建物部分の地盤に基礎を補強するための杭を打ち込むことから建物部分の本調査を実施した。

本調査は2007年5月22日から24日まで行なった。試掘調査で確認されている溝部分について重機で表土除去後、人力による表面精査を行ない、溝を検出した。表土から縄文土器片、近世陶磁器等が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。



第47図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第35表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積 (m ²) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 |
|----|-----------------------------|---|-------------------------|----------------|--|--------------|
| 1 | 苗間東久保579 | 1979.4.3~4.21 | 605 | 共同住宅 | 苗間東久保1地点として報告済み炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期 | 東部遺跡群 I |
| 2 | 苗間東久保573 | 1982.4.1~4.3 | 396 | 共同住宅 | 苗間東久保7地点として報告済み遺構なし、磨耗縄文土器 | 東部遺跡群 III |
| 3 | 苗間東久保581 | 1984.7.20~7.21 | 320 | 共同住宅 | 苗間東久保12地点を浄禅寺3地点とする遺構なし、縄文中期末 | 未報告 |
| 4 | 苗間神明後346-1 | 1989.11.15~11.25 | 150 | 開発予定地 | 炉穴10、土坑7、ピット14、縄文早期後半・前・中期 | 東部遺跡群 X |
| 5 | 苗間374-9 | 1991.8.28~9.3 | 100 | 個人住宅 | 遺構なし、縄文前期・中期土器片 | 町内遺跡群 I |
| 6 | 苗間358-1 | 1991.9.21~12.26 | 826 | 個人住宅 | 遺構なし、遺物なし | 町内遺跡群 I |
| 7 | 苗間東久保573-4 | 1992.10.20~11.20 | 831 | 共同住宅 | 炉穴8、井戸3、堀3、縄文草〜中期 | 調査会報告5集 |
| 8 | 苗間357-1 | (1994.9.20~9.27) | 615 | 宅地分譲 | 落し穴、根切溝 | 町内遺跡群 IV |
| 9 | 苗間353 | (1994.10.18)、 2007.5.22~24 | 1,266 | 農地改良 | 土坑、溝、縄文土器、磁器 | 町内遺跡群 IV、市内4 |
| 10 | 苗間356-1 | 1994.10.31~11.2 | 999 | 宅地分譲 | 近世土壌墓、一石経埋納土坑、六道銭、江戸中後期 | 調査会報告12集 |
| 11 | 苗間352-1 他 | (1995.1.9~2.3) | 572 | 道路 | 湧水口 | 町内遺跡群 IV |
| 12 | 苗間35-95 | 1995.9.25~10.21 | 140 | 個人住宅 | 屋外炉、遺物集中3、ピット16、溝5、縄文中期土器、磁器 | 町内遺跡群 V |
| 13 | 苗間314-2 | (1996.1.8~1.29) | 101 | 個人住宅 | 土坑13、ピット11、井戸1、溝2、縄文早〜後期、陶磁器 | 町内遺跡群 V |
| 14 | 苗間360-1、362-2 | (1996.6.3~6.12) 1996.6.18~7.11 | 2,178 | 個人住宅 | 礫群3、落し穴1、溝4、ピット251、旧石器、縄文土器、陶磁器片 | 町内遺跡群 VI |
| 15 | 苗間362-4・5 | (1996.6.3~6.12) 1996.7.12~8.2 | 494 | 分譲住宅 | 炉穴7 | 町内遺跡群 VI |
| 16 | 苗間579-1 | 1997.11.10~12.19 | 291 | 個人住宅 | 縄文住居1、炉穴14、ピット61、土坑16、溝4、縄文早期後半、前期、中期 | 町内遺跡群 VII |
| 17 | 苗間345-2・10 | (1998.9.29~10.2) | 877 | 個人住宅 | 遺構なし、縄文早期後半、中期後半 | 町内遺跡群 VIII |
| 18 | 苗間345-3・4 | (1999.5.26~6.24) 1999.6.26~8.3 | 599 | 個人住宅 | 炉穴8、集石土坑3、土坑13、ピット27、溝縄文後期土器、土師器 | 町内遺跡群 IX |
| 19 | 苗間神明後345-4 | 1999.8~9 | 703 | 分譲住宅 | 炉穴1、集石2、焼土痕4、土坑22、井戸2、溝8、掘立5、縄文早〜晩期土器、石器、中近世陶磁器、板碑 | 調査会報告15集 |
| 20 | 苗間神明後351-1 | (2001.10.26~10.29) | 223 | 倉庫 | 遺構なし、近世磁器 | 町内遺跡群 X I |
| 21 | 苗間東久保591-3、592-7 | (2001.11.19~11.20) | 182 | 個人住宅 | 遺構なし、遺物なし | 町内遺跡群 X I |
| 22 | 苗間373-5・8、 377-5・3・4 | (2002.4.23~5.14) | 935 | 分譲住宅 | 土坑1、ピット4、溝、遺物なし | 町内遺跡群 X II |
| 23 | 苗間592-1 | (2003.4.28) | 100 | 個人住宅 | ピット2、溝、遺物なし | 町内遺跡群 X II |
| 24 | 苗間神明後346-1・2の一部 | (2004.8.30~8.31) | 391 | 個人住宅 | 遺構なし、遺物なし | 町内遺跡群 X II |
| 25 | 苗間339-1・2 | (2004.9.22~10.12) | 721 | 共同住宅 | ピット2 | 町内遺跡群 X II |
| 26 | 苗間神明後354-2の一部 | (2005.3.3~3.8) 2006.4.17~28.6.7~15 | 216 | 分譲住宅 | 炉穴10、土坑8、ピット21、溝1、縄文中期片 | 市内遺跡群3 |
| 27 | 苗間神明後354-2 | (2005.12.1~2006.1.22) 2006.1.23~2.23 | 696 | 新設道路築造 分譲住宅 | 住居跡1、炉穴15、埋壺2、土坑117、ピット127、溝1 | 市内遺跡群2 |
| 28 | 苗間字東久保719-7、 720-1 | (2007.1.23) | 2,478 | 園舎改築工事 | 溝2 | 市内遺跡群3 |
| 29 | 苗間570-1・2、 571-1・2、575 | (2007.8.7~9.21) 2007.9.25~11.6 | 4,920 | 分譲住宅 | 掘立柱建物跡3、井戸15、土坑15、堀跡1、溝17、陶磁器、板碑他 | 市内遺跡群4 |
| 30 | 苗間359-1 | (2007.9.14~10.9) 2007.10.9~11.2 | 1,298 | 分譲住宅 | 茶毘跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器、板碑他 | 市内遺跡群4 |
| 31 | 苗間字神明後342-14 一部 | (2007.2.19)、 2007.2.19~3.5 | 171 | 個人住宅 | 住居跡1、炉穴1、土坑1、ピット26、縄文土器、石器 | 市内遺跡群4 |
| 32 | 苗間字神明後340-17、 342-10・15、 | (2007.2.25~3.4) | 188 | 個人住宅 | 堀跡1、ピット1、縄文土器 | 市内遺跡群4 |

(2) 遺構と遺物

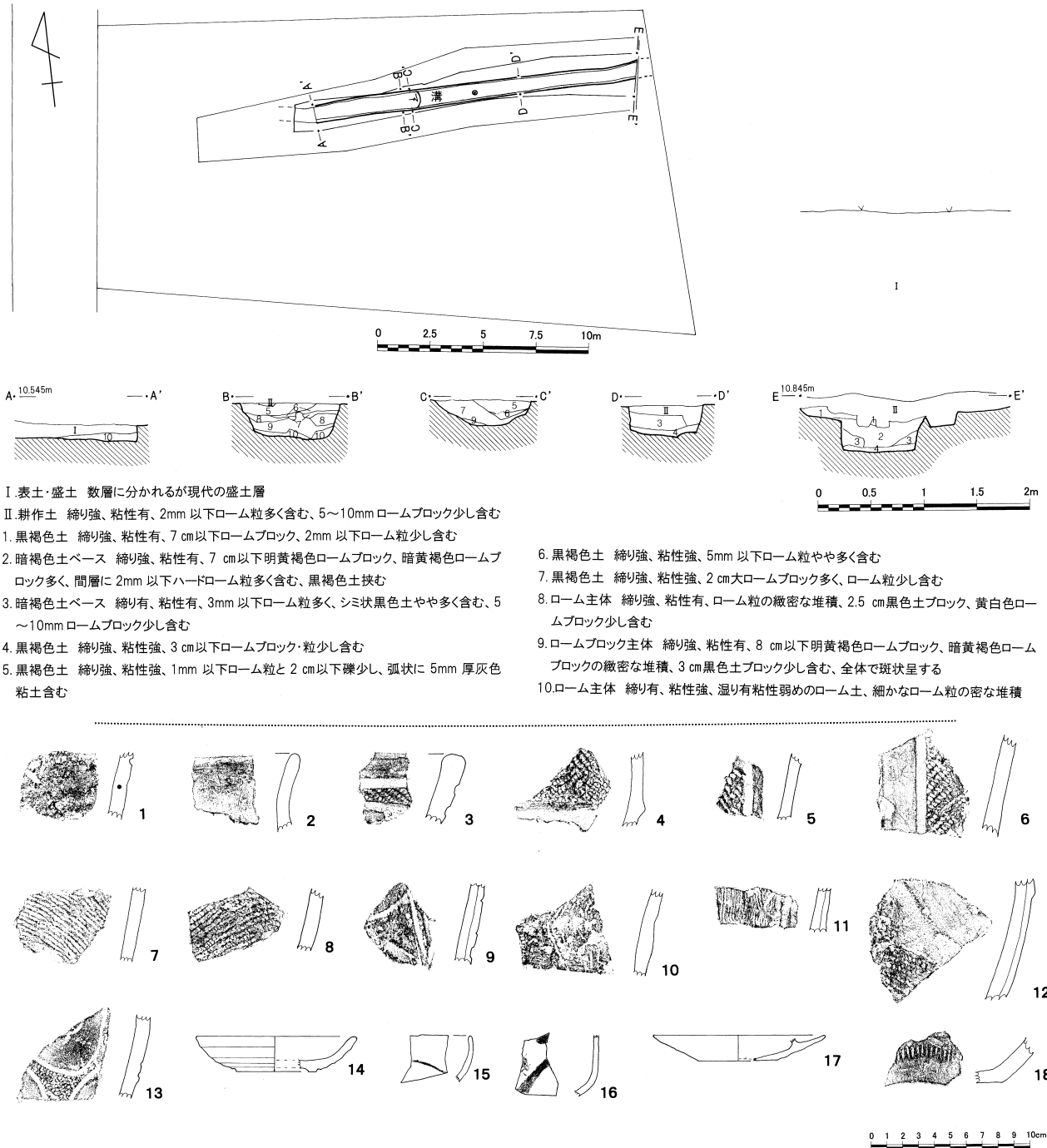
①溝

溝は東から西に傾斜する地形に沿って延びる。上幅74~94cm、下幅25~40cm深さは42.3cm、東端底と西端底の高低差は33.4cmを測る。

②出土遺物 (第48図)

1から18は全て溝の覆土層出土である。1は角押文と沈線を施し胎土に大量の金雲母を含む阿玉台式土器である。2は口縁部無文帯。3は沈線文とRL縄文、4は横位隆帯で胴部はLR縄文を施す。5・6は地文RL又はLR縄文に沈線の懸垂文間を磨消す。7は無節Lr縄文、8は単節RL縄文を施す。9は沈線文を施す。10・11は木口状工具による蛇行条線文を施す。

12は地文RL縄文に微隆帯と磨消しを施す。13は沈線文の間にLR縄文と磨消しを施す。2、7、8は勝坂式から加曾利E式。3~6・9~11は加曾利EII式。12、13は加曾利EIV式である。14は瀬戸・美濃系陶器の志野皿で全面に長石釉、口径・底径・高さは推定で10.2×5.1×2.3cm。15は肥前系磁器の皿が碗で、轆轤成形で内外面に染付けを施す。16は陶器の碗で、轆轤成形に外面に黒色の釉薬で施文。17は瀬戸・美濃系陶器の燈火受付皿で全面鉄釉し内外面上部に煤が付着、口径・底径・高さは推定で10.9×5×1.6cm。18は在地産の瓦質土器で内面回転撫で調整、外面スタレ状刻印文を施す。



第48図 浄禅寺跡遺跡第9地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)

III 浄禅寺跡遺跡第29地点

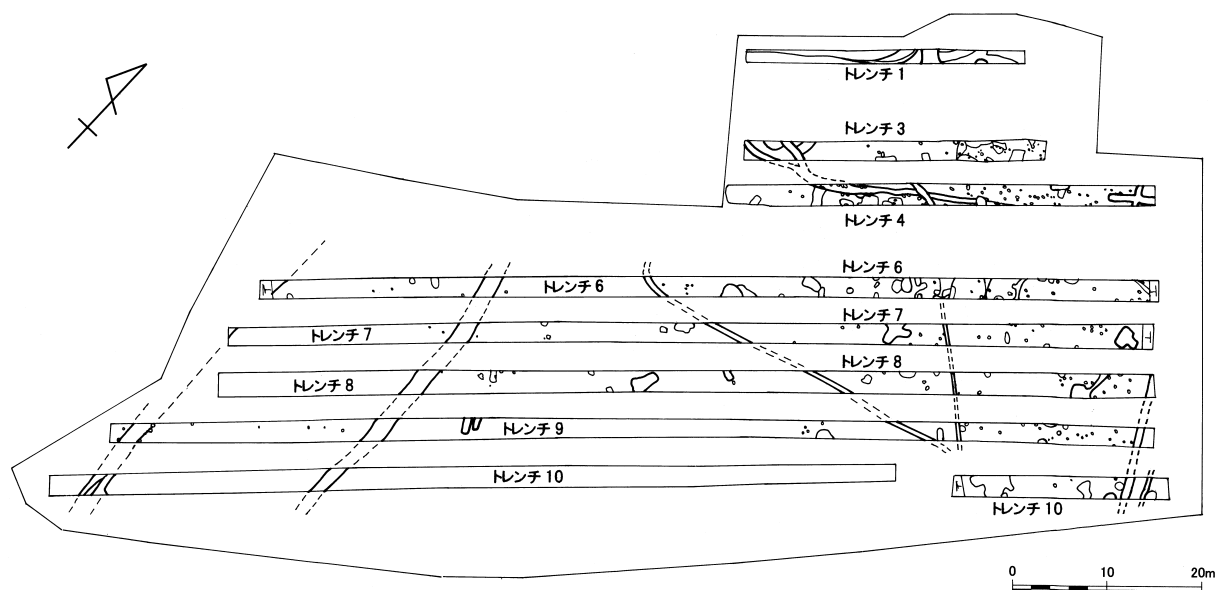
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成で、原因者より2007年6月6日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部の西寄りに位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年8月7日から9月21日まで行なった。幅1.2~2mのトレンチを8本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、中・近世の掘立柱建物跡や井戸・土坑・

溝等の遺構を確認、陶磁器や縄文土器等が多数出土した。遺構確認面は地表面から約60~70cmの深さで、道路築造部分の掘削が地表面から1m以上に及び遺跡に影響を与えるため本調査を行なった。

本調査は2007年9月25日から11月6日まで、道路築造部分の調査を行ない、中・近世の掘立柱建物跡3軒、井戸15基、土坑15基、堀跡1本、溝17本を検出、陶磁器・板碑片・石製品・縄文土器・石器等多数の遺物が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。本調査の成果は第II部第5章に掲載した。



第49図 浄禅寺跡遺跡第29地点遺構配置図 (1/800)

IV 浄禅寺跡遺跡第30地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成で、原因者より2007年6月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年9月14日から10月9日まで行なった。幅2mのトレンチを7本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、中世の茶毘跡や木炭窯・土坑・ピット、縄文時代の落とし穴等の遺構を確認、陶磁器や縄文土器等が出土した。遺構確認面は地表面から約40～150cmの深さであるため、建設予定建物の基礎が遺跡に影響を及ぼす部分について、2007年10月9日から11月2日まで本調査を行なった。

本調査の結果、中世の茶毘跡5基・木炭窯1基、土坑15基・溝2本・ピット等、陶磁器・板碑片・石製品・縄文土器・石器等が出土した。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。試掘調査と本調査の一部で検出した遺構については本章で報告し、本調査の成果は第II部第6章に掲載した。

(2) 遺構と遺物

① 炉穴

炉穴はトレンチ5で1基検出し、縄文時代に属するとみられる。平面形態は不整形を呈し、規模は上端径55×55cm、下端径19×19cm、深さ12cm、焼土範囲は40×40cmで足場はない。

② 落とし穴 (第36表)

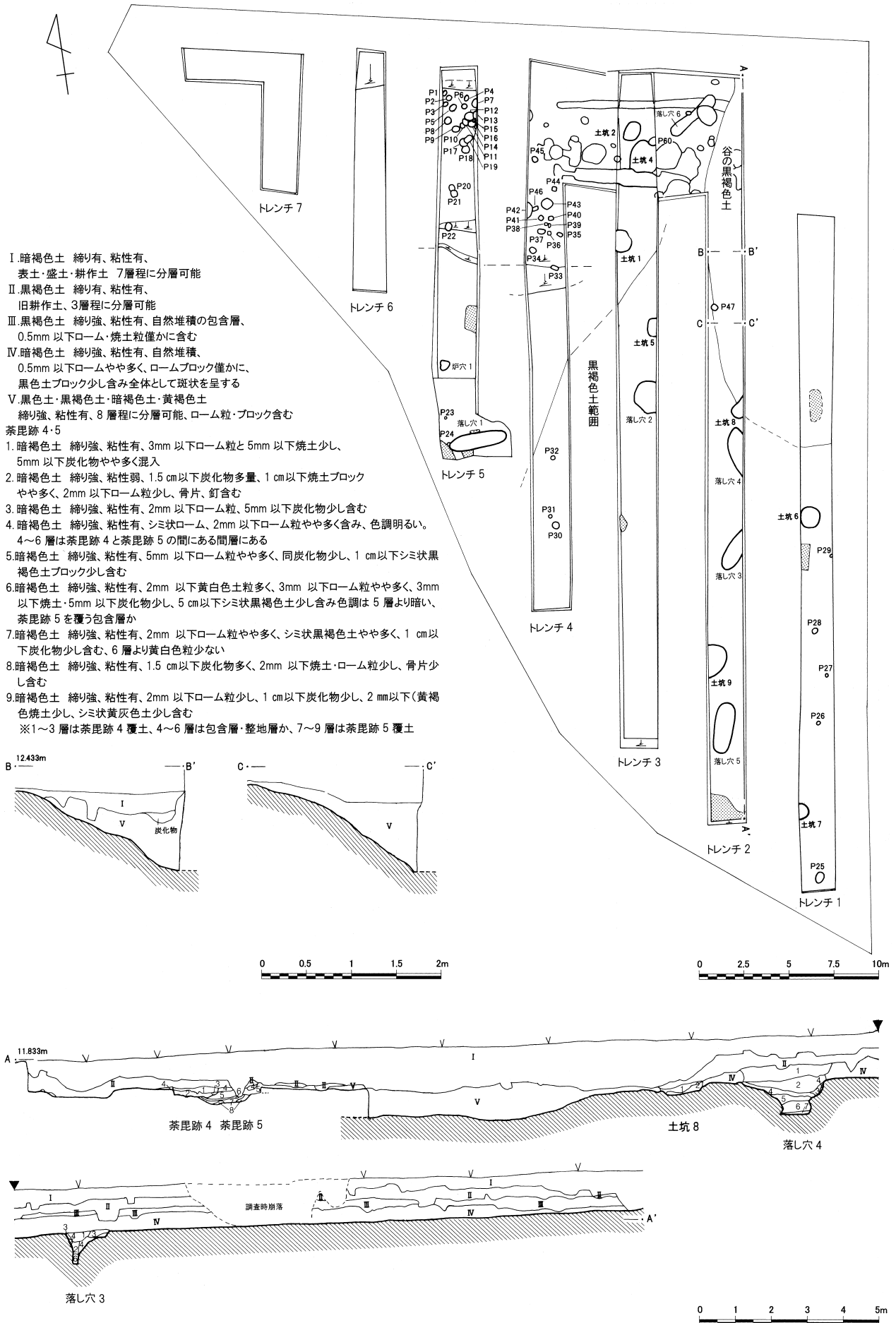
落とし穴は試掘調査と本調査合わせて6基検出した。調査区南側のやや高い位置に集中し、時期は縄文時代に属するとみられる。

③ 土坑 (第37表)

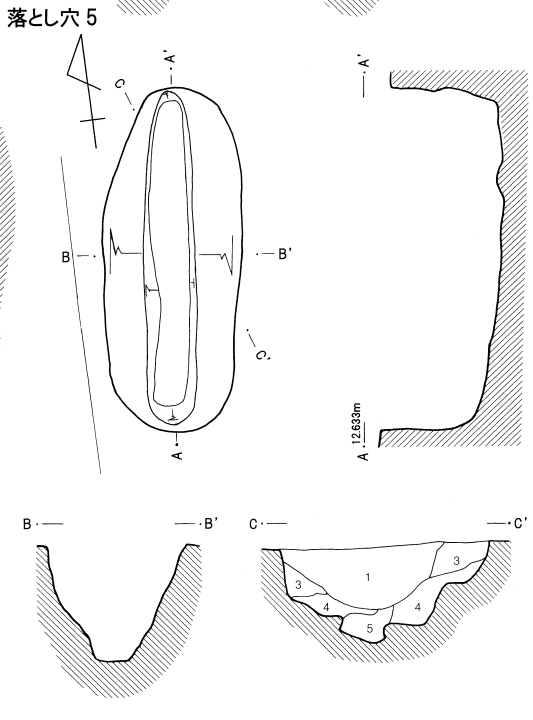
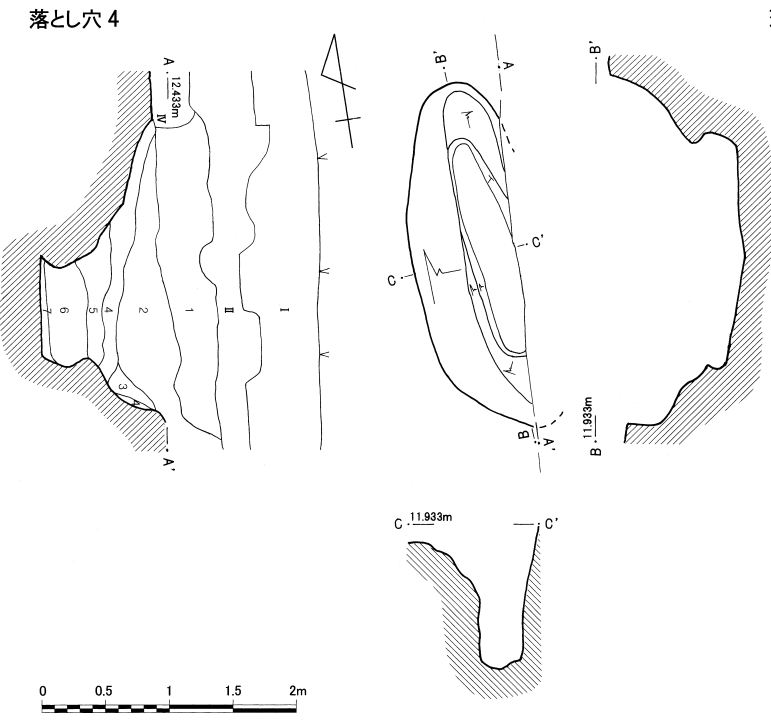
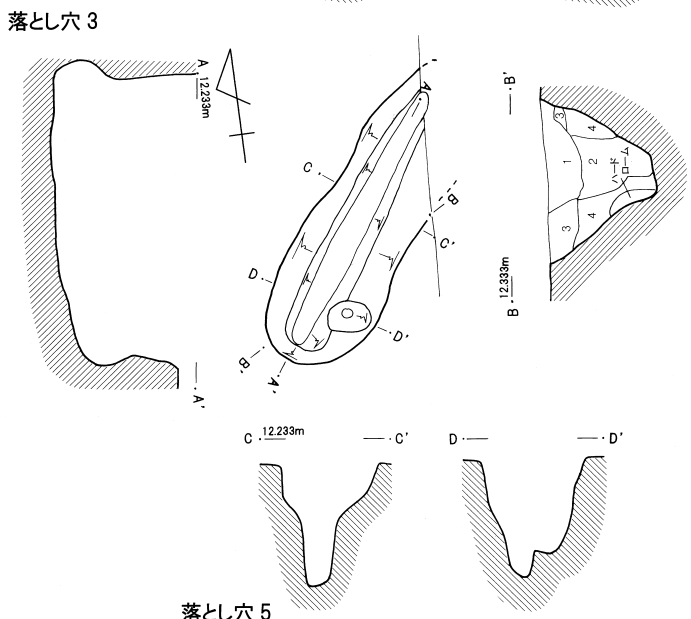
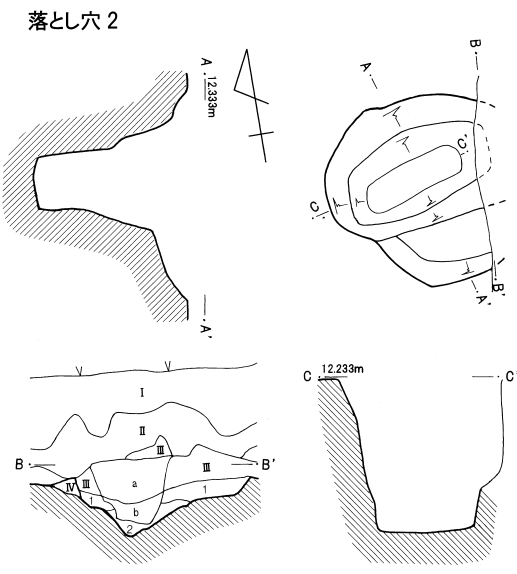
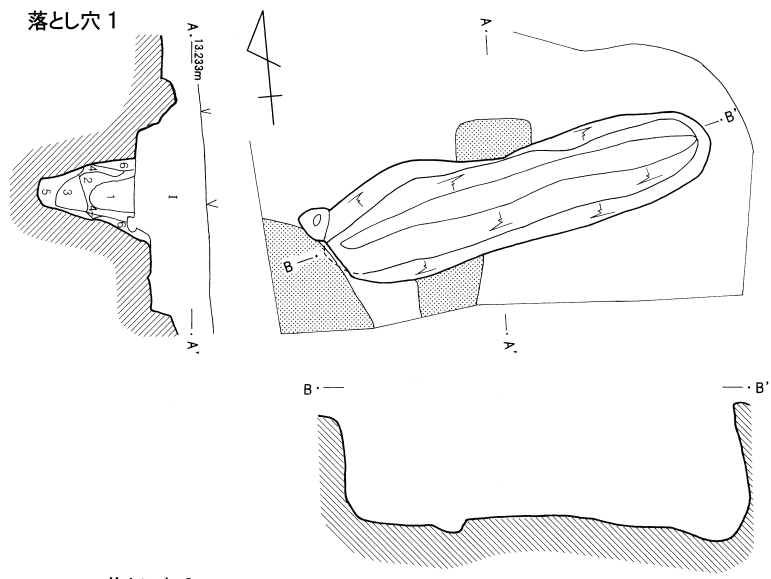
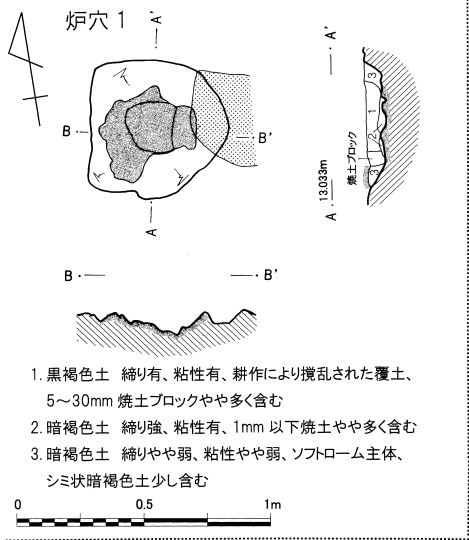
土坑は試掘調査と本調査合わせて16基検出した。土坑6はフラスコ型を呈し、土坑5・6・9は掘り込みも深く落とし穴の分布範囲と近い。縄文時代に属するとみられる土坑は調査区南側、中世以降の土坑は調査区北側に分布する。

④ ピット (第38表)

ピットは61基検出し調査区北側に集中している。ピット21はピット底部付近に拳大の自然礫数点出土した。ピット26・28・43は縄文時代の可能性があるが、それ以外は全て中世以降のものと思われる。

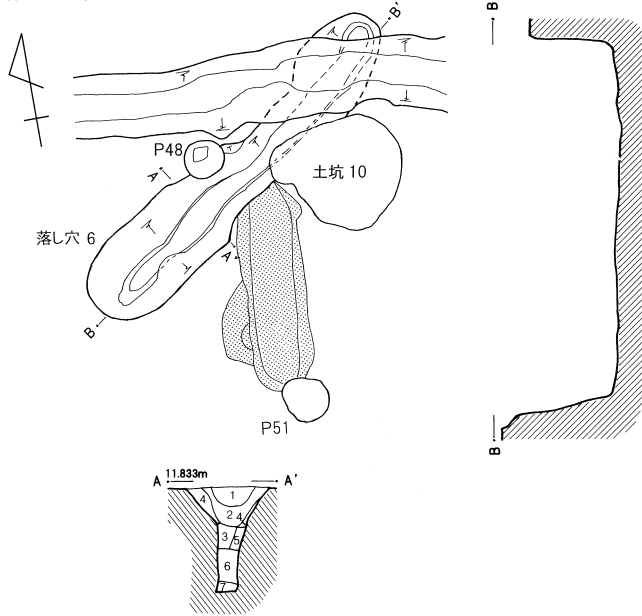


第50図 浄禅寺跡遺跡第30地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/60・1/150)



第51図 浄禅寺跡遺跡第30地点炉穴 (1/30)、落とし穴 1~5 (1/60)

落とし穴 6



落とし穴 1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、斑状ソフトロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
3. 黄褐色土 締り有、粘性有、2 層より締り強くソフトローム主体、5mm 以下ローム粒多く含む 5mm 黒色土点在
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、2 層類似、ローム分更に多く色調明るい、5~10mm ロームブロック少し、2mm 以下ローム粒少し含む
5. 黄褐色土 締り有、粘性有、3 層類似色調明るい、ソフトロームベースに 3cm 以下ハードロームブロック多く含む
6. 黄褐色土 締り強、粘性強、色調暗めハードロームブロック主体、ソフトローム・暗褐色土ベースに蜜に堆積、崩落土

落とし穴 2

- I. 黒褐色土 締り強、粘性有、植物根攪乱
 - II. 暗褐色土 締り強、粘性有、1・2 層主体、植物根攪乱
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、粉状ローム粒やや多く、白色粒少量含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム多く含む黄色味、2 cm 以下ロームブロックや黒褐色土ブロック混ざり斑状呈す、2mm 以下ローム粒やや多い

落とし穴 3・5

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、同焼土僅かに含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、1~2 cm 暗褐色土・ロームブロック斑状にやや多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、同焼土粒僅かに含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、2 cm 以下ロームブロック・黒色土ブロック蜜に堆積、斑状呈する
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、色調黄灰色味、1~1.5 cm ロームブロック・粒多く含む
6. 黒色土 締り強、粘性は上層に比べやや弱い、2mm 以下ローム粒やや多く含む

落とし穴 4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、0.5mm 以下ローム粒・焼土粒僅かに含む
2. 黒褐色土 粘性有、1 層より締り強く明るい、1mm 以下ローム粒 2mm 以下焼土粒僅かに含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状ローム土やや多く、2mm 以下ローム粒・焼土少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、斑状に黒色土や 3 cm 以下ロームブロックやや多く 2mm 以下焼土僅かに含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、斑状に 2 cm 以下ロームブロック多く、1.5 cm 以下黒褐色土ブロック少し含む
6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム多く含む暗褐色土の緻密な堆積、2 cm 以下ロームブロック多く含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に 3 cm 以下黒褐色土ブロック多く含む

落とし穴 6

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 1 cm ロームブロック少し、2mm 以下焼土僅かに含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 2 cm 以下ロームブロックやや多く、2mm 以下焼土僅かに含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2 層より色調暗い、2 cm ロームブロック、3mm 以下ローム粒やや多く含む、2mm 以下の焼土・黒色粒少量だが目立つ
4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体でシミ状暗褐色土を含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックと暗褐色土が締まり良く堆積、うすら斑状を呈す、1mm 以下黒色粒僅かに含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5 cm 以下ロームブロック少し、2mm 以下ローム粒多く含む、ローム粒形明瞭、3mm 以下焼土僅かに含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 cm 以下ロームブロックやや多く含む



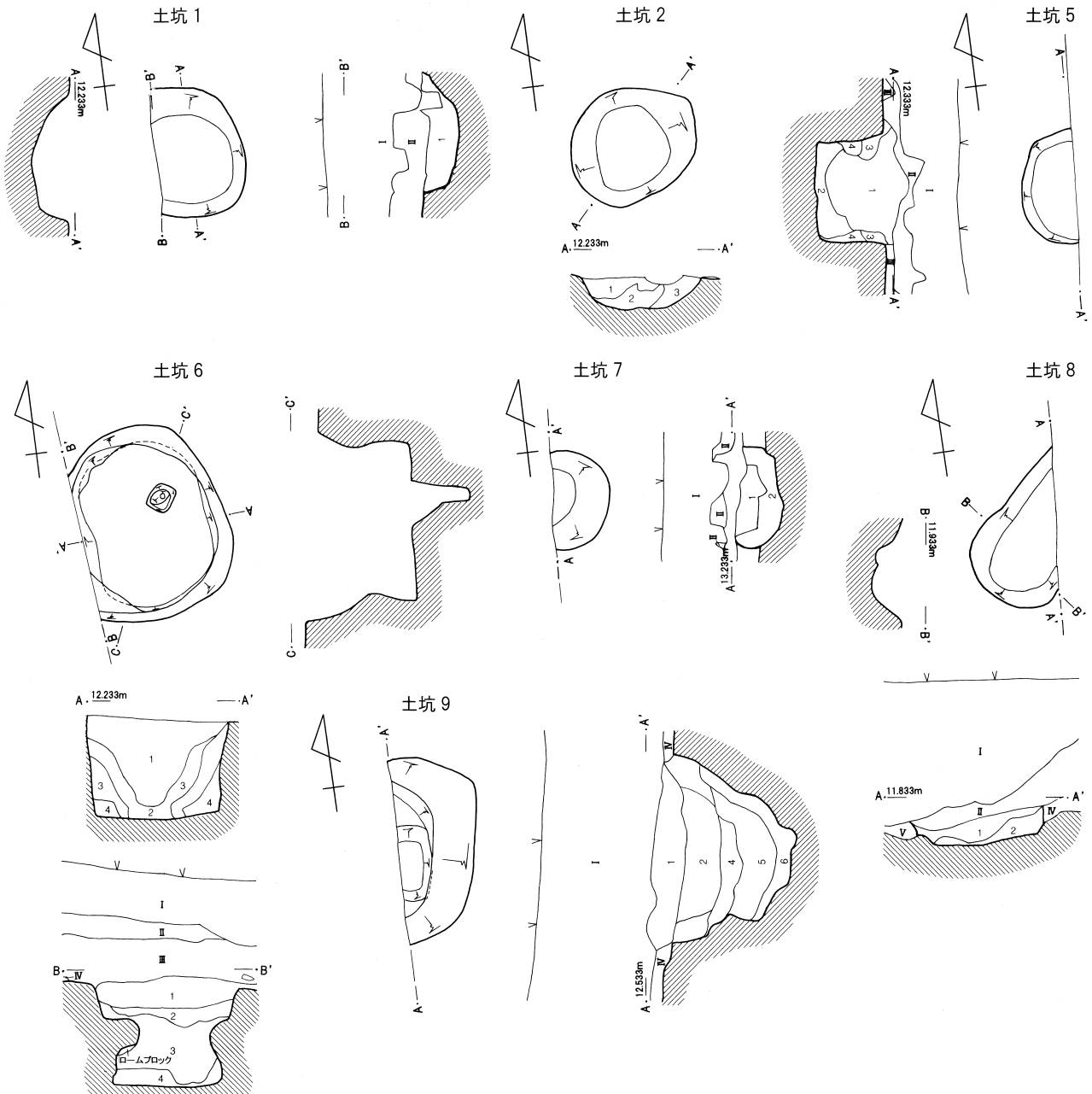
第52図 浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴 6 (1/60)

第36表 浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴一覧表 (単位:cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底面 | 深さ |
|-------|------|------------|--------|-------|
| 落とし穴1 | 長楕円形 | 315×76 | 294×21 | 115 |
| 落とし穴2 | 楕円形 | (120)×100 | 82×27 | 120.8 |
| 落とし穴3 | 長楕円形 | (236)×89 | 223×21 | 101.4 |
| 落とし穴4 | 長楕円形 | (281)×(71) | 173×32 | 111.8 |
| 落とし穴5 | 長楕円形 | 273×109 | 242×30 | 97.4 |
| 落とし穴6 | 長楕円形 | 312×67 | 276×19 | 94.1 |

第37表 浄禅寺跡遺跡第30地点土坑一覧表 (単位:cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|-------------|-------------|-----------|-------|-----|
| 1 | 不明 | 120×(81) | 83×(69) | 36.4 | 不明 |
| 2 | 楕円形 | 125×104 | 78×74 | 29.1 | 中世~ |
| 3 | 三角形 | (660)×(410) | 618×(370) | 123.2 | |
| 4 | 円形 | (181)×164 | 51×51 | 35.7 | 中世~ |
| 5 | 不明 | 106×(49) | 90×(40) | 66.8 | 縄文 |
| 6 | 楕円形 | 181×(135) | 150×110 | 97.5 | 縄文 |
| 7 | 不明 | 93×(52) | 53×(21) | 21.9 | 縄文 |
| 8 | 不明 | (116)×93 | (97)×60 | 35.8 | 不明 |
| 9 | 不明 | 171×(75) | 43×(22) | 118.4 | 縄文 |
| 10 | 不整形 | (80)×84 | 78×67 | 28.8 | 不明 |
| 11 | 不明 | 141×(87) | 85×(62) | 82.1 | 中世~ |
| 12 | 円形 | 164×134 | 55×35 | 21.9 | 中世~ |
| 13 | 茶毘跡 4 に名称変更 | | | | |
| 14 | 円形 | 123×115 | 91×87 | 39.4 | 中世~ |
| 15 | 不明 | 79×(36) | 32×(7) | 20.8 | 中世~ |
| 16 | 不整形 | (162×135) | (70×52) | 26.6 | 中世~ |



土坑 1

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5~10mm ロームブロック多く、ローム粒多量に含む

土坑 2

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5cm以下ロームブロック・粒状ローム多く
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトロームベースに2cm以下ロームブロック多く・黒褐色土ブロックやや多く含む

土坑 5

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒均一に少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック少し2mm以下ローム粒やや多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームベースにしみ状暗褐色土含む

土坑 6

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く5mm炭化物・1mm焼土僅かに含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5cm以下ロームブロック斑状に多く3mm以下ローム粒やや多く含む
- 4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ロームベース、ローム粒の密な堆積、暗褐色土均一に含水した様な土質

土坑 7

- 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む、動植物によるロームの混入
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、IV層より黒色味強い1mm以下焼土・ロー粒僅かに多く含む

土坑 8

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、1cmロームブロック僅かに含む
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロックやや多くローム粒少し含む

土坑 9

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む、IV層と異なり斑状暗褐色土含まない
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒・焼土粒極僅かに含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒・焼土粒少し、暗褐色土ブロック(20cm以下)斑状少し含む
- 4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ロームベース、一旦堆積がここで止まっていた様で上部は動植物痕の黒色土やハードロームブロックが混ざり斑状呈する
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土ブロックと黒褐色土の密な堆積でうすら斑状呈する、2mm大焼土粒少し含む
- 6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム多く含む、黒褐色土ブロック含む、うすら斑状呈する

土坑 10

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、硬化(酸化)する、黒色味で2mm以下ローム粒やや多く含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く、5mm以下黒色土粒少し含む
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含み色調明るい

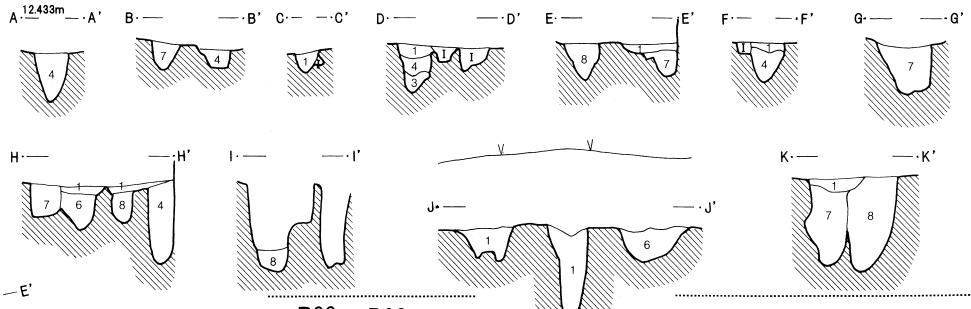
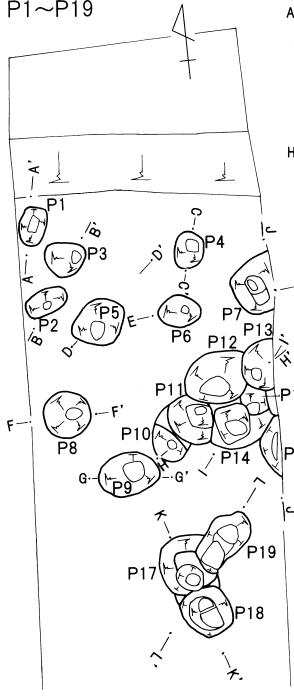
土坑 11

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、暗褐色土ベースにシミ状黒色土多く、5~30mm ロームブロックやや多く、ローム粒少し含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、最大6cm平均5~20mm ロームブロック含む

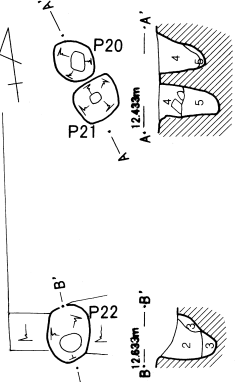


第53図 浄禅寺跡遺跡第30地点土坑 (1/60)

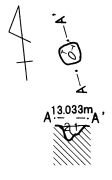
P1~P19



P20~P22



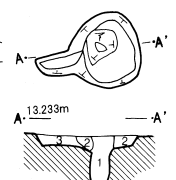
P23



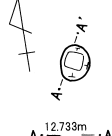
P24



P25



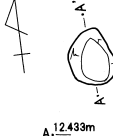
P26



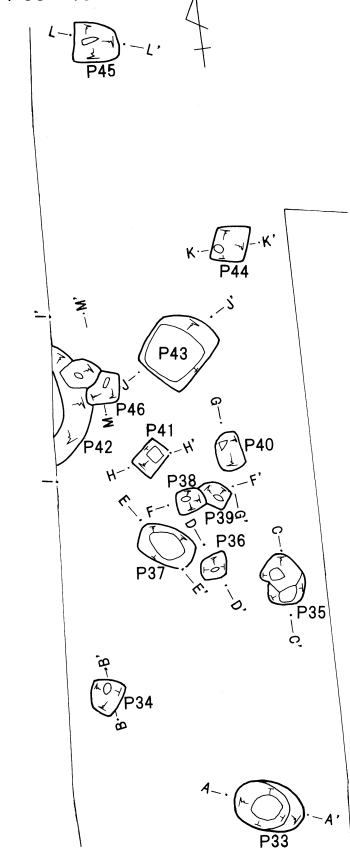
P27



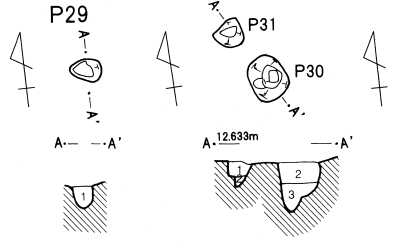
P28



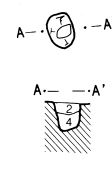
P33~46



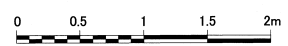
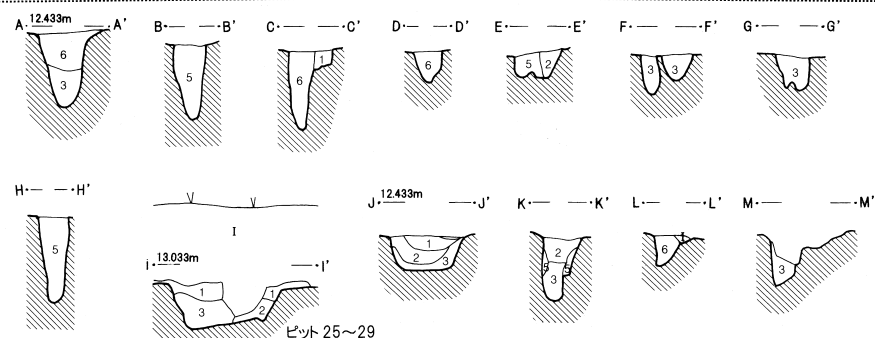
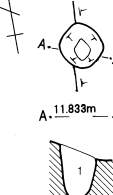
P30-P31



P32



P47



ピット 25~29

- 1. 黒色土 締りやや弱、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下暗褐色土ブロック斑状にやや多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに暗褐色土斑状にやや多く、暗褐色土粒少し含む
- 1' 黒褐色土 締り有、粘性有、4cm以下ソフトロームブロック多く含む
- 1'' 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、1cm大ロームブロック2mm以下ローム粒やや多く含む

ピット 30~41・44~46

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、色調やや灰色味
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒1cm以下ロームブロック少し含む
- 4. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、ソフトロームブロック主体
- 5. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック主体
- 6. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む

ピット 42

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1~2cmロームブロック少し・粒やや多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック主体
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く・同粒多く含む

ピット 43

- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、締り良く、色調黒色味

ピット 44

- 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロックやや多く含む 2mm以下ローム粒・焼土少し含む、色調黒色味
- ピット 47
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、4cm以下ソフトロームブロック下部に多く含む(Ⅱ層旧耕作土に似る)

ピット 1~22

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒と1.5cm以下ロームブロック少し含む、色調灰色味
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、ロームブロック多く含む
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、1.5cm以下ロームブロック少し含む
- 5. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、ローム粒多く含む
- 6. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む
- 7. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、1cm以下ロームブロック多く含む、ボンボンし色調黒色味
- 8. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、2cm以下ロームブロック多く含む、ボンボンし7層により明るい
- ピット 23・24
- 1. 黒色土 締り有、粘性有、粒状ローム僅かに含む
- 2. 黒色土 締り有、粘性有、1層ベースに5mm以下ローム粒やや多く含む

第54図 浄禅寺跡遺跡第30地点ピット・溝 (1/60)

第38表 浄禅寺跡遺跡第30地点ピット一覧表

(単位cm)

| No. | 平面形態 | 確認面積 | 底径 | 深さ |
|-----|------|---------|---------|------|
| 1 | 方形 | 31×21 | 11×7 | 40.4 |
| 2 | 方形 | 30×28 | 10×8 | 33.3 |
| 3 | 楕円形 | 34×19 | 7×6 | 24.3 |
| 4 | 方形 | 28×22 | 10×9 | 24.0 |
| 5 | 方形 | 37×35 | 15×11 | 38.9 |
| 6 | 楕円形 | 35×27 | 6×5 | 29.5 |
| 7 | 不明 | 44×(34) | 10×5 | 47.6 |
| 8 | 円形 | 38×37 | 14×8 | 49.7 |
| 9 | 楕円形 | 49×34 | 15×15 | 52.5 |
| 10 | 楕円形 | 30×20 | 8×7 | 29.5 |
| 11 | 不明 | 39×(36) | 9×6 | - |
| 12 | 円形 | 55×45 | 24×16 | 38.5 |
| 13 | 不明 | 41×(24) | 9×8 | 73.0 |
| 14 | 方形 | 29×27 | 19×12 | 73.4 |
| 15 | 不明 | (25×20) | 10×(10) | 35.7 |
| 16 | 不明 | 49×(16) | 22×4 | 24.0 |
| 17 | 円形 | 48×48 | 12×9 | 71.9 |
| 18 | 方形 | 39×37 | 11×9 | 78.6 |
| 19 | 方形 | 55×30 | 20×16 | 49.8 |
| 20 | 方形 | 33×31 | 15×10 | 38.2 |
| 21 | 方形 | 34×32 | 8×7 | 43.2 |
| 22 | 方形 | 45×33 | 17×15 | 47.3 |
| 23 | 方形 | 17×16 | 8×3 | 15.5 |
| 24 | 方形 | 19×17 | 8×5 | 30.2 |
| 25 | 不整形 | 83×59 | 9×5 | 52.4 |
| 26 | 方形 | 27×22 | 14×14 | 32.0 |
| 27 | 方形 | 25×22 | 16×13 | 22.0 |
| 28 | 円形 | 45×33 | 35×23 | 17.4 |
| 29 | 三角形 | 26×18 | 15×10 | 23.7 |
| 30 | 方形 | 35×29 | 10×8 | 55.9 |
| 31 | 三角形 | 23×21 | 12×8 | 25.3 |

| No. | 平面形態 | 確認面積 | 底径 | 深さ |
|-----|------|---------|---------|------|
| 32 | 方形 | 27×20 | 12×9 | 30.0 |
| 33 | 楕円形 | 55×38 | 25×19 | 66.3 |
| 34 | 方形 | 28×25 | 10×6 | 67.8 |
| 35 | 不整形 | 38×31 | 10×9 | 66.7 |
| 36 | 方形 | 20×19 | 8×3 | 29.2 |
| 37 | 方形 | 45×29 | 27×20 | 23.7 |
| 38 | 方形 | 22×19 | 9×4 | 37.6 |
| 39 | 不明 | (26)×19 | 9×3 | 21.1 |
| 40 | 方形 | 30×21 | 8×7 | 38.4 |
| 41 | 方形 | 25×20 | 10×10 | 71.9 |
| 42 | 不明 | 95×(30) | 52×(9) | 27.2 |
| 43 | 方形 | 55×49 | 40×38 | 29.6 |
| 44 | 方形 | 27×27 | 8×6 | 52.4 |
| 45 | 方形 | 35×32 | 14×5 | 28.3 |
| 46 | 不明 | 26×25 | 9×3 | 52.0 |
| 47 | 方形 | 31×31 | 13×12 | 47.7 |
| 48 | 円形 | 31×30 | 12×10 | 47.1 |
| 49 | 楕円形 | 51×35 | 30×24 | 54.7 |
| 50 | 円形 | 28×26 | 10×5 | 20.4 |
| 51 | 円形 | 35×34 | 9×7 | 65.2 |
| 52 | 方形 | 47×46 | 10×4 | 26.9 |
| 53 | 円形 | 34×31 | 14×13 | 11.8 |
| 54 | 円形 | 42×38 | 18×16 | 9.3 |
| 55 | 方形 | 29×25 | 14×13 | 16.3 |
| 56 | 不整形 | 67×40 | 25×8 | 40.2 |
| 57 | 不明 | 70×(17) | 50×(11) | 25.0 |
| 58 | 楕円形 | 53×37 | 13×11 | 20.3 |
| 59 | 方形 | 80×78 | 47×42 | 65.0 |
| 60 | 不整形 | 98×64 | 13×7 | 51.5 |
| 61 | 円形 | 30×23 | 14×5 | 42.5 |

V 浄禅寺跡遺跡第31地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年1月29日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、南側に隣接する第27地点では縄文時代の遺構と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、試掘調査を実施した。試掘調査は同年2月19日から行ない、残土置き場の関係から調査区を東西に分け、初めに東側半分を重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。縄文時代の遺構が確認されたため申請者と協議を行ない、本調査に切り替え3月5日まで本調査を実施した。東側調査区に続き西側半分を調査し、縄文時代の住居跡1軒、炉穴1基、土坑1基、ピット26基を検出、縄文土器・石器等の遺物が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 3号住居跡

【形状・規模・時期】 調査区南側の第27地点寄りで、

2号住居跡の北約17mに位置する。

平面はほぼ円形を呈し、断面は僅かに掘り込みが確認できる程度で、表土層の下がほぼ床面といえる。

規模は4.2m×4.1m、深さは7cmを測る。

住居跡の主軸は埋甕1・2と炉を結ぶ線である。加曾利EⅢ期。

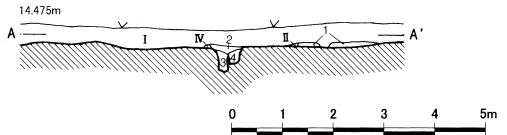
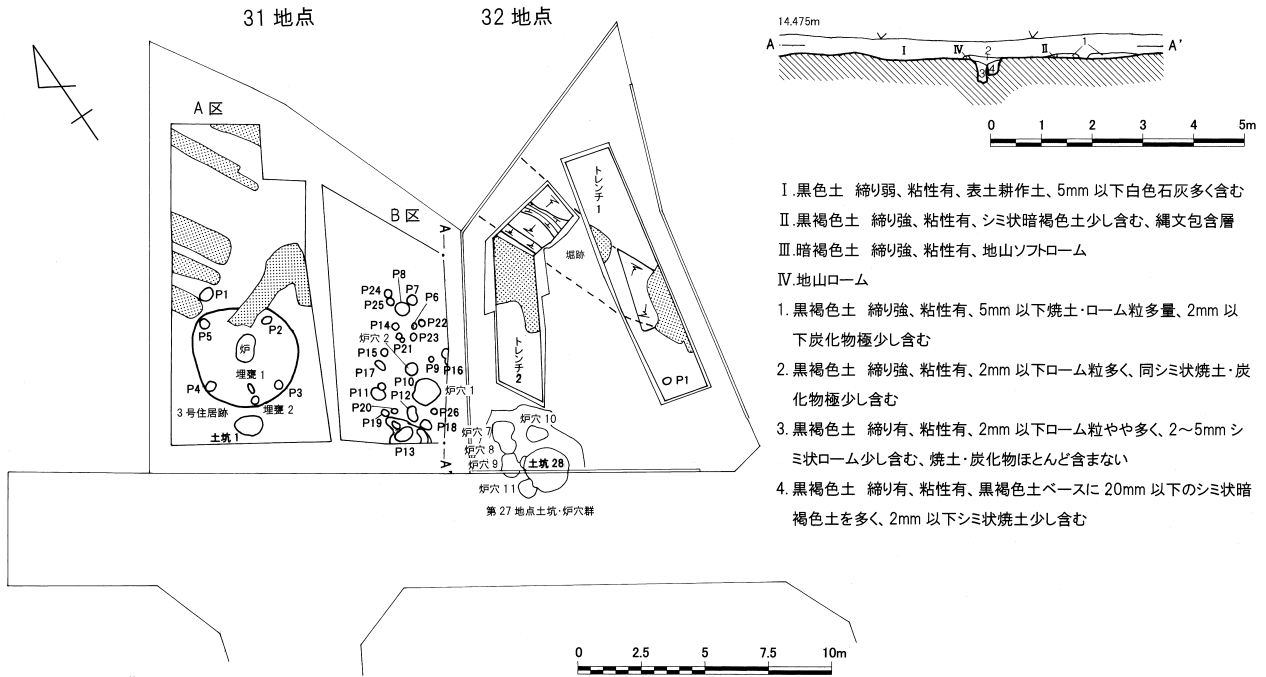
【炉】 住居中央部に位置し平面は楕円形を呈する。覆土層に1mm大焼土粒を少し含むが焼土面はみられない。規模は確認面径110×73cm、底径90×62cm、深さ11.8cmで西側に深さ6cmの小ピットがみられる。

【埋甕1・2】 住居内の西側、ピット1・2の間とピット3・4の間から炉を結ぶ線上に東西に並ぶ。

埋甕1は東側に位置し、底部を下にした正位置の状態で出土した。平面形態は楕円形で上端45×18cm、下端20×10cm深さ5.7cmを測る。

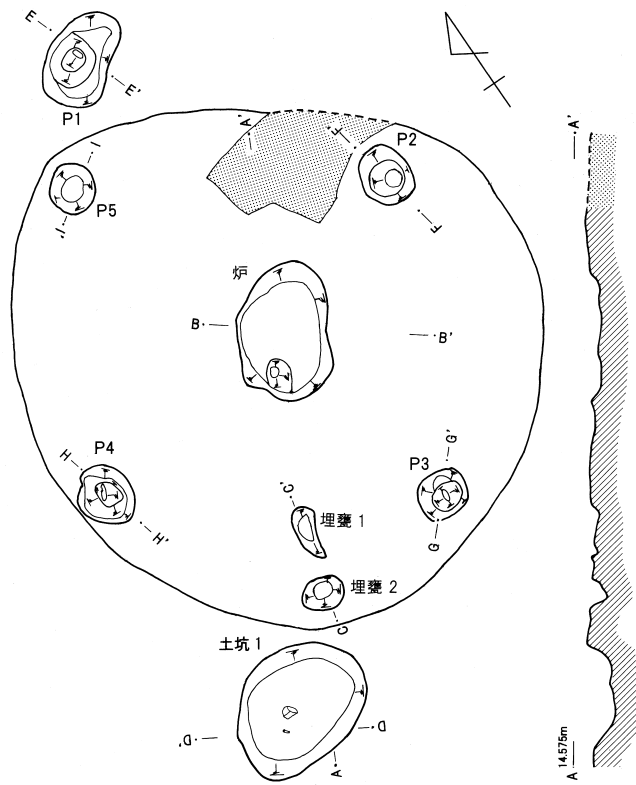
埋甕2は西側に位置し、底部を下にした正位置の状態で出土した。平面形態は楕円形で上端35×27cm、下端16×13cm深さ10.3cmを測る。

【柱穴】 主柱穴は4本で、第39表浄禅寺跡遺跡第31地点土坑・ピット一覧表中のPNo.2～5である。

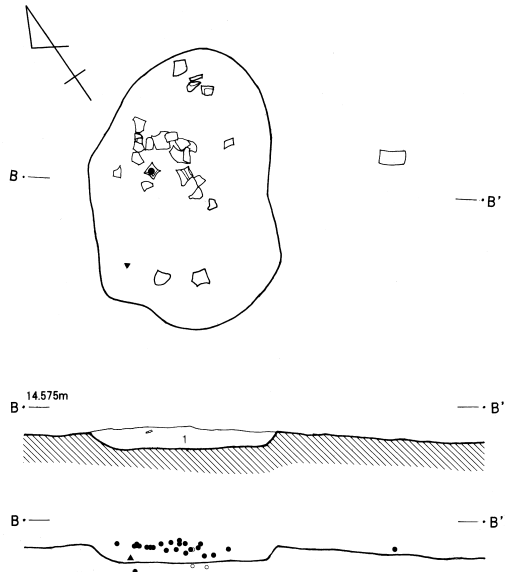


- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土耕作土、5mm以下白色石灰多く含む
- II. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状暗褐色土少し含む、縄文包含層
- III. 暗褐色土 締り強、粘性有、地山ソフトローム
- IV. 地山ローム
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土・ローム粒多量、2mm以下炭化物極少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、同シミ状焼土・炭化物極少し含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、2~5mmシミ状ローム少し含む、焼土・炭化物ほとんど含まない
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土ベースに20mm以下のシミ状暗褐色土を多く、2mm以下シミ状焼土少し含む

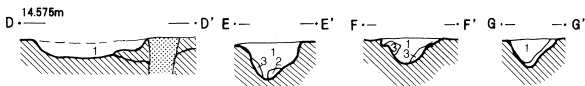
3号住居跡



炉

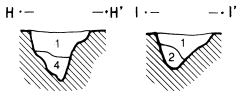


埋葬 1・2



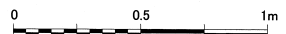
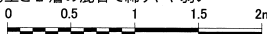
ピット 1~5

- 1. 黒褐色土 シミ状に暗褐色土少し 1mmローム粒少し含む
- 2. 暗褐色土 1層ベース、ローム・焼土含まない
- 3. 暗褐色土 ソフトローム地山にほぼ同じ
- 4. 黒褐色土 黒褐色土と2層の混合で締りやや弱い

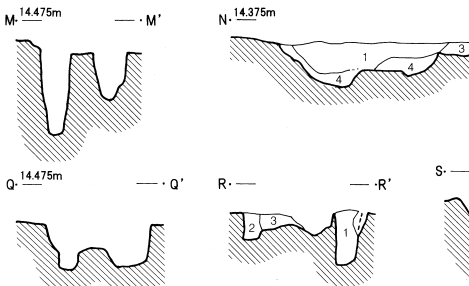
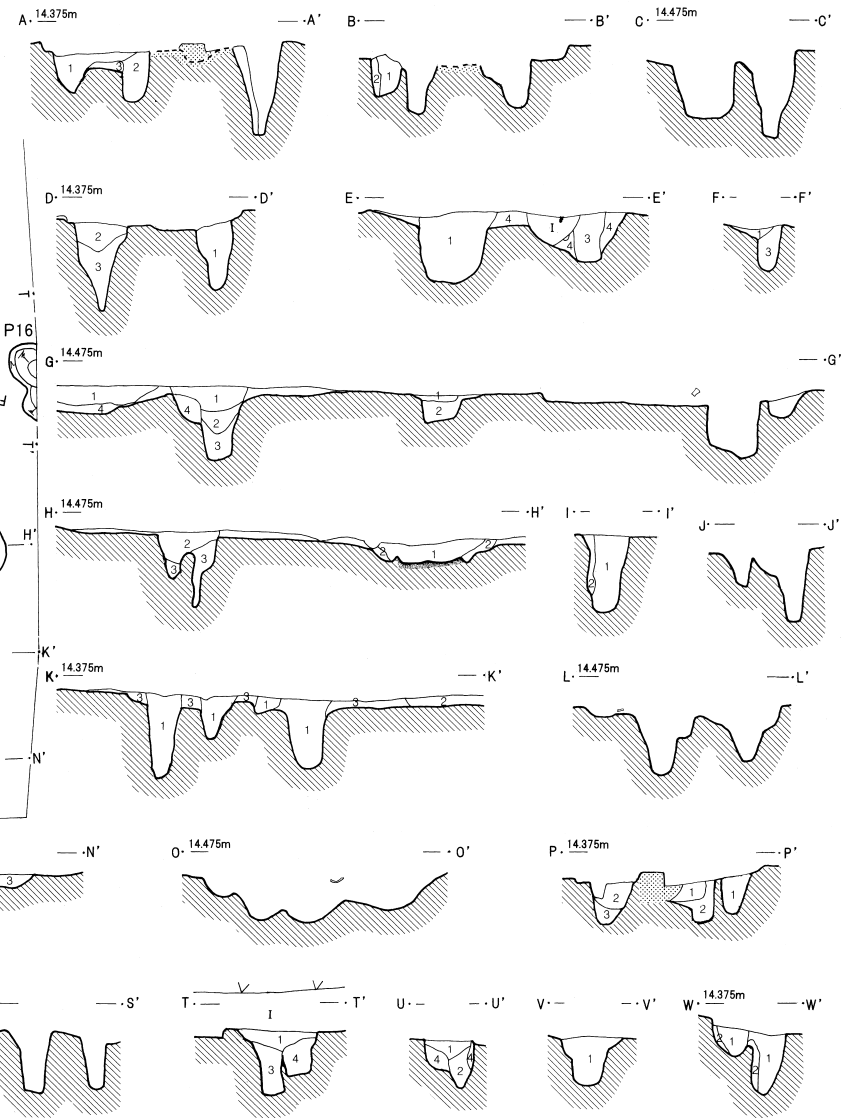
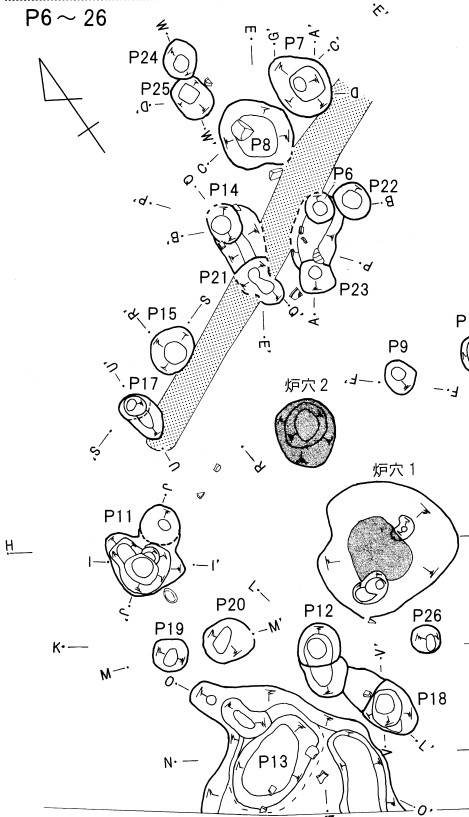
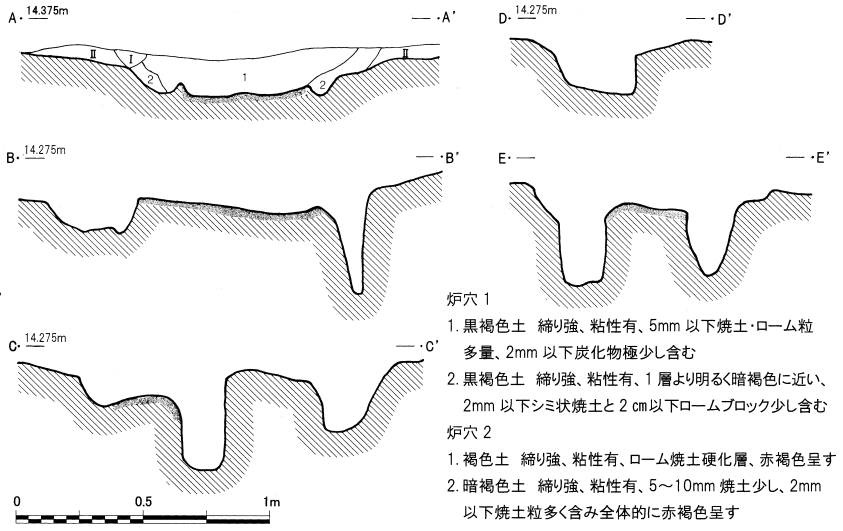
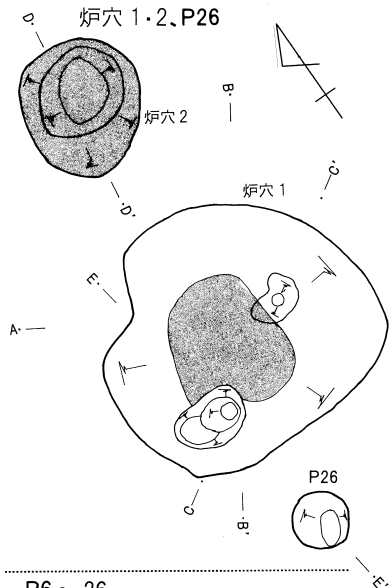


3号住居跡炉

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、暗褐色土斑状に少し1mm大ローム・焼土粒少し含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、1mm以下シミ状ローム・焼土極少し含む
- 3号住居跡埋葬 1・2
- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、1mm以下シミ状ローム・焼土極少し含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、ほぼ何も含まない
- 土坑 1
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し、同焼土粒極少し含む



第55図 浄禅寺跡遺跡第31・32地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、3号住居跡・土坑 1・ピット 1 (1/60)、炉・埋葬 (1/30)



ピット 6~9・11・14~18・21~25
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く、同シミ状焼土・炭化物極少し含む
 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く、2~5mm シミ状ローム少し、焼土・炭化物ほとんど含まない
 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2~3 cm ローム多く、2mm 以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、2 cm 以下シミ状暗褐色土多く、同シミ状焼土少し含む (P19 の 3 層と同じ)

ピット 12・13・19・20
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く、同焼土やや多く、同炭化物極少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下焼土粒多量、同ローム粒少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2 cm 以下シミ状暗褐色土多く、2mm 以下シミ状焼土少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、焼土粒含まないこと以外は 3 層に同じ



第56図 浄禅寺跡遺跡第31地点炉穴 (1/30)、ピット (1/60)

【遺物出土状況】

炉の底部から覆土層に集中する程度で、住居跡床面や覆土層からは僅かに出土するのみである。

【3号住居跡出土遺物】(第57図1~20)

1は埋甕1の深鉢形土器胴部下半から底部で、底径7.5~8cm残存高12.9cmである。地文RL縄文に沈線の懸垂文を幅広に配し、区画内を磨消す。2は埋甕2で底径7.5cm残存高12.6cm、施文方法は埋甕1と同じで、加曽利EⅢ式である。3、4は深鉢形土器の口縁部片で、隆帯と沈線で区画内に地文縄文を施す、加曽利EⅡ式新相。5~6は深鉢形土器の口縁部で地文LR縄文に沈線で「∩」状区画を配し、中を磨消す。7~19は地文縄文に幅広沈線間を磨消す、加曽利EⅢ式。20は口縁部無文帯直下に沈線を施す。

②炉跡

炉跡は南側のB区調査区から2基検出した。覆土層の観察から縄文時代に属するとみられる。本調査区南側約3mの第27地点では、縄文時代早期とみられる炉穴5基がまとまって検出されている。本遺構については、表土層から縄文時代早期の条痕文系土器片が出土していることも考慮し、屋外での調査段階では早期の炉穴と考えていた。しかし遺構内からの出土遺物は無く、周辺のピットの配置状況や周辺出土の土器片から、縄文時代中期末から後期にかけての柄鏡型住居跡に伴う炉の可能性も考えられるため今回は炉跡とした。

【炉跡1】平面形態は不整形を呈し、規模は上端径109×100cm、下端径54×45cm、深さ14.7cm、焼土範囲は底部が焼けている。炉内に深さ37.8cmと39.8cmの小ピットが2ヶ所みられる。

【炉跡2】平面形態は円形を呈し、規模は上端径55×46cm、下端径25×20cm、深さ24.1cm、焼土範囲は炉内全面に広がる。

③土坑・ピット(第39表)

土坑は3号住居跡の南側に位置し、縄文時代中期に属するとみられる。

ピットはB区に集中し、ピット6~26は配置から縄文時代中期から後期の住居跡に伴う柱穴の可能性がある。

④3号住居跡以外から出土の縄文土器・石器(第57図21~45)

3号住居跡以外の遺構と遺構外から出土した遺物を一括する。土坑・ピットの覆土層出土の縄文土器・石器も、明らかに遺構本来の時期を示すものではないと判断した。

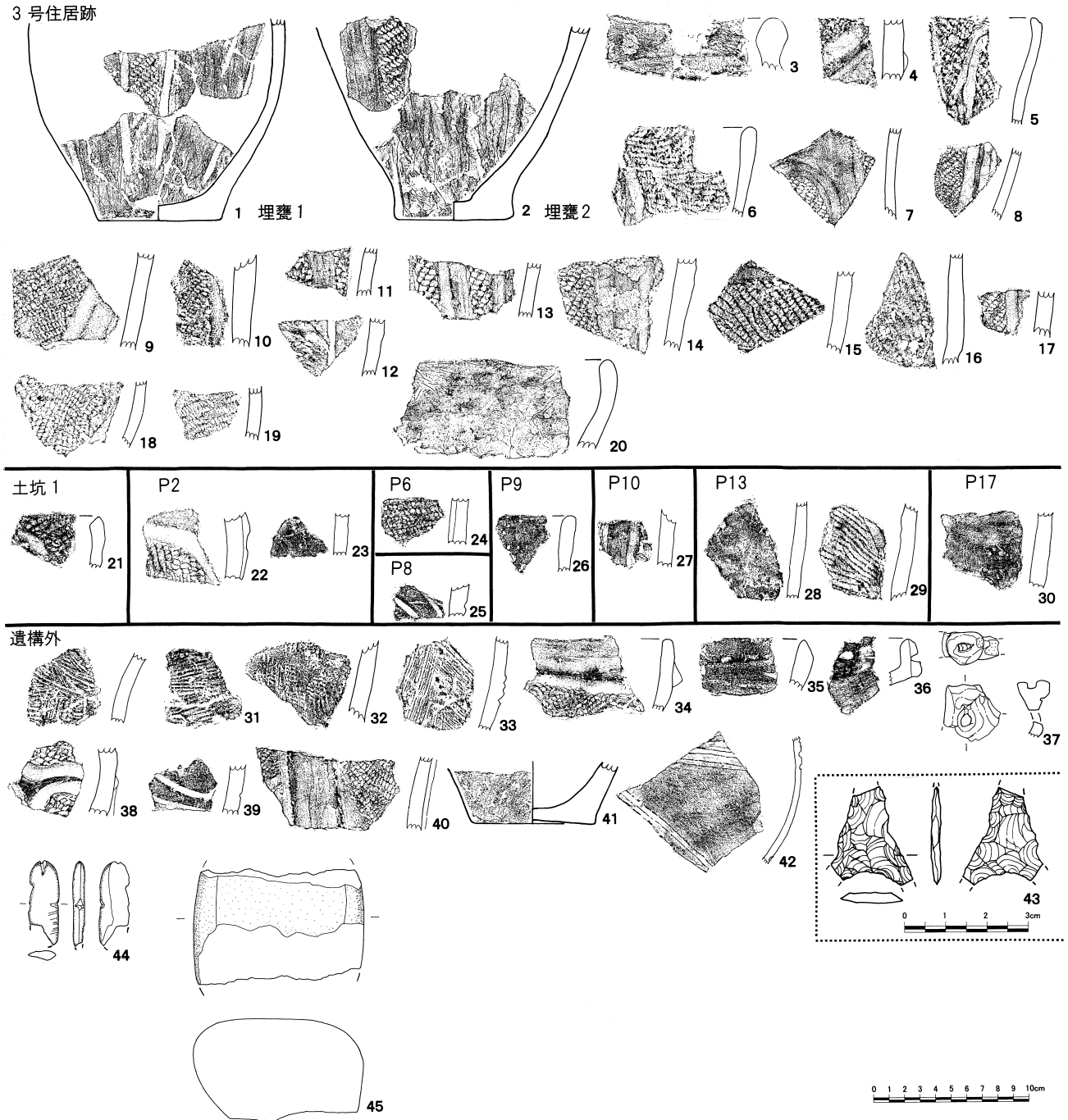
21は深鉢形土器口縁部片で地文LR縄文に沈線を施す加曽利EⅢ式。22は隆帯と沈線の区画内に縄文を施す。23・26・28・30は無文、24はRL縄文、25・27は沈線間を磨消す。29はLR縄文に沈線の懸垂文を施す。22~30は加曽利EⅡ~Ⅲ式。31・32は胎土に繊維を含み、内外面に貝殻条痕文を施す早期の条痕文土器である。33は集合条線に半截竹管の刺突を施す諸磯C式。34は口縁部に横位の断面三角形の隆帯を貼り付け胴部に地文LR縄文を施す、35は無文口縁部片で加曽利EⅣ式。36は内曲する口縁部に円形刺突と沈線を施す堀之内式、37は円孔のある口唇部突起加曽利B2式。38は隆帯と沈線の区画内に縄文を施し、39は沈線間を磨消す。40は地文LR縄文で、断面三角形の微隆起帯懸垂文を貼り付け間を磨り消す加曽利EⅣ式。41は深鉢形土器の底部で底径8cmの加曽利E式。42は内外面に磨きを施し、横位と斜位の沈線文を施す精製土器。

43は頁岩製石鏃で重さ1.32g、44は頁岩製切目石錘で重さ9.15g、45は花崗岩製石棒片で重さ963.63gである。

第39表 浄禪寺跡遺跡第31地点土坑・ピット一覧表

(単位cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|---------|--------|------|------|
| 土坑 | 楕円形 | 116×92 | 91×66 | 21.1 | |
| P1 | 楕円形 | 80×51 | 10×4 | 29.1 | |
| P2 | 円形 | 49×42 | 14×13 | 23.2 | 3号住居 |
| P3 | 円形 | 40×36 | 10×4 | 23.7 | 3号住居 |
| P4 | 円形 | 52×45 | 13×4 | 44.8 | 3号住居 |
| P5 | 円形 | 39×35 | 22×16 | 20.4 | 3号住居 |
| P6 | 円形 | 24×23 | 11×11 | 40 | |
| P7 | 楕円形 | 56×45 | 12×9 | 76.1 | |
| P8 | 方形 | 57×56 | 33×31 | 47.5 | |
| P9 | 方形 | 26×23 | 11×9 | ? | |
| P10 | 円形 | 53×47 | 26×19 | 24.1 | |
| P11 | 不整形 | 74×65 | 17×16 | 62.9 | |
| P12 | 楕円形 | 58×36 | 16×15 | 50.1 | |
| P13 | 方形 | 81×50 | 61×35 | 29 | |
| P14 | 円形 | 32×26 | 15×14 | 38.4 | |
| P15 | 円形 | 39×33 | 18×18 | 51.3 | |
| P16 | 不明 | 60×(22) | 14×(7) | 49.7 | |
| P17 | 楕円形 | 42×24 | 10×7 | 36.8 | |
| P18 | 三角形 | 42×35 | 15×15 | 41.5 | |
| P19 | 円形 | 28×25 | 14×9 | 73.6 | |
| P20 | 円形 | 40×33 | 21×12 | 38 | |
| P21 | 瓢箪型 | 40×30 | 24×10 | 33 | |
| P22 | 円形 | 29×26 | 15×14 | 37.4 | |
| P23 | 方形 | 27×26 | 10×10 | 50.1 | |
| P24 | 円形 | 28×26 | 13×12 | 32.4 | |
| P25 | 方形 | 34×27 | 14×13 | 58.8 | |
| P26 | 円形 | 22×22 | 15×7 | 27.3 | |



第57図 浄禅寺跡遺跡3号住居跡・土坑・ピット・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

VI 浄禅寺跡遺跡第32地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年2月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、東側に隣接する第31点で縄文時代の遺構と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、試掘

調査を実施した。試掘調査は同年2月25日から3月4日まで行なった。幅2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行ない、掘跡1本、ピット1基を検出した。なお、旧石器時代の確認調査は行なっていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①堀跡・ピット

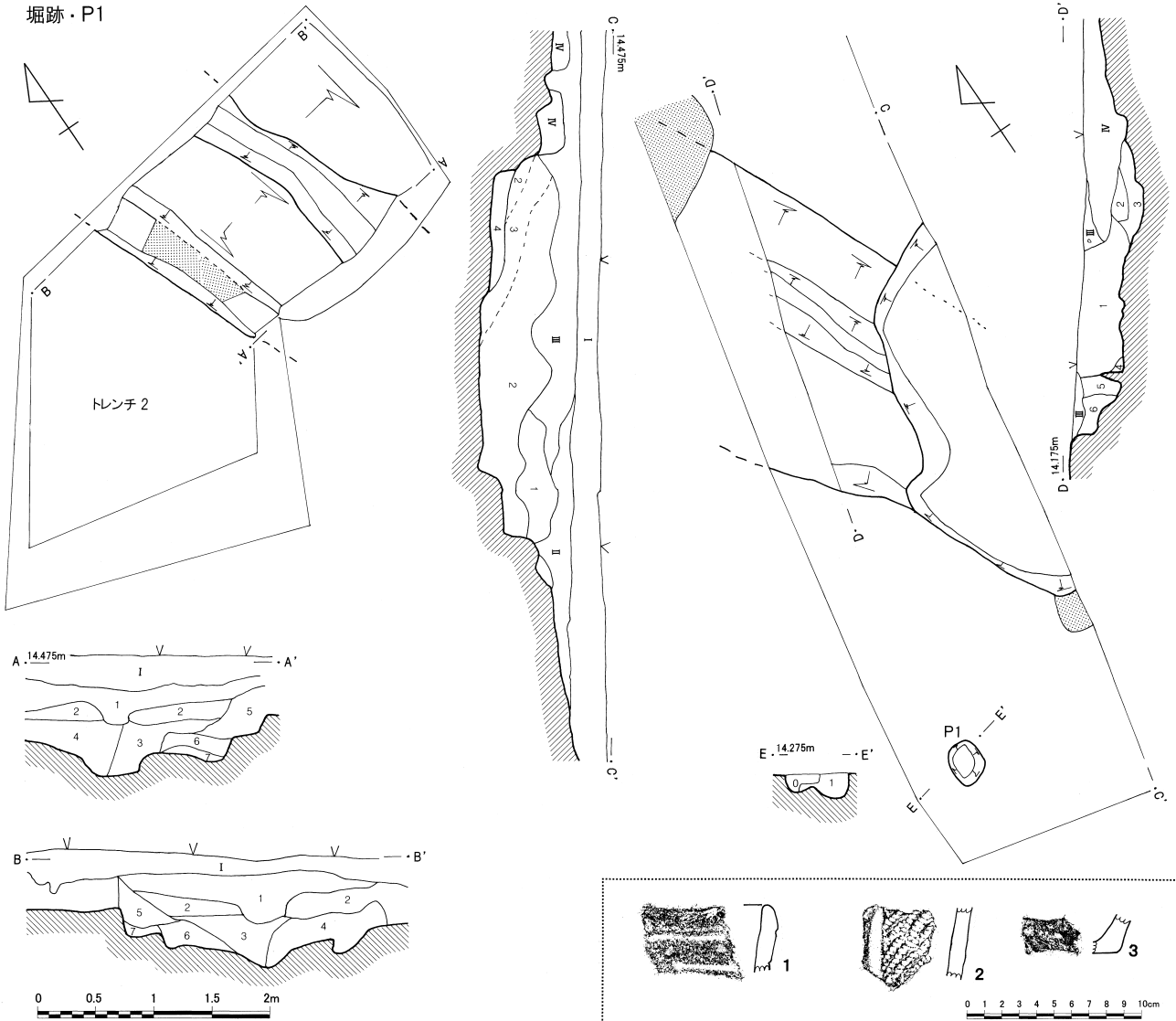
堀跡は調査区中央部にほぼ南北方向に延び、断面は広い「V」状を呈し底の中央部が溝状に狭くなる。規模は上幅2m以上、下幅1~1.2m、深さ85cmを測る。

ピットの平面形は楕円形で確認面径35×29cm、底径

23×18cm、深さ22.7cmである。遺構の時期は、ピットは縄文時代とみられるが、堀跡は不明である。

②出土土器

1~3は縄文土器片で、1は口縁部で横位の沈線が2本めぐる。2は地文縄文に縦位に沈線を施し、3は底部片である。縄文時代中期である。



- I. 黒色土 表土 ゴミ多く含む 2~5 cmローム多く含む
- II. 黒色土 表土 5 cmロームブロック多く、2mm 以下ローム粒多量に含む
- III. 黒褐色土 旧耕作土 2 cmロームやや多く、2mm 以下ローム粒多量に含む
- IV. 暗褐色土 旧耕作土 III層よりローム多く含む
- AA', BB'
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒多量に含む
- 2. 黒褐色土+褐色土 締り有、粘性有、5 cm以下ロームブロック、シミ状黒色土多く含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、ほぼ1層に同じ、1層よりローム粒少ない
- 4. 暗褐色土 締り有、粘性有、1~3層よりやや黄色強く、ローム粒やや大きい(3mm 以下)
- 5. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2 cm以下ロームブロック多く含む
- 6. 黒褐色土 締り弱、粘性有、5層より1cm以下ロームブロック小さく少ない、2mm 以下ローム粒多く含む
- 7. 黒褐色土 締り弱、粘性有、5・6層より3 cmロームブロック多く含む

- CC'
- 1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、5~10 cmロームブロック多量、1 cm以下ローム粒多く含む
- 2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、基本的に1層に同じ、1層よりややロームブロック少ない
- 3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2層基本にやや黒褐色土多く含む
- 4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2層より暗く3層より明るい
- DD'
- 1. 黒色土 締り弱、粘性有、3mm 以下ローム粒多量に含む
- 2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1層よりやや褐色で、1mm ローム粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2層に同じ、2層よりやや大粒の2mm ローム粒多く含む
- 4. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックベースに黒褐色土少し含む
- 5. 暗褐色土 締り弱、粘性有、土層CC'の3層に同じ
- 6. 黒褐色土 締り弱、粘性有、土層CC'の4層に同じ
- ピット 1
- 0. 攪乱
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下のシミ状暗褐色土少し含む(縄文)

第58図 浄禪寺跡遺跡第32地点堀跡・ピット (1/60)、出土土器 (1/4)

第19章 大井宿遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

大井宿遺跡は国道254号線川越街道沿いの旧大井宿の宿場範囲内にある。大井宿は全長約1.5kmで、砂川堀右岸の標高27mの台地上から始まり、砂川堀を渡って左岸の標高21～22mの低位台地上に位置する。

大井宿の南側約半分は大井氏館跡遺跡に含まれており、既に遺跡の登録がされている。2000年に遺跡範囲外の2ヶ所の試掘調査により、多数の遺構と遺物が確認されたため、大井宿の北側部分を新たに遺跡の範囲とし遺跡名を設けた。

川越街道は江戸時代の寛永年間（1624～1643）に整備された日本橋から川越に至る11里（約44km）の道の呼称で、街道に存在した6つの宿駅（上板橋・下練馬・白子・膝折・大和田・大井）の1つが大井宿である。

大井宿遺跡では2008年1月現在、15地点で調査が行なわれ、中世～近代の遺構・遺物が検出されている。

II 大井宿遺跡第15地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年6月28日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に立地しているため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。調査に使用した重機は申請者より提供を受けた。

試掘調査は2007年8月1日から10日まで行なった。幅約1.7～2mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査したところ遺構らしき黒色土を確認した。出土遺物と覆土層から近世以降の井戸・土坑・溝・ピット等と思われる。確認面まで約1.3mあり建築による遺跡への影響がないため工事立会いとした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第59図 大井宿遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

(2) 遺構と遺物

①土坑・ピット・溝

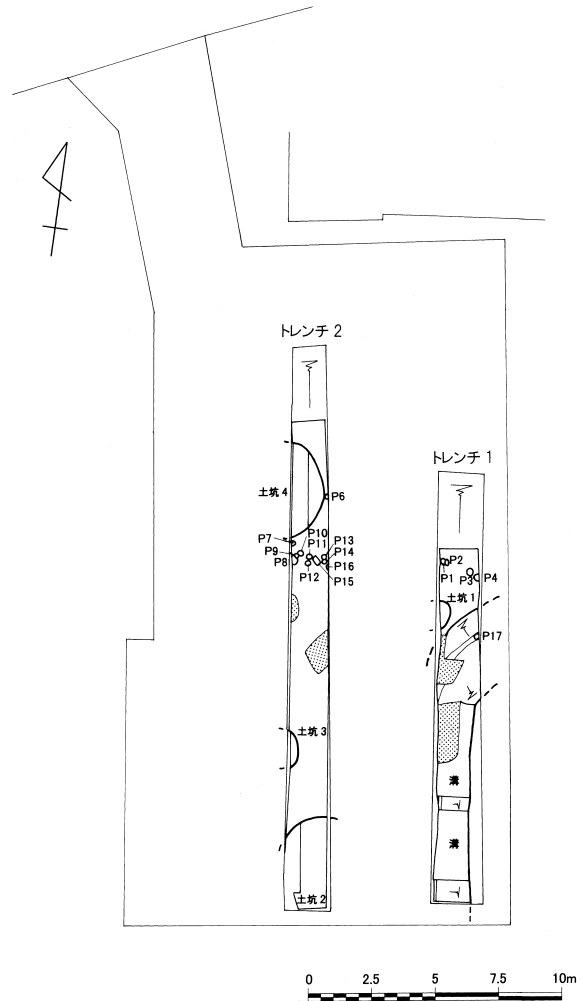
遺構はトレンチの確認であるため全貌が判明するものはない。土坑2・4が井戸とみられる。

ピットはトレンチ1・2で東西に続くピット群を確認した。P17を除くピットは柵列状に続く。

溝はトレンチ1で南北から東西に湾曲する。断面は逆台形状を呈し、規模は上幅(270)、下幅20cm、深さ59cmを測る。

第40表 大井宿遺跡第15地点土坑・ピット一覧表 (単位cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|-----------|----------|------|----|
| 土坑1 | 不明 | (113×27) | (90×25) | 20.6 | |
| 土坑2 | 不明 | (380×170) | (298×82) | 57 | |
| 土坑3 | 不明 | (131×48) | - | 40 | |
| 土坑4 | 不明 | (375×135) | (324×55) | 74.8 | |
| P1 | 不明 | (46×23) | (20×17) | 49.4 | |
| P2 | 方形 | 30×29 | 12×6 | 63.7 | |
| P3 | 方形 | 32×29 | 10×9 | 41.9 | |
| P4 | 不明 | 30×(20) | 15×12 | 43.6 | |
| P5 | 欠番 | | | | |
| P6 | 不明 | 27×(17) | 11×9 | 16.3 | |
| P7 | 不明 | 21×(13) | 12×(7) | 24.8 | |
| P8 | 不明 | 40×(20) | 18×15 | 46.7 | |
| P9 | 不明 | 28×18 | 10×9 | 31 | |
| P10 | 方形 | 27×27 | 12×8 | 43.2 | |
| P11 | 方形 | 24×22 | 9×9 | 46.8 | |
| P12 | 方形 | 20×20 | 11×10 | 32.9 | |
| P13 | 方形 | 24×20 | 9×8 | 38.8 | |
| P14 | 方形 | 19×18 | 9×6 | 41.3 | |
| P15 | 方形 | 29×21 | 7×6 | 30 | |
| P16 | 不明 | (20×6) | (14×4) | 8.2 | |
| P17 | 方形 | 30×26 | 19×16 | 18.5 | |



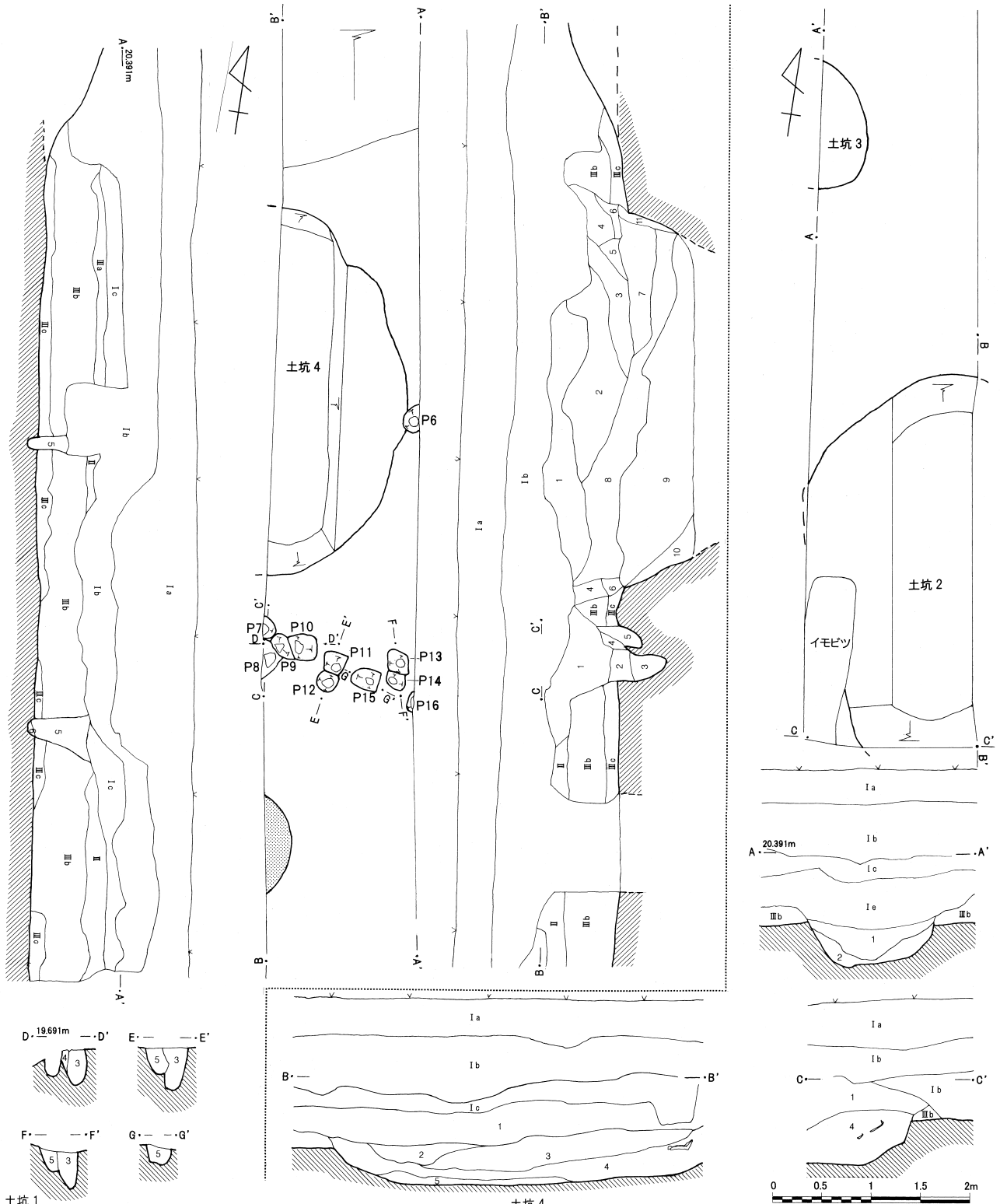
第60図 大井宿遺跡第15地点遺構配置図 (1/300)

②出土遺物

第41表 大井宿遺跡第15地点出土遺物観察表

(単位cm・g)

| 掲載No | 出土遺構名 | 種別・器種 | 口径・長さ | 底径・幅・内径 | 高さ・厚さ | 技法・文様・その他 | 推定産地 | 推定年代 | 備考 |
|------|-------|--------------|--------|---------|-------|---------------------------------|-------|-------------|--------------|
| 1 | 土坑1 | 陶器/播鉢 | (34.8) | - | (8.3) | ロクロ・紐作り/櫛目7本単位 | 丹波 | 1690~1700年代 | |
| 2 | 土坑2 | 磁器/碗/厚手碗 | 9.8 | 4.2 | 5.2 | ロクロ/染付菊草花文・高台内崩し渦福/二次焼成痕 | 肥前 | 1750~1770年代 | |
| 3 | 土坑2 | 磁器/碗/筒茶碗 | (7.1) | (4.0) | 5.2 | ロクロ/染付菊花文・口縁内二重圏線 | 肥前 | 1770~1780年代 | |
| 4 | 土坑2 | 磁器/小坏 | - | 2.9 | (2.7) | ロクロ/染付草文 | 肥前 | 1630~1650年代 | |
| 5 | 土坑2 | 陶器/碗/半球碗 | 9.1 | 3 | 5.7 | ロクロ/灰釉・上絵付(赤・緑)松文 | 瀬戸・美濃 | 1760~1820年代 | |
| 6 | 土坑2 | 陶器/碗/せんじ碗 | - | 4 | (3.2) | ロクロ/灰釉 | 瀬戸・美濃 | 1730~1820年代 | |
| 7 | 土坑2 | 陶器/碗/小杉碗 | - | - | (4.2) | ロクロ/灰釉・鉄絵若松文 | 信楽 | 1750~1770年代 | |
| 8 | 土坑2 | 陶器/皿/摺絵皿 | (12.2) | 5.1 | 3.7 | ロクロ/灰釉・呉須摺絵花文/御深井釉 | 瀬戸・美濃 | 1720~1790年代 | |
| 9 | 土坑2 | 陶器/播鉢 | 34.4 | 15.4 | 14 | ロクロ・紐作り/櫛目8本単位/見込磨耗顕著 | 丹波 | 1690~1700年代 | |
| 10 | 土坑2 | 陶器/燈火皿 | 10.5 | 5.6 | 2.7 | ロクロ・底部ヘラ削り/鉄泥/見込ハマ跡・口縁タール付着 | 志戸呂 | 1680~1800年代 | |
| 11 | 土坑2 | 土器/焙烙/瓦質 | (37.5) | 33.9 | 5.1 | 内耳断面逆L字形/内耳磨耗痕顕著/口唇部内外面煤付着 | 在地 | 1680~1780年代 | |
| 12 | 土坑2 | 石製品/白/上白 | (30.2) | - | 10.3 | 石材:砂岩/逆まわし白/目は磨減、下面は摩耗による傾斜が著しい | - | - | 重量 2.050g |
| 13 | 土坑3 | 磁器/碗/厚手碗 | - | - | (1.8) | ロクロ/染付主文様不明・高台内崩し「大明年製」 | 肥前 | 1680~1740年代 | |
| 14 | 土坑3 | 磁器/蕎麦猪口 | - | - | (2.1) | ロクロ/染付草原文 | 肥前 | 1700~1780年代 | |
| 15 | 溝 | 磁器/碗/端反碗 | (8.2) | 2.9 | 4 | ロクロ/染付花文・見込花文 | 瀬戸・美濃 | 1840~1850年代 | |
| 16 | 溝 | 陶器/播鉢 | - | (12.2) | (7.9) | ロクロ・底部右回転糸切/鉄釉/櫛目13本単位/重ね焼き跡 | 瀬戸・美濃 | - | |
| 17 | 2トレンチ | 磁器/皿/染付輪壳皿 | 14 | 7.1 | 3.1 | ロクロ/染付見込五弁花菊唐草文 | 肥前 | 1720~1770年代 | |
| 18 | 2トレンチ | 陶器/碗/小杉碗 | (7.0) | (2.4) | 4 | ロクロ/灰釉 | 信楽 | 1750~1770年代 | |
| 19 | 2トレンチ | 陶器/碗/小杉碗 | 9.2 | 3.2 | 5.4 | ロクロ/灰釉 | 信楽 | 1750~1770年代 | |
| 20 | 表土 | 磁器/碗/厚手碗 | (10.2) | - | (4.1) | ロクロ/染付印判手井桁蕪葉文 | 肥前 | 1750~1770年代 | |
| 21 | 表土 | 磁器/碗/厚手碗 | (10.8) | - | (4.1) | ロクロ/染付印判手松草花文 | 肥前 | 1680~1740年代 | |
| 22 | 表土 | 磁器/皿/厚手U字高台皿 | (13.6) | - | (2.7) | ロクロ/染付 | 肥前 | 1700~1820年代 | |



土坑 1

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 cm 以下ブロック土主体で空隙有、酸化土含む、5~10mm 炭化物、5 cm 以下礫少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 層に類似、酸化土やや多く、1.5 cm 以下赤褐色ロームブロック、5 cm 以下礫少し、3mm 以下ローム粒・炭化物僅かに含む

土坑 2

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、7 cm 以下円礫やや多く含む、5mm ブロック状黒褐色土やや多く、2mm 以下ローム粒僅かに含む
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm 以下黒褐色土ブロック・粒主体、5 cm 以下礫やや多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性弱、15 cm 大、7 cm 以下円礫主体の暗褐色砂礫層
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、5~50mm 炭化物比較的多く含む、1 cm 以下ロームブロック、陶磁器類大型・破片出土
- 5. 赤褐色土 締り強、粘性やや弱、暗褐色土ブロックと赤褐色ローム粒混合、6 cm 以下礫少し含む

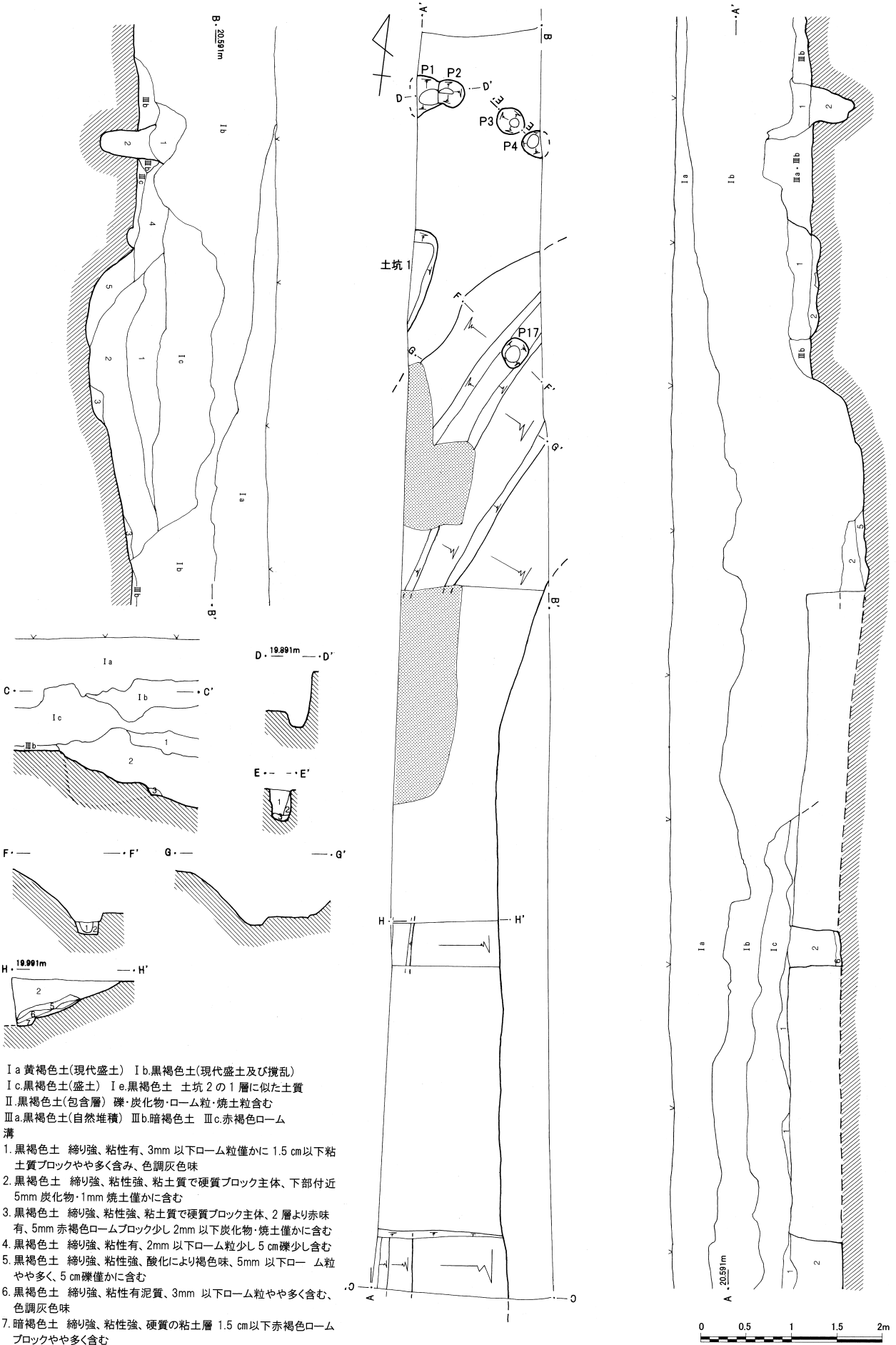
土坑 3

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、21cm 以下円礫非常に多く含む、礫以外に混入物少ない
- 2. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、茶褐色ソフトロームブロック少し含む

土坑 4

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、最大 15 cm、5 cm 以下円礫多く含む、2 cm 以下黄褐色ロームブロック多く含む
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、7 cm 以下円礫やや多く含む、1 cm 以下ブロック状黄褐色砂僅かに含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、4 cm 以下礫少し、2mm 以下ローム粒・焼土僅かに含む
- 4. 暗褐色土 締り有、粘性有、地山 IIIb 層がソフト化、2mm 以下ローム粒僅かに含む
- 5. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒僅かに含む
- 6. 赤褐色土 締り強、粘性有、4 層と同様に地山 IIIc 層ソフト化、1mm 以下ローム粒僅かに含む 4 層とともに崩落土の可能性あり
- 7. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、5mm 以下赤褐色ローム粒少し含む、礫ほとんど含まない
- 8. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、最大 13 cm 平均 4 cm 以下円礫多く含む
- 9. 暗褐色土ベース 締り有、粘性弱、最大 10 cm 平均 4 cm 以下円礫主体、黄褐色砂多く含む
- 10. 黒褐色土 締り有、粘性有、1.5 cm 以下赤褐色ロームブロック、5 cm 以下礫やや多く含む
- 11. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm 以下赤褐色ローム粒多く、5~10mm 黄褐色ロームブロック少し含む

第61図 大井宿遺跡第15地点トレンチ 1 土坑・ピット① (1/60)



- I a 黄褐色土(現代盛土) I b 黒褐色土(現代盛土及び攪乱)
 - I c 黒褐色土(盛土) I e 黒褐色土 土坑2の1層に似た土質
 - II 黒褐色土(包含層) 礫・炭化物・ローム粒・焼土粒含む
 - III a 黒褐色土(自然堆積) III b 暗褐色土 III c 赤褐色ローム溝
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒僅かに 1.5 cm 以下粘土質ブロックやや多く含む、色調灰色味
 2. 黒褐色土 締り強、粘性強、粘土質で硬質ブロック主体、下部付近 5mm 炭化物・1mm 焼土僅かに含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性強、粘土質で硬質ブロック主体、2層より赤味有、5mm 赤褐色ロームブロック少し 2mm 以下炭化物・焼土僅かに含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し 5 cm 礫少し含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性強、酸化により褐色味、5mm 以下ローム粒やや多く、5 cm 礫僅かに含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有泥質、3mm 以下ローム粒やや多く含む、色調灰色味
 7. 暗褐色土 締り強、粘性強、硬質の粘土層 1.5 cm 以下赤褐色ロームブロックやや多く含む

第62図 大井宿遺跡第15地点トレンチ2ピット②・溝(1/60)

ピット 1~4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下赤褐色ローム粒少し、3 cm 赤褐色ロームブロック、2mm 以下焼土僅かに含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 cm 以下赤褐色ロームブロックやや多く、2mm 以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、混入物少なめ、1 cm 赤褐色ロームブロック、5mm 以下ローム粒少し含む

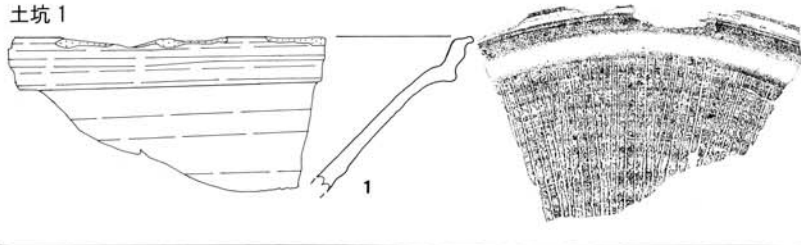
ピット 6~16

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、ブロック状黒褐色土多く、2mm 以下ローム粒、3mm 以下焼土少し、2 cm 礫僅かに含む、広範囲に広がる

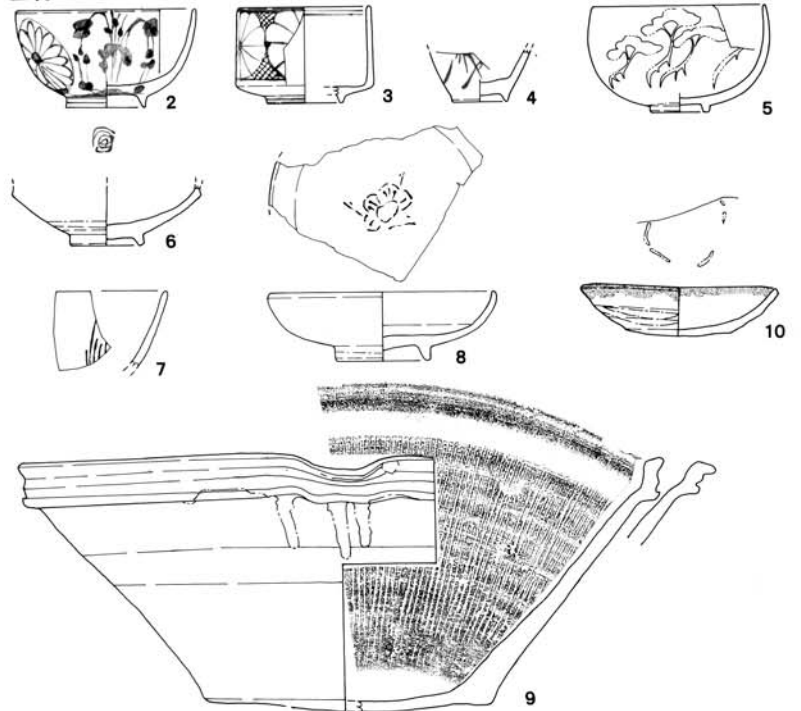
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、灰色味有、1 cm 以下赤褐色ロームブロック・粒やや多く、1mm 以下黄褐色粒・焼土少量含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、1 cm 以下黄褐色ロームブロック、3mm 以下ローム粒少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、(掘り方付近)1.5 cm 以下赤褐色ロームブロックやや多く含む
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、1 cm 以下ソフト質赤褐色ロームブロック・粒やや多く含む
6. 赤褐色土 締りやや弱、粘性有、黒褐色土ベースに1 cm 以下赤褐色ロームブロック・粒多く含む

- ピット 17
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 赤褐色ロームブロック多く含む
2. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有、色調は赤褐色、5~10mm 赤褐色ロームブロック主体

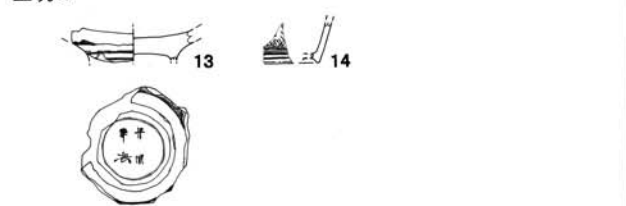
土坑 1



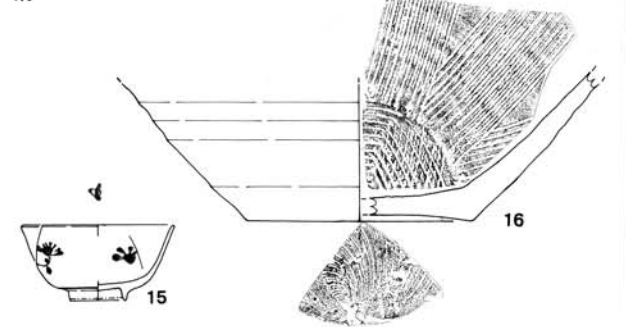
土坑 2



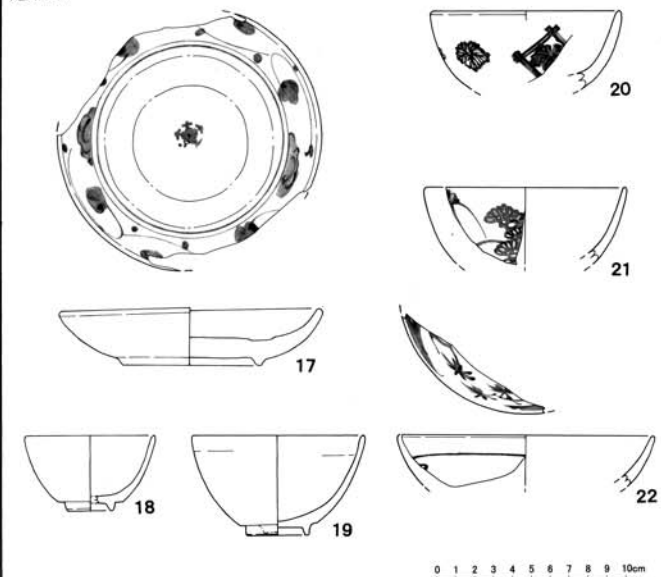
土坑 3



溝



遺構外



第63図 大井宿遺跡第15地点出土遺物 (1/4・1/6)

第20章 大井氏館跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

本遺跡の名称は『埼玉の館城跡』（1972埼玉県教育委員会）によるもので、平安時代末から鎌倉時代に活躍した武蔵七党の一つ、村山党の大井氏一族の館跡という想定による。

遺跡は砂川堀左岸(北側)の舌状に張り出した微高地上の標高21～22mに立地する。砂川堀の対岸は段丘面を形成しており、比高差5mの崖になる。

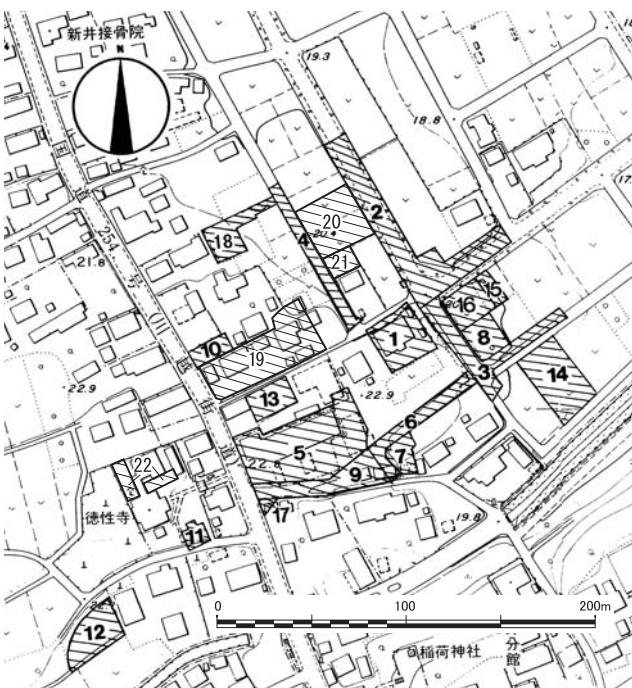
周辺の遺跡は北側に大井宿遺跡、西側に中世村落の本村遺跡が隣接する。砂川対岸には西から西台遺跡、大井戸上遺跡、東台遺跡が位置する。また旧大井町の町名の由来となった大井戸跡（復元大井戸）も本遺跡内に立地する。

2008年2月現在21地点で試掘調査および発掘調査を行ない、AT降灰前の立川ローム層第Ⅵ層段階の石器群や、縄文時代前期の住居跡を検出している。また、遺跡の中央部を川越街道が南北に貫通しており、街道周辺は中世から近代までの遺構や遺物も多数確認され多岐にわたる。近年の区画整理後は再開発による中小の開発が増えている。

II 大井氏館跡遺跡第22地点

(1) 調査の概要

調査は徳性寺の客殿、庫裏の建替えに伴うもので、



第64図 大井氏館跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

原因者より2007年9月21日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、同寺の本殿や敷地内の発掘調査からも大井宿に関する遺構と遺物が多数確認されているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。試掘調査は2007年11月27日から12月1日まで行なった。幅約1.5mと2mのトレンチを設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ない礎石、土坑、ピット等を確認した。

申請者と再協議の結果、現地表面から約40cmの盛土をした上に基礎を築く事から遺跡への影響が無いため工事立会いとした。

写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

① 礎石

礎石1・2はトレンチ1、礎石3はトレンチ2で検出した。礎石1と礎石2は1.8m離れる。礎石1～3は底部中央部に大型の川原石を置き周辺に角礫を配置する。覆土層はローム主体の版築を行なう等しており同一建物に伴う基礎とみられる。

② 土坑・ピット

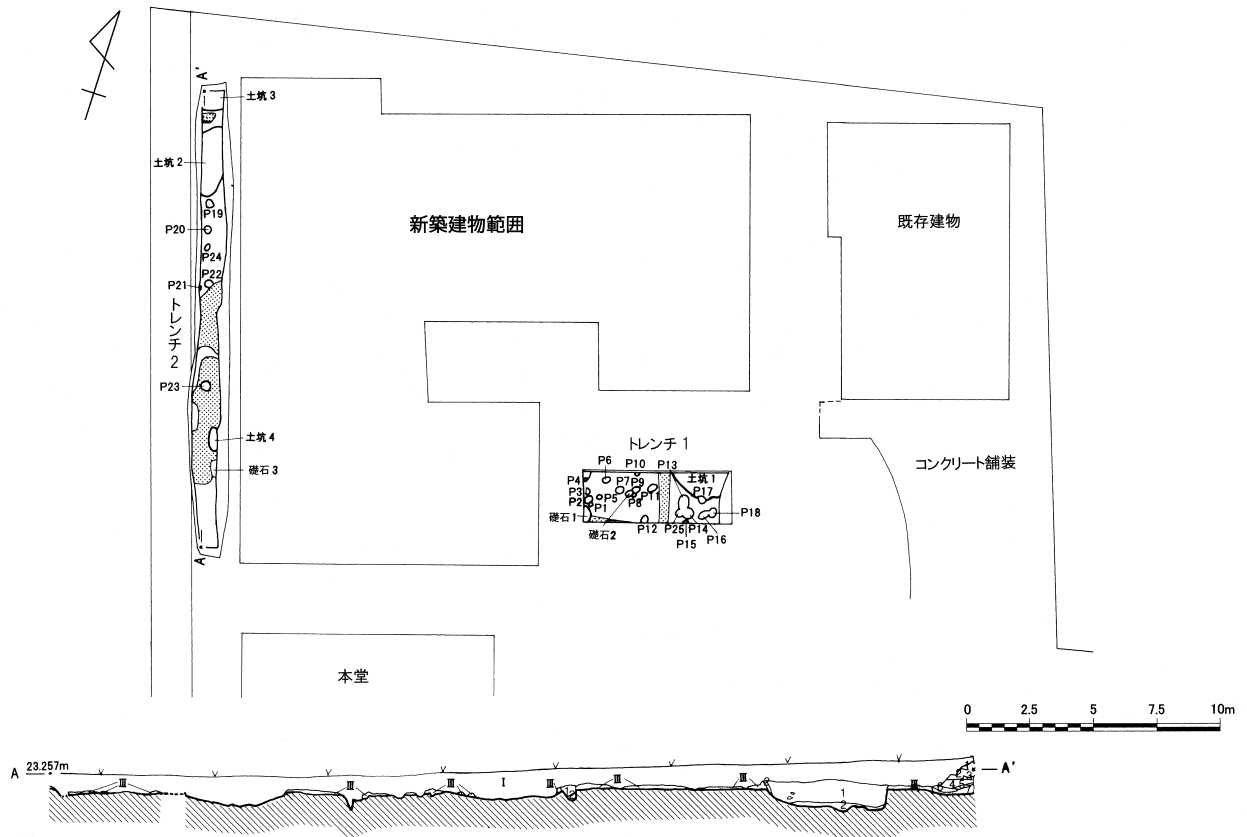
土坑1はトレンチ1、土坑2・3はトレンチ2で検出した。

ピット3は一部のみ検出したため平面形態、規模とも不明である。

土坑・ピットは全て近世以降の時期とみられる。

③ 出土遺物

遺物は調査区西側に位置する土坑2からややまとまって出土している。1から5は土坑2出土で、19世紀前半から中頃の遺物が多くみられる。6は礎石2出土の砥石、7は表土層出土の陶器の瓶掛とみられる。詳細については第43表出土遺物観察表のとおりである。



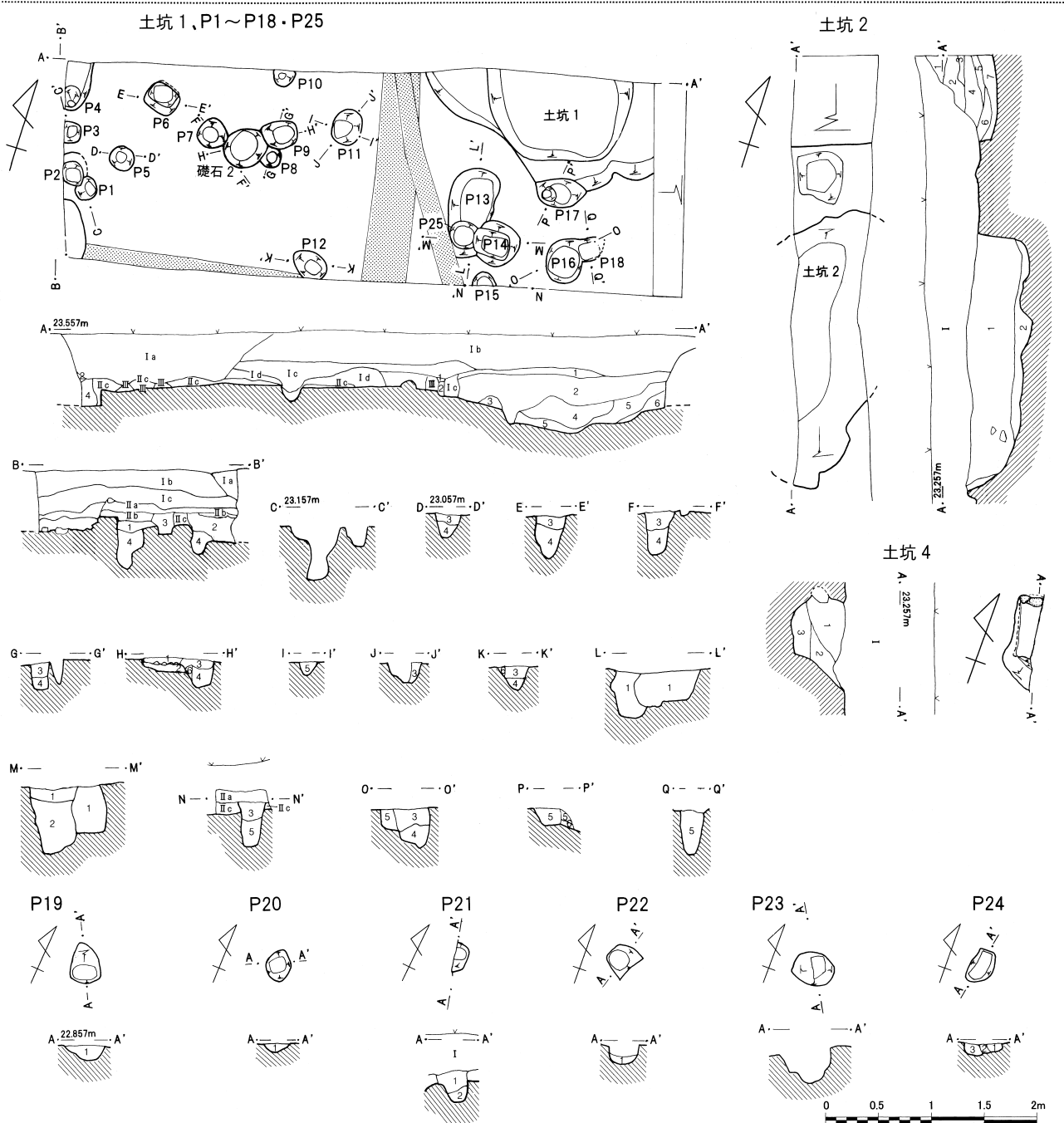
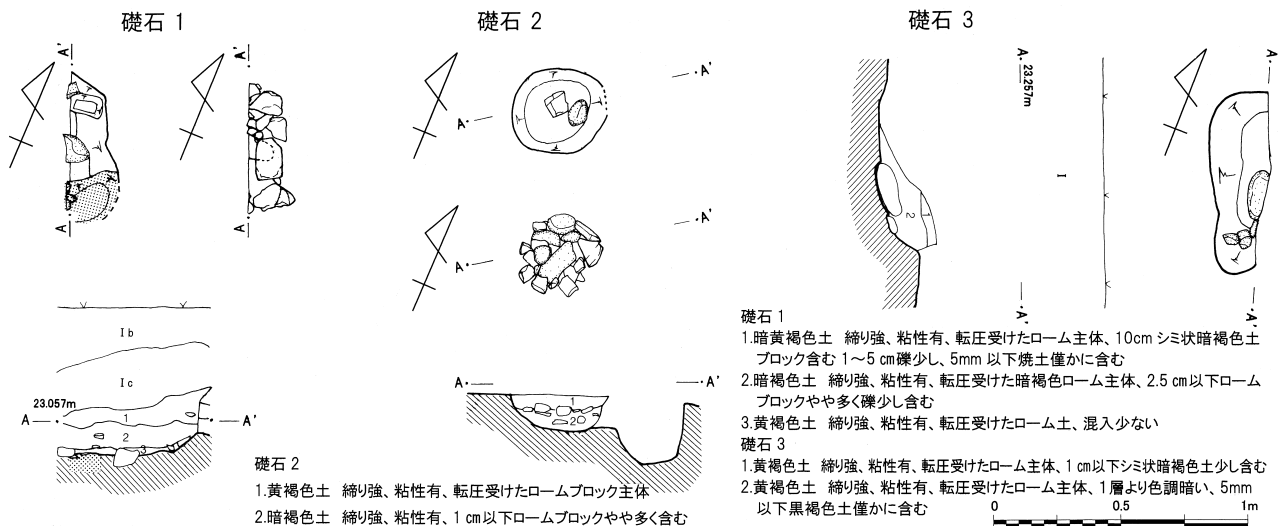
- I. 暗褐色土 表土、近年の掘り返し
- I a. 黒褐色土 締り強、粘性有、表土 I b. 暗褐色土 締り強、粘性有、表土
- I c. 暗褐色土 締り強、粘性有、表土 I d. 暗褐色土 締り強、粘性有、表土
- II a. 暗褐色土 締り強、粘性有、1 cm以下ロームブロック・粒やや多く、3mm以下灰色粘土粒・焼土粒少し、2.5~10 cm礫少し含む
- II b. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調暗く、5mm以下ローム粒少し含む、混入物少ない
- II c. 黒褐色土 締り強、粘性有、3 cm以下ソフトロームブロック少し含む

第65図 大井氏館跡遺跡第22地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)

第42表 大井氏館跡遺跡第22地点礎石・土坑・ピット一覧表

(単位cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|------|------|-----------|----------|------|
| 礎石1 | 不明 | (116×40) | - | 27.0 |
| 礎石2 | 円形 | 37×33 | 29×24 | 14.3 |
| 礎石3 | 不明 | 72×(24) | 50×(11) | 24.0 |
| 土坑1 | 不明 | (195×108) | (107×72) | 42.2 |
| 土坑2 | 不明 | (258×67) | (156×45) | 44.6 |
| 土坑3 | 不明 | 一部のみ検出で不明 | | |
| 土坑4 | 不明 | (90×25) | (52×16) | 47.3 |
| P 1 | 円形 | 22×21 | 12×9 | 15.4 |
| P 2 | 不明 | 32×(24) | 13×12 | 51.8 |
| P 3 | 方形 | 20×16 | 10×9 | 18.7 |
| P 4 | 不明 | 20×(13) | 7×4 | 28.5 |
| P 5 | 円形 | 23×23 | 11×10 | 23.3 |
| P 6 | 方形 | 32×28 | 18×15 | 61.3 |
| P 7 | 円形 | 28×27 | 15×14 | 41.4 |
| P 8 | 不明 | 18×(16) | 11×10 | 26.2 |
| P 9 | 方形 | 33×26 | 21×16 | 21.6 |
| P 10 | 不明 | 21×(15) | 7×6 | 14.5 |
| P 11 | 円形 | 34×27 | 19×17 | 21.2 |
| P 12 | 楕円形 | 34×25 | 15×11 | 39.7 |
| P 13 | 不明 | (53)×45 | (42)×29 | 36.1 |
| P 14 | 円形 | 45×43 | 25×17 | 66.8 |
| P 15 | 不明 | 23×(12) | 16×(9) | 37 |
| P 16 | 円形 | 41×33 | 30×28 | 35.6 |
| P 17 | 楕円形 | 47×28 | 9×7 | 32 |
| P 18 | 不明 | (26)×22 | 19×16 | 45.9 |
| P 19 | 三角形 | 41×29 | 23×14 | 15.8 |
| P 20 | 楕円形 | 30×23 | 15×14 | 9.7 |
| P 21 | 不明 | 28×(12) | 12×(10) | 21 |
| P 22 | 不明 | 30×(24) | 18×18 | 20.7 |
| P 23 | 楕円形 | 39×31 | 20×12 | 32.4 |
| P 24 | 方形 | 34×23 | 28×13 | 16.4 |
| P 25 | 円形 | 28×26 | 19×18 | 49.5 |



第66図 大井氏館跡遺跡第22地点礎石 (1/30)、土坑・ピット (1/60)

大井氏館跡遺跡第22地点土坑・ピット土層説明

土坑 1

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土・炭化物多く、同ローム粒・灰色粘土少し含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・粒やや多く、1cm以下炭化物少し、ブロック状灰色シルト少し、5mm焼土僅かに含む、土管・塩ビ管混入
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、5~30mmロームブロック僅かに、2mm以下炭化物少し含む
- 4.黒褐色土 締り有、粘性有、粉状ローム、1cm以下ロームブロック、1mm以下焼土僅かに含む
- 5.暗褐色土 締り有、粘性有、ローム多く含み色調明るい、1~4cmハードロームブロック・しみ状黒褐色土少し含む
- 6.暗黄褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム主体、しみ状暗褐色土、2cm以下ハードロームブロック少し含む

土坑 2

- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、3cm以下ロームブロック僅かに、3mm以下ローム粒少し、10cm・4cm以下礫やや多く、5mm以下炭化物・焼土・同白色粘土僅かに含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、5cm以下ロームブロック多く、5cm以下炭化物少量含む

土坑 3

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下炭化物多く、焼けた瓦・壁土片多く含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、2cm以下礫少し、1cm炭化物僅かに含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、平均3mm以下焼土多く、5~10mm礫少し含む
- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し・同炭化物僅かに、2cm以下礫少し、陶磁器含む
- 5.黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒、5mm以下炭化物、1mm以下焼土少し含む
- 6.暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ソフトローム粒少し・同炭化物僅かに含む
- 7.暗褐色土 締り強、粘性有、2.5cm以下炭化物やや多く、1cm以下ロームブロック・粒底部付近にやや多く集中、3mm以下焼土僅かに、陶磁器含む

土坑 4

- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し、1cmロームブロック僅かに、6~17cm礫少し含む
- 2.暗褐色土 締り弱、粘性やや弱、5mm以下ローム粒少し含む
- 3.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む

ピット 1~12・15~18

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック・粒やや多く・同礫少し、5~10mm白色粘土少し含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多く・同黒灰色土ブロックやや多く含む
- 4.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、3層と含有物同じ、締り弱めでボソボソする
- 5.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、ロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多、1.5cm以下黒灰色土ブロック少し含む
- 6.暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック主体、黒褐色土少し含む

ピット 13

- 1.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5cm以下ロームブロック多く、4cm以下黒灰色土ブロックやや多く、4cm灰色シルトブロック少し含む(P1~の4層に似るが各ブロック大きい)

ピット 14

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、8cm・5~10mmロームブロックやや多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、3cm以下ロームブロック多く・同黒灰色土ブロックやや多く含む、締り弱めでボソボソする

ピット 19

- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒主体 3cm以下ロームブロックやや多く含む(底部に黒褐色土薄く堆積)

ピット 20

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く、5mm以下黒色土粒少し含む

ピット 21

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く・同炭化物少し含む
- 2.暗褐色土ベース 締り強、粘性有、4cm以下ロームブロック主体

ピット 22

- 1.暗褐色土ベース 締り強、粘性やや弱、3cm以下ロームブロック多く含む

ピット 24

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック、5mm以下ローム粒多く含む転圧受ける
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む

ピット 25

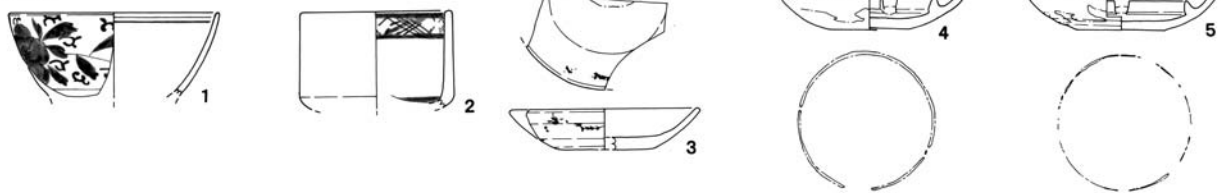
- 1.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、色調暗く黒褐色に近い、5mm以下ローム粒やや多く、1.5cm以下黒色土ブロック少し含む

第43表 大井氏館跡遺跡第22地点出土遺物観察表

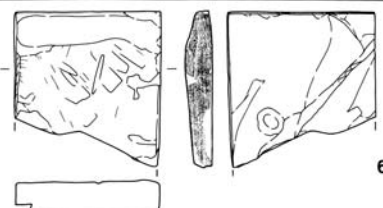
(単位cm・g)

| No. | 出土遺構名 | 種別・器種 | 単位cm・g (括弧付きは残存値) | | | | 技法・文様・その他 | 推定産地 | 推定年代 | 備考 |
|-----|-----------|-----------|-------------------|---------|-------|-----|------------------------|-------|-------------|----|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅・内径 | 高さ・厚さ | 重量 | | | | |
| 1 | 土坑 2 | 磁器/碗/小広東碗 | (11.1) | - | (4.4) | - | ロクロ/染付花唐草文/口縁内二重圏線 | 肥前 | 1770~1810年代 | |
| 2 | 土坑 2 | 磁器/碗/筒茶碗 | (8.0) | - | (5.1) | - | ロクロ/青磁染付・口縁内四方樺文 | 肥前 | 1740~1780年代 | |
| 3 | 土坑 2 | 陶器/灯明皿 | (10.1) | (4.7) | 2.2 | - | ロクロ・底部へら削り調整/鉄釉/口縁煤付着 | 瀬戸・美濃 | 1800~1840年代 | |
| 4 | 土坑 2 | 陶器/灯明受皿 | 9.6 | 4.0 | 2.1 | - | ロクロ・底部へら削り調整/鉄釉/重ね焼き跡 | 瀬戸・美濃 | 1800~1840年代 | |
| 5 | 土坑 2 | 陶器/灯明受皿 | 10.1 | 4.6 | 2.1 | - | ロクロ・底部へら削り調整/鉄釉/重ね焼き跡 | 瀬戸・美濃 | 1800~1840年代 | |
| 6 | 礎石2(No22) | 石製品/砥石/合砥 | (8.2) | 7.6 | 2.2 | 150 | 石質:風化粘板岩・淡黄褐色/3側面に鋸挽き痕 | - | - | |
| 7 | トレンチ2 | 陶器/瓶掛 | - | - | 6 | - | ロクロ/緑釉・陽刻雲龍文 | 瀬戸・美濃 | 1800~1840年代 | |

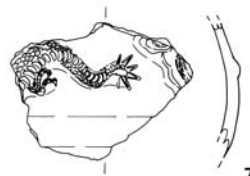
土坑 2



礎石 2



遺構外



第67図 大井氏館跡遺跡第22地点出土遺物 (1/4)

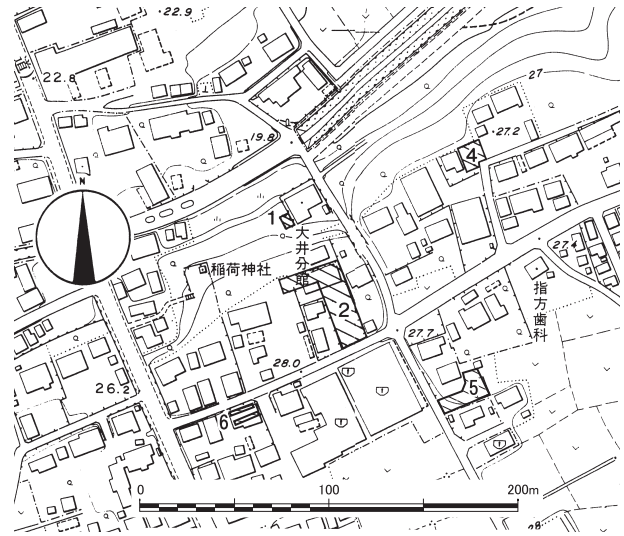
第21章 大井戸上遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

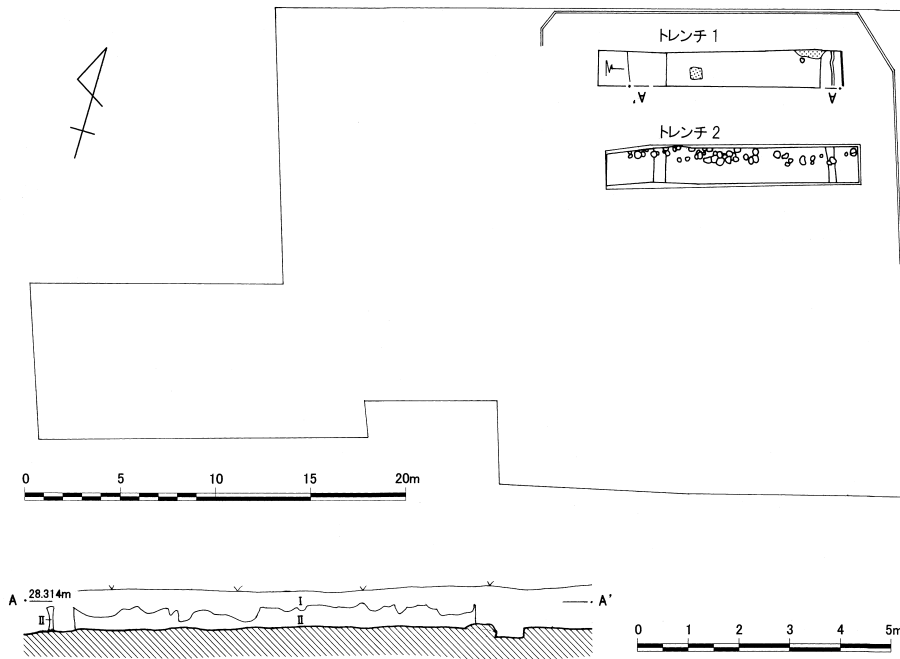
大井戸上遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.4km、砂川堀の右岸で標高26~28mの台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。東台遺跡同様砂川堀との比高差は約7~8mで急崖をなし、左岸は緩やかな傾斜を成す。遺跡の範囲は東西200m、南北100m、遺跡面積約25,000㎡である。

周辺の遺跡は、砂川堀の対岸に大井氏館跡遺跡、同一崖線上の上流に西台遺跡、下流に東台遺跡と続く。

本遺跡は1989年に初調査以来、2008年2月現在までに6地点で試掘調査が行なわれた。第1、2、4地点の調査では旧石器時代の礫群と石器群を検出した。西台遺跡から東台遺跡まで崖線上に連綿と旧石器時代の遺跡が存在していることになる。また、第2・3地点では崖線に沿って時期不明の溝跡を検出している。



第68図 大井戸上遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



- I. 黒褐色土・暗褐色土・黄褐色土
表土・耕作土・イモピツ
- II. 暗褐色土 締り有、粘性有、ソフトロームブロック多く、暗褐色土ブロック・黒褐色土ブロックやや多く含む、柵列ピット群の基盤層

第69図 大井戸上遺跡第6地点遺構配置図 (1/400)、土層図 (1/150)

II 大井戸上遺跡第6地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年2月5日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。試掘調査は2008年3月25日から28日まで行なった。幅2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ない多数のピットを確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。出土遺物はない。

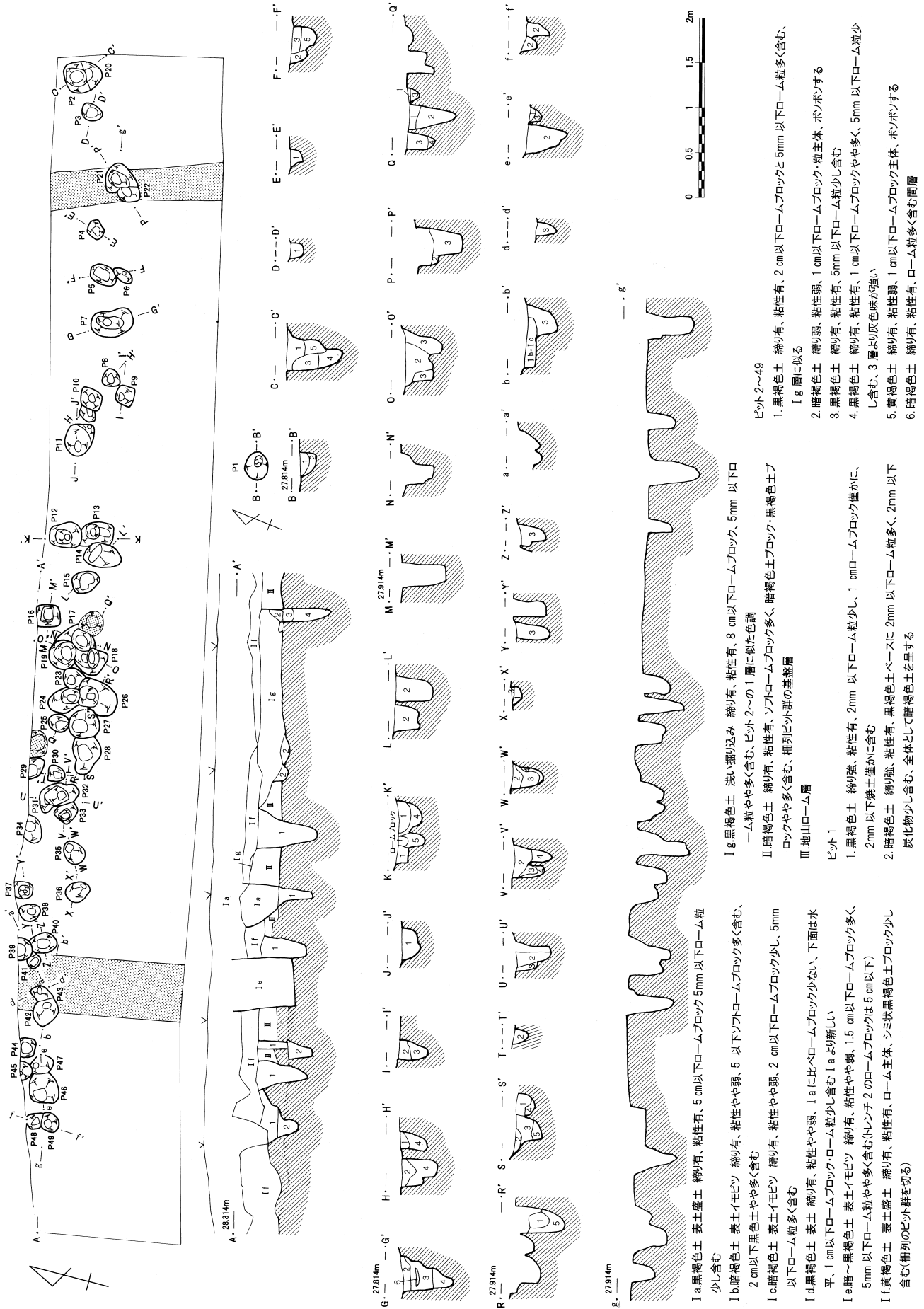
(2) 遺構

【ピット】トレンチ2で東西方向に並ぶピット49基を検出した。近世以降のものとみられる。

第44表 大井戸上遺跡第6地点ピット一覧表

(単位cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|------|---------|---------|------|
| 1 | 円形 | 31×24 | 6×3 | 33.2 |
| 2 | 方形 | 36×(24) | 16×12 | 58.4 |
| 3 | 方形 | 24×19 | 13×11 | 18.3 |
| 4 | 方形 | 22×18 | 12×10 | 16.2 |
| 5 | 方形 | 31×21 | 18×11 | 28.0 |
| 6 | 楕円形 | 24×12 | 4×4 | 26.0 |
| 7 | 方形 | 48×30 | 10×8 | 60.1 |
| 8 | 円形 | 21×20 | 12×8 | 34.0 |
| 9 | 方形 | 26×24 | 8×7 | 22.9 |
| 10 | 方形 | 40×25 | 10×7 | 47.4 |
| 11 | 円形 | 36×30 | 12×8 | 31.6 |
| 12 | 方形 | 36×26 | 7×5 | 40.7 |
| 13 | 楕円形 | 44×(24) | 9×6 | 32.8 |
| 14 | 楕円形 | 43×27 | 24×9 | 53.9 |
| 15 | 方形 | 32×22 | 18×17 | 33.5 |
| 16 | 方形 | 25×25 | 13×8 | 53.6 |
| 17 | 方形 | 32×(22) | 17×11 | 32.8 |
| 18 | 不明 | 38×(30) | 15×6 | 39.4 |
| 19 | 方形 | (32)×32 | 18×12 | 49.1 |
| 20 | 不明 | 35×(18) | 12×(8) | 39.7 |
| 21 | 方形 | 38×35 | 14×11 | 52.5 |
| 22 | 方形 | 24×(17) | (10)×9 | 27.1 |
| 23 | 不明 | (24)×23 | 10×9 | 27.6 |
| 24 | 方形 | 40×26 | 10×9 | 64.0 |
| 25 | 円形 | 24×20 | 15×10 | 34.2 |
| 26 | 方形 | 49×34 | 9×7 | 60.0 |
| 27 | 方形 | 34×32 | 17×15 | 36.3 |
| 28 | 方形 | 41×31 | 18×16 | 36.1 |
| 29 | 方形 | 25×16 | 12×(11) | 9.2 |
| 30 | 方形 | 18×17 | 9×7 | 20.5 |
| 31 | 方形 | 37×22 | 12×10 | 39.1 |
| 32 | 方形 | -×20 | - | - |
| 33 | 方形 | 24×21 | 10×7 | 37.7 |
| 34 | 不明 | 31×22 | 13×11 | 39.8 |
| 35 | 方形 | 26×22 | 10×7 | 49.1 |
| 36 | 楕円形 | 30×22 | 7×4 | 26.5 |
| 37 | 方形 | 20×19 | 12×12 | 31.5 |
| 38 | 円形 | 24×20 | 10×7 | 41.7 |
| 39 | 不明 | 25×(16) | 14×- | 29.6 |
| 40 | 方形 | 29×22 | 14×11 | 34.5 |
| 41 | 方形 | 15×(14) | 10×7 | 25.2 |
| 42 | 方形 | 33×26 | 9×7 | 49.5 |
| 43 | 楕円形 | 26×16 | 10×4 | 28.6 |
| 44 | 方形 | 22×(16) | 14×12 | 25.1 |
| 45 | 不明 | 22×(14) | 4×(2) | 20.9 |
| 46 | 方形 | 35×32 | 16×15 | 39.8 |
| 47 | 方形 | 26×20 | 7×6 | 24.5 |
| 48 | 方形 | 18×17 | 12×7 | 18.0 |
| 49 | 方形 | 23×20 | 8×8 | 26.0 |



第70図 大井戸上遺跡第6地点ピット(1/60)

I a. 黒褐色土 表土盛土 締り有、粘性有、5 cm以下ロームブロック5mm以下ローム粒少し含む
 I b. 暗褐色土 表土イモビツ 締り有、粘性やや弱、5以下ソフトロームブロック多く含む、2 cm以下黒色土やや多く含む
 I c. 暗褐色土 表土イモビツ 締り有、粘性やや弱、2 cm以下ロームブロック少、5mm以下ローム粒多く含む
 I d. 黒褐色土 表土 締り有、粘性やや弱、I a)に比べロームブロック少ない、下面は水平、1 cm以下ロームブロックローム粒少し含む I a)より新しい
 I e. 暗～黒褐色土 表土イモビツ 締り有、粘性やや弱、1.5 cm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む(トレンチ2のロームブロックは5 cm以下)
 I f. 黄褐色土 表土盛土 締り有、粘性有、ローム主体、シ状黒褐色土ブロック少し含む(棚列のピット群を切る)
 I g. 黒褐色土 浅い掘り込み 締り有、粘性有、8 cm以下ロームブロック、5mm以下ローム粒や多く含む、ピット2～の1層に似た色調
 II. 暗褐色土 締り有、粘性有、ソフトロームブロック多く、暗褐色土ブロック 黒褐色土ブロックやや多く含む、棚列ピット群の基盤層
 III. 地山ローム層
 ピット1
 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、1 cmロームブロック僅かに、2mm以下炭土塵かに含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに2mm以下ローム粒多く、2mm以下灰化物少し含む、全体として暗褐色土を呈する

ピット2～49
 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2 cm以下ロームブロックと5mm以下ローム粒多く含む、I g層に似る
 2. 暗褐色土 締り弱、粘性弱、1 cm以下ロームブロック 粒主体、ボンボンする
 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、1 cm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒少し含む、3層より灰色味が強い
 5. 黄褐色土 締り有、粘性弱、1 cm以下ロームブロック主体、ボンボンする
 6. 暗褐色土 締り有、粘性有、ローム粒多く含む

第45表 東台遺跡調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積(m ²) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 |
|----|-----------------------------|---|---------------------|----------|---|----------|
| 1 | 大井東台 | 1981. | | 町史編纂事業 | 遺構無し、縄文中期土器 | |
| 2 | 大井東台640-7 | 1981.12.14~1982.2.13 | 667 | 宅地造成 | 縄文中期住居12、旧石器時代石器 | 東部遺跡群Ⅲ |
| 3 | 大井東台672 | 1982.5.19~6.15 | 666 | 宅地造成 | 炉穴7、土坑2、柱穴群 | 東部遺跡群Ⅳ |
| 4 | 大井東台671 | 1982.6.17~11.18 | 587 | 農地転用 | 縄文中期住居3、後期住居1、 旧石器ユニット、集石4、土坑14、溝 | 東部遺跡群Ⅳ |
| 5 | 大井東台 | 1983.7.25~8.9 | 195 | 町史編纂事業 | 縄文中期住居2、土坑1 | 東台遺跡 |
| 6 | 大井東台 | 1984.1.9~1.12 | | 宅地造成 | 縄文中期住居1 | |
| 7 | 大井東台670-2 | 1984.5.15~6.13 | | 共同住宅 | 縄文中期住居4、後期住居1 | |
| 8 | 大井東台672 | 1984.8.18~9.21 | 345 | 町史編纂事業 | 縄文中期住居1、炉穴2、土坑14 | 東台遺跡Ⅱ |
| 9 | 大井東台 | 1984.10.25~1985.2.15 | 1,000 | 駐車場造成 | 縄文中期住居22、後期住居1、炉穴、 ピット群、旧石器礫群 | 大井町史資料Ⅰ |
| 10 | 大井東台670-1 | 1985.10.1~11.25 | 896 | 住宅建設 | 縄文中期住居5、土坑5 | 東部遺跡群Ⅵ |
| 11 | 大井東台673 | 1986.1.14~3.20 | 660 | 宅地造成 | 縄文中期住居2、集石土坑3、土坑1、ピット | 東部遺跡群Ⅵ |
| 12 | 大井東台673 | 1987.5.6~6.26 | 330 | 転地返し | 縄文早期住居1、土坑18、平安時代住居2、溝1 | 東部遺跡群Ⅶ |
| 13 | 大井東台670-6 | 1988.1.14~2.27 | 971 | 倉庫建設 | 縄文中期住居9、集石1、土坑9、ピット20 | 東部遺跡群Ⅷ |
| 14 | 大井東台649-16 他 | 1988.1.27~2.24 | 735 | 住宅建設 | 縄文中期住居12、屋外埋壘1、 集石土坑1、土坑8、ピット38 | 東部遺跡群Ⅸ |
| 15 | 大井市沢577-1 他 | (1989.10.17~11.10) 1989.11.17~1990.8.1 | 700 | 住宅建設 | 落とし穴1、木炭窯1、粘土探掘坑2、 奈良・平安土器 | 東部遺跡群Ⅹ |
| 16 | 大井713-4・5 | (1990.8.1~8.4) | 3,048 | 資材置場設置 | 縄文中期住居1、土坑1 | 東部遺跡群ⅩⅠ |
| 17 | 大井621-1 | (1990.9.5~9.12) 1990.10.9~12.27 | 1,470 | 診療所建設 | 縄文中期住居8、土坑30、ピット94、柵列 | 東部遺跡群ⅩⅠ |
| 18 | 大井529-1,588 | (1991.3.11~5.20) 1992.2.24~1994.7.5 | 20,000 | 共同住宅 | 旧石器礫群、石器集中17、落とし穴1、 整形製鉄炉7、木炭窯9、探掘坑4、土坑9、 溝、柵列、道路跡、平安土器 | 東台製鉄遺跡 |
| 19 | 大井621 | (1992.5.31~6.7) | 4,489 | 特養新設 | 縄文中期住居8 | 町内遺跡群Ⅰ |
| 20 | 大井649-27 | 1992.1.30 | 5 | 個人住宅 | 縄文中期住居1 | 町内遺跡群Ⅲ |
| 21 | 大井713-11・12 | 1992.3.7~3.11 | 299 | 個人住宅 | 遺構無し、縄文土器片 | 町内遺跡群Ⅲ |
| 22 | 大井651-6 | (1994.5.10~5.11) 1994.5.30~7.30 | 146 | 店舗建設 | 縄文中期住居6、土坑1 | 調査会報告13集 |
| 23 | 大井649-12・13 | (1995.6.23~6.27) | 285 | 個人住宅 | 縄文中期住居2 | 町内遺跡群Ⅳ |
| 24 | 大井634-20 | (1995.7.6) | 58 | 個人住宅 | 縄文時代集石、土坑 | 町内遺跡群Ⅳ |
| 25 | 大井648-13・14 | 1995.10.22~12.16 | 296 | 個人住宅 | 縄文中期住居5、後期住居1、袋状土坑1、 土坑10、ピット6 | 町内遺跡群Ⅳ |
| 26 | 大井東台601-1・4・5 | (1996.11.6~11.18) 1997.1.14~3.18 | 2,248 | 共同住宅 | 縄文中期住居1、土坑3、落とし穴1、ピット24 | 調査会報告13集 |
| 27 | 大井600-1 | (1997.2.19) 1997.2.19~3.14 | 965 | 個人住宅 | 縄文中期住居1、炉穴1、土坑1、 落とし穴1、ピット44 | 町内遺跡群Ⅵ |
| 28 | 大井東台710-4 | (1997.3.17~3.19) | 231 | 個人住宅 | 遺構無し、縄文土器片 | 町内遺跡群Ⅵ |
| 29 | 大井東台606-3 | (1998.2.27~3.3) 1998.3.4~3.5 | 500 | 個人住宅 | 縄文早期炉穴9、ピット2 | 町内遺跡群Ⅶ |
| 30 | 大井640-1 | (1998.11.4~11.12) | 1,330 | 駐車場 | 縄文中期住居1、屋外炉、ピット | 町内遺跡群Ⅷ |
| 31 | 大井630-3,640-8 | (1999.5.7~5.21) | 186 | 道路築造 | 縄文中期住居2 | 町内遺跡群Ⅸ |
| 32 | 大井603-1 | (2000.8.4~8.9) | 92 | 製茶工場 | ピット3 | 町内遺跡群Ⅹ |
| 33 | 大井662-1 | (2000.8.4~8.8) 2000.8.10~2001.1.25 | 7,076 | 分譲住宅 | 石器群4、礫群4、 縄文中期住居30、後期住居4、 掘立柱建物跡1、炉穴14、集石土坑4、他 | 町内遺跡群Ⅹ |
| 34 | 大井東台624-2 | (2002.3.12~3.25) 2002.3.26~5.8 | 1,414 | 共同住宅 | 縄文中期住居5、土坑11、ピット16 | 町内遺跡群ⅩⅠ |
| 35 | 大井東台649-31 | (2001.9.6~9.8) | 48 | 個人住宅 | 縄文中期住居1 | 町内遺跡群ⅩⅠ |
| 36 | 大井東台614 | (2001.10.15~11.2) | 272 | 倉庫建設 | ピット5、土器片 | 町内遺跡群ⅩⅠ |
| 37 | 大井東台626-12 | 2001.10.12~11.5 | 100 | 個人住宅 | 縄文中期住居2、ピット1 | 町内遺跡群ⅩⅠ |
| 38 | 大井東台614-3 | (2002.1.28~2.15) | 787 | 駐車場 | 縄文中期住居1、堅穴状遺構1、 集石土坑2、土坑2、ピット2 | 町内遺跡群ⅩⅠ |
| 39 | 大井626-8 | (2002.6.3~6.20) | 100 | 個人住宅 | ピット3、縄文土器片、石屑 | 町内遺跡群ⅩⅡ |
| 40 | 大井661 | (2003.10.6~11.4) | 1,875 | 幼稚園 | 土坑6、ピット10、柵列 | 町内遺跡群ⅩⅡ |
| 41 | 大井東台648-4 | (2004.5.11~5.14) | 182 | 個人住宅 | 縄文中期住居3、集石1、土坑1、屋外ピット1 | 町内遺跡群ⅩⅡ |
| 42 | 大井640-4 | (2004.9.7~9.17) | 515 | 教会建築 | 縄文中期住居2、落とし穴1、土坑3、ピット20 | 町内遺跡群ⅩⅡ |
| 43 | 大井東台661-6 | (2005.1.13) | 964 | 駐車場 | ピット4 | 町内遺跡群ⅩⅡ |
| 44 | 大井東台664-15 | 2005.12.8~12.28 | 200 | 個人住宅 | 縄文中期住居1、後期住居2、土坑5、ピット9 | 市内遺跡群2 |
| 45 | 大井東台710-1,711-1, 717-1.2 | (2006.5.31~9.1) 2006.9.8~2007.3.7 | 7,971 | 小学校建設 | 縄文中期住居1、後期住居2、土坑5、ピット10 | 市内遺跡群3 |
| 46 | 大井東台626-11 | (2006.9.4~6) 2006.9.15~28 | 100 | 個人住宅 | 縄文中期住居2、集石2、土坑1、 | 市内遺跡群3 |
| 47 | 大井東台602-4,602-5 | (2006.9.19~20) | 320 | 個人住宅 | 遺構遺物なし | 市内遺跡群3 |
| 48 | 大井東台649-21 | (2007.1.16~26) | 60 | 個人住宅 | 縄文中期住居3 | 市内遺跡群3 |
| 49 | 大井東台646,647-1,665 | (2008.1.28~30,2.4~19) 2008.1.31~2.1 | 174 | 通学路築造 | 縄文時代中期~後期住居跡1軒検出・5軒を確認。 屋外埋壘1、粘土探掘坑1、土坑1、ピット1、溝6 | 市内遺跡群4 |
| 50 | 大井東台716-1の一部 | 2008.7.14~22 | 646 | 東台小学校プール | 遺構遺物なし | 市内遺跡群5 |
| 51 | 大井東台648-2 | (2009.3.10~18) 3.18~5.7 | 296 | 個人住宅 | 縄文時代中期住居跡6軒・土坑4・ピット14、 縄文土器・石器 | 市内遺跡群5 |

第46表 東台遺跡住居跡一覧表

(単位cm)

| 住居番号 | 調査率 | 平面形()は推定 | 規模 | 炉 | | | 埋 | 掘 | 壁溝 | 備考 | 時期 | 文献 | |
|------|-----|-----------|--------------|----|----|----|---|---|----|-----------------|--------------|---------|----|
| | | | | 地床 | 埋設 | 石囲 | | | | | | | |
| 1 | 80% | (円形) | (550×?) | | | | | | 有 | 曾利系多い | E I 新 | 東Ⅲ | |
| 2 | 完掘 | (円形) | (400) | | | | | | | 床まで削平 | E I 古 | 東Ⅲ | |
| 3 | 80% | 隅丸方形 | (?×510) | | | | | | | 大木系有り | E I 新古相 | 東Ⅲ | |
| 4 | 完掘 | 隅丸方形 | 700×750 | ② | | | | | | 拡張 | E II | 東Ⅲ | |
| 5 | 完掘 | 円形 | 460×470 | | | | | | | 床まで削平 | E II | 東Ⅲ | |
| 6 | 完掘 | 円形 | 420×430 | | | | | | | 床削平 | E II | 東Ⅲ | |
| 7 | 完掘 | 隅丸方形 | 510×525×25 | ② | | | | | | 曾利・連弧多い | E II 古 | 東Ⅲ | |
| 8 | 完掘 | 隅丸方形 | 530×(465)25 | | | | | | 有 | 7号に切られる | E II 新 | 東Ⅲ | |
| 9 | 50% | 円形 | 約500 | | | | | | | 床削られる | E II | 東Ⅲ | |
| 10 | 完掘 | 円形 | 410×400 | | | | | | | 攪乱 | E I 新 | 東Ⅲ | |
| 11 | 完掘 | 円形 | 410×420 | | | | | | | | E II | 東Ⅲ | |
| 12 | 20% | 円形 | | | | | | | | | E II | 東Ⅲ | |
| 13 | 完掘 | 円形 | 300×270 | | | | | | | | E III | 資 | |
| 14 | 完掘 | 円形張出 | 430×418 | | | | | | | | E I 新 | 資 | |
| 15 | 完掘 | 円形 | 514×520 | | | | | | | 連弧文多い | E II 古 | 資 | |
| 16 | 完掘 | 長円形 | 525×424 | | | | | | | 15号を切り、17号に切られる | E II | 資 | |
| 17 | 完掘 | 長円形・円形 | 478×422 | | | | | | 有 | 曾利系多い | E II 新 | 資 | |
| 18 | 90% | 円形 | 523 | ② | | | | | | 19号を切る | E I 新 | 資 | |
| 19 | 完掘 | 隅丸台 | 517 | | | | | | 有 | 曾利系多い | E I 古 | 資 | |
| 20 | 完掘 | 長円形 | 658×583 | | | | | | | 21号を切る | E I 中 | 資 | |
| 21 | 完掘 | 隅丸台形 | 482×462 | | | | | | | | E I 新 | 資 | |
| 22 | 55% | 円形? | 切×292 | | | | | | 有 | 23号を切る | E II | 資 | |
| 23 | 80% | 長円形 | 622×約470 | | | | | | 有 | 曾利系多い | 勝Ⅲ末 | 資 | |
| 24 | 完掘 | 長円形 | 東は区城外 | | | | | | | | E II 新 | 東Ⅰ | |
| 25 | 完掘 | 長円形? | 西南攪乱 | | | | | | | 24号に切られる | E II | 資 | |
| 26 | | | | | | | | | | | 勝 | 資 | |
| 27 | | 長円形 | 部分発掘 | | | | | | | 時期不明 | | 資 | |
| 28 | 完掘 | 長円形 | 473×450 | | | | | | | | E II 新 | 資 | |
| 29 | 完掘 | ? | 切×563 | ② | | | | | 有 | 28号に切られる | E I 新 | 資 | |
| 30 | 完掘 | 長円形? | 切×532 | | | | | | | 31号に切られる | E II | 資 | |
| 31 | 完掘 | 長円形 | 618×472 | | | | | | | 曾利系多い | 勝Ⅲ新 | 資 | |
| 32 | 完掘 | 長円形 | 573×525 | | | | | | | 34号と複合 | E II | 資 | |
| 33 | 完掘 | 柄鏡形 | ?×520 | | | | | | ③ | 32号に切られる | 称古 | 資 | |
| 34 | 完掘 | 隅丸方形 | 720×628 | | | | | | | 32号と複合 | E I | 資 | |
| 35 | 90% | 長円形 | 510×540 | | | | | | | | E II 古 | 資 | |
| 36 | 35% | 円形 | 西半部不明 | | | | | | | 柄鏡形? | E IV | 資 | |
| 37 | 完掘 | 長円形 | 530×420×15 | | | | | | 有 | 入口部に段 | 勝Ⅱ古 | 東Ⅰ | |
| 38 | 40% | 隅丸方形 | 南半部未掘 | | | | | | | 39号を切る | E I 新 | 東Ⅰ | |
| 39 | 15% | 隅丸方形 | 大部分未掘 | | | | | | | 不明 | E II | 東Ⅰ | |
| 40 | 35% | 隅丸方形 | 南半部未掘 | | | | | | | | E I 新 | 東Ⅰ | |
| 41 | 完掘 | 楕円形 | 480×390×20 | | | | | | | 44号に切られる | 勝Ⅲ末 | 東Ⅰ | |
| 42 | 45% | 不明 | 南部・東部未掘 | | | | | | | | E I 新 | 東Ⅰ | |
| 43 | 60% | 長円形 | 650×600×60 | ② | | | | | | | E II | 東Ⅰ | |
| 44 | 完掘 | 隅丸方形 | 550×(500)×20 | | | | | | 有 | 41・47号を切る | E I 新 | 東Ⅰ | |
| 45 | 完掘 | 長楕円形 | 740×600×25 | ③ | | | | | | 2回以上拡張 | E II | 東Ⅰ | |
| 46 | 完掘 | 楕円形 | 400×380×10 | | | | | | | 45号に切られる | E | 東Ⅰ | |
| 47 | 30% | 円形 | 300×未掘×25 | | | | | | | 44号に切られる | 阿Ⅱ | 東Ⅰ | |
| 48 | 20% | 隅丸方形 | 南大部分未掘 | | | | | | | | E I 新 | 東Ⅰ | |
| 49 | 完掘 | 円形 | 560×550×30 | | | | | | | | E II | 東Ⅰ | |
| 50 | 完掘 | 長円形 | 420×380×30 | | | | | | | | 阿Ⅱ | 東Ⅰ | |
| 51 | 完掘 | 円形 | 330×310×30 | | | | | | | 柱穴無し | 阿Ⅱ | 東Ⅰ | |
| 52 | 完掘 | 円形 | 495×490×50 | | | | | | 有 | | 勝Ⅱ | 東Ⅰ | |
| 53 | 完掘 | 円形 | 340×310×30 | | | | | | | 8号土坑で壊れる | 勝Ⅱ | 東Ⅰ | |
| 54 | 40% | 円形 | ?×460×65 | | | | | | 有 | | E I 古 | 東Ⅰ | |
| 55 | 70% | (円形) | 半掘550 | | | | | | 有 | | 阿Ⅱ | 東Ⅰ | |
| 56 | 60% | (円形) | (480)×半掘 | | | | | | | | E III | 東Ⅰ | |
| 57 | 完掘 | 円形 | 600×600 | | | | | | ② | | E II | | |
| 58 | 完掘 | 楕円形 | 520×420 | | | | | | | | 勝Ⅲ末 | | |
| 59 | 50 | (楕円形) | 560×半掘 | | | | | | | | E I 新 | | |
| 60 | 完掘 | 円形 | 520×510 | | | | | | 有 | | E I 新 | | |
| 61 | 50 | (円形) | 1/2調査 | | | | | | | | E II | | |
| 62 | 25 | (楕円形) | 1/4調査 | | | | | | | 北大部分未発掘 | E I 古 | | |
| 63 | 45 | (円形) | 一部調査 | | | | | | 未掘 | ② | 有 | E I 古 | |
| 64 | 70 | (楕円形) | 453×(408)×22 | | | | | | | 65・67住と複合 | E III | 調13集 | |
| 65 | 55 | (楕円形) | 502×不明×22 | | | | | | 有 | 64住と複合、東半未発掘 | E I 古 | 調13集 | |
| 66 | 完掘 | (楕円形) | (668×560)×48 | | | | | | | | E I 新古相 | 調13集 | |
| 67 | 完掘 | 隅丸方形 | 667×590×72 | | | | | | 有 | 拡張、64住と複合 | E I 古 | 調13集 | |
| 68 | 20 | (楕円形) | (480)×不明×47 | | | | | | | 北大部分未発掘 | 不明 | 調13集 | |
| 69 | 75 | (楕円形) | (580)×不明×50 | | | | | | 有 | 拡張、南部分未発掘 | E II | 調13集 | |
| 70 | 90 | 円形 | 570×(510)×30 | | | | | | 有 | | E II 中相 | 町Ⅳ | |
| 71 | 完掘 | (楕円形) | 440×410×16 | | | | | | 有 | | 勝Ⅱ新 | 町Ⅳ | |
| 72 | 15 | 隅丸(長)方形 | (480)×? | | | | | | 未掘 | 西大部分未発掘 | E I 新 | 町Ⅳ | |
| 73 | 完掘 | 楕円形 | 606×550×30 | | | | | | ② | 有 | 伏甕有り、75住と重なる | E II 中相 | 町Ⅳ |
| 74 | 完掘 | 楕円形 | 612×514×40 | | | | | | 有 | | 勝Ⅲ古相 | 町Ⅳ | |
| 75 | 70 | 柄鏡形 | (590)×? | | | | | | | 73住・8号土坑と重なる | 堀 | 町Ⅳ | |
| 76 | 完掘 | 楕円形 | 391×366 | | | | | | | | E II 新 | 調13集 | |
| 77 | 完掘 | 隅丸六角形 | 595×480×24 | | | | | | | | E II | 町Ⅳ | |
| 78 | 40 | 不明 | 不明 | | | | | | | 床まで削平 | E II 新相 | 町Ⅴ | |
| 79 | 40 | 不明 | 不明 | | | | | | | 未掘 | 不明 | 町Ⅴ | |
| 80 | 20 | 不明 | 不明 | | | | | | | 未掘 | 不明 | 町Ⅴ | |
| 81 | 40 | 不明 | 不明 | | | | | | | | 不明 | 町Ⅴ | |
| 82 | 65 | (円形) | (546)×? | | | | | | 有 | 異系統土器多し | E I 新古相 | 町Ⅴ | |
| 83 | 30 | (楕円形) | 410×310×35 | | | | | | | 覆土内に土坑 | 勝Ⅱ | 町Ⅴ・市3 | |
| 84 | 30 | (楕円形) | 不明(南大部分未掘) | | | | | | | 攪乱で炉のみ検出 | 不明 | 町Ⅴ | |
| 85 | 完掘 | 楕円形 | 530×476 | | | | | | | | 不明 | 調17集 | |
| 86 | 完掘 | 円形 | 464×492 | | | | | | | 曾利多し | E II 古 | 調17集 | |
| 87 | 完掘 | 柄鏡形 | 415×552 | | | | | | ② | | E II 新・E IV | 調17集 | |
| 88 | 完掘 | 不明 | (465×380) | | | | | | | 床削平 | E III | 調17集 | |
| 89 | 完掘 | 不明 | (335×315) | | | | | | | 削平 | 阿Ⅱ古 | 調17集 | |
| 90 | 30 | 不明 | (190×60×10) | | | | | | | 未掘 | | 町Ⅴ | |

東：東部遺跡群、資：大井町史資料編、調：大井町遺跡調査会、
町：大井町町内遺跡群、市：ふじみ野市市内遺跡群



第72図 東台遺跡の調査区と遺構分布図 (1/2,000)

II 東台遺跡第49地点

(1) 調査の概要

調査はふじみ野市立東台小学校の通学路築造に伴うもので、ふじみ野市長より2007年5月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。通学路は遺跡中央部北側の平坦面から、砂川に降りる斜面部分に位置する。西側に隣接する33・44地点の調査では、縄文時代中期から後期初頭の住居跡等を検出している。築造工事の担当課である市教育委員会学校教育課と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年1月28日から2月19日まで、重機による通学路部分全面の表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、調査区南側平坦面で縄文時代中期から後期とみられる住居跡5軒、北側平坦面で縄文時代の住居跡1軒と集石土坑2基等を確認した。また斜面部分では縄文時代の土坑1基、時期不明の粘土採掘坑1基を確認した。

学校教育課と再協議の結果、斜面部分の土坑について通学道路(階段部分)の基礎が遺構に影響するため、発掘調査を行なった。その他の遺構については、歩行者専用通学路で築造工事において30cm以上の保護層が保てるため、工事立会いの措置をとった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

住居跡6軒、屋外埋甕、集石土坑2基、土坑・ピットの時期は縄文時代、粘土採掘工は古代以降の可能性が高い。屋外埋甕、土坑、ピット1、粘土採掘坑1基、溝1～6本の詳細については第47表一覧表のとおりである。

①171号住居跡

調査区の平坦部から斜面にかかる部分に位置する。斜面の地山ローム面で遺構を確認したが、覆土層と床面は確認出来なかった。平面形と規模は不明であるが、地床炉と掘り込みのしっかりしたピット2基を検出した。確認面の推定径は約4.5mである。

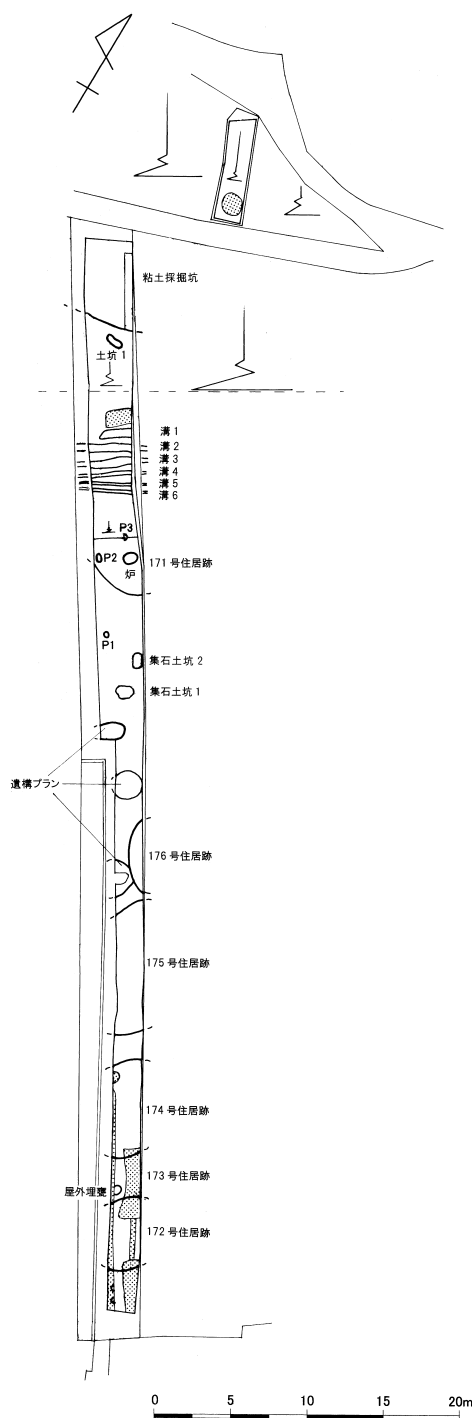
【炉】平面形は楕円形で規模は確認面径(100)×65cm、深さ11.9cmである。

【ピット】ピットは2基(P2・3)を検出した。P2の平面形は円形で確認面径32×30cm、底径18cm深さ32.9cmである。P3の西側半分は攪乱を受ける。確認面径30cm、底径15cm深さ35.7cmである。

②172～176号住居跡

172～176号住居跡は住居覆土の範囲のみを確認した。一部攪乱部分を掘り下げて深さの確認を行なったが、平面形態や規模、時期などは不明である。遺物は住居跡覆土上層出土のものである。

【172号住居跡】調査区の南側に位置する。173号住居跡と重複し本住居跡が新しいとみられる。住居確認面径5.1×1.9mの黒褐色土範囲に遺物が多数出土する。



第73図 東台遺跡第49地点遺構配置図 (1/500)

【173号住居跡】172号住居跡と174号住居跡の間に位置し、両住居跡の床面より本住居の床面は浅い。土層の観察からは本住居跡が古いとみられる。

【174号住居跡】173号住居跡の北側に位置し、173号住居跡と重複、本住居跡が新しいとみられる。確認面径6.3×1.8mの黒色土範囲に遺物が多数出土する。

【175号住居跡】174号住居跡と176号住居跡の間に位置する。確認面径6.9×1.7mの黒色土範囲に遺物がやや多めに出土する。

【176号住居跡】調査区の中央部、175号住居の北側に位置する。4.6×1mの弧状の黒色土範囲がみられるが出土遺物は少ない。

③屋外埋甕

調査区南側173号住居跡の覆土層中に位置し、土坑の西側は攪乱を受ける。埋甕は土坑北側寄りに口縁部を下にした逆位に埋設し僅かに南に傾く。

④集石土坑

集石土坑2基は調査区北側の平坦面に位置する。詳細は、第48表の集石土坑・観察表のとおりである。

⑤土坑・ピット

土坑は砂川に面する斜面部分に、ピット1は171号住居跡と集石土坑2の間に位置する。

⑥粘土採掘坑

砂川に下る斜面の中腹よりやや上位に位置する。幅50cmのトレンチを設定し深さと覆土の堆積状況を確認した。平面は弧状を呈し、底面は礫層上面ではほぼ平坦である。堅穴を掘って粘土を採掘した後ローム層主体の覆土が堆積、覆土上層には礫や縄文時代の石器等が多数出土する。

⑦溝

溝は台地平坦面から砂川に下る縁辺部に6本が並行して位置し、根切り溝とみられる。

⑧出土遺物（第77・78図）

1～4は172号住居跡出土土器。1は水煙状把手で渦巻文をつくる曾利Ⅰ式。2は口縁部無文で胴部は沈線間に半截竹管の押圧を施す勝坂Ⅲ式。3は隆帯と沈線の区画内に撚糸文を施す。4は地文撚糸文、頸部無文帯と隆帯の懸垂文と蛇行懸垂文で区画を配す。3、

4は同一個体とみられる加曾利Ⅰ式。

5～44は174号住居跡覆土層出土土器。5は隆帯脇に2種類の狭い角押文を施す阿玉台式。6は地文撚糸文で沈線の懸垂文を施す。7、8は隆帯の区画内に縄文を施す。9は地文RL縄文に半截竹管の内側で半隆帯状沈線を描く。10は地文RL縄文に微隆帯を施す。11～13は深い沈線文と磨消し、14には地文縄文を施す。15、16は微隆帯と磨消し。17は口縁部無文、沈線間にRL縄文を施し2列の円形刺突を施す。18は口縁部無文で沈線を施す。19～23は沈線磨消しと刺突を施す。24、25は4～6本の条線を施す。26、27は沈線文を施す。34は隆帯に円形刺突、35は円形刺突と弧状沈線を施す。36は口唇部に円形刺突と円孔を施す。28～30は沈線間に縄文、又は磨消しを施す。32は円孔と縦に2つ刺突を施す。31、33、40、41は沈線と磨消しを施す。37・39は無文の口縁部が「く」の字状に内屈する。38は沈線文と隆帯に円形刺突文を施す。42、43は無文の底部、44は無文胴部片である。6、7は加曾利Ⅱ～Ⅲ式、8～16は中期末から後期初頭、17～23、32は称名寺2式、28～30は称名寺1式、24～26は称名寺式、32、34～36は堀之内1式、その他は堀之内式とみられる。

45～49は175号住居跡覆土層出土土器。45は平口縁で、隆帯の区画沿いに連続刺突文を施す阿玉台式。46は2本組み隆帯の区画内に細かな撚糸文、47は地文撚糸文で頸部無文帯を有す。48は広い頸部無文帯と2本の横位隆帯、胴部は撚糸文を施す。49は浅鉢形土器で無文の口縁部が屈曲する。

第47表 東台遺跡第49地点遺構一覧表

(単位cm)

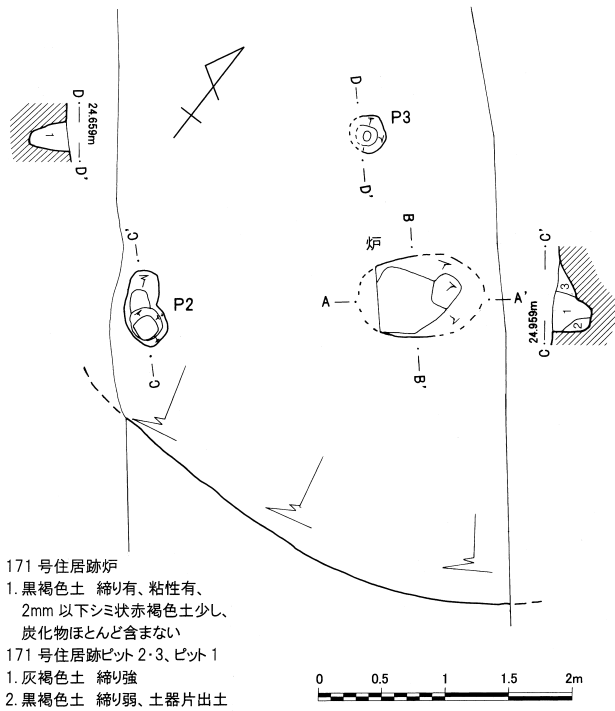
| 遺構名 | 平面(断面)形態 | 確認面径(上幅) | 底径(下幅) | 深さ |
|-------|----------|----------|---------|--------|
| 屋外埋甕 | 楕円形 | 96×(42) | 64×(60) | 21.0 |
| 土坑 | 楕円形 | 144×53 | 120×36 | 43.6 |
| ピット1 | 楕円形 | 50×40 | 30×22 | 34.8 |
| 粘土採掘坑 | 弧状 | 500 | 500 | 80～230 |
| 溝1 | 「U」状 | 40～52 | 25 | 45.2 |
| 溝2 | 「U」状 | 77 | 25～34 | 68.7 |
| 溝3 | 「U」状 | 45～56 | 13～25 | 19.5 |
| 溝4 | 「U」状 | 40～52 | 20～23 | 39.8 |
| 溝5 | 「U」状 | 41～46 | 13～20 | 38.3 |
| 溝6 | 「U」状 | 50～55 | 25～30 | 123.1 |

第48表 東台遺跡第49地点集石土坑・出土礫観察表

(単位cm・g・%)

| 集石No | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 礫範囲 | 総点数 | 総重量 | 平均重量 | 破損個数 | 完形個数 | 焼成個数 | 未焼成個数 | タール・煤付着数 | タール・煤未付着数 |
|------|------|---------|---------|------|-------|-----|----------|------|-----------|---------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 楕円形 | 112×89 | 41×34 | 29.1 | 90×74 | 286 | 10,943.0 | 38.3 | 265(92.7) | 21(7.3) | 37(13.0) | 249(87.0) | 3(1.0) | 283(99.0) |
| 2 | 楕円形 | 97×(68) | (78)×51 | 22.2 | 60×45 | 411 | 11,975.0 | 29.1 | 396(96.4) | 15(3.6) | 152(37.0) | 259(63.0) | 8(1.9) | 403(98.1) |

171号住居跡



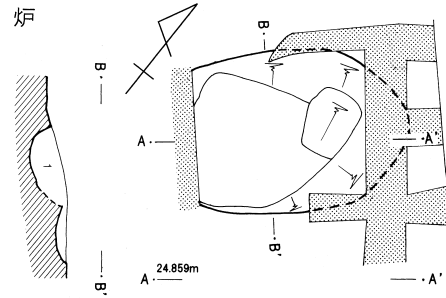
171号住居跡炉

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下シミ状赤褐色土少し、炭化物ほとんど含まない

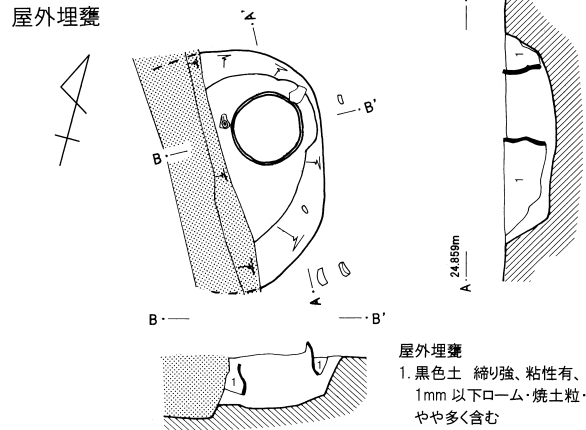
171号住居跡ピット2・3、ピット1

- 1. 灰褐色土 締り強
- 2. 黒褐色土 締り弱、土器片出土
- 3. 黄褐色土 灰褐色混、締り強

炉



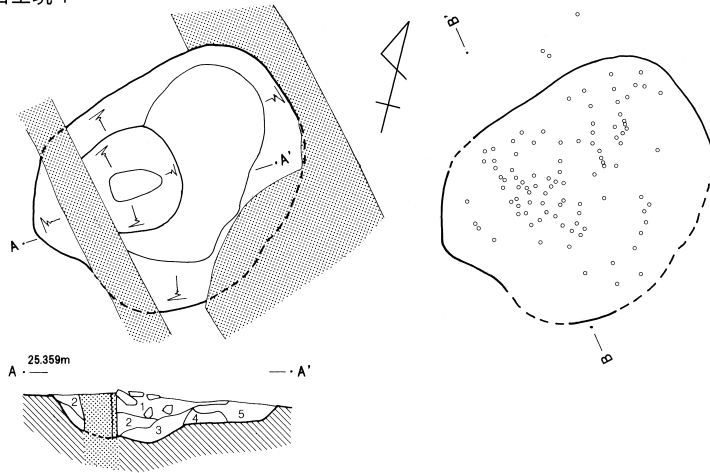
屋外埋甕



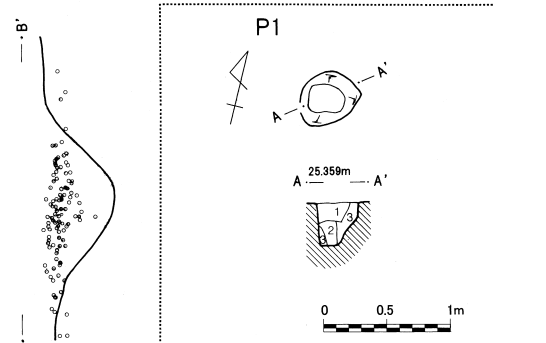
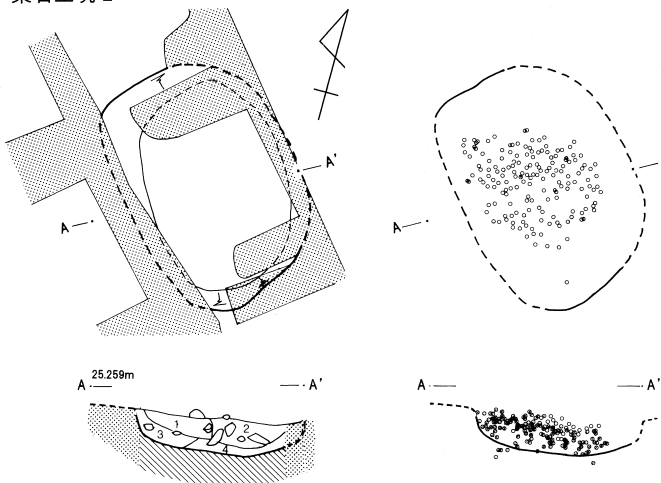
屋外埋甕

- 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土粒・やや多く含む

集石土坑1

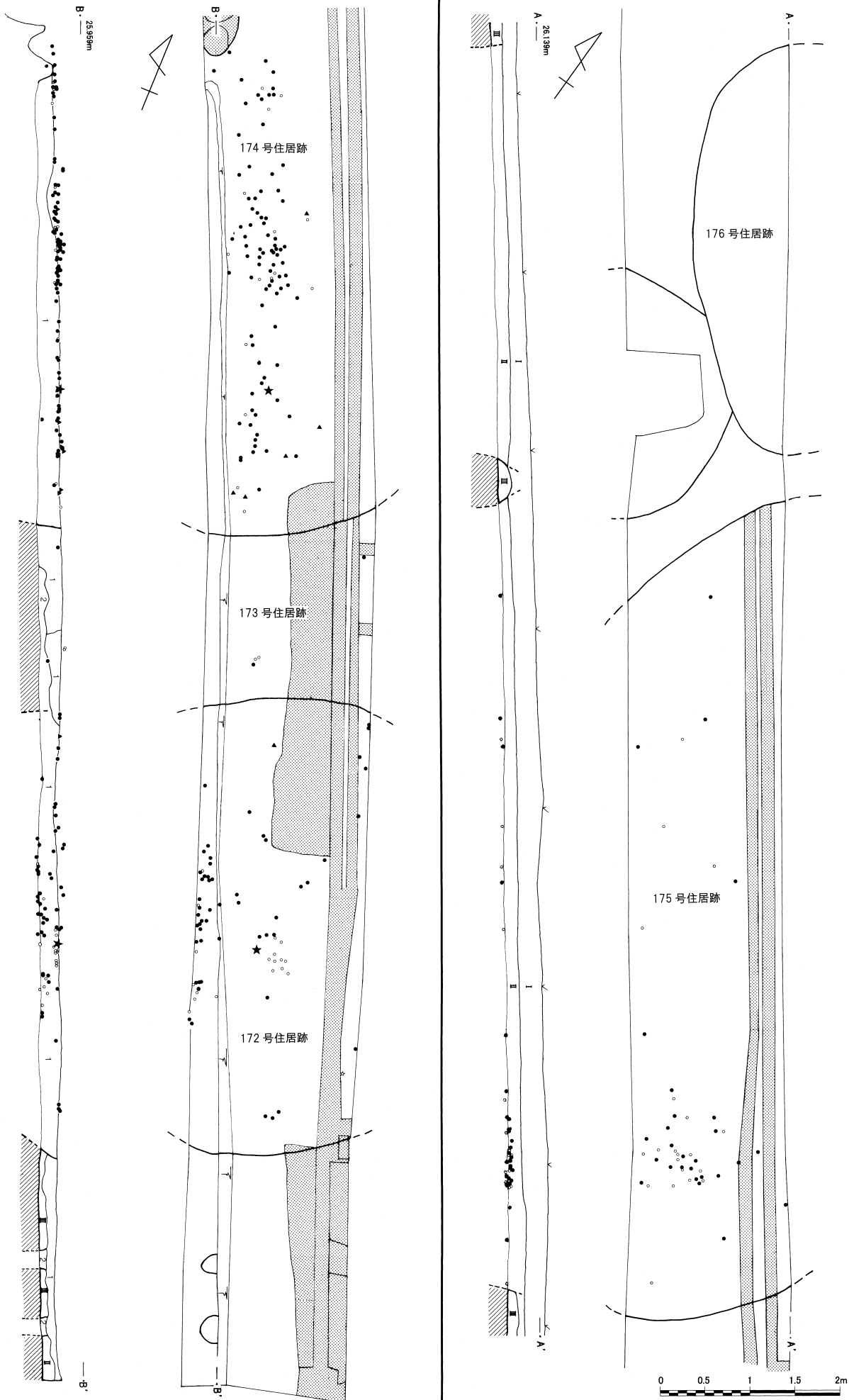


集石土坑2

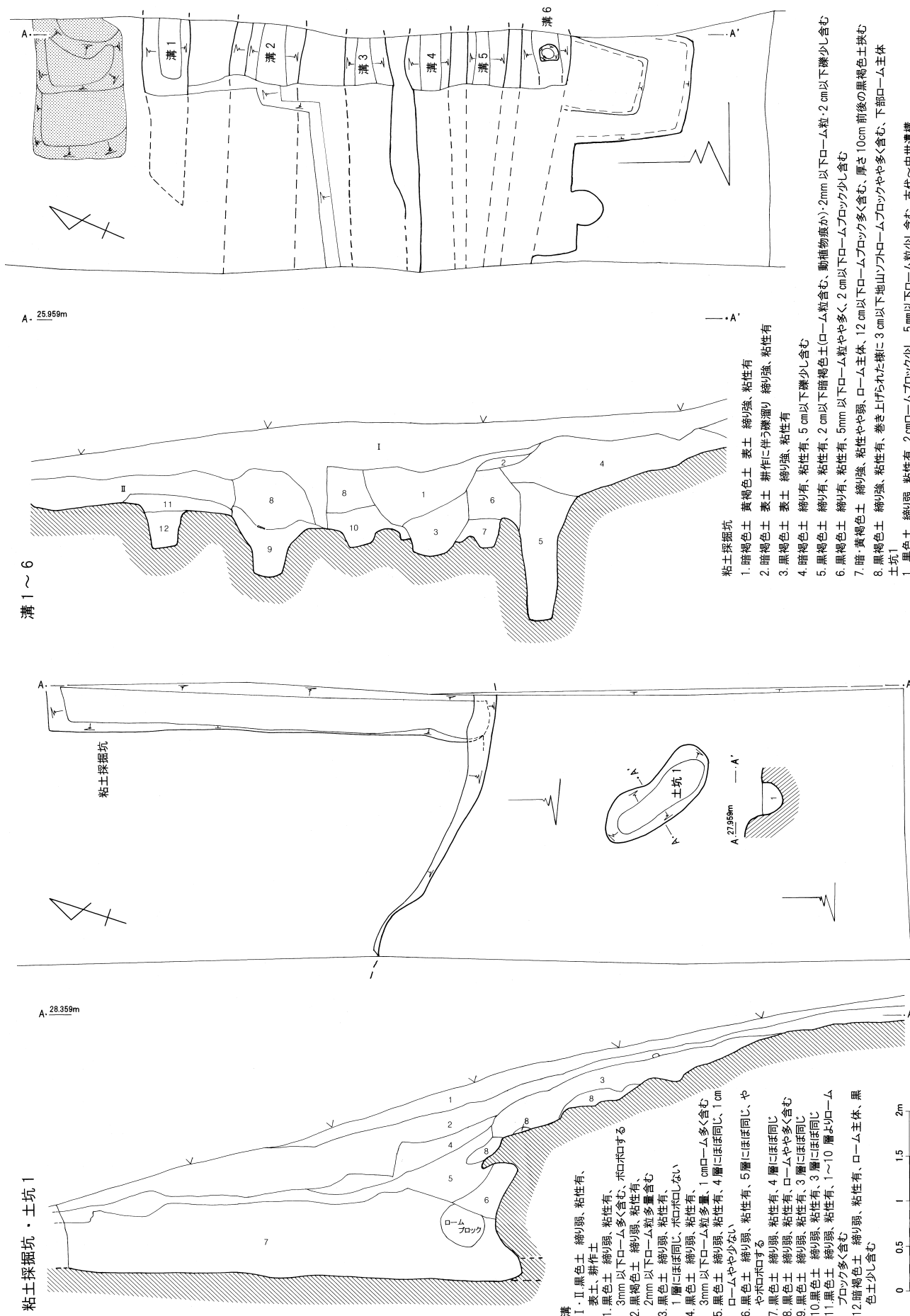


- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土 耕作土
 - II. 黒色土 締り弱、粘性有、2cm以下ロームブロック多く含む
175・176号住居跡の覆土層が耕作された層
 - III. 黒褐色土 締り弱、粘性有、縄文包含層住居は本層を掘り込む
172号住居跡
 - 1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下しみ状ローム・焼土多く含む
173号住居跡
 - 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下しみ状ローム粒・焼土少し、遺物少し含む
 - 2. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下しみ状ローム粒・焼土多く含む
174号住居跡
 - 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mmローム粒・焼土多く、遺物多く含む
175号住居跡
 - 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mmローム粒・焼土多く、遺物多く含む
集石土坑1
 - 1. 黒褐色土 締り3~5層より弱い、礫含む、炭化物少量含む
 - 2. 暗灰色土 締り3~5層より弱い、炭化物少量含む、
 - 3. 黄褐色土 締り強い、炭化物含む
 - 4. 黄褐色土 締り強い、炭化物少量含む
 - 5. 暗黄褐色土 締り強い、炭化物含む
集石土坑2
 - 1. 黒褐色土 締り弱い、炭化物多く含む
 - 2. 暗褐色土 1層より締り強い
 - 3. 灰褐色土 炭化物多く含む
 - 4. 黄褐色土 締り強い、ローム含む
- BB' (第 四 図)
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下しみ状ローム・焼土極少し含む
 - 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層にほぼ同じ、やや色調明るい

第74図 東台遺跡171号住居跡・炉 (1/60・1/30)、第49地点屋外埋甕・集石土坑・ピット (1/30)

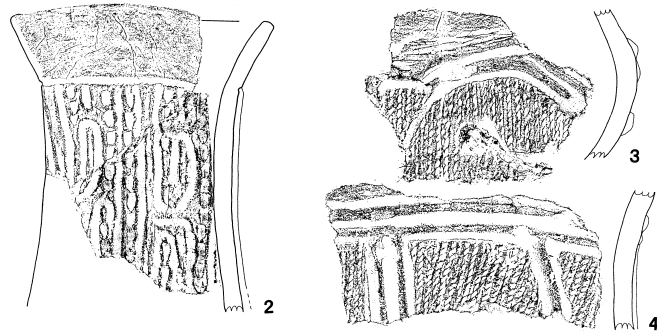
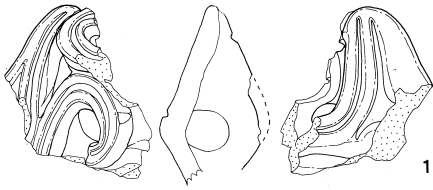


第75図 東台遺跡172~176号住居跡遺物出土状況図 (1/60)

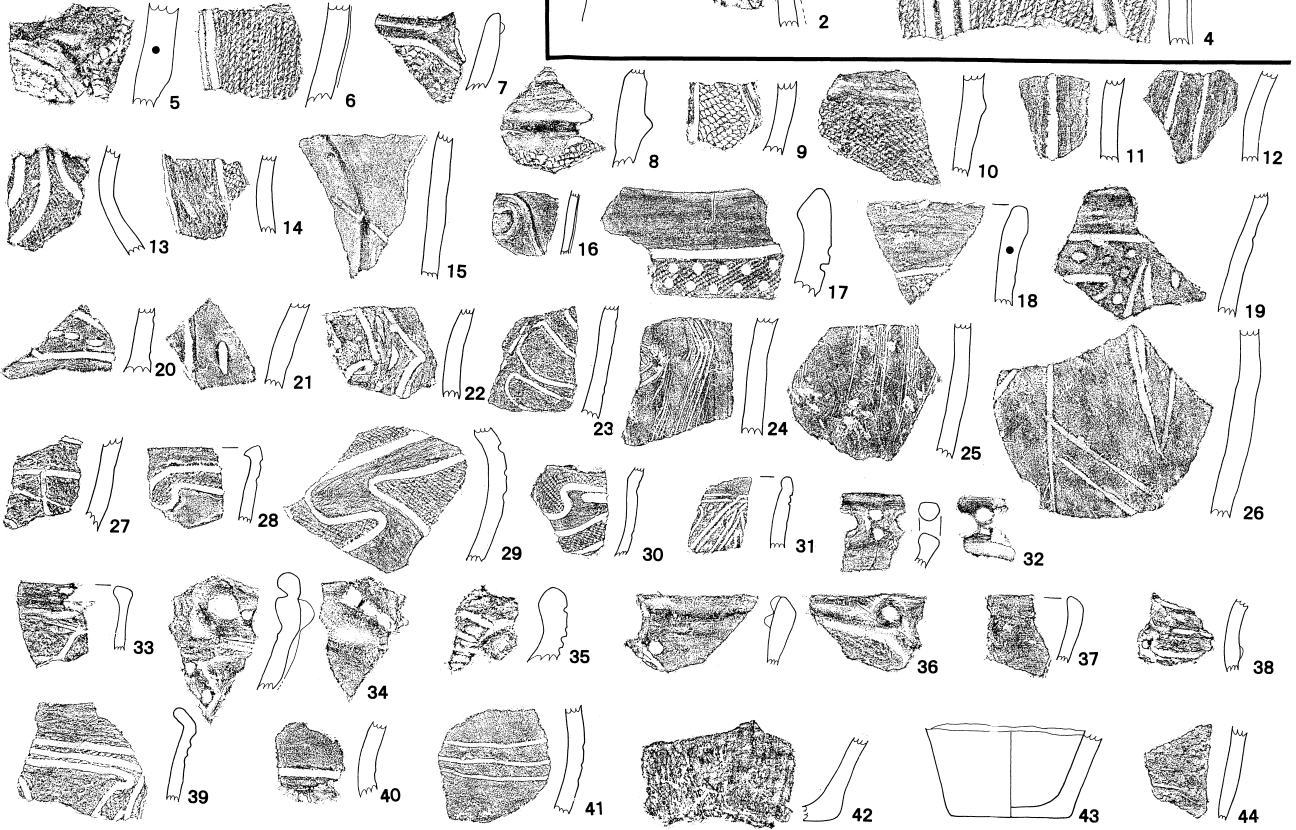


第76図 東台遺跡第49地点粘土探掘坑・土坑・溝 (1/60)

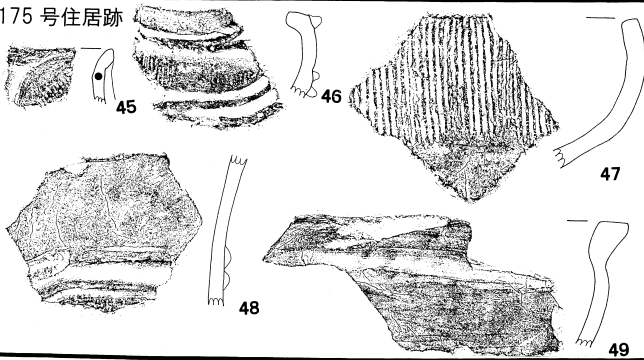
172号住居跡



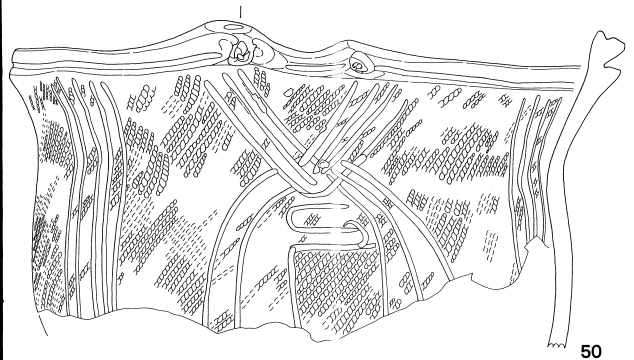
174号住居跡



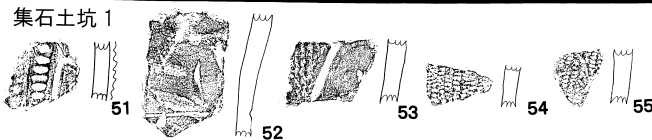
175号住居跡



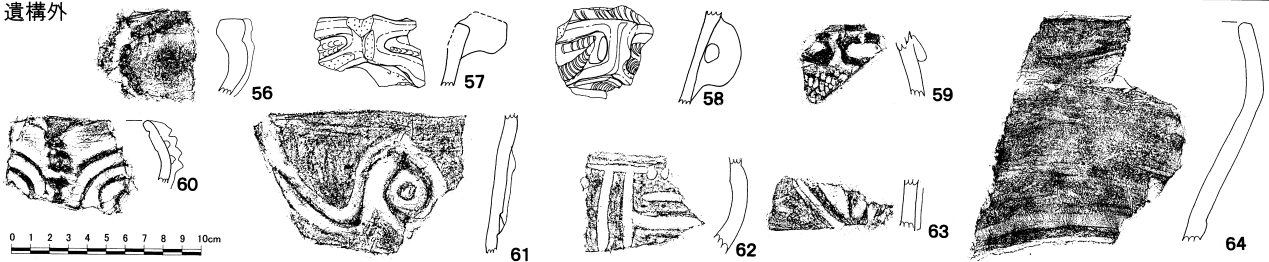
屋外埋甕



集石土坑 1

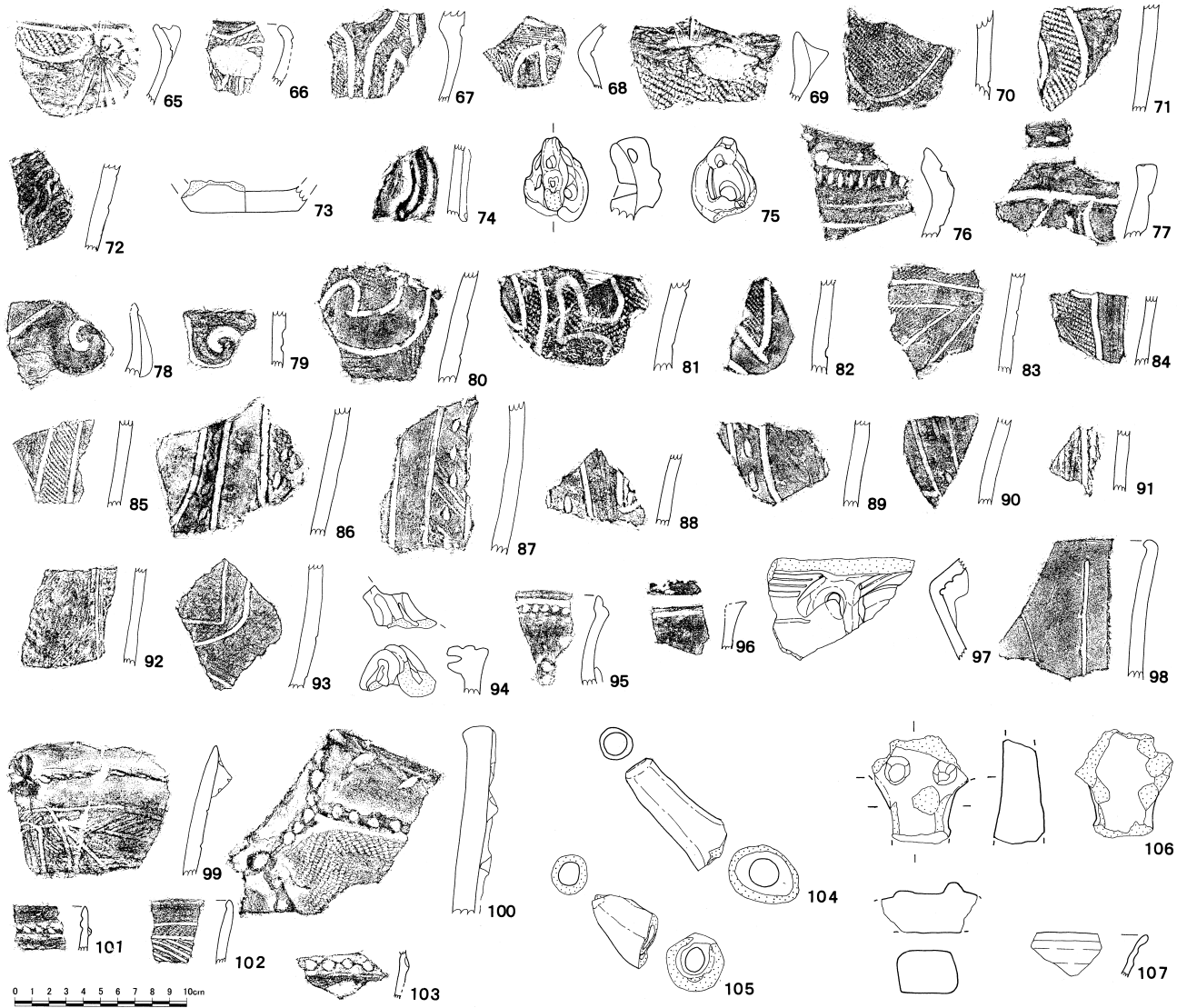


遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第77図 東台遺跡第49地点出土遺物① (1/4)



第78図 東台遺跡第49地点出土遺物② (1/4)

50は屋外埋甕の堀之内1式土器で、胴部下半から底部を欠損する。大小2対1組の波状口縁3単位には円形刺突文があり口唇部には沈線が巡る。波頂部から胴部にV字状の沈線と楕円形懸垂文、蕨手状懸垂文がのび、波頂部間には5～7本の懸垂文がのびる。地文RL縄文。

51～55は集石土坑1覆土層出土。51は押圧のある隆帯脇に沈線、51は沈線、52は地文縄文に沈線間を磨消し、53・54・55は地文縄文で勝坂Ⅲから加曽利EⅡ式。

56～107は表面採集又は包含層出土遺物である。56は隆帯で楕円形区画を配し、57・58は隆帯脇に三角押文を施す。59は地文縄文に隆帯の楕円形を貼り付ける。60は隆帯の同心円文と粘土棒に粘土帯を巻きつける。61・63は隆帯の抽象文、62は太い沈線文と刺突文、64は無文口縁と頸部に横位隆帯、65は沈線の半円形区画内に縄文、66～68・70・71は沈線間を磨消し又は縄文

を施す。69は地文縄文に突起を有す。72は地文縄文に半截竹管文の内側で半隆帯文を施す。73は底部片。74～85は称名寺1式で口縁部突起や、胴部片で沈線と縄文、磨消し等を施す。86～93は沈線と列点文を施す称名寺2式。94～98は堀之内1式、99～103は堀之内2式、104、105は堀之内式注口土器の口部。94はバネ状の口縁部突起、95は隆帯に押圧、96・97は隆帯に刺突を施す。99～101、102・103は隆帯に刺突や8の字状貼り付けを施す。104は沈線と縄文を施す。

106は板状土偶の胸部から腹部で、頭部、腕部、脚部を欠損する。器面は撫でによる調整が丁寧にされている。東台遺跡で確認された初めての土偶で、中期から後期前半に属するものとみられる。

107は須恵器坏の口縁部片で胎土に白色針状物質を含む。

第II部 民間開発に伴う本調査の成果

第1章 西遺跡第1地点の本調査

I 本調査の概要

発掘調査は共同住宅及び分譲住宅の建設に伴うものである。2007年3月12日から同年4月20日まで行なった試掘調査にもとづき申請者と協議の結果、開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査をふじみ野市教育委員会が実施することになった。発掘調査に至る経緯については第I部第3章のとおりである。

今回の本調査の範囲は、1992年に行なった「西遺跡第1次調査」の範囲を一部含み、前回調査した遺構の一部を再確認することが出来た。こうした点から本章では再調査した遺構と、過去の調査で出土した遺物についても参考資料として併せて報告する。

本調査は2007年6月4日から8月1日まで、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査を行なった。その後、10m方眼の区画を調査区内に設定し、東から西へ0、1、2、3～、北から南へA、B、C、D～の番号を付した。

II 遺構と遺物

西遺跡で検出された縄文時代の住居跡は1992年の第1次調査で17軒、1996年の第2次調査で1軒、そして今回の調査で新たに3軒を検出し、合計21軒となった。全て縄文時代中期前葉から中期末の時期に含まれる。しかしそれ以外の時期の土器などが破片で出土しており、他の時期の住居跡が確認される可能性もある。

今回検出した遺構は、縄文時代中期の20・22・23号住居跡3軒、集石土坑6基、土坑12基、ピット68基、溝1本である。また過去に検出した2・10・12・16号住居跡の4軒を再調査した。

(1) 住居跡

今回再調査した2・10・12・16号住居跡について、各住居跡の詳細は既報告のとおりであるため省略し、新たに確認された事実のみを報告する。

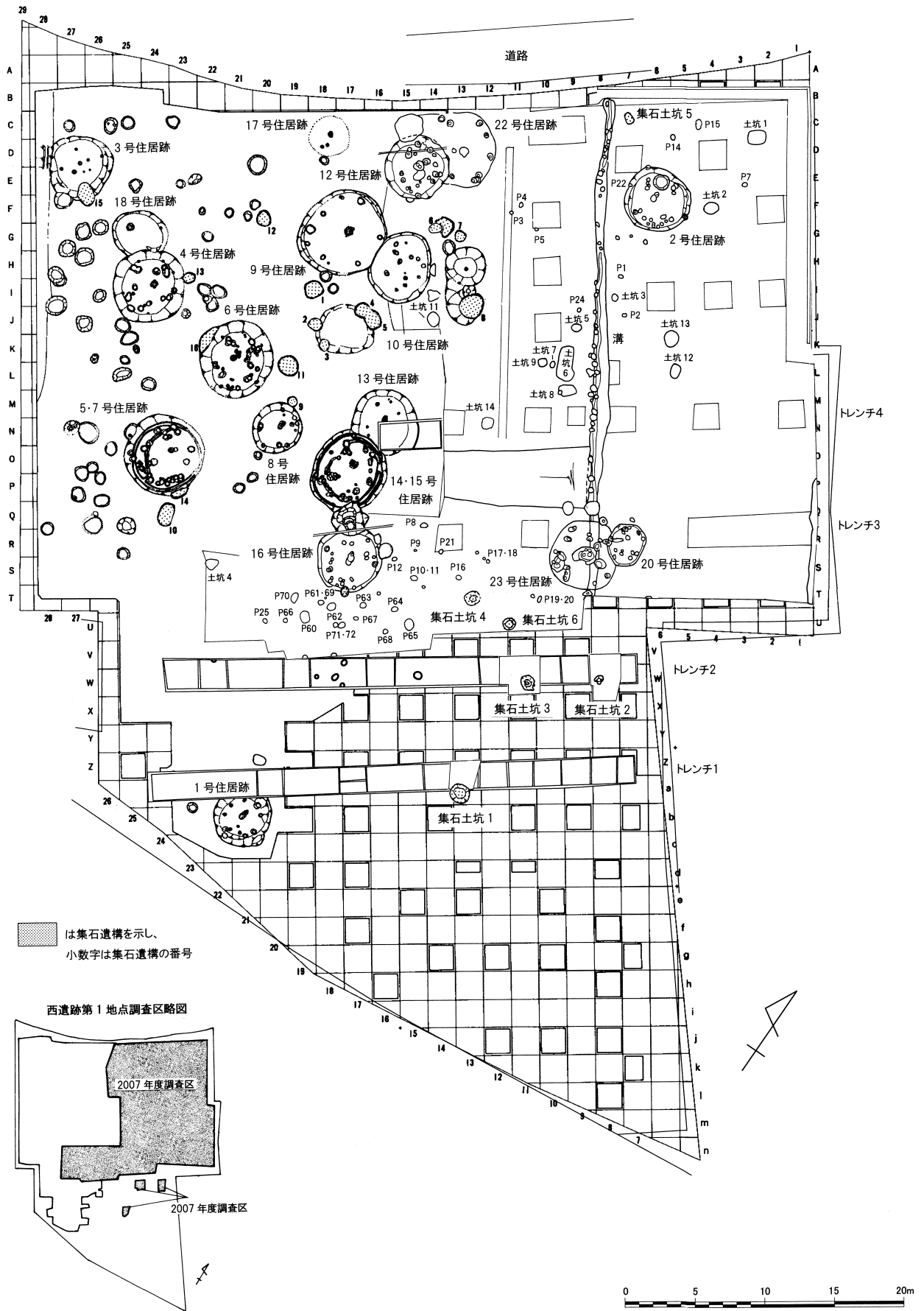
① 2・10・12・16号住居跡

【2号住居跡】調査区の北側に位置し土坑と重複する。

第49表 西遺跡住居跡一覧表

(単位:cm)

| 住居番号 | 調査年度 | 遺構名 | 調査率 | 平面形 ()は推定 | 規模 | 炉 | | | 埋甕 | 周溝 | 時期 | 備考 | 文献 | |
|------|------|---------|-----|---------------|----------------------------|----|----|----|----|----|-----------|------------------|------------------------------|--------------|
| | | | | | | 地床 | 炉体 | 石囲 | | | | | | |
| 1 | 1992 | 第1次1号住 | 完掘 | 円～楕円形 | 440×440×45 290×290×45 | ○2 | | | | | 勝坂期 | 2度以上建替え | 西遺跡第1次調査概要、上福岡市史資料編第1巻自然史・考古 | |
| 2 | 1992 | 第1次2号住 | 完掘 | 円形 | 440×460×35 380×380×35 | ○ | ○ | | | | 勝坂Ⅲ古 | 3度建替え大型打製石器 | | |
| 3 | 1992 | 第1次3号住 | 完掘 | 円形 | 450×450×35 370×370×35 | ○ | | | | | ～勝坂Ⅲ | 2度以上建替え | | |
| 4 | 1992 | 第1次4号住 | 完掘 | 円形 | 560×540×64 415×380×64 | | ○ | ○ | | | 勝坂Ⅲ | 3度以上建替え | | |
| 5 | 1992 | 第1次5号住 | 完掘 | 楕円形 | 505×480×50 | | ○2 | | ○ | | ～加曾利E I古 | 7号住と重複、2度以上建替え | | |
| 6 | 1992 | 第1次6号住 | 完掘 | 楕円形 | 550×530×55 420×380×55 | ○2 | | ○ | | | ～勝坂Ⅲ | 2～3度建替え | | |
| 7 | 1992 | 第1次7号住 | 完掘 | 円形 | 440×370×55 | | ○ | | ○ | | 加曾利E I古 | 5号住と重複、2度以上建替え | | |
| 8 | 1992 | 第1次8号住 | 完掘 | 楕円形 | 370×340×20 280×280×20 | ○ | | | | | ～勝坂Ⅲ | 覆土層から阿玉台Ⅱ式土器出土 | | |
| 9 | 1992 | 第1次9号住 | 完掘 | 楕円形 | 640×620×25 580×570×25 | | | ○ | | | 勝坂～加曾利E | 勝坂期中葉土器片 | | |
| 10 | 1992 | 第1次10号住 | 完掘 | 楕円形 | 515×440×25 470×380×25 | ○ | | | | | ～勝坂Ⅱ | 建替え有 | | |
| 12 | 1992 | 第1次12号住 | 完掘 | 円形 | 450×450×30 350×350×30 | ○ | | | | | ～勝坂Ⅱ | 2度以上建替え | | |
| 13 | 1992 | 第1次13号住 | 完掘 | 円形 | (460)×460 | | ○2 | | | | 阿玉台I b、猪沢 | 14号住15号住と重複 | | |
| 14 | 1992 | 第1次14号住 | 完掘 | 楕円形 | 560×440×40 | | | | ○ | | ～勝坂Ⅲ | 15号住より古い、2度以上建替え | | |
| 15 | 1992 | 第1次15号住 | 完掘 | 楕円形 | 450×350×45 | | ○ | ○ | | ○ | 勝坂Ⅲ | 2度以上建替え | | |
| 16 | 1992 | 第1次16号住 | 完掘 | 隅丸六角形 | (470×450)×20 390×400×20 | ○2 | ○ | | ○ | | 勝坂Ⅱ | 覆土層から多量の土器出土 | | |
| 17 | 1992 | 第1次17号住 | 完掘 | (楕円形) | (350)×(300) | ○ | | | | | 勝坂～加曾利E | | | |
| 18 | 1992 | 第1次18号住 | 完掘 | 楕円形 | 350×(400)×5 | | | ○ | | | 勝坂～加曾利E | 4号住と重複 | | |
| 19 | 1996 | 第2次19号住 | 完掘 | 円形 | 450×450 | ○ | | | ○ | | 勝坂Ⅱ | | | 埋蔵文化財の調査(19) |
| 20 | 2007 | 20号住居跡 | 完掘 | 楕円形 | 310×248×24 | なし | | | | | 勝坂Ⅱ | 猪沢～勝坂Ⅱ式土器出土 | | 市内遺跡群4 |
| 22 | 2007 | 22号住居跡 | 完掘 | 隅丸六角形 | (580×520×-) | ○ | | | | | 勝坂～加曾利E | 覆土に勝坂Ⅰ～加曾利E式土器含む | | |
| 23 | 2007 | 23号住居跡 | 完掘 | 円～楕円形 | 508×465×9 | | ○2 | | | | 加曾利EⅡ | 炉体土器加曾利EⅡ、蓮弧文系 | | |



第79図 西遺跡第1地点遺構配置図 (1/400)

前回検出した炉跡の下からピット状の掘り込みを確認した。覆土層の観察から炉跡より古いピットである。

今回の調査では住居跡内から小ピット9基を新たに確認、住居南側で集中して検出した。主柱穴はP1～5・7～12のうち4本柱で、南側に張り出す2本(P13～15、P16～18)の対柱が立ち6角形状を呈す。また北側の小ピット2本(P19・20)も対を成す。

【10号住居跡】調査区の北側に位置し、炉の掘り込みを新たに確認した。4本主柱穴(P1～4)である。

【12号住居跡】調査区の北側に位置する。新たに検出した22号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

主柱穴はP1～8・11・12のうち4本柱又は6本柱である。またP2は22号住居跡の主柱穴の可能性もある。その場合は5本主柱穴となる。P15は攪乱である。

【16号住居跡】調査区中央部に位置する。平面形は隅丸6角形を呈する。前回調査で、炉跡は2ヶ所検出しているが、今回の調査では炉体土器を埋設したピットを新たに検出した。ピットは住居跡内から小ピット10基(P9・15～19・21・22・24・26)を新たに確認した。主柱穴は初めにP7～12(又は22)の4本主柱穴又は6本主柱穴が配置され、その後拡張によりP1～6の6本主柱穴となる。

②20号住居跡 (第51・52表)

調査区の東側に位置し、23号住居跡と重複する。本住居跡から炉跡は確認されず、住居覆土層およびピットの覆土層にも焼土をほとんど含まない。しかし住居の掘り込みはしっかりしている点や遺物出土状況、4本主柱穴P1・4・9・13等から住居跡とした。西遺跡

第50表 西遺跡第1地点2・10・12・16号住居跡ピット一覧表

(単位cm)

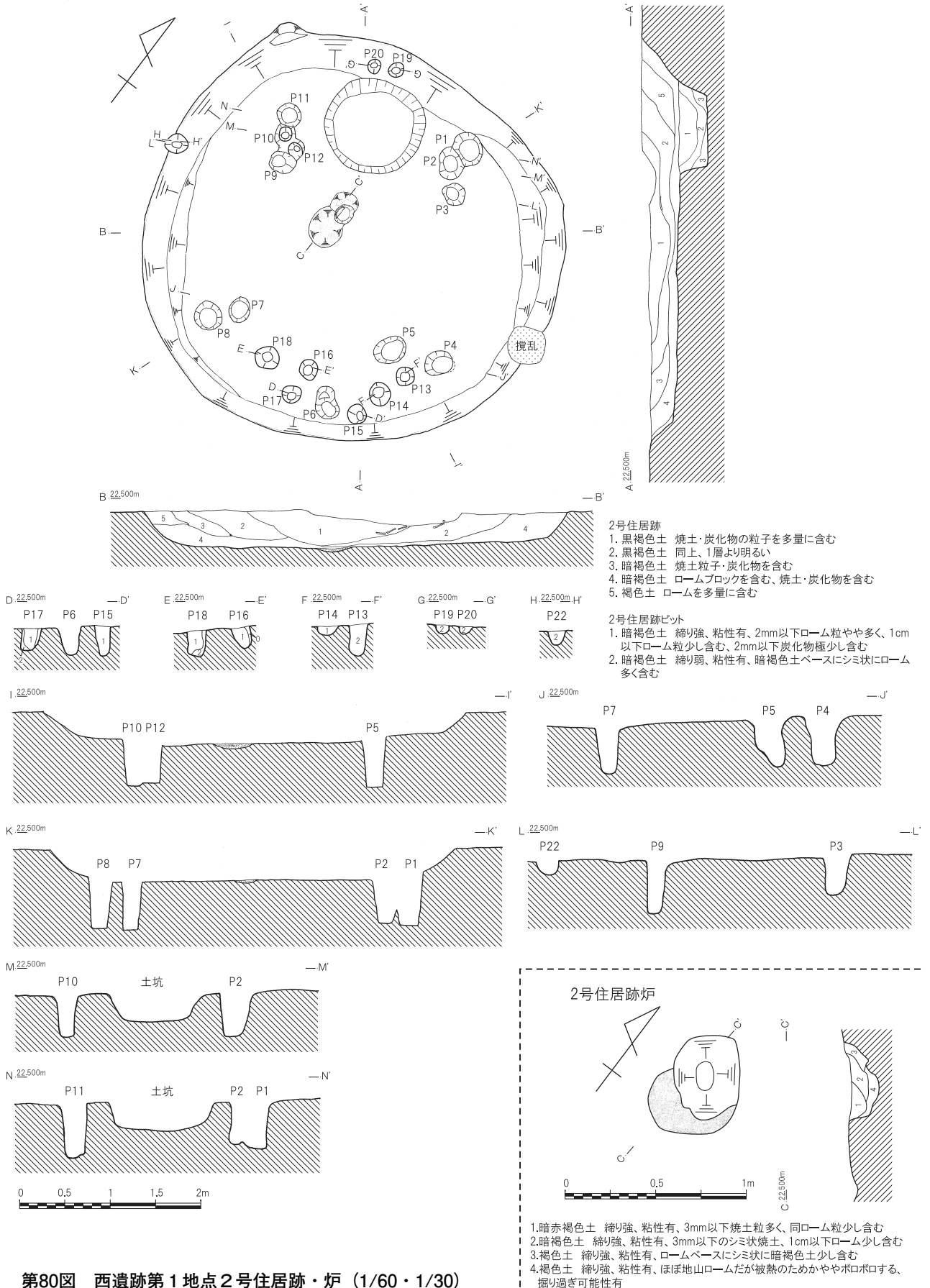
| 住居ピット№ | 平面形態 | 確認面積 | 底径 | 深さ | 備考 |
|--------|--------|---------|----------------------------|------------------|-----|
| 2住P1 | 楕円形 | 38×(28) | 24×21 | 59 | 主柱穴 |
| 2住P2 | 楕円形 | 35×(27) | 17×15 | 48 | |
| 2住P3 | 楕円形 | 25×23 | 14×13 | 38 | |
| 2住P4 | 楕円形 | 31×25 | 25×18 | 50 | |
| 2住P5 | 楕円形 | 37×28 | 26×20 | 50 | 主柱穴 |
| 2住P6 | 楕円形 | 37×26 | 17×12 12×6 | 44.1 | |
| 2住P7 | 楕円形 | 28×23 | 19×18 | 52 | 主柱穴 |
| 2住P8 | 円形 | 32×30 | 22×18 | 57 | 主柱穴 |
| 2住P9 | 楕円形 | 29×22 | 14×12 | 57 | 主柱穴 |
| 2住P10 | 円形 | 22×(21) | 13×(17) | 50 | 主柱穴 |
| 2住P11 | 円形 | 27×25 | 17×16 | 64 | 主柱穴 |
| 2住P12 | 円形 | 28×(19) | 18×(13) | 27 | 主柱穴 |
| 2住P13 | 円形 | 20×20 | 11×10 | 35.5 | 対柱 |
| 2住P14 | 円形 | 24×24 | 13×12 | 8.2 | 対柱 |
| 2住P15 | 円形 | 21×20 | 10×7 | 33.3 | 対柱 |
| 2住P16 | 円形 | 21×20 | 11×10 | 23.6 | 対柱 |
| 2住P17 | 円形 | 21×20 | 10×8 | 24 | 対柱 |
| 2住P18 | 円形 | 26×25 | 10×10 | 31.3 | 対柱 |
| 2住P19 | 円形 | 17×17 | 10×7 | 7.2 | 対柱 |
| 2住P20 | 円形 | 17×14 | 8×6 | 7.2 | 対柱 |
| 10住P1 | 円形 | 31×29 | 19×18 | 45 | 主柱穴 |
| 10住P2 | 円形 | 26×26 | 16×13 | 53 | 主柱穴 |
| 10住P3 | 円形 | 40×35 | 20×18 | 40 | 主柱穴 |
| 10住P4 | 楕円形 | 65×27 | 15×12、 21×20、 15×(7) | 35、 45、 22 | 主柱穴 |
| 10住P5 | 円形 | 27×25 | - | 13 | |
| 10住P6 | 円形 | 32×28 | - | 14 | |
| 10住P7 | 不明 | 22×(11) | 13×(4) | 35 | |
| 10住P8 | 円形 | 13×12 | 8×7 | 11 | |
| 10住P9 | 楕円形 | 29×25 | 14×13 | 20 | |
| 10住P10 | 楕円形 | 35×31 | 11×11 | 25 | |
| 10住P11 | 円形 | 24×21 | 12×12 | 27 | |
| 10住P12 | 楕円形 | 34×30 | 24×19 | 19 | |
| 10住P13 | 円形 | 33×30 | 25×24 | 30 | |
| 12住P1 | 円形 | 45×38 | 18×16 | 62 | 主柱穴 |
| 12住P2 | 円形 | 41×40 | 23×22 | 59 | 主柱穴 |
| 12住P3 | ひょうたん形 | 80×40 | 12×12 | 67 | 主柱穴 |

| 住居ピット№ | 平面形態 | 確認面積 | 底径 | 深さ | 備考 |
|--------|------|---------|---------|------|--------|
| 12住P4 | 円形 | 26×25 | 17×9 | 55 | 主柱穴 |
| 12住P5 | 円形 | 34×31 | 19×15 | 58.7 | 主柱穴 |
| 12住P6 | 楕円形 | 30×23 | 10×7 | 47 | 主柱穴 |
| 12住P7 | 円形 | 42×39 | 12×12 | 51.7 | 主柱穴 |
| 12住P8 | 円形 | 24×24 | 9×8 | 47 | 主柱穴 |
| 12住P9 | 円形 | 25×24 | 11×9 | 13.6 | |
| 12住P10 | 楕円形 | 19×13 | 14×10 | - | |
| 12住P11 | 円形 | 24×24 | 14×14 | 53.6 | 主柱穴 |
| 12住P12 | 楕円形 | 34×30 | 20×17 | 24.8 | 主柱穴 |
| 12住P13 | 楕円形 | 20×15 | 8×7 | 7.2 | |
| 12住P14 | 円形 | 21×18 | 12×12 | 35.6 | |
| 12住P15 | 楕円形 | 24×15 | 12×4 | 17.1 | 攪乱 |
| 16住P1 | 円形 | 24×21 | 13×9 | 54 | 拡張後主柱穴 |
| 16住P2 | 円形 | 33×30 | 24×20 | 62 | 拡張後主柱穴 |
| 16住P3 | 円形 | 45×36 | 22×21 | 61 | 拡張後主柱穴 |
| 16住P4 | 円形 | 30×28 | 19×18 | 44 | 拡張後主柱穴 |
| 16住P5 | 楕円形 | 43×33 | 30×25 | 58 | 拡張後主柱穴 |
| 16住P6 | 円形 | 40×33 | 25×21 | 72 | 拡張後主柱穴 |
| 16住P7 | 円形 | 28×25 | 17×15 | 50 | 拡張前主柱穴 |
| 16住P8 | 楕円形 | 37×25 | 25×17 | 47.7 | 拡張前主柱穴 |
| 16住P9 | 円形 | 31×31 | 20×18 | 50.6 | 拡張前主柱穴 |
| 16住P10 | 円形 | 25×(28) | 18×16 | 47 | 拡張前主柱穴 |
| 16住P11 | 楕円形 | 41×35 | 19×17 | 47 | 拡張前主柱穴 |
| 16住P12 | 円形 | 25×(13) | 10×(8) | 49.5 | 拡張前主柱穴 |
| 16住P13 | 円形 | 27×24 | 17×15 | 31 | |
| 16住P14 | 円形 | 26×23 | 14×11 | 11 | |
| 16住P15 | 円形 | 23×20 | 8×6 | 8 | |
| 16住P16 | 円形 | 23×18 | 9×7 | 8 | |
| 16住P17 | 楕円形 | 23×18 | 7×6 | 12 | |
| 16住P18 | 円形 | 25×22 | 12×8 | 14 | |
| 16住P19 | 円形 | 19×19 | 12×10 | 10.8 | |
| 16住P20 | 円形 | 15×14 | 8×7 | 13 | |
| 16住P21 | 円形 | 17×17 | 5×5 | 8 | |
| 16住P22 | 円形 | 25×18 | 14×12 | 49 | 拡張前主柱穴 |
| 16住P23 | 円形 | 21×20 | 9×8 | 24 | |
| 16住P24 | 円形 | 24×20 | 10×8 | 37 | |
| 16住P25 | 円形 | 22×22 | 10×8 | 43 | |
| 16住P26 | 楕円形 | 30×(21) | 15×(14) | 24.6 | |

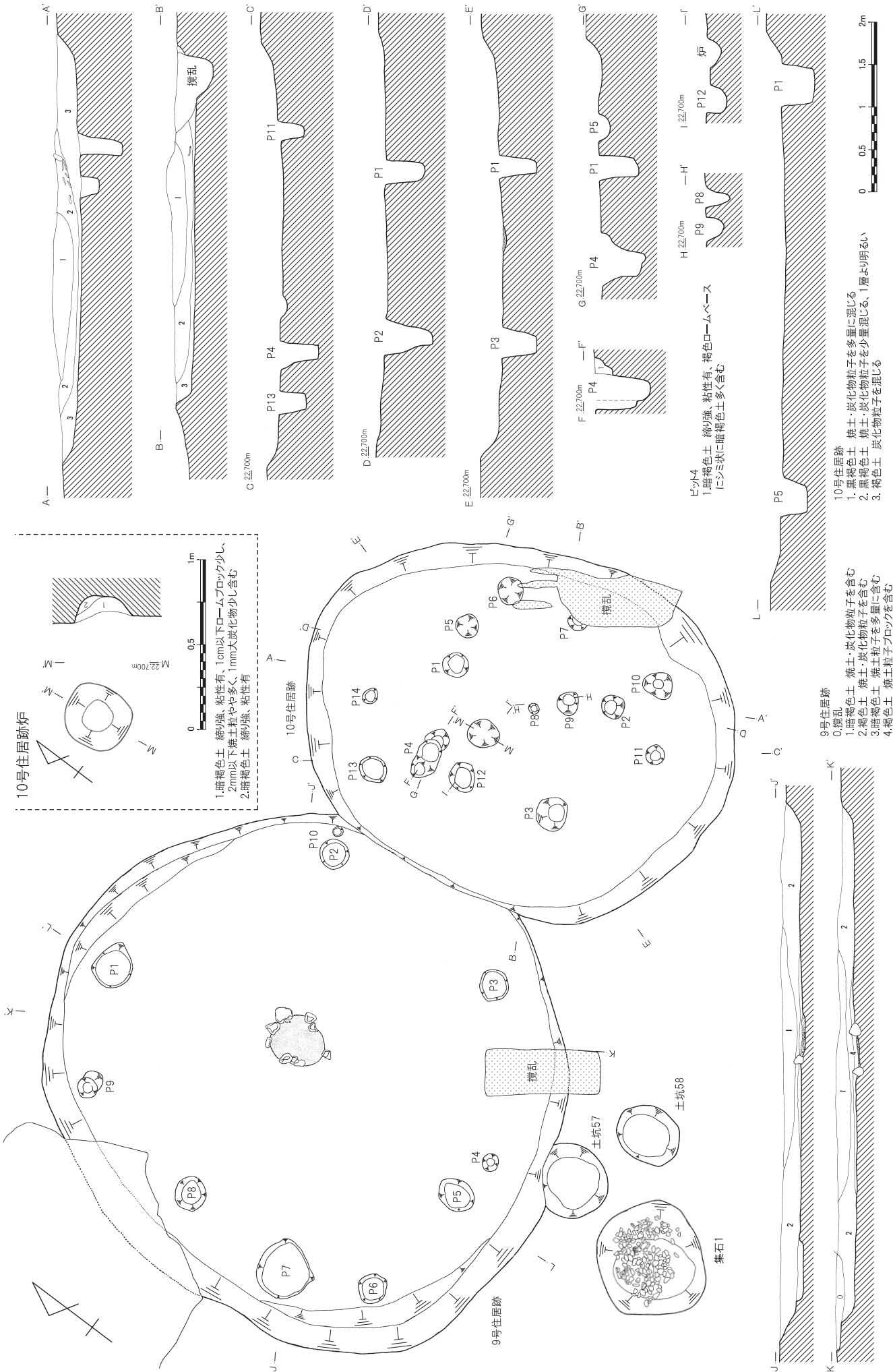
では、同時期の集石土坑を多数検出しており、住居内
炉跡と屋外炉(集石土坑)の関係が注目される。ピット
は住居内から14本検出するが、本住居に伴うものは11

本である。支柱穴は4本で、P2・3・4、P12・13等
から建替えの可能性がある。

2号住居跡



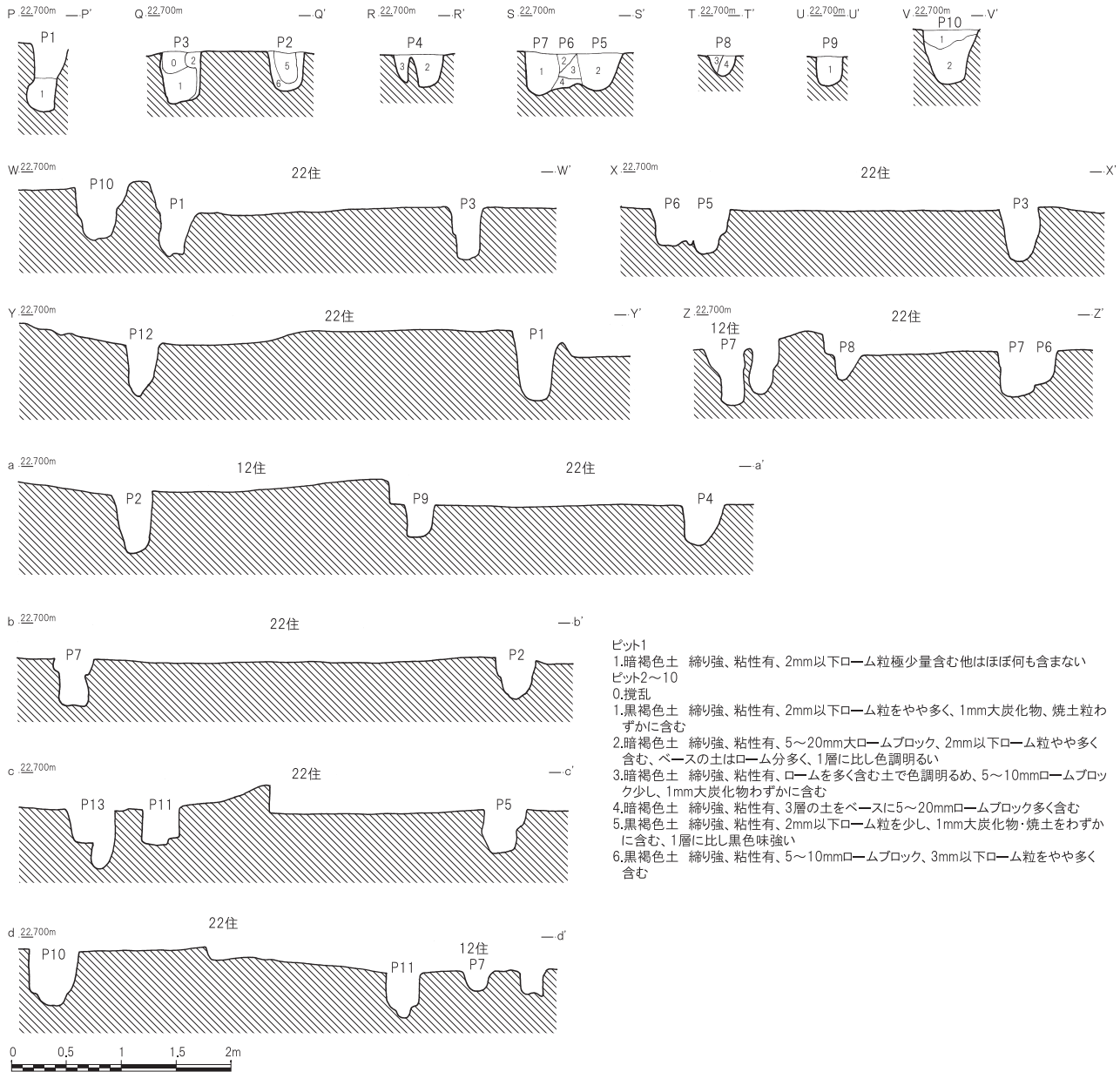
第80図 西遺跡第1地点2号住居跡・炉 (1/60・1/30)



第81図 西遺跡第1地点9・10号住居跡・炉 (1/60・1/30)



第82図 西遺跡第1地点12・22号住居跡①・12号住居跡炉 (1/60・1/30)



第83図 西遺跡第1地点12・22号住居跡② (1/60)

③22号住居跡 (第51表)

調査区北側に位置し、12号住居跡と重複し本住居跡が古い。炉跡とピットのみで、住居床面と掘り込みは確認できなかった。炉は住居中央部で焼土範囲のみを確認した。主柱穴は、P1~7・10・11・12住P2・12炉跡下ピットの4本柱又は6本柱が考えられる。P5~7の新旧関係はP7が最も新しくP6が最も古い。初めに4本主柱穴P1・3・6(又は5)・11(又はP13)、次に6本主柱穴P2・4・7・10・12住炉跡下ピット・22住P2が考えられる。P8・12は入り口部の対ピットとみられる。

④23号住居跡 (第51・52表)

調査区の東側に位置し、20号住居跡と重複する。住居跡の掘り込みはほとんどなく、炉跡とピットのみを検出した。床面または覆土層出土遺物も無い。

【炉】 炉内に東西に並ぶ2個体の土器を埋設する。東

側の埋設土器を炉体1、西側を炉体2とした。炉体1より炉体2周辺が赤褐色に良く焼け硬化している。

炉体1は口縁部を下にし、やや西に傾くよう逆位に埋設されていた。胴部から底部を全て欠損する。炉体2は口縁部を上にした状態で、僅かに東に傾いて埋設される。土器は胴部から底部を全て欠損する。

ピットは住居内に20本検出するが、本住居に伴うものは15本である。主柱穴はP10・14・18・22~27・29・30で、P10(又は14)・18・23(又は26)・29を結ぶ4本柱、又はP22・24・25・30を加えた6本柱とみられる。隣接する主柱穴から建替や拡張が考えられる。

⑤集石土坑

調査区北側に1基(集石土坑5)、南側で5基(集石土坑1~4・6)検出した。時期については縄文時代中期に属するものとみられる。

第51表 西遺跡第1地点20・22・23号住居跡一覧表

(単位cm)

| 住居名 | 調査率 | 住居の形状 規模 (長軸×短軸×深さ) | 炉 | | | 埋甕 規模 | 周溝 規模 | 柱穴 | 時期 | 備考 | |
|------------|-----|---------------------------|--------------------------|----|--------|----------|----------|-----------------|-----------|----------------------------|----|
| | | | 炉の形状 規模 (長軸×短軸×深さ) | 地床 | 炉体 | | | | | | 石圍 |
| | | | なし | | | | | | | | |
| 20号 住居跡 | 完掘 | 楕円形 | なし | - | - | なし | なし | 11本 (主柱穴4本) | 勝坂Ⅱ | 覆土に猪沢、 勝坂Ⅰ～Ⅱ式 土器含む | |
| | | 310×248×24 | | | | | | | | | |
| 22号 住居跡 | 完掘 | (隅丸六角形) | 不明 | ○ | - | 不明 | なし | 15 (主柱穴11本) | 不明 | 覆土に勝坂Ⅰ ～加曾利EⅡ 式土器含む | |
| | | (580×520×-) | (71×69×-) | | | | | | | | |
| 23号 住居跡 | 完掘 | 円形～楕円形 | 楕円形 | - | ○ 2 | - | なし | 15本 (主柱穴11本) | 加曾利 EⅡ | 炉体土器は加 曾利EⅡ式と 連弧文系土器 | |
| | | 508×465×9 | 335×250×18 | | | | | | | | |

第52表 西遺跡第1地点20・23号住居跡ピット一覧表

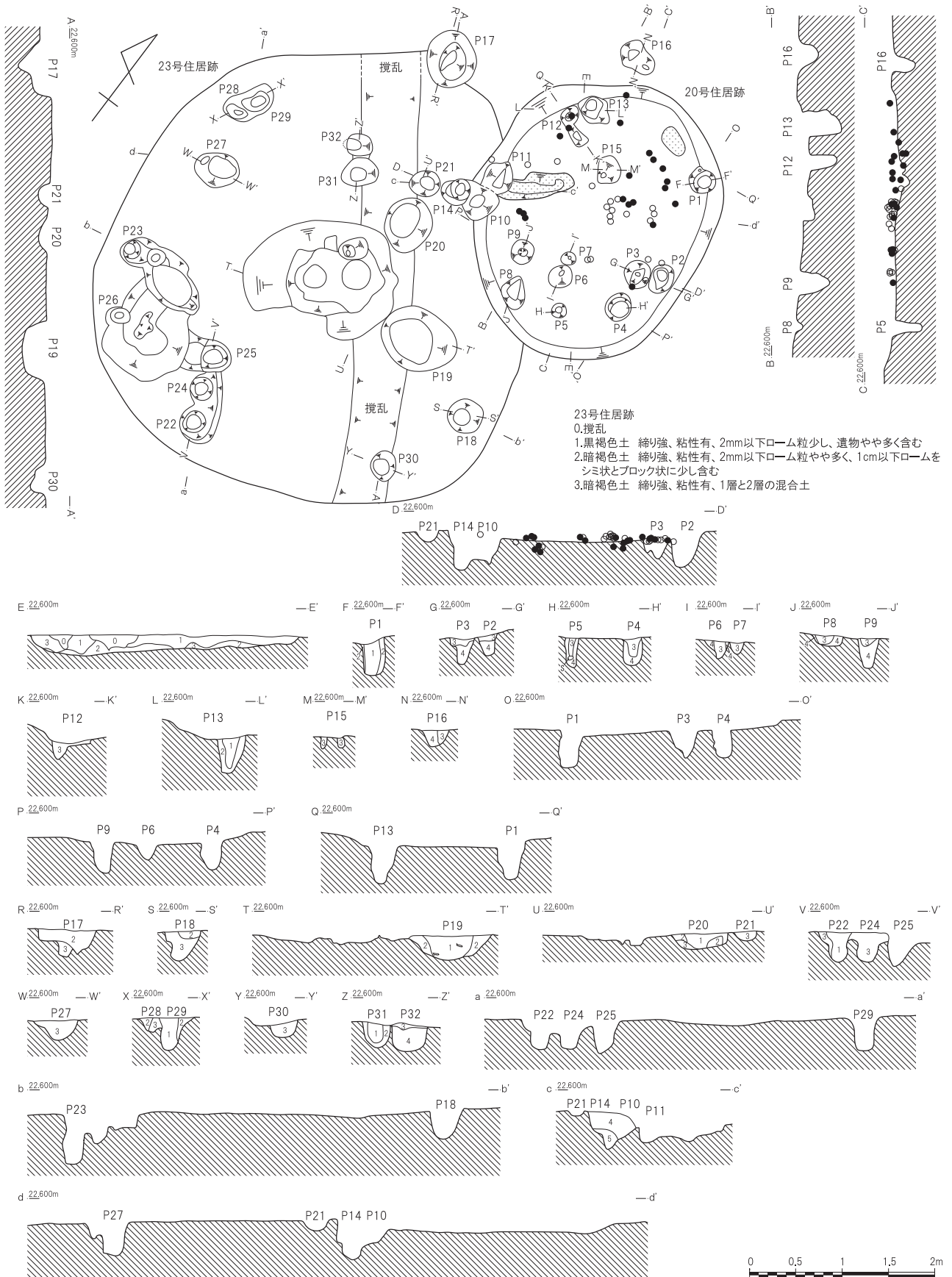
(単位cm)

| No. | 旧No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|--------|------|---------|-------|--------|-----|
| 1 | 20住P1 | 楕円形 | 26×23 | 20×13 | 43.0 | 20住 |
| 2 | 20住P2 | 楕円形 | 34×25 | 13×11 | 30.0 | 20住 |
| 3 | 20住3 | 円形 | 30×30 | 23×12 | 30.0 | 20住 |
| 4 | 20住4 | 円形 | 30×28 | 19×17 | 33.0 | 20住 |
| 5 | 20住5 | 円形 | 17×16 | 7×6 | 33.0 | 20住 |
| 6 | 20住6 | 円形 | 26×24 | 6×4 | 20.0 | 20住 |
| 7 | 20住7 | 円形 | 17×14 | 3×3 | 14.0 | 20住 |
| 8 | 20住8 | 不整形 | 31×27 | 22×13 | 14.0 | |
| 9 | 20住9 | 円形 | 26×25 | 10×8 | 35.0 | 20住 |
| 10 | 20住10 | 楕円形 | 39×24 | 17×12 | 28.0 | |
| 11 | 20住11 | 不整形 | (36)×32 | 21×11 | (15.0) | |
| 12 | 20住12 | 楕円形 | 25×18 | 10×8 | 20.0 | 20住 |
| 13 | 20住13 | 楕円形 | 40×30 | 13×11 | 41.0 | 20住 |
| 14 | 20住14 | 円形 | 32×29 | 13×10 | 43.0 | 23住 |
| 15 | 20住15 | 楕円形 | 30×25 | 7×5 | 13.0 | 20住 |
| 16 | 20住16 | だるま形 | 44×32 | 15×10 | 24.0 | |
| 17 | 23住P1 | 楕円形 | 63×53 | 26×10 | 38.0 | |
| 18 | 23住P2 | 円形 | 38×36 | 19×17 | 32.3 | 23住 |
| 19 | 23住P3 | 楕円形 | 86×66 | 55×43 | 28.1 | 23住 |
| 20 | 23住P4 | 楕円形 | 61×51 | 38×30 | 18.3 | 23住 |
| 21 | 23住P5 | 円形 | 33×27 | 16×14 | 13.2 | 23住 |
| 22 | 23住P6 | 円形 | 40×(40) | 16×16 | 36.7 | 23住 |
| 23 | 23住P23 | 円形 | 34×(31) | 13×13 | 53.4 | 23住 |
| | | 円形 | (19×19) | (9×7) | 33.0 | 23住 |
| 24 | 23住P7 | 円形 | 26×25 | 15×14 | 34.4 | 23住 |
| 25 | 23住P25 | 円形 | 33×32 | 22×15 | 34.4 | 23住 |
| 26 | 23住P26 | 楕円形 | 22×18 | 10×7 | 21.0 | 23住 |
| 27 | 23住P8 | 楕円形 | 48×37 | 29×21 | 37.6 | 23住 |
| 28 | 23住P9 | 楕円形 | 36×11 | 10×5 | 16.4 | 23住 |
| 29 | 23住P10 | 楕円形 | 38×29 | 18×11 | 37.4 | 23住 |
| 30 | 23住P11 | 円形 | 34×29 | 18×16 | 22.0 | 23住 |
| 31 | 溝P32 | 楕円形 | 40×32 | 18×15 | 65.2 | |
| 32 | 溝P31 | 円形 | 28×24 | 20×12 | 62.4 | |

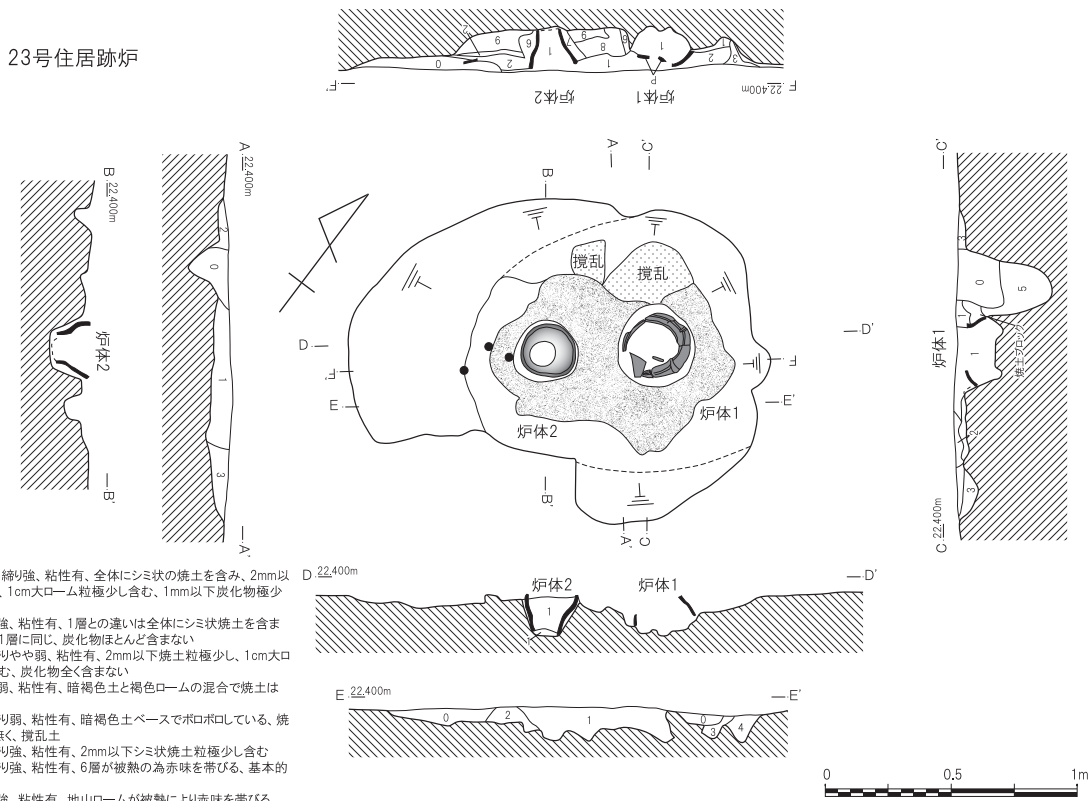
第53表 西遺跡第1地点集石土坑・出土礫観察表

単位：cm・個数・g(%)

| 集石No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 礫範囲 | 総点数 | 総重量 | 平均重量 | 破損個数 | 完形個数 | 焼成個数 | 未焼成個数 | タール・煤付着数 | タール・煤未付着数 |
|-------|------|---------|-------|------|---------|-----|----------|------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 不整形 | 63×54 | 42×39 | 24.0 | 39×34 | 76 | 6,557.7 | 86.3 | 60(78.9) | 16(21.1) | 4(5.3) | 72(94.7) | 23(30.7) | 53(70.3) |
| 2 | 楕円形 | 154×136 | 98×93 | 47.8 | 130×112 | 217 | 7,993.1 | 36.8 | 209(96.3) | 8(3.7) | 43(19.8) | 174(80.2) | 18(8.3) | 199(91.7) |
| 3 | 不整形 | 85×68 | 39×26 | 35.9 | 48×48 | 79 | 2,160.3 | 27.3 | 78(98.7) | 1(1.3) | 13(16.5) | 66(83.5) | 5(6.3) | 74(93.7) |
| 4 | 円形 | 104×96 | 60×43 | 16.8 | 100×90 | 412 | 17,484.3 | 42.4 | 394(95.6) | 18(4.4) | 117(28.4) | 295(71.6) | 41(10.0) | 371(90.0) |
| 5 | 円形 | 98×97 | 71×66 | 11.0 | - | 8 | 180.4 | 22.6 | 8(100) | 0(0) | 3(37.5) | 5(62.5) | 2(25.0) | 6(75.0) |



第85図 西遺跡第1地点20・23号住居跡 (1/60)



第86図 西遺跡第1地点23号住居跡炉 (1/30)

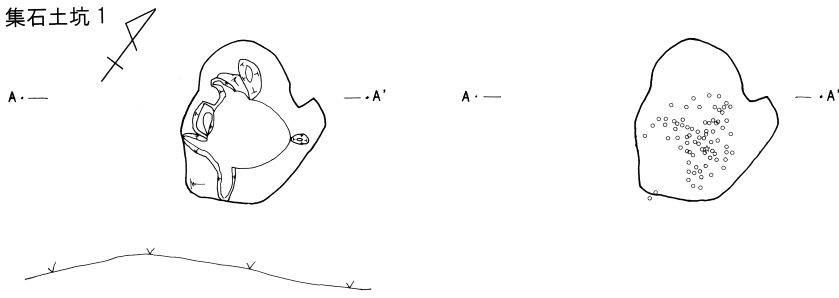
第54表 西遺跡第1地点ピット一覧表

(単位:cm)

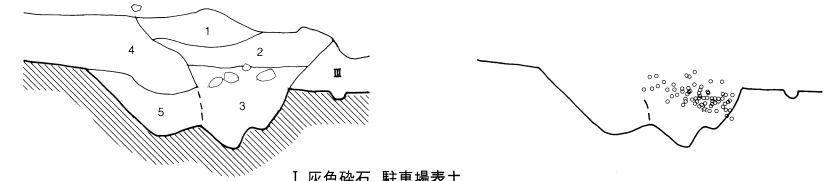
| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|------|-------|-------|------|
| P3 | 楕円形 | 36×28 | 17×15 | 17.9 |
| P4 | 円形 | 27×22 | 16×14 | 19.0 |
| P5 | 方形 | 25×21 | 15×15 | 20.7 |
| P6 | 円形 | 34×30 | 13×12 | 10.8 |
| P7 | 方形 | 38×36 | 18×12 | 32.2 |
| P9 | 円形 | 34×31 | 22×10 | 23.6 |
| P10 | 楕円形 | 58×42 | 18×8 | 47.7 |
| P11 | 円形 | 46×40 | 27×21 | 33.2 |
| P12 | 円形 | 30×28 | 11×9 | 27.5 |
| P13 | 方形 | 28×24 | 17×11 | 23.6 |
| P14 | 円形 | 28×27 | 17×16 | 36.1 |
| P15 | 方形 | 59×48 | 46×32 | 24.6 |
| P16 | 円形 | 46×38 | 32×18 | 28.4 |
| P17 | 円形 | 29×28 | 14×13 | 24.4 |
| P18 | 円形 | 28×24 | 16×14 | 24.8 |
| P19 | 円形 | 31×31 | 22×20 | 31.8 |
| P20 | 楕円形 | 55×46 | 8×6 | 43.8 |
| P21 | 方形 | 27×23 | 15×13 | 15.4 |
| P22 | 円形 | 26×21 | 11×7 | 14.4 |
| P24 | 楕円形 | 32×15 | 9×5 | 37.0 |
| P25 | 円形 | 38×37 | 8×7 | 44.3 |
| P26 | 方形 | 43×29 | 6×5 | 51.4 |
| P27 | 方形 | 24×22 | 16×11 | 35.8 |
| P28 | 方形 | 20×19 | 14×7 | 28.8 |
| P29 | 方形 | 22×19 | 8×4 | 40.0 |
| P30 | 方形 | 47×30 | 10×8 | 60.8 |
| P31 | 楕円形 | 44×27 | 5×4 | 63.0 |
| P32 | 方形 | 40×38 | 12×10 | 63.3 |
| P33 | 方形 | 27×22 | 8×7 | 61.4 |
| P34 | 円形 | 24×23 | 14×14 | 58.6 |
| P35 | 方形 | 25×23 | 12×9 | 34.7 |
| P36 | 方形 | 24×20 | 12×11 | 37.7 |
| P37 | 方形 | 50×23 | 16×8 | 75.3 |
| P38 | 方形 | 33×26 | 15×13 | 42.0 |

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|------|---------|------------|-------|
| P39 | 三角形 | 28×20 | 11×7 | 47.1 |
| P40 | 楕円形 | 35×22 | 10×7 | 48.3 |
| P41 | 円形 | 26×25 | 16×9 | 59.3 |
| P42 | 方形 | 65×47 | 17×13 | 32.6 |
| P43 | 方形 | 38×28 | 12×7 | 67.3 |
| P44 | 方形 | (58)×47 | 18×9 | 127.5 |
| P45 | 方形 | (45)×31 | 16×12 | 54.2 |
| P46 | 方形 | 44×38 | 12×6 | 59.2 |
| P47 | 方形 | 35×23 | 12×10 | 57.7 |
| P48 | 方形 | (43)×35 | 20×16 | 46.3 |
| P49 | 不整形 | 33×31 | 23×16 | 75.1 |
| P50 | 方形 | 50×33 | 17×10 | 66.7 |
| P51 | 方形 | 35×27 | 15×14 | 60.2 |
| P52 | 方形 | 32×29 | 10×8 | 86.2 |
| P53 | 方形 | 34×34 | 26×20 | 50.9 |
| P54 | 方形 | 36×35 | 11×10 | 87.6 |
| P55 | 方形 | 38×37 | 5×5 | 62.0 |
| P56 | 円形 | 29×24 | 20×13 | 62.4 |
| P57 | 円形 | 37×30 | 17×15 | 65.2 |
| P58 | 楕円形 | 33×23 | 13×13 | 67.4 |
| P59 | 楕円形 | 53×29 | 11×10 | 95.0 |
| P60 | 円形 | 84×79 | 47×42 | 51.0 |
| P61 | 楕円形 | 59×47 | 23×21 | 46.6 |
| P62 | 楕円形 | 65×54 | 39×36 | 33.4 |
| P63 | 円形 | 52×51 | 19×15 | 37.0 |
| P64 | 円形 | 58×51 | 28×25 | 43.1 |
| P65 | 楕円形 | 86×69 | 44×41 | 44.1 |
| P66 | 円形 | 28×25 | 16×14 | 64.4 |
| P67 | 不整形 | 50×46 | 21×17 | 57.3 |
| P68 | 円形 | 48×43 | 20×19 | 39.4 |
| P69 | 円形 | 21×21 | 7×5 | 10.8 |
| P70 | 楕円形 | 72×61 | 7×6, 50×47 | 31.9 |
| P71 | 円形 | 56×51 | 22×22 | 56.4 |
| P72 | 不明 | 75×(74) | 50×49 | 27.2 |

集石土坑 1



A. — 22.327m — A' — A. — — A' —



I. 灰色碎石 駐車場表土
 II. 黒褐色土 締り有、粘性有、前回調査の埋め戻し土
 III. 暗褐色土 締り有、粘性有、地山ローム

集石土坑 1

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、シミ状黒褐色土多く、1mm以下ローム粒やや多く、同灰色粒と焼土少し、3mm以下炭化物少し含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mm以下ローム粒と焼土やや多く、4mm以下炭化物やや多く、3~5mmロームブロック部分的に少し含む、礫は本層に集中
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム・黒褐色ブロック混ざり斑状呈す、1mm以下ローム粒・炭化物やや多く、1mm以下焼土少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、溝覆土
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、溝覆土

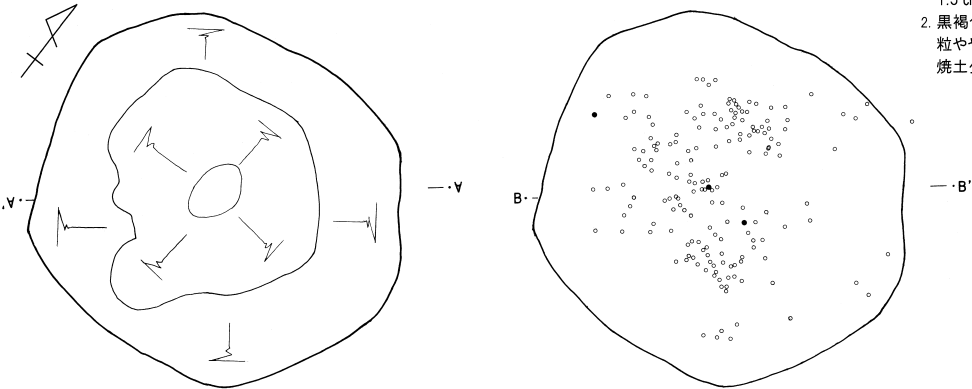
集石土坑 2

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、色調灰色味、黒色土・灰色土ブロック状にやや多く、2mm以下ローム粒僅かに含む、4cm礫少し含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、若干灰色味、2mm以下焼土粒やや多く、1mm炭化物少し、礫少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下焼土と1mm以下ローム粒やや多く、5mm以下炭化物比較的多く、礫含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム含み黄灰色味、2mm以下ローム粒・焼土・炭化物少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、4層ベースにシミ状黒褐色土多く、2mm以下ローム粒多く、同焼土・炭化物比較的多く含む
6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム主体、炭化物を伴う暗褐色土をシミ状に多く、2cm以下ハードロームブロック少し含む

集石土坑 3

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、1.5cm礫少し含む、2層より明るい
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下被熱ローム粒やや多く、5mm以下炭化物やや多く、1mm以下焼土少し含む、9cm礫含む

集石土坑 2

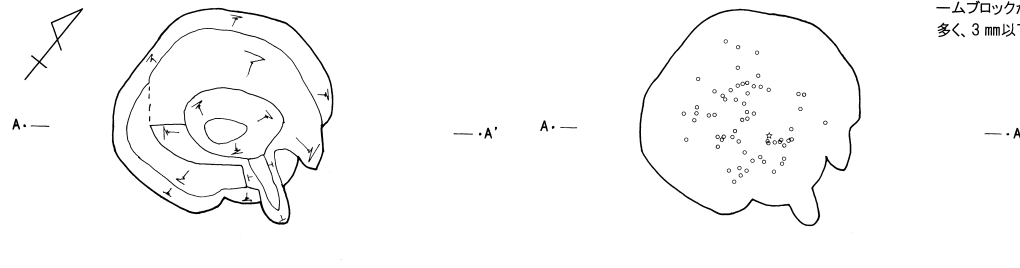


A. — 22.527m — A' — B. — — B' —

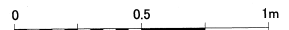
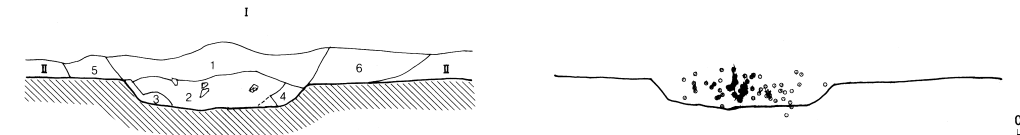


3. 黒色土 締り強、粘性有、灰色の暗褐色土ベースに3mm以下ローム粒多く、シミ状黒褐色土含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3層ベースにロームやや多く、1mm以下焼土・炭化物少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し、8mm以下炭化物少し、3mm焼土僅かに、5~10mm礫少し含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、5層類似5~15mmロームブロックが下部に集中、3mm以下ローム粒やや多く、3mm以下炭化物少し、5mm礫少し含む

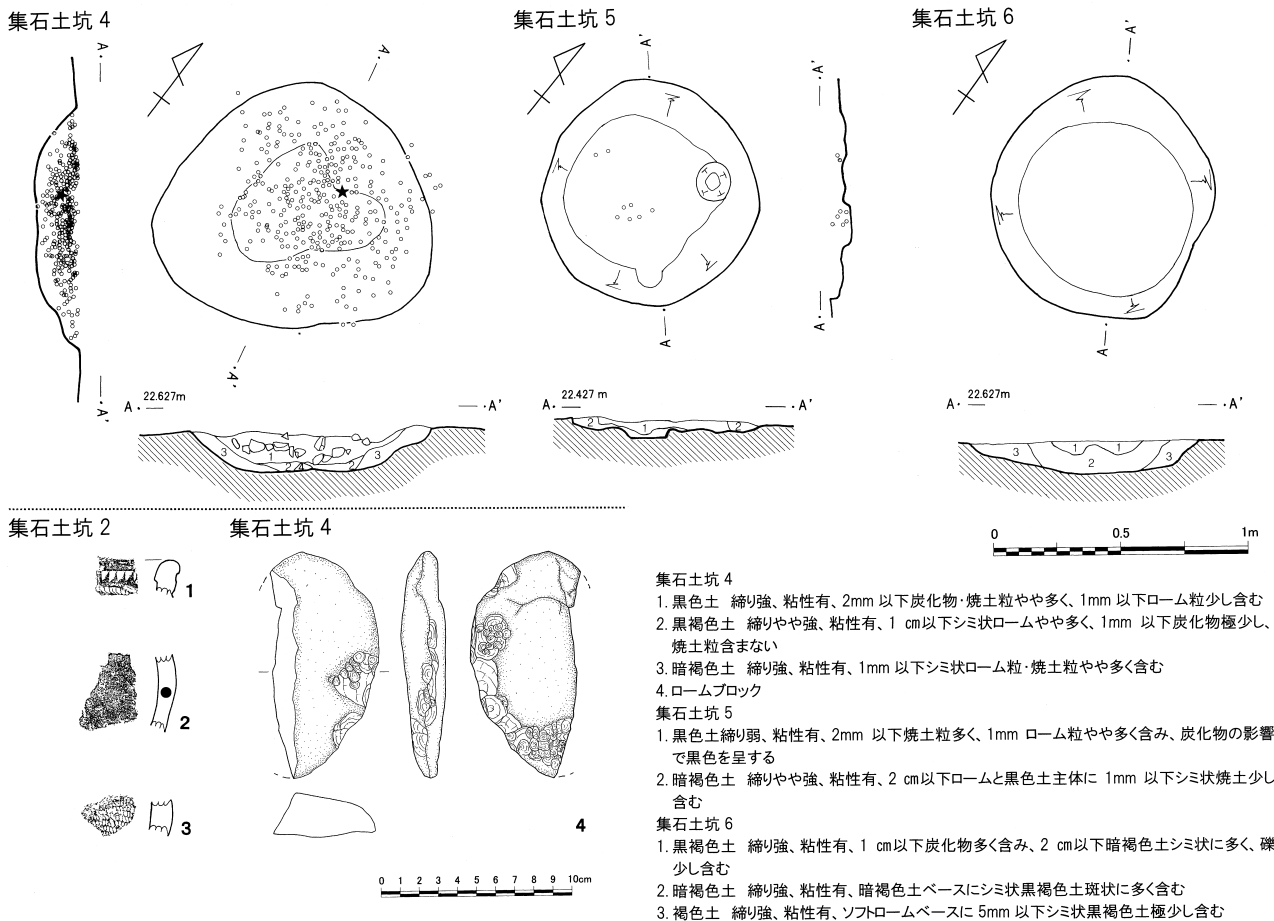
集石土坑 3



A. — 22.327m — A' — A. — — A' —



第87図 西遺跡第1地点集石土坑① (1/30)



第88図 西遺跡第1地点集石土坑② (1/30)、出土遺物 (1/4)

⑥土坑・ピット

土坑12基、ピット68基を検出した。時期については、土坑は全て縄文時代、ピットは溝に伴うP41~59以外は縄文時代とみられる。土坑3・10、ピット1・2・8・23は欠番である。

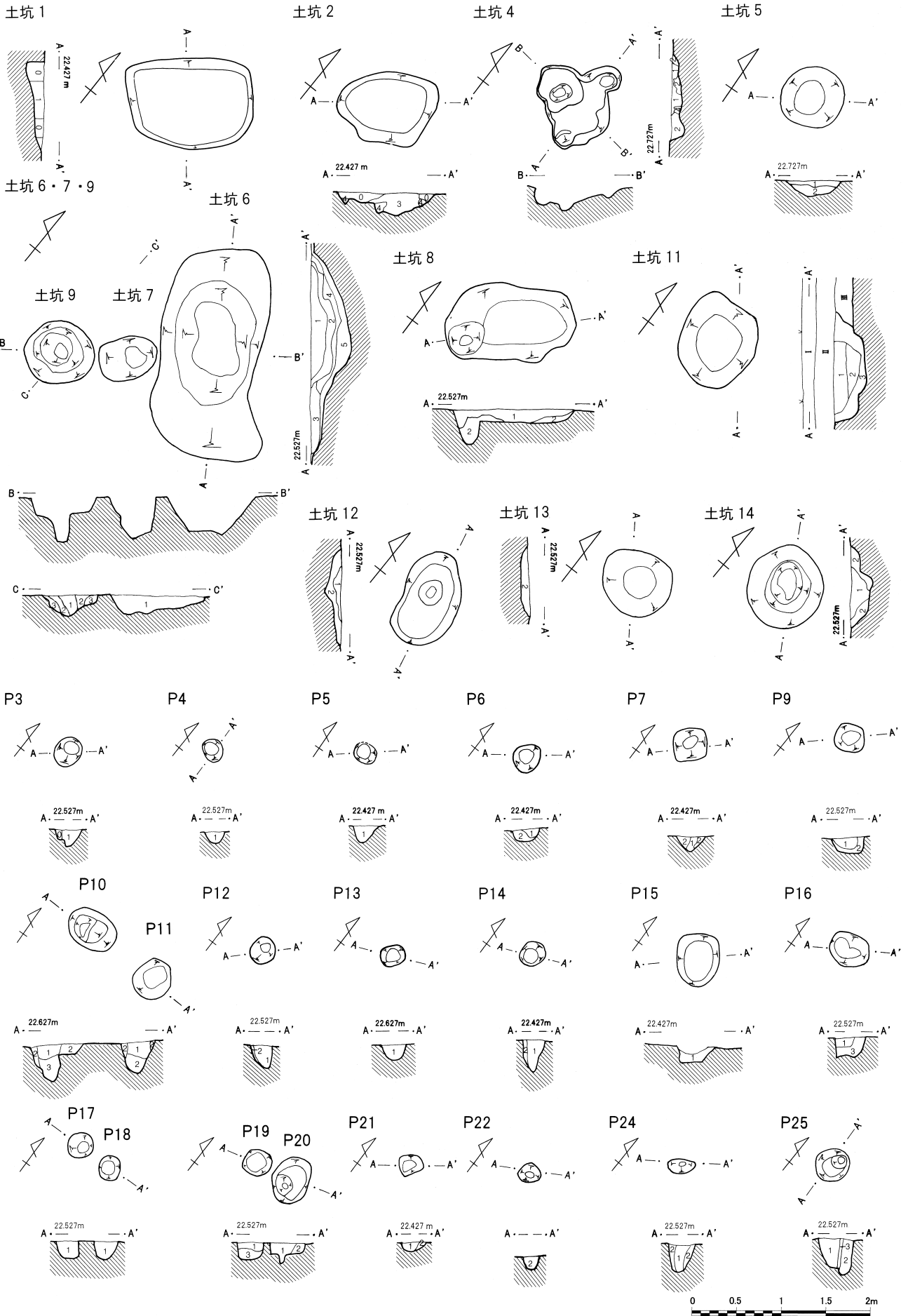
⑦溝

調査区の中央部を北から南に位置する。断面形態は浅い「U」状を呈し、上幅40~120cm、下幅10~33cm、深さ21.8cmである。溝内および周辺のピットは溝に伴うものか同時期のものとみられる。

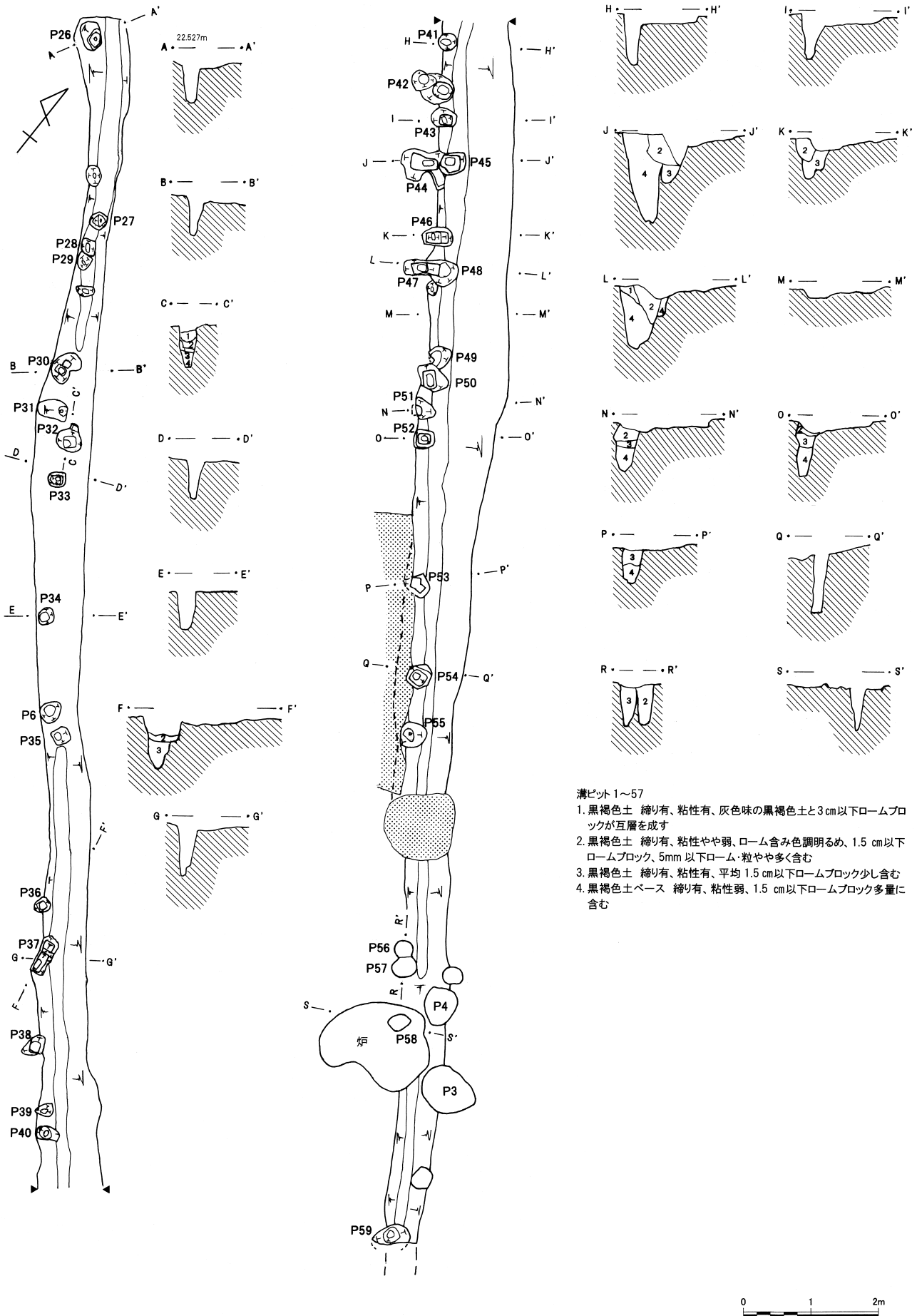
第55表 西遺跡第1地点土坑一覧表

(単位:cm)

| 遺構名 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|------|------|---------|--------|------|
| 土坑 1 | 方形 | 140×125 | 101×85 | 18.8 |
| 土坑 2 | 方形 | 110×80 | 90×60 | 14.3 |
| 土坑 4 | 不整形 | 109×98 | 14×9 | 32.3 |
| 土坑 5 | 円形 | 72×68 | 38×35 | 18.0 |
| 土坑 6 | 楕円形 | 239×119 | 82×52 | 45.7 |
| 土坑 7 | 楕円形 | 65×50 | 24×22 | 46.2 |
| 土坑 8 | 楕円形 | 148×87 | 15×10 | 43.8 |
| 土坑 9 | 円形 | 78×72 | 16×16 | 51.2 |
| 土坑11 | 方形 | 98×88 | 55×50 | 30.2 |
| 土坑12 | 楕円形 | 110×64 | 14×8 | 18.4 |
| 土坑13 | 円形 | 79×75 | 38×36 | 13.9 |
| 土坑14 | 円形 | 96×87 | 35×23 | 36.6 |

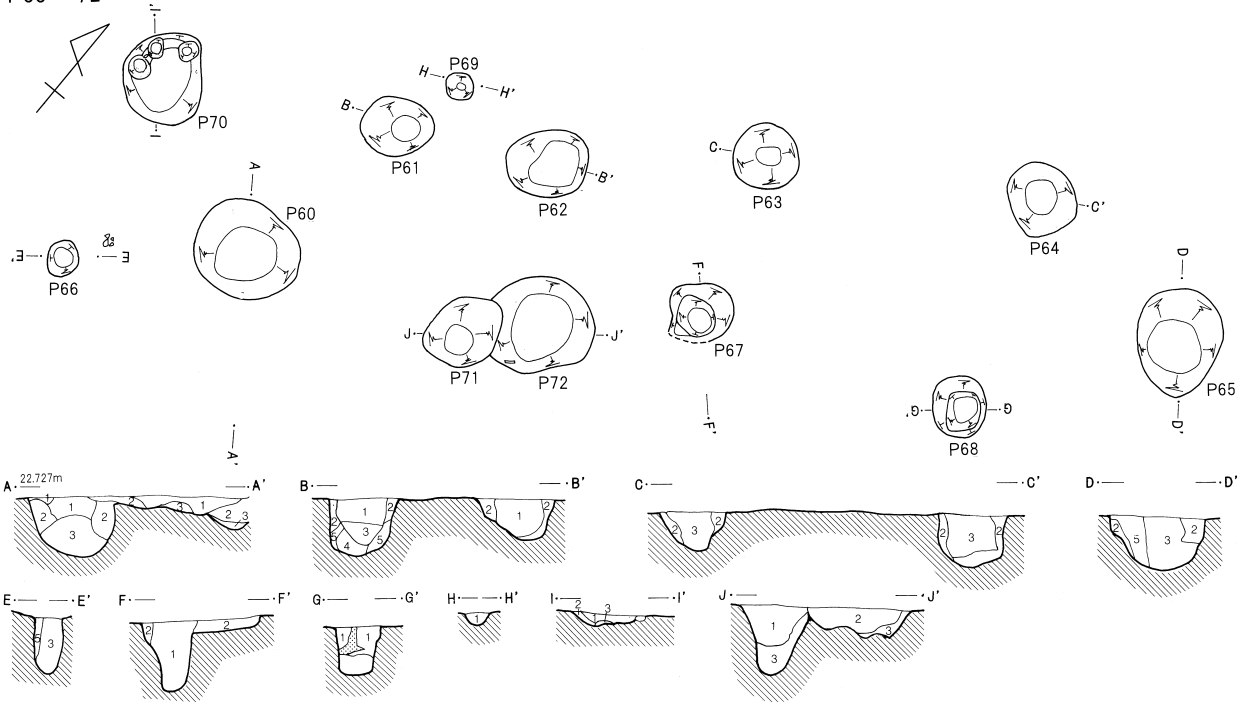


第89図 西遺跡第1地点土坑・ピット① (1/60)



第90図 西遺跡第1地点ピット②・溝 (1/80)

P60～72



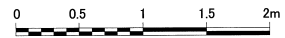
ピット 60～69, 71・72

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下ローム粒少し、1 mm以下シミ状焼土・炭化物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層より明るいソフトローム似、2 mm以下シミ状ローム少し 1 mm以下シミ状炭化物極少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 cmローム粒少し 2 mm以下ローム粒やや多く同炭化物少し含み、焼土含まない
4. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、2 mm以下ローム粒多く含む

5. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、2 mm以下ローム粒やや多く含む(4・5層はほぼ同じ、4層はローム粒多く3層に近い)

ピット 70

1. 黒色土 締り強、粘性有、1 cm以下ローム・炭化物多く 5 mm以下焼土・ローム粒極少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2 mm以下シミ状炭化物・焼土、ローム粒極少し含む
3. 褐色土 締り強、粘性有、ロームベースに 1 cmシミ状黒色土、1 mm炭化物極少し含む



第91図 西遺跡第1地点ピット③ (1/60)

⑧西遺跡第1次調査と第1地点出土遺物 (第88図、92～102図)

今回報告する遺物は第1地点出土遺物の他に、1992年の第1次調査で出土した遺物を参考資料として併せて報告する。

今回調査を行なった20・22・23号住居跡、土坑6・10、ピット1・8・13・14・24出土遺物については、炉体土器などの復元可能なもの以外に小片も図示した。

第1次調査出土遺物については、炉体土器、埋甕等の他覆土層出土の復元されたものや、塗彩土器など特殊なもののみを図示した。6号住居跡出土No41の土器は有孔罎付土器の口縁部と台付きの脚部である。胎土、調整から同一個体の可能性が高いが接合はしない。8号住居跡出土No48の土器は胎土、文様構成から同一個体で間違いなが接合はしない。第1次調査出土土器については破片の大部分を割愛した。割愛したものの中には中期初頭から前半の遺物も多くみられたが、炉体土器や埋甕などは無く、また復元可能なものは見当たらなかった。出土遺物の数量については第56表西遺跡第1次調査出土遺物数一覧表を参照されたい。No.123

からNo.133の土器については、土器表面に塗彩を施されたものと口縁部の特殊な突起を有するものを図示した。No.123は棒状の粘土の先に、三角押し文を施した三角形の粘土版を貼り付け、土偶状を呈する。No.124から133は土器表面に赤色又は黒色の塗彩を施したものである。

第1地点出土土器について若干遺物観察表の補足説明をする。20号住居跡出土土器は全て覆土層出土のものである。No.75と76は同一個体とみられる。

22号住居跡出土土器は全て覆土層出土土器で、他の住居跡に比べて加曽利E I～II式、曽利式が多くみられる。

23号住居跡出土土器は、No.96・97が炉体土器で、その他は住居覆土層とピット覆土層出土である。No.96、No.97は共に胴部下半から底部を欠く以外はほぼ完形である。両土器共に被熱によるハジケ現象がみられる。

第88図の1～3は集石土坑2出土である。1は押し文、3は地文単節縄文を施文する。2は無文で胎土に金雲母を含む。4は集石土坑4出土の砂岩製の敲石で重さ4,166.94 gである。

第56表 西遺跡第1次・第1地点出土土器観察表

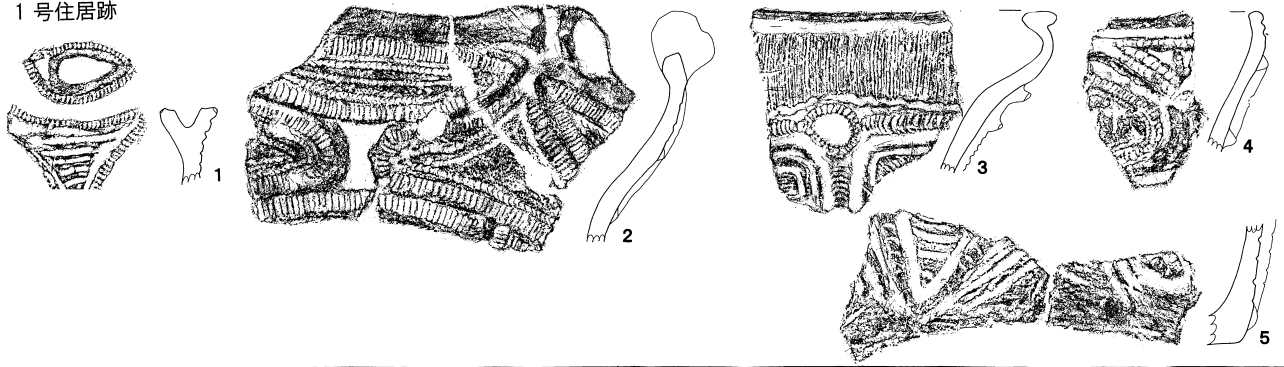
(単位cm)

| 図版番号 | 掲載番号 | 遺構名 | 出土状況 | 口・胴径 | 底径 | 高さ | 遺存部位 | 器形 | 地文 | 文様要素 | 時期 |
|------|-------|---------|------|-------------------|--------|----------|----------|---------|--|--|----------|
| 92図 | 1 | 1号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部突起 | 深鉢 | - | 口唇部突起、隆帯に連続刺突+横位に太い沈線 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 2 | 1号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口縁部内形突起、低隆帯の楕円形区画+三角形区画内幅広角押文・ベン先状工具三角押文 | 勝坂Ⅰ式古 |
| | 3 | 1号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 細沈線 | 口縁部木口状工具細い条線文、口唇直下横位沈線、頸部～胴部半截竹管内側半隆帯に押引文+隆帯脇波状沈線+区画内条線文 | 勝坂式 |
| | 4 | 1号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 隆帯の三角形区画内角押文+ベン先状工具三角押文+沈線三又文、金雲母含 | 勝坂Ⅰ式古 |
| | 5 | 1号住居跡 | 覆土 | - | (13.0) | - | 底部 | 深鉢 | - | 半截竹管内側押引文隆帯区画内に半隆帯文+沈線文 | 勝坂Ⅱ式 |
| | 6 | 2号住居跡 | 炉体 | 胴径(21.0) | - | (8.6) | 胴部 | 深鉢 | 不明 | 押圧・交互刺突の波状隆帯、隆帯脇連続刺突+沈線三又文、内面被熱のハジケ有 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 7 | 2号住居跡土坑 | 土坑覆土 | 27.0 | 10.5 | 35.5 | ほぼ完形 | 深鉢 | 条線 | 口縁部無文帯、頸部太い沈線文+ベン先状工具三角押文、胴部刻目隆帯三角形区画内太い沈線文+ベン先状工具の列点状文、胴部条線文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 8 | 2号住居跡 | 覆土 | 胴径(14.4) | - | (10.2) | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 刻目隆帯2段+隆帯間波状沈線文、胴部縦位地文縄文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 9 | 2号住居跡土坑 | 土坑覆土 | 胴径(13.5) | 9.5 | (11.7) | 胴下～底部 | 深鉢 | r1撚糸 | 地紋r1撚糸 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 10 | 2号住居跡 | 覆土 | 胴径(13.5) | 11.3 | (10.2) | 胴下～底部 | 深鉢 | RL縄文 | 胴部地文縦位縄文、底部近く屈曲し無文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 11 | 2号住居跡土坑 | 土坑覆土 | - | 9.2 | (3.8) | 底部 | 浅鉢 | - | 浅鉢底部無文 | 勝坂式 |
| | 12 | 3号住居跡 | 覆土 | (9.0) | - | (9.3) | 口縁部 | 深鉢 | - | 口縁部無文帯、頸部～胴部刻目隆帯、交互刺突+沈線文+連続刺突文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 13 | 3号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部突起 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部環状把手+刻目、地文縄文 | 勝坂Ⅱ～Ⅲ式 |
| | 14 | 3号住居跡 | 覆土 | 胴径(23.6) | - | (17.5) | 胴部1/2 | 深鉢 | RL縄文 | 横位刻目隆帯+隆帯脇沈線、地文縦位縄文 | 勝Ⅲ式 |
| 93図 | 15 | 4号住居跡 | 炉体 | 口径24.0 最大径43.5 | - | (22.8) | 口縁～頸部 | 深鉢 | - | 2対の大型環状装飾+2対鎖状装飾、連鎖状隆帯懸垂+交互刺突隆帯、沈線三又文他、多喜窪タイプ | 勝坂Ⅲ式 |
| | 16 | 4号住居跡 | 覆土 | (26) 最大径31.7 | 10.2 | 36.3 | 1/2 | 深鉢 | 櫛目状沈線 | 口縁部無文帯+4単位環状把手、口縁部櫛目状沈線+刻目隆帯の渦巻文・波状文他の装飾+区画内沈線櫛目状文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 17 | 4号住居跡 | 覆土 | (29.5) | - | (35.7) | 口縁1/4～胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 4単位波状口縁、連鎖状隆帯+交互押圧波状隆帯、区画内太く浅い三又文+集合沈線、幅広頸部RL縄文、胴下部～底部無文 | 勝坂Ⅲ(最終末) |
| | 18 | 4号住居跡 | 覆土 | 胴径(16.1) | 8.6 | 17.8 | 胴部～底部 | 小型深鉢 | Lr撚糸 | 胴下部～底部僅かに屈折、頸部から僅かに隆帯の懸垂文有 | 勝坂Ⅲ式 |
| 94図 | 19 | 4号住居跡 | 覆土 | 23.0 | 10.6 | 30.1 | 完形 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁～胴部に刻目隆帯で方形区画、区画内刻目隆帯の渦巻文+「へ」字状文を交互施文、区画内沈線渦巻文+波状文+三又文、区画内刻目隆帯+縄文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 20 | 4号住居跡 | 覆土 | 19.7 | 7.8 | 36.8 | ほぼ完形 | 大型深鉢 | RL縄文 | 口縁2箇所板状突起・内外面に沈線渦巻文+三又文+円文、突起から懸垂する綾杉状刻目・ベン先状工具三角押文隆帯、隆帯間沈線渦巻文+十字文+三又文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 21 | 4号住居跡 | 覆土 | 19.3 | 7.8 | 35.4 | 口縁～胴部 | 大型深鉢 | RL縄文 | 無文口縁、口唇部～胴部まで押圧隆帯懸垂し先端渦巻く、胴部区画内は低隆帯と太い縦位沈線・三又文、胴部下半地文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 22 | 4号住居跡 | 覆土 | 23.2 | (12.0) | (39.5) | 口縁～胴部1/2 | 大型深鉢 | RL縄文 | 口縁部無文+刻目・交互刺突隆帯懸垂で渦巻文・方形区画、区画内太い沈線で渦巻文+三又文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 23 | 4号住居跡 | 覆土 | 15 | - | (15.8) | 口縁部 | 小型深鉢 | RL縄文 | 口縁部無文、1ヶ所山形突起から交互押圧の隆帯懸垂、胴下部地文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 24 | 4号住居跡 | 覆土 | (16.0) | - | (25.4) | 口縁～胴部1/3 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部無文帯、胴部刻目隆帯区画内に沈線渦巻文他、胴部下半地文 | 勝坂Ⅲ式 |
| 95図 | 25 | 4号住居跡 | 覆土 | 13.5 | - | 22.2 | 口縁～胴部 | 小型深鉢 | RL縄文 | 口縁部1ヶ所山形突起、口縁～胴部地文、胴下部～底部無文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 26 | 4号住居跡 | 覆土 | 14.5 | 6.3 | 23.7 | ほぼ完形 | 小型深鉢 | RL縄文 | 口縁部無文帯、地文縄文、胴下部無文、途中で土器作りを止めた感じで本来の口縁部・頸部なし | 勝坂Ⅲ式 |
| | 27 | 4号住居跡 | 覆土 | (16.0) | (8.0) | 22.6 | 1/2 | 小型深鉢 | 沈線 | 口縁部無文帯～頸部屈曲し胴部膨らむ、口縁～胴部連鎖状隆帯懸垂、頸部綾杉状突起隆帯、懸垂隆帯間に沈線文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 28 | 4号住居跡 | 覆土 | (9.2) | 5.0 | 8.2 | 口縁1/4 | ミニチュア浅鉢 | 無文 | 口縁部幅広無文帯、口縁～胴部「く」の字状屈曲 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 29 | 4号住居跡 | 覆土 | 口径22.5 最大径33.0 | - | (39.0) | 底部 | 深鉢 | Lr撚糸 | 押圧のある大型環状把手1ヶ所、口唇部横位連鎖状隆帯+綾杉状押圧隆帯懸垂・同様の隆帯を胴中央部と下部に横位貼付、無文胴下部に隆帯文有、胴部区画内地文撚糸文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 30 | 4号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 浅鉢 | - | 外面赤色塗彩、本来全面か? | 勝坂式 |
| | 31 | 4号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 浅鉢 | - | 外面赤色塗彩、本来全面か? | 勝坂式 |
| | 32 | 4号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 浅鉢 | - | 内外面に赤色塗彩、外面隆帯円形文、本来全面か? | 勝坂Ⅲ式 |
| | 33 | 4号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 浅鉢 | - | 外面赤色塗彩で「十」字状文様を描く | 勝坂Ⅲ式 |
| | 34 | 7号住居跡 | 外側炉体 | 胴径(40.0) | - | (9.5) | 頸部 | 深鉢 | Lr撚糸 | 頸部に竹管状工具2本組の内側を用いて半隆帯状の横位波状文、胴部は同様の工具で半隆帯区画文 | 加曽利EⅠ古 |
| 35 | 7号住居跡 | 内側炉体 | 34.2 | - | (19.0) | 口縁～胴部3/4 | 深鉢 | Lr撚糸 | 口縁部2本組「横S」字隆帯、頸部横位半隆帯内地文、頸部～胴部半隆帯状長方形区画(一部「十」字状)+区画内地文 | 加曽利EⅠ古 | |
| 36 | 5号住居跡 | 覆土 | 24.5 | - | (16.0) | 口縁～胴3/4 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部7～8単位の沈線楕円形区画+区画内縄文、胴部沈線「U」「∩」区画内縄文、沈線間磨消 | 加曽利EⅢ式 | |
| 96図 | 37 | 5号住居跡 | 覆土 | - | - | (11.5) | 大型把手 | - | - | 口唇部大型みみずく把手 | 勝坂Ⅲ |
| | 38 | 5号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 浅鉢 | - | 内外面塗彩、隆帯脇沈線、本来全面か? | 勝坂Ⅲ |

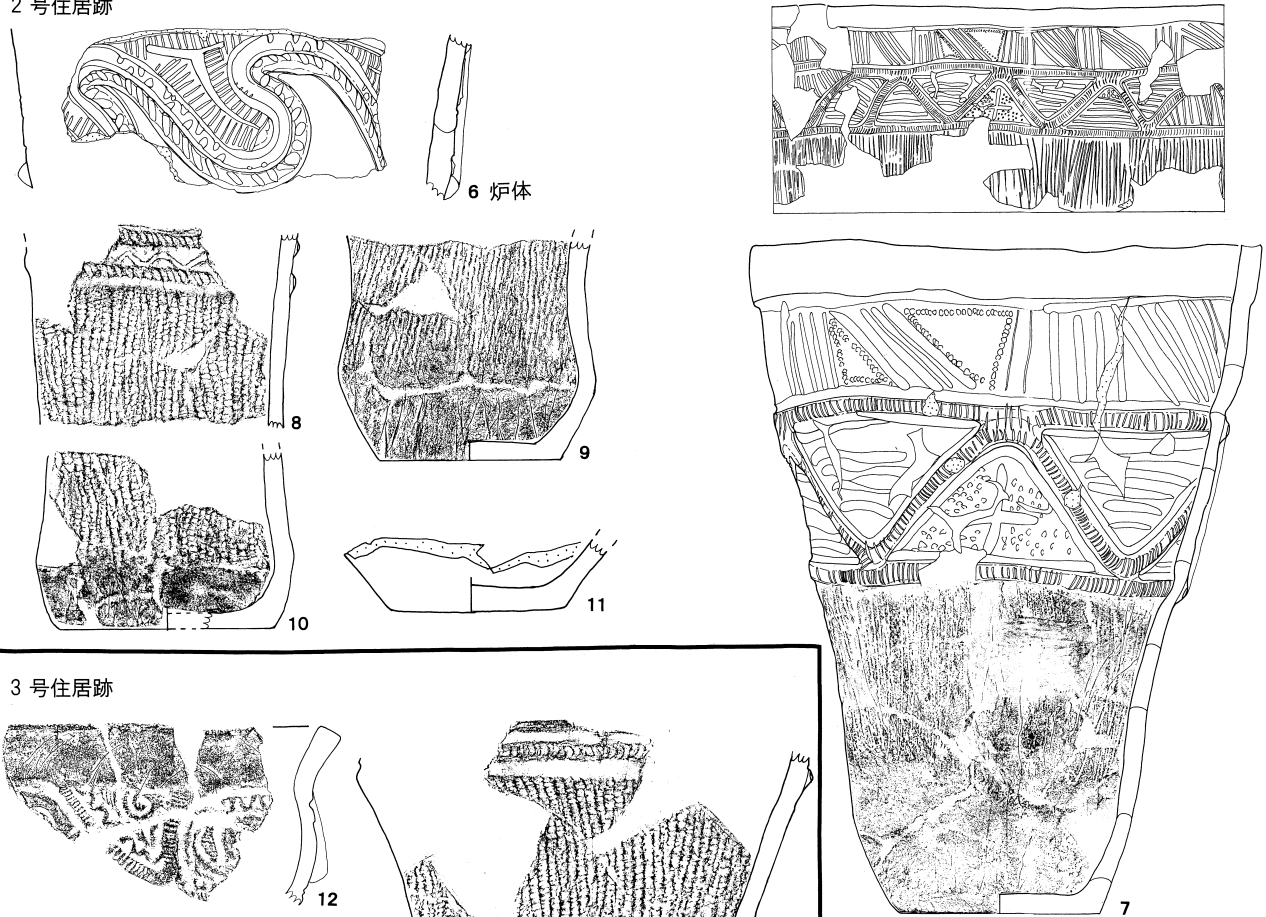
| 図版番号 | 掲載番号 | 遺構名 | 出土状況 | 口・胴径 | 底径 | 高さ | 遺存部位 | 器形 | 地文 | 文様要素 | 時期 |
|------|-------|--------|----------|----------|--------|--------|--------------|----------|---|--|------------|
| 96図 | 39 | 5号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r 捺糸 | 波状口縁部・山形小突起、地文斜位捺糸文に2本組み隆帯区画 | 加曽利 E I 式古 |
| | 40 | 5号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 頸部～胴部 | 深鉢 | L r 捺糸 | 口縁部無文、頸部竹管状工具交互刺突文、胴部地文捺糸文 | 勝坂末 |
| | 41 | 6号住居跡 | 覆土 | 7.5 | (11.1) | (18.7) | 口縁～頸部 台付 | 有孔 台付 | 無文 | 丁寧な撫で調整+器厚薄い、口縁部鐫の脇に1.8～2.6cm間隔に穿孔、台部直接結合しないが胎土酷似、同一個体可能性有 | 勝坂式 |
| | 42 | 6号住居跡 | 覆土 | - | - | (13.7) | 口縁部大型 把手 | 深鉢 | - | 波状山形把手に連鎖状隆帯懸垂+沈線文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 43 | 6号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口縁部無文、胴部刻目隆帯区画内に沈線三叉文他 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 44 | | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口縁部無文、胴部沈線区画内ベン先状工具刺突文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 45 | 6号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口縁部無文、隆帯楕円形区画内幅広角押文+沈線波状文金雲母含 | 阿玉台Ⅱ式 |
| | 46 | 6号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 浅鉢 | - | 口縁部無文、隆帯楕円形区画内幅広角押文+沈線波状文金雲母含 | 阿玉台Ⅱ式 |
| | 47 | | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 浅鉢 | - | 口縁部無文、隆帯楕円形区画内幅広角押文+沈線波状文金雲母含 | 阿玉台Ⅱ式 |
| 48 | 8号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁～胴部 | 深鉢 | - | 大波状口縁、押圧隆帯区画内幅狭角押文+細い工具押引文、胴部に隆帯の蛇行懸垂文+隆帯脇角押文 | 阿玉台Ⅱ式 | |
| 49 | 8号住居跡 | 覆土 | 胴径(27.6) | - | (23.5) | 頸部～胴部 | 深鉢 | R L 縄文 | 頸部楕円区画、刻目隆帯楕円形4区画内に縦位集合沈線、刻目細い | 勝坂Ⅱ～Ⅲ式 | |
| 97図 | 50 | 10号住居跡 | 覆土 | 29.1 | (12.0) | (39.8) | 口縁～底部 1/5 | 深鉢 | - | 口縁部4単位波状口縁+渦巻状把手、口縁部・頸部・胴部は隆帯で三角形を交互に組合せた重三角形、区画内爪形文+波状結節沈線文 | 勝坂Ⅱ式 |
| | 51 | 10号住居跡 | 覆土 | 胴径(21.5) | (13.0) | (24.5) | 胴～底部 1/4 | 深鉢 | 無文 | 隆帯脇連続爪形文+ベン先状工具連続刺突+三角押文の抽象文、粘土紐輪積痕明瞭 | 勝坂Ⅰ式新 |
| | 52 | 12号住居跡 | 炉体 | - | - | - | 胴部 | 浅鉢 | 無文 | 胴部下底部近く | 不明 |
| | 53 | 12号住居跡 | 覆土 | 24.5 | - | (16.5) | 口縁～胴部 | 深鉢 | - | 無文口縁部1ヶ所に刻目隆帯渦巻文+環状把手、頸部刻目隆帯と連続爪形文で4単位の楕円形区画、区画内縦位集合沈線 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 54 | 12号住居跡 | 覆土 | 胴径(19.0) | 6.0 | 13.8 | 胴下部～底部 | 深鉢 | R L 縄文 | 丸みのある胴部と小さな底部 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 55 | 12号住居跡 | 覆土 | 30.5 | 14.5 | 47.0 | 口縁～底部 4/5 | 深鉢 | R L 縄文 | 口縁部4単位波状口縁+円文把手、口縁部刻目隆帯で円形・楕円形区画内縦位集合沈線、頸部狭く無文、胴部刻目隆帯円形・楕円形区画内縦位集合沈線、胴部下～底部地文 | 勝坂Ⅱ～Ⅲ式 |
| 98図 | 56 | 13号住居跡 | 炉体 | (29.4) | - | (30.5) | 口縁1/4 | 深鉢 | ヒダ状圧痕 | 平口縁に4単位小突起・楕円形粘土紐結付、小突起から懸垂する隆帯で8ヶ所楕円形区画、頸部から胴部ヒダ状圧痕7段 | 阿玉台Ⅰa～Ⅰb式古 |
| | 57 | 13号住居跡 | 炉体 | (25.0) | - | (16.7) | 口縁1/4 | 深鉢 | - | 4単位波状口縁・波頂部皿状突起+押圧のあるS字状隆帯懸垂、隆帯楕円形区画内に斜位の押引文、頸部2列単位の押引文で「U」字状文 | 阿玉台Ⅰb新 |
| | 58 | 13号住居跡 | 覆土 | 18.0 | 9.5 | 27.9 | 口縁部 | 深鉢 | 角押文 | 平口縁部に4単位の楕円形区画・小突起1ヶ+低隆帯区画沿いに太い角押文+細い角押文+波状角押文+縦位・Y状・W字状に角押文、胴部に隆帯で幅狭楕円形区画、楕円形区画下に幅広押引文+波状角押文 | 猪沢Ⅲ式 |
| | 59 | 13号住居跡 | 覆土 | (34.0) | - | (35.1) | 口縁～胴部 1/2 | 深鉢 | - | 口縁部刻目隆帯突起1ヶ所・円形文+沈線三叉文、口縁部隆帯で半円+三角形区画、隆帯脇連続三角押文+細かい半截竹管状工具刺突+沈線玉包三叉文、頸部幅狭い隆帯脇連続爪形文(キャタピラ・幅広角押文)、胴部隆帯三角形区画内連続爪形文+沈線三叉文、方形区画内連続爪形文+三角押文+細かい半截竹管刺突文 | 勝坂Ⅰ式 |
| | 60 | 14号住居跡 | 炉体 | (47.2) | - | (16.8) | 口縁部1/4 | 深鉢 | - | 口唇部屈曲+口縁部無文+渦巻状突起と把手1ヶ所有、頸部刻目・交互刺突隆帯の区画、隆帯区画沿いに沈線+三叉文他 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 61 | 16号住居跡 | 炉体 | (32.5) | - | (18.2) | 口縁1/3 | 深鉢 | - | 口縁部無文+口唇「く」状屈曲、頸部刻目隆帯楕円区画5単位、区画内縦位集合沈線+連続爪形隆帯三角形区画内縦位集合沈線 | 勝坂Ⅱ新～Ⅲ式 |
| 99図 | 62 | 16号住居跡 | 覆土 | 15.0 | 5.2 | 20.2 | ほぼ完形 | 小型深鉢 | - | 口縁部無文+刻目隆帯環状把手1ヶ所、頸部刻目隆帯方形・楕円形区画+区画内連続爪形文+竹管状工具刺突蓮華文+沈線三叉文等 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 63 | 16号住居跡 | 覆土 | 10.5 | - | (12.5) | 底部欠 | 小型深鉢 | RL縄文 | 無文口縁、頸部から胴部沈線長方形区画、区画内沈線波状文+渦巻文+三叉文、沈線間浅く粗雑な交互刺突と刻目文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 64 | 16号住居跡 | 覆土 | (14.0) | (11.0) | (37.7) | 口縁1/4 | 深鉢 | 三角押文 | 口縁部無文、頸部2ヶ所に交互刺突隆帯で環状(裝飾)把手+交互刺突の太い隆帯区画+区画内粗い三角押文+沈線三叉文他 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 65 | 16号住居跡 | 覆土 | (30.5) | - | (31.6) | 口縁～胴部 1/4 | 深鉢 | - | 4単位波状口縁先端に刻目隆帯突起、突起下に刻目隆帯渦巻文+隆帯脇沈線、区画内連続爪形文+半截竹管蓮華文、刻目隆帯楕円・三角形区画+区画内縦位集合沈線、胴部刻目隆帯二等辺三角形区画+隆帯脇沈線+区画内連続刺突+半截竹管刺突蓮華文 | 勝坂Ⅱ式新 |
| | 66 | 16号住居跡 | 覆土 | (13.0) | - | (10.7) | 口縁4/5 | 小型深鉢 | 不明 | 口縁部無文+刻目隆帯突起2ヶ所、頸部刻目隆帯、胴部刻目隆帯で三角区画 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 67 | 16号住居跡 | 覆土 | 15.2 | - | (12.2) | 口縁部1/2 | 小型深鉢 | - | 口縁部刻目隆帯「横S」字状渦巻文+沈線三叉文、頸部刻目隆帯区画内斜位集合沈線文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 68 | 16号住居跡 | 覆土 | 15.0 | - | (11.0) | 胴部～底部 | 小型深鉢 | - | 口縁部M字状3単位波状口縁、押圧のある隆帯で渦巻文、隆帯脇沈線+沈線三叉文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 69 | 16号住居跡 | 覆土 | 45.8 | - | (26.0) | 口縁部1/2 | 深鉢 | 「ラジェータ」状隆帯 | 口縁部と胴部膨らみ頸部は細くすぼまる、口縁部中空把手1ヶ所+渦巻小突起2ヶ所、全面ヒダ状のラジェータ状隆帯 | 勝坂Ⅲ式～末文様 |
| 100図 | 70 | 16号住居跡 | 覆土 | 胴径(17.0) | - | (21.0) | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部と頸部に交互刺突隆帯と重三角形区画、区画内沈線三叉文、胴部地文縄文 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 71 | 16号住居跡 | 覆土 | - | 7.7 | (10.0) | 胴部～底部 | 深鉢 | RL縄文 | 胴部縄文、底部無文 | 勝坂式 |

| 図版 番号 | 掲載 番号 | 遺構名 | 出土状況 | 口・胴径 | 底径 | 高さ | 遺存部位 | 器形 | 地文 | 文様要素 | 時期 |
|----------|----------|---------------|-------|----------|--------|--------|--------------|---------------|-----------------------|---|------------------------|
| 100 図 | 72 | 16号住居跡 | 覆土 | 16.0 | - | (13.3) | 口縁～脚部 | 台付鉢 | 無文 | 無文平口縁で口唇屈曲+輪状把手1ヶ所、脚部に穿孔有 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 73 | 16号住居跡 | 覆土 | (35.0) | - | (11.8) | 口縁～胴部 1/6 | 浅鉢 | 無文 | 「コ」字状に内湾する口縁から口唇部は板状の平口縁 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 74 | 19号住居跡 | 炉体 | 胴径(28.2) | - | (20.7) | 胴部 | 円筒形深鉢 | | 口縁部無文に隆帯文有、胴部半隆帯脇幅広角押文+波状結節沈線、隆帯凹文に刻目有、抽象文 | 勝坂Ⅰ～Ⅱ式 |
| | 75 76 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部1/3 | 浅鉢 | 無文 | 口縁部「逆Z」字状屈曲、隆帯方形区画 | 阿玉台式系 |
| | 77 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無文 | 無文、金雲母多く含む | 阿玉台式系 |
| | 78 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無文 | 隆帯懸垂 | 阿玉台式系 |
| | 79 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | 角押文 | 幅狭角押文 | 猪沢式Ⅰ式 |
| | 80 | 20号住居跡 | 表土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部地文、頸部波状沈線+角押文 | 勝坂Ⅱ式 |
| | 81 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口縁部地文、頸部波状沈線+角押文 | 勝坂Ⅱ式 |
| | 82 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 隆帯脇幅広角押文+三角押文 | 勝坂Ⅰ式新 |
| | 83 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 半隆帯脇幅広角押文 | 勝坂Ⅰ式新 |
| | 84 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 隆帯脇幅広角押(キヤタピラ)文+沈線 | 勝坂Ⅱ式 |
| | 85 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 地文RL縄文 | 勝坂式 |
| | 86 | 20号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 無文口縁内湾 | 勝坂Ⅱ～Ⅲ式 |
| 101 図 | 87 | 22号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | ヒダ状圧痕 | 横位低隆帯脇幅波状結節沈線文+懸垂隆帯、ヒダ状圧痕、金雲母含む | 阿玉台Ⅰb式 |
| | 88 | 22号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | RL縄文 | 波状口縁 | 加曾利EⅡ式 古 |
| | 89 | 22号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 隆帯脇幅沈線+キヤタピラ文+三角押文 | 勝坂Ⅱ式 |
| | 90 | 22号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 横位刻目 | 勝坂Ⅰ式併行 |
| | 91 | 22号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 隆帯懸垂文+沈線綾杉文 | 曾利Ⅲ式 |
| | 92 | 22号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 隆帯蛇行懸垂文+沈線綾杉文 | 曾利Ⅲ式 |
| | 93 | 22号住居跡 | P10覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 2本組沈線間磨消、沈線の蛇行懸垂文 | 加曾利EⅡ式 新 |
| | 94 | 22号住居跡 | P7覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r 撚糸 | L r 撚糸 | 中期 |
| | 95 | 22号住居跡 | P2覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | RL縄文 | 中期 |
| | 96 | 23号住居跡 | 炉体 | 24.5 | - | (10.0) | 口縁～頸部 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部微隆帯+沈線4単位楕円形区画内RL縄文、頸部～胴部RL縄文、2本組沈線懸垂文間磨消 | 加曾利EⅡ式 中相 |
| | 97 | 23号住居跡 | 炉体 | 21.0 | - | (13.6) | 胴部以下欠 | 深鉢 | RL縄文 | 口唇部横位沈線1本+直下2段円形刺突文、頸部横位沈線2本、胴部「∩」状沈線間磨消+地文 | 加曾利EⅡ式 中相、連弧文 折衷 |
| | 98 | 23号住居跡 | P3覆土 | - | - | - | 口縁部 | 小型深鉢 | - | 角押文 | 猪沢式 |
| | 99 | 23号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 波状口縁、隆帯渦巻文 | 加曾利EⅠ式 古 |
| | 100 | 23号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | LRL複節 縄文 | 隆帯+沈線区画内地文縄文 | 加曾利EⅡ式 |
| | 101 | 23号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線文 | 弧状隆帯+縦位沈線 | 加曾利EⅡ式 |
| | 102 | 23号住居跡 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 2本組み沈線間磨消+地文縄文 | 加曾利EⅡ式 |
| | 103 | 1次調査 土坑3 | 覆土 | 4.5 | 3.5 | 7.1 | 完形 | ミニチュア 台付土器 | 沈線 | ミニチュア台付深鉢、胴部沈線渦巻文+三叉文、脚部4ヶ所穿孔 | 勝Ⅲ式 |
| | 104 | 1次調査 土坑19 | 覆土 | 15.5 | - | (13.8) | 口縁～胴部 | 小型深鉢 | RL縄文 | 無文口縁、口唇部屈曲、頸部隆帯楕円形区画13単位 | 勝坂Ⅲ式 |
| | 105 | 1次調査 土坑6 | 覆土 | 11.0 | 6.1 | 15.9 | ほぼ完形 | 小型深鉢 | RL縄文 | 口縁部隆帯貼付屈曲、胴部RL縦位縄文 | 勝坂Ⅱ末～Ⅲ 式 |
| | 106 | 1次調査 土坑6 | 覆土 | 13 | 9.5 | 20.5 | 完形口縁一 部欠 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部無文帯に縄文を配した円形隆帯貼付、口縁～胴部間横位沈線1本、胴部斜・縦位にRL縄文 | 勝Ⅱ末～Ⅲ |
| | 107 | 第1次調査 土坑66 | 覆土 | (29.0) | (13.5) | (49.7) | 1/5 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部無文帯に隆帯円形文、頸部刻目・交互刺突隆帯の楕円形区画内に沈線文、胴上部綾杉状押圧隆帯で三角形・渦巻文の区画、胴下半縦位縄文 | 勝坂Ⅱ式 |
| | 108 | 第1次調査 土坑6 | 表土 | 2.65 | - | 厚さ1.34 | 土製円板 | 円形 | 縄文 | 側縁を擦る | 中期 |
| | 109 | 土坑6 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口唇部2ヶ所山形突起、口縁部微隆帯貼付 | 中期～後期 |
| | 110 | 土坑6 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 角押文 | 勝坂Ⅱ式 |
| 111 | 土坑6 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 2本組み沈線懸垂文間磨消 | 加曾利EⅡ式 | |
| 112 | 土坑6 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 結節沈線 | 勝坂式 | |
| 113 | 土坑10 | 覆土 | - | - | - | 口唇部 | 深鉢 | - | 隆帯+沈線 | 中期～後期 | |
| 114 | 土坑10 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 2本組み沈線懸垂文間磨消 | 加曾利EⅡ式 | |
| 115 | P1 | 覆土 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | RL縄文 | 口縁部地文縄文 | 勝坂式 | |
| 116 | P1 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 押圧隆帯 | 阿玉台式系 | |
| 117 | P8 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | RL縄文 | 半隆帯沈線脇連続押引文+波状沈線、地文RL | 勝坂Ⅱ式 | |
| 118 | P8 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 半隆帯に連続爪形文+区画内沈線文 | 勝坂Ⅱ式 | |
| 119 | P8 | 覆土 | - | - | - | 胴部～底部 | 深鉢 | L r 撚糸 | 半截竹管内側沈線+沈線蛇行懸垂文 | 加曾利EⅠ式 古 | |
| 120 | P13 | 覆土 | - | - | - | 底部 | 深鉢 | - | 底部網代痕有 | 中期 | |
| 121 | P14 | 覆土 | - | - | - | 底部 | 深鉢 | RL縄文 | 地文RL+沈線、金雲母含む | 中期 | |
| 122 | P24 | 覆土 | - | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 細かい角押文2～4列 | 猪沢式 | |

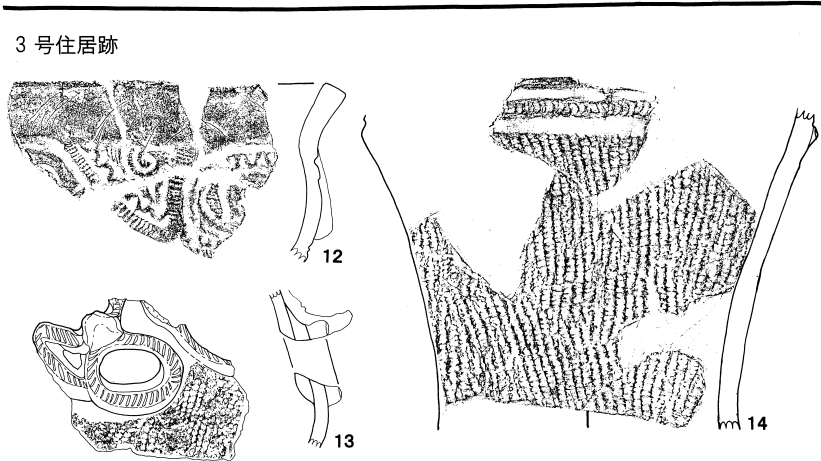
1号住居跡



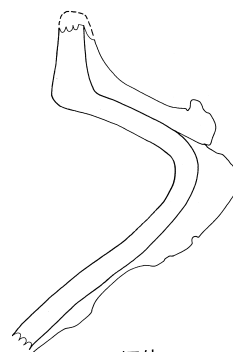
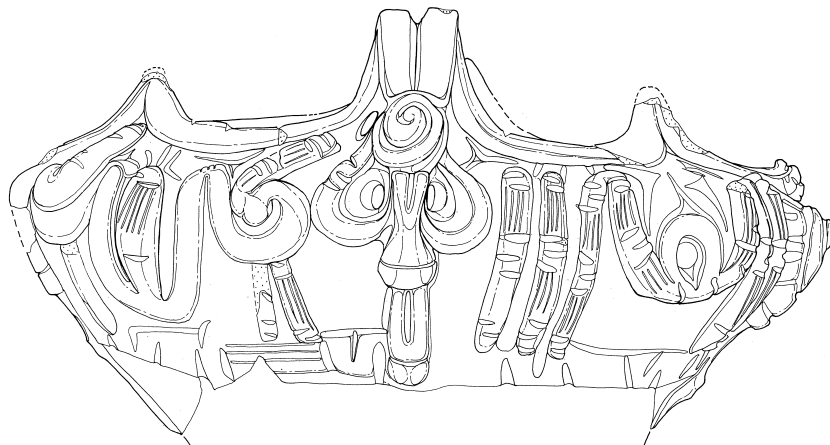
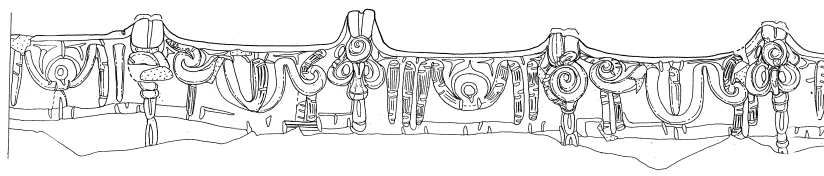
2号住居跡



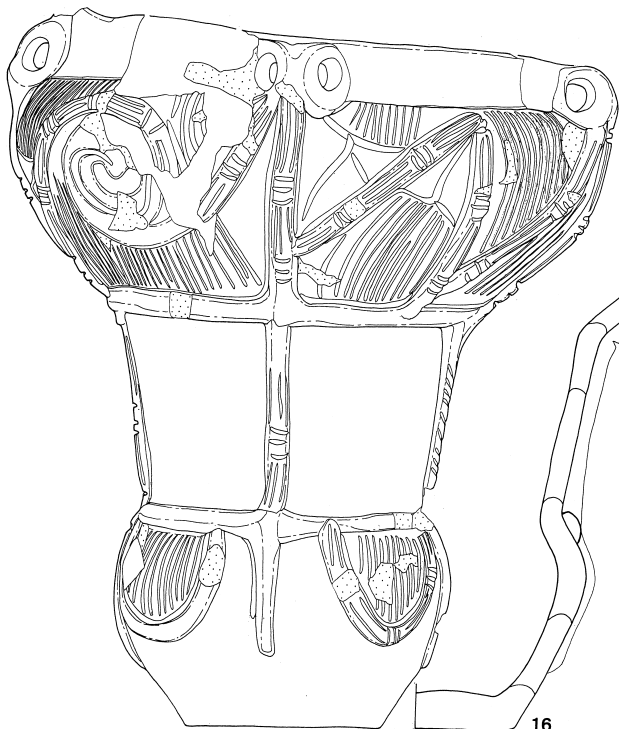
3号住居跡



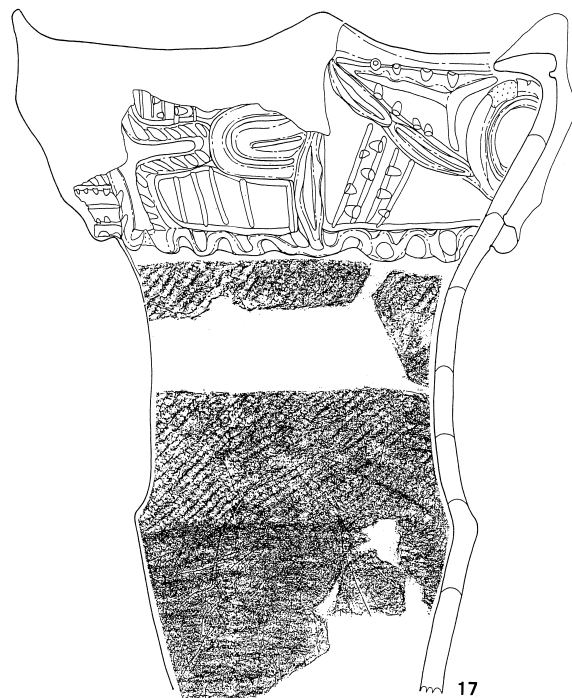
第92図 西遺跡1・2・3号住居跡出土土器 (1/4)



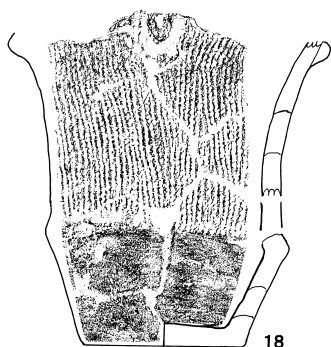
15 炉体



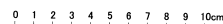
16



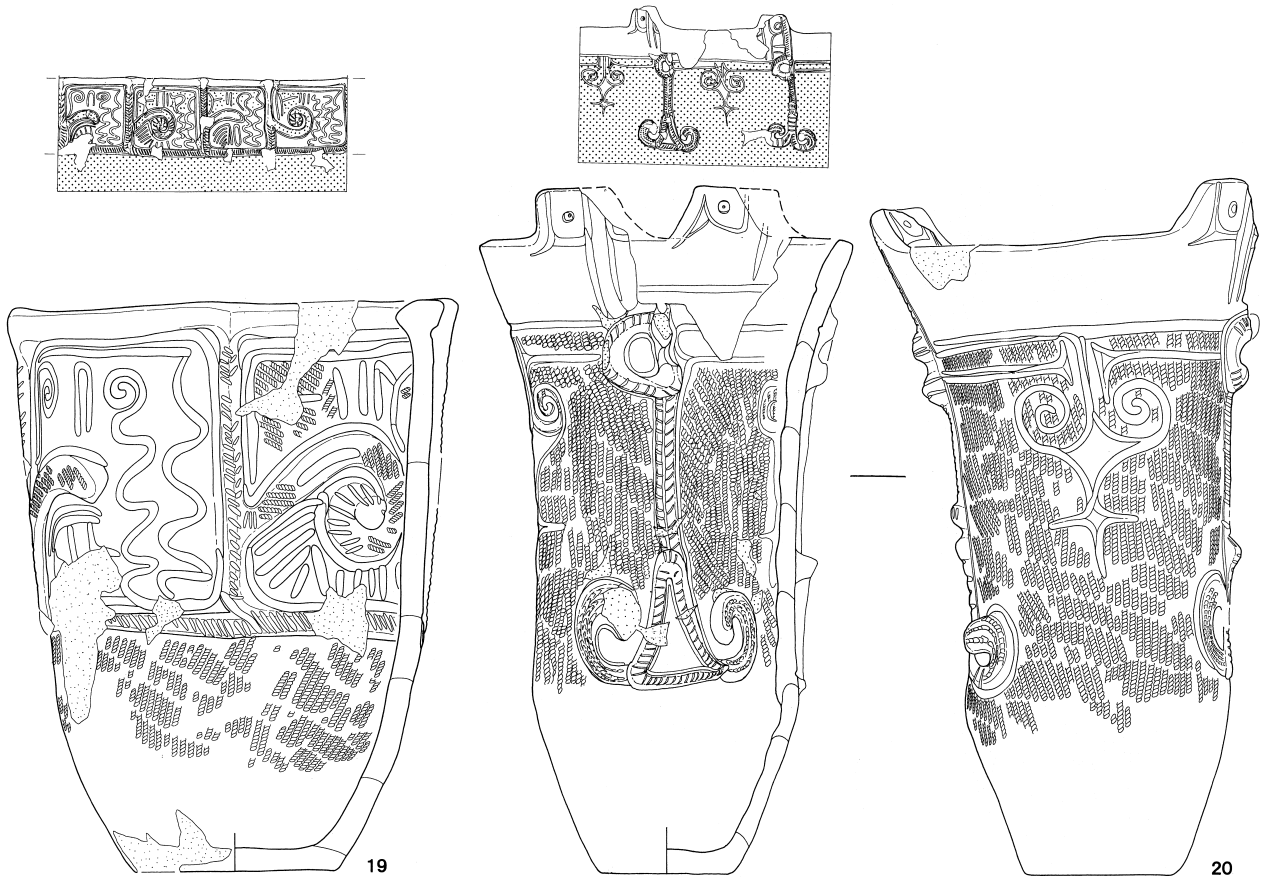
17



18

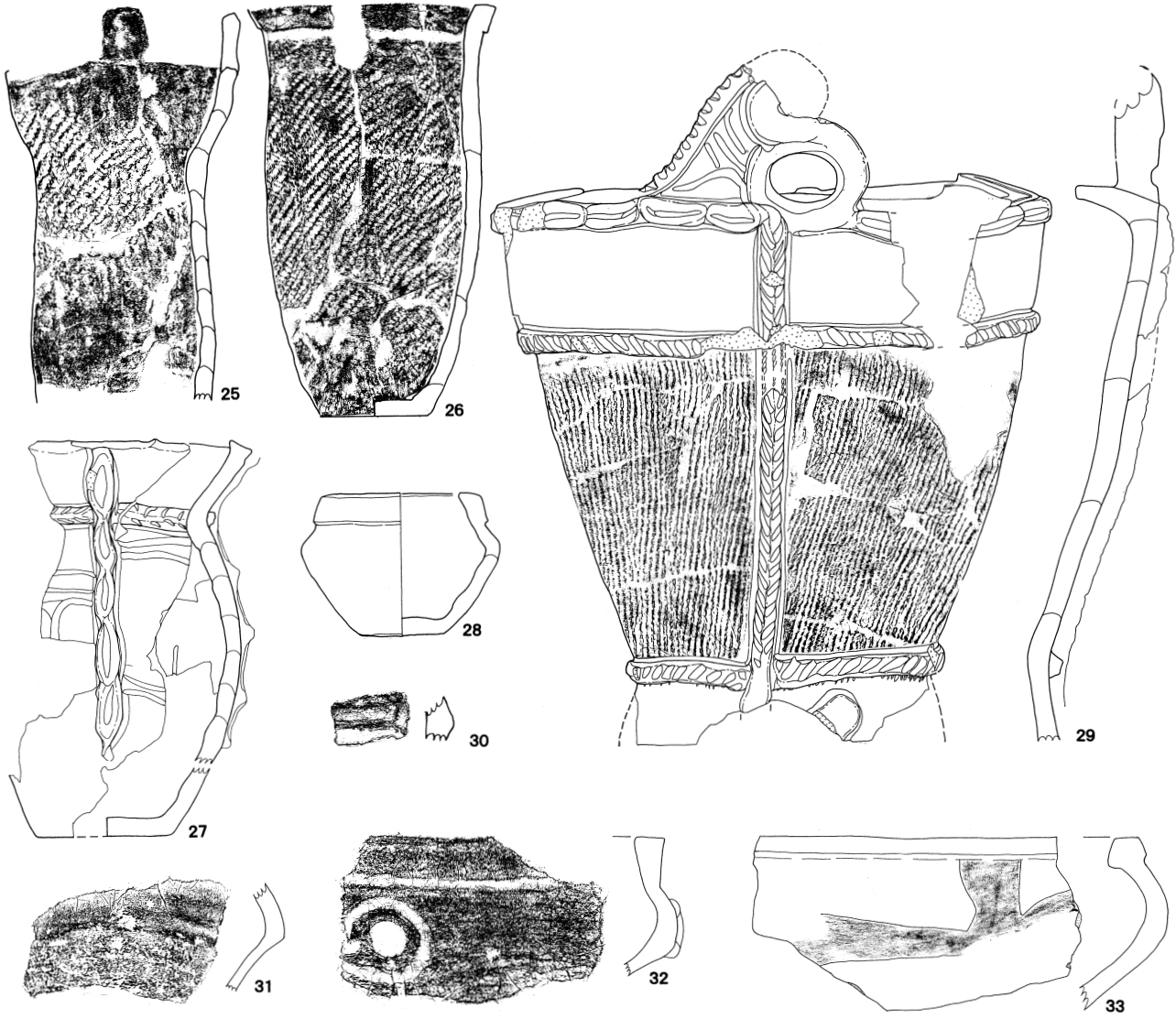


第93図 西遺跡4号住居跡出土土器① (1/4)

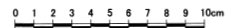
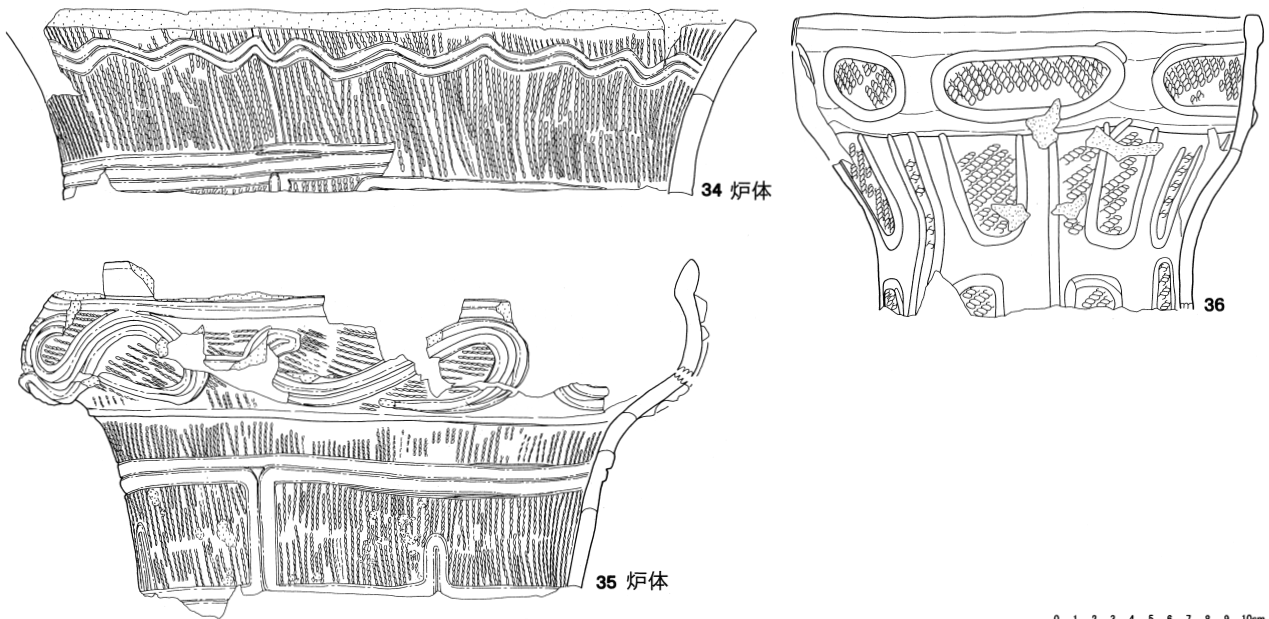


第94図 西遺跡4号住居跡出土土器② (1/4)

4号住居跡

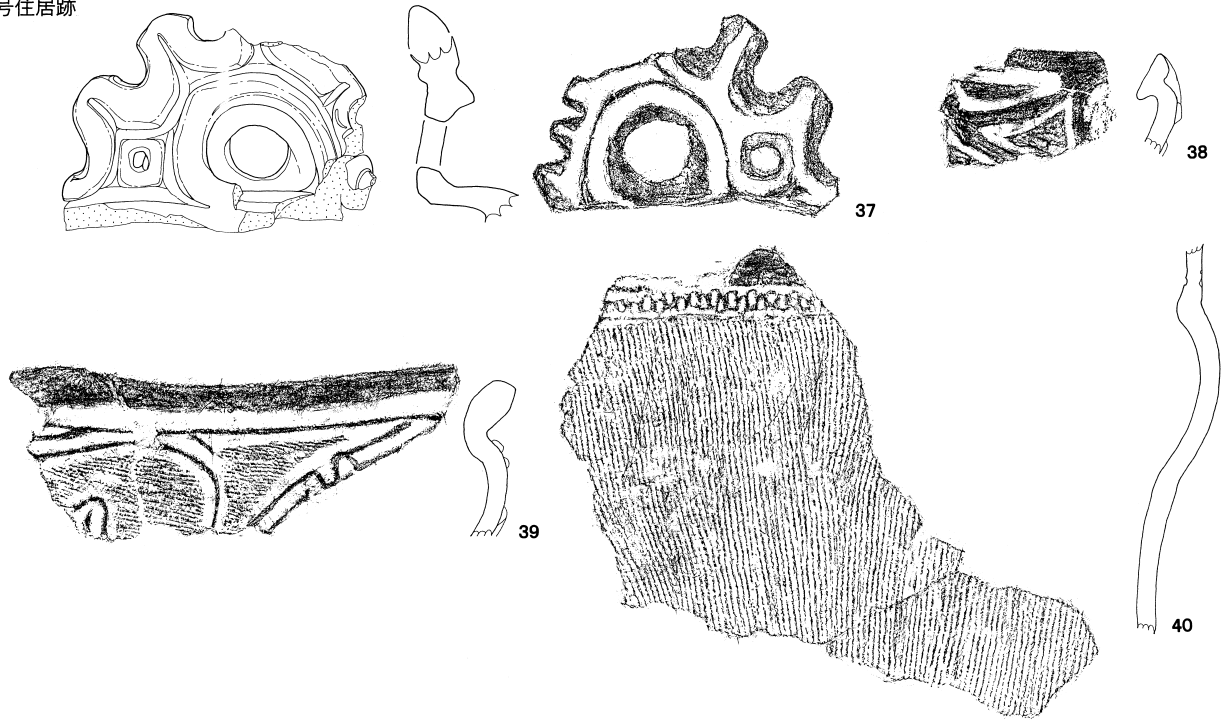


5・7号住居跡

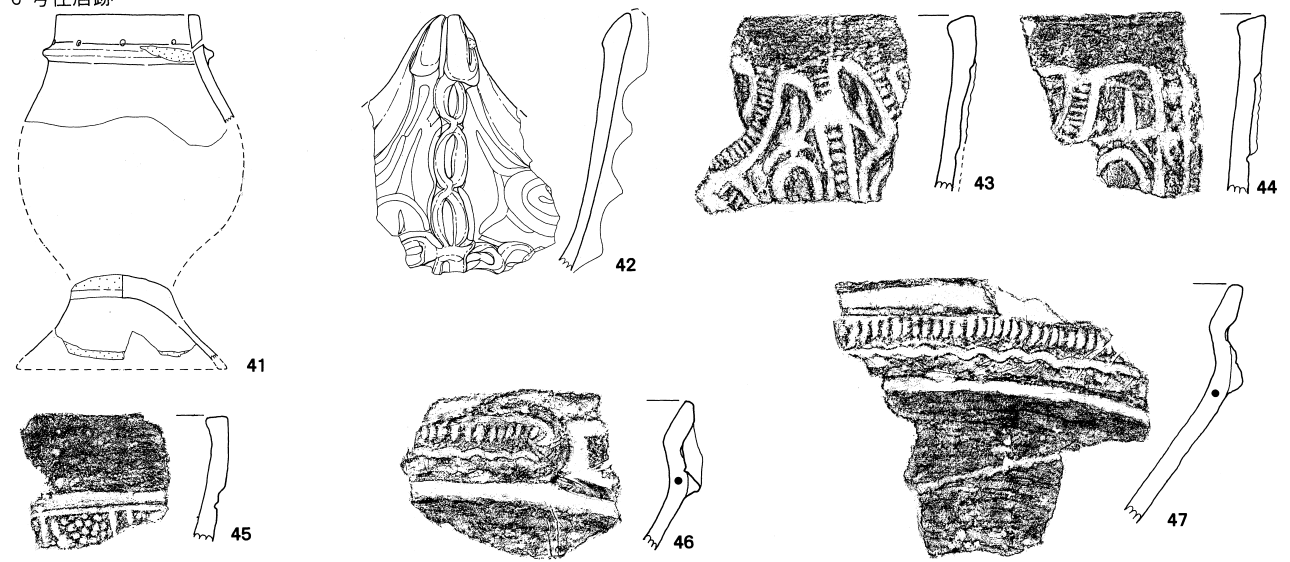


第95図 西遺跡4号住居跡③・5・7号住居跡出土土器 (1/4)

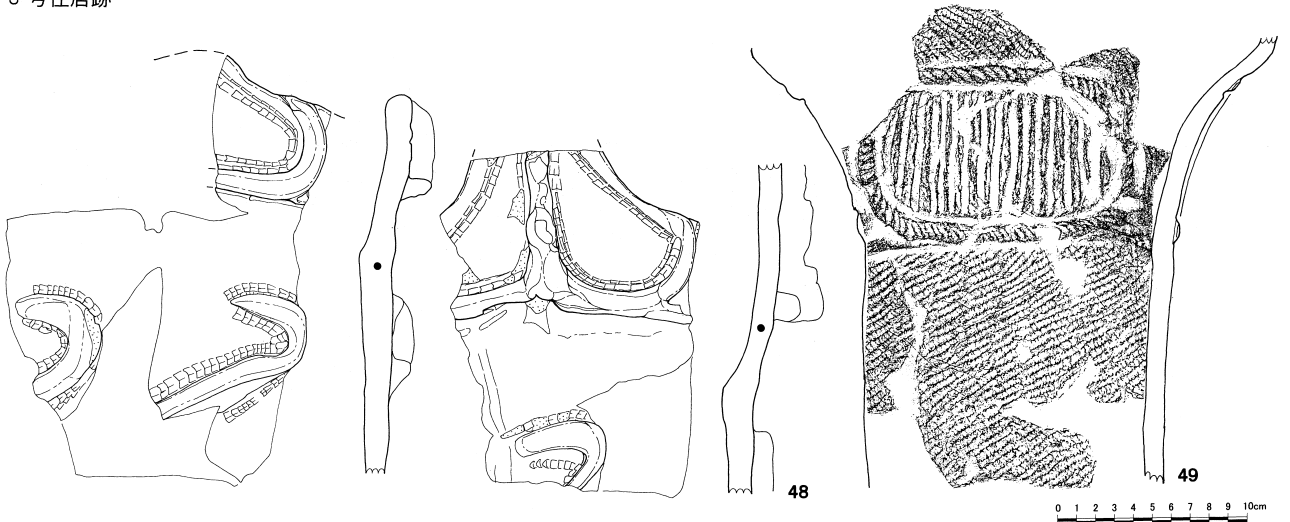
5号住居跡



6号住居跡

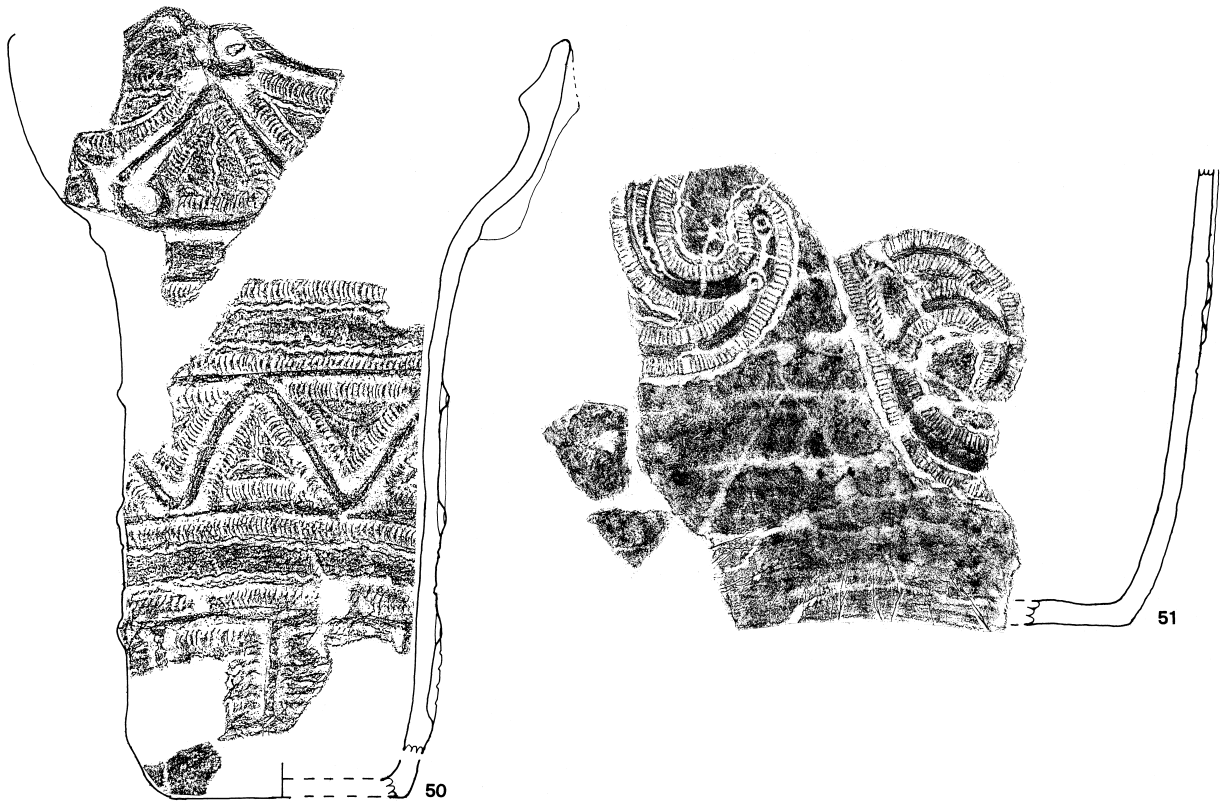


8号住居跡

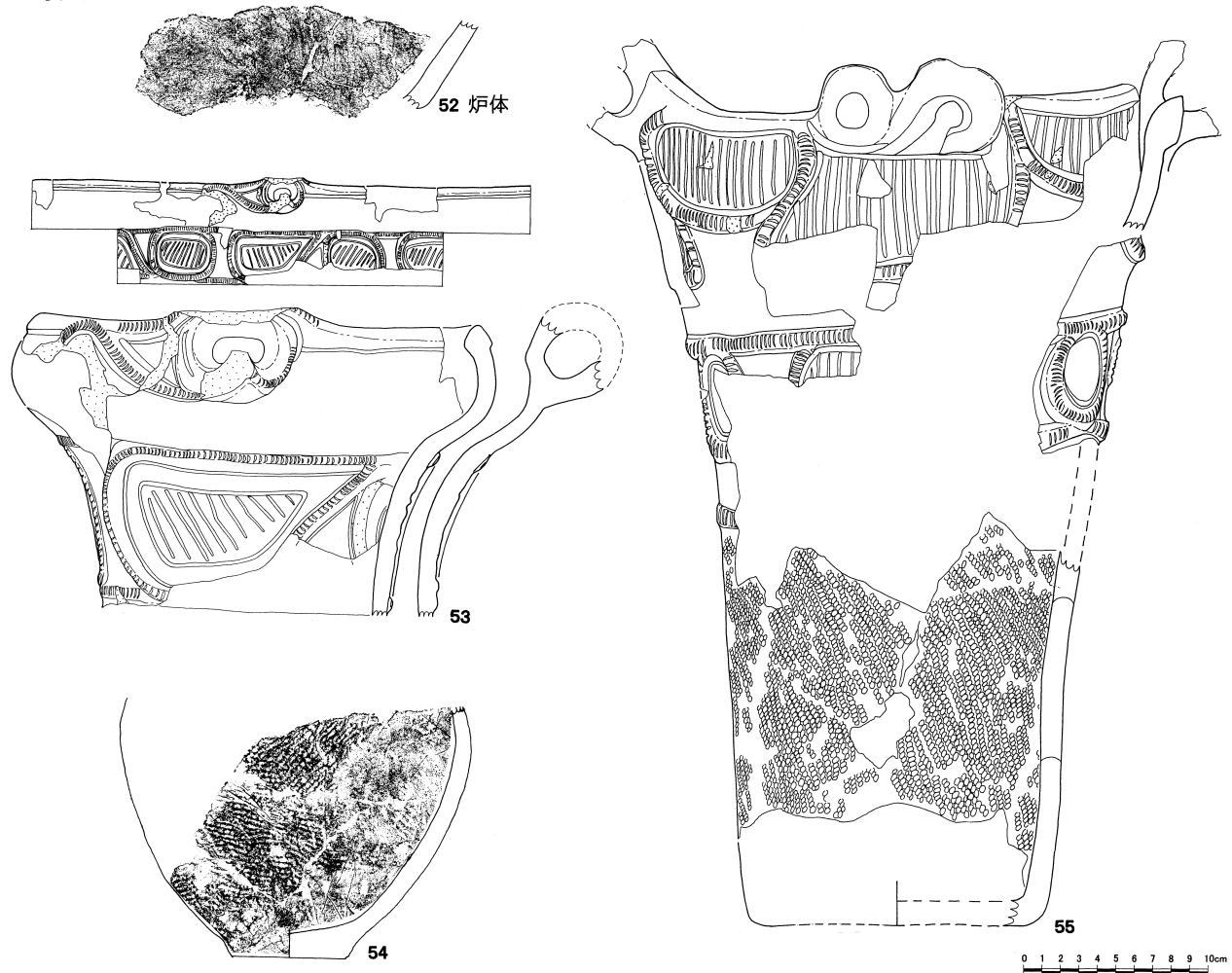


第96図 西遺跡5・6・8号住居跡出土土器 (1/4)

10号住居跡

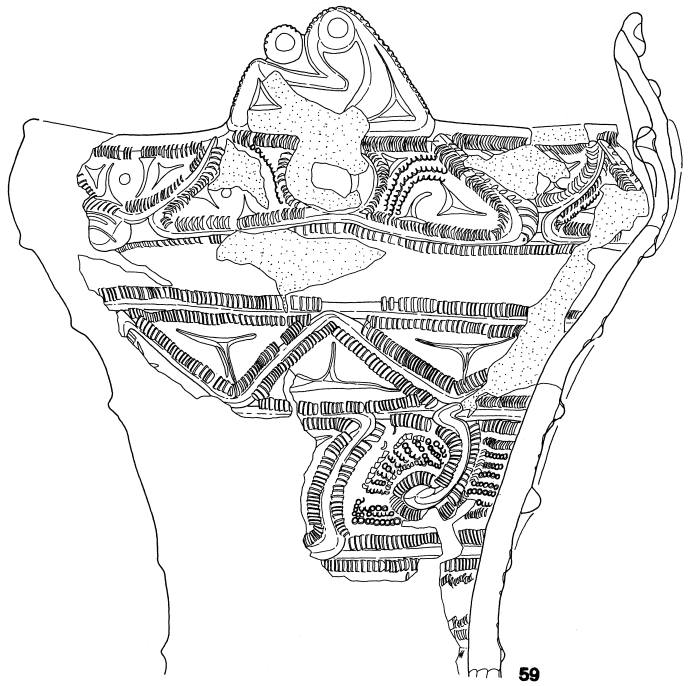
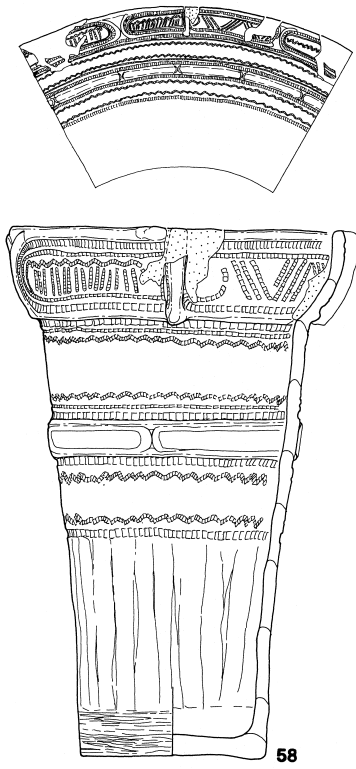
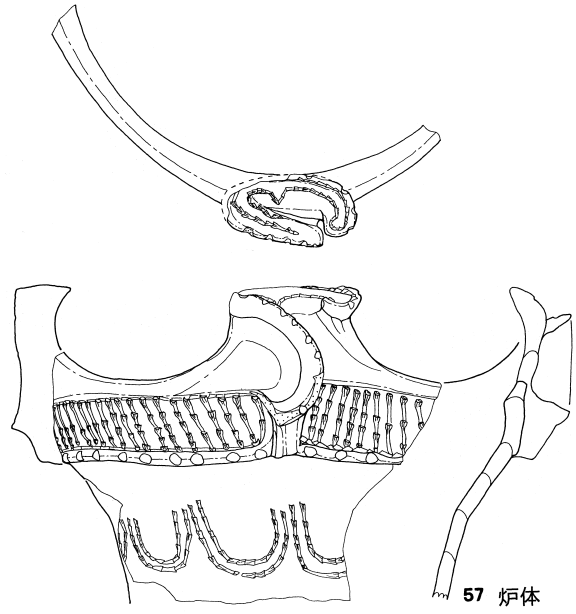
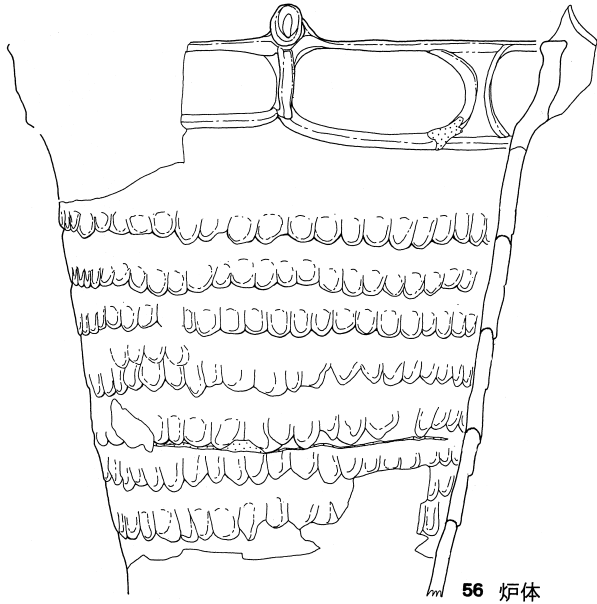


12号住居跡

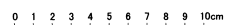
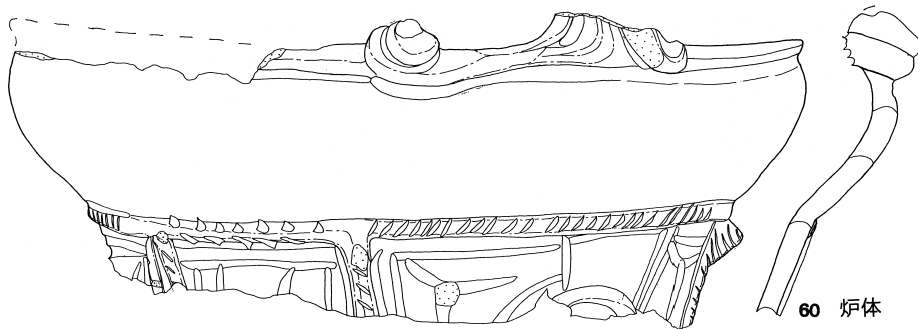


第97図 西遺跡10・12号住居跡出土土器 (1/4)

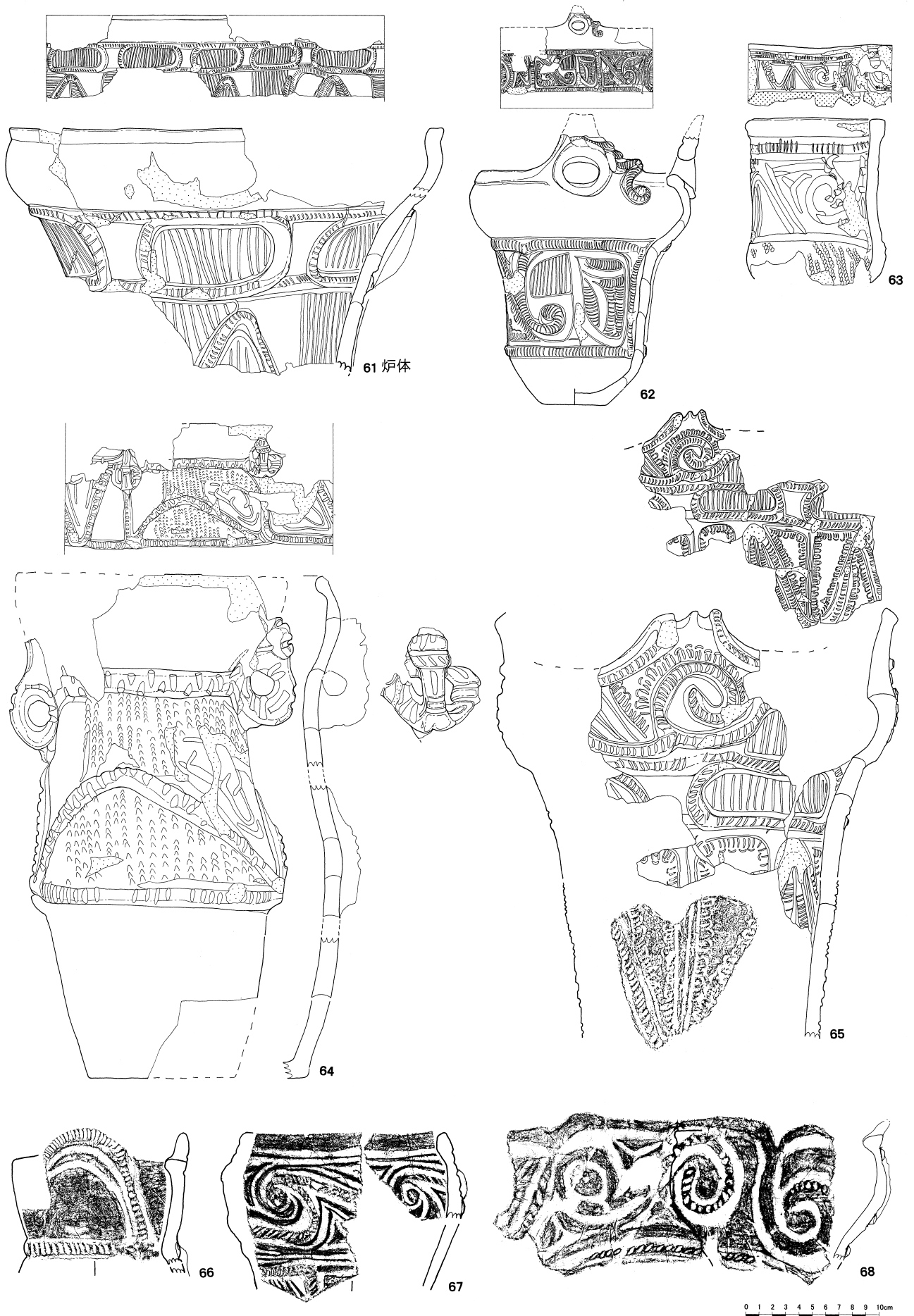
13号住居跡



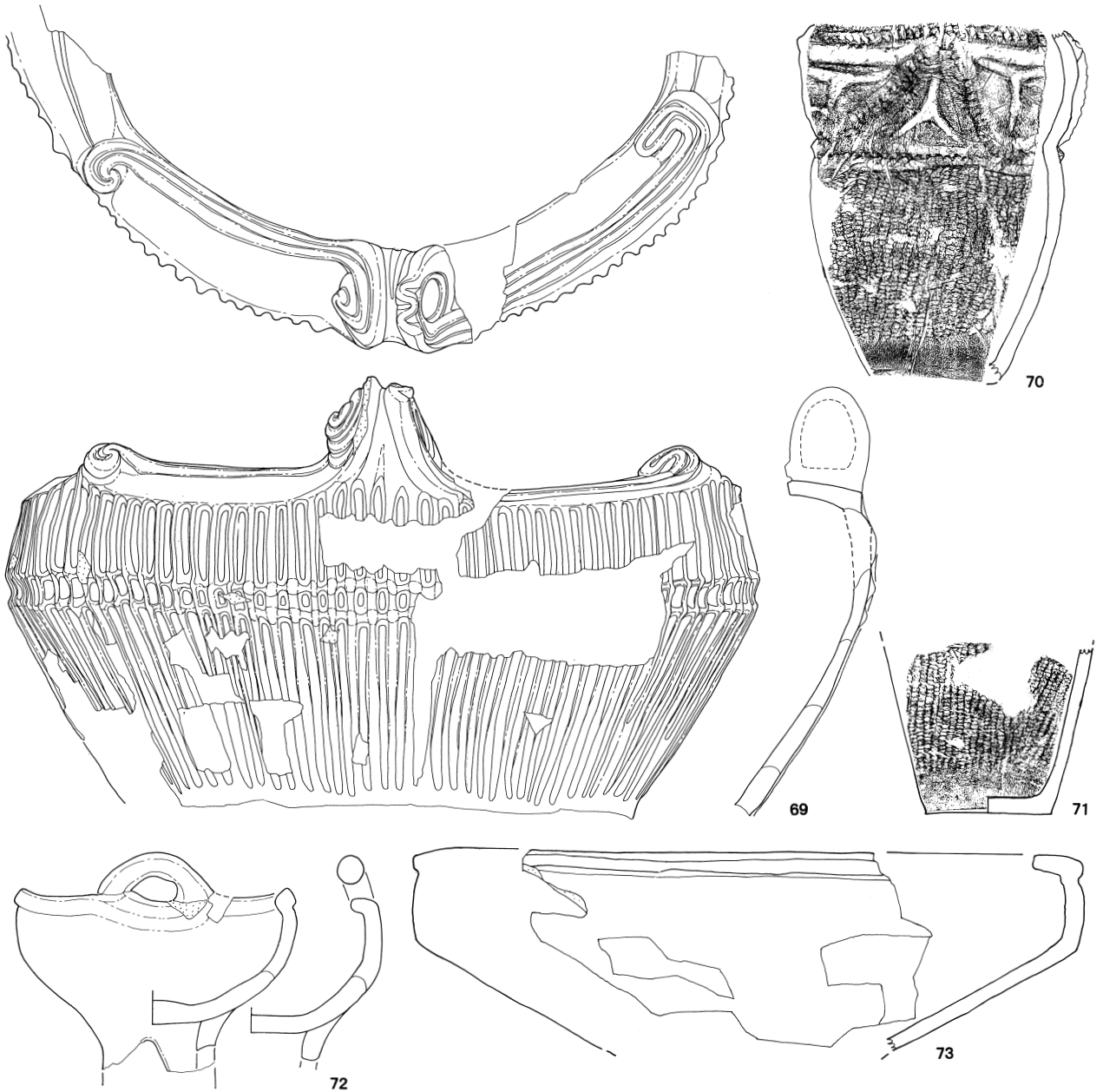
15号住居跡



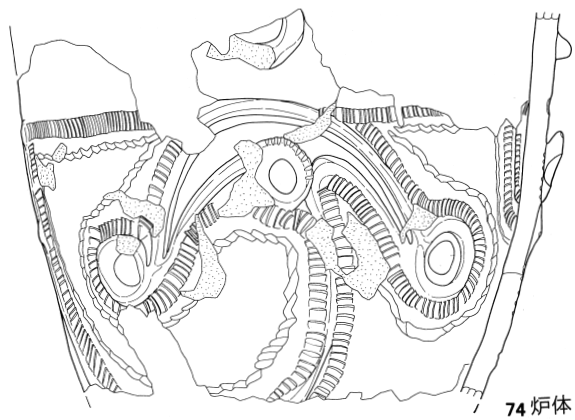
第98図 西遺跡13・15号住居跡出土土器 (1/4)



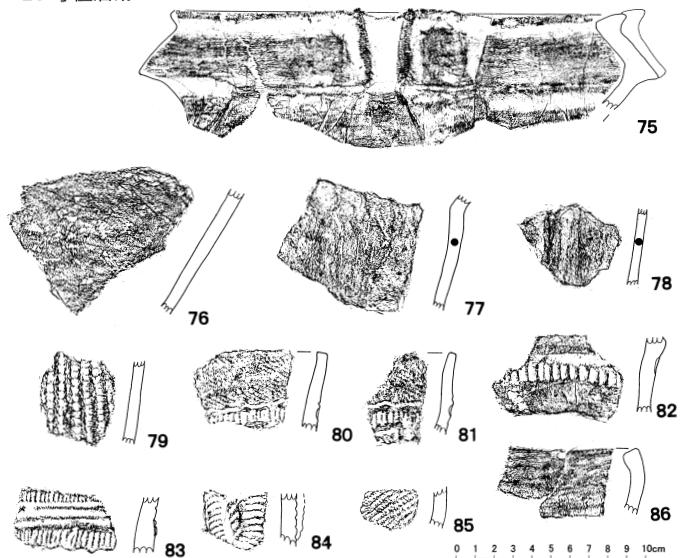
第99図 西遺跡16号住居跡出土土器① (1/4)



19号住居跡

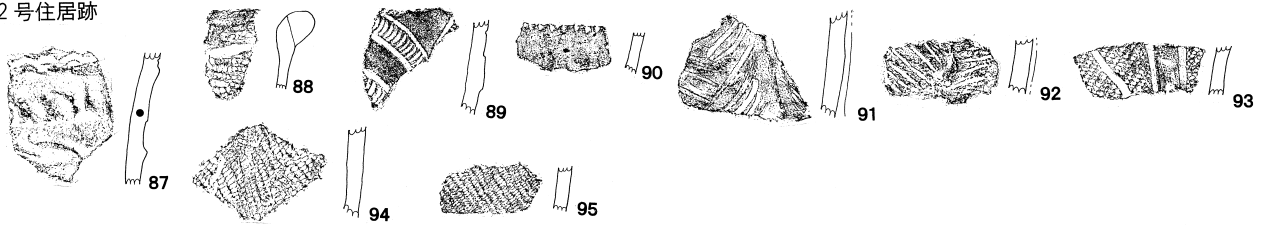


20号住居跡

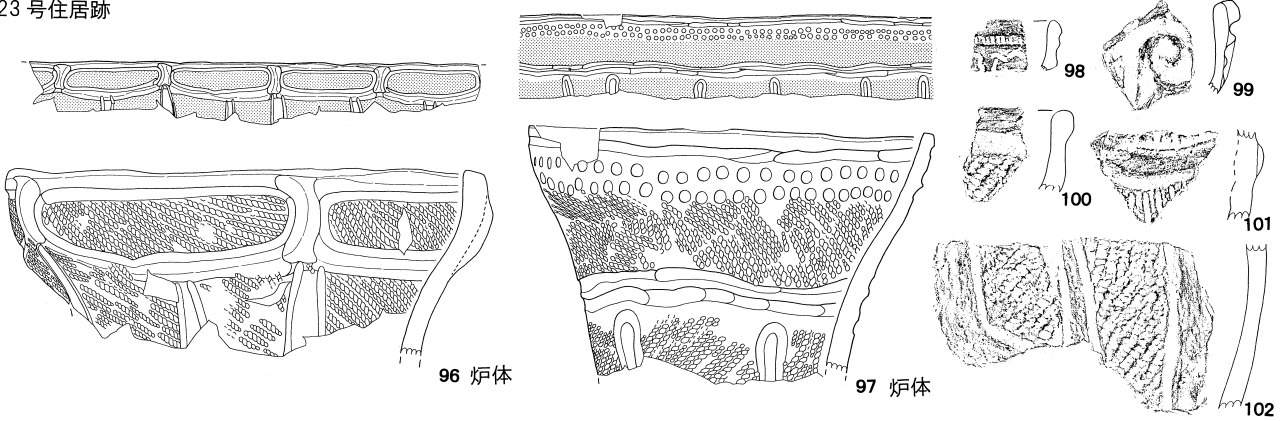


第100図 西遺跡16号住居跡②・19・20号住居跡出土土器 (1/4)

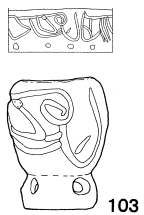
22号住居跡



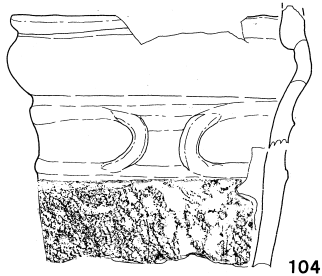
23号住居跡



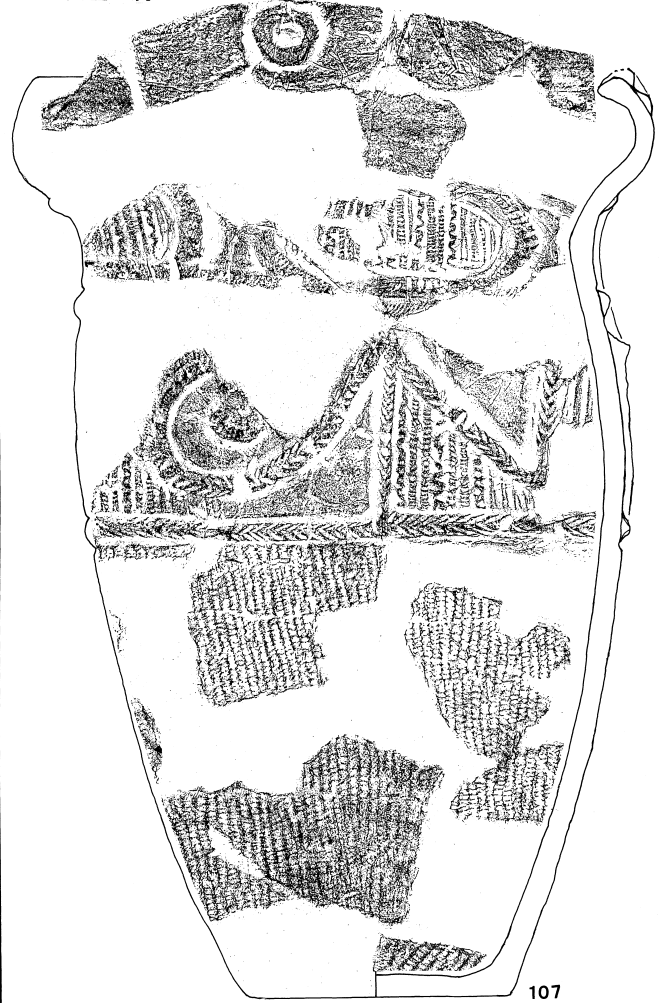
第1次調査土坑 3



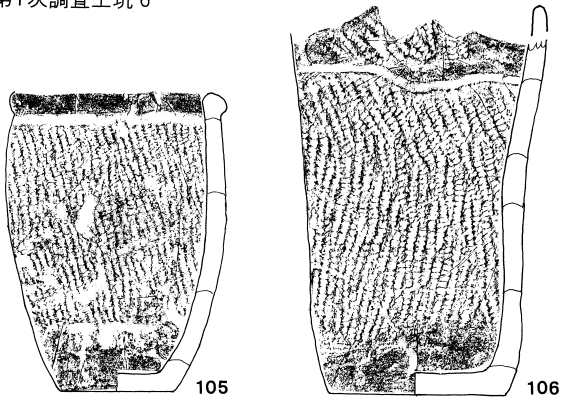
第1次調査土坑 19



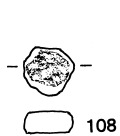
第1次調査土坑 66



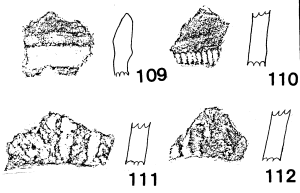
第1次調査土坑 6



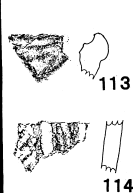
第1次調査 遺構外



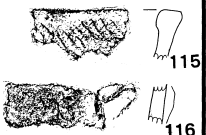
土坑 6



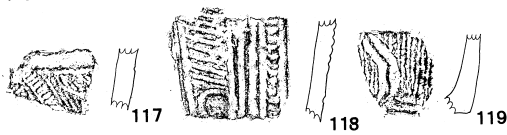
土坑 10



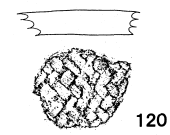
P1



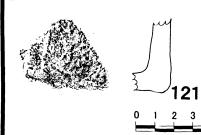
P8



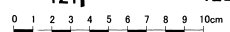
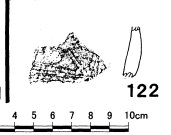
P13



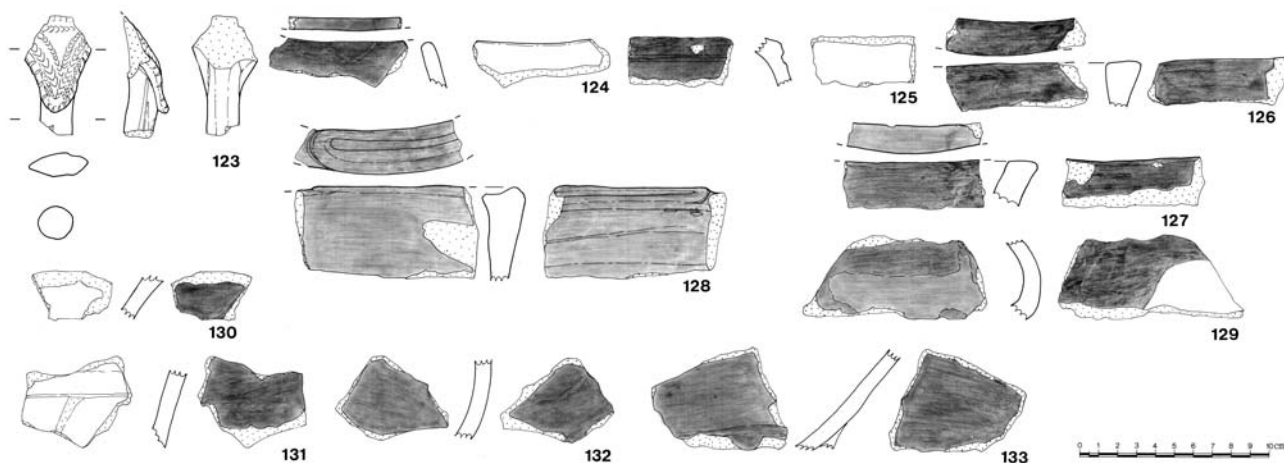
P14



P24



第101図 西遺跡22・23号住居跡、第1次調査土坑3・6・19・66・遺構外、第1地点土坑6・10、ピット1・8・13・14・24出土土器 (1/4)



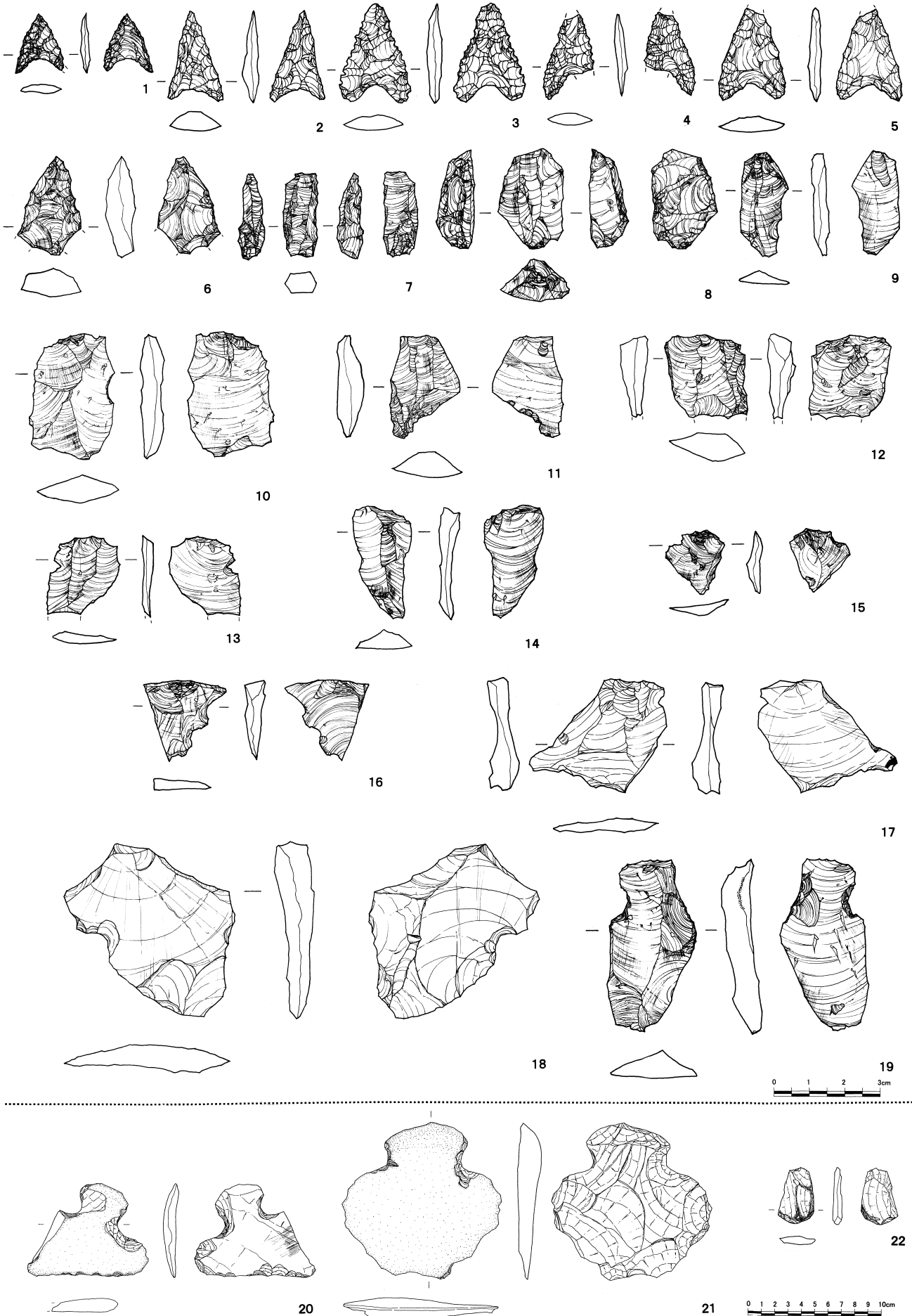
第102図 西遺跡出土塗彩土器、口縁部突起 (1/4)

第57表 西遺跡出土石器観察表

(単位cm・g)

| No. | 遺構名 | 注記番号 | 種別 | 石質 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 残存 |
|-----|--------|----------|----------|---------|------|------|------|--------|-------|
| 1 | 集石10 | 集石10 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.7 | 1.4 | 0.3 | 0.38 | 完形 |
| 2 | 4号住居跡 | 4住No.90 | 石鏃 | チャート | 2.5 | 1.6 | 0.5 | 1.28 | 完形 |
| 3 | 4号住居跡 | 4住2層 | 石鏃 | チャート | 2.8 | 2 | 0.45 | 1.93 | 完形 |
| 4 | 4号住居跡 | 4住2層 | 石鏃 | チャート | 2.3 | 1.3 | 0.3 | 0.96 | 一部欠損 |
| 5 | 土坑一括 | 土坑 No.12 | 石鏃 | チャート | 2.6 | 1.8 | 0.4 | 1.85 | 一部欠損 |
| 6 | 18号住居跡 | 18住覆土 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.9 | 1.7 | 0.8 | 3.52 | 完形 |
| 7 | 4号住居跡 | 4住2層 | 楔形石器? | 黒曜石 | 2.4 | 0.8 | 0.6 | 1.68 | 完形 |
| 8 | 5号住居跡 | 5住No.1 | 楔形石器? | 黒曜石 | 2.8 | 1.9 | 1.2 | 4.88 | 完形 |
| 9 | 4号住居跡 | 4住2層 | 剥片石器? | 黒曜石 | 2.9 | 1.4 | 0.4 | 1.41 | 完形 |
| 10 | 16号住居跡 | 16住No.70 | 剥片 | 黒曜石 | 3.5 | 2.3 | 0.8 | 3 | 剥片 |
| 11 | グリッド一括 | J-24 | スクレイパー | 黒曜石 | 2.8 | 2 | 0.7 | 4.6 | 完形 |
| 12 | 1号住居跡 | 1住 | 剥片 | 黒曜石 | 3.45 | 2.4 | 2.2 | 3.45 | 剥片 |
| 13 | 4号住居跡 | 4住南表土 | 剥片 | 黒曜石 | 2.3 | 1.9 | 0.35 | 1.23 | 剥片 |
| 14 | 4号住居跡 | 4住2層 | 剥片 | 黒曜石 | 3.3 | 1.7 | 0.6 | 2.07 | 剥片 |
| 15 | 16号住居跡 | 16住No.8 | 剥片 | 黒曜石 | 1.8 | 1.7 | 0.4 | 0.76 | 剥片 |
| 16 | 1号住居跡 | 1住2層 | ノッチ有 | 黒曜石 | 1.83 | 2.2 | 2.3 | 1.83 | 一部残存? |
| 17 | 4号住居跡 | 4住2層 | 剥片(スクレ?) | チャート | 3.2 | 3.2 | 0.8 | 5.57 | 完形 |
| 18 | 14号住居跡 | 14住2層 | 剥片 | チャート | 3.9 | 5.2 | 1 | 15.53 | 完形? |
| 19 | 4号住居跡 | 4住2層 | 石匙 | 黒曜石 | 4.9 | 2.4 | 0.8 | 8.4 | 完形 |
| 20 | 4号住居跡 | 4住1層 | 石匙 | 細粒砂岩 | 7.1 | 8.7 | 1 | 62.93 | 一部欠損 |
| 21 | 16号住居跡 | 16住No.14 | 石匙 | ホルンフェルス | 11.6 | 11.7 | 1.7 | 198.3 | 完形 |
| 22 | 4号住居跡 | 4住2層 | 打製石斧? | 緑色岩 | 4.3 | 2.7 | 0.7 | 9.63 | 完形 |
| 23 | 6号住居跡 | 6住1層 | 打製石斧 | 頁岩 | 6.4 | 4 | 1 | 31.46 | 完形 |
| 24 | 14号住居跡 | 14住覆土 | 打製石斧 | 黒色細粒砂岩 | 6.6 | 4 | 2.3 | 69.95 | 完形 |
| 25 | 14号住居跡 | 14住No.25 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 7.7 | 3.9 | 1.7 | 57.84 | 完形 |
| 26 | 6号住居跡 | 6住1層 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 8.1 | 4.6 | 2.2 | 69.28 | 完形 |
| 27 | 土坑10 | 土坑10周辺 | 打製石斧 | 砂岩 | 8.2 | 4.5 | 3 | 140.34 | 完形 |
| 28 | 6号住居跡 | 6住1層 | 打製石斧 | 砂岩 | 8.1 | 4.6 | 2.2 | 113.69 | 完形 |
| 29 | 6号住居跡 | 6住覆土 | 打製石斧 | 砂岩 | 8.7 | 3.6 | 1.1 | 48.33 | 完形 |
| 30 | 4号住居跡 | 4住北No.15 | 打製石斧 | 頁岩 | 10.4 | 3.8 | 1.3 | 59.23 | 完形 |
| 31 | 2号住居跡 | 2住2層 | 打製石斧 | 砂岩 | 10.9 | 4.7 | 1.7 | 112.01 | 完形 |
| 32 | 6号住居跡 | 6住2層 | 打製石斧 | 砂岩 | 10 | 4.6 | 1.7 | 99.98 | 完形 |
| 33 | 3号住居跡 | 3住No.6 | 打製石斧 | 砂岩 | 10.9 | 4.9 | 2 | 121.73 | 完形 |
| 34 | 9号住居跡 | 9住覆土 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 11.1 | 4.3 | 2.4 | 183 | 完形 |
| 35 | グリッド一括 | H-22 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 10.7 | 4.2 | 1.9 | 129.07 | 完形 |
| 36 | 10号住居跡 | 10住No.15 | 打製石斧 | 頁岩 | 11 | 4.9 | 2.4 | 166.52 | 完形 |
| 37 | 14号住居跡 | 14住覆土 | 打製石斧 | 頁岩 | 7.5 | 3.8 | 2.4 | 84.04 | 完形 |
| 38 | 4号住居跡 | 4住2層 | 打製石斧 | 砂岩 | 9.6 | 5 | 2 | 142.28 | 完形 |
| 39 | 2号住居跡 | 2住確認面 | 打製石斧 | 砂岩 | 10.3 | 5.3 | 1.8 | 123.99 | 完形 |
| 40 | 4号住居跡 | 4住2層 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 8.8 | 5.8 | 1.5 | 92.54 | 完形 |
| 41 | 4号住居跡 | 4住東確認面 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 9.1 | 5.8 | 1.2 | 81.92 | 完形 |
| 42 | 8号住居跡 | 8住覆土 | 打製石斧 | 頁岩 | 9.1 | 4.8 | 1.1 | 56.71 | 完形 |
| 43 | 9号住居跡 | 9住集石 | 打製石斧 | 砂岩 | 9.3 | 4.9 | 1.1 | 90.1 | 完形 |
| 44 | 4号住居跡 | 4住2層 | 打製石斧 | 砂岩 | 10.8 | 4.5 | 1.5 | 107.89 | 完形 |
| 45 | 8号住居跡 | 8住柱穴 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 11.8 | 5.3 | 2.3 | 183.23 | 完形 |
| 46 | 12号住居跡 | 12住No.8 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 11.8 | 5.9 | 1.9 | 151.68 | 完形 |
| 47 | 22号住居跡 | 22住No.1 | 打製石斧 | 砂岩 | 12.3 | 6.9 | 2.4 | 213.37 | 完形 |
| 48 | 4号住居跡 | 4住1層 | 打製石斧 | 頁岩 | 7.1 | 3.7 | 1.1 | 24.07 | 完形 |
| 49 | 14号住居跡 | 14住No.37 | 打製石斧 | 砂岩 | 9.9 | 5.3 | 2.5 | 147.14 | 完形 |
| 50 | 9号住居跡 | 9住No.8 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 12.2 | 5.7 | 2.5 | 140.01 | 完形 |
| 51 | 16号住居跡 | 16住No.24 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 10.6 | 6.8 | 2.6 | 203.83 | 完形 |

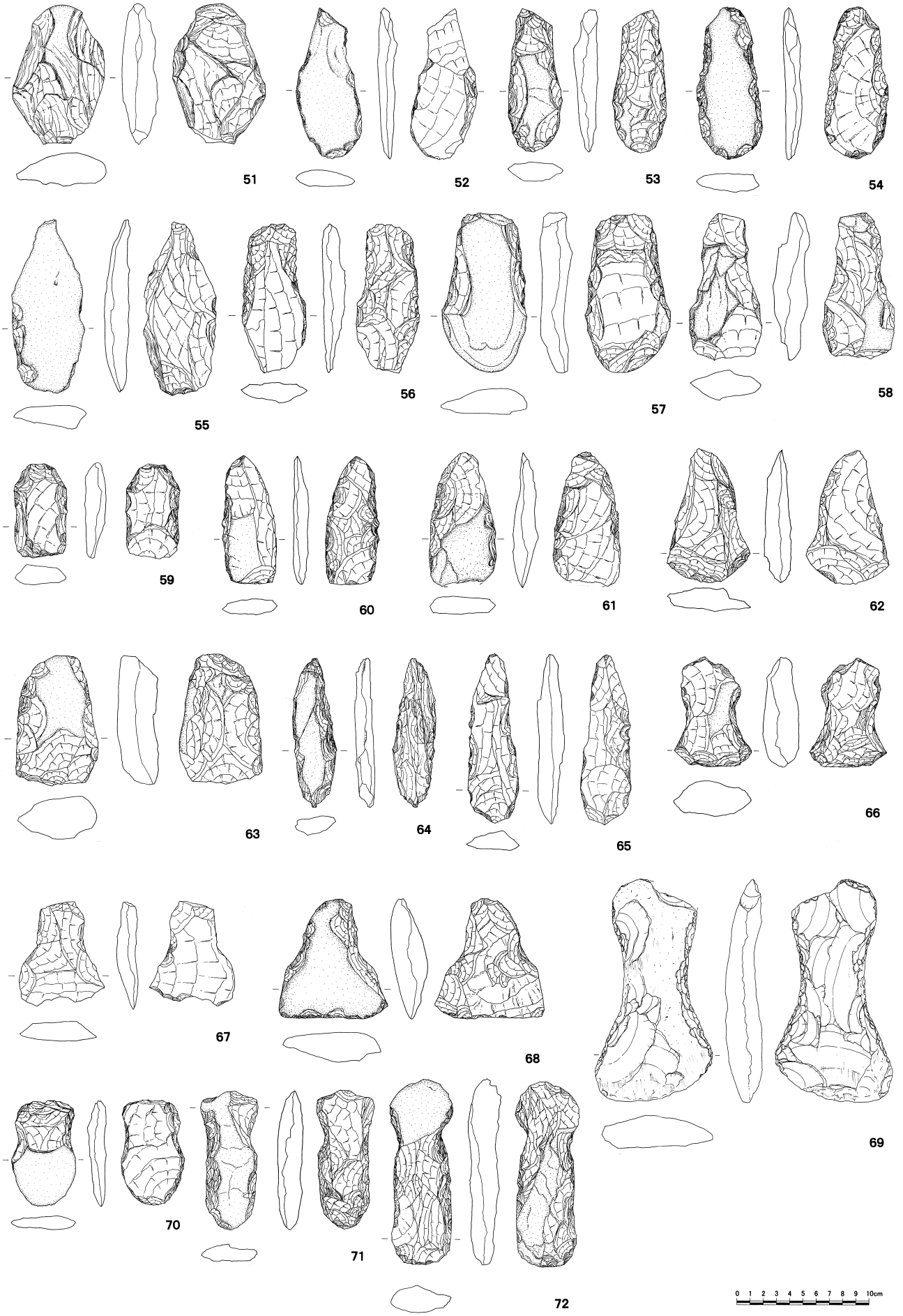
| No. | 遺構名 | 注記番号 | 種別 | 石質 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 残存 |
|-----|---------|--------------------|--------------|----------|------|------|-----|---------|-------|
| 52 | グリッド一括 | H-8 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 11.4 | 4.6 | 1.4 | 76.5 | 完形 |
| 53 | 18号住居跡 | 18住覆土 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 10.7 | 4 | 1.7 | 100.58 | 完形 |
| 54 | 6号住居跡 | 6住集石 | 打製石斧 | 砂岩 | 11.5 | 4.7 | 1.4 | 100.04 | 完形 |
| 55 | 土坑1 | 土坑1S1 | 打製石斧 | 泥岩 | 13 | 5.4 | 1.7 | 137.09 | 完形 |
| 56 | 6号住居跡 | 6住No.3 | 打製石斧 | 頁岩 | 11.2 | 4.8 | 1.7 | 107.71 | 完形 |
| 57 | 9号住居跡 | 9住No.7 | 打製石斧 | 砂岩 | 12.1 | 6.4 | 1.8 | 205.08 | 完形 |
| 58 | 12号住居跡 | 12住覆土 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 11.2 | 5.4 | 2.5 | 132.77 | 完形 |
| 59 | 12号住居跡 | 12住1層 | 打製石斧 | 砂岩 | 7.3 | 3.9 | 1.5 | 63.23 | 完形 |
| 60 | 3号住居跡 | 3住土坑10 周辺-3 | 打製石斧 | 輝緑凝灰岩 | 9.7 | 4.1 | 1.2 | 72.88 | 完形 |
| 61 | 10号住居跡 | 10住No.9 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 10.1 | 5 | 1.9 | 96.91 | 完形 |
| 62 | 6号住居跡 | 6住2層 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 10 | 6.3 | 2 | 140.17 | 完形 |
| 63 | 6号住居跡 | 6住1層 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 9.7 | 6.2 | 3 | 268.52 | 完形 |
| 64 | 2号住居跡 | 2住2層 | 打製石斧(細) | 頁岩 | 11.2 | 3.2 | 1.3 | 63.26 | 完形 |
| 65 | 3号住居跡 | 3住No.7 | 打製石斧 | ホルンフェルス? | 12.8 | 3.9 | 1.9 | 100.91 | 完形 |
| 66 | 5号住居跡 | 5住覆土 | 打製石斧 | 砂岩 | 8.3 | 5.9 | 2.5 | 126.92 | 完形 |
| 67 | 4号住居跡 | 4住北 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 8.1 | 6.4 | 1.5 | 68.65 | 完形 |
| 68 | 6号住居跡 | 6住2層 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 9.2 | 7.5 | 2.5 | 188.4 | 完形 |
| 69 | 12号住居跡 | 12住No.7 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 16.9 | 8.4 | 2.7 | 394.44 | 一部欠損 |
| 70 | 5号住居跡 | 5住No.12 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 7.9 | 4.8 | 1.2 | 58.18 | 完形 |
| 71 | 2号住居跡 | 2住確認面 | 打製石斧(細) | 凝灰岩 | 10.5 | 4.3 | 1.9 | 104.5 | 完形 |
| 72 | 5号住居跡 | 5住外No.3 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 14.1 | 4.4 | 1.8 | 176.23 | 完形 |
| 73 | 3号住居跡 | 3住No.20 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 17.1 | 6 | 2.8 | 355.45 | 一部欠損 |
| 74 | 6号住居跡 | 6住1層 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 6.2 | 4.1 | 1.5 | 36.95 | 完形 |
| 75 | 1号住居跡 | 1住S2 | 打製石斧 | 黒色片岩 | 9.8 | 4 | 2.2 | 93.54 | 完形 |
| 76 | 1号住居跡 | 1住確認面 | 打製石斧 | 凝灰岩 | 10.4 | 4.3 | 1.5 | 66.14 | 一部欠損 |
| 77 | 土坑一括 | 土坑 No.10 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 8.6 | 3.7 | 1.4 | 48.66 | 完形 |
| 78 | 4号住居跡 | 4住2層 | 打製石斧 | 砂岩 | 9.4 | 4.8 | 1.4 | 95.11 | 完形 |
| 79 | 4・5号住居跡 | 4・5住 | 打製石斧 | 砂岩 | 9.1 | 4.6 | 1.8 | 78.45 | 完形 |
| 80 | 8号住居跡 | 8住壁 | 打製石斧 | 砂岩 | 10 | 5.5 | 3.5 | 196.23 | 一部欠損 |
| 81 | グリッド一括 | J-24 | 打製石斧 | 凝灰岩 | 9.6 | 4.8 | 1.5 | 79.44 | 一部欠損 |
| 82 | 土坑9 | 土坑9No.3 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 9.7 | 5.4 | 2.2 | 136.45 | 一部欠損 |
| 83 | グリッド一括 | N-16No.1 | 打製石斧 | 凝灰岩 | 10.7 | 5.7 | 1.4 | 120.34 | 完形 |
| 84 | グリッド一括 | H-26 | 打製石斧 | 砂岩 | 7.7 | 5.5 | 1.7 | 101.68 | 一部欠損 |
| 85 | 8号住居跡 | 8住No.31 | 打製石斧 | 砂岩 | 9 | 5.5 | 1.6 | 81.43 | 完形 |
| 86 | 12号住居跡 | 12住1層 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 9 | 5 | 1.7 | 124.38 | 一部欠損 |
| 87 | 4号住居跡 | 4住南表土 | 打製石斧 | 砂岩 | 11.2 | 5.7 | 2.5 | 176.21 | 一部欠損 |
| 88 | 1号住居跡 | 1住確認面 | 打製石斧 | 砂岩 | 10.8 | 5 | 2.3 | 134.59 | 一部欠損 |
| 89 | 3号住居跡 | 3住覆土 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 9.8 | 4.8 | 1.3 | 91.55 | 一部欠損 |
| 90 | 14号住居跡 | 14住2層 | 打製石斧 | 輝緑凝灰岩 | 11.1 | 5.3 | 1.1 | 115.88 | 一部欠損 |
| 91 | 16号住居跡 | 16住覆土 | 打製石斧 | ホルンフェルス | 8.5 | 4.7 | 2 | 107.44 | 一部欠損 |
| 92 | 10号住居跡 | 10住覆土 | 打製石斧 | 細粒砂岩 | 11.1 | 4.6 | 1.9 | 107.35 | 一部欠損 |
| 93 | 4号住居跡 | 4住北 | 打製石斧 | 片岩 | 9.2 | 3 | 1.3 | 50.3 | 一部欠損 |
| 94 | 12号住居跡 | 12住覆土 | 石匙? | ホルンフェルス | 4.3 | 5.8 | 1.2 | 35.32 | 一部欠損 |
| 95 | 1号住居跡 | 1住北側 | 打製石斧 | 頁岩 | 11.7 | 5.8 | 1.5 | 66.14 | 完形 |
| 96 | 4号住居跡 | 4住北No.49 | 磨製石斧 | 緑色凝灰岩 | 11.1 | 5.3 | 3.3 | 301.42 | 一部残存 |
| 97 | 6号住居跡 | 6住No.35 | 磨製石斧 | 緑色凝灰岩 | 12.3 | 4.3 | 3.7 | 361.59 | 一部欠損 |
| 98 | 2号住居跡 | 2住2層 | 軽石 | 軽石 | 6.5 | 1.7 | 3.4 | 34.05 | 完形 |
| 99 | 10号住居跡 | 10住覆土 | 軽石 | 軽石 | 5.5 | 5.2 | 4.6 | 37.1 | 一部残存 |
| 100 | 17号住居跡 | 17住No.3 | 石錘 | 砂岩 | 9.7 | 6.5 | 2.9 | 231.78 | 完形 |
| 101 | 表土一括 | 表土 | 磨石 | 砂岩 | 8.2 | 6.4 | 5 | 358.37 | 完形 |
| 102 | 集石一括 | 集石 No.8 | 磨石 | 砂岩 | 9 | 5.1 | 2.9 | 176.43 | 完形 |
| 103 | 4号住居跡 | 4住北 | 敲石?磨製? | 砂岩 | 10.9 | 3.8 | 2.4 | 182.13 | 完形 |
| 104 | 5号住居跡 | 5住西壁上 | 敲石 | 砂岩 | 12.8 | 4.4 | 2.5 | 78.28 | 完形 |
| 105 | 9号住居跡 | 9住No.53 | 敲石・磨石 | 緑色岩 | 10.5 | 3.3 | 3 | 182.43 | 完形 |
| 106 | 6号住居跡 | 6住1層 | 敲石・磨石 | 緑色岩 | 12.6 | 3.3 | 2.8 | 193.59 | 完形 |
| 107 | 表土一括 | 西側拡張遺構 確認面 | 敲石・磨石 | 砂岩 | 13.7 | 4 | 2.9 | 246.61 | 一部欠損 |
| 108 | 4号住居跡 | 4住1層 | 磨石 | 砂岩 | 9.9 | 4.7 | 3.4 | 236.31 | 一部欠損 |
| 109 | 3号住居跡 | 3住No.31 | 敲石 | 輝緑岩 | 18.1 | 8.1 | 3.9 | 897.25 | 完形 |
| 110 | 8号住居跡 | 8住No.30 | 敲石・磨石 | 輝緑岩 | 18.4 | 8.8 | 2.4 | 638.59 | 完形 |
| 111 | 10号住居跡 | 10住覆土 | 磨製石斧? | 輝緑凝灰岩 | 16.5 | 4.4 | 2.2 | 279.23 | 完形 |
| 112 | 土坑19 | 土坑19覆土 | 打製石斧 | 緑色岩 | 16.5 | 4.7 | 2.1 | 321.77 | 完形 |
| 113 | 10号住居跡 | 10住No.13 | 打製石斧 | 砂岩 | 12 | 6.4 | 2.3 | 297.02 | 完形 |
| 114 | 3号住居跡 | 3住南 | 敲石・磨石・ 凹石 | 安山岩 | 7.4 | 4.3 | 3.6 | 189.31 | 一部残存 |
| 115 | 4号住居跡 | 4住1層 | 凹石 | 緑泥片岩 | 7 | 5.9 | 1.8 | 97.08 | 一部欠損 |
| 116 | 住居跡 | 西住覆土 | 凹石 | 緑泥片岩 | 8.9 | 9.1 | 1.9 | 150.08 | 完形 |
| 117 | 4号住居跡 | 4住1層 | 凹石 | 砂岩 | 13.3 | 7.3 | 3.9 | 510.66 | 一部欠損 |
| 118 | 10号住居跡 | 10住No.10 | 凹石・磨石 | 安山岩 | 12 | 8.2 | 5.2 | 875.33 | 一部残存? |
| 119 | 16号住居跡 | 16住No.21 | 敲石・磨石・ 凹石 | 砂岩 | 12 | 9.9 | 5.2 | 744.97 | 一部欠損 |
| 120 | 4号住居跡 | 4住No.4(炉跡 から出土) | 石皿 | 輝緑凝灰岩 | 16.7 | 14.6 | 4.2 | 1746.22 | 完形 |
| 121 | 土坑36 | 土坑36No.1 | 石皿 | | 23.9 | 19.3 | 3 | 1960.26 | 完形 |
| 122 | 土坑54 | 土坑54 | 石皿・台石? | 安山岩 | 8.5 | 15.7 | 8.6 | 1347.72 | 一部残存 |



第103図 西遺跡出土石器① (1/4・2/3)



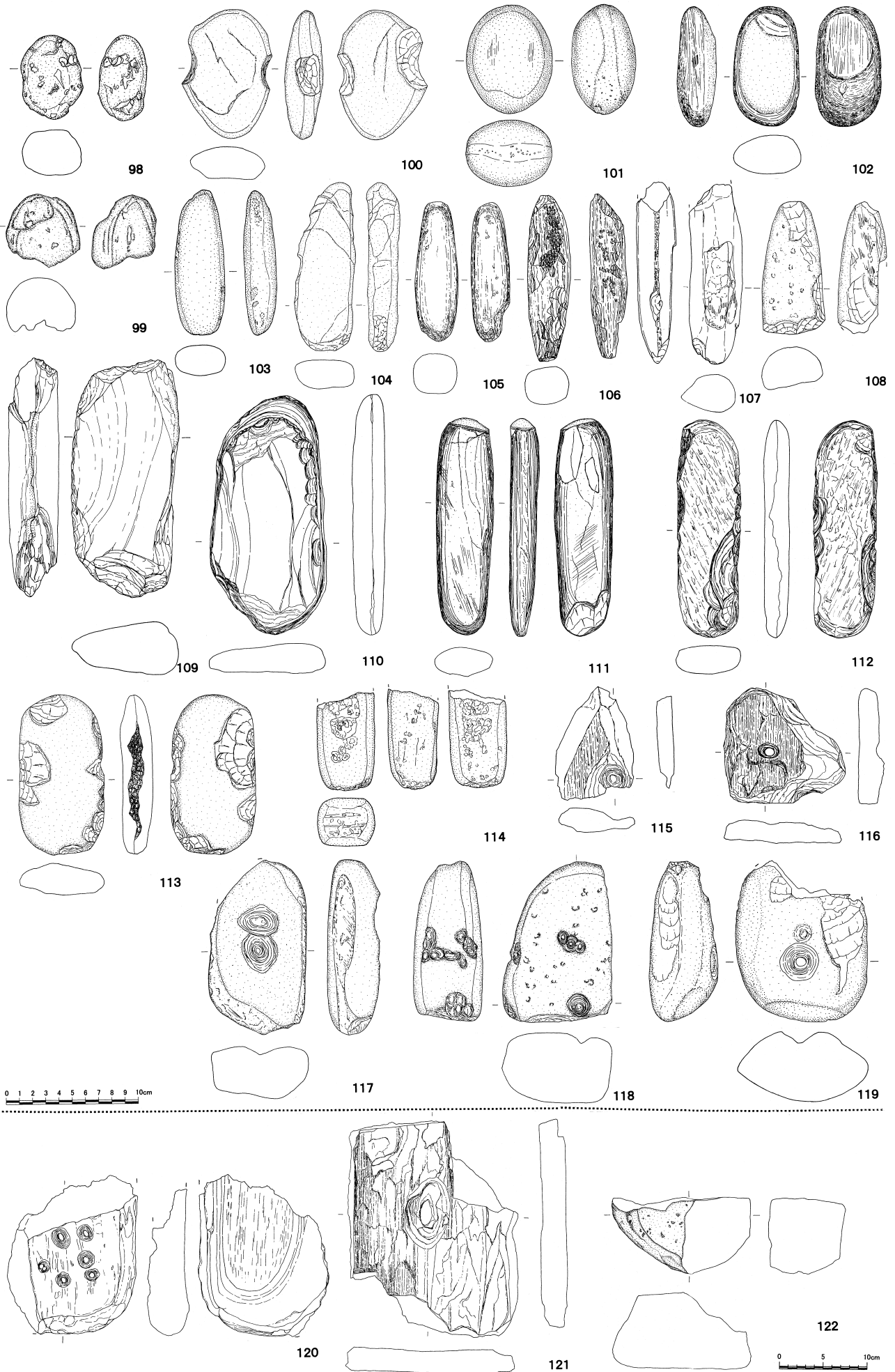
第104図 西遺跡出土石器② (1/4)



第105図 西遺跡出土石器③ (1/4)



第106図 西遺跡出土石器④ (1/4)



第107図 西遺跡出土石器⑤ (1/4・1/6)

第2章 上福岡貝塚第1地点の本調査

I 遺跡の概要

(1) 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、ふじみ野市域（旧上福岡市）の北部、武蔵野台地北東部端の標高16.0～18.0mに位置する。

遺跡眼下の武蔵野台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。現在、上福岡貝塚をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約9～10m、新河岸川の水面からでは約12mの急崖を成す。

本遺跡を地形の区分でみると武蔵野2面に相当する。隣接する権現山古墳群において、新河岸川に面した崖の地質観察では、約50cmの表土層下に385cmの関東ローム層が認められ、ローム層中には厚さ約45cmの黒色帯や、ローム下層でオレンジ色の軽石粒(T.Pに対比と考えられる)が確認され、市内の武蔵野2面の層序とはほぼ同様の様相を呈することから、上福岡貝塚でも相位ないものとみられる。台地南側の滝遺跡や長宮遺跡の位置する一段低い段丘面では、武蔵野3面から立川面が広がる。

かつて、上福岡貝塚や権現山遺跡群の南側には新河岸川に流れ込む小河川（清水）が東流していた。現在でも地区の地名に残る「滝」は、この小河川が台地上から流れ落ちていたためとされる。縄文時代の上福岡貝塚周辺には、この滝地区を流れていた清水と新河岸

川の流れがあったものと考えられる。これまでの調査ではローム層中から旧石器時代の遺構や遺物は見つかっていないが、近隣市町などでは湧水や埋没谷周辺部から同時期の遺跡が相次いで発見されており、本遺跡でも今後発見される可能性がある。

また、遺跡の北側には南北約220m、東西約150m、深さ約1mの楕円形の巨大な窪地が昭和12年の調査時から確認されているが、自然地形なのか人為的なものか不明である。現在は造成され工場等が建ち古い地形をみることは出来ない。

周辺の遺跡は、北側約400mに縄文時代前期集落の川崎遺跡と同50mに中期から後期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡（古墳群）が隣接する。ハケ遺跡では前期諸磯c期の住居跡1軒が確認されるのみで、権現山遺跡からは前期の住居跡は確認されていない。川崎遺跡では縄文時代前期の住居跡が21軒（2001年現在）確認され、関山期から黒浜期の住居跡は11～12軒を数え、内3軒の住居跡（1975、1979、1990年調査）では貝層を伴っている。同時期の遺跡として、土器や動物遺体を含めた出土遺物の比較と、時期ごとに集落の立地と配置が異なる上福岡貝塚との集落構造や変遷等の関連が注目される。

第58表 上福岡貝塚調査一覧表

| 地点 | 所在地 | 調査期間 ()は試掘調査 | 面積(m ²) | 調査原因 | 確認された遺構と遺物 | 所収報告書 |
|------------|-----------------|------------------------------------|---------------------|-------|-----------------------------|-------------------|
| A～X、a～ε | 福岡3-1187、1500、他 | 1937.5.23～7.19 | — | 火工廠建設 | 関山式住居3、黒浜式住居5 | 福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告* |
| ①1983-6試掘 | 福岡3 | (1983.6) | — | 工場増築 | なし | なし |
| ②1983-12立会 | 福岡2 | (1983.12) | — | 工場建設 | なし | なし |
| ③1985-試掘 | 福岡2 | (1985.2) | 426 | 市道築造 | 5c古墳3基、遺物なし、調査区は一部権現山遺跡群を含む | 埋蔵文化財の調査(Ⅷ) |
| ④88-試掘 | 福岡3-1187-4 | (1988.6.7～14) | 3200 | 工場増築 | 古墳跡1、奈良平安住居4 | 埋蔵文化財の調査(11) |
| ⑤91-試掘 | 福岡2-1-4 | (1991.5.7～8) | 568 | 事務所建設 | なし | 埋蔵文化財の調査(14) |
| ⑥92-試掘 | 福岡2-1500-8 | (1992.5.2) | 737 | 工場棟増設 | なし | 埋蔵文化財の調査(15) |
| ⑦93-試掘 | 福岡2-1500-8の一部 | (1993.7.20～27) | 799.3 | 事務所建設 | なし | 埋蔵文化財の調査(16) |
| 第1地点 | 福岡2-1500-23・63 | 2007.5.21～6.12 (2007.4.26～5.17) | 124 | 変電所増築 | 縄文前期黒浜式住居2、集石土坑1、堀跡1、水溜、消火栓 | 市内遺跡群4 |

*所収報告書等

- ・山内清男 1937「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」、関野克「住居址略報告」ガリ版刷り（昭和40年埼玉県福岡町郷土史料に収録）
1967『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会（但し、関野克「住居址略報告」の分は除く）
- ・山内清男 1942「片口付縄紋土器に就て」『古美術』第12巻第6号（137号）
1967『山内清男・先史考古学論文集』第2冊 先史考古学会
- ・関野 克 1938「埼玉県福岡村縄紋前期住居址と堅穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号
- ・黒坂禎二、細田 勝、土肥 孝、宮崎朝雄 他 1992『上福岡貝塚資料-山内清男考古資料3-』奈良国立文化財研究所史料第33冊
奈良国立文化財研究所^(註1)
- ・川名広文・笹森健一 他 1995『考古文献資料(1)上福岡貝塚』市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会

(2) 上福岡貝塚のこれまでの発掘調査

昭和12年、山内清男博士により実施された上福岡貝塚の調査は、学史上あまりにも著名である。この調査の資料について記した資料はつぎのとおりである。

- (a) 1937 山内清男「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」ガリ版刷り
- (b) 1938 関野 克「埼玉県福岡村縄文前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号
- (c) 1939 山内清男『日本先史土器図譜』第一部・関東地方・第2輯 先史考古学会
- (d) 1942 山内清男「片口付縄文土器に就て」『古美術』第12巻第6号
- (e) 1965 山内清男「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」郷土史料第2集 埼玉県福岡町教育委員会（1937年のガリ版刷りを再刊したもの）、1946年再刊、1967年山内清男・先史考古学論文集に再録
 なお、郷土史料第2集には、上記1938年の関野 克の論文、および関野克「住居址略報告」（ガリ版刷り）を収録
- (f) 1922 土肥孝、宮崎朝雄、金子直行、細田勝、黒坂禎二、西井幸雄、山口真由美『上福岡貝塚資料－山内清男考古資料3－』(註1) 奈良国立文化財研究所史料第33冊
- (g) 1994『考古文献資料(1)』市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会
 上記(d)の郷土史料第2集と(c)を復刻し、上記(d)と下記(h)(i)を加えたもの。
- (h) 1994 川名広文「上福岡貝塚の調査とその前後」
- (i) 1994 笹森健一「教育委員会に保存されていた資料について」
- (j) 1999 川名広文『上福岡市史』資料編第1巻 自然史・考古 上福岡市
- (k) 1995 関野 克・川名広文・笹森健一「上福岡貝塚調査の頃」『上福岡市史研究 きんもくせい』創刊号 上福岡市教育委員会

上福岡貝塚の調査やその周辺の調査については、川名広文氏執筆による『上福岡市史』資料編第1巻 自然史・考古「第1章市内遺跡の概観 2 調査の歩み」及び「第2章上福岡貝塚と権現山遺跡群 2 調査の概略」に詳しい。ここでは、それをもとにして、若干の試掘調査関係について加えておきたい。

1917（大正6）年、阿部立郎が、『人類学雑誌』第32巻第2号にて、権現山という円形古墳の存在並びにその西および北に接する畑地に貝殻が散布し、土器片や石鎌が出土するとの記事が、上福岡貝塚の初見である。（この権現山は、1982年以降の調査によって、古墳時代早期の前方後方形の初期古墳と判明した）

その報告は同年刊行の東京帝国大学人類学教室編『日本石器時代人民遺物発見地名表』に記された。しかし、1933（昭和8）年刊行の大山柏が主宰した「東京湾に注ぐ主要溪谷の貝塚に於ける縄紋式石器時代の編年学的研究」（『史前学雑誌第3巻第6号』）では、見落とされた。

上福岡貝塚が調査に至ったのは、昭和12年、陸軍造兵廠東京工廠福岡工場の建設において、整地作業中に貝塚が発見され、杉本所長から山内清男が調査を依頼され、同年4月から7月にかけて急遽調査されたからである。発掘調査は山内清男が担当し、竪穴住居跡の測量は関野克が担った。その成果は、昭和12年に、山内清男「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告 付・関野 克 住居址略報告」（ガリ版刷り）として配布・報告された。

また、1938（昭和13）年に、関野 克により、竪穴住居址に関して、「埼玉県福岡村縄文前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号で報告された。

山内清男・関野克の報文から調査の内容は次のとおりである。山内清男の昭和12年に発見された竪穴住居址は、縄文時代貝塚としてA～Xまでの24箇所、古墳時代住居址としてa～εまでの5箇所である。関野克の(b)によれば、15箇所とされる。上福岡貝塚の貝塚位置を当初の発見順に図面に記入したのがものが15箇所であって、周辺を踏査して確定したのが山内清男の報文の数字である。このうち調査されたのが、C、D、F、G、I、J、K、Mの8地点の住居で、関野克の(b)に報告されたのは、報告順にM、J、I、C、Dの5箇所である。

住居の所属時期は、A群のK、M、F地点が関山式に属し、B群のJ、I、C、G、D地点が黒浜式である。山内清男は、G、D地点は、黒浜式に近い別型式らしいとした。

発見当時は、黒浜式以前の住居址は知られていなかったから、関山式の住居址は最古のものであった。この最古のM地点の竪穴住居址は、主柱穴がなく、壁柱

穴のみで構成され、「新発見」であったこと。また、C、D地点の竪穴住居址は、壁の下の溝が二重に巡り、あるいは溝によって2回から7回までに及ぶ拡張がみられ、縄文時代の家族構成がうかがえる竪穴住居跡であったこと、等々から一躍脚光をあびた。

その後、1940（昭和15）年、後藤守一が、『上古時代の住居』『先史・人類学講座』第15・16・17巻で、関野克より図面を借用して、6地点の住居址を掲載した。そこでも、M地点の竪穴住居址が最古とされている。さらに、関野克の報文になかったG地点の住居址も掲載されている。

1942（昭和17）年、山内清男は、「片口付縄紋土器に就いて」『古美術』第12巻6号にて、上福岡貝塚のK地点住居出土の片口土器について記述され、さらに、山内清男は『日本先史土器図譜』にも掲載し解説を加えている。なお、縄文時代の貴重な資料として、国の重要文化財に指定された。

上福岡貝塚は、東京工廠福岡派出所（火工廠）の広大な敷地内に所在していたが、戦後、火工廠は解体と共に財務省の管理する土地となり、敷地の有効活用が図られ、昭和30年頃、団地建設地、及び工場敷地として（株）大日本印刷、（株）新日本無線、（株）日本無線等に払い下げられた。敷地内に所在していた多数の建造物は解体され、新たな整地が行われたが、山内清男の報文（a）に記されていた新河岸川沿いに所在している（敷地の北東部）「塚」は残された。

戦後に刊行された、1951（昭和26）年の『埼玉県史』第1巻の地名表、1957（昭和32）年の牛窪宗吉の『入間郡福岡村史』では、既知の成果について言及している。

1959（昭和34）年、埼玉県古墳分布調査が実施され、1961（昭和36）年に刊行された。それを契機にして、1965（昭和40）年、牛窪宗吉や地元関係者の熱意をうけて、柳田敏司氏の指導のもとに通称「疫病塚」の発掘調査が行われた。この疫病塚は、山内清男の報文で、F号住居跡に隣接した「古墳」とされたものである。調査では、古墳の確証が得られなかったことから中世以降の「十三塚」と推察された（これは、その後の調査により、出土遺物から5世紀後半の古墳と判明している）。

同年には、『郷土史料』第2集として、昭和12年に刊行された山内清男によるガリ版刷りの、関野克の未発表、及び人類学雑誌の論文を復刻刊行した。上福岡

貝塚の調査成果が、郷土の文化面の誇として、その事実の普及を目的に出版された。未だ、埋蔵文化財の調査が法的にも整備されていなかった当時としては、快挙というべき事業であった。

その後、1965（昭和40）年以降、上福岡市域は、東京より15km圏内にあたっているため、高度成長政策により都市化の波がおしよせ、住宅開発が増加の一途をたどった。この市域の開発から遺跡の記録保存を目的にした発掘調査が、1974（昭和49）年より実施された。1977（昭和52）年以降には、専門の学芸員を採用し、市内遺跡群の発掘調査として市域の埋蔵文化財全般を対象に実施された。上福岡貝塚敷地内においても、（株）大日本印刷や（株）新日本印刷、（株）日本硝子の工場の改築に際して実施していった。その地点と調査年は次のとおりである。

第10図①：1983（昭和58）年6月頃、（株）大日本印刷の工場増築にともなって試掘調査。表土を重機にて全面廃土し、手作業により遺構の確認に努めた結果、山内清男報文にある貝塚北部の窪地を確認したが、縄文時代の遺構・遺物は全く確認されなかった。

第10図②：1983（昭和58）年12月頃、（株）新日本無線の工場の建設のため、立ち会い調査。ローム上面にて、遺構・遺物の有無を確認したが認められなかった。

第10図③：1985（昭和60）年2月調査。市道197号線の舗装工事に伴う調査。道路幅6m、調査面積2,300㎡。表土を重機で除去。遺構の精査により、5世紀の古墳跡（周溝）3基を調査。上福岡貝塚のK・M・F地点の住居址に近いことから、調査の成果が期待されたが、縄文時代の遺構・遺物は全く確認されなかった。本報告は、『上福岡市史資料編第1巻 自然史・考古』第2章に記述。

第10図④：1988（昭和63）年6月（株）大日本印刷の工場増築にともなう調査。表土を全面廃土し、手作業により遺構を確認した。奈良時代の竪穴住居跡4棟を調査。この4棟は全く攪乱が認められなかったことから、昭和12年の調査時には調査されていない。概要は、『埋蔵文化財の調査（11）』（1989、3）。本報告は、『上福岡市史 資料編第1巻 自然史・考古』第2章（3飛鳥・奈良・平安時代の集落）に記述。

第10図⑤：1991（平成3）年5月、試掘調査。（株）日本無線の工場建設にともなう試掘。範囲10m×55

m。トレンチを設定し、重機にて表土を剥ぎ精査したが、遺構は検出されなかった。『埋蔵文化財の調査(14)』(1992、3)

第10図⑥：1992(平成4)年5月試掘調査。(株)日本硝子の工場建設に伴う試掘。範囲54m×28m。重機にて、表土を除去して遺構の有無を確認したが、認められなかった。『埋蔵文化財の調査(15)』(1993、3)

第10図⑦：1993(平成5)年7月試掘調査。(株)日本無線の工場建設に伴う試掘。試掘範囲9m×14m。グリッドを設定し、表土の除去。遺構なし。『埋蔵文化財の調査(16)』(1994、3)

なお、工場敷地外・南東方向に権現山古墳群が所在し、発掘調査・試掘調査を実施しているが、現在のところ、縄文時代前期の遺構は確認されていないことから、上福岡貝塚の範囲は工場敷地内におさまるものと思われる。

この間に1992(平成4)年、上福岡貝塚の調査で出土した土器群が、奈良国立文化財研究所より刊行された。発掘調査資料は、山内清男博士が発掘調査以後、一括保管されていたもの。資料は、博士の勤務先であった東京大学人類学教室の焼印の入った箱に保管され、奈良国立文化財研究所に山内清子氏により寄託されていた。

また、上福岡貝塚の調査後、現地は、陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(火工廠)が建設された。当時の所長、杉本氏から、1980(昭和55)年頃、調査の経緯やその後のことをお聞きしたことがある。氏によると、1、出土土器のうち、一部を所長室に陳列棚ケースをつくって保管していた、2、会計監査などの時には、監査員に上福岡貝塚の資料を見ながら、発見のいきさつや堅穴住居址のことなどを説明できた、3、戦後、火工廠の資料については、廃棄命令が下ったが、上福岡貝塚の土器は、米軍に没収される心配から川越市の川越高校に運んだ、等々であった。

そこで、川越高校に問い合わせしてみたが、校舎は建て替えられており、そうした資料は見いだせなかった。杉本所長のいう川越高校は、川越高等女学校、あるいは川越商業高校・川越高等小学校等の誤りかもしれないと思ったことから、学校関係の郷土資料室などをたずねたが見つからない。

1991(平成3)年から、上福岡市史の編纂事業がはじまり、1994(平成6)年に、『考古文献資料(1)上

福岡貝塚』市史調査報告書第5集が刊行された。これまでの山内清男、関野 克両博士の報告、論文等と新資料をまとめた上福岡市教育委員会資料編が刊行された。1965(昭和40)年に埼玉県福岡町教育委員会が刊行した『郷土史料第2集』(山内清男「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」、関野 克「埼玉県福岡村縄文前期住居址と堅穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻8号を中心としたもの)の復刻、市教育委員会に保管されていた、住居址の写真と住居址実測図、調査全測図を掲載した。住居址の図面は8地点分である(このうち未公開F・K地点の2箇所をはじめて公開した)。関野克博士が調査した数に合致している。

これまでの経緯をたどってみたが、今回の調査では、堅穴住居内の貝塚は小規模であったことや火工廠の道路部分にあたっていたことなどから、昭和12年当時の調査で、必ずしも縄文時代の遺構が全て調査されていないことが判明した。

したがって、旧火工廠の敷地内には、上福岡貝塚の貴重な遺構・遺物が、未調査のまま残されている可能性がある。工場敷地内ということもあって、今後、工場の改築・新築などが予想され、土地所有者の理解・協力のもとで、未知の遺構・遺物の保存や記録保存の処置を講じていかねばならない。

上記以外に上福岡貝塚の資料に言及したものがある。主なものを以下に記した。これについては、別にまとめる必要がある。

後藤守一 1940「上古時代の住居」『先史・人類学講座』第15・16・17巻

江坂輝弥 1951「講座 縄文文化について－前期－」『歴史評論』第33号

小林行雄 1951『日本考古学概説』東京創元社

石野博信 1959「琵琶湖東地域のホシ小屋－原始的建築様式の－」『考古学雑誌』第45巻第2号

小林達雄 1963『米島貝塚』埼玉県庄和町教育委員会
麻生 優 1965「住居と集落」『日本の考古学Ⅱ 縄文時代』河出書房

石井 寛 1977『調査研究集録』第2冊 港北ニュータウン埋蔵文化財調査団

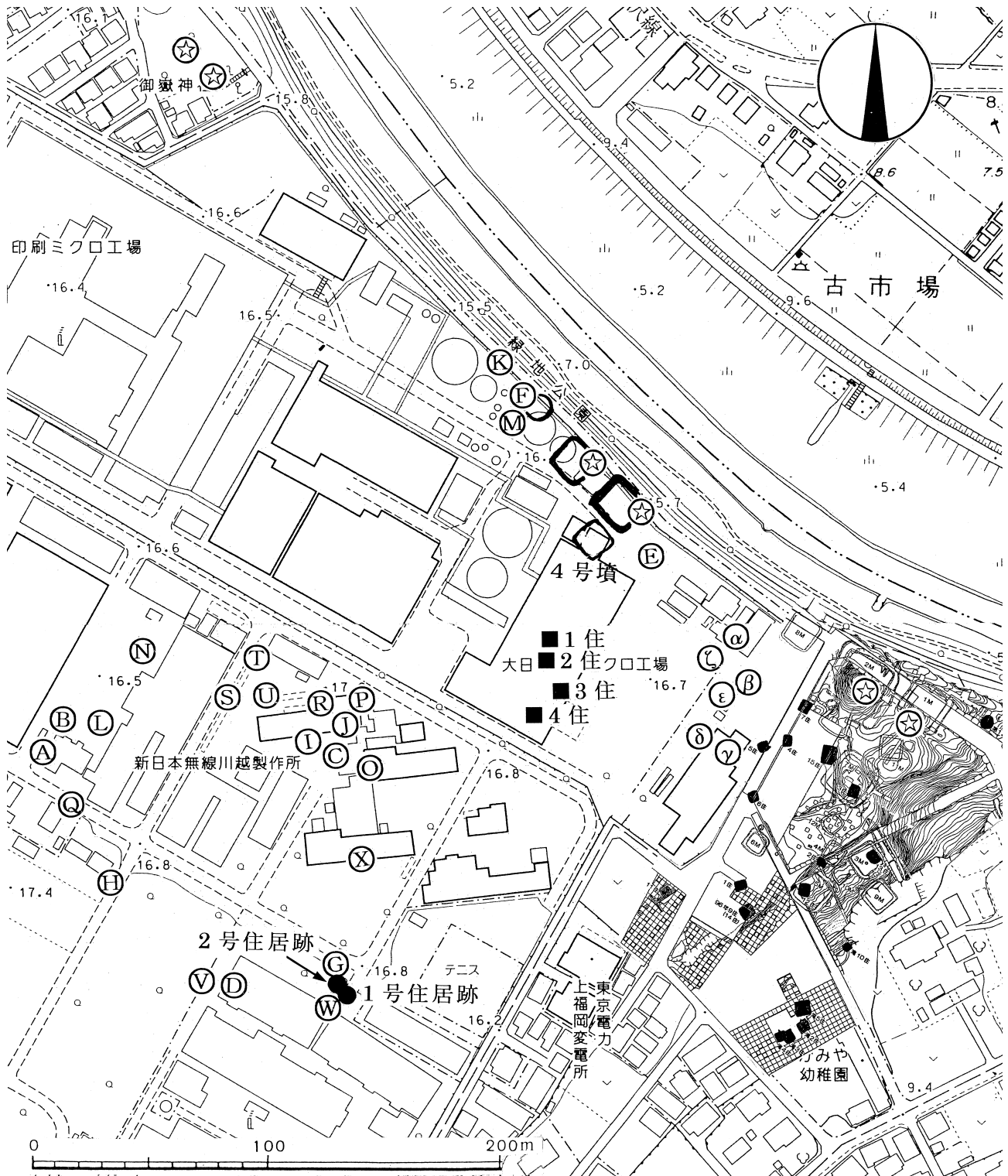
笹森健一 1981「縄文前期の住居と集落(Ⅰ)(Ⅱ)」『土曜考古』第3号、第4号

林 謙作 1984「縄文時代史22 縄文人の集落(2)」『季刊考古学』第48号 雄山閣

早坂廣人 1993 「『水子式』の誕生－その出自を探る－」
『土曜考古』第17号
笹森健一 1996 「上福岡構内遺跡発見における拡張住
居について」『土曜考古』第20号

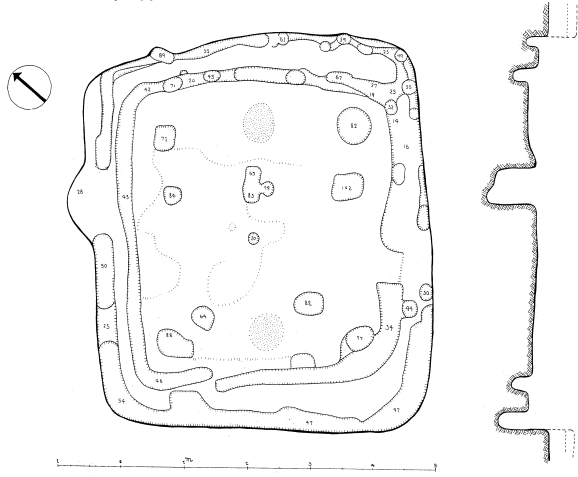
上福岡貝塚の記述は、一般普及書では読売新聞社『日
本の歴史 1』1959(昭和34)年や考古学関係の事典・辞
典などをはじめ多数にのぼる。

(笹森健一)

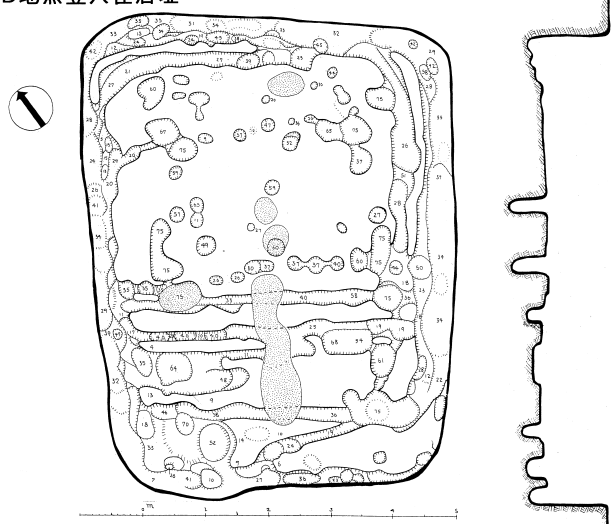


第108図 上福岡貝塚遺構配置図 (1/2,500)

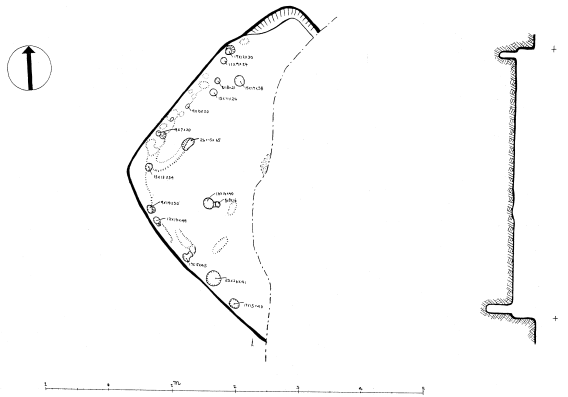
C地点竪穴住居址



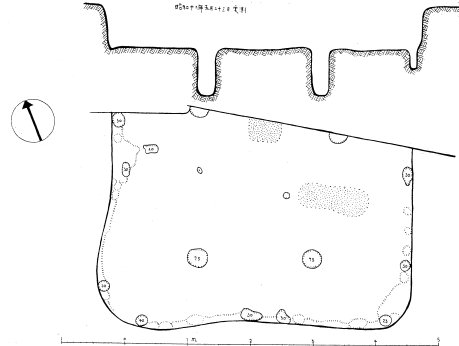
D地点竪穴住居址



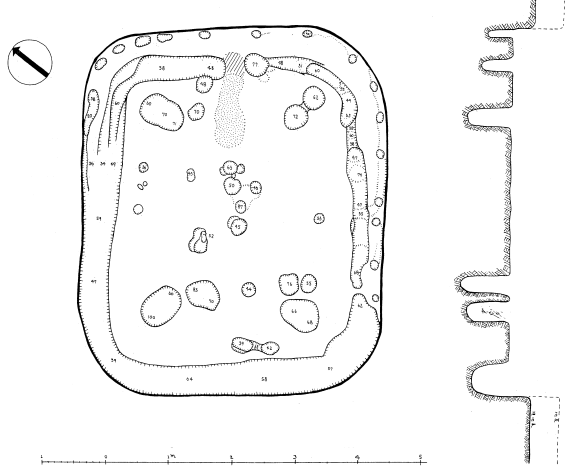
F地点竪穴住居址



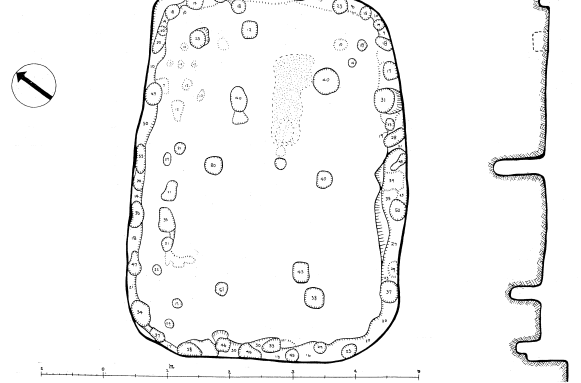
G地点竪穴住居址



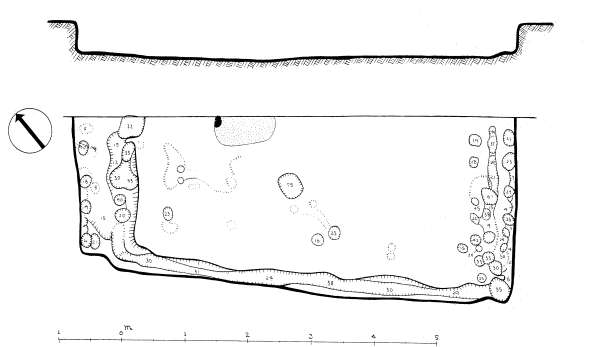
I地点竪穴住居址



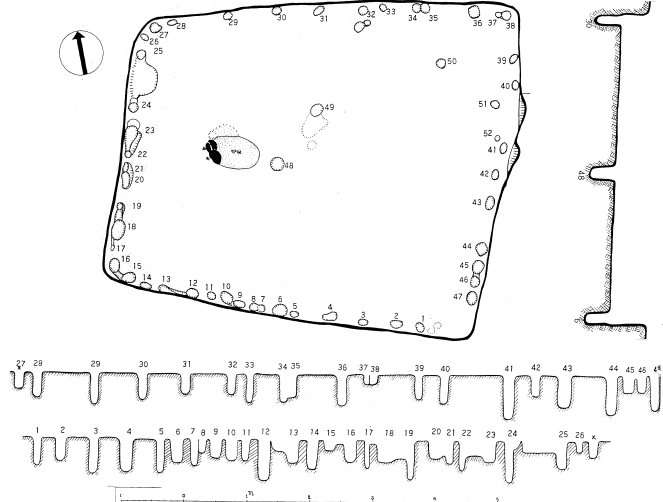
J地点竪穴住居址



K地点竪穴住居址



M地点竪穴住居址



第109図 上福岡貝塚C・D・F・G・I・J・K・M地点竪穴住居址 (1/120)

による掘削・地盤改良が地表面下180cmに及び、遺跡に影響を与える為、申請者と再協議の結果、2007年5月21日から6月12日まで本調査を行なった。本調査に係る費用は新日本無線株式会社が全額負担した。

(2) 発掘調査の経過と方法

①発掘調査作業

本発掘調査は2007年5月21日から6月12日まで行なった。範囲は試掘調査区を西側と南側に2～2.5m拡張したが、西側と南側には高圧線が既に埋設されており、これ以上の拡張が困難であった。また高圧線埋設管の深さが住居跡より深く、住居跡が既に破壊されていることも判明した。

表土層の除去には再度、新日本無線株式会社から重機提供の協力を得た後、人力による調査を行なった。

また、5月29日には新日本無線株式会社関係者へ遺跡説明会を実施し、多数の参加をいただいた。

住居跡の実測は、5m×5m方眼の区画を調査区内に設定し、北から南へA、B、C～、東から西へ1、2、3～の番号を付しA1区・B1区～とした。全測図1/100の作成には平板測量を用いた。

1号住居跡と2号住居跡では土器や動物遺存体などの堆積状況が異なることから、各住居跡で貝層取り上げについては適時対応した。

1号住居跡は覆土層の縄文土器が多く広範囲に出土するが、貝層範囲は狭小で14ヶ所に独立して分布する。このため、1号住居跡は各貝層を半截し層序の確認を行なうとともに、層位ごとに取り上げを実施した。貝層が狭小で半截不可能なものや、層序が単層等のものは一括して取り上げた。

2号住居跡は覆土層出土の土器・石器は僅かであるが、貝層が広範囲に分布するため住居跡内に2ヶ所、30cm×30cmの方眼「Aあ、A1区・・・等」(第125図)を設定し、層位ごとに取り上げを行なった。基本的に貝層の貝殻と土は全て持ち帰った。

②整理作業

住居跡内出土の動物遺体群、主に貝類については自然乾燥後、水洗選別法(5mm、2.5mm、1.2mm目の篩)と浮遊選別法を実施して資料の抽出後、分類・同定作業を行なった。水洗選別・浮遊選別法の機材については、富士見市教育委員会の協力を得た。動物遺体群の整理作業・分類方法についての詳細は次節に記載する。

【土器の分類基準】前期縄文土器の分類基準は『上福岡貝塚資料』(註1)の分類基準を参考とし若干の変更を

行なった。

第1類 口縁部文様帯を有するもの、あるいは胴部に一定の施文帯を有するもの。

第1種 口縁部文様帯に4単位の鋸歯状文(菱形文)を有するもの。有尾式土器。

第2種 口縁部に多単位の鋸歯状文(菱形文)や渦巻文を有するもの。

第3種 口縁部に平行沈線文を重層するもの。

第4種 口唇部に幅狭い文様帯を有するもの。

第5種 格子目文を有するもの。a格子目文だけのもの、b格子目文と縄文を施文するものに大別する。

第6種 コンパス文と平行沈線を有するもの。

第7種 縦方向の沈線を有するもの。

第8種 胴部に施文帯を有するもの。施文される文様には幾つかの種類がある。

第9種 沈線による所謂「肋骨文」を有するもの。

第2類 縄文が施文された土器群を一括する。

第1種 無節斜縄文の土器。

第2種 単節縄文の土器。

第3種 異条斜縄文の土器。

第4種 付加条縄文の土器。a順方向、b逆方向、c順・逆両方向付加に大別する。

第5種 反撚りの縄文が施文された土器。

第3類 絡条体が施文された土器群を一括する。

第4類 貝殻背圧痕文と貝殻腹縁文の土器を一括する。

第1種 a貝殻背圧痕だけの土器。b貝殻背圧痕と縄文を施文する土器。c貝殻背圧痕と沈線を施文する土器。

第2種 貝殻腹縁文の土器。

第5類 無文の土器群を一括する。

第6類 底部を一括する。

第7類 北白川下層式土器を一括する。本調査区からは出土していない。

第8類 甲信系(釈迦堂Z3式)土器を一括する。

III 発掘調査の成果

(1) 縄文時代の遺構と遺物

本発掘調査では縄文時代前期中葉黒浜期の2軒の住居跡の調査を中心に行なった。

①1号住居跡

【位置】調査区の南側に位置する。主軸は推定でN-

75°-Eである。

1937年(昭和12年)作成の地形測量図(住居址配置)図(註2)に重ね合わせると、関野克博士の論文(註3)にあるB群住居址(酒詰仲男氏による上福岡(南)貝塚)(註4)の南端に位置する。

【形状・規模】住居跡の西側と南側は調査区外に延び、また火工廠の遺構である水溜や消火栓、さらに重機の掘削による攪乱を受けるため全体の形状・規模は不明である。平面形態は推定で隅丸方形か長方形とみられる。検出部分は全体の約2/3である。

残存部の規模は、長軸(東西)5.85m以上、短軸(南北)5.46mを測る。深さは遺構確認面から床面まで55~60cmを測る。

【炉】中央部のやや東側に位置し、東側は重機による攪乱を受け破壊され、ピット9と重複しピット9が新しい。炉の平面形態は不整の円形を呈し、底部は赤褐色に良く焼けている。規模は南北85cm、東西の残存部は74cm、深さは床面から16.5cmを測る。

【周溝】住居跡の西側が調査区外に延びるため西側の周溝も未検出であるが、南北と東側の壁際に1本の周溝が巡る。上幅16~32cm、下幅8~20cm、深さ12~21.9cmを測る。

【ピット】住居跡に伴うものはP1~12である。ただしピット9は炉跡を掘り込んでおり住居跡より新しい可能性もある。主柱穴はP1・2・6~8・10とみられる。P6・7・8の主柱穴からP1・2・10の主柱穴への拡張が考えられる。

【遺物出土状況】第115図5の大型土器はほぼ床面直上から出土し、復元可能な個体は床面と覆土3~5層から多く出土する。覆土1・2層には破片が多く出土し、貝層の出土状況も同様で覆土3・4層から出土し、1・2層にはみられない。

第59表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡ピット一覧表

(単位:cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|---------|-------|------|----|
| 1 | 円形 | 23×25 | 18×9 | 34.9 | |
| 2 | だるま形 | 65×34 | 24×14 | 68.2 | 建替 |
| 3 | 楕円形 | 21×17 | 8×8 | 17.7 | |
| 4 | (円形) | (18)×27 | 13×11 | 12.1 | |
| 5 | 楕円形 | 24×20 | 20×12 | 50 | |
| 6 | 円形 | 36×33 | 25×18 | 29.5 | |
| 7 | 円形 | 47×41 | 25×20 | 76.4 | |
| 8 | 円形 | 32×30 | 10×10 | 51 | |
| 9 | 不整形 | 45×32 | 17×15 | 70 | |
| 10 | 楕円形 | 41×33 | 16×8 | 30.6 | 壁柱 |
| 11 | 楕円形 | 27×16 | 11×7 | 37 | 壁柱 |

②1号住居跡貝層

1号住居跡からは14ヶ所のブロック状の貝層を検出した。この内、貝層7は2ヶ所、貝層12は3ヶ所、貝層14は3ヶ所の小ブロックに分かれる。ただし、発掘調査の段階では、これらの貝層は明確な区切りが出来なかったため、出土した貝類は一つの貝層として取り上げた。よって平面図上では2ヶ所または3ヶ所に別れているが、出土した貝類などのデータは合算した数値である。

【貝層1】住居北西隅近くに位置し、住居床面より5cm程浮いた状態で出土する。平面分布は三角形の範囲で、規模は長軸36cm×短軸2cm×厚さ15cmである。

調査は貝層を半截して層位を確認した後、層位ごとに貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると、貝層の1層上部はシジミ主体層、1層下部はカワニナ・オオタニシ・ハマグリがみられる。2層はマガキ主体層、3層はヤマトシジミ・マガキ層である。

【貝層2】貝層1の西側に位置し、住居床面付近より覆土層に出土する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸55cm×短軸40cm×厚さ20cmである。

調査は貝層を半截して層位を確認した後、層位ごとに貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると、貝層の1・2・2'・3・3'層はヤマトシジミ主体層である。5層は上層がオオタニシ・カワニナ層、中層にシジミ層を挟み下層にオオタニシ層である。6・7層はマガキ主体層である。

【貝層3】貝層2の南側に位置する。平面分布は三角形の範囲で、規模は長軸12cm×短軸8cm×厚さ3cmである。

貝層が狭小なため一括して取り上げた。貝層の主体はヤマトシジミとマガキである。

【貝層4】貝層3と貝層4の間に位置する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸35cm×短軸25cm×厚さ27cmである。

調査は貝層を半截して層位を確認した後、層位ごとに貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると貝層の1層はマガキ主体層、2層ヤマトシジミ・オオタニシ主体層、3層マガキ主体層、4層ヤマトシジミ主体層である。

【貝層5】炉の上層に位置する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸18cm×短軸12cm×厚さ9.4cmである。

貝層はマガキ主体層で小規模であるため一括して取り上げた。

【貝層6】住居の南部に位置し、消火栓に破壊される。平面分布は三角形の範囲で、規模は長軸22cm×短軸13cm×厚さ10cmである。

調査は貝層を半截して層位を確認した後、層位ごとに貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると、貝層の1・2層ともにマガキ主体層である。

【貝層7】住居中央部南側に位置し2ヶ所の小ブロックに分かれるが、配水管に破壊される。西側小ブロックは楕円形の範囲で、規模は長軸18cm×短軸7cm×厚さ14.8cmである。東側小ブロックは楕円形の範囲で、規模は長軸10cm×短軸5cm×厚さ3.5cmである。平面分布及び配水管に攪乱された土層断面の観察からも、貝層が小規模であるため一括して取り上げた。マガキ主体である。

【貝層8】住居の中央部付近に位置し、床面付近から覆土層にかけて堆積する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸44cm×短軸35cm×厚さ21cmである。土層の観察から貝層9と同様の堆積を呈する。

調査は貝層を半截し層位を確認すると共に貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると、貝層の1層はマガキ主体層、2・2'層はマガキ・ヤマトシジミ主体層である。貝層の上層はマガキ主体で下層ではシジミが増えるようである。

【貝層9】貝層8の南側に位置する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸46cm×短軸44cm×厚さ14cmである。貝層8と同様の堆積を呈すが、最下層の2'層が見られない。

【貝層10】貝層9の南側に位置する。平面分布は楕円形の範囲で、規模は長軸25cm×短軸18cm×厚さ6.5cmである。貝層はマガキ主体層で小規模であるため一括して取り上げた。

【貝層11】住居の南西部で調査区西壁内に続く。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸42cm×短軸18cm×厚さ14cmである。調査は貝層が小規模で調査区外に延びるため、上層から層位を確認しながら層位ごと一括で取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると貝層の1層はマガキ主体層、2層はヤマトシジミ・マガキ層、3層はマガキ主体層である。

【貝層12】貝層10の西側に位置し、南北方向に並んで3ヶ所の小ブロックに分かれる。床面出土土器の上層に堆積する。南側の貝層は、平面分布は三角形の範囲で、規模は長軸40cm×短軸36cm×厚さ11cmである。中央の貝層は平面分布が円形の範囲で規模は14cm×14cm、

厚さ3cmである。北側の貝層は不整形の範囲で規模は長軸16cm×短軸12cm、厚さ3cmである。

調査は貝層を半截し層位を確認した後、一括して取り上げを行なった。貝層の形成過程をみるとマガキ主体層である。

【貝層13】貝層12の北側に位置する。平面分布は楕円形の範囲で、規模は長軸27cm×短軸15cm×厚さ10.1cmである。

貝層はマガキ主体層で小規模であるため一括して取り上げた。

【貝層14】最も南部に位置し配水管に破壊され2ヶ所の小ブロックに分かれる。西側貝層の平面分布は不整形で、規模は長軸26cm×短軸18cm×厚さ8.9cmである。東側貝層は長軸4cm×短軸3cm×厚さ5.2cmである。

貝層はマガキ主体層で小規模であるため一括して取り上げた。

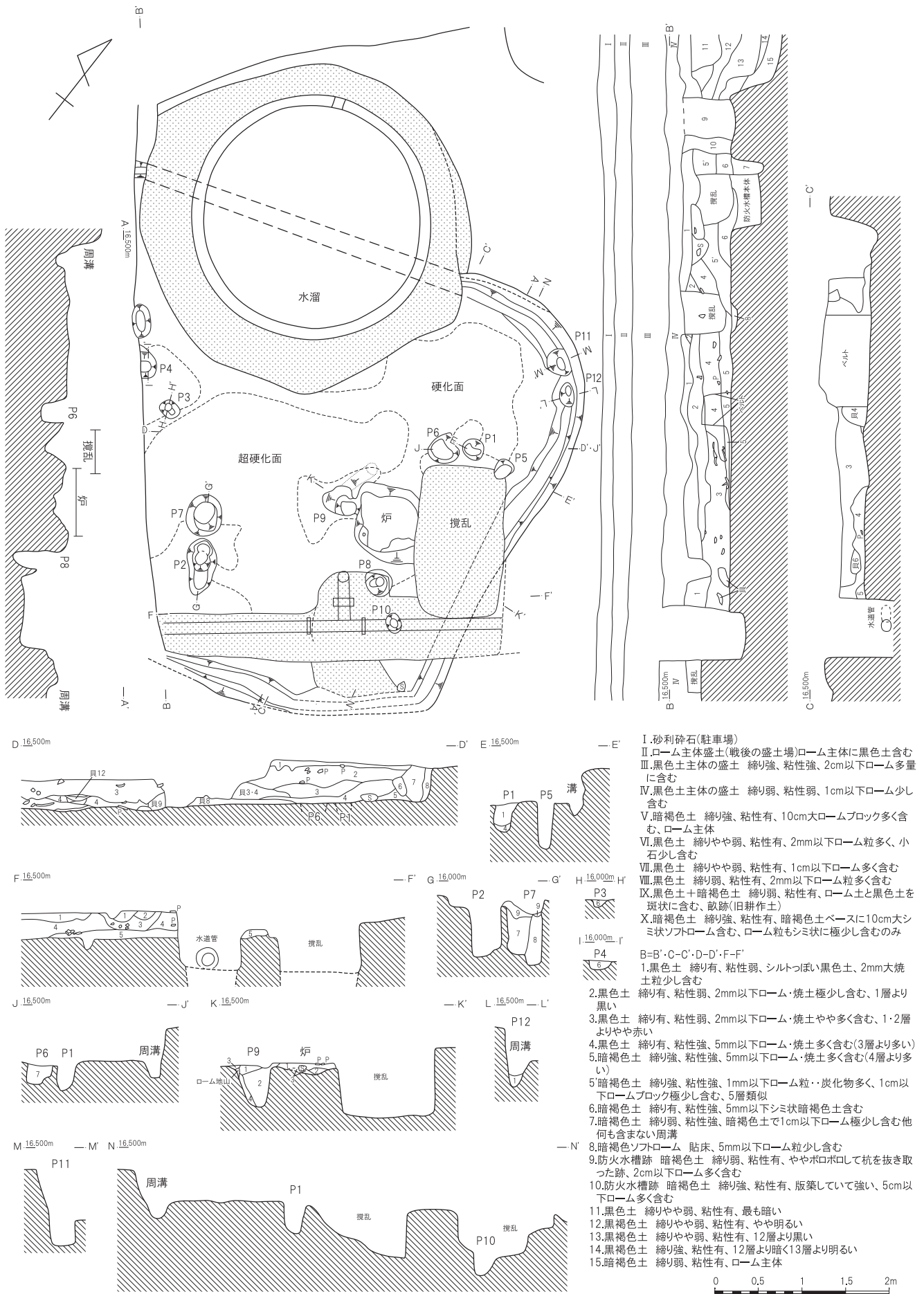
③1号住居跡出土土器（第115～121図）

第1類第1種土器 4は4単位の波状口縁に鋸歯文（菱形文）を配する有尾式である。28～30、32～39、42～47、49～53は口縁部と頸部片で1と同類の施文を施す有尾式であるが、多単位の鋸歯文（同2類）の可能性もある。

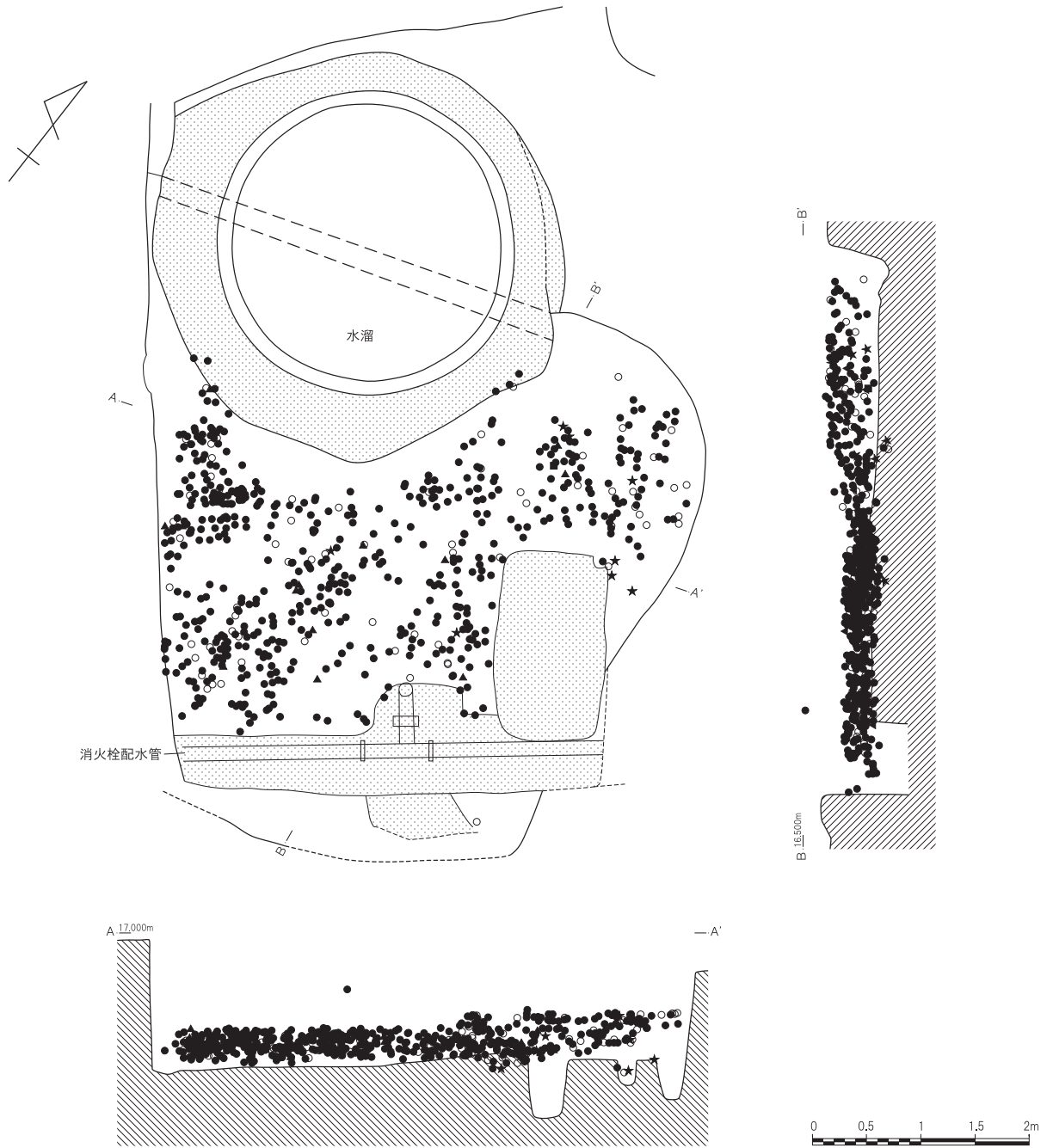
第1類第2種土器 1は波状口縁に半截竹管状工具で鋸歯文（▽△）と渦巻文を配し、頸部以下の胴部は無節R1縄文を施文する。3は4単位の波状口縁から2本の鏢状隆帯を巡らす頸部をへて胴部が「く」の字状に張り出す。鏢状隆帯には縦位に橋状隆帯が約10cmおきに貼り付ける。口縁部は沈線による崩れた鋸歯文（楕円形状連鎖文）を施す。18は緩い波状口縁に押引文と爪形文で渦巻文と鋸歯文（X状）を作り出す。54～59も沈線を主体に渦巻文や鋸歯文を配する。

第1類第3種土器 19～27は口縁部に沈線と爪形文を施文する。31は波状口縁に並行沈線を施文し1類1種又は2種や1類6種の可能性もある。40、41、48は口縁部か頸部に横位沈線を施文する。沈線と爪形文で明らかな鋸歯文（菱形文）を構成する個体は今回の調査では出土していない。60、61は太い波状並行沈線を施文する。62は頸部に2本の並行沈線をめぐらす。

第1類第5種a土器 65～76は格子目文のみを施す類である。67～69は櫛歯状の細い沈線を施文する。70～72と73・74はそれぞれ同一個体の可能性有り。



第111図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡 (1/60)



E-E'・G-G'~J-J'

- 1.黒褐色土 締りやや強、粘性有、2mm以下シミ状ローム・焼土・炭化物少し含む
- 1'黒褐色土 締り弱、粘性有、1層に類似、1層より弱く2mm以下ローム粒多く含む
- 2.暗褐色土 締りやや強、粘性有、5mm以下シミ状ローム少し含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状のロームブロック
- 4.暗褐色土 締り弱、粘性有、ポロポロしたローム、2cm以下ロームブロック含む

6.暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックとシミ状暗褐色土の混合土(貼床)

7.暗褐色土 締り弱、粘性有、ポロポロした暗褐色土ベースに1cm以下ローム粒多く含む

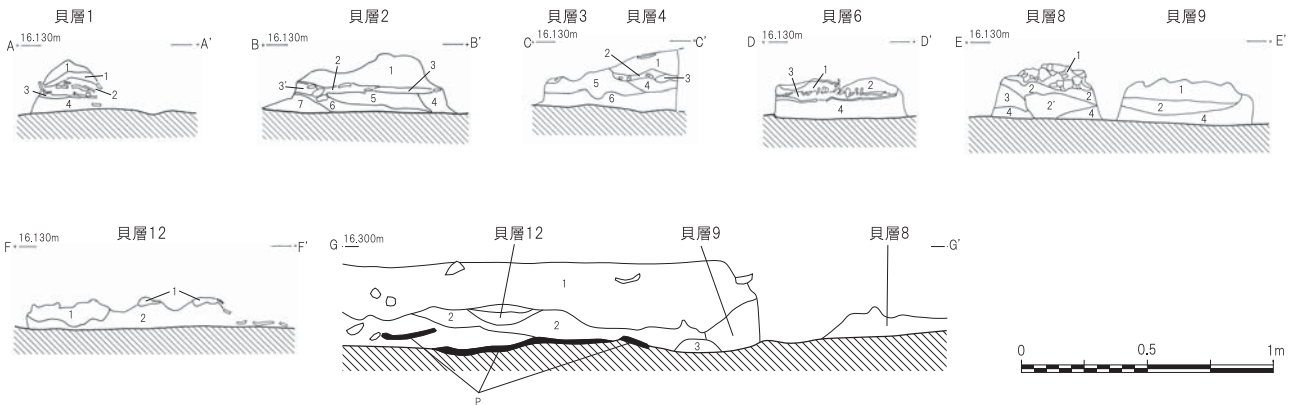
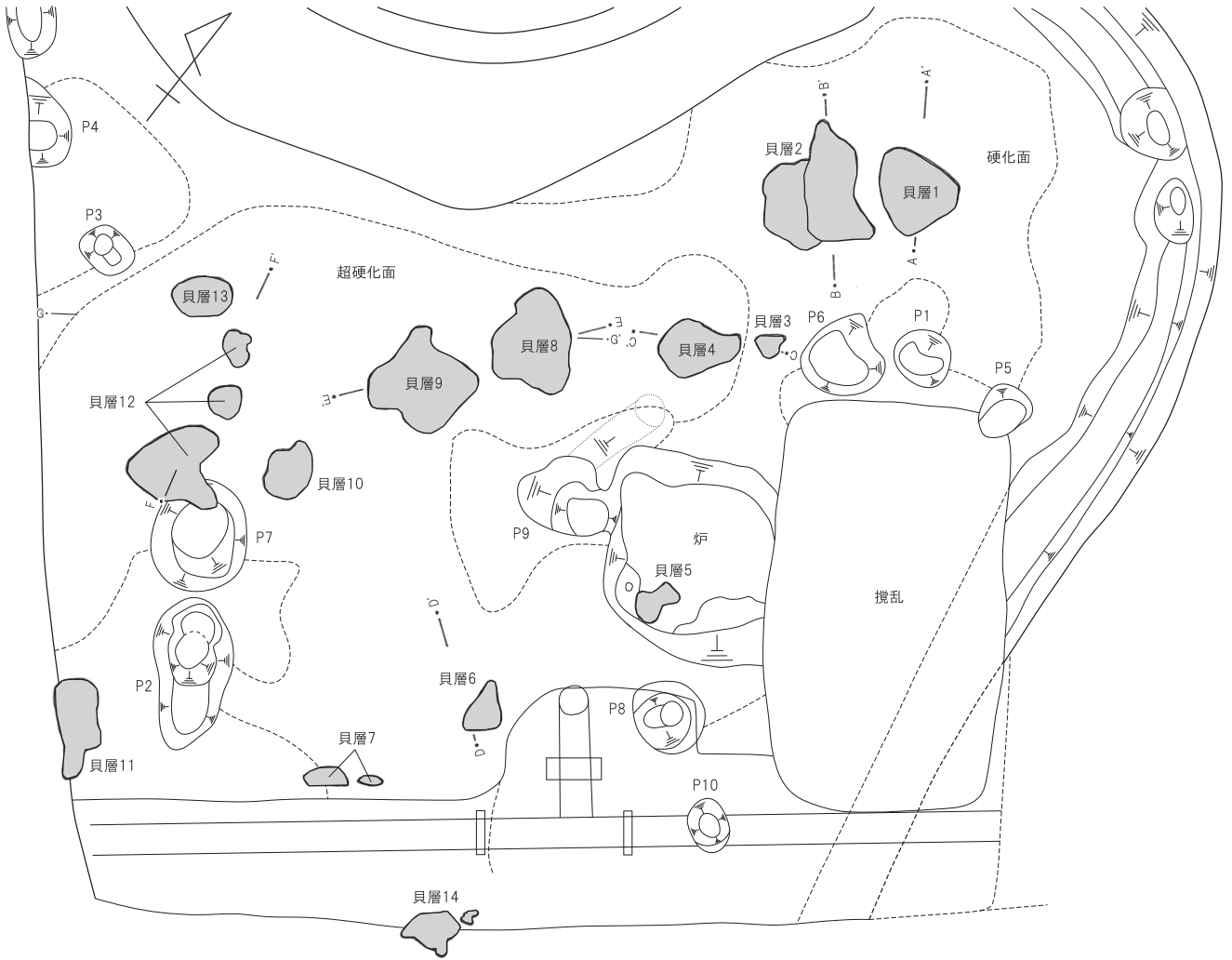
8.暗褐色土 締り弱、粘性有、7層より5cm大ローム多く含む

9.暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックベースに暗褐色土をシミ状に含む(貼床)

L-L'

1.暗褐色土 締りやや弱、粘性有、暗褐色土ほぼ何も含まない、住居ピットの覆土最下層はロームと暗褐色土の混合土だが周溝ピット下部は暗褐色土のみで、ロームブロックみられない

第112図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況図① (1/60)



- A-A'
1. シジミ層 上層シジミ主体、下層カワニナ・オオタニシ・ハマグリ出土
 2. マガキ層
 3. 黒色土 締り有、粘性無
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒・炭化物粒を含む
- B-B'
1. シジミ層①
 2. 黒色土 締りやや有、粘性やや有、シジミが混入
 3. シジミ層②
 - 3' シジミ層②' 上層
 4. オオタニシ主体層 (イシガイ含む)
 5. シジミ主体 (上層オオタニシ・カワニナ、下層シジミを挟み下にオオタニシ)
 6. マガキ層
 7. マガキ層
- C-C'
1. マガキ主体層
 2. シジミ・タニシ主体層
 3. マガキ主体層
 4. シジミ主体層
 5. 黒色土 締り無、粘性無
 6. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒含む (住居覆土4層に同じ)

- D-D'
1. マガキ層①
 2. マガキ層②
 3. 黒色土 (住居覆土3層に同じ)
 4. 黒色土 (住居覆土4層に同じ)
- E-E'
1. マガキ層のみでシジミ見られない
 2. マガキ層とシジミ層混合で黒色土含む
 - 2' シジミ主体層
 3. 黒色土 (住居覆土3層に同じ)
 4. 黒色土 (住居覆土4層に同じ)
- F-F'
1. マガキ層
 2. 黒色土 (住居覆土4層に同じ)
- G-G'
1. 黒色土 締り有、粘性弱、2mm以下ローム・焼土 やや多く含む
 2. 黒色土 締り有、粘性強、5mm以下ローム・焼土 多く含む (1層より多い)
 3. 暗褐色土 締り強、粘性強、5mm以下ローム・焼土 多く含む (2層より多い)

第114図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層出土状況図 (1/30)

第1類第5種b土器 13、63、64、77は縄文と格子目文を施文する類である。13は胴下部に細い沈線と無節R1縄文を施文する。63は口唇部に圧痕が有り、地文縄文施文後に沈線の格子目文を施す。64・77も縄文施文後に格子目文を施文する。施文の順番は地文縄文を施文した後に追加成形施文として沈線の格子目文を施す点で共通する。

第1類第7種土器 191、214、215は縦方向に沈線を施文する類である。191は沈線のみ、214・215は地文R1縄文施文後に沈線を施文する。3点ともに刺し切状沈線の可能性がある。

第1類第4・6・8種土器群が破片で判別がつきにくく、第4種は第1・3種に、第6種は第3種に分類したものがあつた。第9種の土器群は出土していない。

第2類第1種土器 2類土器群の各種縄文を施文するもののうち、沈線や貝殻背圧痕など他の施文を伴うものは、各々の類種に分類した。また単節縄文や付加条縄文を併せて施文するものもそれぞれの各類種に分類した。時期については、関山式土器などは1点も出土していないため黒浜式・有尾式土器に含まれるものとみられる。ただし胴部片については全て黒浜式としたが有尾式の胴部である可能性もある。

14、17、78、80～83、85～90、92～126、147、151、159、160、164～169、174、185、244は無節縄文の類である。243は251と同一個体とみられるが、施文が確認出来ないので第5類の無文土器とした。

第2類第2種土器 5、6、8、12、16、84、127～146、148～150、152～158、162、163、170～173、175～178、は単節縄文の類である。5は底部を欠くが、6はほぼ完形である。

第2類第4種土器 216は2類4種a土器である。9～11、91、179～183、186～190、192、200～202、204、205は2類4種b土器である。161、194、196～199、203、207、209、211は2類4種c土器である。15、79、184、193、206、208、210、212、213は順・逆方向不明である。9、10、15、79、212は付加条縄文以外にLR、R1縄文を施文する。10、11は別個体であるが共に口縁部の製作を途中で止めたような器形であり原体は異なるが付加条縄文を施文する。79、161、194、196、199、213、216に追加成形施文がみられる。口唇部をみると181、182は平坦で207、210は溝(凹)状を呈する。付加縄の数では187の3本が最も多い。

2類土器で195は原体がはっきりしない。217、218

は縄文かどうか不明である。第2類第5種反撚りの縄文が施文されたものはみあたらない。

第4類第1種土器 220～239、241は貝殻背圧痕だけを施文する4類1種a土器である。2は貝殻背圧痕とR1縄文を施文する4類1種b土器である。240は貝殻背圧痕と沈線を施文する4類1種c土器である。2、221、223、230、239、241の口唇部には貝殻背圧痕が施文され、228では一部溝(凹)状を呈する。227、229、231は放射肋の幅が狭く顆粒痕がはっきりしないが、それ以外の貝殻背圧痕土器は圧痕が明瞭である。

第4類第2種土器 219は今回の調査で唯一出土した貝殻腹縁文を施文する土器である。上げ底気味の底部底面には施文はない。

第5類土器 242、243は無文土器である。2点以外に多数の無文の土器片が出土しているが、紙面の都合上割愛した。243は244と胎土や器形が似ているが244と異なり縄文が全く確認できないため無文とした。

第6類土器 252～269は胴部から底部の土器で、単節無節の縄文を施文するものみられる。しかし、底部の底面への施文はみられない。

第8類土器 270～274は地文縄文で内面には指頭圧痕がみられ胎土に金雲母を含む甲信系(釈迦堂Z3式)土器である。

今回の調査で第1類4・6・9種土器、第2類3・5種、第3類土器、第7類土器は出土していない。

275は早期の貝殻条痕文土器で表裏に条痕文を施し胎土に繊維を含む。

276～280は中期の加曾利EⅡ～Ⅲ式土器で地文縄文に沈線と磨消しを施す。

281は器厚が薄く細い沈線を施す中期から後期の土器である。

282は土製品で土製円盤とみられ、側縁を擦って調整している。付加条縄文で胎土に繊維を含む。

283、284は火工廠に関係するとみられる釘である。285は不明金属製品である。

286～294は縄文時代の石器で観察表のとおりである。第60・62表中の出土状況は、床直は床面直上、床上は床面から覆土下層、覆土は住居覆土層及び貝層出土である。

第60表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡・堀・水溜ピット出土遺物観察表

(単位cm)

| 図版 番号 | 掲載 番号 | 分類 | 出土 状況 | 口径・胴径、 長さ×幅×厚さ | 底径・高さ | 遺存部位 | 器形 | 地文 | 文様要素/注記No | 時期・ 備考 |
|----------|----------|-------|----------|-------------------|-------------|--------------|--------------|---|--|-----------|
| 115 | 1 | 1類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部1/2 | 深鉢 | R 1、沈線 | 緩い4単位波状口縁、口唇直下に半載竹管状工具で2本の並行する沈線に爪形文施文、同様の工具で波頂部に渦巻文を配し間に鋸歯文(△ノ状)を作出、胴部R 1縄文、掲載番号14の縄文原体に類似/注No88 | 黒浜式 |
| | 2 | 4類1種b | 覆土 | - | - | 口縁部1/2 | 深鉢 | R 1、 貝殻文 | 口唇部の一部に貝殻背圧痕施文、無節R 1縄文施文後に貝殻背圧痕施文、貝殻背圧痕の全く無い部分もあり、短い頸部の括れは口縁部製作を途中で中止した可能性有り/注No546、A8、C3 | 黒浜式 |
| | 3 | 1類2種 | 床上 | (35)・(34) | -・(30.5) | 口縁～胴部 1/2 | 深鉢 | L R・R 1 | 4単位波状口縁、波頂部に縦位隆帯貼付、頸部に横位の高い罫(隆帯)を2本巡らし約10cmおきに縦位に橋状隆帯貼付、口唇部直下に半載竹管状工具の内側で沈線列を巡らしその下に同工具で崩れた鋸歯文(楕円形状連鎖文)施文、頸部～胴部上部R 1環付末端端(ループ文)+胴中部L R縄文+下部R 1縄文で羽状縄文、胴中央部に粘土敷寄せ有り、追加成形施文/注No607 | 有尾式 |
| | 4 | 1類1種 | 床上 | - | - | 口縁部1/2 | 深鉢 | R L | 4単位波状口縁に沿って4本の並行沈線が巡り直交するように短沈線を縦位に施す、口唇直下と頸部の並行沈線の間に4本の並行沈線で鋸歯文を配し波頂部で菱形文を構成、波底部では三角形を呈す、胴部はR L縄文/注No611、C6、H9 | 有尾式 |
| | 5 | 2類2種 | 床直 | (42)・35.4 | -・(42.5) | 5/6 | 深鉢 | R L | 4単位の波状口縁部で波底部に4ヶ所小さな山形突起を付す、口縁部に補修孔の穴2つ有り、胴部下半～底部欠損/注No608、609 | 黒浜式 |
| | 6 | 2類2種 | 床上 | 23.5・- | 7.0・30.8 | ほぼ完形 | 深鉢 | L R | 底部から口縁部にかけて直線的に開く、全面単節斜縄文/注No242、245、491、492、610、ヌキ | 黒浜式 |
| | 7 | 6類 | 床上 | - | (6)・() | 底部一部 | 深鉢 | R L | 底部に4箇所の脚状突起がみられる、台付の孔になるのか独立した4つの脚は不明/注No239 | 黒浜式 |
| 116 | 8 | 2類2種 | | (15.0)・- | -・(7.7) | 口縁部1/2 | 深鉢 | R L | 平口縁、胴部から口縁部にかけて直線的に開く小型土器/注No605、626、B4・8 | 黒浜式 |
| | 9 | 2類4種b | 床上 | 25.1・31.0 | -・(16.7) | 口縁～胴部 1/3 | 深鉢 | L R、 付加条縄文 | 4単位波状口縁、口縁部～胴部張出し部は軸縄R 1+R 12本逆方向付加、胴下半単節L R斜縄文、追加成形施文/注No610、613、C4 | 黒浜式 |
| | 10 | 2類4種b | 床上 | - | - | 口縁～胴部 1/3 | 深鉢 | R 1、 付加条縄文 | 4単位波状口縁に短い頸部の括れは口縁部製作を途中で中止したものか、地文無節R 1縄文と軸縄L r+R 1逆方向付加/注No605 | 黒浜式 |
| | 11 | 2類4種b | 床上 | - | - | 口縁～胴部 3/4 | 深鉢 | 付加条縄文 | 短い頸部の括れは口縁部製作を途中で中止したものか、軸縄R 1+R 1逆方向付加/注No510、602、617 | 黒浜式 |
| | 12 | 2類2種 | 覆土 | - | 6.8・(11.0) | 胴下半～底部 | 深鉢 | R L | 上げ底で底部施文なし、R L縄文を縦・横方向に回転し一部羽状縄文/注No471～474、C4 | 黒浜式 |
| | 13 | 1類5種b | 覆土 | - | 7.4・(5.5) | 胴下半～底部 | 深鉢 | R 1、沈線 | 底部施文なし、無節R 1縄文と細い沈線文(格子目文)施文/注No127、130、412 | 黒浜式 |
| | 14 | 2類1種 | 覆土 | - | -・(14) | 胴下半 | 深鉢 | R 1 | 掲載番号1の縄文原体に類似、追加成形施文/注No65、89、549、575、D5、ヌキ | 黒浜式 |
| | 15 | 2類4種 | 床上 | - | 8.5・(5.5) | 胴下半～底部 | 深鉢 | R 1、 付加条縄文 | やや上げ底で底部施文なし、地文無節R 1縄文と軸縄不明+R 1付加/注No607 | 黒浜式 |
| | 16 | 2類2種 | | - | 9.5・(15.3) | 胴下半～底部 | 深鉢 | R L | やや上げ底で底部施文なし、被熱のためか胴上部器表外面剥落/注No137、139、140、604 | 黒浜式 |
| | 17 | 2類1種 | 覆土 | - | (8.2)・(8.4) | 胴下半～底部 | 深鉢 | L r | やや上げ底、底部施文なし、L r縄文他方向施文/注No413、418 | 黒浜式 |
| | 18 | 1類2種 | 攪乱 | | - | 口縁部1/4 | 深鉢 | 沈線 | 緩い波状を呈し、口縁部に2本の並行する半載竹管状工具で押引文を巡らし、同様の工具で波頂部に渦巻文を配し間に鋸歯文(X状)を作出する/注No1ボP9-2・4 | 黒浜式 |
| | 19 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 波状口縁、波頂部に刻目隆帯を縦位に貼付、口縁部に半載竹管状工具の爪形文施文/注No4 | 黒浜式 |
| | 20 | 1類3種 | 床直 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 緩い波状口縁、2本の並行する半載竹管状工具の爪形文施文/注No430 | 黒浜式 |
| | 21 | 1類3種 | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に4本の並行する半載竹管状工具の爪形文施文/注No607 | 黒浜式 |
| | 22 | 1類3種 | 攪乱 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 波状口縁、細い半載竹管状工具で3本の押引文施文/注NoM2 | 黒浜式 |
| | 23 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に3本の並行する半載竹管状工具の爪形文施文/注NoC1 | 黒浜式 |
| | 24 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の爪形文施文/注NoA2 | 黒浜式 |
| 25 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に3本の並行する半載竹管状工具の爪形文施文/注No217 | 黒浜式 | |
| 26 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 頸部 | 深鉢 | R L | 頸部に半載竹管状工具の爪形文施文、胴部単節R L斜縄文/注No198 | 黒浜式 | |
| 27 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に3本の並行する半載竹管状工具の爪形文施文/注NoC4 | 黒浜式 | |
| 28 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で施文/注No427 | 有尾式 | |
| 29 | 1類1種 | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文と縦位に短沈線施文(菱形文)施文/注No611 | 有尾式 | |
| 30 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文、口縁部上部に縦位に並行する短沈線施文/注Noヌキ | 有尾式 | |
| 31 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 波状口縁、口唇に刻目、半載竹管状工具の並行沈線施文/注NoH6 | 黒浜式 | |
| 32 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No49 | 有尾式 | |
| 33 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No268、453 | 有尾式 | |
| 34 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No1ボP3-1 | 有尾式 | |
| 35 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注NoB8 | 有尾式 | |
| 36 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注NoD1 | 有尾式 | |
| 37 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注NoA3 | 有尾式 | |
| 38 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No48、338 | 有尾式 | |
| 39 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No1ボ-1 | 有尾式 | |
| 40 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 頸部 | 深鉢 | 沈線 | 頸部に半載竹管状工具の並行沈線施文、鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注NoB8、ヌキ | 有尾式 | |
| 41 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 頸部 | 深鉢 | 沈線 | 頸部に半載竹管状工具の並行沈線施文、鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注No329 | 有尾式 | |
| 42 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注NoC6 | 有尾式 | |
| 43 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注NoB2 | 有尾式 | |
| 44 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注NoB8 | 有尾式 | |
| 45 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注NoC4 | 有尾式 | |
| 46 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No208 | 有尾式 | |
| 47 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注No256 | 有尾式 | |
| 48 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 頸部 | 深鉢 | 沈線 | 頸部に半載竹管状工具の並行沈線施文、鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注No436 | 有尾式 | |
| 49 | 1類1種 | 攪乱 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)土器の可能性有り/注No1ボ-1 | 有尾式 | |
| 50 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No266 | 有尾式 | |
| 51 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No515 | 有尾式 | |
| 52 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No281 | 有尾式 | |
| 53 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r、沈線 | 地文L r縄文に半載竹管状工具の並行沈線で鋸歯文(菱形文)施文/注No243 | 有尾式 | |
| 54 | 1類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 口縁部に半載竹管状工具の並行沈線施文、掲載番号55と同一個体か/注No328 | 有尾式 | |
| 55 | 1類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 沈線 | 半載竹管状工具で沈線施文、掲載番号54と同一個体か/注Noヌキ | 黒浜式 | |
| 56 | 1類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 半載竹管状工具で沈線施文/注Noヌキ | 黒浜式 | |
| 57 | 1類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 半載竹管状工具で沈線施文/注NoB8 | 黒浜式 | |
| 58 | 1類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 半載竹管状工具で沈線の渦巻文施文、掲載番号59と同一個体か/注No86 | 黒浜式 | |
| 59 | 1類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 半載竹管状工具で沈線施文、掲載番号58と同一個体か/注No327 | 黒浜式 | |
| 60 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 横位に並行するやや太い波状沈線施文/金雲母含む、注No90 | 黒浜式 | |
| 61 | 1類3種 | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 横位に並行するやや太い波状沈線施文、金雲母含む/注No401、567 | 黒浜式 | |
| 62 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 頸部 | 深鉢 | R 1と 原体不明 | 頸部に2本の半載竹管状工具の並行沈線施文、口縁部はR 1、胴部はR 1縄文の一部異条縄文施文(原体不明)/注No43、63 | 黒浜式 | |

| 図版 番号 | 掲載 番号 | 分類 | 出土 状況 | 口径・胴径、 長さ×幅×厚さ | 底径・高さ | 遺存部位 | 器形 | 地文 | 文様要素/注記No | 時期・ 備考 | |
|----------|----------|-------|----------|-------------------|-------|------|-----|--------------------|---|---|-----|
| 117 | 63 | 1類5種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 原体不明 | 口唇部押圧有り、口縁上部地文縄文(閉端環状のR Lか) 施文後細い沈線で格子目状文施文/注No494, A8 | 黒浜式 | |
| | 64 | 1類5種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r、沈線 | 口唇部圧痕有り、 胴部に無節L r 縄文施文後に口縁部沈線の格子目文、追加成形施文/注No160 | 黒浜式 | |
| | 65 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口唇部太い縄のようなものの圧痕有り、沈線の格子目文/注NoB8 | 黒浜式 | |
| | 66 | 1類5種 | 炉内 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口縁部細い沈線の格子目文/注No623 | 黒浜式 | |
| | 67 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口縁部歯状工具の細い沈線文/注No107 | 黒浜式 | |
| | 68 | 1類5種 | 貝層 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 歯状工具の沈線の格子目文/注NoカイB1 | 黒浜式 | |
| | 69 | 1類5種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 歯状工具の沈線の格子目文/注No1がP3-1 | 黒浜式 | |
| | 70 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | やや太目の工具による沈線の格子目文、注No70~72は同一個体の可能性有り/注No246, C2 | 黒浜式 | |
| | 71 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | やや太目の工具による沈線の格子目文、注No70~72は同一個体の可能性有り/注No489 | 黒浜式 | |
| | 72 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | やや太目の工具による沈線の格子目文、注No70~72は同一個体の可能性有り/注Noc2 | 黒浜式 | |
| | 73 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 沈線の格子目文、掲載番号74と同一個体か/注NoB4 | 黒浜式 | |
| | 74 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 沈線の格子目文、掲載番号73と同一個体か/注NoA8 | 黒浜式 | |
| | 75 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 沈線の格子目文/注NoH6 | 黒浜式 | |
| | 76 | 1類5種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | - | 沈線の格子目文/注NoD2 | 黒浜式 | |
| | 77 | 1類5種b | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r、沈線 | 沈線の格子目文、胴部に無節L r 縄文施文後に沈線の格子目文、追加成形施文/注No381, H6 | 黒浜式 | |
| | 118 | 78 | 2類1種 | 床直 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 波状口縁部、胴部張り出しから口縁部は無節L r 縄文、胴下半は磨減著しい、追加成形施文/注No601 | 黒浜式 |
| | | 79 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文、R l | 平口縁部で頸部括れる、口縁部R l 縄文、胴部軸縄不明+L r 付加、追加成形施文/注No33, 336, 500 | 黒浜式 |
| 80 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 波状口縁部で口縁部丸味をもつ、口唇部圧痕有り/注No190, 475 | 黒浜式 | |
| 81 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 波状口縁部で口縁部丸味をもつ、口唇部刻目有り、掲載番号82と同一個体、追加成形施文/注No551, 552, B8 | 黒浜式 | |
| 82 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 胴部膨らみ境にL r 縄文で羽状縄文を呈す、掲載番号81と同一個体、追加成形施文/注No145, 424 | 黒浜式 | |
| 83 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 波状口縁部で僅かに胴部に膨らみをもつ/注No166, 167, 177, B4・7, H2 | 黒浜式 | |
| 84 | | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 口縁上部に刻目のある隆帯を貼付/注Noスキ | 黒浜式 | |
| 85 | | 2類1種 | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注No612 | 黒浜式 | |
| 86 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | 口唇部に刻目有り/注No251 | 黒浜式 | |
| 87 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注No341 | 黒浜式 | |
| 88 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 波状口縁/注No234 | 黒浜式 | |
| 89 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注No214, 518 | 黒浜式 | |
| 90 | | 2類1種 | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注No419 | 黒浜式 | |
| 91 | | 2類4種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄R l + L r 1本逆方向付加/注Noスキ | 黒浜式 | |
| 92 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注No615 | 黒浜式 | |
| 93 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | 口唇部刻目有り/注No150, B5 | 黒浜式 | |
| 94 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注NoC2 | 黒浜式 | |
| 95 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注NoH6 | 黒浜式 | |
| 96 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注NoC4 | 黒浜式 | |
| 97 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | 粘土皺寄せ有り/注NoC6 | 黒浜式 | |
| 98 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注NoC4 | 黒浜式 | |
| 99 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | 口唇部溝状(凹)呈す/注NoC6 | 黒浜式 | |
| 100 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注NoA9 | 黒浜式 | |
| 101 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l | /注No100 | 黒浜式 | |
| 102 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 波状口縁、口唇部直下無文で下部L r 縄文/注No351 | 黒浜式 | |
| 103 | | 2類1種 | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注No437 | 黒浜式 | |
| 104 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 口唇部押圧か/注Noスキ | 黒浜式 | |
| 105 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注NoB8 | 黒浜式 | |
| 106 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注No343 | 黒浜式 | |
| 107 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | 追加成形施文/注No223, 224, 226, 263 | 黒浜式 | |
| 108 | | 2類1種 | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | S字状結束、追加成形施文/注No75, 76, 493, 499, 544, 601, 605, 611 | 黒浜式 | |
| 109 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l、L r | R l と L r 羽状縄文、追加成形施文/注No549 | 黒浜式 | |
| 110 | | 2類1種 | 炉内 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | 羽状縄文/注No183, 431, 432 | 黒浜式 | |
| 111 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | 粘土皺寄せ有り、追加成形施文/注No183, 184, スキ | 黒浜式 | |
| 112 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l、L r | 羽状縄文、結束、追加成形施文/注No250 | 黒浜式 | |
| 113 | | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R、R l ? | 羽状縄文、追加成形施文/注No1がP9-5 | 黒浜式 | |
| 114 | | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | 太いL r で粘土が乾かないうちに施文/注No123 | 黒浜式 | |
| 115 | | 2類1種 | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | 追加成形施文/注No235, 607 | 黒浜式 | |
| 116 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | 追加成形施文/注No38, 47 | 黒浜式 | | |
| 117 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | 器面磨減著しい/注No1がP9-8 | 黒浜式 | | |
| 118 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | 追加成形施文/注No212, 259 | 黒浜式 | | |
| 119 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注No2, A5 | 黒浜式 | | |
| 120 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注No6, 8 | 黒浜式 | | |
| 121 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注No541 | 黒浜式 | | |
| 122 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注NoD1 | 黒浜式 | | |
| 123 | 2類1種 | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注No612 | 黒浜式 | | |
| 124 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注No258 | 黒浜式 | | |
| 125 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注No61 | 黒浜式 | | |
| 126 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注NoD1, H6 | 黒浜式 | | |
| 119 | 127 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁か、頸部は括れ胴部は大きく膨らむ/注No138, 603 | 黒浜式 | |
| | 128 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁から頸部にかけて僅かに括れる、口縁の一部に工具で縦位(縄文条方向)に沈線状の無でを施す/注No97, 98, 386~388, 390, 459, 549, A8・9, C1, D2 | 黒浜式 | |
| | 129 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No457 | 黒浜式 | |
| | 130 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No229, 541 | 黒浜式 | |
| | 131 | 2類2種 | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No596 | 黒浜式 | |
| | 132 | 2類2種 | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No605 | 黒浜式 | |
| | 133 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No505 | 黒浜式 | |
| | 134 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注NoH6 | 黒浜式 | |
| | 135 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No218 | 黒浜式 | |
| | 136 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注NoC4 | 黒浜式 | |
| | 137 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No143 | 黒浜式 | |
| | 138 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | /注NoH6 | 黒浜式 | |

| 図版 番号 | 掲載 番号 | 分類 | 出土 状況 | 口径・胴径、 長さ×幅×厚さ | 底径・高さ | 遺存部位 | 器形 | 地文 | 文様要素/注記No | 時期・ 備考 |
|----------|----------|------|----------|-------------------|-------|------|---------------|---|---------------------------------|-----------|
| 119 | 139 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No280 | 黒浜式 |
| | 140 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注NoA8 | 黒浜式 |
| | 141 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注NoD1 | 黒浜式 |
| | 142 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No627 | 黒浜式 |
| | 143 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No101 | 黒浜式 |
| | 144 | 2類2種 | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | 波状口縁/注No535、601 | 黒浜式 |
| | 145 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | 波状口縁、粘土敷寄せ有り/注No92、245、247、508 | 黒浜式 |
| | 146 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | 波状口縁/注No541 | 黒浜式 |
| | 147 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l、L r | 波状口縁、波頂部境にL r、R l羽状縄文/注No79、421 | 黒浜式 |
| | 148 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | 波状口縁/注NoD4 | 黒浜式 |
| | 149 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R L | 波状口縁/注No237 | 黒浜式 |
| | 150 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | 波状口縁/注No61、118、119、D3 | 黒浜式 |
| | 151 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注No14 | 黒浜式 |
| | 152 | 2類2種 | 床直 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | /注No601 | 黒浜式 |
| | 153 | 2類2種 | 攪乱 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注No1ボ-1 | 黒浜式 |
| | 154 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | /注NoC4 | 黒浜式 |
| | 155 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | /注NoC4 | 黒浜式 |
| | 156 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | 波状口縁、口唇部溝状(凹)を呈す/注No295 | 黒浜式 |
| | 157 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | 波状口縁、口唇部溝状(凹)を呈す/注NoB8 | 黒浜式 |
| 158 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | 7mm大石粒含む/注NoH6 | 黒浜式 | |
| 159 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注NoC-1 | 黒浜式 | |
| 160 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l、L r | 羽状縄文、追加成形施文/注No105、D4 | 黒浜式 | |
| 161 | 2類4種 c | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 上部軸縄 R l + R l 付加、下部軸縄 R l + R l 逆方向付加、追加成形施文/注No19、51 | 黒浜式 | |
| 162 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R | /注NoB8 | 黒浜式 | |
| 163 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R ? | 地文 L R ? 施文後追加成形施文で沈線(刺し切り状沈線)施文か/注No395、396 | 黒浜式 | |
| 164 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | 羽状縄文、追加成形施文、掲載番号165・168同一個体か/注No1ボP9-4・6・7 | 黒浜式 | |
| 165 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | 羽状縄文、追加成形施文、掲載番号164・168同一個体か/注No1ボP9-3・7 | 黒浜式 | |
| 166 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | /注NoC2、1ボ1 | 黒浜式 | |
| 167 | 2類1種 | 床直 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R L | 追加成形施文/注No611 | 黒浜式 | |
| 168 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R、L r | 羽状縄文/注No1ボP9-1 | 黒浜式 | |
| 169 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R、L r ? | 羽状縄文/注No21、26 | 黒浜式 | |
| 170 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R | /注No94、564、572 | 黒浜式 | |
| 171 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R L | 追加成形施文/注No42、83、102、105、393、394、405、409、549、D2・4 | 黒浜式 | |
| 172 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R、R l ? | 羽状縄文、追加成形施文/注No541、543 | 黒浜式 | |
| 173 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R L | /注NoH6 | 黒浜式 | |
| 174 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R、L r ? | 羽状縄文/注No24 | 黒浜式 | |
| 175 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R | /注No368、569 | 黒浜式 | |
| 176 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R L | /注No503 | 黒浜式 | |
| 177 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | /注NoD4 | 黒浜式 | |
| 178 | 2類2種 | 床直 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R L | /注No622 | 黒浜式 | |
| 179 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄不明 + L r・2本逆方向付加か、口唇部押圧有り、器厚薄い/注No522 | 黒浜式 | |
| 180 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + L r・2本逆方向付加/注No195 | 黒浜式 | |
| 181 | 2類4種b | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R L + R l・2本逆方向付加、補修孔有り、口唇部平坦/注No602 | 黒浜式 | |
| 182 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 l の織継束 + L r・2本逆方向付加、口唇部平坦/注No13 | 黒浜式 | |
| 183 | 2類4種b | 床直 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R L + R l・2本逆方向付加/注No432 | 黒浜式 | |
| 184 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄不明 + R l・2本付加か/注No490 | 黒浜式 | |
| 185 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R l ? | R l 縄文か、口唇部やや溝(凹)状呈す/注NoB8 | 黒浜式 | |
| 186 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄不明 + R l・2本逆方向付加か/注NoD3 | 黒浜式 | |
| 187 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | L R ? + L r・3本逆方向付加/注NoA8 | 黒浜式 | |
| 188 | 2類4種b | 攪乱 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄不明 + L r・2本逆方向付加か/注NoH4 | 黒浜式 | |
| 189 | 2類4種b | 攪乱 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + L r 逆方向付加/注No1ボP2-1 | 黒浜式 | |
| 190 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 羽状縄文(左下・右上)軸縄 R L + R l 逆方向付加、(右下)軸縄 L R + R l 逆方向付加/注No496 | 黒浜式 | |
| 191 | 1類7種 | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 沈線 | ための短い沈線をやや斜めに並行に施文(刺し切り状沈線)か/注No589 | 黒浜式 | |
| 192 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + R l 逆方向付加、軸縄不明 + R l + R l 逆方向付加か/注No124 | 黒浜式 | |
| 193 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 L r ? + R l・2本付加か/注No54 | 黒浜式 | |
| 194 | 2類4種c | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + R l 逆方向付加 + R l 順方向付加、追加成形施文/注No541 | 黒浜式 | |
| 195 | 2類 | 床直 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R ? | 表面磨滅著しく不明、L R 縄文に付加縄文の可能性も有り/注No601 | 黒浜式 | |
| 196 | 2類4種c | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + R l 逆方向付加 + R l 順方向付加、追加成形施文/注No255 | 黒浜式 | |
| 197 | 2類4種c | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + R l 逆方向付加 + R l 順方向付加/注NoM2 | 黒浜式 | |
| 198 | 2類4種c | 床直 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄ため L r + L r 逆方向付加 + L r 順方向付加(縄目付付加)/注No601 | 黒浜式 | |
| 199 | 2類4種c | 床直 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 L r + R l 逆方向付加 + R l 付加、追加成形施文/注No601 | 黒浜式 | |
| 200 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l ? + L r・2本逆方向付加か/注NoB8 | 黒浜式 | |
| 201 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + R l・2本逆方向付加/注NoB7 | 黒浜式 | |
| 202 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + L r・2本逆方向付加/注NoA9 | 黒浜式 | |
| 203 | 2類4種c | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R L + R l 逆方向付加 + 細い R l 順方向付加/注NoD4 | 黒浜式 | |
| 204 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 L R + L r・2本逆方向付加/注No576 | 黒浜式 | |
| 205 | 2類4種b | 床直 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + R l・2本逆方向付加/注No602、622 | 黒浜式 | |
| 206 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l ? + r・2本付加か/注No131 | 黒浜式 | |
| 207 | 2類4種c | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 L r + L r 逆方向付加 + L r 順方向付加(綱目付付加)、口唇部溝(凹)状呈す/注No60 | 黒浜式 | |
| 208 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l ? + L r・2本付加か/注NoC1 | 黒浜式 | |
| 209 | 2類4種c | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 L r + L r 付加 + L r・2本逆方向付加/注NoC2 | 黒浜式 | |
| 210 | 2類4種 | 表土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l ? + R l・2本付加、口唇部溝(凹)状呈す/注NoH9 | 黒浜式 | |
| 211 | 2類4種c | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 L r + L r 付加 + L r・2本逆方向付加/注No85 | 黒浜式 | |
| 212 | 2類4種 | 床直 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文、 R l | 無節 R l 斜縄文と、軸縄 R L + R l 付加縄文か/注No434 | 黒浜式 | |
| 213 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 L r + L r・2本付加か、追加成形施文/注No168、519 | 黒浜式 | |
| 214 | 1類7種 | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l、沈線 | 地文 R l 縄文施文後に縦位沈線(刺し切り状沈線?)施文か/注No602 | 黒浜式 | |
| 215 | 1類7種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l、沈線 | 地文 R l 縄文施文後に縦位沈線(刺し切り状沈線?)施文/注No308 | 黒浜式 | |
| 216 | 2類4種a | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加条縄文 | 軸縄 R l + L r・2本付加、追加成形施文/注No607 | 黒浜式 | |
| 217 | 2類? | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 不明 | 縄文原体施文不明/注No290 | 黒浜式 | |
| 218 | 2類? | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 不明 | 縄文原体施文不明/注No192 | 黒浜式 | |

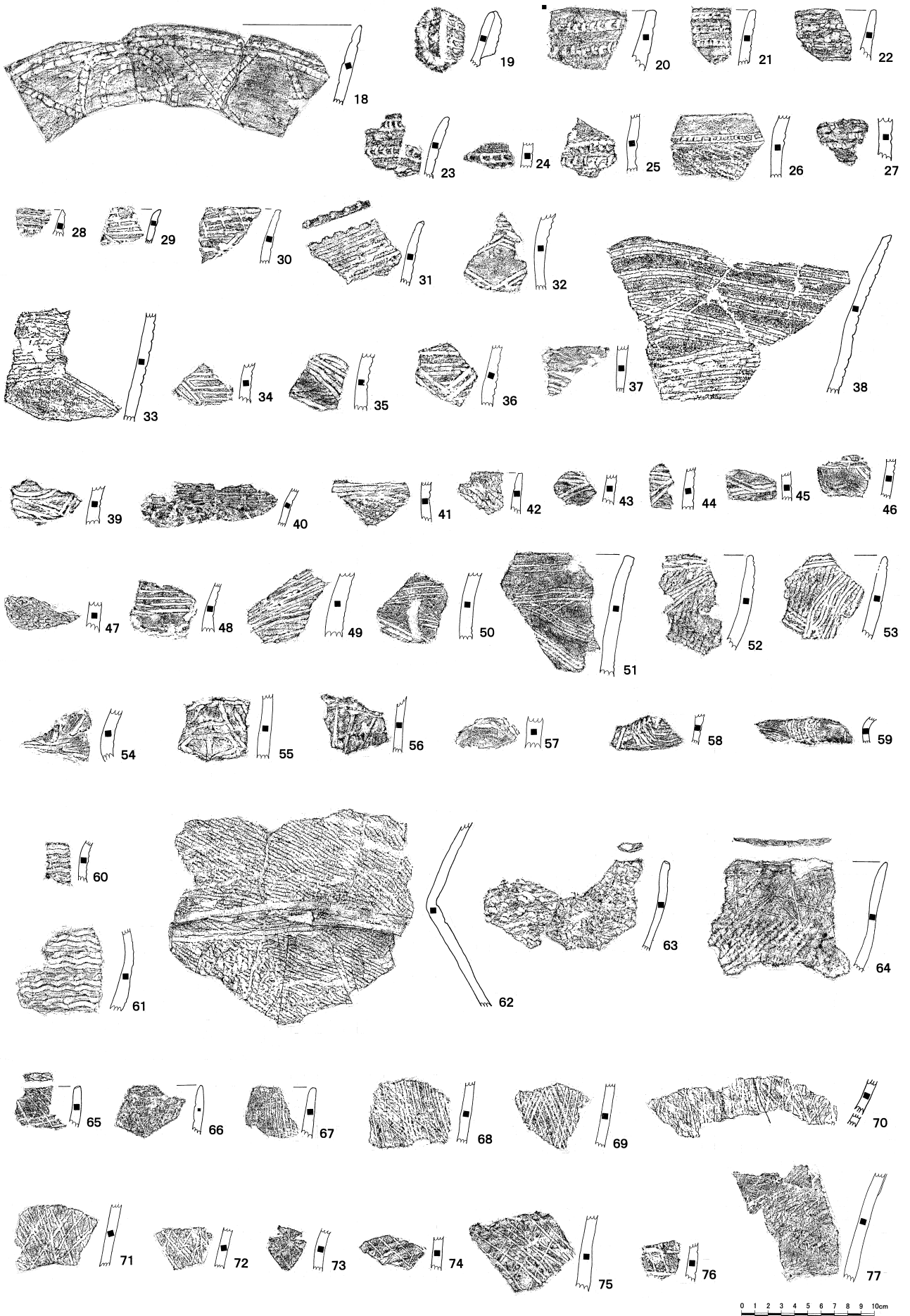
| 図版 番号 | 掲載 番号 | 分類 | 出土 状況 | 口径・胴径、 長さ×幅×厚さ | 底径・高さ | 遺存部位 | 器形 | 地文 | 文様要素/注記No | 時期・ 備考 |
|----------|----------|--------|----------|-------------------|-------------|--------|----|-------------------------|---|-----------|
| | 219 | 4類2種 | 覆土 | - | (4.1)・(6.6) | 胴下部~底部 | 深鉢 | 貝殻縁線文 | 貝殻縁線文を縦位から斜位に施文/注No445.D1・2・4 | 黒浜式 |
| | 220 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注No554 | 黒浜式 |
| | 221 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 口唇部にも貝殻背圧痕施文/注NoA9 | 黒浜式 |
| | 222 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注NoB9 | 黒浜式 |
| | 223 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 磨滅して判読が難しいが口唇部にも貝殻背圧痕施文か/注No514 | 黒浜式 |
| | 224 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注NoD2 | 黒浜式 |
| | 225 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注NoC1 | 黒浜式 |
| | 226 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注No315 | 黒浜式 |
| | 227 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 細かい貝殻背圧痕(サルボウカ)/注No147.148 | 黒浜式 |
| | 228 | 4類1種 a | 床上 | - | - | 口縁~胴下部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 底部から口縁部にかけて直線的に開く、口唇部平坦で一部や溝(凹)状呈す、追加成形施文/注No548,552,553,555,556,559,561,562,573,607.A8・9 | 黒浜式 |
| | 229 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 細かい貝殻背圧痕(サルボウカ)/注No232.C2 | 黒浜式 |
| | 230 | 4類1種 a | 床上 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 口唇部にも貝殻背圧痕施文/注No413,418,419 | 黒浜式 |
| | 231 | 4類1種 a | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 細かい貝殻背圧痕(サルボウカ)/注No611 | 黒浜式 |
| | 232 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注NoC1 | 黒浜式 |
| | 233 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注NoA8 | 黒浜式 |
| | 234 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注NoC1 | 黒浜式 |
| | 235 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注NoB2 | 黒浜式 |
| | 236 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注NoB9 | 黒浜式 |
| | 237 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注No288 | 黒浜式 |
| | 238 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕/注No220 | 黒浜式 |
| | 239 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 口唇部にも貝殻背圧痕施文/注No314 | 黒浜式 |
| | 240 | 4類1種 c | 撓乱 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕、 沈線 | 地文に貝殻背圧痕を施文後斜位に太く短い沈線施文(刺し切り状沈線か)/注NoH4 | 黒浜式 |
| | 241 | 4類1種 a | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 口唇部にも貝殻背圧痕施文/注No452 | 黒浜式 |
| | 242 | 5類 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 無文 | 小片のため原体不明、250と同一個体か/注NoC2 | 黒浜式 |
| | 243 | 5類 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 無文 | 口唇部平坦、249と同一個体か/注NoH6 | 黒浜式 |
| | 244 | 2類1種 | - | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R ? | 緩やかな波状口縁、口唇部溝(凹)状を呈す/注NoD3, 1ボ-2 | 黒浜式 |
| | 245 | 6類 | 覆土 | - | (5.6)・(3.7) | 底部 | 深鉢 | R l | 底部施文なし/注No45 | 黒浜式 |
| | 246 | 6類 | 覆土 | - | (2.5)・(7.1) | 底部 | 深鉢 | R l、L r | 羽状縄文、底部施文なし/注No463 | 黒浜式 |
| | 247 | 6類 | 床上 | - | (4.2)・(4.0) | 底部 | 深鉢 | 不明 | 器面磨滅で施文不明、底部施文なし/注No589,498 | 黒浜式 |
| | 248 | 6類 | 覆土 | - | (4.0)・(1.8) | 底部 | 深鉢 | R l ? | 底部施文なし/注No541 | 黒浜式 |
| | 249 | 6類 | 覆土 | - | (2.9)・(3.5) | 底部 | 深鉢 | R L | 底部施文なし/注No577 | 黒浜式 |
| | 250 | 6類 | 覆土 | - | 7.5・(2.4) | 底部 | 深鉢 | L r ? | 底部施文なし/注No624 | 黒浜式 |
| | 251 | 6類 | 覆土 | - | (2.0)・(4.6) | 底部 | 深鉢 | R L | 底部施文なし/注No11 | 黒浜式 |
| | 252 | 6類 | 覆土 | - | (7.5)・(3.6) | 底部 | 深鉢 | R l | 底部施文なし/注No586 | 黒浜式 |
| | 253 | 6類 | 撓乱 | - | (4.1)・(4.2) | 底部 | 深鉢 | R l | 底部施文なし/注NoH1 | 黒浜式 |
| | 254 | 6類 | 覆土 | - | (3.0)・(2.5) | 底部 | 深鉢 | 原体不明 | 胴部は磨滅のため縄文原体不明、底部施文なし/注No512.D4 | 黒浜式 |
| | 255 | 6類 | 覆土 | - | (5.2)・(3.3) | 底部 | 深鉢 | 原体不明 | 胴部は磨滅のため縄文原体不明、底部施文なし/注No513.B8 | 黒浜式 |
| | 256 | 6類 | 覆土 | - | (3.0)・(2.5) | 底部 | 深鉢 | 原体不明 | 底部施文なし/注No62.66 | 黒浜式 |
| | 257 | 6類 | 覆土 | - | (2.4)・(2.3) | 底部 | 深鉢 | R l | 底部施文なし/注No158.C2 | 黒浜式 |
| | 258 | 6類 | 覆土 | - | (2.7)・(3.0) | 底部 | 深鉢 | R l | 底部施文なし/注No370 | 黒浜式 |
| | 259 | 6類 | 床上 | - | 9.2・(3.2) | 底部 | 深鉢 | 原体不明 | 底部施文なし/注No605 | 黒浜式 |
| | 260 | 6類 | 覆土 | - | 12.0・(2.2) | 底部 | 深鉢 | R l ? | 底部施文なし/注No197,477 | 黒浜式 |
| | 261 | 6類 | 覆土 | - | (1.5)・(3.3) | 底部 | 深鉢 | 原体不明 | 底部施文なし/注NoA9 | 黒浜式 |
| | 262 | 6類 | 覆土 | - | (2.4)・(3.0) | 底部 | 深鉢 | 不明 | 上げ底気味、底部施文なし/注NoA5 | 黒浜式 |
| | 263 | 6類 | 覆土 | - | (2.2)・(2.6) | 底部 | 深鉢 | R L | 上げ底気味、底部施文なし/注No180 | 黒浜式 |
| | 264 | 6類 | 覆土 | - | (3.2)・(2.8) | 底部 | 深鉢 | 不明 | 胴部は磨滅のため縄文原体不明、底部施文なし/注NoA8 | 黒浜式 |
| | 265 | 6類 | 覆土 | - | (4.8)・(2.3) | 底部 | 深鉢 | L r | 底部施文なし/注NoD4 | 黒浜式 |
| | 266 | 6類 | 覆土 | - | (2.0)・(2.8) | 底部 | 深鉢 | 不明 | 胴部は磨滅のため縄文原体不明、底部施文なし/注NoC2 | 黒浜式 |
| | 267 | 6類 | 覆土 | - | (1.8)・(2.1) | 底部 | 深鉢 | R l | 上げ底気味、底部施文なし/注NoC2 | 黒浜式 |
| | 268 | 6類 | 覆土 | - | (1.4)・(3.4) | 底部 | 深鉢 | L R ? | 上げ底気味、底部施文なし/注NoC2 | 黒浜式 |
| | 269 | 6類 | P3 | - | (5.5)・(1.8) | 底部 | 深鉢 | R L | 上げ底気味、底部施文なし/注NoP3-2 | 黒浜式 |
| | 270 | 8類 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R L | 単節 R L 斜縄文、内面指頭圧痕、金雲母含む/注No440.H8 | 釈迦堂Z3式 |
| | 271 | 8類 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R | 無節 L r 斜縄文、内面指頭圧痕、金雲母含む/注No162 | 釈迦堂Z3式 |
| | 272 | 8類 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R L | 単節 R L 斜縄文、内面指頭圧痕、金雲母含む/注NoC4 | 釈迦堂Z3式 |
| | 273 | 8類 | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | 無節 L r 斜縄文、内面指頭圧痕、金雲母含む/注No621 | 釈迦堂Z3式 |
| | 274 | 8類 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R l | 単節 R l 斜縄文、内面指頭圧痕、金雲母含む/注No57 | 釈迦堂Z3式 |
| | 275 | 早期 | 床上 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻条痕/ 1号住居跡 覆土層出土 | 表裏貝殻条痕文/注No607 | 早期後半 |
| | 276 | 中期 | 堀跡 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 沈線 | 木口状工具で4本単位の条線施文/注NoM4/堀跡覆土層出土 | 中期 |
| | 277 | 中期 | 堀跡 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 沈線 | 木口状工具で条線施文/注NoM4/堀跡覆土層出土 | 中期 |
| | 278 | 中期 | 堀跡 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R L | 地文 R L + 沈線懸垂 + 幅広磨消し/注NoM1 | 加納II-E-II |
| | 279 | 中期 | 堀跡 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 沈線 | 沈線懸垂文 + 磨消し/注NoM2 | 加納II-E-II |
| | 280 | 中期 | 堀跡 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 沈線 | 沈線懸垂文 + 磨消し/注NoH2/堀跡覆土層出土 | 加納II-E-II |
| | 281 | 後期 | 堀跡 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 沈線 | 器厚薄く沈線直線的/注NoM3/堀跡覆土層出土 | 後期 |
| | 282 | 土製円板 | 覆土 | 4.0×3.8×1.1 | - | 完形 | - | 付加条縄文 | 側縁の調整はハッキリしない、軸縄不明+R l・2本を付加/注No425 | 黒浜式 |
| | 283 | 釘 | - | 11.1×0.8 | 頭 1.1 | ほぼ完形 | - | - | 断面丸で釘の周囲に木片が付着/注No1ボP2-1/火工廠水溜の防護柵跡のビット出土 | 近代 |
| | 284 | 釘 | - | 10.0×0.6 | 頭 0.9 | ほぼ完形 | - | - | 断面丸で釘の周囲に木片が付着/注No1ボP2-1/火工廠水溜の防護柵跡のビット出土 | 近代 |
| | 285 | 金属製品 | - | 7.7×2.4×1.5 | - | ほぼ完形 | - | - | 鉄製/重量39.48g/注No1ボ2/火工廠水溜の防護柵跡のビット出土 | 近代 |
| | 286 | 石鏃 | 覆土 | 1.9×1.2×0.3 | - | 一部欠損 | - | - | 石質：黒曜石/重量0.46g/注NoB8 | 前期 |
| | 287 | 磨製石斧 | 覆土 | 11.1×3.5×2.3 | - | 一部欠損 | - | - | 石質：輝緑岩/重量153.02g/注No134 | 前期 |
| | 288 | 磨製石斧 | 覆土 | 15.4×4.6×2.1 | - | 一部欠損 | - | - | 石質：緑色岩/重量251.91g/注No22 | 前期 |
| | 289 | 磨製石斧 | 覆土 | 15.0×6.2×3.7 | - | 一部欠損 | - | - | 石質：緑色凝灰岩/重量549.75g/注No35 | 前期 |
| | 290 | 敲石・磨石? | P5 | 12.4×7.0×4.6 | - | 一部欠損 | - | - | 石質：砂岩/重量521.37g/ビット5覆土出土/注No635 | 前期 |
| | 291 | 敲石・磨石? | 覆土 | 5.4×6.0×1.8 | - | 完形 | - | - | 石質：砂岩/重量74.22g/被熱のため脆い/注No56 | 前期 |
| | 292 | 敲石・磨石? | 覆土 | 8.9×6.3×2.7 | - | 1/4 | - | - | 石質：閃緑岩/重量224.33g/注No199 | 前期 |
| | 293 | 石皿 | 炉内 | 9.5×8.5×4.4 | - | 一部 | - | - | 石質：多孔質安山岩/重量308.07g/注No632 | 前期 |
| | 294 | 石皿 | 床直 | 18.1×19.0×6.5 | - | 1/2 | - | - | 石質：閃緑岩/重量3,670g/注No625 | 前期 |



第115図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物① (1/4)



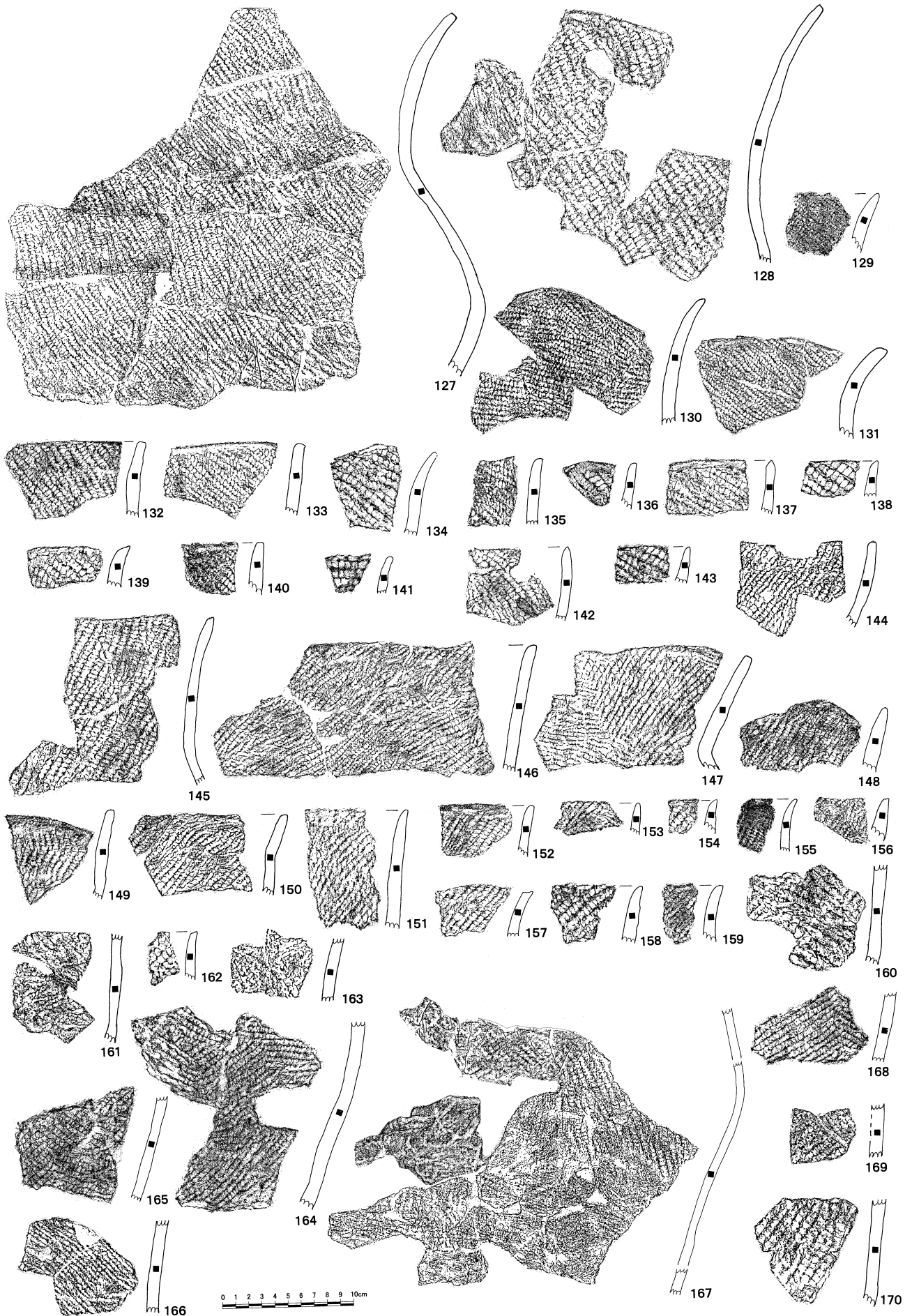
第116図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物② (1/4)



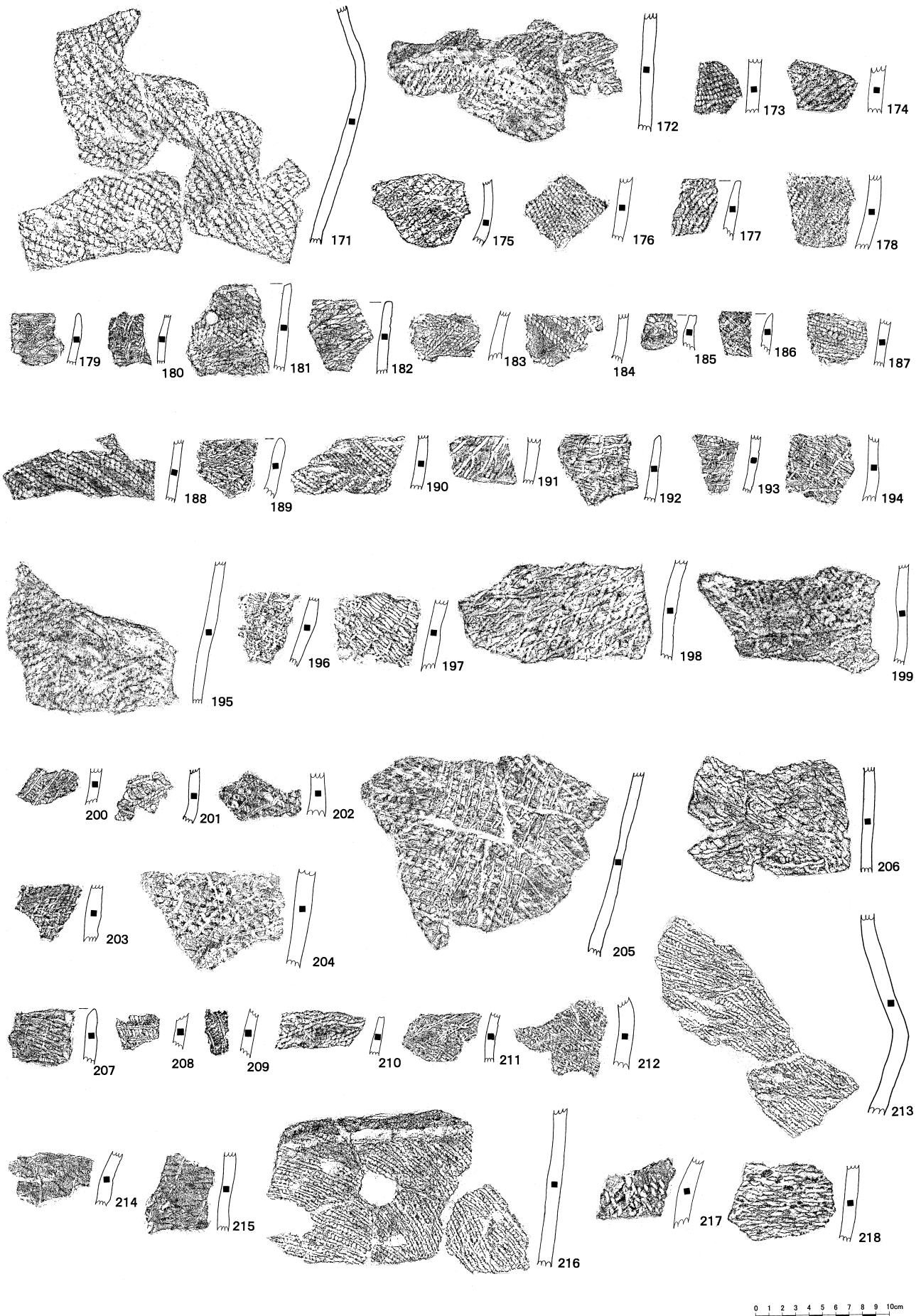
第117図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物③ (1/4)



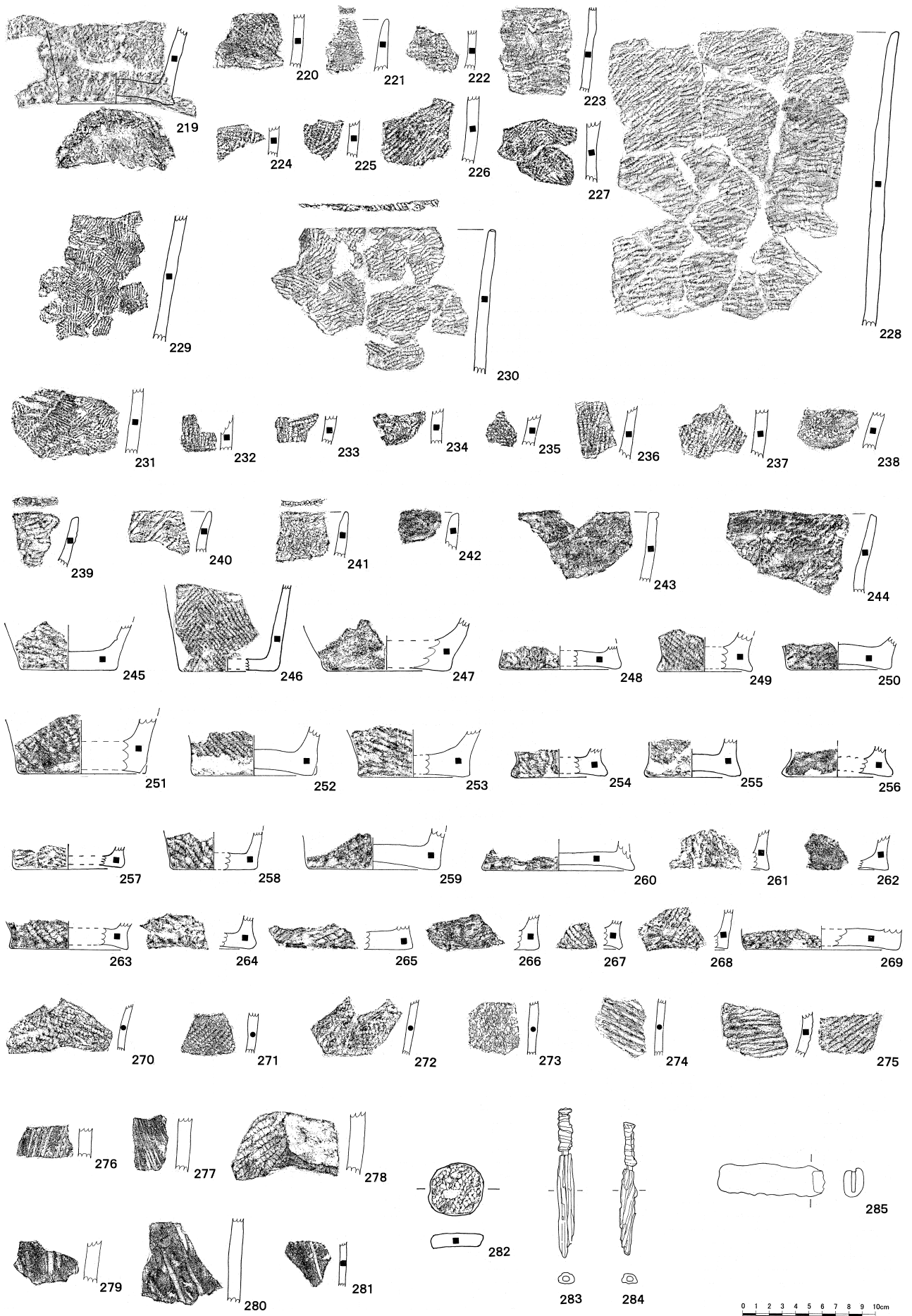
第118図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物④ (1/4)



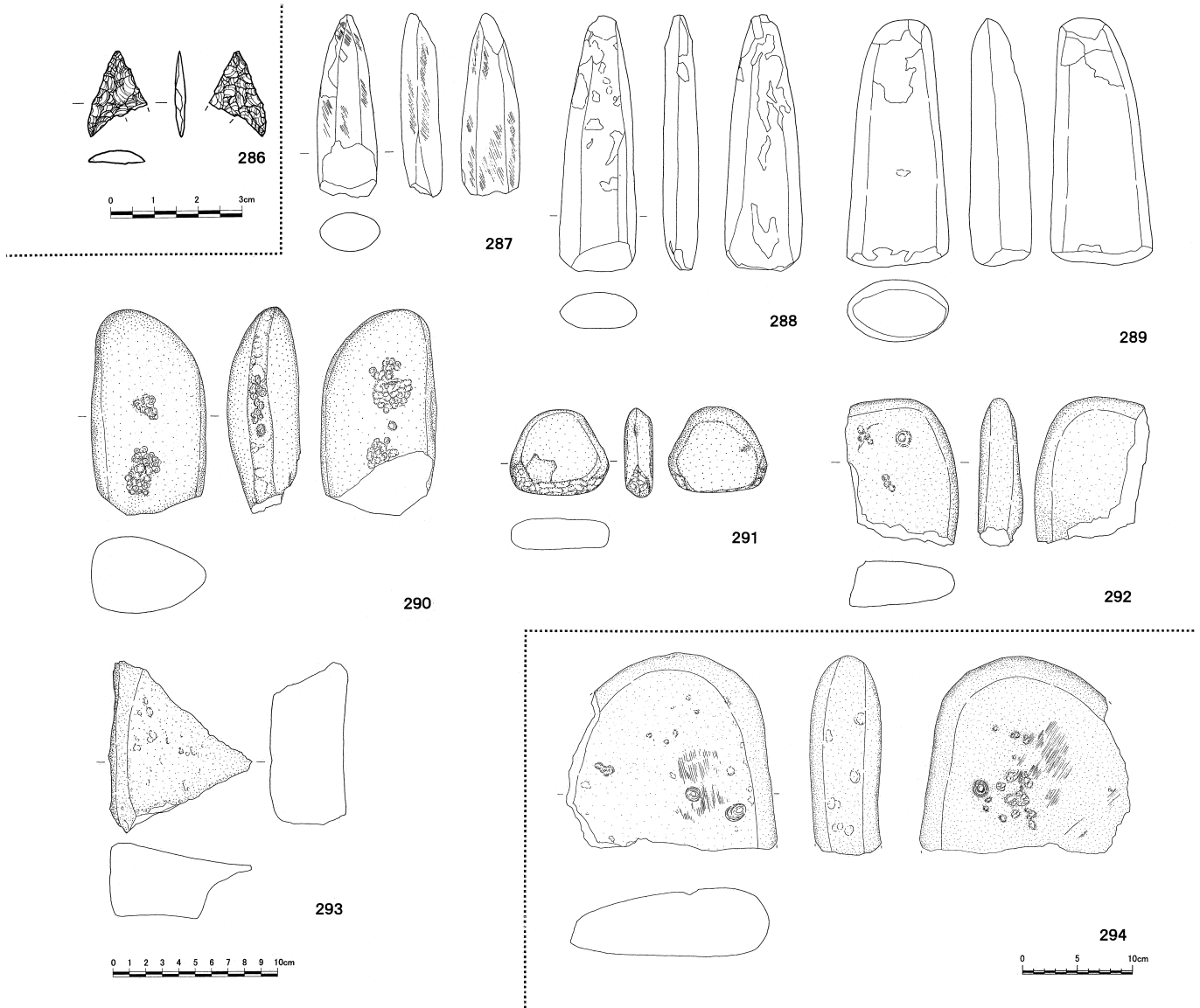
第119図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑤ (1/4)



第120図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑥ (1/4)



第121図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑦ (1/4)



第122図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑧ (1/4)

④ 2号住居跡

【位置】 調査区の北部で南方約4mには1号住居跡が位置する。主軸は推定でN-46°-Wである。

【形状・規模】 住居跡の南東部分は時期不明の堀跡により破壊され、1937（昭和12）年以前の耕作痕が東西に縞状に入り、住居北側隅には円形の攪乱や植栽の影響を受ける。全体の形状・規模は不明であるが、残存部の形状は台形を呈し、周溝は無い。

残存部の規模は長軸3.8m、短軸3.4~3.8m、深さは遺構確認面から床面まで32cmを測る。検出部分は攪乱以外完掘である。床面はほぼ平坦で貝層の分布範囲は特に硬化している。

【炉】 中央部南側に位置する。炉の平面形態は不整の長方形を呈し、底部は中央部から北側が赤褐色に良く焼けている。規模は長軸52cm、短軸43cm、深さは床面から6.4cmを測る。炉の壁際には直径4~10cm、深さ4.3~5.1cmの小ピットが4ヶ所みられる。

炉の他に貝層Ⅰ中央部の床面に被熱による焼土範囲が1ヶ所みられる。小グリットのB1・B2に位置し平面形は円形で直径約30cmの範囲が焼土化している。

【ピット】 住居跡に伴うピットは5基検出した。主柱穴はP1・2・5とみられる。

【遺物出土状況】 土器と石器の出土状況（第125図）は、貝層Ⅱと炉周辺に集中する。垂直方向では床面出土は少なく、貝層中または覆土の上層から僅かに出土する。

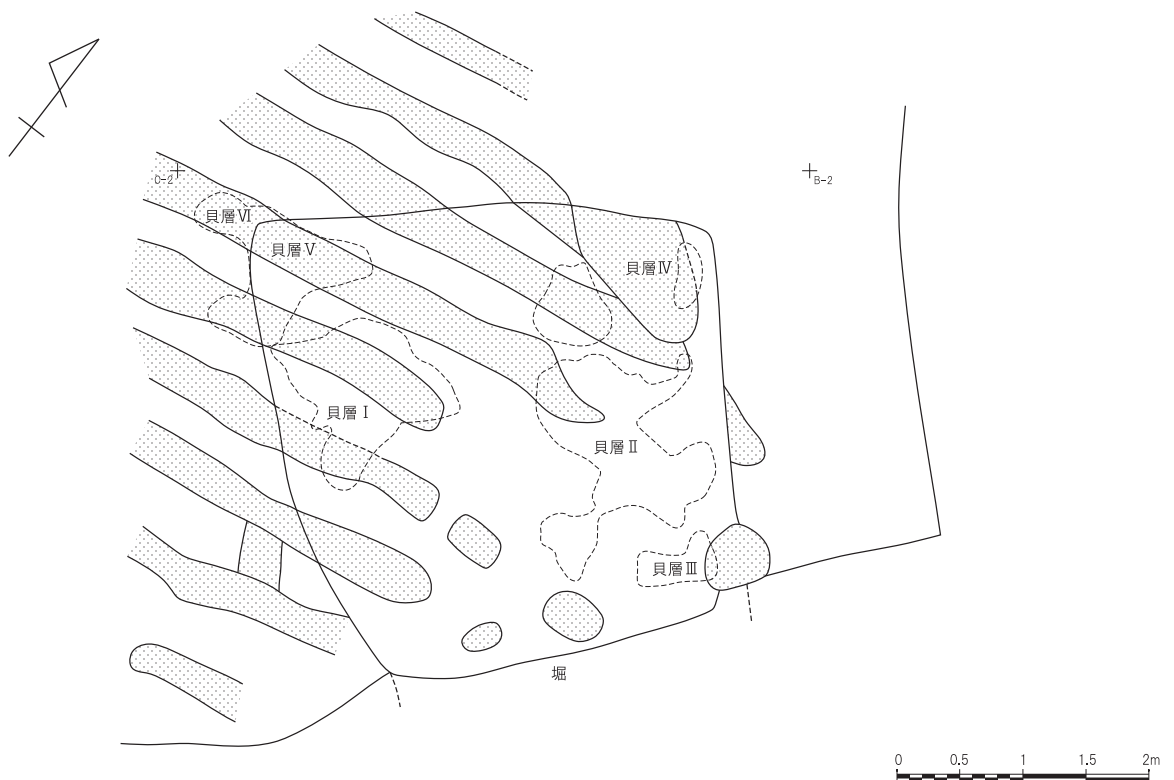
第61表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡ピット一覧表
(単位cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|-------|-------|------|----|
| 1 | 楕円形 | 27×20 | 8×8 | 39.6 | |
| 2 | 楕円形 | 28×18 | 5×3 | 38.5 | |
| 3 | 円形 | 11×10 | 4×3 | 13.8 | |
| 4 | 円形 | 16×15 | 6×4 | 19.4 | |
| 5 | 方形 | 22×22 | 15×12 | 49.4 | |

⑤ 2号住居跡貝層

【貝層の形成】 貝層の形成を平面分布で見ると、住居跡の東部（貝層Ⅰ・Ⅴ・Ⅵ）と西部（貝層Ⅱ~Ⅳ）に大きく分かれる。発掘調査の段階では貝層Ⅰ~Ⅵまで6ヶ所に分類したが、貝層Ⅱ・Ⅳ、Ⅴ・Ⅵは攪乱を受け分離するが、本来は同一貝層の可能性が高い。

貝層Ⅰ~Ⅵの形成は住居跡廃棄後すぐに始まる。貝



第123図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺構確認状況図 (1/60)

層Ⅰ・Ⅱの出土層位をみると、住居床面直上に近いところから始まる。住居壁際の覆土層や貝層Ⅱと重なる支柱穴P1の覆土層に貝層の堆積はなく、他の支柱穴や炉の覆土層にもみられない。貝層Ⅰ・Ⅱともに、ヤマトシジミ層とマガキ層が互層を成して堆積し、第133図2号住居跡貝層Ⅰ・Ⅱの層位のように対比する。最上層確認面のヤマトシジミ層①からヤマトシジミ層③まではほぼ対比する。

【貝層Ⅰ】住居跡北西の壁際近くに位置し、貝層Ⅴと隣接する。最上層のヤマトシジミ層①は、一部で耕作による攪乱の影響を受ける。

貝層は住居床面直上付近から堆積し、マガキ層③→ヤマトシジミ層③→マガキ層②→ヤマトシジミ層②→マガキ層①→ヤマトシジミ層①の順に形成される。マガキ③・②層は住居壁際に近い西側に長軸133×短軸90cmの不整形範囲に広がり、ヤマトシジミ層①に比して狭い。マガキ③層は南側で長軸90×短軸67cmの不整形に広がる。最上層のヤマトシジミ層①は、東西156×南北136cm×厚さ約15cmの不整形の範囲に広がる。

【貝層Ⅱ】住居跡東部の壁際近くに位置し北西部と南東部に大きく2分する。貝層Ⅲ・Ⅳと隣接し、貝層Ⅳとは攪乱により切断されるが、本来貝層Ⅱ・Ⅳは繋がっていた可能性もある。

貝層は床面直上から堆積し層序は1～5層まで、ヤマトシジミとマガキ層が互層を成す。床面直上からヤマトシジミ層③→マガキ層②→ヤマトシジミ層②→マガキ層①→ヤマトシジミ層①の順に形成される。

ヤマトシジミ層③は床面直上付近で20～30cmの数箇所範囲に廃棄される。次にマガキ層②・①は最上層のヤマトシジミ層①の範囲にほぼ近い範囲に廃棄されることから、貝層Ⅱの形成の基となった層といえる。マガキ層②・①層は間層にシジミ層②を挟むものの、厚さ5～8cm程に一面に敷き詰めたようにマガキを廃棄している。この廃棄の仕方は2号住居跡貝層Ⅰのマガキ①・②層と同じである。ヤマトシジミ層②はやや北側に寄り、範囲も長軸113×短軸95cmとやや狭い範囲に広がる。最上層のヤマトシジミ層①の分布は、南東部が東西160×南北203×厚さ約10cmの不整形範囲に、北西部は東西65×南北65×厚さ約13cmの範囲に広がる。

【貝層Ⅲ】住居跡の南部、貝層Ⅱの南側に位置し堀跡により南側を削平される。

貝層は床面直上から堆積し、層序は1～3層でヤマトシジミとマガキ層が互層を成す。床面直上からヤマ

トシジミ層→マガキ層→ヤマトシジミ層の順に形成される。耕作や堀跡の攪乱を受けるが、本来は貝層Ⅰ・Ⅱに準じる層序を呈するものと考えられる。ヤマトシジミ、マガキ層の分布範囲はほぼ重なっており、長軸60×短軸33×厚さ約9cmのL字状の範囲に広がる。

【貝層Ⅳ】住居跡北部隅の壁際近くに位置し、土坑状の攪乱と植栽による攪乱を受ける。住居跡壁際に土層が堆積した後に貝層の形成が始まる。ヤマトシジミを含むマガキ主体層が堆積し、その次にシジミ主体層が堆積する。ヤマトシジミ、マガキ層の分布範囲はほぼ重なっており、長軸55×短軸18cm×厚さ約5cmの楕円形の範囲に広がる。

【貝層Ⅴ】貝層Ⅴは住居跡西隅に位置する。貝層上部は耕作による攪乱を受けるが、下層は攪乱の影響はみられない。検出部の層序は上層にヤマトシジミ主体層、下層床面付近にマガキ主体層である。範囲は長軸54×短軸40cm×厚さ約12cmの不整形に広がる。本来貝層Ⅴに含まれる動物遺体や遺物が攪乱により移動したものと考えられる。

【貝層Ⅵ】住居跡の範囲確認時、住居跡外に延びる部分を貝層Ⅵとした。しかし検出の途中で全てが耕作に伴い住居跡内の貝層Ⅴから掘り起こされ移動したものであることが判明したため、取り上げた貝類は攪乱の一括として取り扱った。

⑥2号住居跡出土土器（第128・129図）

第1類第1種土器 8は磨滅しているが2列の爪形文を施す。9は沈線で菱形文をつくる有尾式とみられる。

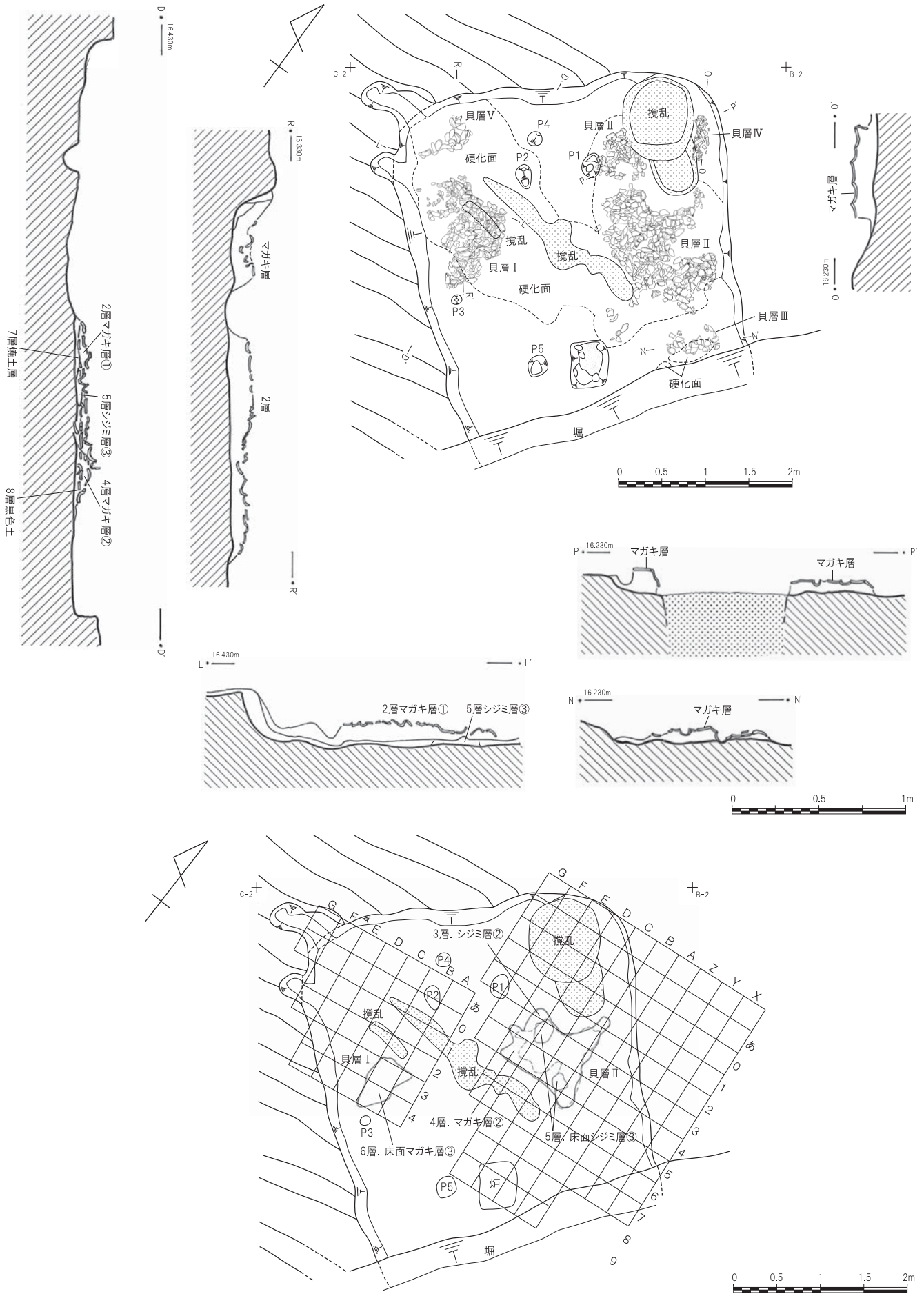
第1類第2種、第3種土器 10は半截竹管状工具で沈線を施し1種の可能性もある。11は篋状工具で浅い沈線状文様を施文する。

第2類第1種土器 1、3、4～7、12～44、46～48、60、68は無節斜縄文を施文する。2～4は口縁部が直線的に外反する深鉢形土器である。3はR1無節斜縄文に部分的に縦位に縄文を施文し、胴部中央で追加成形施文がみられる。1は胴部の括れ部で追加成形施文を行ない、括れを境に上下で施文が異なる。上部はR1斜縄文と縦位縄文を交互に施文し、胴下部で縦位縄文を施文する。5から7は深鉢形土器の胴下部から底部である。6は上げ底ぎみの底部で、底部外側の接地部分に縄の圧痕がみられる。24は無節R1縄文と単節RL縄文を施文する。1、3、43は追加成形施文がみられ、27、28も同様かと思われる。67、69は縄文施文であるが、磨滅のため原体不明である。

第62表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物観察表

(単位cm)

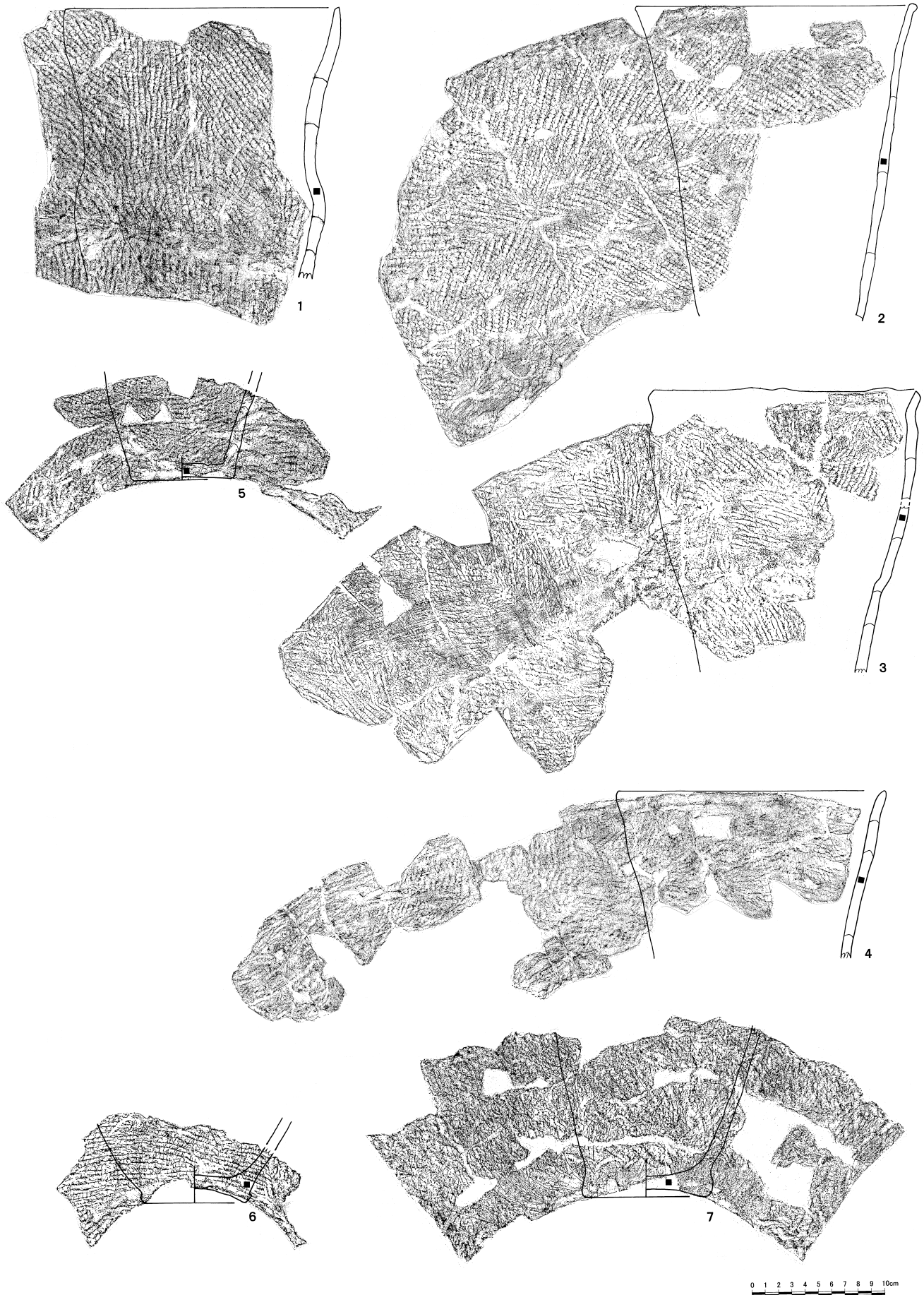
| 図版 番号 | 掲載 番号 | 分類 | 出土 状況 | 口径・胴径、 長さ×幅×厚さ | 底径・高さ | 遺存部位 | 器形 | 地文 | 文様要素/注記No | 時期・ 備考 |
|---------------|----------|-------|----------|-------------------|------------|------|----|---------|---|-----------|
| 第 128 図 | 1 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - (20.4) | 口縁部 | 深鉢 | R 1 | 口縁部斜位縄文と縦位縄文を交互施文、胴下部縦位縄文、追加成形施文/注No39, 40, 107 | 黒浜式 |
| | 2 | 2類2種 | 攪乱 | (22.3)・- | - (23.5) | 2/3 | 深鉢 | L R、R L | 単節R L羽状縄文/注No70, 71, 88, 91, 95, 104, 106, カイ8 | 黒浜式 |
| | 3 | 2類1種 | 貝Ⅱ | 20.7・- | - (21.3) | 3/4 | 深鉢 | R 1 | 斜位縄文に部分的に縦位に近い縄文施文、追加成形施文/注No47, 76, 102, 101, 118, A区3 | 黒浜式 |
| | 4 | 2類1種 | 貝Ⅱ | (20.3)・- | - (12.4) | 3/4 | 深鉢 | L r | /注No69, H1・2 | 黒浜式 |
| | 5 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | 8.0・(8.2) | 底部 | 深鉢 | L r | 胴下部から底部残存/注No67, 68, H1, B区3, Bベルト1 | 黒浜式 |
| | 6 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | 7.8・(6.4) | 底部 | 深鉢 | R 1 | 胴下部から底部残存、底部に縄圧痕有り/注No52 | 黒浜式 |
| | 7 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | 9.5・(10.3) | 胴下部 | 深鉢 | R 1 | 胴下部から底部残存、S字状結節有り/注No46, 54, 55, 76, 78~80, カイ10~12 | 黒浜式 |
| 第 129 図 | 8 | 1類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 2列の連続爪形文施文、波状口縁部か/注NoD区1 | 有尾式 |
| | 9 | 1類1種 | 攪乱 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 沈線の鋸歯文(菱形文)施文、波状口縁部/注No3, 4 | 有尾式 |
| | 10 | 1類3種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 半截竹管状工具の内面で沈線施文/注No33 | 黒浜式 |
| | 11 | 1類2種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | - | 口唇部刻目、篋状工具を撫でて沈線状文様施す/注NoH1 | 黒浜式 |
| | 12 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R 1 | /注No25~27, 75 | 黒浜式 |
| | 13 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注No102 | 黒浜式 |
| | 14 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R 1 | 口唇部沈線状の沈線がめぐる/注NoH6 | 黒浜式 |
| | 15 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R 1 | /注NoB区2 | 黒浜式 |
| | 16 | 2類1種 | 貝Ⅳ | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R 1 | /注No103 | 黒浜式 |
| | 17 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R 1 | /注NoA区2 | 黒浜式 |
| | 18 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 口縁部 | 深鉢 | 無節縄文 | /注No37 | 黒浜式 |
| | 19 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R 1 | /注NoA区3 | 黒浜式 |
| | 20 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | R 1 | /波状口縁/注No38 | 黒浜式 |
| | 21 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注No16 | 黒浜式 |
| | 22 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注NoD区2 | 黒浜式 |
| | 23 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No42 | 黒浜式 |
| | 24 | 2類1種 | 貝Ⅴ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1、R L | 追加成形施文/注No89, 90, 98, 99, H3, カイ6・8 | 黒浜式 |
| | 25 | 2類1種 | 貝Ⅴ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No92, 93 | 黒浜式 |
| | 26 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | 追加成形施文か/注No76 | 黒浜式 |
| | 27 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No30 | 黒浜式 |
| | 28 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | 追加成形施文か/注No45 | 黒浜式 |
| | 29 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無節縄文 | /注No29 | 黒浜式 |
| | 30 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注NoH2 | 黒浜式 |
| | 31 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No45 | 黒浜式 |
| | 32 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無節縄文 | /注No108 | 黒浜式 |
| | 33 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No61 | 黒浜式 |
| | 34 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No2 | 黒浜式 |
| | 35 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No20 | 黒浜式 |
| | 36 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No64 | 黒浜式 |
| | 37 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No78 | 黒浜式 |
| | 38 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No37 | 黒浜式 |
| | 39 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無節縄文 | /注No5 | 黒浜式 |
| | 40 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無節縄文 | /注NoH2 | 黒浜式 |
| | 41 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無節縄文 | /注NoH1 | 黒浜式 |
| | 42 | 2類1種 | 貝Ⅰ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | /注No22 | 黒浜式 |
| | 43 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1 | 追加成形施文/注NoH6 | 黒浜式 |
| | 44 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無節縄文 | /注No13 | 黒浜式 |
| | 45 | 2類1種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R | /注NoH2 | 黒浜式 |
| | 46 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L r | /注No65 | 黒浜式 |
| | 47 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | R 1・L R | 無節R 1と単節L R施文/注No41 | 黒浜式 |
| | 48 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 無節縄文 | /注No36 | 黒浜式 |
| | 49 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加縄文 | 軸縄? + L r・2本逆方向付加/注No59 | 黒浜式 |
| | 50 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加縄文 | 軸縄? + R 1・2本付加/注No62 | 黒浜式 |
| | 51 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加縄文 | 軸縄L r + R 1・2本付加/注No64 | 黒浜式 |
| | 52 | 2類4種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加縄文 | 軸縄無節 + L r付加/注NoH2 | 黒浜式 |
| | 53 | 2類4種b | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加縄文 | 軸縄L r + R 1・2本付加/注NoA区3 | 黒浜式 |
| | 54 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加縄文 | 軸縄? + R 1・2本付加/注NoC区2 | 黒浜式 |
| | 55 | 2類4種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加縄文 | 軸縄R 1? + L r・2本?付加/注No51, 100 | 黒浜式 |
| | 56 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 付加縄文 | 軸縄R 1? + L r・2本?付加/注Noベルト1 | 黒浜式 |
| | 57 | 2類2種 | 攪乱 | - | - | 口縁部 | 深鉢 | L R | /注NoH2 | 黒浜式 |
| | 58 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R | /注No97, 104, 105 | 黒浜式 |
| | 59 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L rかL R | 無節か単節か磨減で判読難しい/注No8 | 黒浜式 |
| | 60 | 2類1種 | 貝Ⅱ | - | - | 胴部 | 深鉢 | L r | /注No35 | 黒浜式 |
| | 61 | 2類2種 | 攪乱 | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R | /注H2 | 黒浜式 |
| | 62 | 2類2種 | 貝Ⅷ | - | - | 胴部 | 深鉢 | L R | /注Noカイ8 | 黒浜式 |
| | 63 | 4類1種b | 覆土 | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻背圧痕 | 貝殻背圧痕 + 縄文(R 1かR L不明)施文/注No31, 32, 73, H2, ベルト2 | 黒浜式 |
| | 64 | 2類2種 | 覆土 | - | - | 胴下部 | 深鉢 | L R | /注No104 | 黒浜式 |
| | 65 | 5類 | 覆土 | - | - | 胴下部 | 深鉢 | L R | 口縁部~胴部に施文の可能性有り/注No30 | 黒浜式 |
| | 66 | 2類4種 | 覆土 | - | - | 胴下部 | 深鉢 | 付加縄文 | 胴下部から底部、磨減で軸縄不明、付加は1本か/注No11 | 黒浜式 |
| | 67 | 2類 | 覆土 | - | - | 胴下部 | 深鉢 | 縄文 | 胴下部から底部、磨減で縄文不明、底部施文なし/注No63 | 黒浜式 |
| | 68 | 2類1種 | 覆土 | - | - | 胴下部 | 深鉢 | L r | 胴下部から底部、底部施文なし/注No10 | 黒浜式 |
| | 69 | 2類 | 覆土 | - | - | 底部 | 深鉢 | 縄文 | 底部施文なし/注No1 | 黒浜式 |
| | 70 | 貝殻条痕文 | 貝Ⅶ | - | - | 胴部 | 深鉢 | 貝殻条痕文 | 早期貝殻条痕文系土器、外面貝殻条痕文、内面磨減著しく不明/注Noカイ7 | 縄文早期 |
| | 71 | | 攪乱 | - | - | 胴下部 | 浅鉢 | 無文 | 中期浅鉢胴部で無文、磨き施す/注NoH2 | 縄文中期 |
| | 72 | 泥メンチ | 覆土 | 2.5×2.3×0.8cm | | 一部欠損 | - | - | 土製品：泥メンチ/重さ3.97g/注NoD区1 | 近世 |
| | 73 | 石鏃 | 覆土 | 2.1×1.8×0.4cm | | 完形 | - | - | 石器/石鏃/石質：黒曜石/重量1.03g/注No77 | 縄文前期 |
| | 74 | 磨製石斧 | 覆土 | 12.0×4.8×3.0cm | | 一部欠損 | - | - | 石器/磨製石斧/石質：緑色岩/重量307.2g/注No110 | 縄文前期 |
| | 75 | 敲石 | 覆土 | 13.3×11.4×6.1cm | | 一部欠損 | - | - | 石器/敲石/石質：砂岩/重量1,092.6g/注No53 | 縄文前期 |
| | 76 | 軽石 | 覆土 | 2.7×2.4×1.6cm | | 完形 | - | - | 石器/軽石/重量2.48g/注NoA区1 | 縄文前期 |



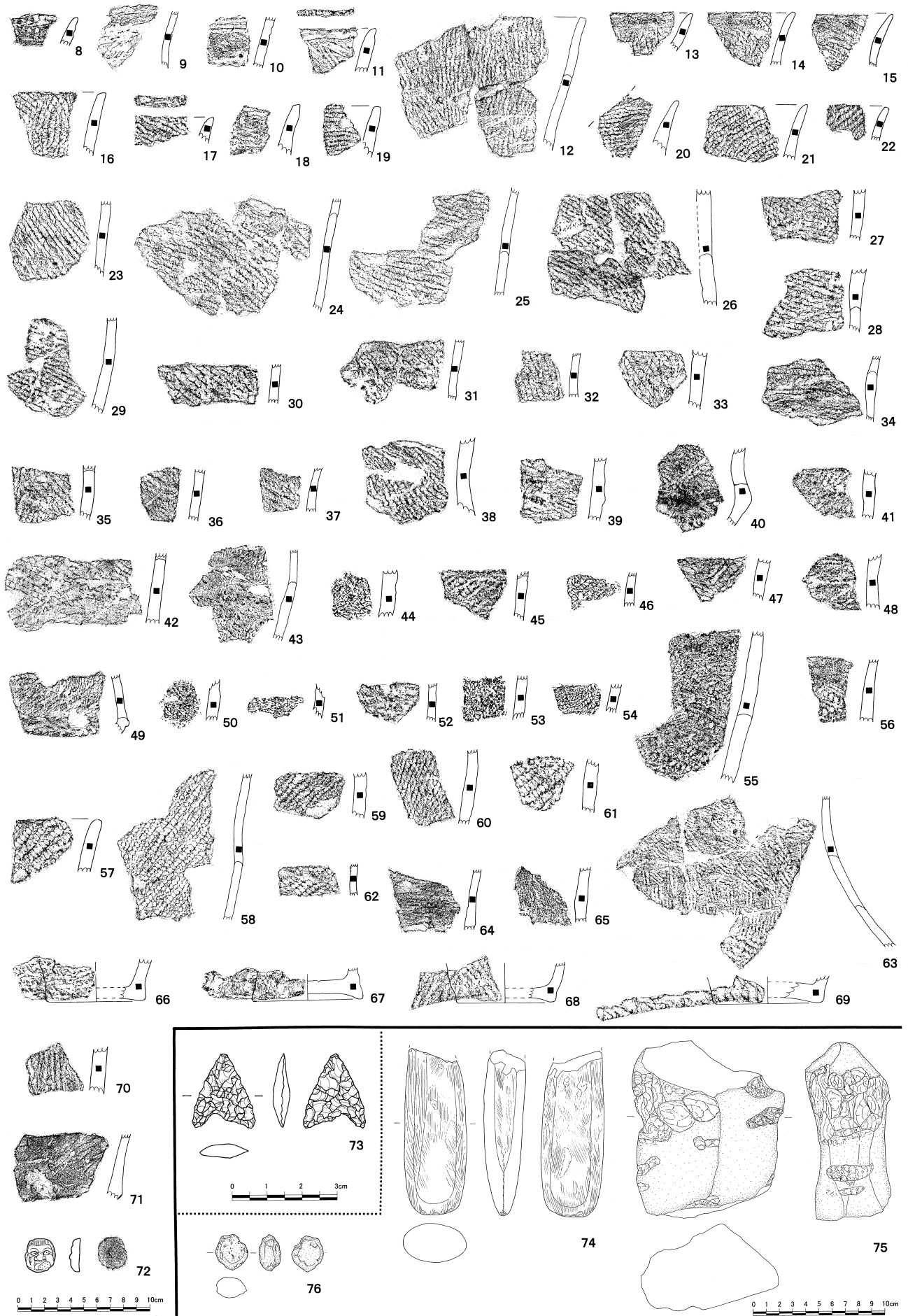
第126図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層形成図・マガキ層①・②出土状況図(1/60)、土層図(1/30)



第127図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層形成図① (1/60)



第128図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物① (1/4)



第129図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物② (1/4・2/3)

第2類第2種土器 2、45、57～59、61、62、64は単節斜縄文の土器である。2は本住居で唯一の羽状菱形縄文を構成する。作りは粗雑であるが胴中央部で施文を変える。59は磨滅のためL r かL Rか不明である。

第2類第4種土器 49～56、66は付加縄文である。軸縄の圧痕が浅いのと2本の縄を付加するものが多く見られる。本住居跡出土土器には付加縄文と他の縄文原体を施文したものはみられない。

第4類第1種b土器 63はハイガイを用いた貝殻背圧痕と地文にR 1 かR L斜縄文を施文した土器である。

第5類土器 65は無文土器であるが他の部位には施文がある可能性がある。

1～69の土器は、8・9は縄文時代前期有尾式土器で他は全て黒浜式に属する。1～69の土器胎土には全て繊維を含んでいる。1号住居跡から出土した第8類甲信系土器は2号住居跡からは1点も出土していない。

70は早期の貝殻条痕文系土器である。内面は磨滅のため施文不明。

71は中期の浅鉢形土器の体部で無文である。

72は近世以降の泥メンチである。

73～75は前期に属するとみられる石器である。76は軽石である。

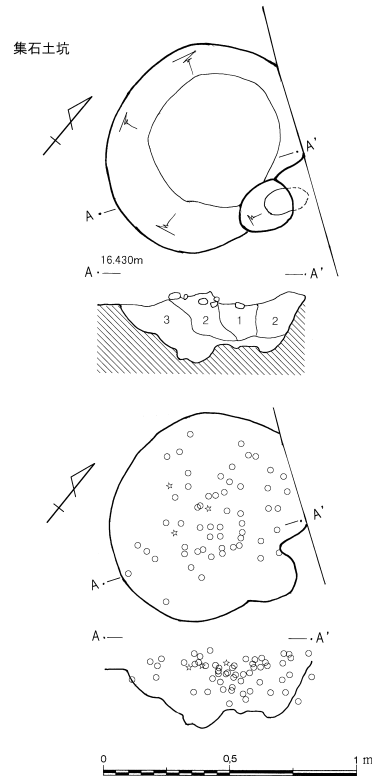
⑦集石土坑

縄文時代に属するとみられる集石土坑を調査区南部で1基検出した。1号住居跡の東1.5mに位置し東側の一部は調査区外に延びる。

平面形態は楕円形を呈する。規模は確認面径85×70cm、底径52×50cm、深さ16.5cmである。

⑧堀跡

調査区中央部に位置し、東西の調査区外へ延びる。2号住居跡より新しく、水溜と現代のゴミ穴に攪乱される。土層の観察から、市内の亀久保堀跡遺跡や駒林遺跡等で検出される堀跡に類似するため、古代から中世の時期に属するものとみられる。断面形は逆台形を呈し、検出部の規模は上幅2.2m、下幅1.6m、深さ1.45mである。



第130図 上福岡貝塚第1地点集石土坑 (1/30)

第63表 上福岡貝塚第1地点集石土坑・出土礫観察表

単位：cm・個数・g (%)

| 集石No | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 礫範囲 | 総点数 | 総重量 | 平均重量 | 破損個数 | 完形個数 | 焼成個数 | 未焼成個数 | タール・煤付着数 | タール・煤未付着数 |
|------|------|-------|-------|------|-------|-----|---------|------|-----------|---------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 | 楕円形 | 85×70 | 52×50 | 16.5 | 75×58 | 224 | 6,567.5 | 29.3 | 208(92.9) | 16(7.1) | 53(23.7) | 171(76.3) | 22(9.8) | 202(90.2) |

(2) 産出した動物遺体群

①貝層の調査

①-1 貝層の概要

2軒の住居跡内よりそれぞれ貝層が検出した。1号住居跡からは14ヶ所の貝層がブロック状に点在して検出した。2号住居跡からは6ヶ所の貝層が検出したものの貝層IとIIを中心に住居跡内全体に敷き詰めるような状態で検出した。それらの層序は次の通りである。1号住居跡より検出した貝層はほとんどのものが単層であり、貝層2など複数の層によって形成されているものは層位がやや複雑であった。それに対して、2号住居跡のものは、ヤマトシジミ主体層とマガキ主体層が整然と互層になって検出された。

①-2 資料の抽出方法

1号住居跡は貝層ごとに一括もしくは層位ごとに、2号住居跡は、まず貝層IとIIは30cm×30cmのグリッドを設定し、そのグリッドで層位ごとに、その他の貝層は一括で、それぞれ土ごとサンプルを採集した。それらのサンプルは、5.0mm、2.5mm、1.2mm目の篩を用いた水洗選別法と浮遊選別法によって資料の抽出をおこなった。その手順は以下の通りである。

1. 遺跡において土ごと採取した貝層サンプルを乾燥させ、重量を計測。
2. 水洗選別法および浮遊選別法で資料を抽出。
3. 再度、資料を乾燥させ、重量を計測。
4. 分類・同定作業。

分類作業の方法は篩ごとに異なる。5.0mm目篩上残留資料はすべて分類をおこなった。2.5mmおよび1.2mm目篩上残留資料のほとんどのものは、無作為に一部を取り分けて、重量を計測した後、その分だけ分類をおこなった。なお、水生微小貝類、陸生貝類、脊椎動物の各遺体に関しては、すべて抽出した。浮遊選別法によって抽出された資料に関しては、水生微小貝類、陸生貝類、種子のみを抽出した。

なお、2号住居跡の貝層IのD1グリッドと貝層IIのD3グリッドに関しては、将来的に本報告と異なった方法で分析がおこなわれることも想定し、水洗せず現場にて採集されたままの状態での保存することにした。

以上の方法で抽出した動物遺体を第64表に示す。

本書では報告に最低限必要なデータのみを提示し、詳細なデータは、DVDに収めた。

①-3 混貝率 (第65・66表)

本報告において、重量データによる混貝率を提示した。

第64表 上福岡貝塚第1地点より産出した動物遺体群種名表

| | |
|--------------------------|---|
| 軟体動物門 MOLLUSCA | |
| 腹足綱 GASTROPODA | |
| タニシ科 Viviparidae | <i>Cipangopaludina japonica</i> (Martens, 1860) |
| オオタニシ | |
| ウミナ科 Batillariidae | <i>Batillaria multiformis</i> (Lischke, 1869) |
| ウミナ | |
| フトヘナタリ科 Potamididae | <i>Cerithidea (Cerithideopsis) djadjariensis</i> (Martin, 1899) |
| カワアイ | |
| カワニナ科 Pleuroceridae | <i>Semisulcospira reiniana</i> Brot, 1877 |
| チリメンカワニナ | |
| カワグチツボ科 Iravadiidae | <i>Iravadia elegantula</i> (A. Adams, 1863) |
| カワグチツボ | |
| カワザンショウガイ科 Assimineidae | <i>Assiminea hiradoensis</i> Habe, 1942 |
| ヒラドカワザンショウ | <i>Assiminea parasitologica</i> Kuroda, 1958 |
| ムシヤドリカワザンショウ | |
| アツキガイ科 Muricidae | |
| イボニシ | <i>Thais (Reishia) clavigera</i> (Kuster, 1860) |
| アカニシ | <i>Rapana venosa</i> (Valenciennes, 1846) |
| トウガタガイ科 Pyramidellidae | <i>Odostomia</i> sp. |
| クチケレモドキ類 | <i>Brachystomia bipyrmidata</i> (Nomura, 1936) |
| カキウラクチケレモドキ | |
| キバサナギガイ科 Vertiginidae | <i>Vertigo hirasei</i> Pilsbry, 1901 |
| キバサナギガイ | |
| キセルガイ科 Clausilidae | <i>Zaptychopsis buschi</i> (Pfeiffer, 1846) |
| ヒカリキセル | |
| オカクチケレガイ科 Subulinidae | <i>Allopeas kyotoense</i> (Pilsbry & Hirase, 1904) |
| オカチョウジガイ | <i>Allopeas pyrgula</i> (Schmacker & Boettger, 1891) |
| ホソオカチョウジガイ | |
| コハクガイ科 Zonitidae | <i>Hawaiiia</i> sp. |
| ヒメコハクガイの一種 | |
| ベッコウマイマイ科 Helicarionidae | <i>Discocomulus sinapidium</i> (Reinhardt, 1877) |
| ヒメベッコウガイ | <i>Discocomulus?</i> sp. |
| ヒメベッコウガイ類似種 | |
| 二枚貝綱 BIVALVIA | |
| フネガイ科 Arcidae | <i>Scapharca kagoshimensis</i> (Tokunaga, 1906) |
| サルボウ | <i>Tegillarca granosa</i> (Linnaeus, 1758) |
| ハイガイ | |
| イタボガキ科 Ostreidae | <i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg, 1793) |
| マガキ | |
| インシガイ科 Unionidae | <i>Unio douglasiae nipponensis</i> Martens, 1877 |
| インシガイ | <i>Inversidens japonensis</i> (Lea, 1859) |
| マツカサガイ | |
| バカガイ科 Mactridae | <i>Mactra veneriformis</i> Deshayes in Reeve, 1854 |
| シオフキ | |
| フナガタガイ科 Trapezidae | <i>Trapezium liratum</i> (Reeve, 1843) |
| ウネナントマヤガイ | |
| シジミ科 Corbiculidae | <i>Corbicula japonica</i> Prime, 1864 |
| ヤマトシジミ | |
| マルスタレガイ科 Veneridae | <i>Ruditapes philippinarum</i> (Adams & Reeve, 1850) |
| アサリ | <i>Meretrix lusoria</i> (Röding, 1798) |
| ハマグリ | |
| オオノガイ科 Myidae | <i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i> Makiyama, 1935 |
| オオノガイ | |
| クチベニガイ科 Corbulidae | <i>Potamocorbula laevis</i> Hinds, 1843 |
| ヒラタヌマコダキガイ | |
| 節足動物門 ARTHROPODA | |
| 顎脚綱 MAXILLOPODA | |
| フジツボ類 | barnacles |
| 脊椎動物門 VERTEBRATA | |
| 軟骨魚綱 CHONDRICHTHYES | |
| エイ亜区 BATOIDEA | |
| 硬骨魚綱 OSTEICHTHYES | |
| ニシン科 Clupeidae | |
| コイ科 Cyprinidae | |
| 鳥綱 AVES | |

具体的には、水洗後の分類によって抽出された水生貝類遺体群の総重量を水洗前のサンプル総重量で割ることで求めている。但し、2.5mm及び1.2mm目篩上残留資料に関しては、一部しか分類をおこなっていない。そこで、分類をおこなった分の資料の割合からそれぞれの資料における水生貝類遺体群の割合を推定し、それを分析に用いた。その結果は、第65・66表に提示した。

【1号住居跡】(第65表)

本住居跡内において、50%を超えるのは貝層1(50%)のみである。層位で概観しても、貝層1の2層・床直上、貝層2の6層、貝層4の3層のみである。さらに、40%を超えているのも貝層1の1層、貝層2の2層・3層・3'層、貝層8の1層(東側)に限られる。つまり、全体的に混貝率が低く、その傾向は西側の貝層にいくほど顕著である。

第65表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡の貝層における混貝率

| 貝層 | 層位 | 重量(g) | | 混貝率 |
|--------|---------------|---------|--------|-------|
| | | 全体 | 貝類 | |
| 貝層1 | 1層 | 2060.0 | 886.7 | 43.0% |
| | 2層 | 1466.7 | 876.1 | 59.7% |
| | 床直上 | 50.6 | 26.1 | 51.5% |
| | 全体(合計) | 3577.3 | 1788.8 | 50.0% |
| 貝層2 | 1層(東側) | 3112.7 | 842.5 | 27.1% |
| | 2層(東側) | 89.8 | 39.0 | 43.4% |
| | 3層(東側) | 1650.8 | 685.4 | 41.5% |
| | 3'層(東側) | 1330.4 | 548.6 | 41.2% |
| | 1～3・3'層(西側一括) | 5187.6 | 1785.6 | 34.4% |
| | 5層 | 3496.3 | 1304.5 | 37.3% |
| | 6層 | 1928.0 | 1082.6 | 56.2% |
| 全体(合計) | 16795.6 | 6288.3 | 37.4% | |
| 貝層3 | 一括 | 59.9 | 12.2 | 20.3% |
| 貝層4 | 1層 | 4459.1 | 1191.5 | 26.7% |
| | 2層 | 980.4 | 147.9 | 15.1% |
| | 3層 | 21.3 | 14.8 | 69.5% |
| | 4層 | 494.0 | 132.1 | 26.7% |
| | 一括 | 1140.4 | 170.4 | 14.9% |
| | 全体(合計) | 7155.1 | 1668.9 | 23.3% |
| 貝層5 | 一括 | 554.6 | 134.5 | 24.2% |
| 貝層6 | 1層 | 1651.8 | 617.8 | 37.4% |
| | 2層 | 698.1 | 175.2 | 25.1% |
| | 一括 | 1274.1 | 331.0 | 26.0% |
| | 全体(合計) | 3624.0 | 1258.5 | 34.7% |
| 貝層7 | 一括 | 1831.1 | 154.4 | 8.4% |
| 貝層8 | 1層(東側) | 3520.3 | 1545.0 | 43.9% |
| | 1層(西側) | 1777.2 | 617.0 | 34.7% |
| | 2層(東側) | 2386.3 | 178.7 | 7.5% |
| | 2'層(東側) | 3041.0 | 204.9 | 6.7% |
| | 2・2'層(西側) | 3473.3 | 15.9 | 0.5% |
| 全体(合計) | 14198.1 | 2561.5 | 18.0% | |
| 貝層9 | 1層(東側) | 5332.2 | 1502.4 | 28.2% |
| | 1層(西側) | 3062.0 | 728.1 | 23.8% |
| | 2層(東側) | 467.9 | 52.3 | 11.2% |
| | 2層(西側) | 1735.4 | 1.9 | 0.1% |
| | 全体(合計) | 10597.5 | 2284.7 | 21.6% |
| 貝層10 | 一括 | 1398.7 | 278.6 | 19.9% |
| 貝層11 | 1層 | 1198.4 | 342.1 | 28.5% |
| | 2層 | 543.3 | 16.1 | 3.0% |
| | 3層 | 929.8 | 121.7 | 13.1% |
| | 一括 | 51.3 | 6.1 | 11.9% |
| | 全体(合計) | 2722.8 | 486.0 | 17.9% |
| 貝層12 | 一括 | 4209.9 | 1027.7 | 24.4% |
| 貝層13 | 一括 | 865.7 | 271.7 | 31.4% |
| 貝層14 | 一括 | 1550.6 | 345.8 | 22.3% |

第66表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡の貝層における混貝率(層位別)

| 貝層 | 層位 | 重量(g) | | 混貝率 |
|------|----|---------|---------|-------|
| | | 全体 | 貝類 | |
| 貝層I | 1層 | 43906.9 | 24698.2 | 56.3% |
| | 2層 | 16844.6 | 11377.0 | 67.5% |
| | 3層 | 11600.1 | 6054.5 | 52.2% |
| | 4層 | 3339.7 | 2378.3 | 71.2% |
| | 5層 | 2124.1 | 948.6 | 44.7% |
| | 6層 | 4134.8 | 1589.5 | 38.4% |
| | 床直 | 1363.4 | 16.9 | 1.2% |
| 貝層II | 1層 | 47744.1 | 23525.6 | 49.3% |
| | 2層 | 31973.0 | 18279.7 | 57.2% |
| | 3層 | 5336.0 | 1779.7 | 33.4% |
| | 4層 | 2479.5 | 1069.3 | 43.1% |
| | 5層 | 430.5 | 38.3 | 8.9% |

【2号住居跡】(第66表)

貝層I 4層より上層はすべて50%を超えている。下層においても5層が45%、6層が38%と比較的高い値を示している。マガキ主体層は極めて値が高く、2層が68%、4層が71%である。

貝層II 50%を超えるのは2層のみである。5層が9%である他は比較的高い値を示しているが、貝層Iほどではない。なお、マガキ主体層(2・4層)は、それぞれの直上のヤマトシジミ主体層(1・3層)よりも高い値を示している点では、貝層Iとやや近い傾向を示している。(層位に関する詳細は「②-1 水生貝類遺体群：組成」を参照のこと) (阿部)

②水生貝類遺体群

②-1 組成

産出した貝類遺体群の組成は水生と陸生に分けて検討する。水生貝類のうち5.0mm篩で取り上げたものを大型貝類として住居跡ごとに分析を行い、1.2mm篩と浮遊選別法によって取り上げたものを微小貝として分析を行った。今回2.5mm篩によって取り上げた貝類遺体はほとんどなく、分析の対象から外すこととした。

なお、貝類遺体群の組成は、主に最小個体数をもとに検討した。今回最小個体数の計上は、まず貝層のグリッドおよび層位ごとに最小個体数を算出し、全体の組成ではそれらを合算した。

上福岡貝塚第1地点全体で産出した水生貝類遺体群は、17科23種、最小個体数で30,225個体、重量は123,881gであった。内訳は、ヤマトシジミ26,912個体(89.0%)・64,215g(51.8%)、マガキ2,958個体(9.8%)・

58,282g (47.0%) の2種がほとんどを占め、他にアサリ、オオタニシなどが産出した。(第67表)

以下、住居跡ごとに検討を進める。

【1号住居跡】

1号住居跡では、貝層は14ヶ所のブロック状で堆積しており、貝層1～貝層14に分けて取り上げた。1号住居跡全体で産出した水生貝類遺体群は13科16種、最小個体数で3,873個体、重量は17,169gであった。内訳はヤマトシジミ2,140個体 (55.3%)・6,201g (36.1%)、マガキ1,514個体 (39.1%)・10,325g (60.1%) の2種がほとんどを占め、ついでオオタニシ96個体(2.5%)・322g (1.9%) などが産出した(第67表・第69表)。貝層ごとに大小はさまざまであり (第131図)、住居跡の北

東寄りの貝層はヤマトシジミを主体とし、南西寄りほどマガキ主体の傾向が読み取れた (第132図)。貝層2は他と比較して規模が大きく、種類も豊富で淡水生の貝類が目立った。1号住居跡からのみ産出したものは、ハイガイ、ウミナナ類、カワアイ?、イボニシ、アカニシ、マツカサガイの6種があるが、ハイガイは殻長1cm前後の小さいものばかりであった。以下、貝層ごとに組成をまとめる。

貝層1 8種、最小で302個体、1,741g産出した。主体はヤマトシジミ (272個体・90.1%)、ついでマガキ (18個体・6.0%)、オオタニシ (5個体・1.7%) であった。

貝層2 13種、最小で1,733個体、6,115g産出した。

第67表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡から産出した水生貝類遺体群の組成

| 貝層 | オオタニシ | ウミナナ類 | カワアイ? | カワニシ | チリメン | イボニシ | アカニシ | サルボウ | ハイガイ | マガキ | イシガイ | マツカサガイ | シオフキ | トマヤガイ | ウネナシ | ヤマトシジミ | アサリ | ハマグリ | オオノガイ | 合計 |
|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|--------|-------|-------|----------|--------|--------|-------|-----------|----|
| 1号住全体 | 最小個体数 | 96 | 1 | 1 | 28 | 1 | 2 | - | 10 | 1514 | 6 | 1 | 9 | 6 | 2140 | 23 | 27 | 8 | 3873 | |
| | 割合 (%) | 2.48 | 0.03 | 0.03 | 0.72 | 0.03 | 0.05 | - | 0.26 | 39.09 | 0.15 | 0.03 | 0.23 | 0.15 | 55.25 | 0.59 | 0.70 | 0.21 | | |
| | 重量 | 322.47 | 0.15 | 0.04 | 30.36 | 0.09 | 30.41 | - | 12.47 | 10325.44 | 15.59 | 1.52 | 32.31 | 0.77 | 6200.73 | 35.86 | 145.32 | 15.08 | 17168.61 | |
| 2号住全体 | 最小個体数 | 13 | - | - | 9 | - | - | 1 | - | 1444 | 1 | - | 2 | 8 | 24772 | 78 | 13 | 11 | 26352 | |
| | 割合 (%) | 0.05 | - | - | 0.03 | - | - | 0.004 | - | 5.48 | 0.004 | - | 0.01 | 0.03 | 94.00 | 0.30 | 0.05 | 0.04 | | |
| | 重量 | 30.71 | - | - | 7.63 | - | - | 0.21 | - | 47956.19 | 0.18 | - | 0.47 | 3.32 | 58014.30 | 590.21 | 81.87 | 26.98 | 106712.07 | |
| 貝塚全体 | 最小個体数 | 109 | 1 | 1 | 37 | 1 | 2 | 1 | 10 | 2958 | 7 | 1 | 11 | 14 | 26912 | 101 | 40 | 19 | 30225 | |
| | 割合 (%) | 0.36 | 0.003 | 0.003 | 0.12 | 0.003 | 0.01 | 0.003 | 0.03 | 9.79 | 0.02 | 0.003 | 0.04 | 0.05 | 89.04 | 0.33 | 0.13 | 0.06 | | |
| | 重量 | 353.18 | 0.15 | 0.04 | 37.99 | 0.09 | 30.41 | 0.21 | 12.47 | 58281.63 | 15.77 | 1.52 | 32.78 | 4.09 | 64215.03 | 626.07 | 227.19 | 42.06 | 123880.68 | |
| 貝層1 | 最小個体数 | 5 | 1 | - | 2 | - | - | - | - | 18 | 1 | - | - | - | 272 | - | 2 | 1 | 302 | |
| | 割合 (%) | 1.7 | 0.3 | - | 0.7 | - | - | - | - | 6.0 | 0.3 | - | - | - | 90.1 | - | 0.7 | 0.3 | | |
| | 重量 | 17.64 | 0.15 | - | 1.75 | - | - | - | - | 904.29 | 0.22 | - | - | - | 798.85 | - | 16.62 | 1.15 | 1740.67 | |
| 貝層2 | 最小個体数 | 83 | - | 1 | 24 | - | - | - | 5 | 56 | 5 | 1 | 1 | 1 | 1534 | 10 | 6 | 6 | 1733 | |
| | 割合 (%) | 4.8 | - | 0.1 | 1.4 | - | - | - | 0.3 | 3.2 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 88.5 | 0.6 | 0.3 | 0.3 | | |
| | 重量 | 274.56 | - | 0.04 | 28.02 | - | - | - | 4.87 | 1283.67 | 15.37 | 1.52 | 1.86 | 0.07 | 4401.81 | 17.32 | 72.45 | 13.78 | 6115.34 | |
| 貝層3 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | 6 | - | - | - | 7 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | - | 14.3 | - | - | - | - | 85.7 | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | - | - | - | 2.26 | - | - | - | - | 9.3 | - | - | - | 11.56 | |
| 貝層4 | 最小個体数 | 7 | - | - | - | 1 | - | - | 1 | 139 | - | - | 6 | 2 | 243 | 10 | 4 | 1 | 414 | |
| | 割合 (%) | 1.7 | - | - | - | 0.2 | - | - | 0.2 | 33.6 | - | - | 1.4 | 0.5 | 58.7 | 2.4 | 1.0 | 0.2 | | |
| | 重量 | 30.21 | - | - | - | 0.09 | - | - | 2.58 | 773.45 | - | - | 28.87 | 0.4 | 640.44 | 17.03 | 17.24 | 0.15 | 1510.46 | |
| 貝層5 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 8 | - | - | - | - | 3 | - | - | - | 12 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | 8.3 | 66.7 | - | - | - | - | 25.0 | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | - | - | 2.06 | 110.99 | - | - | - | - | 9.7 | - | - | - | 122.75 | |
| 貝層6 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | - | - | - | 153 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 154 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | - | 99.4 | - | - | - | - | 0.6 | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1032.86 | - | - | - | - | 0.15 | - | - | - | 1033.01 | |
| 貝層7 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | 1 | - | 1 | 20 | - | - | - | - | 5 | - | - | - | 27 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | 3.7 | - | 3.7 | 74.1 | - | - | - | - | 18.5 | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | 18.34 | - | 1.29 | 131.35 | - | - | - | - | 3.56 | - | - | - | 154.54 | |
| 貝層8 | 最小個体数 | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | 414 | - | - | 1 | 1 | 55 | - | - | 1 | 474 | |
| | 割合 (%) | 0.2 | - | - | 0.2 | - | - | - | - | 87.3 | - | - | 0.2 | 0.2 | 11.6 | - | - | 0.2 | | |
| | 重量 | 0.06 | - | - | 0.06 | - | - | - | - | 2017.74 | - | - | 0.84 | 0.1 | 280.68 | - | - | 0.66 | 2300.14 | |
| 貝層9 | 最小個体数 | - | - | - | 1 | - | 1 | - | 1 | 342 | - | - | - | - | 12 | 3 | 8 | - | 368 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | 0.3 | - | 0.3 | - | 0.3 | 92.9 | - | - | - | - | 3.3 | 0.8 | 2.2 | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 0.53 | - | 12.07 | - | 1.55 | 1952.88 | - | - | - | - | 42.84 | 1.51 | 29.45 | - | 2040.83 | |
| 貝層10 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | - | - | - | 40 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 41 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | - | 97.6 | - | - | - | - | 2.4 | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | - | - | - | 244.92 | - | - | - | - | 0.19 | - | - | - | 245.11 | |
| 貝層11 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 66 | - | - | 1 | 2 | 6 | - | - | 5 | 81 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | 1.2 | 81.5 | - | - | 1.2 | 2.5 | 7.4 | - | - | 6.2 | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | - | - | 0.12 | 404.33 | - | - | 0.74 | 0.2 | 11.09 | - | - | 7.1 | 423.58 | |
| 貝層12 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | - | - | - | 178 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 179 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | - | 99.4 | - | - | - | - | 0.6 | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | - | - | - | 917.51 | - | - | - | - | 1.19 | - | - | - | 918.7 | |
| 貝層13 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | - | - | - | 45 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 46 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | - | 97.8 | - | - | - | - | - | - | - | 2.2 | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | - | - | - | 239.32 | - | - | - | - | - | - | - | 1.8 | 241.12 | |
| 貝層14 | 最小個体数 | - | - | - | - | - | - | - | - | 34 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 35 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | - | 97.1 | - | - | - | - | 2.9 | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | - | - | - | - | - | 309.87 | - | - | - | - | 0.93 | - | - | - | 310.8 | |
| | 割合 (%) | - | - | - | - | - | - | - | - | 99.7 | - | - | - | - | 0.3 | - | - | - | | |

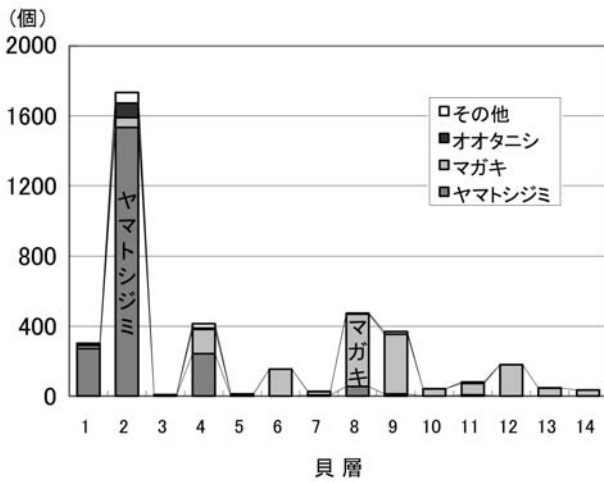
第68表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡から産出した水生貝類遺体群の組成

| 貝層 | 層位 (グリッド) | | オオタニシ | チリメン カワニナ | サルボウ | マガキ | インガイ | シオフキ | トマヤガイ ウネナシ | ヤマトシジミ | アサリ | ハマグリ | オノガイ | 合計 | フジツボ類 |
|-------------------|--------------|-------|-------|--------------|----------|----------|------|------|---------------|----------|--------|-------|----------|----------|-------|
| 貝層Ⅰ | 1層 | 最小個体数 | 2 | - | - | 43 | - | - | 1 | 8165 | 28 | 2 | 1 | 8242 | 有 |
| | | 割合(%) | 0.02 | - | - | 0.52 | - | - | 0.01 | 99.07 | 0.34 | 0.02 | 0.01 | - | |
| | | 重量 | 1.18 | - | - | 1738 | - | - | 0.9 | 20675.81 | 237 | 19.58 | 2.9 | 22675.37 | |
| | 2層 | 最小個体数 | - | 1 | - | 252 | 1 | 1 | 1 | 400 | 3 | - | 1 | 660 | 有 |
| | | 割合(%) | - | 0.15 | - | 38.18 | 0.15 | 0.15 | 0.15 | 60.61 | 0.45 | - | 0.15 | - | |
| | | 重量 | - | 1.26 | - | 9079.14 | 0.18 | 0.18 | 0.71 | 833 | 6.23 | - | 0.71 | 9921.41 | |
| | 3層 | 最小個体数 | - | - | - | 118 | - | - | - | 1378 | 6 | 2 | 5 | 1509 | 有 |
| | | 割合(%) | - | - | - | 7.82 | - | - | - | 91.32 | 0.40 | 0.13 | 0.33 | - | |
| | | 重量 | - | - | - | 2411.68 | - | - | - | 2904.52 | 14.78 | 0.79 | 20.93 | 5352.7 | |
| | 4層 | 最小個体数 | - | - | - | 51 | - | - | - | 103 | - | - | - | 154 | 有 |
| | | 割合(%) | - | - | - | 33.12 | - | - | - | 66.88 | - | - | - | - | |
| | | 重量 | - | - | - | 1510.28 | - | - | - | 210.81 | - | - | - | 1721.09 | |
| | 5層 | 最小個体数 | - | 1 | - | 24 | - | - | 1 | 218 | 1 | - | - | 245 | 有 |
| | | 割合(%) | - | 0.41 | - | 9.80 | - | - | 0.41 | 88.98 | 0.41 | - | - | - | |
| | | 重量 | - | 0.83 | - | 375.99 | - | - | 0.05 | 434.65 | 0.07 | - | - | 811.59 | |
| 3~5層 (B1) | 最小個体数 | - | - | - | 2 | - | - | - | 21 | - | - | - | 23 | | |
| | 割合(%) | - | - | - | 8.70 | - | - | - | 91.30 | - | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 117.19 | - | - | - | 51.39 | - | - | - | 168.58 | | |
| 6層 (B3) | 最小個体数 | - | - | - | 8 | - | - | - | 30 | - | - | 1 | 39 | | |
| | 割合(%) | - | - | - | 20.51 | - | - | - | 76.92 | - | - | 2.56 | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 193.23 | - | - | - | 56.55 | - | - | 0.49 | 250.27 | | |
| 層位不明 および 攪乱 | 最小個体数 | - | - | - | 2 | - | - | - | 24 | - | - | - | 26 | | |
| | 割合(%) | - | - | - | 7.69 | - | - | - | 92.31 | - | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 7.26 | - | - | - | 63.75 | - | - | - | 71.01 | | |
| 合計 | 最小個体数 | 2 | 2 | - | 500 | 1 | 1 | 3 | 10339 | 38 | 4 | 8 | 10898 | 有 | |
| | 割合(%) | 0.02 | 0.02 | - | 4.59 | 0.01 | 0.01 | 0.03 | 94.87 | 0.35 | 0.04 | 0.07 | - | | |
| | 重量 | 1.18 | 2.09 | - | 15432.77 | 0.18 | 0.18 | 1.66 | 25230.48 | 258.08 | 20.37 | 25.03 | 40972.02 | | |
| 貝層Ⅱ | 1層 | 最小個体数 | 6 | 1 | - | 67 | - | 1 | - | 9150 | 8 | 5 | 1 | 9239 | 有 |
| | | 割合(%) | 0.06 | 0.01 | - | 0.73 | - | 0.01 | - | 99.04 | 0.09 | 0.05 | 0.01 | - | |
| | | 重量 | 21.91 | 1.34 | - | 1376.03 | - | 0.29 | - | 21122.84 | 74.92 | 32.76 | 0.39 | 22630.48 | |
| | 2層 | 最小個体数 | 2 | 2 | - | 416 | - | - | 2 | 547 | 5 | 3 | 1 | 978 | 有 |
| | | 割合(%) | 0.20 | 0.20 | - | 42.54 | - | - | 0.20 | 55.93 | 0.51 | 0.31 | 0.10 | - | |
| | | 重量 | 6.28 | 0.49 | - | 15693.91 | - | - | 0.75 | 1030.77 | 10.76 | 23 | 1.39 | 16767.35 | |
| | 3層 | 最小個体数 | 1 | 2 | 1 | 51 | - | - | 1 | 335 | 1 | - | 1 | 393 | 有 |
| | | 割合(%) | 0.25 | 0.51 | 0.25 | 12.98 | - | - | 0.25 | 85.24 | 0.25 | - | 0.25 | - | |
| | | 重量 | 0.13 | 0.22 | 0.21 | 972.56 | - | - | 0.02 | 553.04 | 0.34 | - | 0.17 | 1526.69 | |
| | 4層 | 最小個体数 | - | - | - | 42 | - | - | - | 22 | - | - | - | 64 | |
| | | 割合(%) | - | - | - | 65.63 | - | - | - | 34.38 | - | - | - | - | |
| | | 重量 | - | - | - | 955.98 | - | - | - | 36.69 | - | - | - | 992.67 | |
| | 5層 | 最小個体数 | - | - | - | 2 | - | - | - | 25 | - | - | - | 27 | |
| | | 割合(%) | - | - | - | 7.41 | - | - | - | 92.59 | - | - | - | - | |
| | | 重量 | - | - | - | 4.65 | - | - | - | 24.18 | - | - | - | 28.83 | |
| 4・5層 (E3) | 最小個体数 | - | - | - | 23 | - | - | - | 39 | - | - | - | 62 | 有 | |
| | 割合(%) | - | - | - | 37.10 | - | - | - | 62.90 | - | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 443.71 | - | - | - | 91.88 | - | - | - | 535.59 | | |
| 一括 | 最小個体数 | - | - | - | 4 | - | - | - | 35 | - | - | - | 39 | | |
| | 割合(%) | - | - | - | 10.26 | - | - | - | 89.74 | - | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 21.96 | - | - | - | 62.32 | - | - | - | 84.28 | | |
| 攪乱 (E0) | 最小個体数 | - | - | - | 13 | - | - | - | 37 | - | - | - | 50 | | |
| | 割合(%) | - | - | - | 26.00 | - | - | - | 74.00 | - | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 431.86 | - | - | - | 65.89 | - | - | - | 497.75 | | |
| 合計 | 最小個体数 | 9 | 5 | 1 | 618 | - | 1 | 3 | 10190 | 14 | 8 | 3 | 10852 | 有 | |
| | 割合(%) | 0.08 | 0.05 | 0.01 | 5.69 | - | 0.01 | 0.03 | 93.90 | 0.13 | 0.07 | 0.03 | - | | |
| | 重量 | 28.32 | 2.05 | 0.21 | 19900.66 | - | 0.29 | 0.77 | 22987.61 | 86.02 | 55.76 | 1.95 | 43063.64 | | |
| 貝層Ⅲ | 一括 | 最小個体数 | 1 | - | - | 40 | - | - | 1 | 1287 | 18 | 1 | - | 1348 | 有 |
| | | 割合(%) | 0.07 | - | - | 2.97 | - | - | 0.07 | 95.47 | 1.34 | 0.07 | - | - | |
| | | 重量 | 1.12 | - | - | 1447.29 | - | - | 0.24 | 3225.74 | 174.45 | 5.74 | - | 4854.58 | |
| 貝層Ⅲ・Ⅳ | 一括 | 最小個体数 | - | - | - | 1 | - | - | - | 147 | - | - | - | 148 | |
| | | 割合(%) | - | - | - | 0.68 | - | - | - | 99.32 | - | - | - | - | |
| | | 重量 | - | - | - | 9.98 | - | - | - | 304.47 | - | - | - | 314.45 | |
| 貝層Ⅳ | 一括 | 最小個体数 | - | 2 | - | 85 | - | - | - | 189 | - | - | - | 276 | 有 |
| | | 割合(%) | - | 0.72 | - | 30.80 | - | - | - | 68.48 | - | - | - | - | |
| | | 重量 | - | 3.49 | - | 3561.33 | - | - | - | 377.59 | - | - | - | 3942.41 | |
| 貝層Ⅴ | 一括 | 最小個体数 | 1 | - | - | 167 | - | - | 1 | 1851 | 2 | - | - | 2022 | 有 |
| | | 割合(%) | 0.05 | - | - | 8.26 | - | - | 0.05 | 91.54 | 0.10 | - | - | - | |
| | | 重量 | 0.09 | - | - | 6488.7 | - | - | 0.65 | 4218.59 | 17.6 | - | - | 10725.63 | |
| 一括 | 最小個体数 | - | - | - | 8 | - | - | - | 337 | 6 | - | - | 351 | | |
| | 割合(%) | - | - | - | 2.28 | - | - | - | 96.01 | 1.71 | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 219.9 | - | - | - | 815.11 | 54.06 | - | - | 1089.07 | | |
| 攪乱 | 最小個体数 | - | - | - | 25 | - | - | - | 432 | - | - | - | 457 | | |
| | 割合(%) | - | - | - | 5.47 | - | - | - | 94.53 | - | - | - | - | | |
| | 重量 | - | - | - | 895.56 | - | - | - | 854.71 | - | - | - | 1750.27 | | |

第69表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡から産出した水生貝類遺体群一覧表

| 貝層 | 淡水 | | | | 汽水 | | 海水 | | | | | | | | | | | | |
|------|------|----|------|----------|-------|-----|-----|-----|-------|------|------|-------|-------|-----|------|------|-------|------|------|
| | イシガイ | ガイ | マツカサ | チリメンカワニナ | オオタニシ | シジミ | ヤマト | マガキ | トマヤガイ | ウネナシ | ハイガイ | ウミニナ類 | カワアイ? | アサリ | ハマグリ | シオフキ | オオノガイ | イボニシ | アカニシ |
| 貝層1 | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層2 | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層3 | . | . | . | . | . | ◎ | ○ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層4 | . | . | . | . | . | ◎ | ○ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層5 | . | . | . | . | . | ○ | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層6 | . | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層7 | . | . | . | . | . | ○ | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層8 | . | . | . | . | . | ○ | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層9 | . | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層10 | . | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層11 | . | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層12 | . | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層13 | . | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |
| 貝層14 | . | . | . | . | . | . | ◎ | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . | . |

最小個体数 50%以上：◎ 50-10%：○ 10%未満：.



第131図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡における各貝層の規模 (最小個体数)

主体はヤマトシジミ (1,534個体・88.5%)、ついでオオタニシ (83個体・4.8%)、マガキ (56個体・3.2%)、チリメンカワニナ (24個体・1.4%) であった。

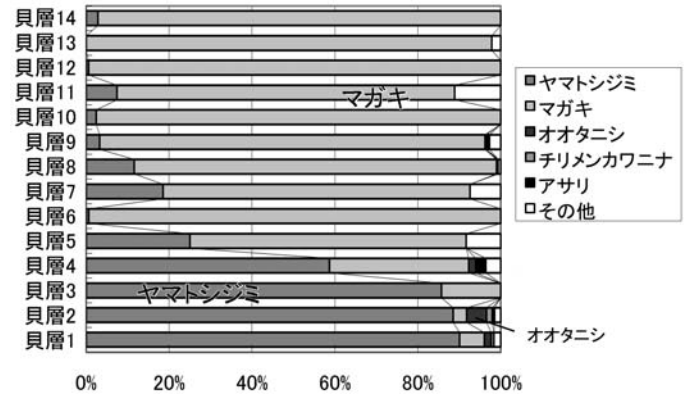
貝層3 2種、最小で7個体、12g産出した。主体はヤマトシジミ (6個体・85.7%)、ついでマガキ (1個体・14.3%) であった。

貝層4 10種、最小で414個体、1,510g産出した。主体はヤマトシジミ (243個体・58.7%)、ついでマガキ (139個体・33.6%)、アサリ (10個体・2.4%)、オオタニシ (7個体・1.7%) であった。

貝層5 3種、最小で12個体、123g産出した。主体はマガキ (8個体・66.7%)、ついでヤマトシジミ (3個体・25.0%) であった。

貝層6 2種、最小で154個体、1,033g産出した。主体はマガキ (153個体・99.4%) であった。

貝層7 4種、最小で27個体、155g産出した。主体はマガキ (20個体・74.1%) であった。



第132図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡における各貝層の貝類組成 (最小個体数)

貝層8 7種、最小で474個体、2,300g産出した。主体は、マガキ (414個体・87.3%)、ついでヤマトシジミ (55個体・11.6%) であった。

貝層9 7種、最小で368個体、2,041g産出した。主体は、マガキ (342個体・92.9%)、ついでヤマトシジミ (12個体・3.3%)、ハマグリ (8個体・2.2%) であった。

貝層10 2種、最小で41個体、245g産出した。主体は、マガキ (40個体・97.6%) であった。

貝層11 6種、最小で81個体、424g産出した。主体は、マガキ (66個体・81.5%) であった。

貝層12 2種、最小で179個体、919g産出した。主体は、マガキ (178個体・99.4%) であった。

貝層13 2種、最小で46個体、241g産出した。主体は、マガキ (45個体・97.8%) であった。

貝層14 2種、最小で35個体、311g産出した。主体は、マガキ (34個体・97.1%) であった。

【2号住居跡】

2号住居跡からは面的に広く貝層が検出された。大きく6つのまとまりが認められ、貝層Ⅰ～Ⅵに分けて取り上げた。2号住居跡は攪乱の影響も大きく、組成表(第68表)にまとめたものは貝層Ⅰ～Ⅴであり、そのうち状態の良い貝層ⅠとⅡを中心に検討を加えた。

貝層ⅠとⅡは、どちらもヤマトシジミ主体層とマガキ主体層の互層となっており、貝層Ⅰは1～6層および床面直上の7層、貝層Ⅱは1～5層の5層に分層できた(第133図)。貝層Ⅰ・Ⅱとも1層が厚く堆積し、下層ほど薄くブロック状の堆積をしていた(第134図)。今回詳細な分析を加えた層位は、1～5層までであり、貝層Ⅰの6層は組成表には掲載したが、床面直上のは外すこととした。

2号住居跡全体(貝層Ⅰ～Ⅴおよび一括・攪乱)で産出した水生貝類遺体群は、10科11種、最小個体数で26,352個体、重量は106,712gであった。内訳は、ヤマトシジミ24,772個体(94.0%)・58,014g(54.4%)とマガキ1,444個体(5.5%)・47,956g(44.9%)の2種で最小個体数・重量ともに99%を占める。ついでアサリ78個体(0.3%)・590g(0.6%)が産出した。なお、主体となるヤマトシジミとマガキはサイズの差が大きいため、2号住居跡の組成に関しては最小個体数と重量の両側面から検討を行った。

以下、貝層ごとに組成をまとめる。

貝層Ⅰ 産出した水生貝類遺体群は、10種、最小個体数で10,898個体、重量は40,972gであった。内訳は、ヤマトシジミ10,339個体(94.9%)・25,230g(61.6%)とマガキ500個体(4.6%)・15,433g(37.7%)の2種で99%を占め、ついでアサリ38個体(0.4%)・258g(0.6%)、他にオオノガイ、ハマグリ、ウネナシトマヤガイなどが産出した。

層位ごとに組成の変化を検討する(第135・136図)。

5層・4層は、ともに層の厚さは薄く、散布範囲はブロック状の小範囲に限られた。

5層は最小個体数・重量ともにヤマトシジミ(218個体・89.0%)が主体であり、4層は最小個体数ではヤマトシジミ(103個体・66.9%)が多いものの、重量で圧倒するマガキ(1,510g・87.8%)が主体といえる。

3層は、4・5層のブロック状の堆積から面的に堆積が広がる層準であり、再びヤマトシジミ(1,378個体・91.3%)が主体となった。

2層は、最小個体数ではヤマトシジミ(400個体・

60.6%)が多いものの、マガキが一面に広がって堆積していた状況と重量からマガキ(9,079g・91.5%)が主体と言える。

1層は、ヤマトシジミが8,165個体(99.1%)・20,676g(91.2%)であり、最小個体数および重量ともにヤマトシジミが主体であった。最も厚く堆積し、堆積範囲も広い。

特に3層より上層では、ヤマトシジミ・マガキ以外のアサリやオオノガイ、ハマグリも産出した。

貝層Ⅱ 産出した水生貝類遺体群は、10種、最小個体数で10,852個体、重量は43,064gであった。内訳は、ヤマトシジミ10,190個体(93.9%)・22,988g(53.4%)とマガキ618個体(5.7%)・19,901g(46.2%)の2種で99%を占め、ついでアサリ14個体(0.1%)・86g(0.2%)、他にオオタニシ、ハマグリ、チリメンカワニナなどが産出した。

層位ごとに組成の変化を検討する(第135・136図)。

5～3層は層厚が薄く、サンプル量も少ない。5層・4層は、貝層Ⅰと同様にブロック状の堆積であった。

最小個体数・重量ともに、5層はヤマトシジミ(25個体・92.6%)が主体であり、4層はマガキ(956g・96.3%)が主体であった。

3層は、層厚が薄いものの、面的に堆積が広がる層準であり、重量ではマガキ(973g・63.7%)が多いものの、最小個体数および産出状況からヤマトシジミ(335個体・85.2%)が主体と言える。

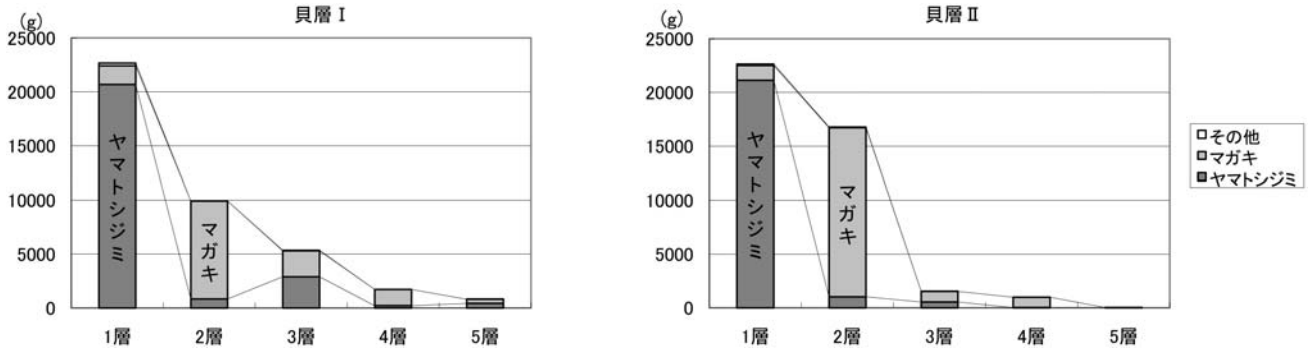
2層は、急激に堆積量が増え、最小個体数ではヤマトシジミが多いものの、重量および産出状況からマガキ(15,694g・93.6%)が主体と言える。

1層は、ヤマトシジミが9,150個体(99.0%)・21,123g(93.3%)であり、最小個体数および重量ともにヤマトシジミが主体であった。貝層Ⅰと同様に最も厚く堆積し、散布範囲も広い。他のアサリやオオタニシ、ハマグリなどの産出は3層より上層に集中した。

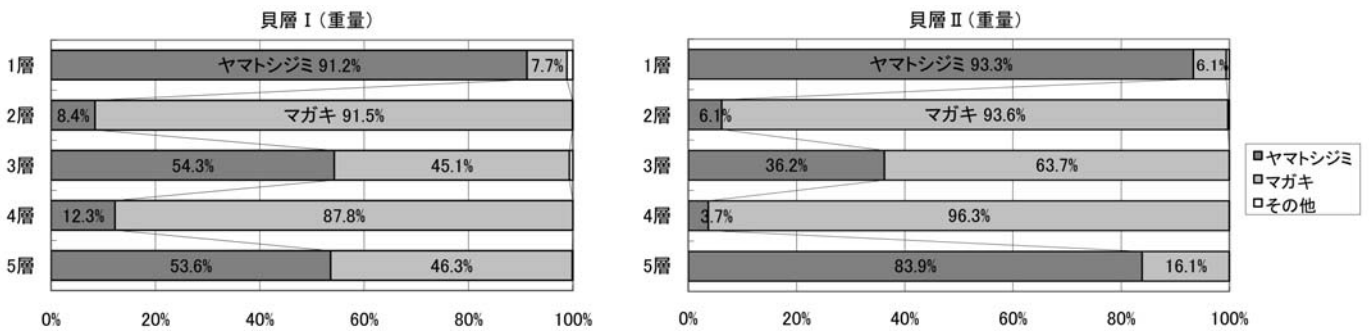
| 層位 | 貝層Ⅰ | 貝層Ⅱ |
|----|-------------|-------------|
| 1 | | シジミ層① |
| 2 | | マガキ層① |
| 3 | | シジミ層② |
| 4 | マガキ層② | マガキ層②(北側のみ) |
| 5 | | シジミ層③ |
| 6 | マガキ層③(B3のみ) | |

床面直上 (シジミ層④)

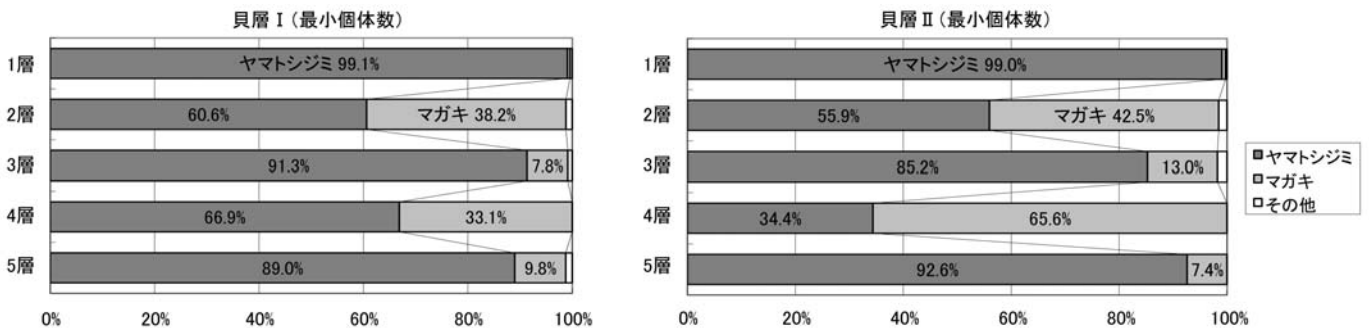
第133図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ・Ⅱの層位



第134図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類重量の層位変化



第135図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類組成 (重量)



第136図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類組成 (最小個体数)

【水生微小貝類遺体群】

産出した水生微小貝類遺体は、1.2mm篩から最小27個体、浮遊選別法によって45個体、計72個体産出した。

淡水生から海水生のものであり、産出した大型貝類の生息域と同様である。特にチリメンカワニナの幼貝が多くみられた。

海水生のカキウラクチキレモドキは、マガキに付着する微小貝であり、マガキとともに遺構に持ち込まれたと考えられる。

ヌマコダキガイ類に関しては議論があるが(中島ほか, 2004)、膨らみが弱くやや平たいという殻形態から、

本報告ではヒラタヌマコダキガイとして扱った。ヒラタヌマコダキガイは少なくとも数千年前に日本では絶滅し、その後ごく最近移入してきたと考えられている(佐藤ほか, 2001)。生息域は汽水的環境であり、ヤマトシジミと同じくすることから、ヤマトシジミとともに持ち込まれたと考えられる。また、ムシヤドリカワザンショウやヒラドカワザンショウの産出からも、汽水の影響が大きかったと考えられる。

また淡水生のオオタニシやチリメンカワニナは、親貝の育児嚢で稚貝を育てる卵胎生であり、稚貝は親貝の殻の中で成長し、順次生み出される。産卵期は春～

第70表 上福岡貝塚第1地点から産出した水生微小貝類遺体群の組成(最小個体数)

| 遺構 | 貝層 | 層位 | 淡水 | | 汽水 | | | | | 海水 | | | 合計 | |
|-------|-------|------------|-------|----------|--------|--------|--------|------------|-------------|--------|------|--------|----|--------|
| | | | オオタニシ | チリメンカワニナ | カワグチツボ | ワザンシヨウ | ムシヤドリカ | ヒラドカワザンシヨウ | ヒラタヌマコダキガイ右 | カキウラクチ | マヤガイ | ウネナシト右 | | クチキレモド |
| 1号住 | 貝層1 | 1層 | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 | |
| | | 2層 | | 6 | | | | | | | | | 6 | |
| | 貝層2 | 1層(東側) | 1 | 3 | | | | | | | | | 4 | |
| | | 3層(東側) | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| | | 3層(東側) | | 5 | | | | | | | | | 5 | |
| | | 1~3層(西側一括) | | 9 | | | | | 1 | | | | 10 | |
| | | 5層 | | 9 | 1 | | | | | 1 | | | 11 | |
| | 貝層3 | 一括 | | 3 | | | | | | | | | 3 | |
| | 貝層4 | 1層 | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| | 貝層6 | 1層 | | | | | | 2 | 1 | | | 1 | 4 | |
| | 貝層8 | 1層 | | | | | | 1? | 1 | 2 | | | 1 | 4 |
| | | 2層 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| 貝層9 | 1層 | 1? | | | | | | 2 | | | | 3 | | |
| 貝層12 | 一括 | | 4 | | | | | | | | | 4 | | |
| 2号住 | 貝層I | 1層 | | | | | | | 1 | | | | 1 | |
| | | 4層 | | | | | | | 1 | | | | 1 | |
| | 貝層II | 1層 | | | | 3 | 1 | | | | | | 4 | |
| | | 2層 | | | | | | | 2 | | | | 2 | |
| | 貝層III | 一括 | 1? | | | | | | | | | | 1 | |
| | 貝層V | 一括 | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| 攪乱 | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | |
| 総計(個) | | | | | | | | | | | | 72 | | |

夏頃であり、この時期ころに成貝のオオタニシやチリメンカワニナとともに遺構に持ち込まれたと考えられる。このことは、成貝のチリメンカワニナの産出が多い1号住居跡において幼貝の産出が多いことと符合する。

【小結】

ここで、水生貝類遺体群の組成をまとめる。

2軒の住居跡とも産出した貝層は、汽水生のヤマトシジミと内湾奥部潮間帯に生息するマガキを主体とするが、産出状況や規模が大きく異なっていた。1号住居跡では、14ヶ所のブロック状の堆積であり、それぞれ小さな廃棄単位として考えられる。2号住居跡は、攪乱の様相から本来は床面全体に貝層が広がっていたと想定でき、ヤマトシジミ主体層とマガキ主体層が互層となるのが特徴的である。さらに2軒ともヤマトシジミ・マガキ以外の種類が量においても非常に少ない。

ただ、1号住居跡においては、淡水生の貝類の産出が認められ、種類も多少豊富であった。

水生の大型貝類および微小貝の組成から、当時の遺跡周辺には、大きな河川が存在し、汽水の影響が大きかったことが考えられる。ほど近い河口には干潟が存在し、そこではマガキが採取できる環境にあったと考えられる。(一木)

②-2 サイズ

産出した大型水生貝類の内、ヤマトシジミとマガキについてサイズの計測をおこなった。その結果は、記述統計量及びヒストグラムで提示した。分析結果の詳細は、DVDに収めているのでそちらを参照されたい。まず、それぞれの貝種ごとに住居跡全体の概要を示す。さらに、2号住居貝層Iと貝層II産出のヤマトシジミの殻長に関してはより詳細に述べる。なお、ヤマトシジミにおいて殻長よりも殻高のほうが計測をおこなったサンプルが多い。しかし、貝殻のサイズを示すには、殻長が殻高よりも長い形状であることから殻長の方が適している。そこで、本報告では、回帰・相関分析によって、殻高から殻長を推定するための式を導出する。その結果は、第72表と第73表にそれぞれ示す。その式によって導出された殻長は、“推定値”としている。以下、議論に用いる殻長は、推定値である。

【マガキ(左殻)・殻高】(第71表)

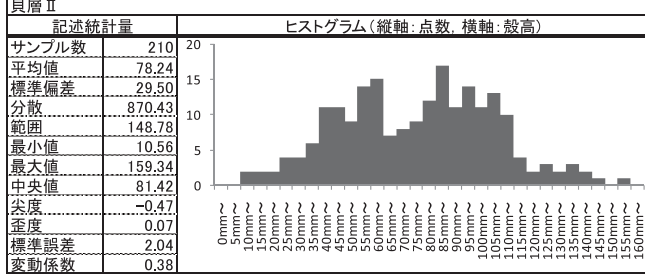
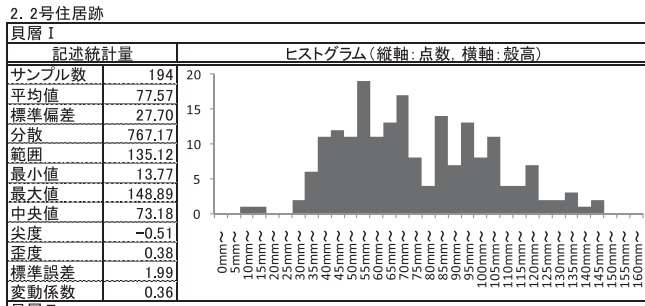
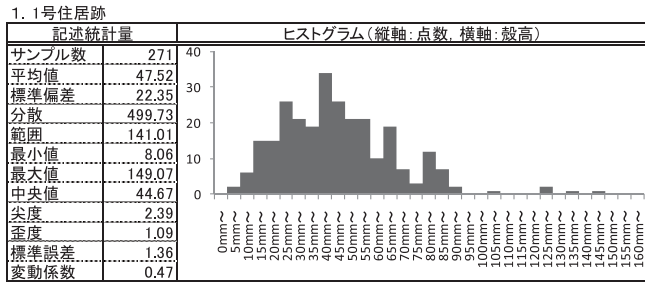
• 1号住居跡

平均値が47.5mmである。但し8.1mm(最小値)と極めて小さいものも多く含まれている。

• 2号住居跡

貝層I 平均値は77.6mmと大きい。但し、最小値が13.8mm、最大値が148.9mmとその幅は大きい。それは、変動係数が36%と高いことから示されている。

第71表 マガキ(左殻)の殻高に関する記述統計量及びヒストグラム



貝層 II 平均値は78.2mmと大きい。但し、最小値が10.6mm、最大値が159.3mmとその幅は大きい。それは、変動係数が38%と高いことから示されている。

【ヤマトシジミ・殻長】

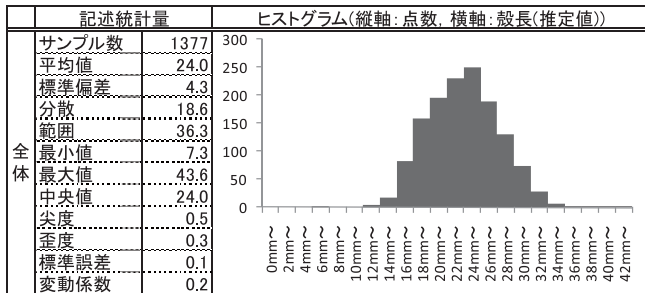
• 1号住居跡(第72表)

全体では平均23.6mmである。ヒストグラムは24mm以上26mm未満をピークとするドーム状の単峰型を示す。平均値は貝層によって異なり、最小のもので貝層1の23.3mm、最大のもので貝層4の24.5mmである。ヒストグラムは、貝層4が双峰型を示す他は、単峰型である。変動係数については、すべての貝層において20%である。

• 2号住居跡(第73・74表)

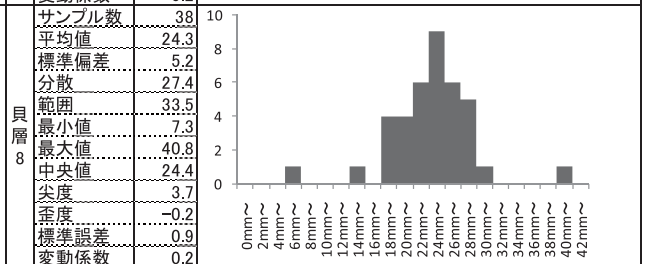
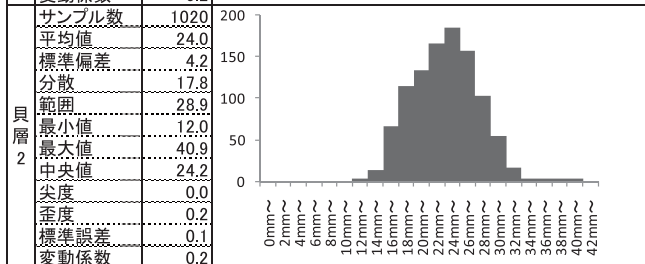
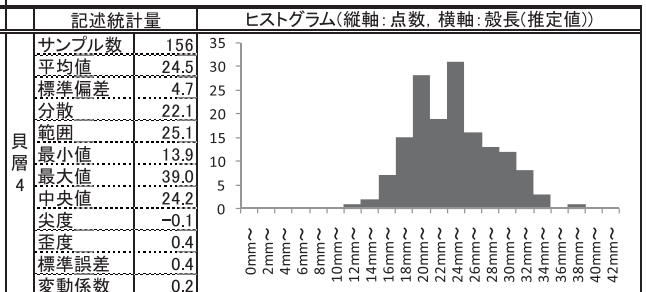
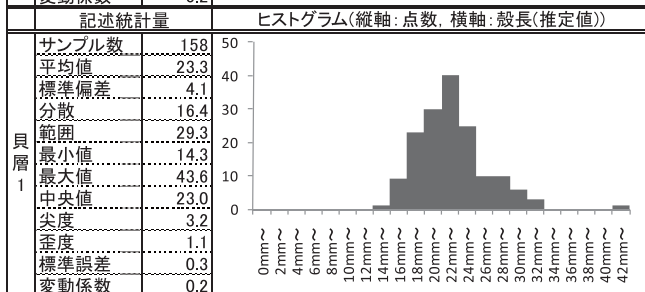
貝層 I 全体で平均22.4mmである。ヒストグラムを概観すると20mm以上24mm未満に極めて大きなピークをもつ単峰型を示している。層別に見ると、もっとも平均値が高いのが1層で22.5mm、低いのが4層で20.9mmである。さらに、平均値は1層から4層へ徐々に低くなり、4層から6層へ逆に高くなる傾向にある。最小有意差法による平均値の差の検定の結果、直接上下の位置にある層位間では、1層と2層間と4層と5層間で差の有意性が認められなかった他は、認められてい

第72表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡産出のヤマトシジミの殻長(推定値)に関する記述統計量及びヒストグラム



回帰相関分析の結果

| | | | |
|------------------|------|-------|-------|
| 決定係数 | 0.96 | 分散分析 | 5%有意 |
| ダービンソン比 | 1.83 | | |
| 関数式: 直線 $y=ax+b$ | | 係数 a | 1.07 |
| | | 定数項 b | -0.69 |
| y: 殻長, x: 殻高 | | | |



第73表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出のヤマトシジミの殻長(推定値)に関する記述統計量及びヒストグラム

| | 貝層Ⅰ | | 貝層Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|-------|---------------------------|--|---------------------------|------|------|------|------|-----------|------|--|--|------------------|------|------|--|-------|------|--|
| | 記述統計量 | ヒストグラム(縦軸:点数, 横軸:殻長(推定値)) | 記述統計量 | ヒストグラム(縦軸:点数, 横軸:殻長(推定値)) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全体 | サンプル数 | 4115 | サンプル数 | 2908 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平均値 | 22.36 | 平均値 | 22.35 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1層 | 標準偏差 | 2.28 | 標準偏差 | 2.17 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 分散 | 5.21 | 分散 | 4.72 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2層 | 範囲 | 24.79 | 範囲 | 19.29 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最小値 | 10.71 | 最小値 | 15.05 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3層 | 最大値 | 35.50 | 最大値 | 34.34 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中央値 | 22.02 | 中央値 | 22.00 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4層 | 尖度 | 4.20 | 尖度 | 4.85 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 歪度 | 1.10 | 歪度 | 1.57 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5層 | 標準誤差 | 0.04 | 標準誤差 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 変動係数 | 0.10 | 変動係数 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6層 | サンプル数 | 3293 | サンプル数 | 2535 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平均値 | 22.48 | 平均値 | 22.37 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7層 | 標準偏差 | 2.33 | 標準偏差 | 2.21 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 分散 | 5.43 | 分散 | 4.86 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8層 | 範囲 | 24.79 | 範囲 | 19.29 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最小値 | 10.71 | 最小値 | 15.05 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9層 | 最大値 | 35.50 | 最大値 | 34.34 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中央値 | 22.12 | 中央値 | 22.00 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10層 | 尖度 | 3.59 | 尖度 | 4.82 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 歪度 | 1.00 | 歪度 | 1.60 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11層 | 標準誤差 | 0.04 | 標準誤差 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 変動係数 | 0.10 | 変動係数 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12層 | サンプル数 | 124 | サンプル数 | 180 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平均値 | 22.25 | 平均値 | 22.13 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13層 | 標準偏差 | 2.54 | 標準偏差 | 1.81 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 分散 | 6.46 | 分散 | 3.27 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14層 | 範囲 | 22.20 | 範囲 | 15.68 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最小値 | 11.47 | 最小値 | 16.21 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15層 | 最大値 | 33.66 | 最大値 | 31.89 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中央値 | 21.95 | 中央値 | 22.08 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16層 | 尖度 | 5.96 | 尖度 | 4.91 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 歪度 | 0.90 | 歪度 | 0.88 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17層 | 標準誤差 | 0.23 | 標準誤差 | 0.14 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 変動係数 | 0.11 | 変動係数 | 0.08 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18層 | サンプル数 | 459 | サンプル数 | 170 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平均値 | 21.77 | 平均値 | 22.14 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19層 | 標準偏差 | 1.89 | 標準偏差 | 2.12 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 分散 | 3.34 | 分散 | 4.48 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20層 | 範囲 | 20.99 | 範囲 | 13.87 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最小値 | 13.47 | 最小値 | 17.36 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21層 | 最大値 | 34.46 | 最大値 | 31.24 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中央値 | 21.56 | 中央値 | 21.90 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22層 | 尖度 | 11.78 | 尖度 | 3.70 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 歪度 | 1.87 | 歪度 | 1.28 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23層 | 標準誤差 | 0.09 | 標準誤差 | 0.16 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 変動係数 | 0.08 | 変動係数 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24層 | サンプル数 | 39 | サンプル数 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平均値 | 20.91 | 平均値 | 22.66 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25層 | 標準偏差 | 1.73 | 標準偏差 | 0.89 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 分散 | 2.98 | 分散 | 0.79 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26層 | 範囲 | 9.62 | 範囲 | 2.37 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最小値 | 15.22 | 最小値 | 21.59 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27層 | 最大値 | 24.84 | 最大値 | 23.97 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中央値 | 21.38 | 中央値 | 22.58 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28層 | 尖度 | 2.00 | 尖度 | -1.59 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 歪度 | -0.88 | 歪度 | 0.25 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 29層 | 標準誤差 | 0.28 | 標準誤差 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 変動係数 | 0.08 | 変動係数 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30層 | サンプル数 | 79 | 回帰相関分析の結果 <table border="1"> <tr> <td>決定係数</td> <td>0.88</td> <td>分散分析</td> <td>5%有意</td> </tr> <tr> <td>ダーゼンワトソン比</td> <td>2.03</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">関数式: 直線 $y=ax+b$</td> <td>係数 a</td> <td>0.94</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定数項 b</td> <td>2.22</td> <td></td> </tr> </table> y: 殻長, x: 殻高 | | 決定係数 | 0.88 | 分散分析 | 5%有意 | ダーゼンワトソン比 | 2.03 | | | 関数式: 直線 $y=ax+b$ | 係数 a | 0.94 | | 定数項 b | 2.22 | |
| | 決定係数 | 0.88 | | | 分散分析 | 5%有意 | | | | | | | | | | | | | |
| ダーゼンワトソン比 | 2.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 関数式: 直線 $y=ax+b$ | 係数 a | 0.94 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 定数項 b | 2.22 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 31層 | 平均値 | 21.50 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 標準偏差 | 1.58 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 32層 | 分散 | 2.50 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 範囲 | 11.29 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 33層 | 最小値 | 18.48 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大値 | 29.76 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 34層 | 中央値 | 21.49 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 尖度 | 8.51 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 35層 | 歪度 | 1.89 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 標準誤差 | 0.18 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 36層 | 変動係数 | 0.07 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | サンプル数 | 108 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 37層 | 平均値 | 22.22 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 標準偏差 | 1.93 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 38層 | 分散 | 3.71 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 範囲 | 11.47 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 39層 | 最小値 | 19.15 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 最大値 | 30.62 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40層 | 中央値 | 21.81 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 尖度 | 3.67 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 41層 | 歪度 | 1.53 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 標準誤差 | 0.19 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 42層 | 変動係数 | 0.09 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

第74表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出のヤマトシジミの殻長に関する平均値の差の検定(最小有意差法)

| | 数 | 平均値 (mm) | 貝層 I | | | | | | 貝層 II | | | |
|-------|----|-------------|-------|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|
| | | | 1層 | 2層 | 3層 | 4層 | 5層 | 6層 | 1層 | 2層 | 3層 | |
| 貝層 I | 1層 | 3293 | 22.48 | | | ** | ** | ** | | | * | |
| | 2層 | 124 | 22.25 | | | * | ** | * | | | | |
| | 3層 | 450 | 21.77 | ** | * | | * | | | ** | | |
| | 4層 | 39 | 20.91 | ** | ** | * | | | ** | ** | ** | ** |
| | 5層 | 70 | 21.50 | ** | * | | | | * | ** | * | * |
| | 6層 | 108 | 22.22 | | | | ** | * | | | | |
| 貝層 II | 1層 | 2535 | 22.37 | | | ** | ** | ** | | | | |
| | 2層 | 180 | 22.13 | * | | | ** | * | | | | |
| | 3層 | 170 | 22.14 | | | | ** | * | | | | |

** : 1%有意 * : 5%有意

る。ヒストグラムを概観すると、1層～3層は20mm以上24mm未満、4層～6層は20mm以上22mm未満に極めて大きなピークをもつ単峰型を示している。

貝層 II 全体で平均22.4mmである。ヒストグラムを概観すると20mm以上24mm未満に極めて大きなピークをもつ単峰型を示している。つまり、貝層 I と同じ傾向を示している。層別で見ると、もっとも平均値が高いのが4層で23.0mm、低いのが5層で21.9mmであるが、この2つの層は共に計測をおこなったサンプルが10点以下と極めて少ない。なお、この1層～3層では、もっとも高いのが1層で22.4mm、そして、2層が22.1mm、3層が22.2mmと並ぶ。最小有意差法による平均値の差の検定の結果では、すべての層位間において差の有意性は認められなかった。ヒストグラムを概観すると、1層～3層は20mm以上24mm未満、4層は22mm以上24mm未満に極めて大きなピークをもつ単峰型を示している。

小結 貝層 I 全体と貝層 II 全体のサイズ分析の結果は、ほとんど同じ傾向を示している。

層位間での傾向は、最小有意差法による平均値の差の検定の結果をもとに概観する。但し、貝層 II の4層以下は、サンプル数が20点未満と他の層に比べて極めて少ないことから、本議論から除く。貝層 II の1層において、貝層 I の層位との間で差の有意性が認められるのが3層～5層、貝層 II の2層においては貝層 I の1層と4層と5層、貝層 II の3層においては貝層 I の4層と5層である。つまり、貝層 II の1層から3層は、共通して貝層 I の4層と5層よりも統計学的に有意に平均値が高い。また、貝層 II の1層～3層の間どの組み合わせにおいても差の有意性が認められなかったものの、1層が貝層 I の3層より統計学的に有意に高

く、2層が貝層 I の1層より統計学的に有意に低いことが示されている。つまり、貝層 II の中では差の有意性がみとめられないもの、貝層 I を挟んで1層・2層の順で小さいことを示している。

結論として、貝層 I と II は共に層位が上がるにつれて平均値が大きくなる傾向にあるが、その範囲が貝層 I では21.8mmから22.5mmの間、貝層 II では22.1mmから22.4mmの間と、その差は僅かである。このことは、貝層 I で平均0.7mm程度であることから、一年以内の変化であることが推測される。また、ヒストグラムにおいて貝層 I と貝層 II 共に極めてサイズのそろっている傾向を示していることからその可能性が高い。

(阿部)

③陸生貝類遺体群

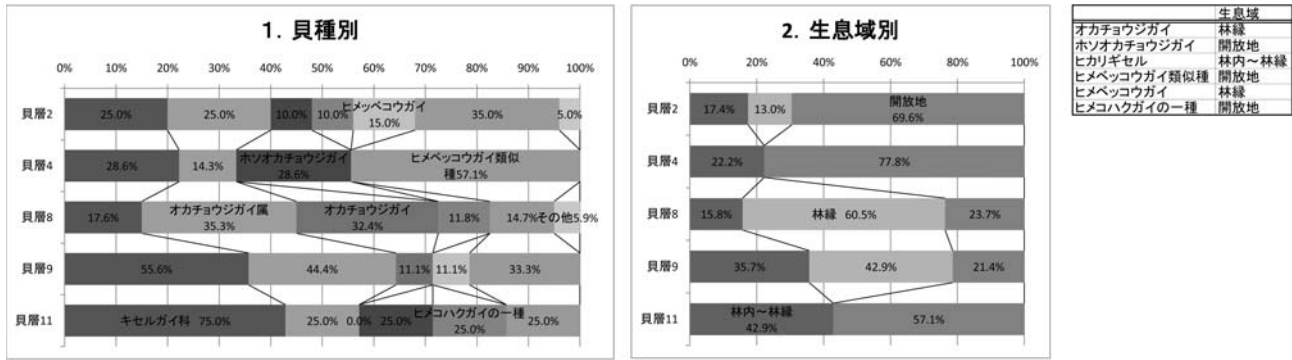
本調査地点からは7群348点の陸生貝類遺体群が産出した。同定定義や各貝種の生息域に関しては、黒住(2009)に基づいている。なお、以下の産出率を算出するに際して、同定不可や卵など、同定するに至らなかったものを除いている。

③-1 1号住居跡(第137図)

1号住居跡からは7群127点の陸生貝類が産出した。貝層は地点的であるため、住居跡全体の組成は述べず、貝層ごとに組成及び傾向を述べることにする。まず、貝層3、5、7、10の4ヶ所からは陸生貝類は産出されなかった。さらに貝層1(3点)、貝層6(1点)、貝層12(3点)、貝層13(2点)の4ヶ所から産出した陸生貝類はそれぞれ5点に満たないことから、他所からの混ざり込みの可能性も推測される。以上から10点以上の陸生貝類が含まれる貝層は、貝層8(42点)、貝層2(34点)、貝層9(17点)、貝層4(14点)、貝層11(10点)の5ヶ所である。以下、5ヶ所の貝層について概観する。

貝層 2 34点が産出し、26点が同定することができた。ヒメベッコウガイ類似種とオカチョウジガイ属(ホソオカチョウジガイ)が各7点で最も多く、共に29.2%を占める。ついで、キセルガイ科が4点(15.4%)、ヒメベッコウ3点(11.5%)などが産出している。なお、キセルガイ科の内1層(東側)から産出した1点は、ヒカリギセルであった。生息域の傾向は、同定することのできたもののなかで開放地生息種が70%を占めている。

貝層 4 14点が産出し、9点が同定することができ



第137図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡産出陸生貝類遺体群組成



第138図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出陸生貝類遺体群組成

た。ヒメベッコウガイ類似種が4点で最も多く、44.1%を占める。その他に、ホソオカチョウジガイ、キセルガイ科(各2点・22.2%)、オカチョウジガイ属(1点・11.1%)が産出している。生息域の傾向は、同定することのできたもののなかで開放地生息種が78%を占めている。

貝層8 43点が産出し、40点が同定することができた。オカチョウジガイ属が23点で最も多く、57.5%を占める。その内、種まで同定できたものがオカチョウジガイで11点(27.5%)産出している。次いで、キセルガイ科(6点・15.1%)、ヒメベッコウガイ類似種(5点・12.5%)、ヒメコハクガイの一種(4点・10.0%)などが産出している。生息域の傾向は、同定することのできたもののなかで林縁生息種が61%を占めている。なお、本貝層からは卵が1点産出している。

貝層9 17点が産出し、14点が同定することができた。オカチョウジガイ属とキセルガイ科が各5点で最も多く、各35.7%を占める。オカチョウジガイ属に関して種まで同定できたものは、オカチョウジガイで1点(7.1%)が産出している。その他にヒメベッコウガイ類似種(3点・21.4%)、ヒメベッコウガイ(1点・7.1%)が産出している。生息域の傾向は、同定することので

きたもののなかで、林縁生息種が43%、林内から林縁生息種が36%をそれぞれ占める。

貝層11 10点が産出し、7点が同定することができた。キセルガイ科が3点で最も多く、42.9%を占める。その他に、オカチョウジガイ属(2点・28.6%)、ヒメベッコウガイ類似種、ヒメコハクガイの一種(各1点・14.3%)が産出している。

小結 各貝層で産出量の違いが大きいため、比較することは難しい。しかし、貝層2から貝層9へ住居跡を東から西へ横断するように、開放地生息種主体から林縁・林内生息種が主体になる傾向が見える。つまり、住居跡の西側に日光を遮るようなものがあったことが推測される。また、未成熟のものが多く、さらに貝層8においては卵が1点産出している。

③-2 2号住居跡(第138図・第75表)

2号住居跡において、貝層Iと貝層IIから6群221点の陸生貝類が産出した。その内、同定するに至らなかったもの(同定不可・不明・卵)が17点で8.1%を占める。以下、同定することのできたもののみで産出率を提示する。オカチョウジガイ属(オカチョウジガイ、ホソオカチョウジガイ)が112点で最も多く、54.9%を占めている。次いで、ヒメベッコウガイ類似種が44点

で21.6%、ヒメコハクガイの一種が42点で20.6%を占める。以上の3群以外に5%を超えるものはない。なお、オカチョウジガイ属は、オカチョウジガイとホソオカチョウジガイの2種が含まれる。種まで同定することの出来たものは112点中38点で、内訳はオカチョウジガイが6点、ホソオカチョウジガイが32点で圧倒的にホソオカチョウジガイが多い。以上、主要種であるホソオカチョウジガイ、ヒメベッコウガイ類似種、ヒメコハクガイの一種の3群はすべて開放地生息種である。オカチョウジガイ属をオカチョウジガイとホソオカチョウジガイの産出比率で分類した上で生息域ごとの産出率を算出すると、開放地生息種は全体の90.6%を占める。なお、組成において、層位・グリッドによって傾向は大きく異なる。

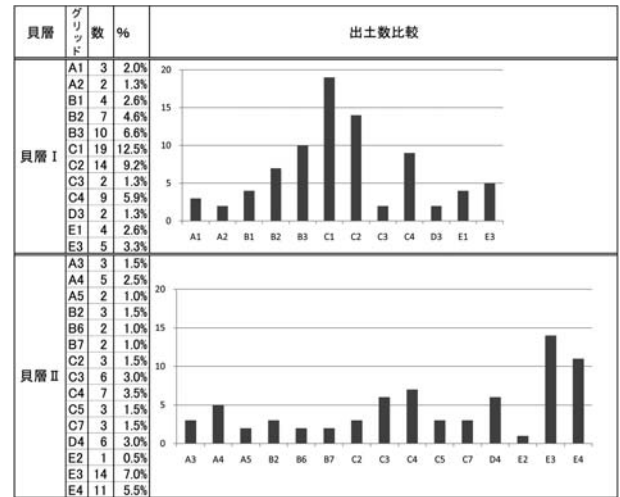
また、オカチョウジガイ属をはじめ、キセルガイ科など殻が成長途上にあるものが多く、1点ではあるが卵も含まれている。陸生貝類は一般的に10月から翌5月までが冬眠の期間とされている(湊1980, 大垣内1997)。繁殖期が6月を中心としており、その後、孵化から殻の成長が完了するまで30日から90日とされている。本資料において成長途上のものが主体であることから、6月から9月の夏期に1層の上に土がかぶせられたことが推定される。

層位ごとに概観すると、全体の69.1%にあたる152点が1層より産出している。2層が32点で14.5%、3層が18点で8.2%、4層が6点で2.7%、5層が3点で1.4%、6層が9点で4.1%と上層から下層へ下がるに従って点数が少なくなる傾向にある。特に4層より下層は10点に満たない。貝層の厚さ自体が厚くないこともあわせて考えると、おそらく、1層上に生息していた陸生貝類が貝殻の間から下層に混入したものと考えられる。

次に平面的な広がりについて概観する(第75表)。層位ごとの分布から1層に7割近くがふくまれていることから、1層のみで検討をおこなう。

まず、貝層 I は、北側でグリッドの東西軸(A~F)の中央にあたるC1に19点、貝層 I・II全体の12.5%が含まれている。ついで多いのがC1に隣接するC2(14点・9.2%)、やや離れるがB3(10点・6.6%)である。以下、10点未満しか産出していないが、産出しているグリッドは北側に固まっている。さらに、産出している量は、C1を中心に南東側へ同心円状に広がるように少なくなる傾向にある。

第75表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における陸生貝類遺体群産出数比較(グリッド間)



貝層 II は、北西側で貝層 I 寄りのE3(14点・9.2%)とE4(11点7.2%)にもっとも多く陸生貝類が含まれている。以上の2グリッド以外は10点以上含まれない。ついで多いのが、以上の2グリッドの東側に隣接するC4(7点・4.6%)、C3・D4(各6点・3.9%)の3グリッドである。以下のグリッドからは5点以下しか産出していない。産出している量は、北西側から南東側に向かって同心円状に広がるように少なくなる傾向にある。

貝層 I と貝層 II の傾向から、共に貝層の北側に点数が多く、南東側へ同心円状に広がるように少なくなる傾向にある。陸生貝類が多い程、貝層の開放期間が長かったことが推測されることから、南東から北西側に向かって貝層が埋没していったことが推測される。

(阿部)

④脊椎動物遺体群(第76表)

5群18点の脊椎動物遺体群が産出している。魚類が3群15点、鳥類が1綱2点、不明が1点である。鳥類に関しては、長骨の骨幹部分の破片しか産出していないことから、綱より下位まで同定ができなかった。不明にしたものに関しては、鳥類のものと同様に長骨の骨幹部分の破片である。なお、鳥類は小型のものである。

魚類は15点産出している。その内、綱より下位まで同定できたものは6点のみである。内訳は、エイ類(エイ亜区)1点、イワシ類(ニシン科)2点、コイ科1点、タイ型2点である。

なお、タイ型としたものは、臼歯の形状がタイ科のものに近似しているものの、他の分類群において同様

第76表 上福岡貝塚第1地点産出脊椎動物遺体群一覧表

| 住居 | 貝層 | グリッド | 層位 | 篩目 | 分類群 | | 部位 | 数 | 備考 | |
|------|------|------|--------------|-----|-------|-------|----|---|------|----|
| | | | | | 綱 | 綱より下位 | | | | |
| 1号 | 貝層1 | | 1層(東側) | 1mm | 鳥or哺乳 | 同定対象外 | — | 1 | 骨幹部分 | 被熱 |
| | 貝層2 | | 1層 | 3mm | 不明 | 不明 | — | 1 | 管状。 | |
| | | | 1~3・3層(西側一括) | 3mm | 硬骨魚 | 同定対象外 | 耳石 | 1 | | |
| | 貝層8 | | 1層(東側) | 1mm | 不明 | 不明 | — | 1 | 破片資料 | |
| | | | 2層(東側) | 1mm | 硬骨魚 | 同定対象外 | — | 5 | 破片資料 | 被熱 |
| | | | | 1mm | 鳥 | 同定対象外 | — | 1 | 骨幹部分 | 被熱 |
| | | | | 3mm | 鳥 | 同定対象外 | — | 1 | 骨幹部分 | 被熱 |
| | 貝層9 | | 1層(西側) | 1mm | 硬骨魚 | 同定対象外 | — | 1 | 棘部分 | |
| | | | 1層(東側) | 1mm | 硬骨魚 | エイ亜区 | 椎骨 | 1 | | 被熱 |
| | | | | | | コイ科 | 尾椎 | 1 | 小型 | 被熱 |
| | | | | | | 同定対象外 | — | 1 | 棘部分 | 被熱 |
| | | | | | | 不明 | 不明 | — | 1 | |
| 貝層11 | | 1層 | 1mm | 硬骨魚 | タイ型 | 臼歯 | 1 | | | |
| 貝層12 | | 一括 | 1mm | 不明 | 不明 | — | 1 | | | |
| 2号 | 貝層I | B2 | 1層 | 1mm | 硬骨魚 | ニシン科 | 尾椎 | 1 | | |
| | | C4 | 1層 | 3mm | 不明 | 不明 | — | 1 | | |
| | 貝層IV | Dあ | | 1mm | 硬骨魚 | タイ型 | 臼歯 | 1 | | |
| | 貝層V | | 攪乱 | 3mm | 硬骨魚 | ニシン科 | 尾椎 | 1 | | 被熱 |

の形状の臼歯を有するものもあるため、種類を断定しなかった。

イワシ類の尾椎は、共に2号住居跡から産出している。1点は貝層Vの攪乱部分から、もう1点は貝層I(B2)の1層から産出している。2号住居跡の覆土上面には後世の筋状の攪乱があり、攪乱部分から産出している貝層Vの資料はもちろんのこと、貝層Iに関しても1層から産出していること、また、骨が1層以外からの産出が見られないことから、後世の混ざり込みの可能性を想定する必要がある。

以上から2号住居跡から産出した脊椎動物遺体に関しては、後世の混ざり込みの可能性を考慮に入れるべきもののみであった。1号住居跡では、貝層8において、2層から同定の対象外とした魚類5点、鳥類2点が産出した他は1層から産出している。種類の分かっているものは淡水域に生息するコイ科と、海域に生息するエイ類である。東京湾岸で目にすることの多いアカエイは、浅海の砂泥底に生息する。

なお、1号住居跡から産出した骨の19点中12点が被熱している。(阿部)

⑤まとめ

上福岡貝塚から産出した動物遺体群の詳細な検討は、今回が初めてとなる。これまでの調査から、多くの住

居跡の覆土中に貝層が形成されていたことがわかっていくが、保管された資料は少量であり、貝類組成などの全容は明らかになっていなかった。市史によると、「貝類では、腹足綱のオオタニシ、カワニナ、アカニシ、斧足綱のサルボウ、ハイガイ、マガキ、ヤマトシジミ、アサリ、ハマグリ、オキシジミ、シオフキ、オオノガイが知られる」とあり(上福岡市教育委員会・上福岡市史編纂委員会1999)、今回の分析資料ともほぼ一致した。今回は特に2軒の住居跡に関して、貝層の産出状況と、貝類および脊椎動物遺体群の組成を明らかにできた。

2軒の住居跡に形成された貝層の形成時期は、出土土器から縄文時代前期黒浜期と考えられ、住居跡間の時期差は認められず、貝層の形成時期も同様に一時期であったと考えられる。

貝層の産出状況に関しては、住居跡間で異なる傾向を示した。

まず、貝層の分布が異なる。1号住居跡は、14ヶ所の貝層がブロック状に点在している。それに対して、2号住居跡は、床面上に貝層IとIIを中心に面的に広がっている。

水生貝類遺体群の組成においては、淡水生から汽水生、海水生のものまで産出した。1号住居跡においては、2号住居跡と同様にヤマトシジミとマガキを主体

としているものの、特に貝層2においてオオタニシやチリメンカワニナなどの淡水生の貝類の産出が認められ、その産出率も1%を超えている。また、貝層2は層序も比較的複雑である。それに対して、2号住居跡の貝層は、ヤマトシジミ主体層とマガキ主体層が互層の状態を検出され、最小個体数・重量共にヤマトシジミとマガキで99%を占め、他の貝類は1%を超えない。つまり、1号住居跡の貝層2などにおいては、淡水生貝類などヤマトシジミとマガキ以外の貝類に関しても主体的に採集してきたものである可能性が推測されるのに対して、2号住居跡の主体2種以外の貝類は、その主体種を採集した際に混獲されたものである可能性が推測される。

貝類の組成から推測される周辺環境は、水生微小貝の産出からも、遺跡周辺には大きな河川が存在し、汽水的環境が強く、その河口部には干潟が形成されていたと考えられる。縄文海進によって荒川の谷まで広がった海域にそそぐ河川沿いに遺跡が形成されたと考えられる。

脊椎動物遺体群に関しては、1号住居跡において19点産出したのに対して、2号住居跡においては4点と貝層の規模に比してもあきらかに少ない。さらに、2号住居跡に関しては、4点中2点が攪乱部分から産出し、他2点も1層から産出しており、その上層の覆土には筋状の攪乱が見られることから後世の混入物である可能性も棄却できない。つまり、2号住居跡に関しては、貝層形成時に廃棄されたと確実に推測されるものは含まれていない。

以上から、1号住居跡の貝層は、いくつかの種類の動物の採集・狩猟・漁労によって得たものによって形成された可能性が高いのに対して、2号住居跡の貝層は、専らヤマトシジミとマガキを採集・処理をしたもののみによって形成されていることが想定される。特に、2号住居跡におけるマガキ主体層である2層及び4層は、マガキ殻が敷き詰めるように形成されており、さらにそれはほぼ1層で形成されるなど一定の規則性をもって廃棄された様子が窺えた。

さらに2号住居跡の貝層形成期間については、ヤマトシジミの殻長組成や陸生貝類遺体組成の分析から、極めて短期(1年以内)である可能性を指摘した。特にヤマトシジミの殻長組成は、1号住居跡の各貝層のものとは比べても極めてサイズがそろっていることが分かる。ヒストグラムは、共に単峰型を示すものの、1号

住居跡のものは緩やかなドーム型に近い形状を示すのに対して、2号住居跡のものは20mm以上24mm未満に集中する鋭角な形状を示している。変動係数を見ても1号住居跡の各貝層が20%であるのに対して2号住居跡のものは10%であり、サイズにバラエティがないことが示されている。

結論として、1号住居跡の貝層は、日々の生活のなかで消費された食料の廃棄によって形成されたのに対して、2号住居跡の貝層は、専らヤマトシジミとマガキの採集に重点を置いて、場合によっては組織的、且、計画的におこなわれた採集及び消費(加工)活動によって短期間に形成されたものであることが推測される。この傾向は、混貝率において、1号住居跡の貝層が50%にほとんど届かないのに対して、2号住居跡が50%を超える層位がほとんどである点からも指摘される。

(阿部常樹・一木絵理)

謝辞

芳賀拓真氏(東京大学)には水生微小貝類遺体の同定・分類に際して御教示いただいた。心よりお礼を申し上げます。

引用参考文献

- 大垣内宏. 1997. カタツムリの生活. 築地書館
 上福岡市教育委員会・上福岡市史編纂委員会. 1999. 上福岡市史資料編第1巻 自然史・考古
 黒住耐二. 2009. 微小陸産貝類が示す古環境. 縄文時代の考古学3 大地と森の中で. 同成社
 佐藤慎一・東 幹夫・近藤 寛・西ノ首英之. 2001. 諫早湾干拓地の貝類相-調整池における貝類相の時間的変化-. 第四紀研究. 40.
 中島 礼・木村克己・宮地良典・石原与四郎・田辺 晋. 2004. 東京都江戸川区小松川と埼玉県草加市柿木において掘削した沖積層ボーリングコアから産出した貝化石群集. 地質調査研究報告. 第55巻第7/8号.
 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑2. 汽水域を含む全国の淡水貝類. ビーシーズ.
 湊宏. 1980. 陸産貝類の観察と研究. ニューサイエンス社

(3) 上福岡貝塚第1地点出土種実類について

今回は遺構内の堆積物を水洗し得られた炭化物資料を検討した。1号住居、2号住居の二つの遺構の層位ごと、水洗単位ごとに拾い上げられた炭化物を、双眼実体顕微鏡下で観察し種実類と思われる炭化物を同定した。資料中に未炭化のイネ科穎や節足動物の外骨格も含まれていたが、現生の混入と考え除外した。

最も多く出土したのはオニグルミの核片で、全層位から比較的まんべんなく産出している。特に1号住居から出土した種実類はほぼオニグルミ核片のみである。大きくても1cm程度で、多くは数mmの炭化した破片である。核の縫合部など特徴的な部分の破片もありオニグルミと同定したが、全ての資料に強い同定根拠があるわけではない。

オニグルミ核の内部の仁は、油分が豊富で縄文時代から広く人が食用としてきたことは周知のとおりであり、縄文時代の遺跡から出土することに疑問はない。一方で同様によく利用された堅果類の炭化物は本遺跡からほとんど出土してない。オニグルミ核の小さな炭化破片が多数出土するのは、本遺跡での植物の利用廃棄の形態の一端を示すものであろう。

オオムギ、コムギとも資料の多くは2号住居の攪乱層または攪乱が疑われる層から出土しているため、縄文時代の資料ではなく混入物であると考え。より下層から出土した個体もあるが、比較的集中して出土するのがより表土にちかい攪乱層であるので、動物等のつくった穴などによる落ち込みであると考え。しかし、炭化米を含まずオオムギを主体としコムギを伴う構成には注意を払うべきである。この地域の農業史の一断面を示す資料であろう。混入物であると除外するのではなく資料を保存し、必要があれば年代測定なども行うべきだろう。

小型の涙滴型の種子が2号住居から層位的にまとまって出土した。長さは2mm弱で、広側面はずんぐりとした涙滴型で、狭側面は先端がやや尖った楕円形、断面は楕円である。黒色で、細かなクレーター状の窪みが表面を無秩序に埋める。今回同定できなかったが、人に利用されていた可能性もある。しかし、小型で炭化の有無が確認しがたいため、蟻などが地下に集積した現在の種子である可能性もある。ヒユ属種子で同様の事例がある(住田2007)。

そのほかにタデ属やカナムグラの炭化果実、イネ科やキハダの炭化種子が出土した。単独での出土であり

評価しがたい。同定できなかったが種実類の炭化破片らしきものは他にも散見できたため、比較的頑丈で炭化状態のよい資料だけが残存したのだろう。木炭片などに比べ炭化した種実類はもろいため、今後回収方法を工夫することにより多くの資料を得て評価することも可能となるかもしれない。

種実類ではないが、ビーズ状の炭化物が各層から少数ずつ出土した。これも同定できなかったが、全体ではまとまった数が出土する。概形は直径2mm前後、厚み1mm前後の平たい円柱で、対称軸に穴があいたビーズ状の形状である。正確にはこの軸の沿って前後は非対称であり、穴が貫通しない場合もある。明瞭な表面構造がない。異なった対象物をこう認識している可能性もある。頻繁に利用される植物の部位である可能性もあるので記載した。

最後に堆積物資料からこれだけ多くの炭化物資料を採取された担当者に感謝します。

(住田雅和)

参考文献

2007 住田雅和 「印内台遺跡群(44)調査地点出土炭化種実類について」 『印内台遺跡群(44)』 船橋市教育委員会

第77表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層別出土種実一覧表

| 貝層名 | 種実名 |
|------|--------------------------------|
| 貝層1 | オニグルミ核破片28 |
| 貝層2 | オニグルミ核破片129 キハダ種子破片2 ビーズ状体3 |
| 貝層3 | オニグルミ核破片2 |
| 貝層4 | オニグルミ核破片87 ビーズ状体3 |
| 貝層5 | オニグルミ核破片2 |
| 貝層6 | オニグルミ核破片1 |
| 貝層7 | |
| 貝層8 | オニグルミ核破片20 |
| 貝層9 | オニグルミ核破片21 イネ科炭化穎 |
| 貝層10 | ビーズ状体1 |
| 貝層11 | オニグルミ核破片7 |
| 貝層12 | オニグルミ核破片2 |
| 貝層13 | |
| 貝層14 | オニグルミ核破片1 |

第78表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ出土層位別種実一覧表

| 層位 | 種実名 |
|----|--|
| 1層 | オオムギ5(小型2) オニグルミ破片7 イネ科1 コムギ1 破片1 ムギ類破片1 ビーズ状2 ドングリ類種皮片1 |
| 2層 | |
| 3層 | |
| 4層 | オオムギ(小型)1 |
| 5層 | イネ科炭化種子1 |
| | オニグルミ破片1 |
| 6層 | ビーズ状体1 |

第79表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ出土層位別種実一覧表

| 層位 | 種実名 |
|------|-----------------------------------|
| 1層 | オオムギ3 オニグルミ破片2 ビーズ状体1 涙滴型27 |
| 2層 | ビーズ状体1 涙滴型7 |
| 3層 | オオムギ小型1 |
| 3-4層 | |
| 4層 | |

第80表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅲ・Ⅳ住居跡一括出土種実一覧表

| 貝層名・層位 | 種実名 |
|---------|--|
| 貝層Ⅲ・Ⅳ | |
| 貝層Ⅲ | オニグルミ破片2 不明果実1 |
| 試掘住居跡一括 | 涙滴型種子1 |
| 貝層Ⅴ | オオムギ2 オオムギ破片2 オニグルミ破片7 コムギ1 カナムグラ タデ属 イネ科1 ビーズ状体4 |
| 2号住居一括 | コムギ1 |

第3章 滝遺跡第14地点の本調査

I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成によるものである。2007年11月8日から19日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、上下水道管等の埋設等で遺跡へ影響を及ぼす道路部分について開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。建物建設部分は30cm以上の保護層が保たれるため保存措置とした。

本調査は2007年11月20日から開始し、遺構・遺物を確認したトレンチ1周辺について、遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図を作成と写真撮影を行ない、同年12月6日調査を終了した。検出した遺構は奈良時代の住居跡7軒、土坑1基、井戸1基、溝5本である。

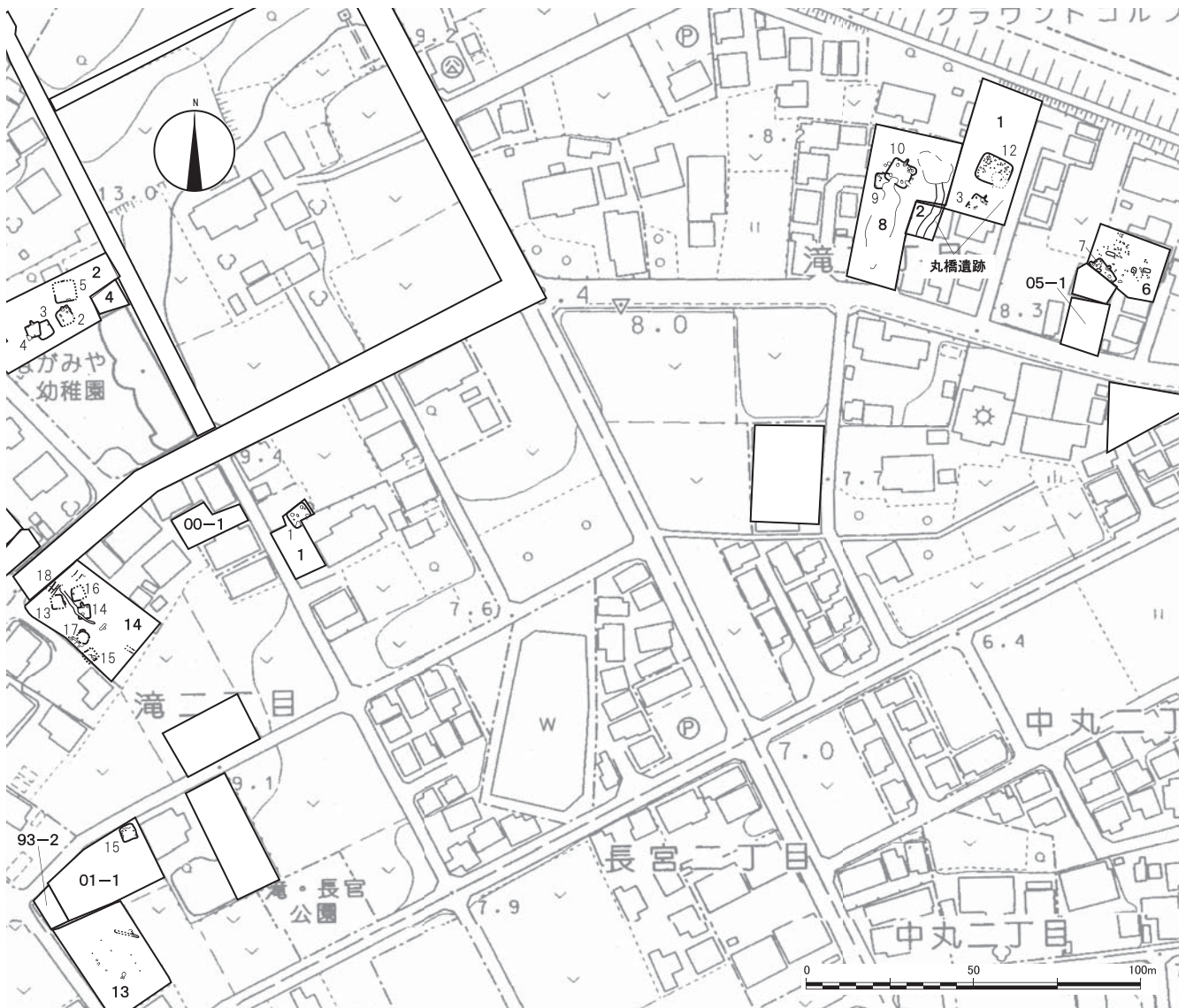
II 遺構と遺物

① H13号住居跡

【位置】調査区の中央部北側に位置する。トレンチ1から住居跡東側の竈周辺部と、トレンチ3で住居跡西側の一部を確認し、全体の約1/2を検出した。

【形状】主軸方位はN-86°-E、東壁に竈を備える。規模は主軸が東西3.7m×南北3.7mのほぼ正方形、深さは確認面から床面まで約45cmを測る。

【竈】住居跡東壁のやや南寄りに暗灰白色の粘土を貼り付け構築する。竈内部は余り焼けていないため焼土面は少ない。裾部を含めた竈の規模は幅65cm、奥行き90cm、竈内部は幅42cm、奥行き78cmである。竈の焚口部分前面は、幅5～12cm、高さ約4cmで半円形の土手状に高くなり硬く締る。



第139図 滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第81表 滝遺跡古代住居跡一覧表

| 新 住 居 番 号 | 旧 調 査 年 度 | 調 査 名 | 調 査 率 | 平 面 形 ()は 推 定 | 規 模 ()は残存 又は推定値 | 炉 竈：K | 設 置 壁・炉 位 置 | カマド・炉規模 | | 周溝 | 主 軸 方 位 | 時 期 | 備 考 | 文 献 |
|-----------------------|-----------------------|---------------------|-------------|-------------------------------|---------------------------|----------|-------------------------|-------------------------|------|----|------------------|---------|-------------------------------|-------------|
| | | | | | | | | 長 軸 | 幅 | | | | | |
| 1 | 1978 | 第1次1号住居 | 5/6 | 隅丸方形 | 640×(580)×40 | 炉 | 中央 西寄り | 115 | 70 | ○ | S-55-W | 4世紀前半 | 4本主柱穴、方形貯蔵穴110×95×40 | 埋蔵文化財の調査I |
| 2 | 1979 | 第2次2号住居 | ほぼ完掘 | 正方形 | (460)×470×45 | K | 北 | (100) | 106 | ○ | N-32-W | 7世紀前半 | 焼失住居、方形貯蔵穴62×55×45 | 埋蔵文化財の調査II |
| 3 | 1978 | 丸橋第1次3号住居 | 2/3 | 正方形 | (510×470)×15 | K | 北東 | 210 | 102 | ○ | N-38-W | 7世紀前半 | 焼失住居、(4本主柱穴) | 上福岡市遺跡調査報告書 |
| 6 | 1979 | 第2次3号住居 | 完掘 | 方形 | (480×460)×15 | - | - | - | - | ○ | - | 9世紀後半 | | 埋蔵文化財の調査II |
| 4 | 1979 | 第2次4号住居 | ほぼ完掘 | 長方形 | 南北340×東西380 ～415×30 | K | 北 | 160 | 110 | ○ | N-14-W | 8世紀後半 | | 埋蔵文化財の調査II |
| 5 | 1979 | 第2次5号住居 | 3/8 | (正方形) | (490)×610×60 | - | - | - | - | ○ | 不明 | 8世紀後半 | 竈は調査区外未調査 | 埋蔵文化財の調査II |
| - | 1980 | 第3次5号住居 | 1/5 | 不明 | (260×270)×30 | - | - | - | - | ○ | 不明 | 4世紀前半 | 権現山遺跡1号住居跡に変更 | 埋蔵文化財の調査III |
| 7 | 1980 | 第6次7号住居 | 1/3強 | 正方形 | 620×(250)×12 | K2基 | A竈：北 B竈：西 | 115×90、 122×90 | | ○ | N-52-E N-37-W | 7世紀末 | 建て替わり、不整形貯蔵穴175×95×20、床面焼土範囲有 | 埋蔵文化財の調査III |
| 8 | 2001 | 2001年度範囲確認調査第15号住居跡 | 完掘 | 方形 | 400×400 | K | 北 | 不明 | 不明 | ○ | 不明 | (8世紀前半) | 今後15号住居跡から8号住居跡に名称変更 | 埋蔵文化財の調査24 |
| 9 | 1983 | 第8次9号住居 | 2/3強 | 隅丸方形 | (500)×470×20 | 炉3 | 中央北 西寄り | 60×40、(35) ×32、40×32 | | ○ | - | 4世紀前半 | 焼失住居、床面硬化範囲2ヶ所 | 埋蔵文化財の調査VI |
| 10 | 1983 | 第8次10号住居 | 完掘 | 正方形 | 690×660×15 | K | 北東 | 215 | 125 | ○ | N-52-E | 6世紀後半 | 4本主柱穴、方形貯蔵穴(80)×75×35 | 埋蔵文化財の調査VI |
| - | 1984 | 第10次11号住居 | 完掘 | 隅丸方形 | 445×(380)×35 | K | 北 | 115 | 95 | ○ | N-5-W | 6世紀後半 | 権現山遺跡に変更 | 埋蔵文化財の調査VII |
| 12 | 1978 | 丸橋第1次12号住居 | ほぼ完掘 | 隅丸長方形 | 980×770×20 | 土器囲炉 | 北部 | 140 | 100 | ○ | N-54-W N-36-E | 4世紀前半 | 床面焼土点在 | 市史資料編第1巻 |
| 13 | 2007 | 第14地点13号住居跡 | 1/2 | 方形 | 370×370×45 | K | 東 | 90 | 65 | ○ | N-36-E | 8世紀前半 | 貼床 | 市内遺跡群4 |
| 14 | 2007 | 第14地点14号住居跡 | 4/5 | (長方形) | 385×(380)×202 | K | 北 | 171 | 82 | ○ | 真北 | 8世紀前半 | 比企型坏多数出土、貼床 | 市内遺跡群4 |
| 15 | 2007 | 第14地点15号住居跡 | 1/3 | 不明 | (370×-)×20 | - | - | - | - | - | - | - | 竈未検出、貼床 | 市内遺跡群4 |
| 16 | 2007 | 第14地点16号住居跡 | 1/4 | 不明 | (250×170)×40 | - | - | - | - | ○ | - | - | 竈未検出、貼床 | 市内遺跡群4 |
| 17 | 2007 | 第14地点17号住居跡 | 1/3 | 不明 | (344×360)×102 | - | - | - | - | ○ | - | - | 竈未検出、貼床 | 市内遺跡群4 |
| 18 | 2008 | 第14地点18号住居跡 | 1/5 | 不明 | (297×270)×30 | - | - | - | - | ○ | - | - | 竈未検出、貼床 | 市内遺跡群4 |
| 19 | 2008 | 第14地点19号住居跡 | 1/5 | 不明 | (450×-)×350 | K | 北 | (85) | (82) | - | - | 8世紀前半～ | 14号住居跡より新しい | 市内遺跡群4 |

※埋蔵文化財の調査I～VII・24、上福岡市遺跡調査報告書、市史資料編第1巻は上福岡市教育委員会刊行、市内遺跡群4はふじみ野市教育委員会刊行

【貼り床・周溝】周溝は検出した住居跡全体に巡っている。上幅10～27cm、下幅5～18cm、深さ6.8～11cmである。貼床の厚さは最大12cmである。

【遺物出土状況】竈周辺と住居跡覆土層から須恵器や土師器片等194点が出土する。

【時期】8世紀。

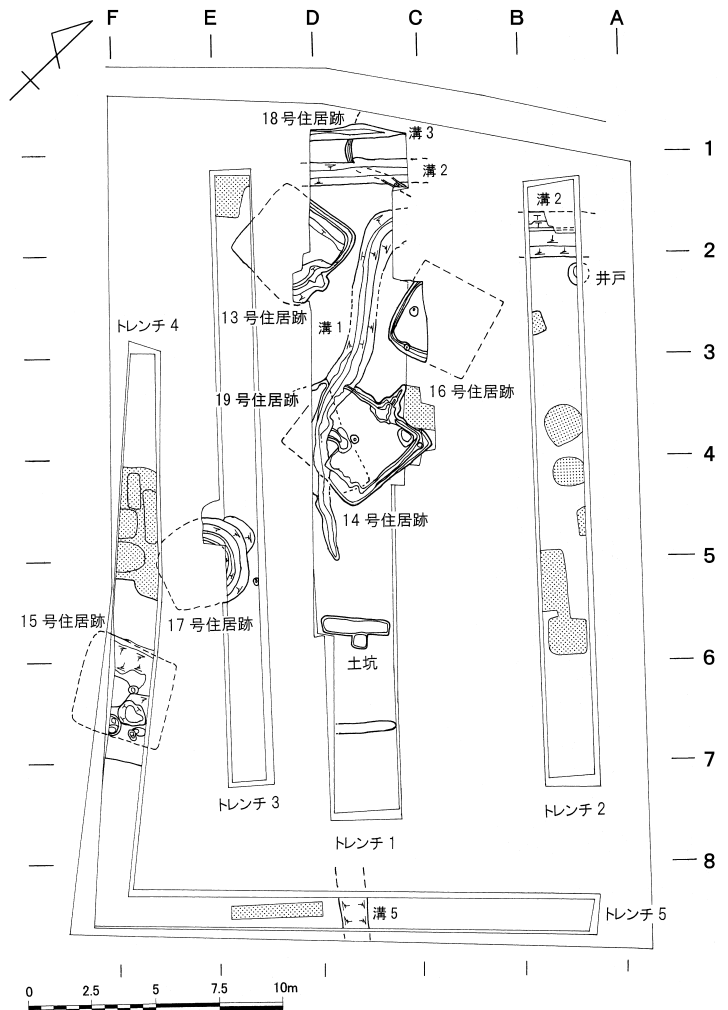
②H14号住居跡

【位置】調査区の中央部に位置し19号住居跡と重複し本住居跡が古く、また溝1に切られる。住居跡西側の角が調査区外に延び、全体の約4/5を検出した。

【形状】主軸方位はほぼ真北である。規模は主軸が南北3.85m、東西は溝に壊されるため不明であるが推定3.8m以上で方形から長方形とみられる。

【竈】住居跡北壁のほぼ中央部に構築される。竈は暗灰褐色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。袖部から煙道内部は良く焼け焼土面が残る。

焚口から煙道端までの長軸171cm、袖部の最大幅82cmである。竈内部は幅46cm、焚口は幅75cm奥行60cmで床面からの深さは約20cmである。住居跡貼床の厚さは14～15cmである。



第140図 滝遺跡第14地点遺構配置図 (1/300)

【周溝】周溝は検出部の住居跡全体に巡っている。上幅18～27cm、下幅9～18cm、深さ9.2～15.2cmである。

【遺物出土状況】住居跡覆土層の遺物は竈周辺部から東側に集中する。竈内からは第147図No.17の小型台付甕やNo.7の坏が出土する。No.2の須恵器坏は19号住居跡に属するものと考えられる。須恵器や土師器片等437点が出土する。

【時期】8世紀前半。

③H15号住居跡

【位置】調査区南側のトレンチ4に位置し、住居跡の東西部分は調査区外に延び未検出である。全体の約1/3を検出したが、竈、周溝は検出していない。

【形状】トレンチ幅1.5mを検出したため全体の形状・規模は不明である。検出部の規模は一辺3.7m、深さ20cmである。住居跡の掘り方は確認面から最も深いところで44cm、貼床の厚さは5～14cmである。

【焼土範囲】住居南側に焼土範囲が(115)×86cm、深さ24cmが確認された。底部に焼土が僅かにみられ炉跡の可能性もある。

【遺物出土状況】住居跡覆土層から須恵器甕と蓋の破片や土師器坏等30点が出土する。

【時期】8世紀。

④H16号住居跡

【位置・形状】調査区中央部北寄りに位置する。住居跡南西角の約1/4を検出したが、大部分は調査区外へ延びるため、全体の形状・規模は不明である。

検出部の規模は南北(2.5)×東西(1.7)m、確認面からの深さ40cmである。住居跡貼床の厚さは12～22cmである。

【周溝】周溝は検出した住居跡全体に巡っている。上幅15～34cm、下幅5～19cm、深さ6.2～12.6cmである。

【ピット】支柱欠とみられるピット1基を検出した。平面形態は楕円形で規模は40×31cm、深さ26.3cmである。

【遺物出土状況】住居跡覆土層から須恵器や土師器の破片等147点が出土する。

【時期】8世紀。

⑤H17号住居跡

【位置】調査区中央部のトレンチ2・4に位置する。全体の約1/3を検出したが、大部分はトレンチ外に延びるため、全体の形状・規模は不明である。竈は検出していない。

【形状】検出部はほぼ円形を呈し、規模は直径3.44～

3.6m、深さは確認面から102cmである。

【周溝】周溝は検出部分の住居跡全体に巡っている。上幅34～38cm、下幅11～24cm、深さ7.5～16cmである。

【遺物出土状況】住居跡覆土層から須恵器や土師器片等21点が出土する。

【時期】8世紀。

⑥H18号住居跡

【位置・形状】調査区北側に位置し、全体の約1/5を検出したが、大部分は調査区外に延びるため形状・規模は不明である。溝2・3に切られ、竈は検出していない。住居跡の床面は硬く締まり硬化している。

【周溝】周溝は検出した住居跡全体に巡っている。上幅12～25cm、下幅7～18cm、深さ5～8.6cmである。

【遺物出土状況】住居跡覆土層から須恵器と土師器片各4点が出土する。

【時期】不明。

⑦H19号住居跡

【位置・形状】調査区中央部に位置し、14号住居跡と重複する。竈とみられる黄褐色粘土と焼土の広がり方から本住居跡が新しいとみられる。溝1に切られ住居跡の約1/5を検出しただけで全体の形状・規模は不明である。竈のある壁の規模は推定で約4.5mである。

【竈】住居跡北壁のほぼ中央部に構築される。溝1の攪乱を受け遺存状態は良くない。

焼土範囲は直径82～85cmの円形状に広がる。その内側に燃焼部の底とみられる、良く焼けて締まった焼土面が34×(20)cmの半円形に広がる。

竈の構築に用いられた黄褐色粘土は67×(31)cmで焼土範囲の内側に半円状に広がる。

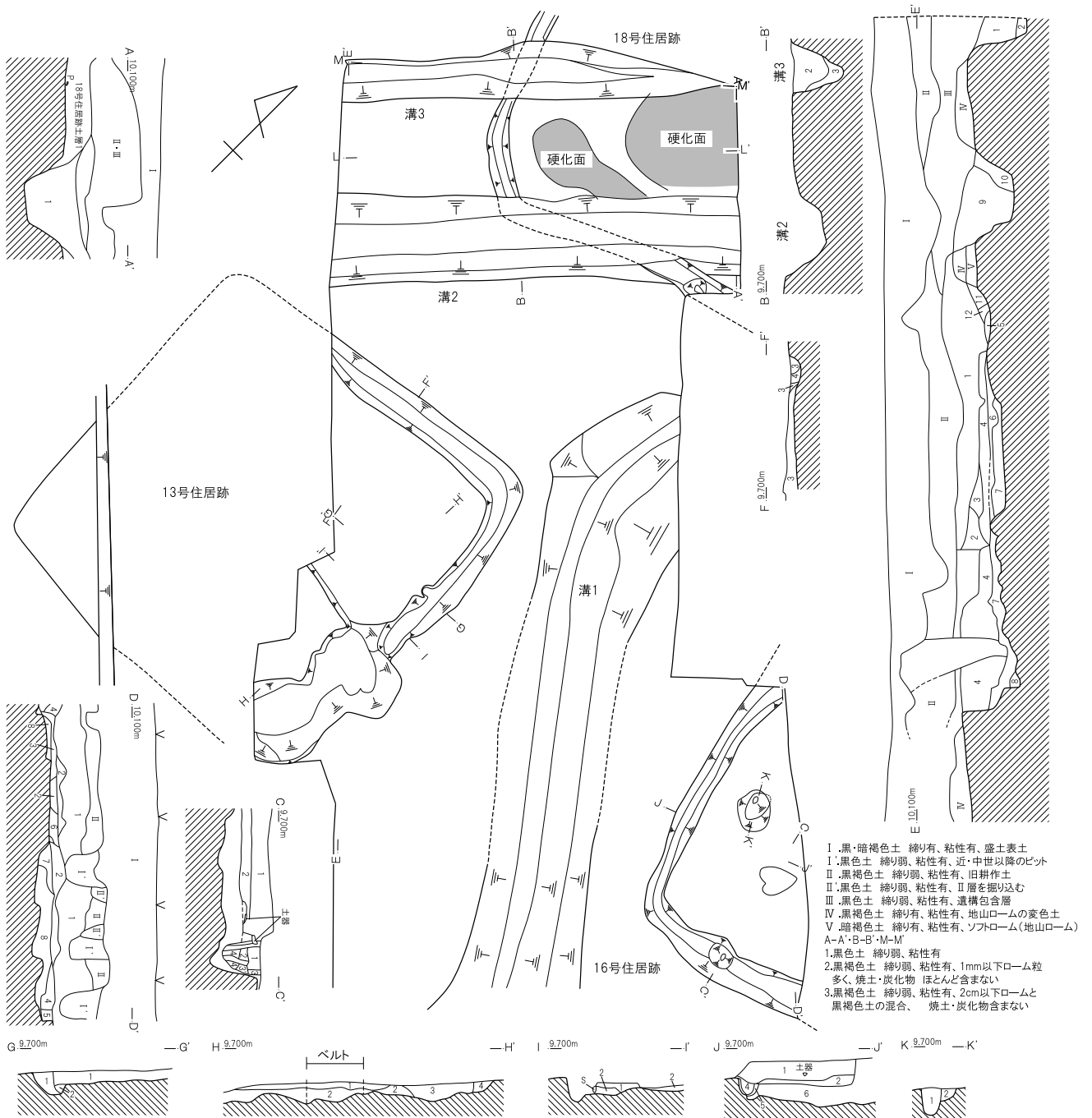
【遺物出土状況】竈周辺に須恵器、土師器の破片と住居跡北西角から第147図No.2の須恵器が出土する。

【時期】不明。

⑧溝

【溝1】溝1は調査区北側を北東から南西に延びた後、調査区中央部を北から南にやや蛇行して次第に浅くなる。トレンチ2で検出した溝4と繋がる可能性がある。断面は非対称なV字状で、東側が急傾斜で西側はやや緩やかである。規模は最大上幅135cm、最大下幅21cmである。出土遺物に近世の陶磁器を含むため、近世以降の時期と考えられる。

【溝2】調査区の北側に位置し、溝3と調査区北側の道路に平行に延びる。18号住居跡と重複し溝が新しい。上幅70～88cm、下幅29～32cmである。



- I 黒・暗褐色土 締り有、粘性有、盛土表土
- I' 黒色土 締り弱、粘性有、近・中世以降のピット
- II 黒褐色土 締り弱、粘性有、旧耕作土
- II' 黒色土 締り弱、粘性有、II層を掘り込む
- III 黒色土 締り弱、粘性有、遺構包合層
- IV 黒褐色土 締り有、粘性有、地山ロームの変色土
- V 暗褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム(地山ローム)
- A-A'・B-B'・M-M'
- 1.黒色土 締り弱、粘性有
- 2.黒褐色土 締り弱、粘性有、1mm以下ローム粒多く、焼土・炭化物ほとんど含まない
- 3.黒褐色土 締り弱、粘性有、2cm以下ロームと黒褐色土の混合、焼土・炭化物含まない

C-C'・D-D'・J-J'

- 1.黒色土 締り有、粘性有、2mm以下焼土粒・炭化物多く含む
- 2.黒褐色土 締り有、粘性有、1層より焼土・炭化物少なく、3mm以下シミ状ロームやや多く含む
- 3.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に1cm大ロームブロック少し含む、焼土・炭化物含まない
- 3' 暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下ローム多く含む(周溝)
- 4.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下ローム多く含む(周溝)
- 5.暗褐色土 締り有、粘性有、暗褐色土主体に1cm以下黒褐色土、褐色ロームブロック多く含む(貼床)
- 6.暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下ローム粒多く含む、焼土・炭化物少し含む、全体的にロームっぽい色調
- 7.暗褐色土 締り有、粘性有、2層より黒褐色土、ローム粒や少ないがほぼ2層に似る(貼床)
- 8.暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土とロームを斑状に含む、焼土・炭化物含まない(貼床)

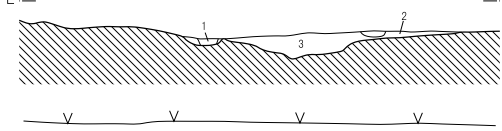
E-E'

- 1.黒色土 締り弱、粘性有、F-F'の3層に同じ
- 2.黒色土+暗灰色土 締り有、粘性有、1層主体に3cm以下暗灰色粘土少し含む
- 3.黒色土 締り弱、粘性有、1層にほぼ同じ、シミ状に暗褐色土少し含む
- 4.黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に2cm以下暗褐色土やや多く、1mm以下焼土・ローム・炭化物極少し含む
- 5.黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体にシミ状・ブロック状に暗褐色ローム多く含む(貼床)
- 6.黒褐色土 締り弱、粘性有、2cm以下シミ状暗褐色土多く含む、1mm大シミ状ローム・焼土極少し含む
- 7.黒褐色土 締り弱、粘性有、4-6層より黒色で2cm以下シミ状暗褐色土少し、1mm大焼土・ローム粒極少し含む、貼床が穴穴不明、6層と7層の間が床面とみられる
- 8.暗褐色土 締り弱、粘性有
- 9.黒色土 締り強、粘性有、3cm大シミ状ローム極少し、1mm以下ローム粒少し含む
- 10.黒色土 締り弱、粘性有、5mm以下シミ状ローム少し含む
- 11.黒色土 締り弱、粘性有、1mm以下シミ状焼土、ローム少し含む
- 12.黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下シミ状ローム・ロームブロック少し、2mm以下ロームをシミ状にやや多く含む

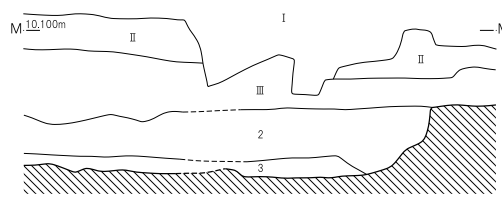
F-F'・G-G'

- 1.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に2cm以下ローム、1mm大ローム粒、同焼土少し含む
- 2.黒褐色土 締り有、粘性有、ほぼ1層に同じ、見分け難いがややローム粒大きい
- 3.黒褐色土 締り弱、粘性有、1mm以下シミ状焼土、ローム少し含む
- 4.黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下シミ状ローム・ロームブロック少し、2mm以下ロームをシミ状にやや多く含む
- H-H'・I-I'
- 1.黒褐色土 締り強、上部粘土が張っている、炭化物・焼土混
- 2.褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロック混
- 3.褐色土 締り弱、焼土粒少量、土器破片含む、ロームブロック混
- 4.褐色土 ローム、礫方

L-L'



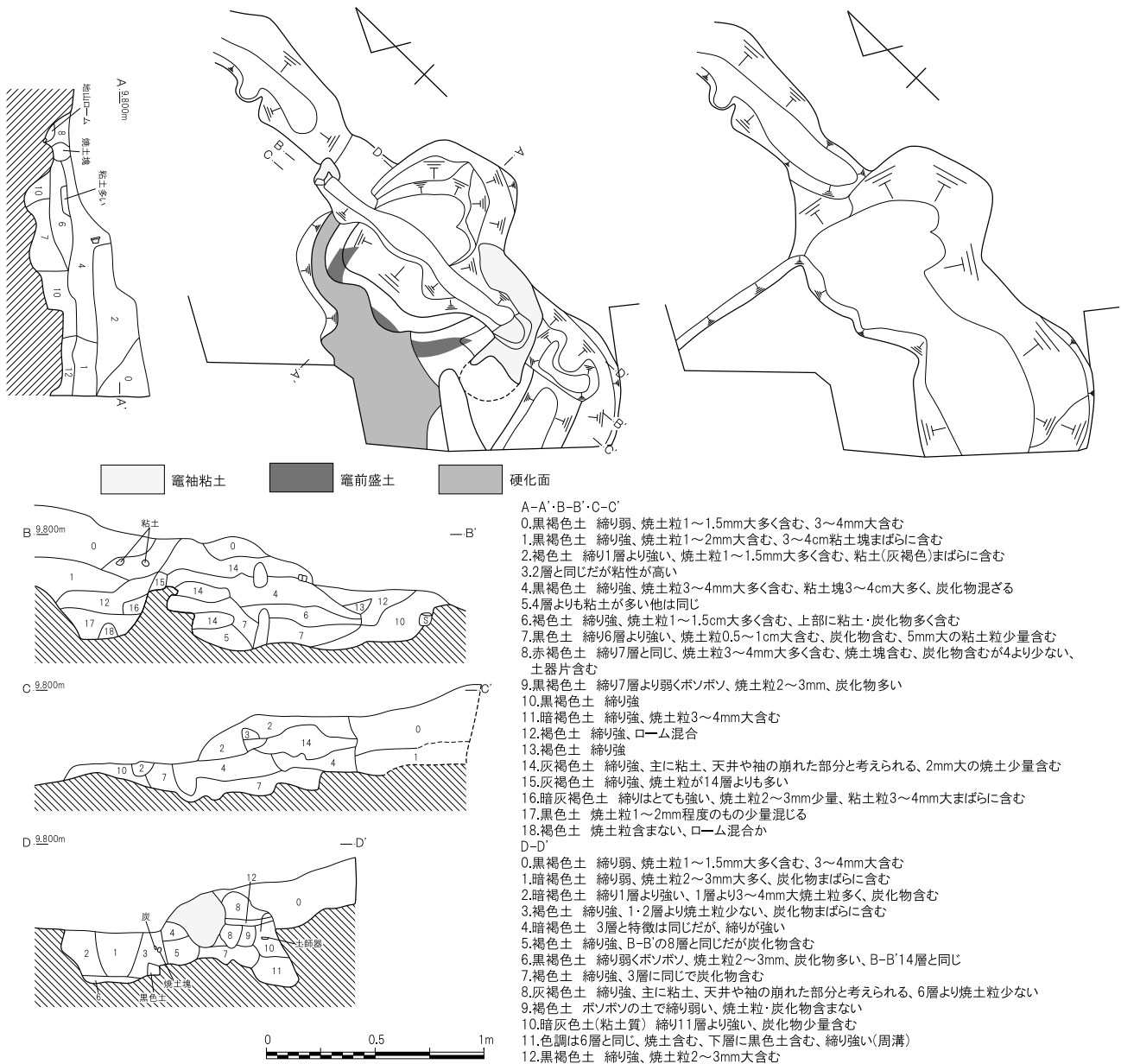
M-M'



K-K'

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下シミ状ローム少し、同焼土・炭化物極少し含む、住居2・6層に類似
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土主体に1cm以下黒褐色土、褐色ロームブロック多く含む(貼床)
- L-L'
- 1.黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下シミ状ロームやや多く、同焼土・炭化物極少し含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に5cm以下ロームブロックを多く含む貼床硬化面(貼床)
- 3.黒褐色土 締り弱、粘性有、2層がやわらかくなったもの、植物痕の可能性有(貼床)黒褐色土主体に2cm以下シミ状ローム・ロームブロックを多く含む

第141図 滝遺跡第14地点13・16・18号住居跡 (1/60)



第142図 滝遺跡第14地点13号住居跡電 (1/30)

【溝3】 調査区の北側に位置し溝2と平行に延びる。調査区外に延びるため全容は不明である。下幅18cmである。溝2同様に18号住居跡より新しい。

【溝4】 トレンチ2に位置し、断面葉研状で上幅1.73~1.8m、下幅9~12cmである。出土遺物から近世以降と考えられ溝1と繋がる可能性がある。

【溝5】 調査区南側のトレンチ5に位置する。上幅1~1.2m、深さ45cmで、芋穴の可能性も考えられる。

⑨井戸

調査区北側のトレンチ2に位置するが大部分は未調査である。検出部の直径は95cm、確認面から約85cmまで検出したが底部は確認できなかった。覆土層の観察から近世以降の時期と考えられる。

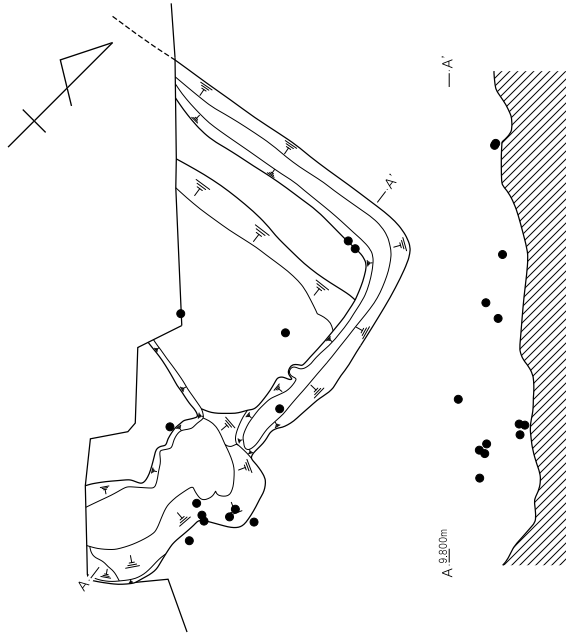
⑩土坑

調査区中央部に位置し、建物基礎(粘土)に攪乱される。長方形を呈し、規模は265×19.2cm、深さ19.2cmである。時期は不明である。

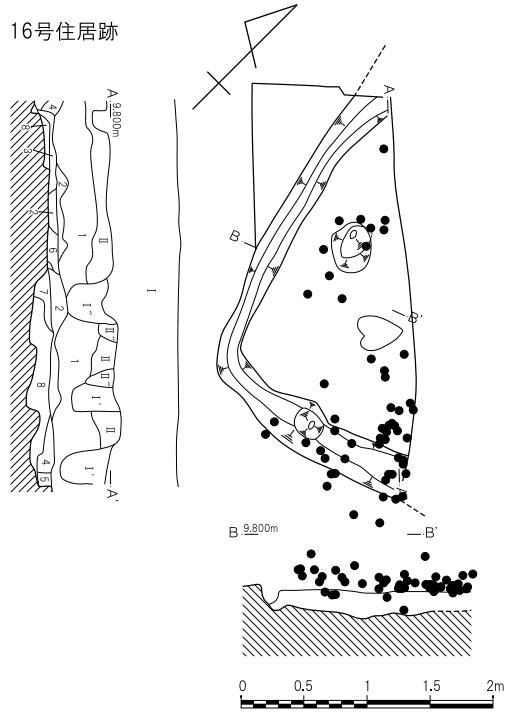
⑪出土遺物

第82表のとおりである。表土層出土の陶磁器などは割愛した。

13号住居跡



16号住居跡



16号住居

1.黒色土 締り有、粘性有、2mm以下焼土粒・炭化物多く含む

2.黒褐色土 締り有、粘性有、1層より焼土・炭化物少し、3mm以下シミ状ロームやや多く含む

3.黒褐色土 締り有、粘性有、1mm大焼土・炭化物極少し、3mm大シミ状ローム少し含む

4.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下ローム多く含む(周溝)

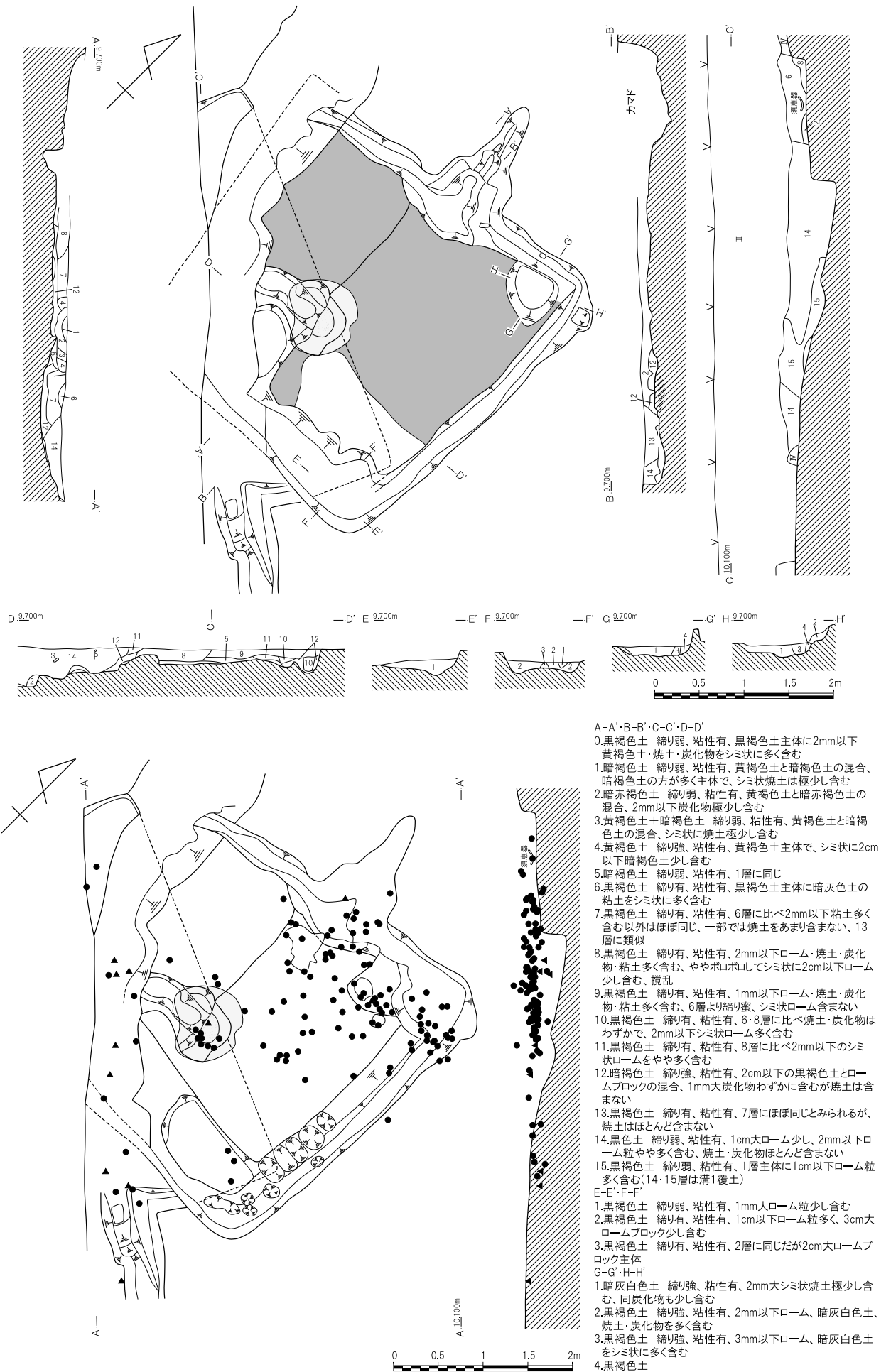
5.暗褐色土 締り有、粘性有、1cm以下黒褐色土、褐色ロームブロック多く含む(貼床)

6.暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下ローム粒多く、焼土・炭化物少し含む、全体的にロームっぽい色調

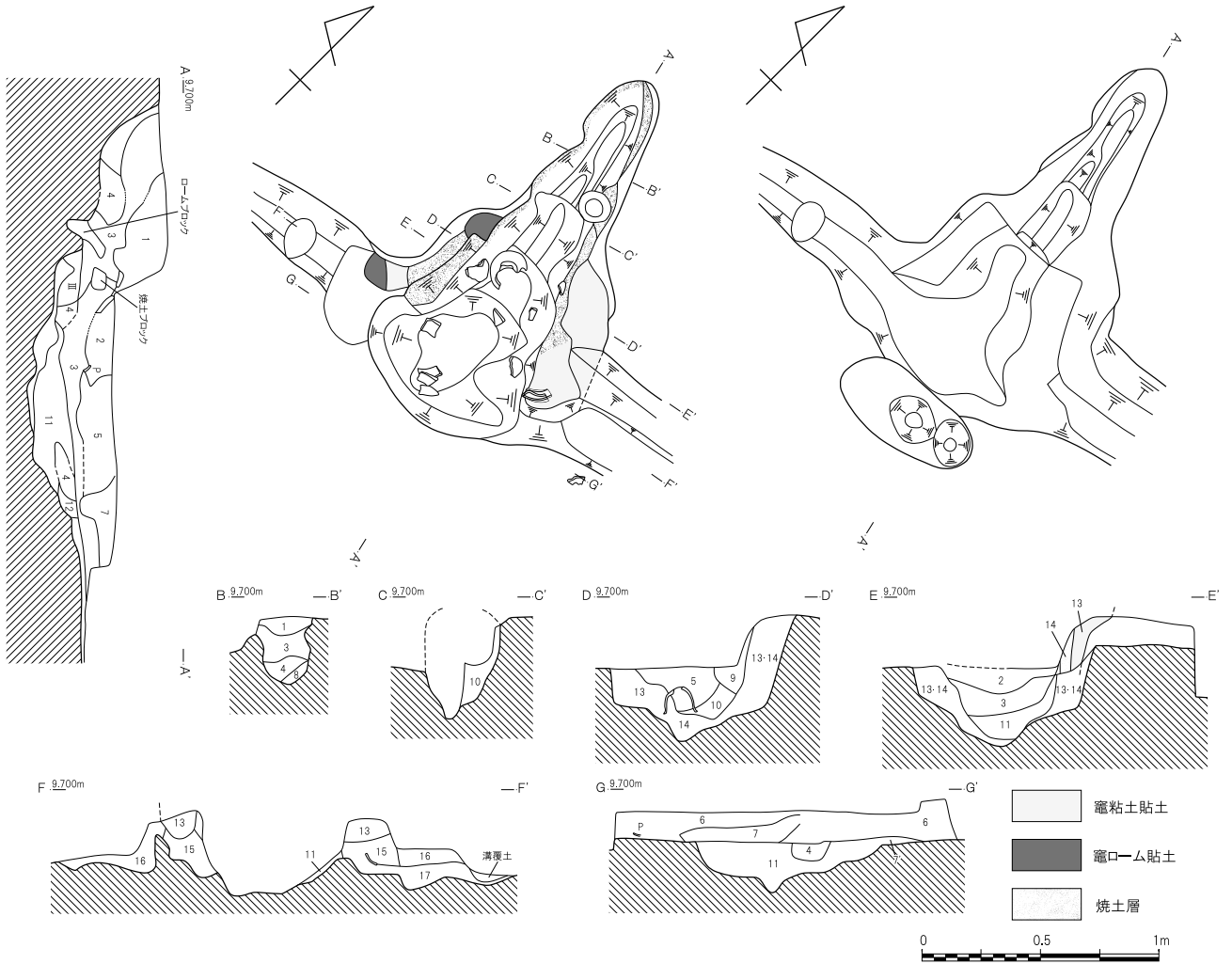
7.暗褐色土 締り有、粘性有、2層より黒褐色土、ローム粒やや少ないがほぼ2層に似る(貼床)

8.暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土とロームを斑状に含む、焼土・炭化物含まない(貼床)

第143図 滝遺跡第14地点13・16号住居跡遺物出土状況図 (1/60)

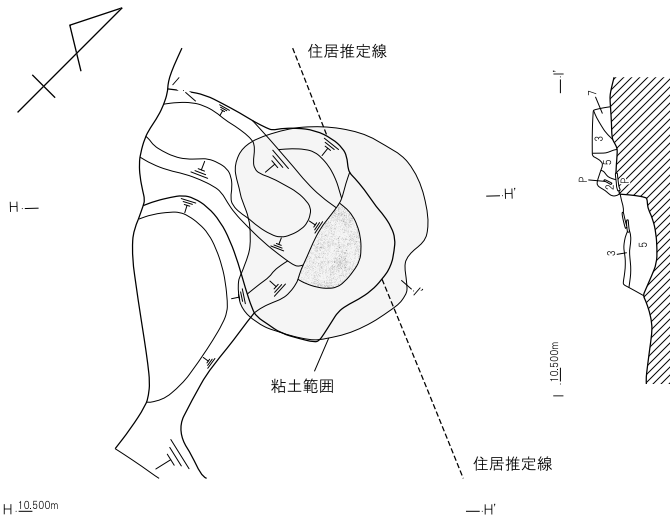


第144図 滝遺跡第14地点14号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)



A-A'~G-G'

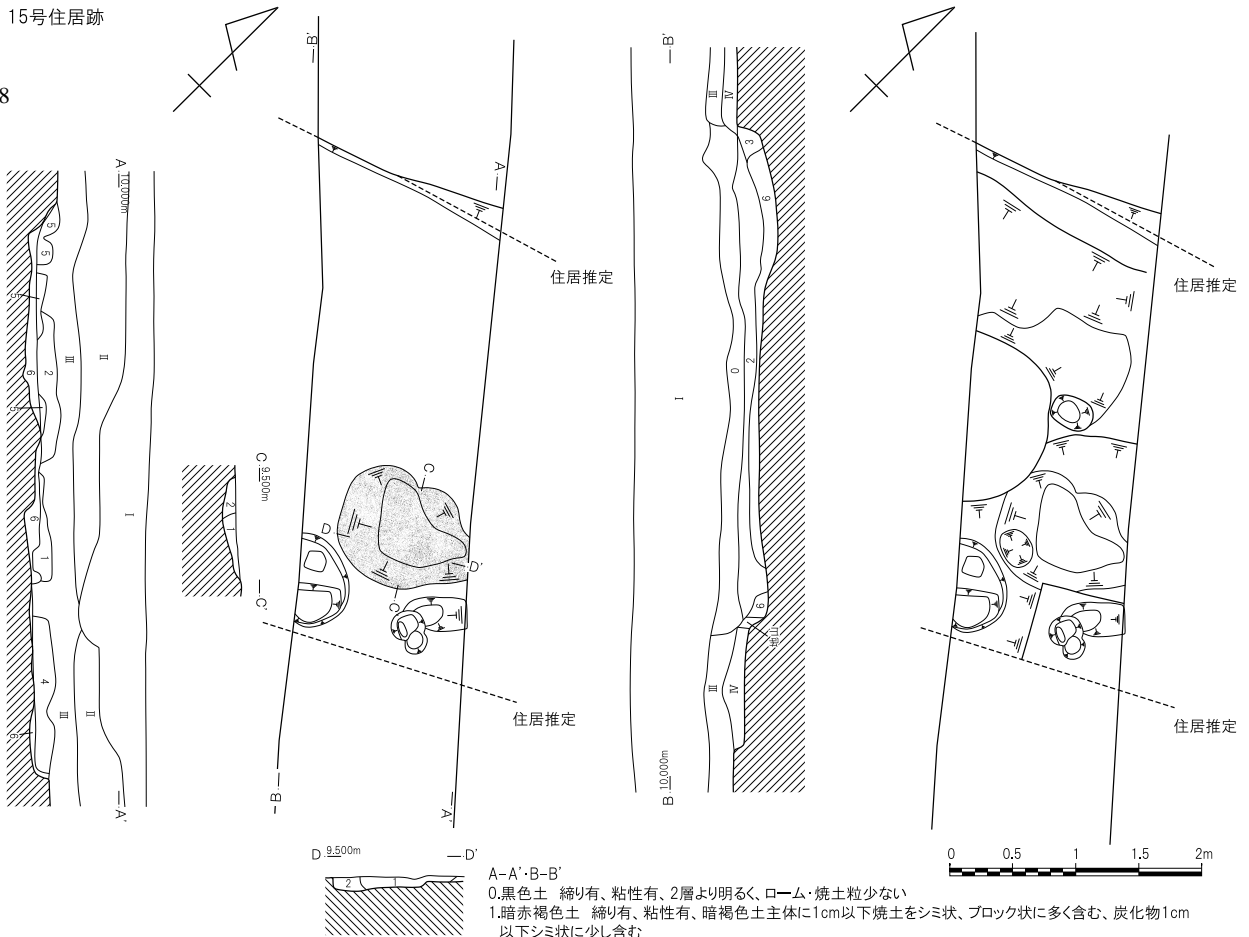
- 1.暗黄赤褐色土 締り有、粘性有、黄灰褐色土と暗赤褐色土の混合5mm以下シミ状炭化物多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下焼土・炭化物少し含む
- 3.暗赤褐色土 締り有、粘性有、1層と2層の間で黒褐色土主体に5mm以下の焼土・炭化物多く含む
- 4.黒色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体にシミ状に1cm以下焼土・炭化物少し含む、シミ状に炭化物多く含み黒色を呈する
- 5.黒褐色土 締り有、粘性有、2層より黒く、黒褐色土主体に1cm以下焼土多く、同粘土・炭化物少し含む
- 6.黒褐色土 締り有、粘性有、2・5層より黒く住居覆土に類似する、2mm以下焼土・炭化物・ローム多く含む
- 7.黒褐色土 締り有、粘性有、5層に類似、5層より焼土やや少ない
- 8.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に1cm以下暗灰色土・焼土をシミ状に少し含む
- 9.暗褐色土 締り有、粘性有、ロームと粘土の混合土主体に1mm大シミ状ローム・炭化物少し含む
- 10.黒褐色土 締り有、粘性有、9層より黒褐色土多く暗い、焼土は同程度含む
- 11.黒褐色土 締り有、粘性有、3層主体に1cm以下灰白色粘土多く含む
- 12.暗褐色土 締り有、粘性有、ロームとシミ状黒褐色土混合土に2mm以下シミ状焼土少し含む
- 13.暗褐色土 締り有、粘性有、粘土に黒褐色土を多く含み、2mm以下焼土・炭化物もシミ状に含む
- 14.赤褐色土 締り有、粘性有、ソデ内側の焼土面
- 15.黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム、暗灰白色土、焼土・炭化物を多く含む
- 16.黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム、暗灰白色土をシミ状に多く含む
- 17.黒褐色土



H-H'・I-I'

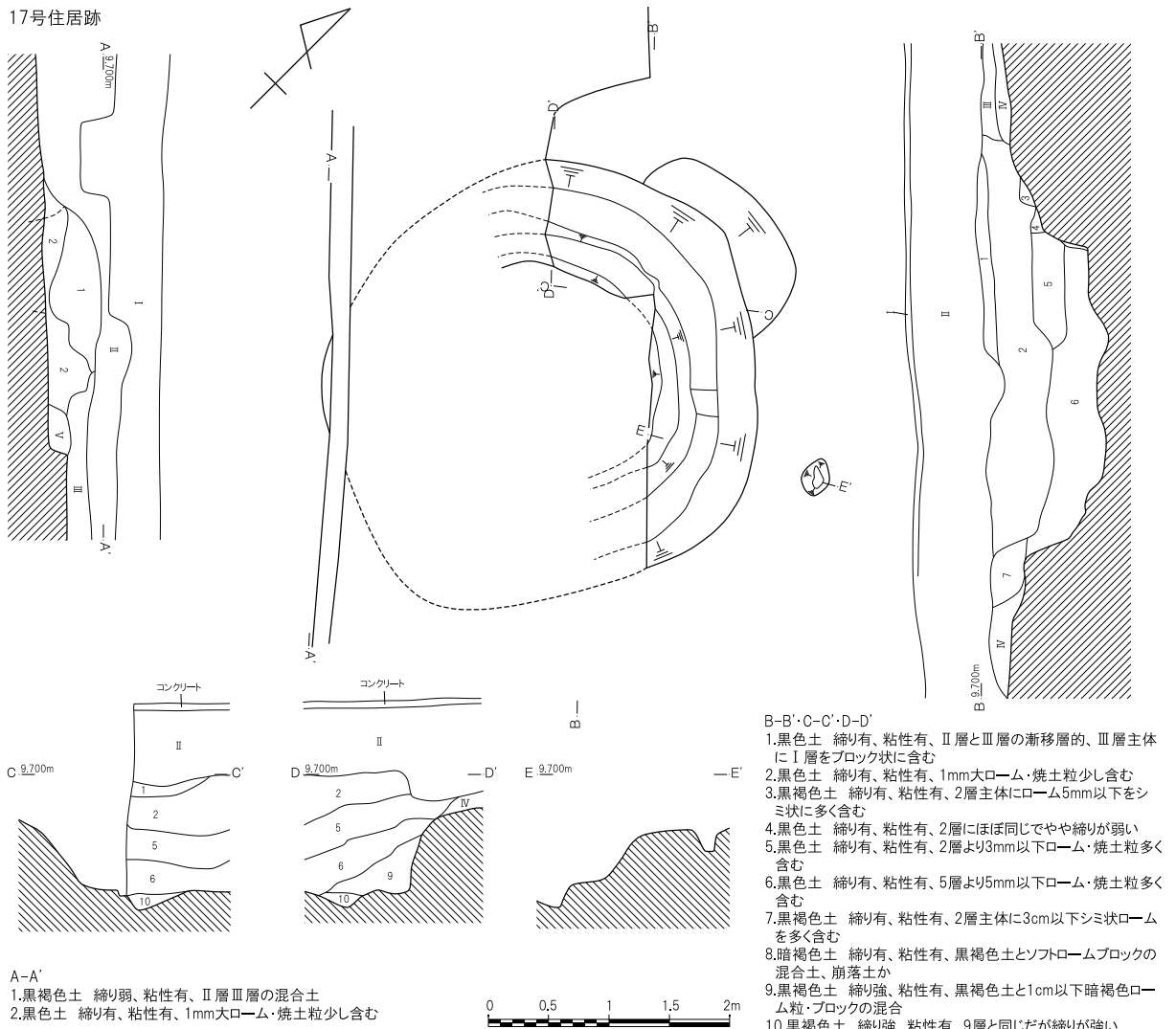
- 0.黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下黄褐色土・焼土・炭化物をシミ状に多く含む
- 1.暗褐色土 締り弱、粘性有、黄褐色土と暗褐色土の混合、暗褐色土の方が多く主体で、シミ状焼土は極少し含む
- 2.暗赤褐色土 締り弱、粘性有、黄褐色土と暗赤褐色土の混合、2mm以下炭化物極少し含む
- 3.黄褐色土+暗褐色土 締り弱、粘性有、黄褐色土と暗褐色土の混合、シミ状に焼土極少し含む
- 4.黄褐色土 締り強、粘性有、黄褐色土主体で、シミ状に2cm以下暗褐色土少し含む
- 5.暗褐色土 締り弱、粘性有、1層に同じ
- 6.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に暗灰色土の粘土をシミ状に多く含む
- 7.黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム・焼土・炭化物・粘土多く含む、ややボロボロしてシミ状に2cm以下ローム少し含む、攪乱
- 8.黒色土 締り弱、粘性有、1cm大ローム少し、2mm以下ローム粒や多く含む、焼土・炭化物ほとんど含まない

第145図 滝遺跡第14地点14号住居跡竈 (1/30)



- A-A'-B-B'
- 0.黒色土 締り有、粘性有、2層より明るく、ローム・焼土粒少ない
 - 1.暗赤褐色土 締り有、粘性有、暗褐色土主体に1cm以下焼土をシミ状、ブロック状に多く含む、炭化物1cm以下シミ状に少し含む
 - 2.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土と暗褐色土の混合で2mm以下シミ状焼土少し含む
 - 3.黒褐色土 締り有、粘性有、2層に2cm以下シミ状暗褐色土を少し含む
 - 4.暗褐色土 締り有、粘性有、2層より暗褐色土多く、焼土はほとんど含まない
 - 5.暗褐色土 締り有、粘性有、2・4層よりロームブロックが主体で焼土はほとんど含まない
 - 6.暗褐色土 締り有、粘性有、ソフローム主体に5cm以下黒褐色土をブロック、シミ状に同程度含む(粘床)
- C-C'-D-D'
- 1.黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土と暗褐色土の混合土で5mm以下焼土粒多く含む
 - 2.暗褐色土 締り弱、粘性有、1層よりローム主体の暗褐色土と黒褐色土の混合土で、5mm以下シミ状焼土少し含む

17号住居跡

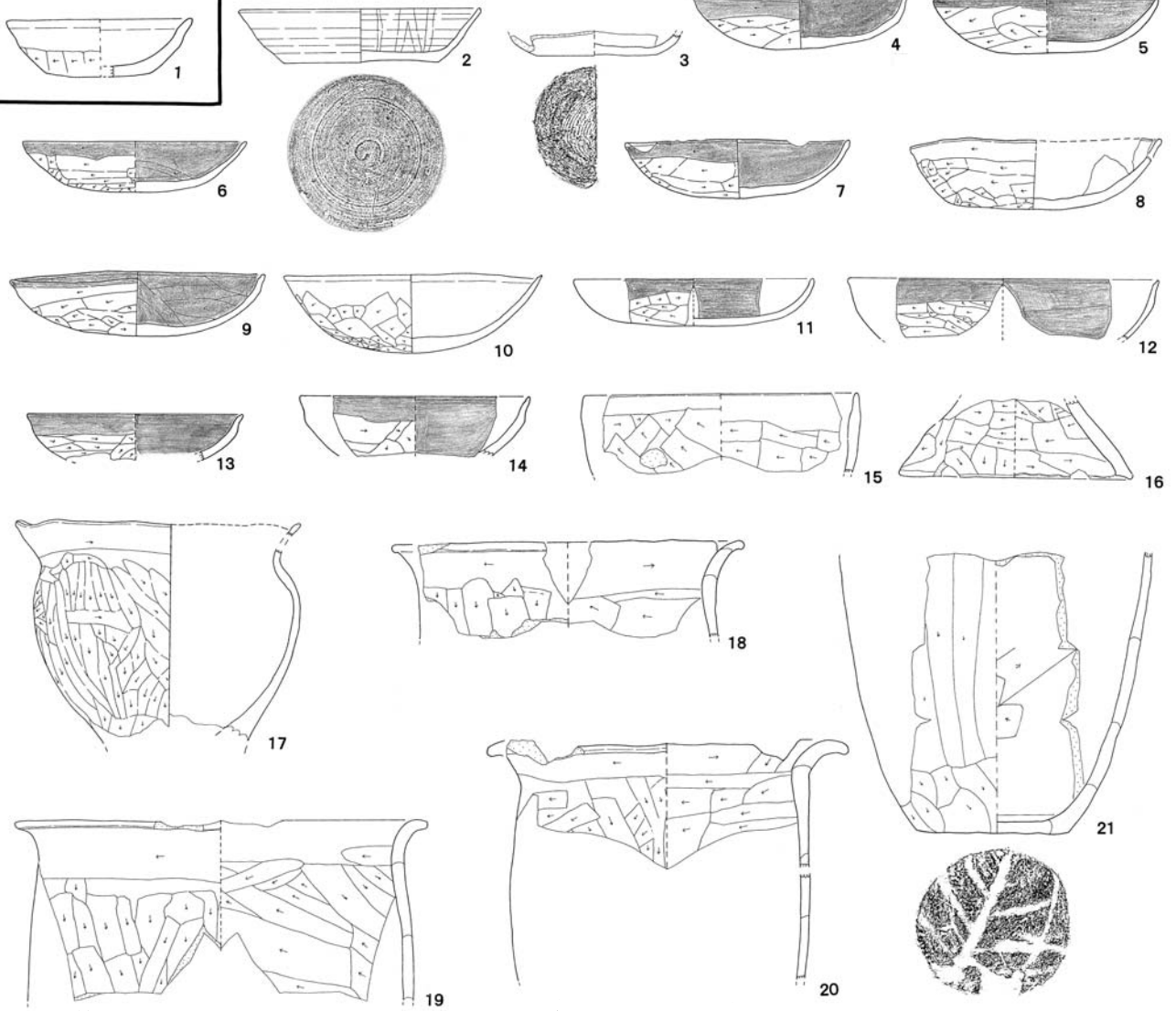


- A-A'
- 1.黒褐色土 締り弱、粘性有、II層III層の混合土
 - 2.黒色土 締り有、粘性有、1mm大ローム・焼土粒少し含む
- B-B'-C-C'-D-D'
- 1.黒色土 締り有、粘性有、II層とIII層の漸移層的、III層主体にI層をブロック状に含む
 - 2.黒色土 締り有、粘性有、1mm大ローム・焼土粒少し含む
 - 3.黒褐色土 締り有、粘性有、2層主体にローム5mm以下をシミ状に多く含む
 - 4.黒色土 締り有、粘性有、2層にほぼ同じでやや締りが弱い
 - 5.黒色土 締り有、粘性有、2層より3mm以下ローム・焼土粒多く含む
 - 6.黒色土 締り有、粘性有、5層より5mm以下ローム・焼土粒多く含む
 - 7.黒褐色土 締り有、粘性有、2層主体に3cm以下シミ状ロームを多く含む
 - 8.暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土とソフロームブロックの混合土、崩落土か
 - 9.黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土と1cm以下暗褐色ローム粒・ブロックの混合
 - 10.黒褐色土 締り強、粘性有、9層と同じだが締りが強い

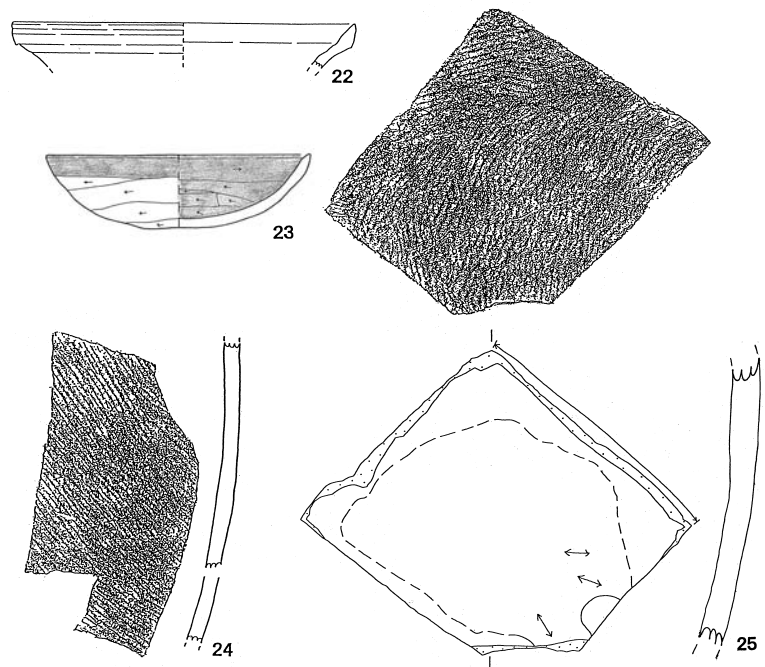
第146図 滝遺跡第14地点15・17号住居跡 (1/60)

13号住居跡

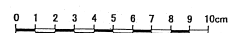
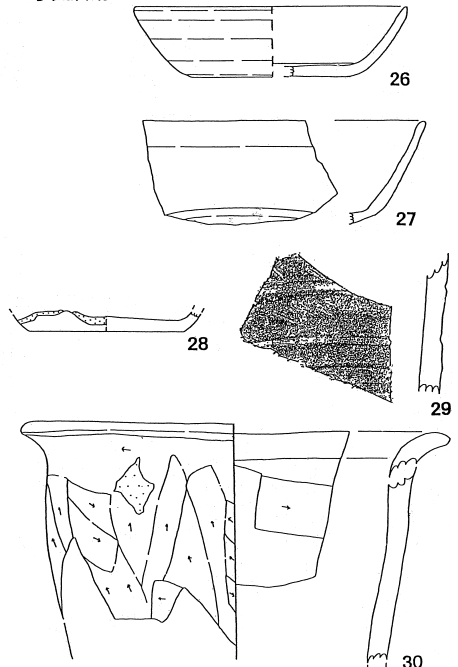
14・19号住居跡



15号住居跡

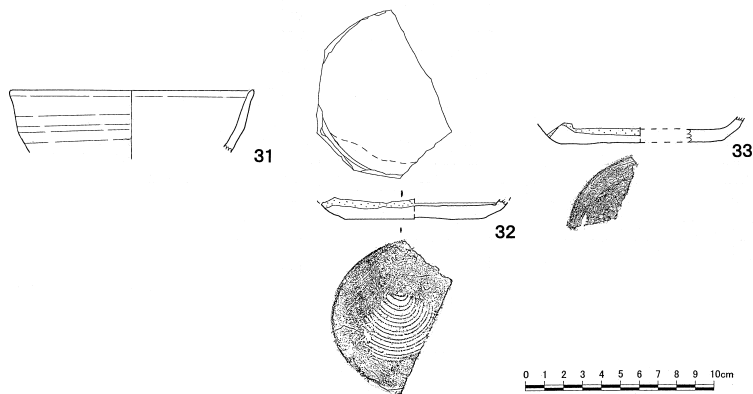


16号住居跡



第147図 滝遺跡第14地点出土遺物 (1/4)

17号住居跡



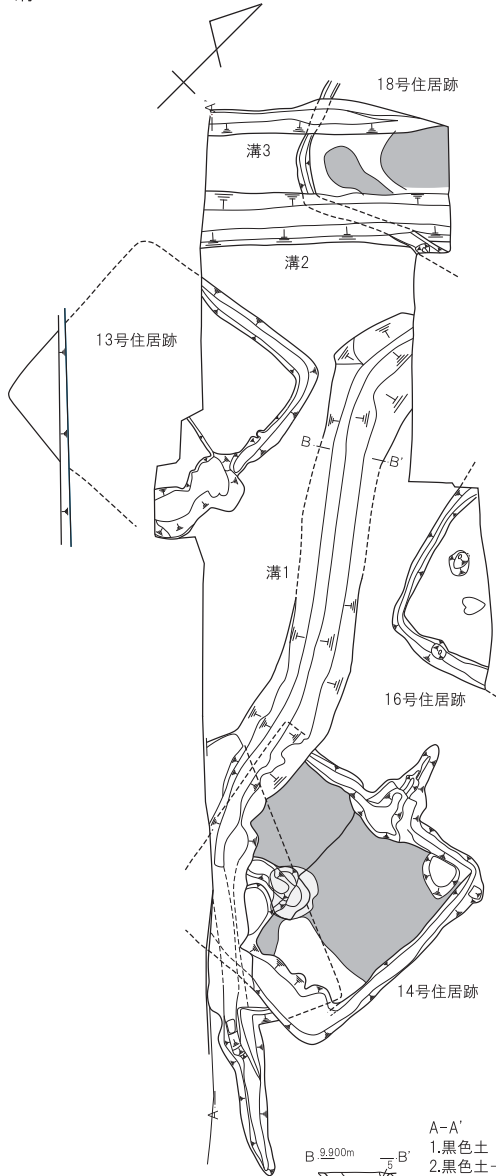
第148図 滝遺跡第14地点17号住居跡出土遺物 (1/4)

第82表 滝遺跡第14地点出土遺物観察表

(単位cm)

| No. | 出土遺構 | 種別・器種 | 口径・長 | 底径・幅 | 器高・厚 | 技法/文様/色調/注記番号/その他(石質・重量) | 推定 生産地 | 推定年代 | 残存・備考 |
|-----|-----------|---------------|--------|--------|--------|--|-----------|----------|-------|
| 1 | 13号住居跡 | 土師器/坏 | (10.8) | (6.0) | 3.3 | 口縁部横撫で、体部下半削り、胎土粒子細かい、器面磨減著しい/橙色/注No.1 | - | 8世紀中～後葉 | 相模型坏 |
| 2 | 14・19号住居跡 | 須恵器/坏 | 13.9 | 8.8 | 3.1 | 轆轤成形、底部前面回転削り/内面ヒダスキ痕、口唇部外面煤付着、海綿骨針含む/ にぶい黄橙色/注No.86 | 南比企 | 8世紀前半 | |
| 3 | 14・19号住居跡 | 須恵器/坏 | - | 6.7 | (1.2) | 轆轤成形/底部回転糸切り+周縁部削り、海綿骨針含む/黄灰色/注No.5 | 南比企 | 8世紀前半 | |
| 4 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | 12.6 | 12.1 | 3.2 | 口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩/明赤褐色/注 No.50, 51, 53, 62, 63, 100, 108, 114 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 5 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | (13.0) | (12.9) | 3.2 | 口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩/明赤褐色/注 No.110, 111 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 6 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | (12.9) | (12.4) | 2.9 | 口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩/明赤褐色/注No.38 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 7 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | 13.1 | 12.4 | 3.5 | 口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩//注No.113, 115 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 8 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | 14.5 | 14.2 | 4.0 | 口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩、歪み著しい/にぶ い橙色/注No.28, 39, 42, A区H2, A区H3 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 9 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | 14.8 | 14.0 | 3.7 | 口唇部沈線/口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩/明赤 褐色/注No.50, 101, 108, 110 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 10 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | 15.0 | 14.5 | 4.5 | 口唇部沈線/口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩、歪み 著しい/にぶい橙色/注No.109, 112 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 11 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | (14.0) | (13.8) | 2.7 | 口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩/橙色/注No.96 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 12 | 14・19号住居跡 | 土師器/坏 | (18.0) | - | (3.4) | 口唇部沈線/口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩/橙色/ 注No.87 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 13 | 14号住居跡 | 土師器/坏 | (12.6) | - | (2.7) | 口唇部沈線/口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩/橙色/ 注No.31, 77 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 14 | 14・19号住居跡 | 土師器/坏 | (13.3) | - | (3.5) | 口唇部沈線/口縁部横撫で、内面撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩/明赤 褐色/注No.18 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 15 | 14号住居跡 | 土師器/小型鉢? | 16.0 | - | (4.6) | 口縁部横撫で、体部内外面削り/にぶい橙色+黒色/注No.26, H1 | - | - | |
| 16 | 14号住居跡 | 土師器/台付脚部 | - | (13.6) | (4.6) | 内外面削り/橙色/注No.58, 102 | - | 8世紀前半 | |
| 17 | 14号住居跡 | 土師器/台付甕 | (16.5) | - | (12.9) | 口縁部横撫で、体部内面撫で・外面削り/明褐色/注No.111, 122, 炉H1 | - | 8世紀前半 | |
| 18 | 14号住居跡 | 土師器/甕 | (20.5) | - | (5.6) | 口縁部横撫で、体部内面撫で・外面削り/明褐色/注No.103 | - | 8世紀前半 | |
| 19 | 14号住居跡 | 土師器/甕 | (24.0) | - | (10.5) | 口縁部横撫で、体部内面撫で・外面削り/明褐色/注No.33, 34 | - | 8世紀前半 | |
| 20 | 14号住居跡 | 土師器/甕 | (21.0) | - | (13.8) | 口縁部横撫で、体部内面撫で・外面削り/明褐色/注No.48, 53, 62, 64, 67 | - | 8世紀前半 | |
| 21 | 14号住居跡 | 土師器/甕 | - | 8.6 | (16.2) | 胴部内外面削り、底部外面木葉痕/明褐色/注No.22, 43, 49, 53, 67, 111, 119, 124 | - | 8世紀前半 | |
| 22 | 15号住居跡 | 須恵器/長頸瓶 | - | (17.8) | (2.4) | 轆轤成形/灰色/注No.9 | - | - | |
| 23 | 15号住居跡 | 土師器/坏 | (14.0) | (13.4) | 3.8 | 口縁部横撫で、体部・底部削り、口縁外面・内面赤彩、歪み著しい/明赤褐色/注 No.7, H1 | - | 8世紀前半 | 続比企型坏 |
| 24 | 15号住居跡 | 須恵器/甕 | - | - | 0.9 | 外面叩き目/灰色/注No.2, 4, 5, 6 | - | - | |
| 25 | 15号住居跡 | 須恵器/甕・転用 碗 | 15.0 | 12.9 | 1.5 | 外面叩き目、割れ口に擦痕調整有り/内面磨り跡(図破線範囲)と墨痕有り(同破線内)/ 灰色/注No.12 | - | - | |
| 26 | 16号住居跡 | 須恵器/坏 | (14.2) | (8.2) | 3.7 | 轆轤成形/底部回転糸切り+全削り、海綿骨針含む/黄灰色～黒褐色/注No.11 | 南比企 | 8世紀前半～中葉 | |
| 27 | 16号住居跡 | 須恵器/坏 | (14.7) | (10.9) | (5.4) | 轆轤成形/底部回転糸切り+削り、海綿骨針含む/黄灰色/注No.CD区 | 南比企 | 8世紀前半～中葉 | |
| 28 | 16号住居跡 | 須恵器/坏 | - | (8.1) | (0.9) | 轆轤成形/底部回転糸切り+全削り、海綿骨針含む/灰黄色/注No.30 | 南比企 | 8世紀前半～中葉 | |
| 29 | 16号住居跡 | 須恵器/甕 | - | - | 1.2 | 外面に2段の波状文/黄灰色/注No.CD区 | - | - | |
| 30 | 16号住居跡 | 土師器/甕 | 22.4 | - | (11.2) | 口縁部内外面横撫で、胴部外面削り/明褐色/注No.2, 7, 10, 16, 18 | - | 8世紀前半～中葉 | |
| 31 | 17号住居跡 | 須恵器/碗 | (13.0) | - | (3.4) | 轆轤成形/海綿骨針含む/灰黄色/注No.H2 | 南比企 | 8世紀前半～中葉 | |
| 32 | 17号住居跡 | 須恵器/坏・転用 碗 | - | (7.4) | (0.9) | 轆轤精製/底部回転糸切り+周縁部削り、碗転用周辺部打ち欠き調整、内面磨り跡(図 破線範囲)と墨痕有り(同破線内)/にぶい黄褐色/注No.H2 | 東金子 | 8世紀前半～中葉 | |
| 33 | 17号住居跡 | 須恵器/坏 | - | (8.5) | (1.2) | 轆轤成形、底部削り/灰黄色/注No.H2 | - | - | |
| 34 | トレンチ4 | 石器/石鏃 | 1.7 | (1.2) | 0.2 | 石質：黒曜石/重量0.25g/注No.4トレ2 | - | 縄文時代 | |
| 35 | トレンチ2 | 石器/打製石斧 | 10.3 | 7.9 | 3.1 | 石質：砂岩/重量203.6g/注No.2トレ | - | 縄文時代 | |
| 36 | 溝1 | 石器/打製石斧 | 12.0 | 6.1 | 2.8 | 石質：緑泥片岩/重量284.2g/注No.1-M-3 | - | 縄文時代 | |
| 37 | 表土 | 石製品/砥石 | 8.6 | 3.6 | 3.0 | 石質：凝灰岩/重量171.3g/注No.H2 | - | 中近世 | |

溝1~3

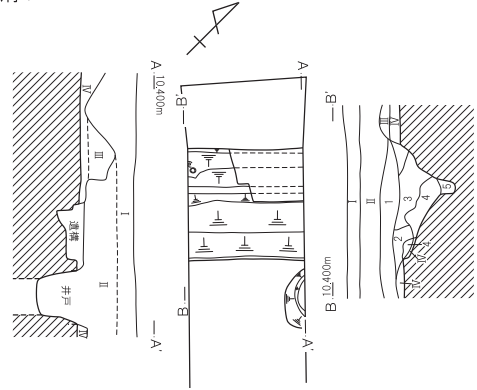


- B-B'
- 1.黒色土 締り弱、ローム粒少量混じる
 - 2.黒色土 締り弱、1層と同じだがロームブロック含む
 - 3.黒色土 締り弱、ローム粒含む
 - 4.黒褐色土 締り強、ローム粒・ブロック含む
 - 5.褐色土 締り強、ローム混じり

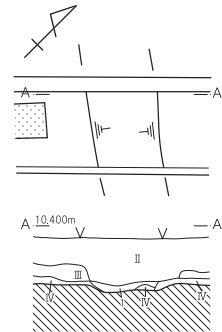
- 溝4 B-B'
- 1.黒褐色土 締り強、粘性有
 - 2.暗褐色土 締り強、粘性有
 - 3.黒褐色土 締り強、粘性有
 - 4.黒褐色土 締り強、粘性有
 - 5.暗褐色土 締り強、粘性有

- A-A'
- 1.黒色土 締り弱、粘性有、住居土層の1層に同じ
 - 2.黒色土+暗灰色土 締り有、粘性有、1層主体に3cm以下暗褐色粘土少し含む
 - 3.黒色土 締り弱、粘性有、1層にほぼ同じ、シミ状に暗褐色土少し含む
 - 4.黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に2cm以下暗褐色土やや多く、1mm以下焼土・ローム・炭化物極少含む
 - 5.黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体にシミ状・ブロック状に暗褐色ローム多く含む(貼床)
 - 6.黒褐色土 締り弱、粘性有、2cm以下シミ状暗褐色土多く含む、1mm大シミ状ローム・焼土極少含む
 - 7.黒褐色土 締り弱、粘性有、4・6層より黒色で2cm以下シミ状暗褐色土少し、1mm大焼土・ローム粒極少含む、貼床か貯穴か不明、6層と7層の間が床面とみられる
 - 8.褐色土 地山ローム
 - 9.黒色土 締り強、粘性有、3cm大シミ状ローム極少、1mm以下ローム粒少し含む(溝2覆土)
 - 10.黒色土 締り弱、粘性有、5mm以下シミ状ローム少し含む(溝2覆土)
 - 11.黒色土 締り弱、粘性有、1mm以下シミ状焼土、ローム少し含む
 - 12.黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下シミ状ローム・ロームブロック少し、2mm以下ロームをシミ状にやや多く含む(周溝)
 - 13.黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム・焼土・炭化物・粘土多く含む、ややボロボロしてシミ状に2cm以下ローム少し含む、攪乱(周溝)
 - 14.黒褐色土 締り有、粘性有、1mm以下ローム・焼土・炭化物・粘土多く含む、6層より締り強、シミ状ローム含まない
 - 15.黒色土 締り弱、粘性有、1cm大ローム少し、2mm以下ローム粒やや多く含む、焼土・炭化物ほとんど含まない
 - 16.黒褐色土 締り弱、粘性有、1層主体に1cm以下ローム粒多く含む

溝4

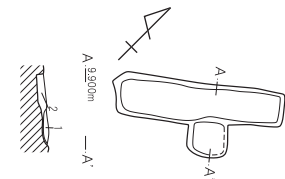


溝5

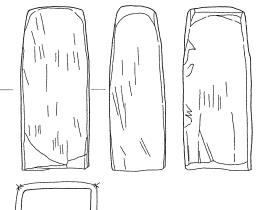
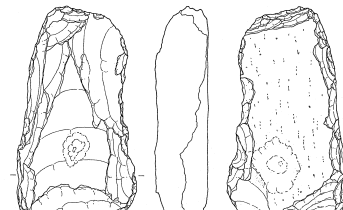
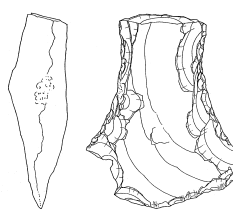
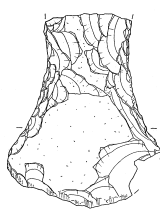
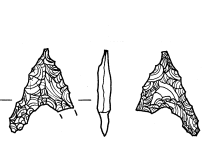


- 1.黒褐色土 締り有、粘性有、Ⅲ層とⅣ層の混合でブロック状に含む、シミ状に赤褐色土2mm以下も少し含む

土坑



- 1.灰白色土 締り強、粘性有、建物基礎
- 2.黒褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロック少し含む



第149図 滝遺跡第14地点土坑・溝 (1/120)、第14地点出土石器・石製品 (1/4・2/3)

第4章 亀居遺跡第62地点の本調査

I 本調査の概要

発掘調査は共同住宅の建設に伴うもので、2007年11月12日から26日まで行なった試掘調査にもとづき申請者と協議の結果、開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査をふじみ野市教育委員会が実施することになった。発掘調査に至る経緯については第I部第8章のとおりである。

今回の開発区域は第2・10地点の調査区と一部重なり、第10地点で調査した遺構の一部を再確認することが出来た。こうした点から本章では再調査した遺構と、過去の調査で出土した遺構についても参考資料として併せて報告する。

本調査は、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査を行なった。その後、4m方眼の区画を調査区内に設定し、東から西へA、B、C～、北から南へ1、2、3～の番号を付した。

II 遺構と遺物

本調査区は遺跡範囲の中心部にあり、縄文時代中期前半の集落でも中央部に位置する。これまでの調査から北側に6号住居跡が隣接し、北西に5号住居跡、東側にも9号住居跡が近接する。また第10地点の調査でも土坑群が確認されており、今回検出した土坑群もこれらに属するものと考えられる。

今回検出した遺構は、縄文時代中期前半の土坑20基、ピット30基である。また、このうち過去に検出した土坑9基とピットについては、既報告の遺構番号をそのまま使用した。

(1) 土坑

今回新たに検出した土坑は11基、第10地点で調査したものの再調査が9基である。出土遺物、堆積土層の状況から全て縄文時代中期に属する。詳細については、第83表土坑一覧表のとおりである。

第83表 亀居遺跡第62地点土坑一覧表

(単位cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|------|-------|-----------|----------|------|
| 土坑1 | 楕円形 | 87×70 | 48×42 | 26.4 |
| 土坑2 | 不明 | 100×(32) | 53×(25) | 29.8 |
| 土坑3 | 円形 | 132×112 | 97×76 | 36.9 |
| 土坑4 | 楕円形 | 130×111 | 93×74 | 43.7 |
| 土坑5 | 不明 | 99×(77) | 94×(65) | 15.0 |
| 土坑6 | 楕円形 | 110×94 | 100×72 | 37.8 |
| 土坑7 | ひょうたん | 161×103 | 148×90 | 24.2 |
| 土坑8 | 不明 | 141×(112) | 116×(96) | 9.2 |
| 土坑9 | 楕円形 | 95×83 | 78×62 | 67.2 |
| 土坑10 | 楕円形 | 100×57 | 25×20 | 33.7 |

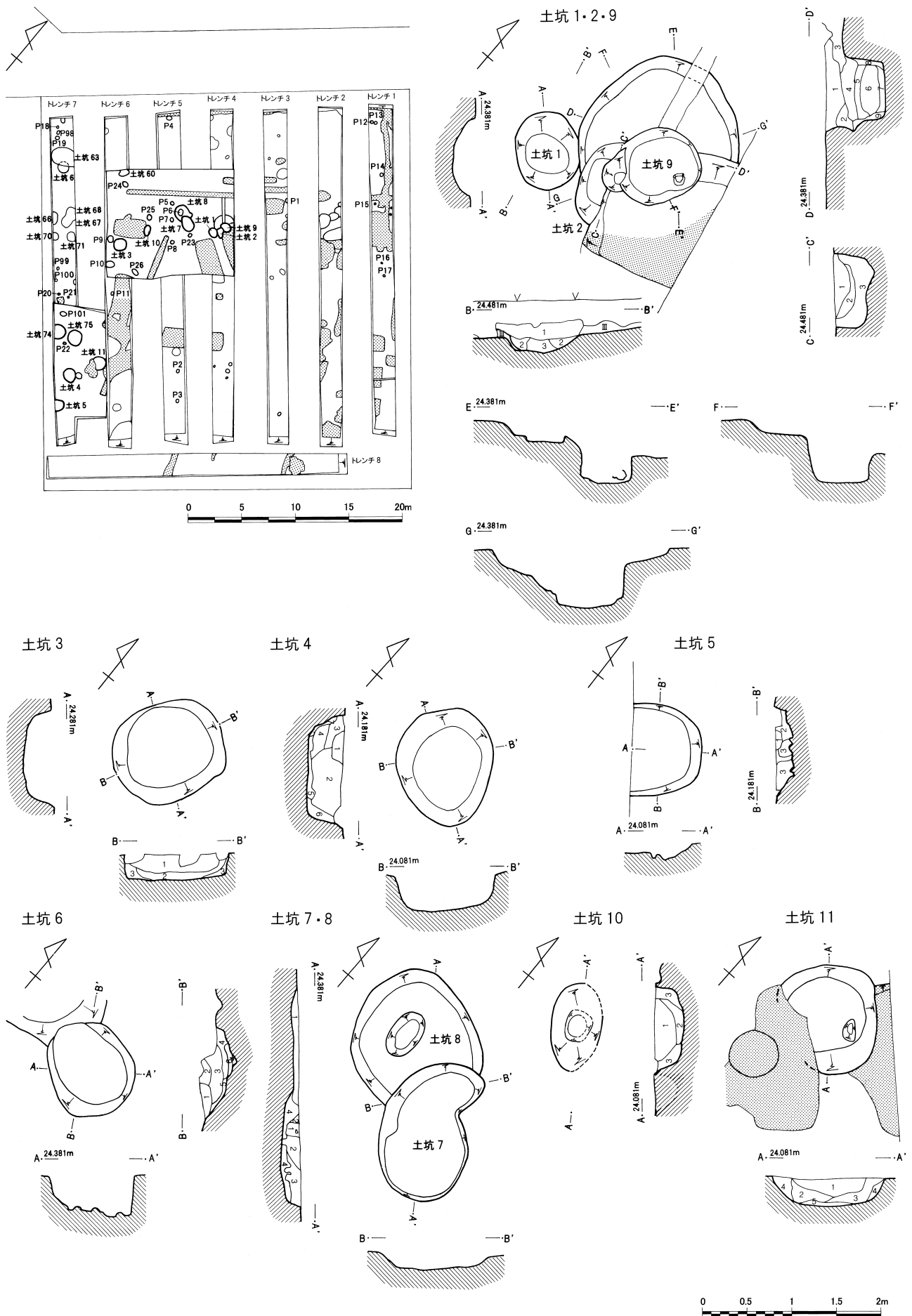
| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|------|------|-----------|--------------|------|
| 土坑11 | 不明 | 124×(99) | 83×(83)、14×6 | 49.2 |
| 土坑60 | 楕円形 | 97×53 | 66×57 | 24.0 |
| 土坑63 | 円形 | 132×126 | 83×77 | 41.0 |
| 土坑66 | 楕円形 | 151×83 | 137×? | 24.0 |
| 土坑67 | 不整形 | (112)×128 | (77)×67 | 26.0 |
| 土坑68 | 不整形 | (110)×108 | 58×45 | 49.0 |
| 土坑70 | 円形 | 88×86 | 77×72 | 20.0 |
| 土坑71 | 楕円形 | 112×98 | 31×22 | 38.0 |
| 土坑74 | 円形 | 144×143 | 106×98 | 54.0 |
| 土坑75 | 楕円形 | 169×121 | 128×104 | 34.0 |

第84表 亀居遺跡第62地点ピット一覧表

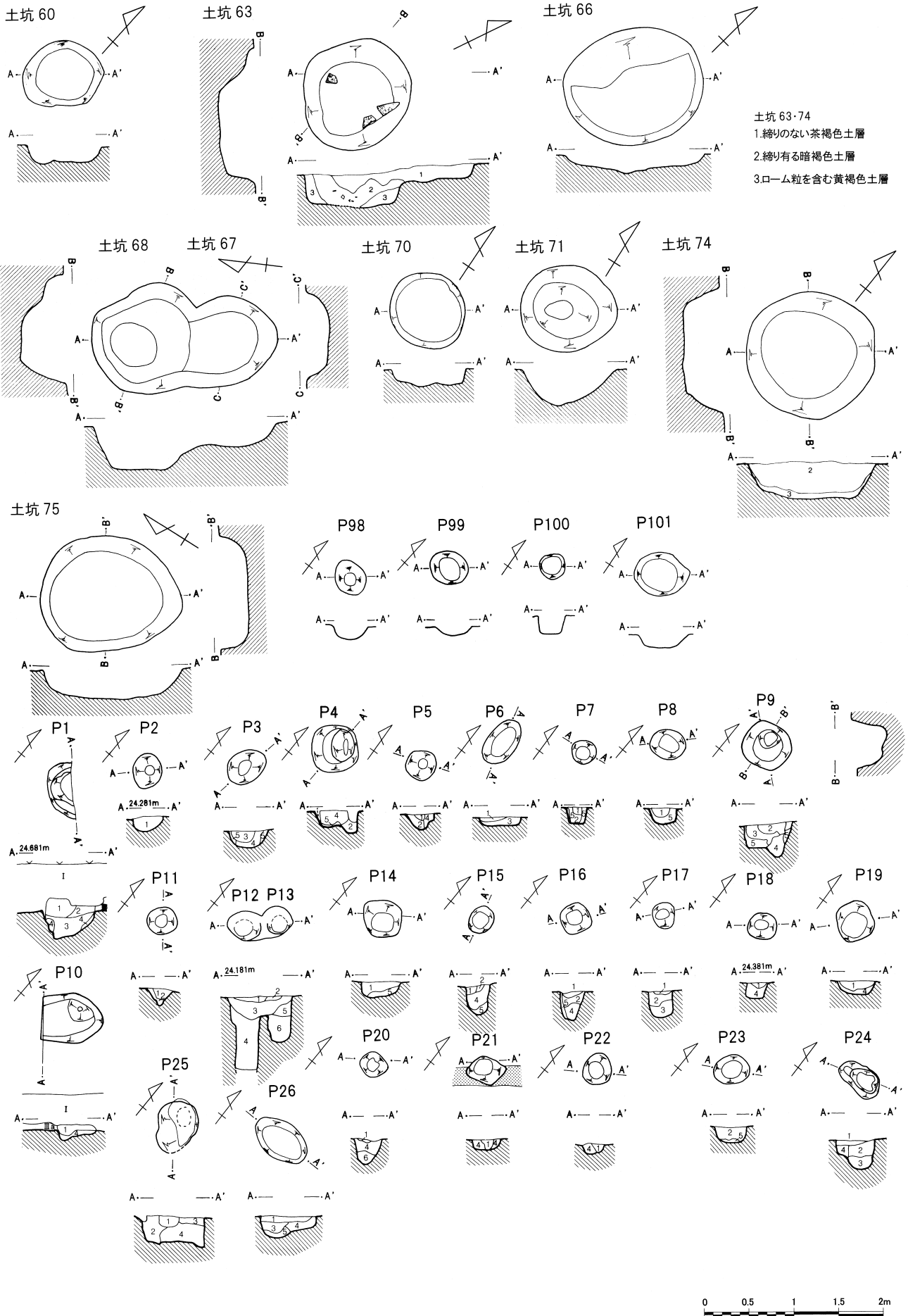
(単位cm)

| No. | 旧No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|------|------|---------|----------------|------|
| 1 | | 不明 | (63×26) | (31×31) | 31.6 |
| 2 | | 円形 | 39×32 | 11×10 | 18.4 |
| 3 | | 楕円形 | 47×36 | 19×12 | 19.9 |
| 4 | | 円形 | 53×51 | 19×5 | 33.2 |
| 5 | | 円形 | 34×33 | 11×11 | 19.5 |
| 6 | | 楕円形 | 55×33 | 38×19 | 11.3 |
| 7 | | 円形 | 28×26 | 17×14 | 19.6 |
| 8 | | 楕円形 | 40×33 | 22×16 | 20.4 |
| 9 | | 方形 | 54×49 | 17×14 | 49.9 |
| 10 | | 不明 | (69)×57 | (60)×40 5×5 | 21.0 |
| 11 | | 円形 | 33×30 | 15×13 | 21.5 |
| 12 | | 不明 | (43)×35 | (20)×19 | 84.6 |
| 13 | | 不明 | (33)×34 | 22×(19) | 51.2 |
| 14 | | 方形 | 42×42 | 25×22 | 19.4 |
| 15 | | 円形 | 32×26 | 18×17 | 38.4 |

| No. | 旧No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ |
|-----|--------|------|-------|-------|------|
| 16 | | 方形 | 33×31 | 15×12 | 38.5 |
| 17 | | 方形 | 29×24 | 17×11 | 33.0 |
| 18 | | 円形 | 33×30 | 16×11 | 27.2 |
| 19 | | 方形 | 43×40 | 38×25 | 14.5 |
| 20 | | 方形 | 27×26 | 12×12 | 36.2 |
| 21 | | 方形 | 34×28 | 20×17 | 12.2 |
| 22 | | 円形 | 36×31 | 20×17 | 10.0 |
| 23 | | 楕円形 | 39×32 | 24×18 | 18.8 |
| 24 | | 楕円形 | 51×30 | 20×17 | 36.7 |
| 25 | | 楕円形 | 60×47 | 47×29 | 34.4 |
| 26 | | 楕円形 | 67×42 | 53×30 | 25.6 |
| 98 | 10地点75 | 楕円形 | 44×35 | 13×12 | 15.0 |
| 99 | 10地点76 | 円形 | 43×37 | 30×22 | 11.0 |
| 100 | 10地点77 | 円形 | 37×34 | 23×21 | 23.0 |
| 101 | 10地点78 | 楕円形 | 63×51 | 42×38 | 16.0 |



第150図 亀居遺跡第62地点遺構配置図(1/500)、土坑① (1/60)



第151図 亀居遺跡第62地点土坑②・ピット (1/60)

亀居遺跡第62地点遺構土層説明

- I. 黒褐色土 表土 盛土 耕作土 最上部に灰色シルの整地層
- II. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、0.5mm以下ローム粒・焼土粒僅かに含む
- III. 暗褐色土 締り強、粘性有、漸移層・地山ソフローム層
- 土坑 1・2
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状暗褐色土やや多く、1cm以下暗褐色ロームブロック少し含む
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下シミ状ローム・ブロック多く含むうっすら斑状呈する土坑 3
- 土坑 3
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cmロームブロック少し、5mm以下ローム粒少し、2mm炭化物・1mm焼土わずかに含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下シミ状ソフロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒少し、1~5mm炭化物僅かに含む
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るめ、5mm以下ローム粒やや多く、2mm以下炭化物少し含む
- 土坑 4
1. 暗褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~50mmロームブロックやや多く含む、3mm以下ローム粒・炭化物少し含む
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、2mm以下炭化物少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、2mm以下炭化物少し含む
 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下シミ状ロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、5cm以下シミ状暗褐色土ブロック多く、1.5cm以下ロームブロック少し、3mm以下ローム粒少し含む
 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状ロームブロック多く含む、色調明るい
- 土坑 5
1. 暗褐色土 締り有、粘性有、2cm以下黒褐色土ブロックやや多く、5mmロームブロック僅かに含む、攪乱を受けた可能性有り
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm以下シミ状暗褐色土ブロックやや多く、3mm以下ローム粒やや多く、1mm以下炭化物少し含む
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、暗褐色ロームブロックシミ状少し、1mm以下炭化物少し含む
- 土坑 6
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、4cm以下ロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より色調明るい、5~30mm暗褐色土ブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状暗褐色土ブロック少し、5mm以下ローム粒少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より色調明るい、5mmロームブロック僅かに、3mm以下ローム粒少し含む
 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、4cm以下ロームブロック多く、3mm以下ローム粒やや多く含む
 6. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、4層に挟まれ、3mm以下ローム粒少し含む、根攪乱の可能性高い
- 1~6層に3mm以下黒色土粒少し含む
- 土坑 7
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、斑状に暗褐色土多く2mm以下ローム粒やや多く1mm以下炭化物少し含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、斑状に1cm以下ソフロームブロック少し1mm以下ローム粒・炭化物少し含む
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、7cmロームブロック少し、2mm以下ローム粒少し、1mm以下焼土僅かに含む、包含層の凹みの可能性高い
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るい、3mm以下ローム粒やや多く含む、3層と同じく包含層の凹みの可能性高い
- 土坑 8
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ソフロームブロック・ローム粒少し含む、包含層の凹みか?
- 土坑 9
1. 暗褐色土 包含層 締り強、粘性有、1cm以下斑状ソフロームブロック、2mm以下ローム粒少し、2mm以下炭化物僅かに含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ソフロームブロック多く含む、色調明るい
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状ローム多く含む色調明るい、1.5cm以下ロームブロック少し含む
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ソフロームブロック・ローム粒少し、5mm以下炭化物少し含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ソフロームブロック多く、1cm以下ハードロームブロック少し、2mm以下炭化物少し含む
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ハードロームブロック少し、5mm以下ローム粒・3mm以下炭化物やや多く含む
 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック多く含む
 8. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフローム主体、斑状に2cm前後の黒褐色土やや多く含む
 9. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフローム主体、色調5層より明るい、5~10mm黒色土少し含む

土坑 10

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ソフロームブロック、2mm以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ソフロームブロック斑状にやや多く、2mm以下ローム粒少し含む
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5cm以下シミ状黒褐色土とロームやや多く、3mm以下ローム粒少し含む
- a. 黒褐色土 締り強、粘性有、土坑 10の1層に似る、断面ピット状のしみ
- b. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下斑状ローム・3mm以下炭化物少し含む、断面ピット状のシミ
- 土坑 11
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下暗褐色土ブロック斑状に少し、1mm以下ローム少し、1mm以下炭化物僅かに含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、斑状暗褐色土やや多く、1cm以下ロームブロック少し、2mm以下炭化物僅かに含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、斑状暗褐色土多く、2cm以下ロームブロック斑状にやや多く含む、
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5mm以下暗いロームブロック斑状にやや多く含む、5mm以下ローム粒少し含む
 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るめ、シミ状に1cm以下ロームブロック多く含む
- ピット 1
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒やや多く、2mm以下焼土・炭化物僅かに含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ソフロームブロックシミ状にやや多く、1mm以下ローム粒やや多く含む1層より明るい
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5~10mmロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む1・2層よりややボソボソする
- ピット 2~11・14・18~23・26
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シミ状暗褐色土ブロック少し含む、2mm以下ローム粒少し含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、暗めで5~10mmロームブロックやや多く含む
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ブロック状黒褐色土多く、2mm以下ローム粒少し含む
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状ソフロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒少し含む
 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土多く1mm以下ローム粒少し含む色調明るい
- ピット 12・13
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒と炭化物少し含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層に似るが暗め、1mm以下ローム粒僅かに含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、明るめ3cm以下シミ状暗褐色ソフロームブロックやや多く含む、5mm以下ローム粒と2mm以下炭化物僅かに含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック5mm以下ローム粒少し含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下シミ状ソフロームブロックやや多く、5mm以下ソフローム粒少し5mm大炭化物僅かに含む、色調3・6層の間
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下シミ状ロームブロック、5mm以下ローム粒と炭化物少し含む
- ピット 15~17
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状暗褐色土やや多く、2mm以下ローム粒少し、2cm以下シミ状ロームブロック多く含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状黒褐色土少し、2mm以下炭化物少し含む
 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るめ、1.5cm以下ハードロームブロック少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック少し、3mm以下ローム粒・炭化物少し含む
 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調は明るい、2.5cm以下ロームブロック多く含む
- ピット 24
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、1mm以下炭化物僅かに含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロックやや多く、1mm以下炭化物少し含む
 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、2層より締り弱く色調暗い、1cm以下ソフロームブロックやや多く、2mm以下炭化物少し含む
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層より色調暗い、1.5cm以下硬い黒褐色ブロック少し、3mm以下ローム粒と炭化物少し含む
- ピット 25
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・ローム粒やや多く、シミ状黒褐色土多く含む
 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るい、2mm以下炭化物少し含む(包含層5・6層よりやや締り弱い)

今回の調査で、唯一復元可能な土器を出土した土坑9は調査区の中央部にあり、土坑群の中ではやや東寄りに位置する。土坑底部近くから猪沢式土器が倒れた状態で出土した。土坑と遺物の詳細は一覧表のとおりである。

(2) ピット

今回新たに検出したピットは26基、第10地点で調査したものが5基である。出土遺物、堆積土層の状況から全て縄文時代中期に属する。詳細については第84表ピット一覧表のとおりである。

(3) 出土遺物 (第152図)

出土遺物は僅かで、復元可能なものは土坑9出土土器1点である。

1は土坑1出土の深鉢形土器の口縁部片で、綾杉状刺突の隆帯脇に連続爪形文を施す。

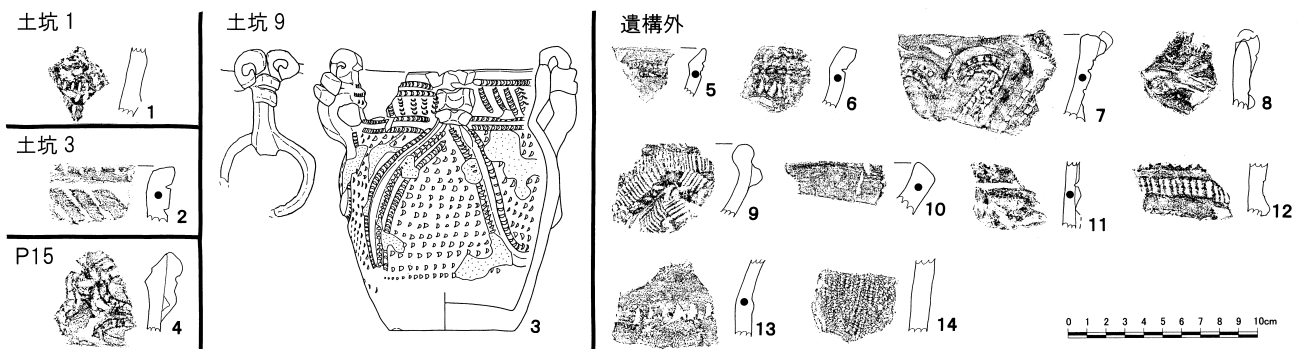
3は土坑9底部出土の猪沢式小型深鉢形土器で、口縁の一部を欠く以外はほぼ完形である。胎土は比熱のためか脆く、にぶい褐色を呈する。口径11cm、高さ14cmで、口縁部から頸部にかけて粘土棒に2本の粘土帯を巻き付けた環状の把手が付く。環状把手の間にも3本の粘土帯を貼り付け口縁部の区画を配する。口縁部

の区画内には角押文を巡らせ角押文を充填する。環状把手から胴部に懸垂する隆帯が「ハ」の字状に蛇行し渦巻く。隆帯脇にも角押文を配し、懸垂文の間は半截竹管の刺突を充填する。

2は土坑3出土の深鉢形土器の口縁部片で、隆帯の区画沿いと中に、ペン先状工具で連続刺突文を巡らす。

4はピット15出土の口縁部片で押圧のある隆帯の区画に沿って角押文を施す。

5～14は表土、包含層出土の土器片で10が浅鉢形土器でそれ以外は深鉢形土器である。5は細かいペン先状工具による複列の連続刺突文を施す。6はペン先状工具による連続刺突と刻目を施す。7は断面三角形の隆帯に沿って複列の角押文を施す。8は口縁部波状突起で隆帯沿いに細い沈線を施す勝坂Ⅱ式。9は隆帯脇に幅広角押文と三角押文を施す勝坂Ⅰ式。10は無文口縁部片で勝坂式。11は隆帯脇に沈線を巡らす阿玉台式。12は隆帯脇に幅広角押文と波状角押文を施す猪沢～新道式。13は連続刻目を施す。14は地文に細かなRL縄文を施す中期初頭か。5・6・13は阿玉台式Ⅰb～Ⅱ式、7は阿玉台Ⅱ式である。



第152図 亀居遺跡第62地点出土遺物 (1/4)

第5章 浄禅寺跡遺跡第29地点の本調査

I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成によるものである。2007年8月7日から9月21日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、上下水道管等の埋設等で遺跡への影響が及ぶ道路部分について開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査を実施することになった。建物建設部分は30cm以上の保護層が保たれるため保存措置とした。

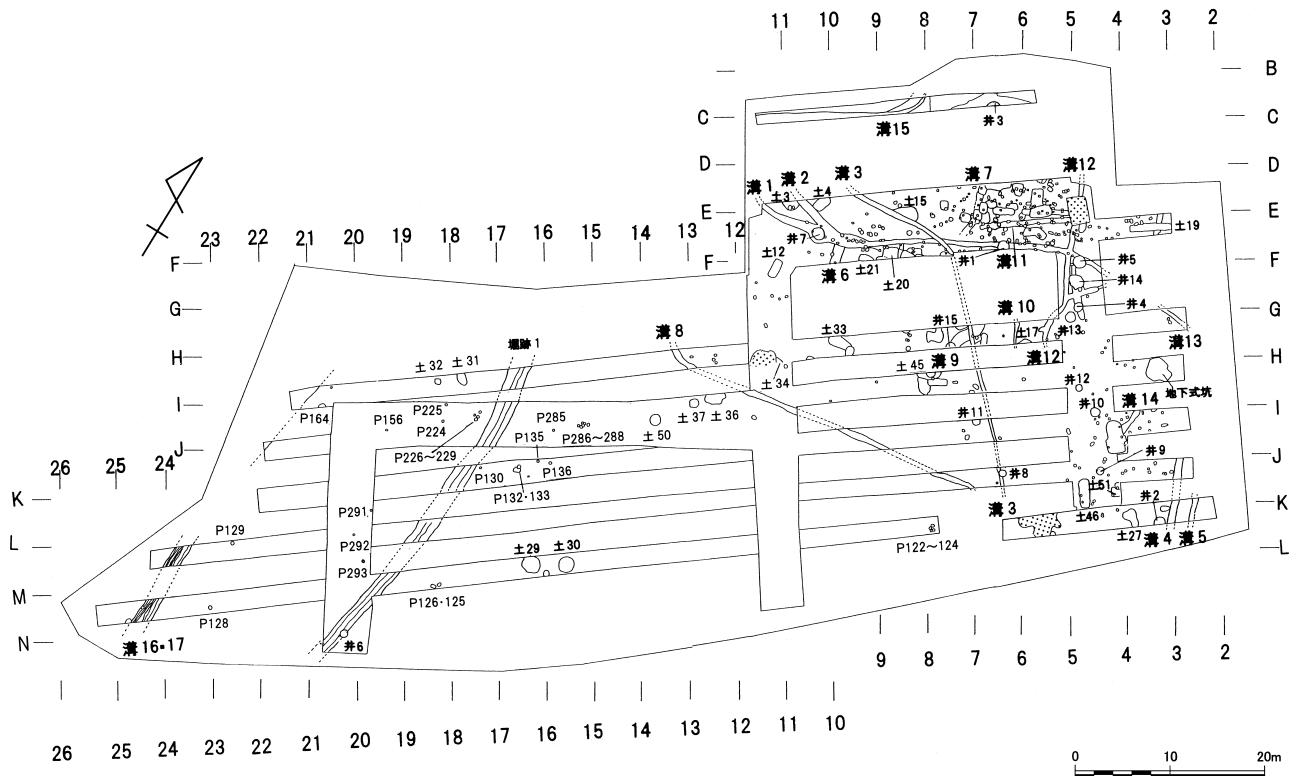
本調査は2007年9月25日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図の作成と写真撮影を行ない、同年11月6日調査を終了した。検出した遺構は中世から近世の地下式坑1基、井戸15基、土坑15基、掘立柱建物跡、ピット291基、堀跡1本、溝17本等である。

II 遺構と遺物

調査区は遺跡範囲の中央部、浄禅寺川と砂川に挟まれた部分の南東緩斜面に位置する。近世に存在した浄禅寺の寺域外にあり、これまでの調査では浄禅寺川の北側で古代から中世の村落跡等が確認されている。今回調査区の北側に位置する第7地点で、堀跡と井戸等が確認されていたが時期などは不明であった。また、浄禅寺周辺の古道沿い等で中世の板碑が7基程出土しており、次章で報告する第30地点でも近世以前に遡る遺構が新たに確認された。

苗間村の旧村落が14世紀前後には現在の村落を中心に形成されて来たと考えられて来たが、今回の調査により、浄禅寺を中心に更に広がる可能性が出てきた。

今回の試掘調査トレンチと本調査で検出した遺構は、調査区の東部に集中する。遺構の時期は概ね中世から近世期のものである。溝や井戸の重複関係などから長期間に及ぶ土地利用も考えられる。



第153図 浄禅寺跡遺跡第29地点遺構配置図 (1/800)

(1) 地下式坑 1

調査区東部のトレンチ 7 に位置する。

方形の入口を東部にもち、室部は隅丸長方形である。入口部と室部の底部はほぼ水平で平坦である。遺構長軸270cm、短軸(室部)235cm・短軸(入口部)110cm、深さ52.8cm、室部底部幅211cm・奥行き150cm、入口部底部幅98cm・奥行き86cmを測る。

(2) 井戸

井戸は15基検出したが、井戸 6 以外は調査区の東部に位置する。特に南北の 3～8 ラインに集中し北西から南東方向に並んで検出した。

井戸 4・14 は土坑42と重複し土坑42が新しい。井戸 7 と溝 1・2 では井戸 7 が新しい。

井戸 1・3 以外は底部まで検出し、井戸 5・7・13・14 は地山礫層まで掘り込んでいる。

井戸 7・13 には足掛けの横穴が確認できる。

また、井戸41覆土下層から板碑片などの遺物がまとめて出土した。各井戸の詳細は第85表のとおりである。

(3) 土坑

土坑は49基を検出し、調査区北側の溝 2・3・12 に囲まれた範囲 (D 5～7 区、E 5～9 区) に集中するものは、中世以降のものとみられる。やや不整の方形又は長方形を呈するものが多い。土坑19・42は長方形の溝状を呈する。出土遺物は少なく、土坑52からはほぼ完形のカワラケ 1 点が出土している。土坑29・30は覆土層の観察から縄文時代のものとみられる。

(4) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡とみられる遺構は D 4～6 区、E 4～6 区の範囲に集中する。それ以外の区域では調査区の範囲がトレンチ等で狭いため不明である。掘立柱建物跡の柱穴の詳細については、第88表ピット一覧表のとおりである。

①掘立柱建物跡 1

側柱 P300・82・74・303・318・7・30・312 を結ぶ、桁行約550cm、梁行約270cmの長方形を呈する。柱間は桁行が三間、梁行が一間で面積は約14.85㎡である。

南側から東側に下屋柱とみられる P309・(310)・77・(75)・(73)・70・66・305・284 が並ぶ。柱間は310・75・(73)・70・66・305・284間が約140cmである。

②掘立柱建物跡 2

側柱 P252・298・90・79・73・69・268・6・2・261 を結ぶ、桁行約620cm、梁行約400cmの長方形を呈する。

P268とP298を結ぶ桁行に屋内柱 P266・264 が並ぶ。

柱間は桁行が三間、梁行が二間で面積は約24.8㎡である。

③掘立柱建物跡 3

側柱 P103・88・80・土坑 5 内ピット・P33 を結ぶ、桁行約550cm、梁行約390cmの長方形を呈するが、北東隅の 1 本は確認されていない。攪乱による可能性が考えられる。

柱間は桁行が二間、梁行が一間で推定面積は約21.45㎡である。

東側から南側に下屋柱とみられる P297・89・317・311 が並ぶ。柱間は P297・89間が180cm、P317・311間が約240cmである。

(5) ピット

ピットは291基検出した。溝 2 から北側の区域に集中する傾向は、土坑の配置とも重なる。ただし、溝 2 の南側でもピットがやや多く検出されるが、トレンチでの調査のため、掘立柱建物跡などピット間の繋がりについては不明である。ピットの詳細については第88表のとおりである。

(6) 堀跡・溝

①堀跡 1

調査区の西側をほぼ南北方向に延びる。本調査区北側に位置する第7地点(註)で検出した堀 1 の続きである。

断面はV字型に開く葉研状を呈する。土層の観察などから水が流れた痕跡が確認された。詳細は第86表のとおりである。

②溝

溝は全部で17本確認された。溝13は溝 1・2 につながる可能性がある。

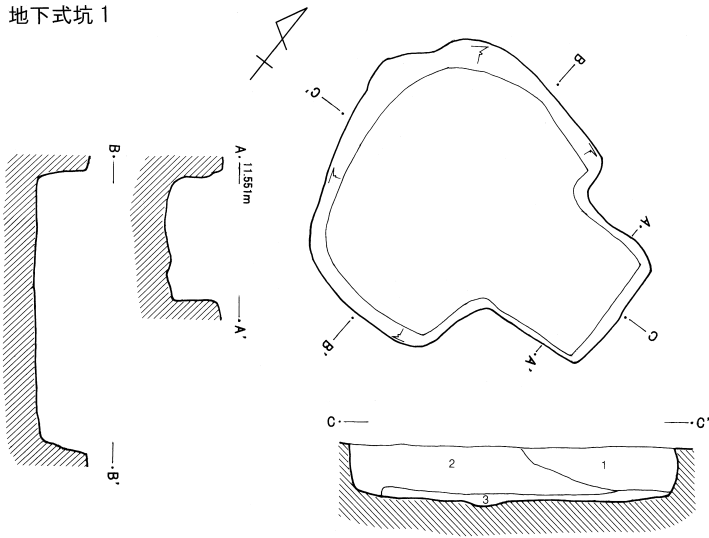
溝 4・5 は並行して確認されることから、道の側溝と考えられる。

溝 1・2・3・7・12 は掘立柱建物跡や土坑・ピット群の配置から屋敷地などを区画したものの可能性が考えられる。各溝の詳細は第86表のとおりである。

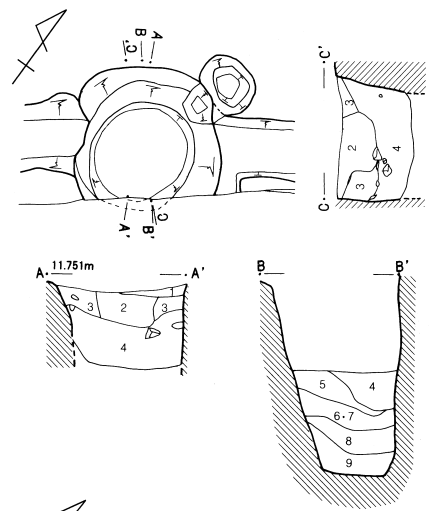
(7) 出土遺物

出土遺物は土坑52からカワラケが出土している。砥石が井戸 2 から 1 点、井戸13から 2 点出土している。また、井戸15から播鉢片と板碑片が合計 5 点出土しているが全て覆土層出土である。縄文土器については堀跡から出土したのも遺構外出土と合わせて第166図に掲載した。遺物の詳細は第89表のとおりである。

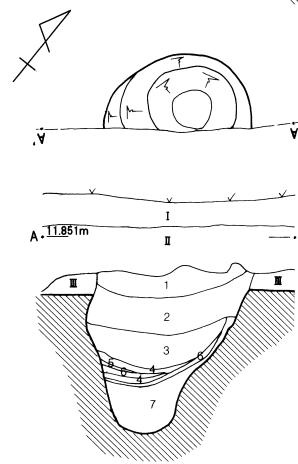
地下式坑 1



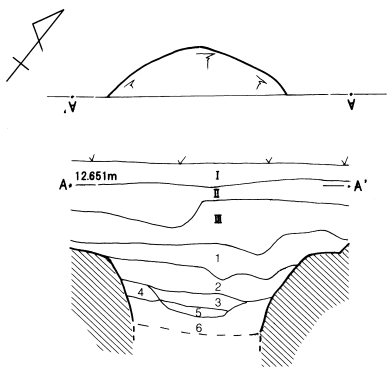
井戸 1



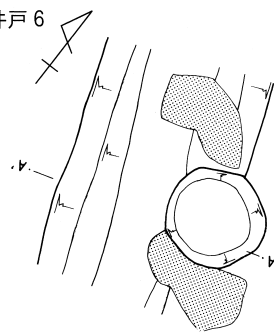
井戸 2



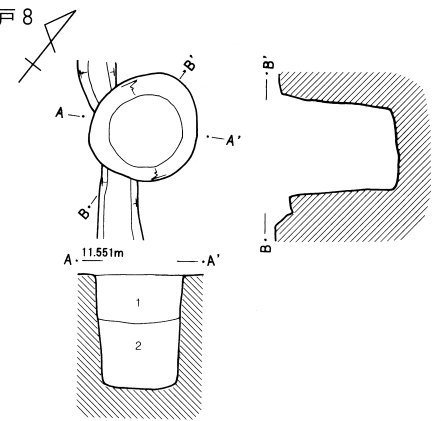
井戸 3



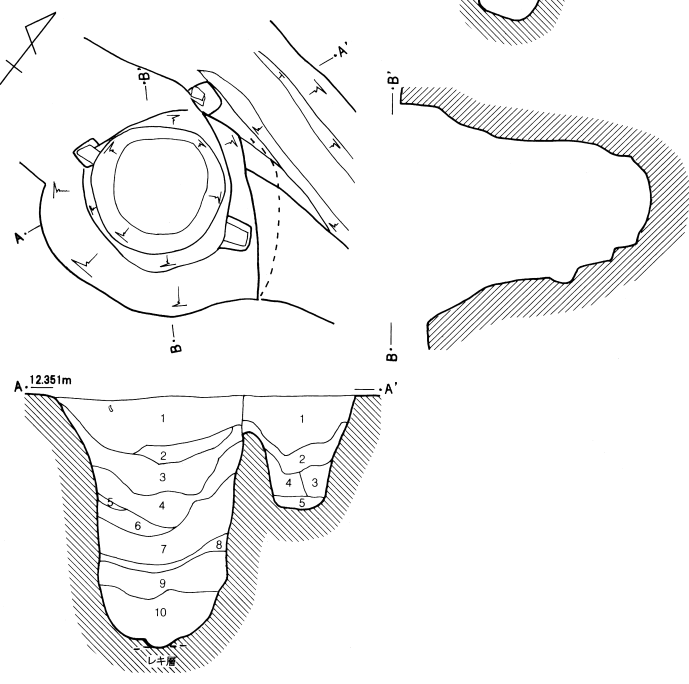
井戸 6



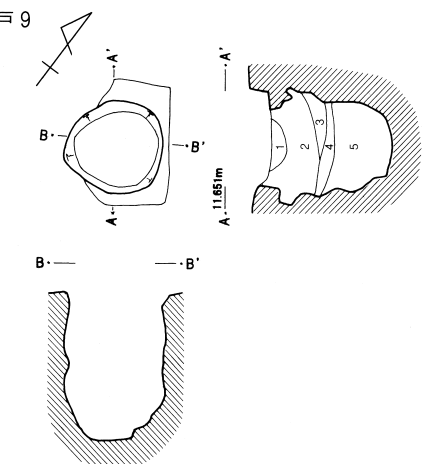
井戸 8



井戸 7



井戸 9



第154図 浄禪寺跡遺跡第29地点地下式坑 1・井戸① (1/60)

浄禅寺跡遺跡第29地点トレンチ・地下式坑・井戸土層説明

トレンチ 1

- I. 黒色土 締り弱、粘性有、現表土、耕作土
- II. 黒色土 締り弱、粘性有、1層にほぼ同じ、2mm以下ローム粒含む、I層より締り強い
- III. 暗褐色土 締り弱、粘性有、10cm以下ロームブロックベースに黒褐色土含む
- IV. 黒褐色土 締り弱、粘性強、黒褐色土ベースに2cm以下ローム多く含む、I～III層は確実に盛土、IV層は溝1の覆土1層に類似するが盛土の可能性は強い
- V. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームの水性堆積で黒色土化している、ローム粒その他はほとんど含まない

トレンチ 6

- I. 黒色土 締り弱、粘性有、現表土、耕作土
- II. 黒色土 締り弱、粘性有、1層にほぼ同じ、2mm以下ローム粒含む、I層より締り強い
- II' 耕作土 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土と黒褐色土を斑状に含み、2mm以下ローム粒やや多く含む
- II'' 耕作土 II層にみられた黒色土の代わりに2cm以下ロームブロック多く含む、II'層よりローム粒やや多く含む
- II''' 黒色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に3cm以下ロームブロック多く含む、この周辺のみ存在、井戸はこの層の下から掘り込まれる
- III. 暗褐色土 締り弱、粘性有
- IV. 地山ローム

トレンチ 8

- I. 黒色土 締り弱、粘性有、現表土、耕作土
- II. 黒色土 締り弱、粘性有、1層にほぼ同じ、2mm以下ローム粒含む、I層より締り強い
- III. 黒色土 上層が黒く下層はやや黒褐色土を呈する、更に下層は地山ローム

トレンチ 10

- I. 黒色土 締り弱、粘性有、現表土、耕作土
- II. 黒褐色土 締り強、粘性有、10cm以下ロームブロック多量に含む耕作土
- III. 黒褐色土 締り強、粘性有、地山ロームが黒色化している、東側は黒色化するが西側はローム(褐色)である、東側は低いため水性堆積している可能性有

地下式坑 1

1. 黒色土 締り強、粘性有、2mmローム粒極少含む他は何も含まない
2. 黒色土 締り強、粘性有、1cm以下ローム粒多く含む
3. 黒色土 締り強、粘性有、2層主体にシミ状赤褐色酸化鉄多く含む

井戸 1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、5mm炭化物僅かに含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック、2mm以下ローム粒少し含む、溝1覆土の可能性有り
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く、5mm黒褐色土ブロック僅かに、5cm礫含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～20mmローム粒・ブロック少し、13cm円礫少し含む
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下茶褐色ローム粒やや多く含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ローム粒・ブロック多く含む、ロームは赤褐色
7. 黒褐色土 締り強、粘性強、粘土質(乾いた様な)クラックが多く入る、微細なローム粒少し含む
8. 黒褐色土 締り有、粘性有、3層類似、1cmロームブロック僅かに、3mm以下ローム粒やや多く含む
9. 黒褐色土 締り有、粘性有、層厚2～4cm、ローム主体層を挟む、2mm以下ローム粒少し含む

井戸 2

1. 黒色土 締り強、粘性有、1mmローム粒少し含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、1層よりローム粒少ない、シミ状黒褐色土少し含む
3. 黒色土 締り強、粘性有、1層主体に2層に見られたシミ状黒褐色土含む
4. 黒色土 締り強、粘性有、ローム粒少し含む
5. 茶褐色土 締り強、粘性有、酸化土の為か赤色呈す
6. 黒色土 締り強、粘性有、シミ状ローム斜めに入る
7. 黒色土 締り強、粘性有、4層同様縞状茶褐色土、ローム粒少し含む

井戸 3

- I. 黒色土 締り弱、粘性有、現表土、耕作土
- II. 黒色土 締り弱、粘性有、1層にほぼ同じ、2mm以下ローム粒含むI層より締り強い
- III. 暗褐色土 締り弱、粘性有、10cm以下ロームブロックベースに黒褐色土含む
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、II層類似、5mm以下ローム粒多く含む
2. 褐色土 締り強、粘性有、ローム主体にシミ状黒褐色土少し含む
3. 黒色土 締り弱、粘性有、炭化物状の黒色土に2mm以下ローム粒極少少し含む
4. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームと黒褐色土斑状に含む、5mm以下ローム粒多く含む
5. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム主体、4層よりローム粒多く含む
6. 暗褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に5mm以下ローム多く含む

井戸 4

1. 黒色土 締り弱、粘性有、1mmローム粒極少少し含む
2. 黒色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に5mmローム粒多量含む
3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム主体に黒褐色土少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より僅かに1mmローム粒多く含む、ほぼ同じ
5. 黒褐色土+赤褐色土 締り強、粘性有、4層主体にシミ状赤褐色酸化鉄・ローム縞状に含む

井戸 5

1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む
2. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、5mm以下ローム粒多く、3cmロームブロック少し含む
3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、1～10cmロームブロック主体に暗褐色土を同程度含む
4. 赤褐色土 締り弱、粘性有、粘土質の酸化した赤褐色土
5. 黒褐色土 締り弱、粘性有、シミ状に酸化した土とローム粒少し含む
6. 黒褐色土 締り弱、粘性有、粘性強い黒色土主体に5mm以下ローム粒少し含む

井戸 6

1. 黒色土 攪乱 2cm以下ロームブロック多く、ビニール含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、1mmローム粒極少少し含むのみ
3. 黒色土 締り強、粘性有、2層よりやや水性堆積の為か赤褐色を呈す、縞縞状に酸化鉄含む

井戸 7

1. 黒色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム・焼土・炭化物少し含む
2. 褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロック主体に黒色土少し含む
3. 黒色土 締りやや弱、粘性有、1層にほぼ同じ、ややローム粒子多く含む
4. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、1cm以下ロームをブロック・シミ状に多く含む
5. 黒色土 締りやや強、粘性強、粘性のある黒色土で5mm以下シミ状ローム少し含む
6. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、4層よりローム主体
7. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、5層黒色土主体にレンズ状にロームを1～3層程堆積
8. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、酸化したローム土に4～6層含む
9. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、4～6層よりローム主体で間層にレンズ状黒色土(7層)を1～3層堆積
10. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下ローム粒少し、シミ状酸化鉄少し含む

井戸 8

1. 黒色土 締り強、粘性有、2cm以下ローム粒少し含む、2層よりやや灰褐色帯びる
2. 黒色土 締り強、粘性有、2cm以下ローム粒少し含む、1層より黒色強く、赤褐色酸化鉄多く含む

井戸 9

1. 黒色土 締り強、粘性有、シミ状にローム多量含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
3. 黒色土+褐色土 締り強、粘性有、シミ状赤褐色酸化鉄多く含む
4. 黒色土 締り強、粘性有、5cm以下ロームブロック多く含む
5. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒2層より少し、黒の色調濃い

井戸 10

1. 黒色土+褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックに黒色土含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
3. 黒色土+褐色土 締り強、粘性有、1層に同じだがやや締り弱い
4. 黒色土 締り強、粘性有、2層に同じ
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、2・4層主体に砂利・ローム少し含む

井戸 11

1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒極少少し含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、1層にほぼ同じ、ローム粒少ない

井戸 12

1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒極少少し含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、1層にほぼ同じ、ローム粒少ない
3. 黒色土 締り強、粘性有、2層に同じで、やや色調が黒く濃い
4. 黒色土 締り強、粘性有、2層に同じ、下層底部付近にロームブロックやや多い

井戸 13

1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む1層より少ない、黒色が濃く壁際に2cmロームブロック崩落有

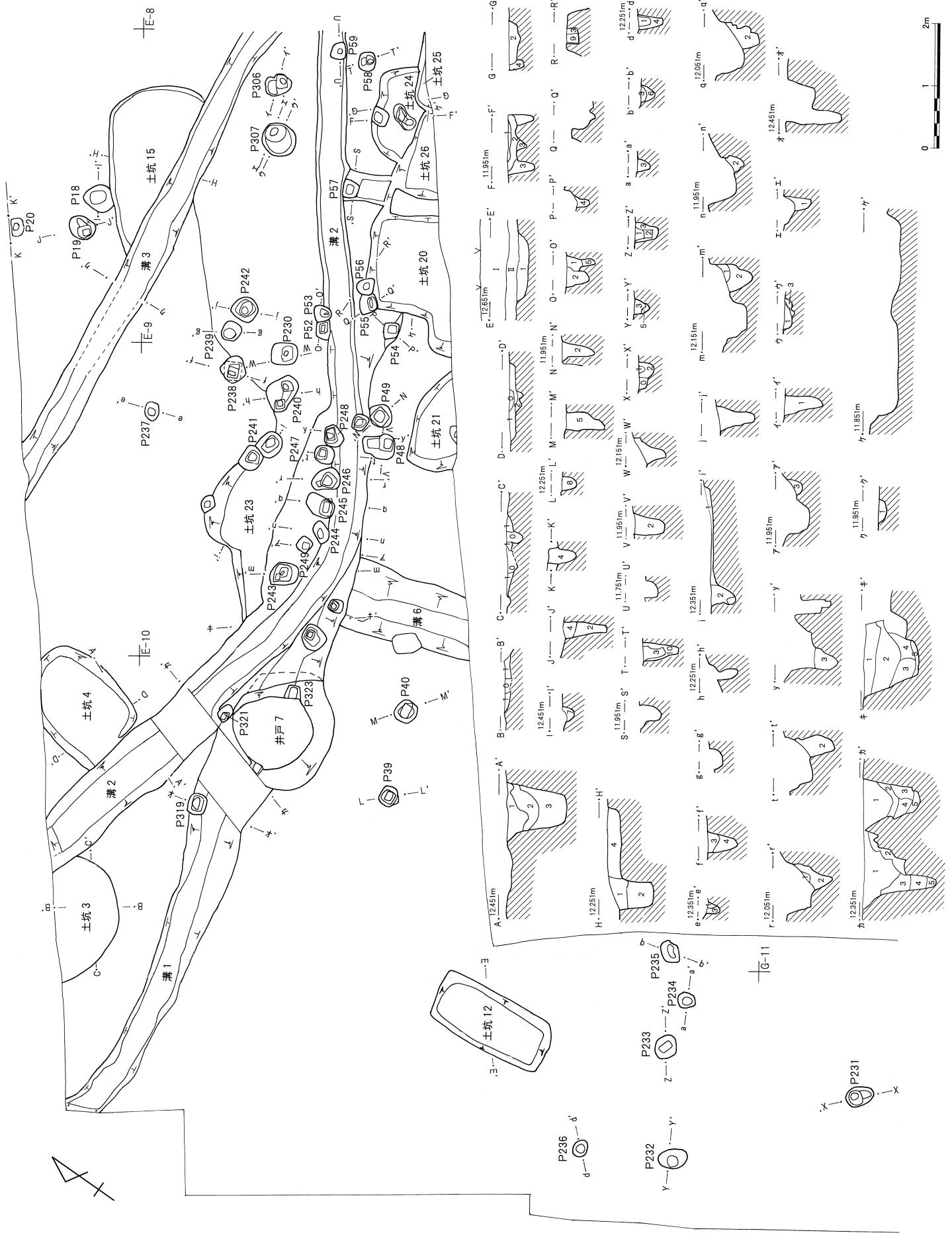
井戸 14

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cmロームブロック少し、2mm以下ローム粒多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2～5cmロームブロック多く含む
3. 黒褐色土+褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体、2～10cmロームブロック多量含む、下層はローム主体に黒褐色土含む
4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、砂を多く含んだ黒褐色土にロームを筋状に少し含む
5. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、粘土と砂の混合土に赤褐色酸化鉄多く含む

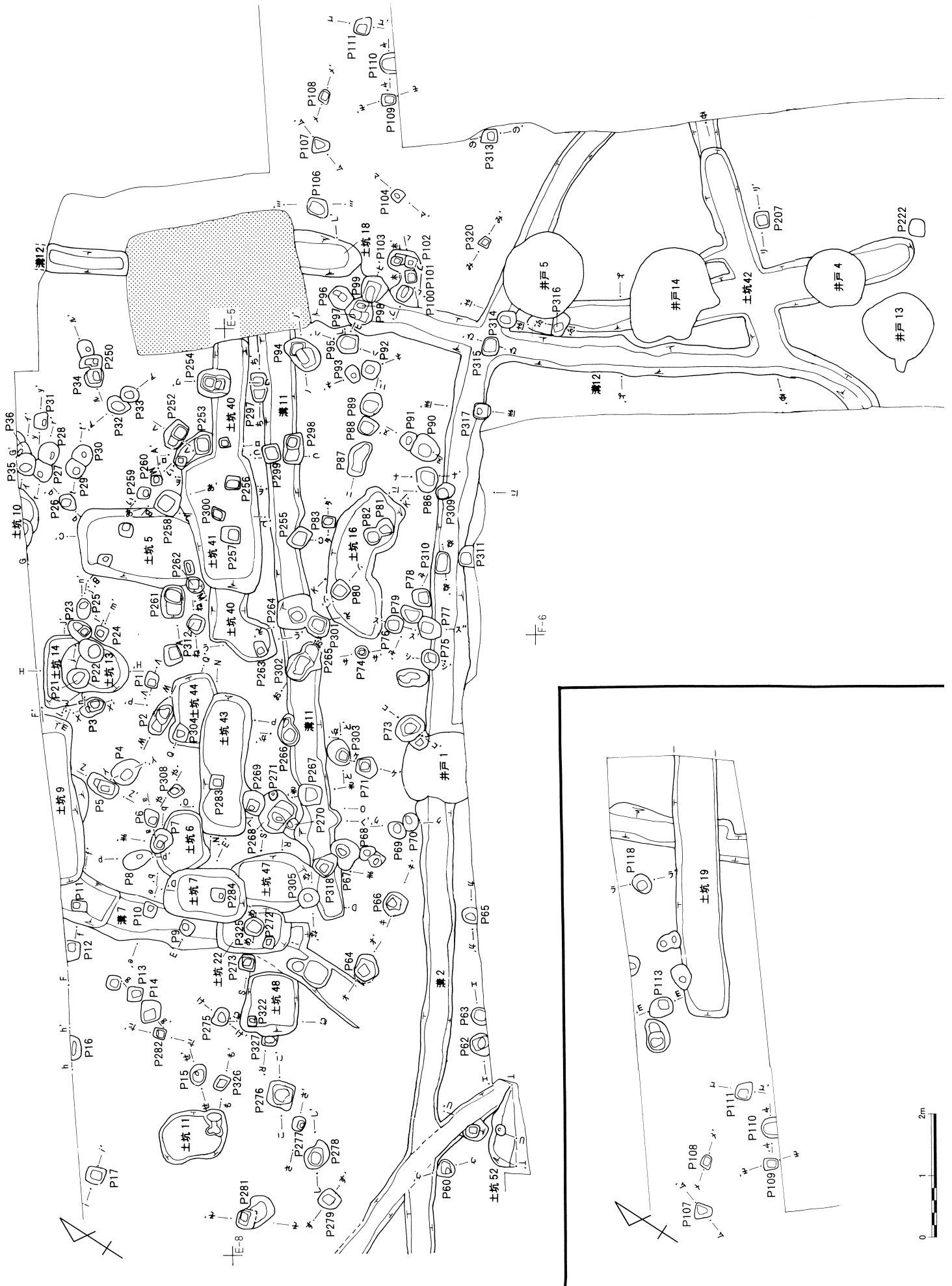
井戸 15

- I. 表土 耕作土
- II''' 黒色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに3cm以下ロームブロック多く含む、周辺のみ存在、井戸はこの層の下から掘り込まれている
- IV. 地山ローム

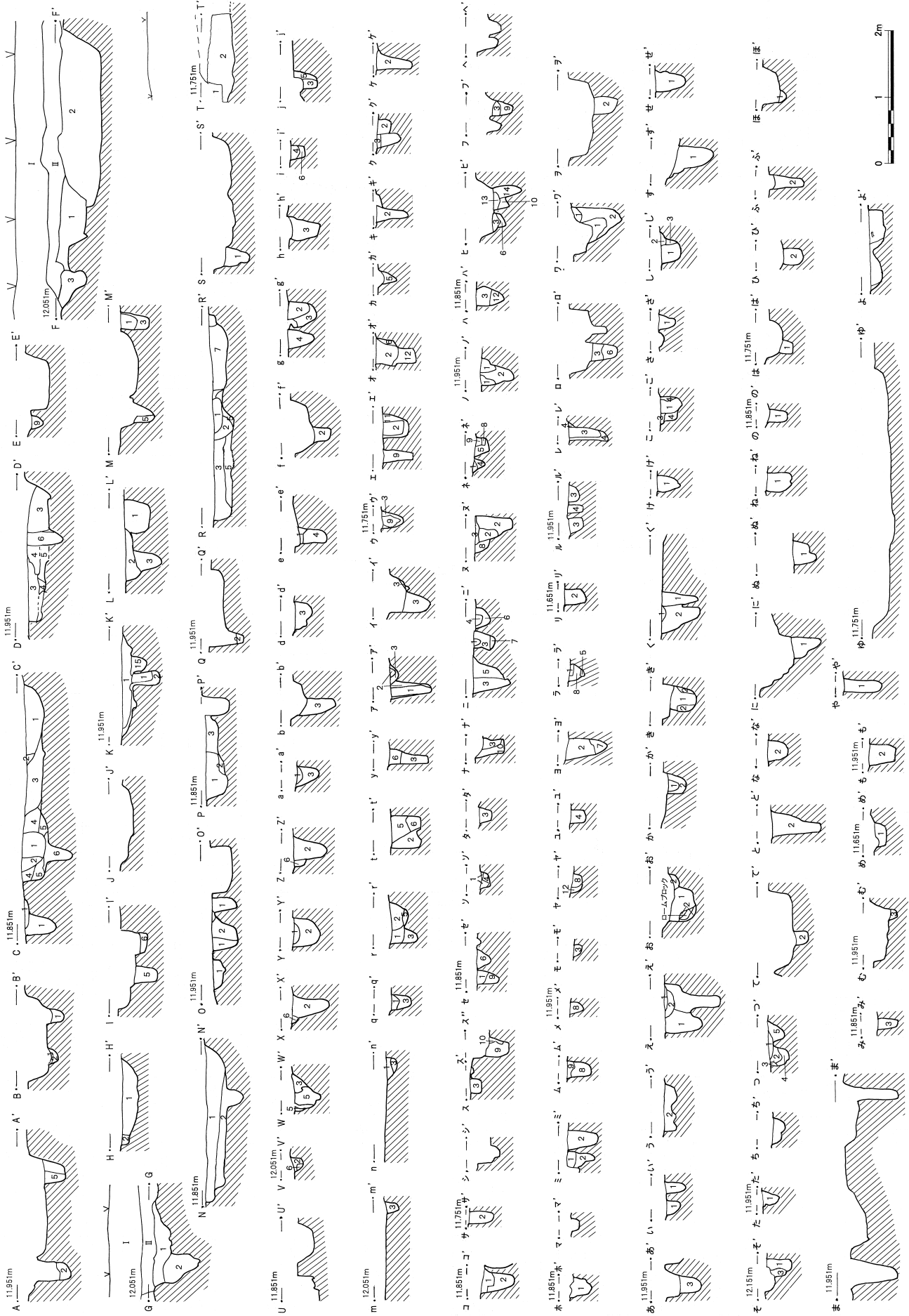
1. 黒色土 締り強、粘性有、1cmローム少し、2mm以下シミ状ローム多く含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、1層主体にローム粒1層より少ない、黒色強い
3. 暗褐色土 締り弱ポロポロ、粘性有、黒色土とロームブロック混合でポロポロする
4. 黒色土 締り強、粘性有、2層に同じ、最下部にロームやや多く含む



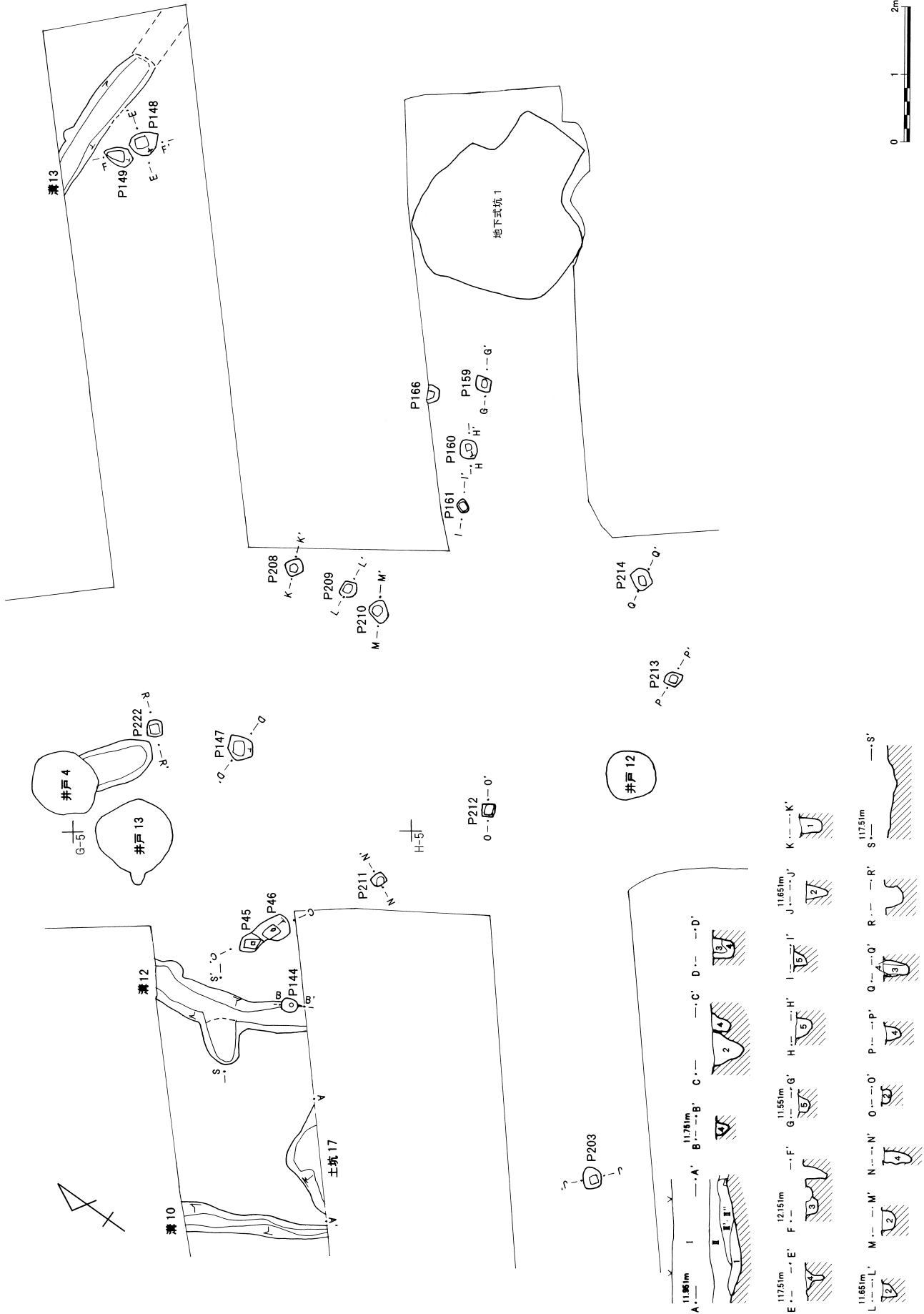
第156図 浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝① (1/80)



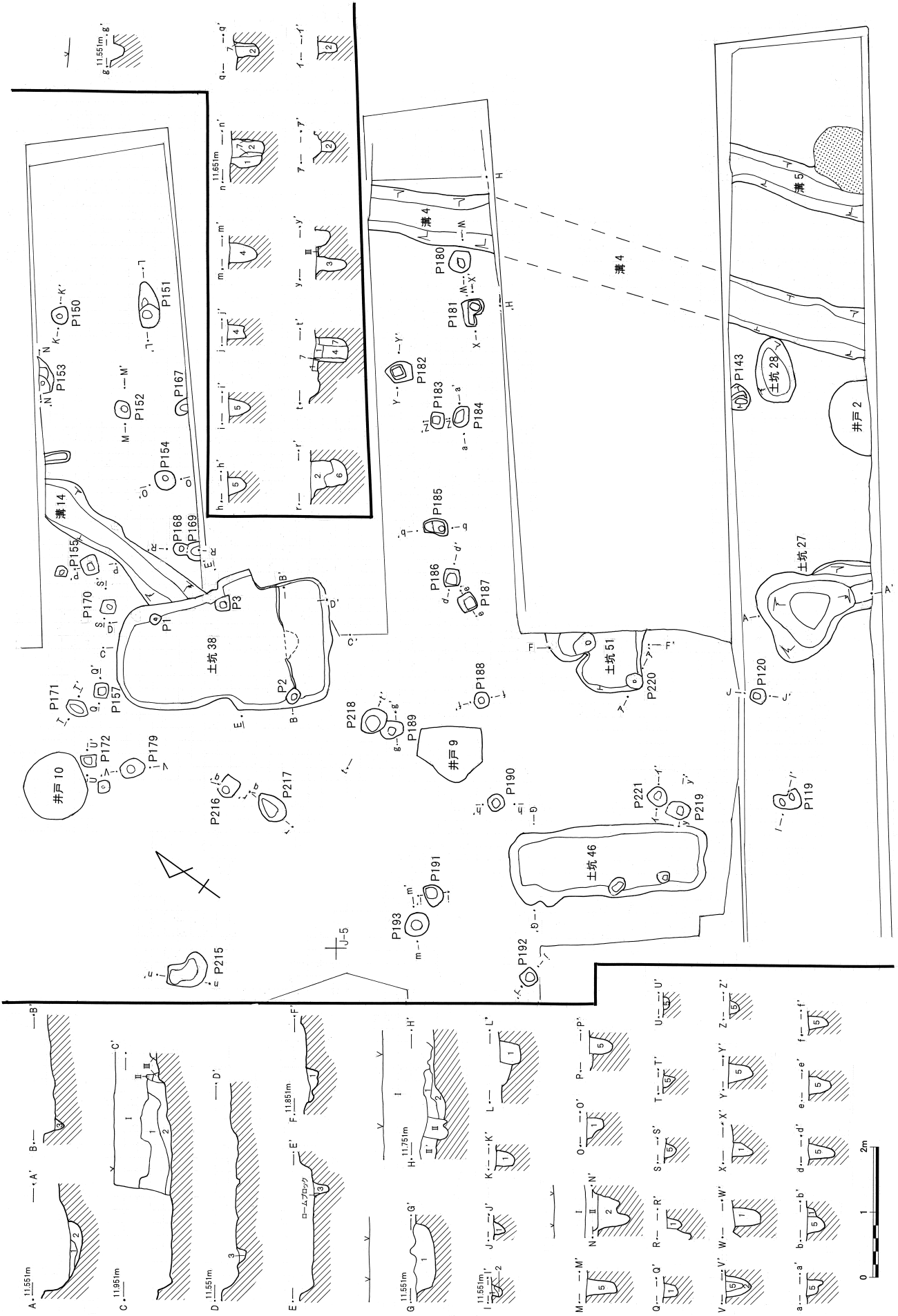
第157図 浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝② (1/80)



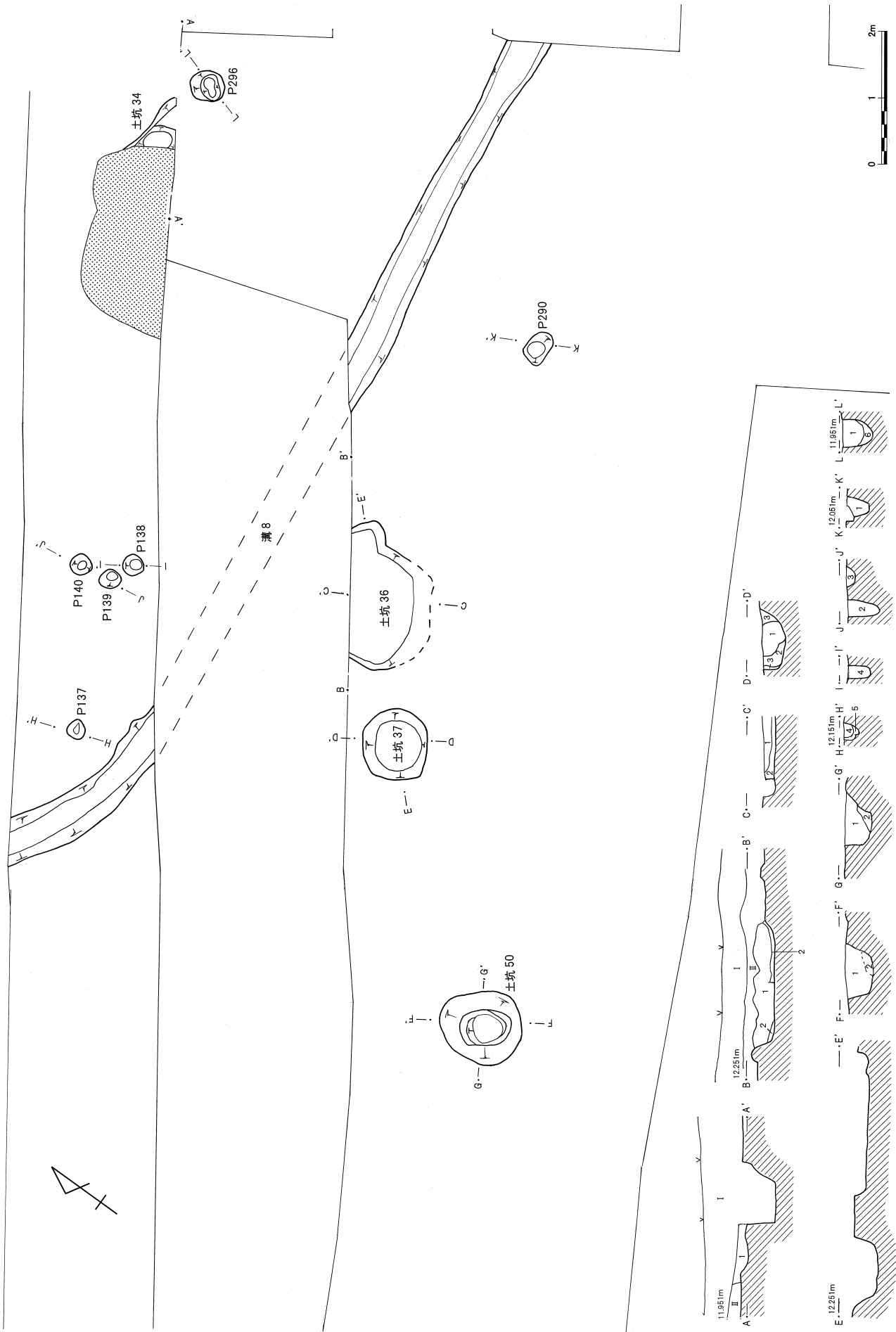
第158図 浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝③ (1/80)



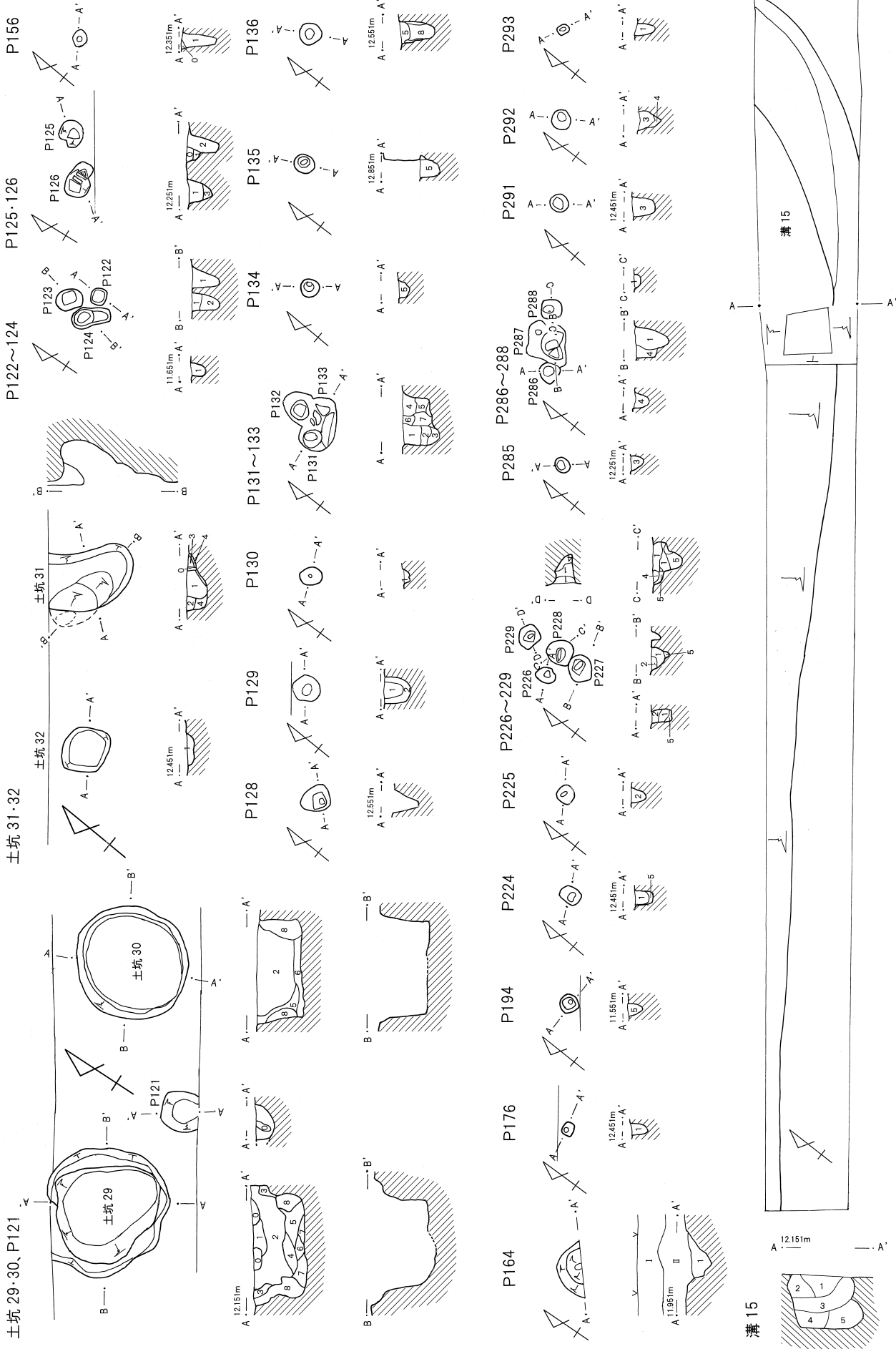
第159図 浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝④ (1/80)



第160図 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑤ (1/80)



第162図 浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑦ (1/80)



第163図 浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑧ (1/80)

浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝土層説明①

溝2(205頁AA′)

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロックやや多く、5cm以下黒色土ブロック少し、1cm以下ローム粒多く含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、1～5cmロームブロック多量含む、黒色土ほとんど見られない
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に5cm以下ロームをシミ状・ブロック状で綿状に少し含む
ム粒の量が僅かに異なる

土坑3(205頁BB′CC′)

- 0.攪乱
- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒多く同焼土粒極少し含む

土坑4(205頁DD′)

- 0.攪乱
- 1.黒色土 締り弱、粘性有、3cm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 2.黒色土 締り弱、粘性有、ロームブロックと黒色土の混合土、10cmロームブロック含む

土坑12(205頁EE′)

- 1.黒色土 締りやや弱、粘性有、5cm以下シミ状暗褐色土やや多く含む、ローム粒主体ではない

土坑24・25(205頁FF′GG′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く、5mm黒褐色土ブロック少し含む、全体にローム土含み色調明るい
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、5cmと1cm以下ロームブロック・ローム粒少し含む
- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロックやや多く、ローム粒多く含む、色調明るい

土坑15・溝3(205頁HH′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多量含む(ボロボロ)
- 2.黒色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多く含む
- 3.黒色土 締り強、粘性有、1mmローム粒極少し含むのみ
- 4.黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む炭化物・焼土ほとんど含まない

溝1(205頁カカ′)

- 1.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、2mm以下ローム粒極少し含む
- 2.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、1層より暗褐色で1cm以下シミ状ローム、2mm以下ローム粒多く含む
- 3.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、2層にほぼ同じでロームブロック多く含む
- 4.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、2・3層より明るく、ロームブロック粒は2層と同程度含む
- 5.褐色土 締りやや弱、粘性有、地山ローム主体にシミ状黒褐色土少し含む

溝2(205頁カカ′キキ′)

- 1.暗褐色土 締り弱、粘性有、5cm以下ロームブロックに黒褐色土少し含む
- 2.黒褐色土 締り弱、粘性有、3cm以下ロームブロックやや多く含む
- 3.暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックに黒褐色土多く含む
- 4.黒褐色土 締り弱、粘性有、2cm以下ローム粒多く含む
- 5.黒褐色土 締り強、粘性有、5mmローム粒極少し含む

溝3(205頁クク′)

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、5mmローム・粒やや多く含む明るい

土坑5(207頁BB′)

- 1.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ハードローム粒多く含む(ロームブロック含まないが、土坑5覆土とほぼ同じ土質)
- 2.黄褐色土 締り強、粘性強、地山より色調暗いローム土主体、1.5cm明黄褐色ロームブロック少し含む

土坑5・40・41、ピット255・257(207頁CC′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ローム粒・ブロック多量に焼土・炭化物含まない
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ローム粒・ブロック多く含む、1層よりローム少ない以外は同じ
- 3.褐色土 締りやや強、粘性有、暗褐色土ローム主体に2cm以下ロームブロック多量含む(土坑41の1層より多い)
- 4.暗褐色土 締りやや強、粘性有、1層より色調黒い、2cm以下黒褐色土ブロック少し含む以外は同じ
- 5.暗褐色土 締り弱、粘性有、ローム主体に1cmロームブロック少し含む
- 6.暗褐色土
- 7.ピット土層に同じ

土坑7・22・47・48、ピット9・327、溝7(207頁DD′EE′RR′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む炭化物・焼土含まない
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む(ピット272覆土)
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む、2・3層にほぼ同じ、2層よりややブロック小さい
- 4.黒褐色土 締り強、粘性有、最も色調黒く、ローム粒少ない
- 5.暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロックと暗褐色土・ローム主体の混合
- 6.黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む焼土・炭化物含まない
- 7.暗褐色土 締り強、粘性有、3層より明るいローム主体、1cm以下ロームブロック多く含む
- 8.黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に3mm以下シミ状ローム多く含む
- 9.暗褐色土 締り強、粘性有、土坑7の2層に5cm黒色土ブロック含む

土坑9・溝7(207頁FF′)

- 1.暗褐色土 締り強、粘性やや弱、5～20mmロームブロック・5mm以下ローム粒多く、シミ状に黒褐色土含む色調2層より暗い
- 2.暗褐色土 締り強、粘性やや弱、1～8cmロームブロック・5mm以下ローム粒多く含む

土坑10(207頁GG′)

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック・粒やや多く、シミ状黒褐色土少し含む、5mm以下炭化物少し含む

- 2.暗褐色土主体 締り強、粘性やや弱、2cm以下ロームブロック・粒主体、シミ状黒褐色土少し含む

土坑13・14(207頁HH′)

- 1.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5～30mmロームブロックやや多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、5mmロームブロック少し、2mm以下ローム粒やや多く含む

土坑16(207頁KK′)

- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、1cmロームブロック僅かに含む
- 2.黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む

土坑18・ピット96・溝12(207頁LL′)

- 1.黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5～40mmロームブロック多く、2mm以下ローム粒多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5～10mmロームブロック少し、2mm以下ローム粒多く含む
- 3.暗褐色土 締り有、粘性やや弱

土坑43・44(207頁NN′PP′)

- 1.暗褐色土 締りやや強、粘性有、暗褐色ローム主体に5cm以下ロームブロック多く含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、1層より暗い暗褐色土ローム主体、1層よりロームブロック小さい(2cm以下)1層より少なく含む
- 3.暗褐色土 締りやや強、粘性有、暗褐色ローム主体に3cm以下ロームブロック多く含む、土坑43の1層より明るい

土坑52(207頁TT′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームやや多く、2mm以下ローム粒少し含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、3cmロームブロック少し、5mm以下ローム粒多量含む

土坑17(208頁AA′)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、1cmロームと下層に3cmシミ状ローム極少し含むのみ、底部凸凹

土坑27(208頁AA′)

- 1.暗褐色土 締り強、粘性強、2cmロームブロック少し2mm以下ローム粒含む、ややボロボロする

- 2.暗褐色土 締り強、粘性強、5cmシミ状ローム少し含む

土坑38(208頁BB′CC′DD′EE′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下ローム粒少し含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下ローム粒多く含む
- 3.黒色土 締り強、粘性有、2mm以下シミ状ローム・ローム粒少し含む

土坑51(208頁FF′)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、2cm以下ローム多く、2mm以下ローム粒・焼土少し含む

土坑46(208頁GG′)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、7cmロームブロック少し5mm以下ローム粒多量含む、ピット覆土1層に類似

溝4(208頁HH′)

- 1.黒色土 締り弱、粘性有、1mm以下ローム粒極少し含むがほぼ黒色土のみ
- 2.黒色土 締り弱、粘性有、1層より1mm以下ローム粒やや少なくほぼ黒色土のみ

土坑33(210頁AA′BB′)

- 1.黒褐色土 締り有、粘性有、黒色土主体に5cm以下ロームブロック少し、2層より5mm以下ローム粒やや多く含む
- 2.黒褐色土 締り有、粘性有、黒色土主体に5cm以下ロームブロック少し含む

土坑45(210頁KK′QQ′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム少し含むのみ
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シミ状ローム多く含む
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シミ状ローム2層より多く、3cmロームシミ状に多く含む
- 4.黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm以下シミ状ローム2・3層より多く、5cmロームシミ状に多く含む
- 5.黒褐色土黒褐色土 締り弱、粘性有、4層に同じで締りはボロボロする
- 6.黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シミ状ローム多く含む、2・3層の間ぐらい
- 7.黒褐色土 締り強、粘性有、6層主体に1cm以下シミ状ローム少し含む

土坑53・ピット162・溝9(210頁EE′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、5cm以下シミ状ローム多く、2mm以下ローム粒多く含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に5mmローム極少し含むのみ
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、黒色土と3cm以下ローム混合土
- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に1cm以下黒色土少し含む

土坑50(211頁FF′GG′)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、1mmローム粒少し含むのみ
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、1層と暗褐色土を斑状に含む

土坑34(211頁)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、5cmロームブロック極少し、2mm以下ローム粒少し含む

トレンチ7 土坑36(211頁)

- 1.黒色土 締りやや弱、粘性有、5mm以下シミ状ローム少し含むがほぼ黒色土のみ
- 2.黒色土 締りやや弱、粘性有、1層より5mm以下ロームやや多く、3cmローム少し含む

土坑37(211頁)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多量含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒やや多く含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土と黒褐色土を斑状に含む、ローム粒ほとんど含まない

浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝土層説明②

溝 15(212 頁 AA´)

- 1.黒褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む、基本土層の同じ
- 2.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、1層主体10cm以下ロームブロック少し5mm以下ローム粒多く含む
- 3.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、1層主体2cm以下ロームブロックやや多く2cm以下暗灰色土多く含む
- 4.黒褐色土 締り強、粘性有、3層主体ロームブロック・暗灰色粘土多く含む
- 5.暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体10cm以下暗灰色粘土多く黒褐色土少し含む

土坑 29・30、ピット 121(212 頁 AA´BB´)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、同炭化物少し、焼土粒極少し含む。0層攪乱
- 2.黒色土 締り強、粘性有、1層主体、1層よりローム粒・炭化物・焼土多く含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、1・2層よりやや明るいのが主体は同じ、1mmローム粒シミ状に少し含む
- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体にシミ状黒褐色土、ローム粒5mm以下少し含む
- 5.黒褐色土 締り強、粘性有、3層主体、2mm以下ローム粒1・2層より多く含む
- 6.暗褐色土 締り強、粘性有、4層にほぼ同じ、やや黒色強い
- 7.黒褐色土 締り強、粘性有、5層よりローム主体で明るい他はほぼ同じ
- 8.暗褐色土 締り強、粘性有、4層主体は同じだがややローム多い

土坑 31・32(212 頁 AA´BB´)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒極少し含むのみ、P129土層に同じ。0層攪乱
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土とローム土混合
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、1層よりも色調やや明るいのがほぼ同じ
- 4.黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む

ピット 1～8・10・11・13・14・16～32・35・36・39・40・48・49・52～54・56・58・60・62～66・69～71・73・74・76～83・86～90～95・97～101・103・106～111・113・118(205～212 頁)

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック、5mm以下ローム粒多く、5mm黒褐色土ブロックやや多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、4cm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒多く、黒褐色土をシミ状もしくはブロック状に多く含む
- 3.暗褐色土 締り有、粘性やや弱、5～10mmロームブロック、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 4.黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック・5mm以下ローム粒やや多く含む
- 5.暗黄褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム粒主体、5～10mmロームブロック少し含む
- 6.暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く、ロームブロック・黒褐色土ブロック含むが締り良い
- 7.黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロックやや多く、1mm以下微細ローム粒少し、焼土僅かに含む、自然堆積の黒褐色土に近い
- 8.黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 9.暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒少し含む
- 10.暗褐色土ベース 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 11.黄褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック主体、黒褐色土少し含む
- 12.暗褐色土ベース 締り有、粘性有、5cm以下ロームブロック・暗褐色土ブロック多く含む
- 13.褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、5cm焼土ブロック、5mm以下白色土(灰粒、炭化物)やや多く含む
- 14.褐色土 締り強、粘性有、1cmロームブロックやや多く含む
- 15.褐色土 締り有、粘性有

ピット 2・33(206 頁 WW´AA´)

- 1.黒褐色土 締り有、粘性有、1～1.5cmロームブロック・粒少し含む。0層攪乱
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、4cm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む

ピット 119・120(209 頁 II´JJ´)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、2mm以下シミ状ローム少し含む。0層攪乱
- 2.黒色土 締り強、粘性有、2cm以下シミ状ロームを斜に含む

ピット 122～128(212・215 頁)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・1cmロームブロック極少し含む。0層攪乱
- 2.黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に暗褐色土多く含むポロポロする
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、10cmロームブロックに黒色土少し含む
- 4.黒色土 締り強、粘性有、1層主体に5mm以下ローム粒多量含む

ピット 129・137・150・151・154・156・157・231・233・307(205・209・211・212 頁)

- 1.黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下シミ状暗褐色土極少し含むのみ。0層攪乱
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、1層よりシミ状ローム多量含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、1・2層よりローム・1mmローム多く含む
- 4.黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒多く含む
- 5.暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色ロームと黒褐色土(4層)斑に含む

ピット 45・46・130～136・138～140・142・144・147～149・152・153・155・158～163・168・169・179～194(208～212 頁)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、5cmロームブロック・1cmロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む。0層攪乱
- 2.黒色土+暗褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に2cm以下ロームブロック多量含む
- 3.褐色土 締り強、粘性有、地山ローム主体にシミ状黒褐色土少し含む
- 4.黒色土 締り強、粘性有、黒色土主体に5mm以下ローム粒多く含む
- 5.黒色土 締り強、粘性有、1層に同じだが5cmロームブロック含まない
- 6.黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック多量含む
- 7.黒褐色土 締り強、粘性有、6層主体にロームブロック含む割合が少ない
- 8.黒褐色土 締り強、粘性有、1・5層に主体同じ、ややシミ状ローム多く含むため褐色味を帯びる

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土主体に5cm以下ロームブロック、同シミ状黒褐色土斑状に含む

ピット 164(212 頁 AA´)

- 1.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下ローム粒多量に含む

ピット 170～172(209 頁 SS´TT´UU´)

- 5.黒色土 締り強、粘性有、1cmロームブロック、2mm以下ローム粒少し含む

ピット 176(212 頁 AA´)

- 1.黒色土 5mmローム粒少し、2mm以下ローム粒多く含む

ピット 200～218・220・221・222・224～230・232・234～240・242・249・250・252・253・258～260・262・264・268・276・282・283・285～288・290～294・296・297・299・311・313・321・322・324・341(205～212 頁)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、1mmシミ状ローム極少し含む
- 2.黒色土 締り強、粘性有、1層主体に5mm以下シミ状ローム・ロームブロックやや多く含む
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、1層主体に5mm以下シミ状ローム少し含む
- 4.黒褐色土 締り有、粘性やや弱、黒色土主体に1cm以下ローム粒やや多く含む(シミ状ロームとロームブロック)ピットにより2cmロームブロック含む
- 5.黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に2cm茶褐色土ブロック多く含む、ローム粒ほとんど含まない
- 6.褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック主体にシミ状黒褐色土少し含む
- 7.暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に2cm以下黒褐色土ブロック少し含む、ピット掘方

ピット 219(209 頁 yy´)

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、地山のⅢ層に類似

ピット 241・243～248・263・300・305・314・316・317(205・206 頁)

- 1.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下ローム粒少し含む
- 2.暗褐色土 締りやや弱、粘性有、2cm以下ロームブロックと暗褐色土混合、ポロポロする、下層にロームブロック多量含む(P241・305)
- 3.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、1層主体に2cm以下ロームブロックやや多く含む

ピット 254～256・261・266・269～271・284・303・304・306・308～310・312・315・318・320(206 頁)

- 1.暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームと黒褐色土の間で5mm以下ローム粒多く含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、ロームと黒褐色土の間で1cm以下ローム粒多く含む、2層の方が色調濃い
- 3.暗褐色土 締り弱、粘性有、1層と3cm以下ロームブロック混合
- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、ほぼロームだけでポロポロする
- 5.黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック少し含む、ビュアなBBⅡベースか?
- 6.黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、焼土・炭化物含まない(ピット土層)

ピット 9・15・94・265・267・273・275・277～279・281・301・302(206 頁)

- 1.暗褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に2～3cmロームブロック少し、2mm以下ローム粒多く含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に2cm以下ロームブロック少し含む、2mm以下ローム粒多く含む、1層より黒く締り強い
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体にシミ状黒褐色土少し含む

ピット 295・260(206・210 頁いい´PP´)

- 1.暗褐色土 締り弱、粘性有、ポロポロしたローム主体、黒褐色土ほとんど含まない

ピット 298・299(206 頁つつ´)

- 1.黒色土 締り弱、粘性有、1mmローム粒少し含む
- 2.黒色土 締り強、粘性有、シミ状ローム・3mm以下ローム粒多く含む
- 3.黒色土 締り弱、粘性有、4層に同じ、ややローム多い
- 4.暗褐色土 締り弱、粘性有、ポロポロしたローム
- 5.暗褐色土 締り強、粘性有、2cmロームと黒褐色土の混合

ピット 325・326(206 頁めめ´もも´)

- 1.ローム主体に5mm炭化物少し、シミ状暗褐色土極少し含む
- 2.暗褐色土、ローム主体

トレンチ 6・7・8・9 堀跡 1(215 頁 AA´BB´)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土多く含む
- 2.黒色土 締り強、粘性有、1層主体に2mm以下ローム・焼土粒多量含む(1層より多い)
- 3.黒色土 締り強、粘性有、1層主体に3mm以下ローム・焼土粒多量含む(1・2層より多い)
- 4.黒色土 締り強、粘性有、3層にほぼ同じ(3層より色調濃い)、ローム粒は2層に同じ
- 5.黒褐色土 締り強、粘性有、1～4層より5mm以下ローム粒多く含む、ジャリジャリする
- 6.黒褐色土 締り強、粘性有、5層に同じ、やや5層より色調濃い
- 7.暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土とローム斑状に含む
- 8.黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に3cm以下シミ状ローム、同暗褐色土をシミ状にロームと同程度含む

- 9.暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土主体に5mm以下ローム粒多く含む

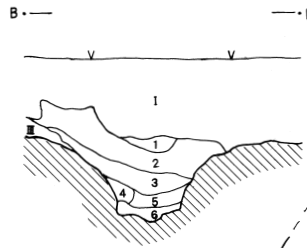
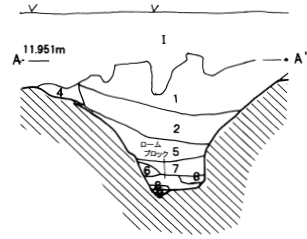
トレンチ 10 堀跡 1(215 頁 AA´)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒極少し含む
- 2.黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒・酸化鉄多量含む、下層になるに従ってローム粒・酸化鉄多く含む

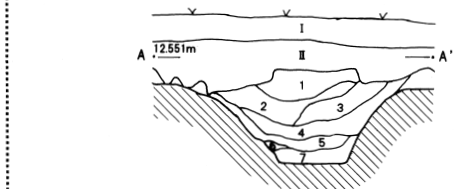
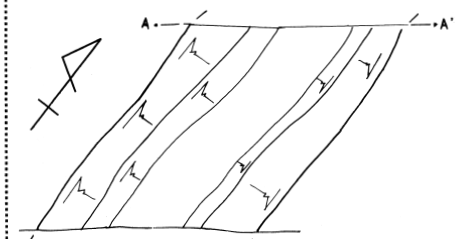
トレンチ 9 溝 16・17(215 頁 AA´BB´)

- 1.黒色土 締り強、粘性有、1cm以下ローム粒少し含む
- 2.黒色土 締り強、粘性有、2cm以下ローム多く含む

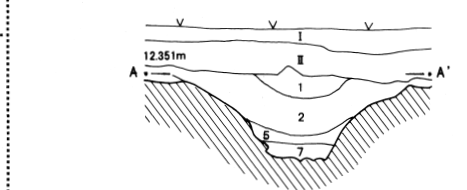
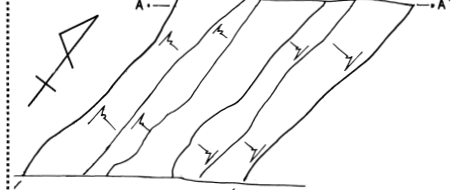
トレンチ 6・7 堀跡 1



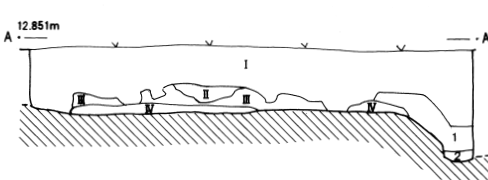
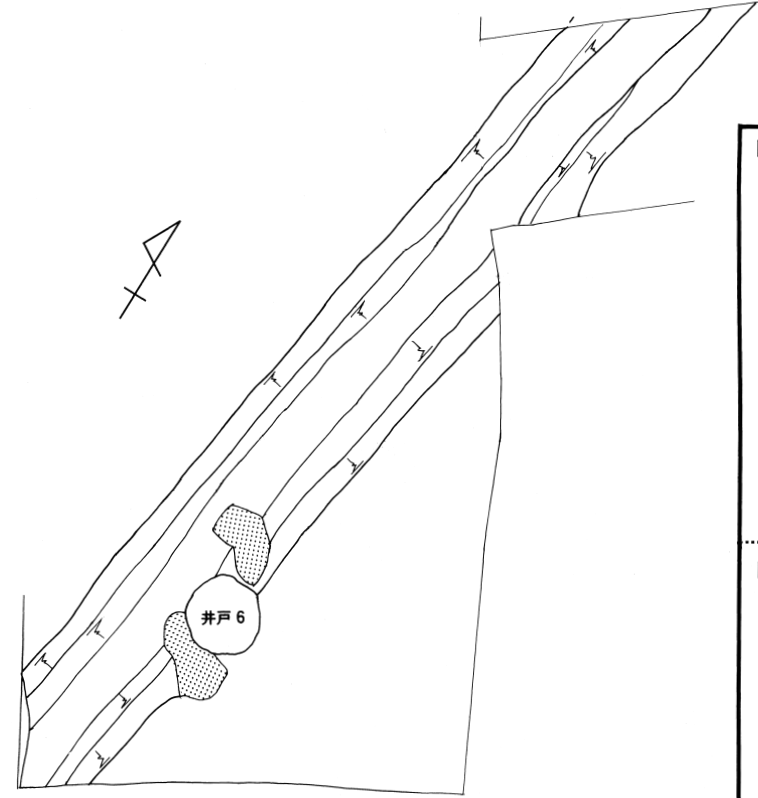
トレンチ 8 堀跡 1



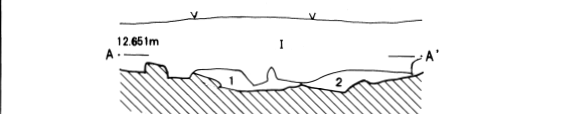
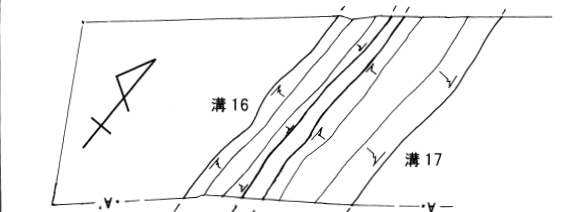
トレンチ 9 堀跡 1



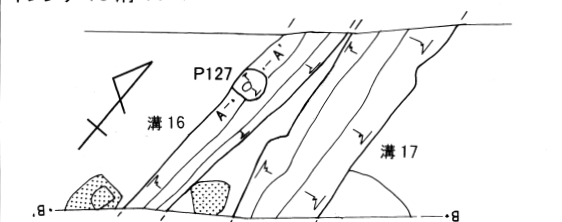
トレンチ10 堀跡 1



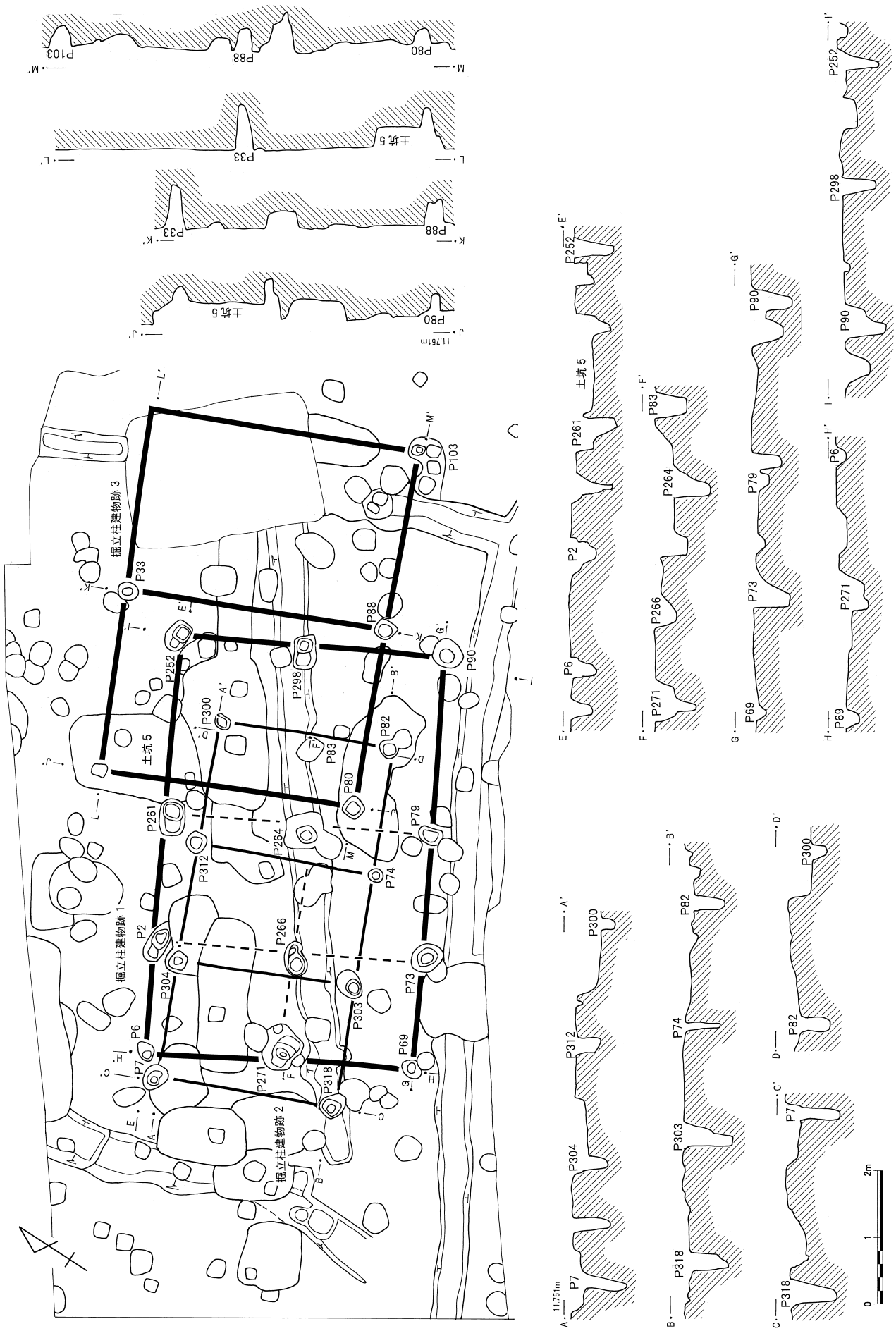
トレンチ 9 溝 16・17



トレンチ 10 溝 16・17



第164図 浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑨・堀跡 (1/80)



第165図 浄禅寺跡遺跡第29地点掘立柱建物跡1~3 (1/80)

第85表 浄禪寺跡遺跡第29地点井戸一覧表 (単位cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|----------|---------|-------|----|
| 1 | 円形 | 132×128 | 75×68 | 151.1 | |
| 2 | (円形) | 117×(62) | 32×31 | 115.8 | |
| 3 | 不明 | 145×(40) | | | |
| 4 | 円形 | 98×93 | 84×76 | 107.7 | |
| 5 | 円形 | 140×129 | 100×84 | 165.2 | |
| 6 | 円形 | 82×80 | 60×58 | 129 | |
| 7 | 円形 | 133×123 | 76×73 | 202.1 | |
| 8 | 円形 | 89×82 | 59×57 | 96.3 | |
| 9 | 円形 | 78×75 | 65×58 | 117.2 | |
| 10 | 円形 | 104×104 | 86×81 | 129.2 | |
| 11 | (円形) | 78×(60) | 56×(48) | 81.9 | |
| 12 | 円形 | 71×70 | 50×45 | 116.2 | |
| 13 | 円形 | 124×115 | 84×80 | 149.5 | |
| 14 | 円形 | 153×146 | 129×103 | 153.3 | |
| 15 | (円形) | 90×(47) | 24×(8) | 94.7 | |

第86表 浄禪寺跡遺跡第29地点堀跡・溝一覧表 (単位cm)

| 新名称 | 旧名称 | 断面形態 | 上幅 | 下幅 | 深さ | 備考 |
|-----|------|-----------------------|---------|-------|-------|----|
| 1 | 土坑2 | 北側浅い「U」字状、 南側「U」字状 | 72~130 | 72 | 92.0 | |
| 2 | 土坑1 | やや開く「U」字状 | 32~94 | 15~37 | 96.0 | |
| 3 | 溝10 | やや開く浅い「U」字状 | 33~62 | 17~43 | 12.0 | |
| 4 | 溝4 | 「U」字状 | 68~119 | 35~53 | 25.8 | |
| 5 | 溝5 | 「U」字状 | 50~58 | 22~35 | 25.5 | |
| 6 | 溝 | やや開く浅い「U」字状 | 98~113 | 28~41 | 18.3 | |
| 7 | 土坑8 | やや開く浅い「U」字状 | 58~78 | 34~51 | 40.0 | |
| 8 | 溝8 | 「U」字状 | 37~66 | 18~41 | 24.3 | |
| 9 | 土坑43 | やや開く浅い「U」字状 | 106~138 | 21~40 | 9.2 | |
| 10 | - | やや開く浅い「U」字状 | 19~45 | 8~21 | 12.6 | |
| 11 | 溝12 | 「U」字状 | 41~58 | 25~40 | 15.2 | |
| 12 | 溝4 | 「U」字状 | 38~60 | 15~37 | 8.0 | |
| 13 | - | 「U」字状 | 41~50 | 23~31 | 12.0 | |
| 14 | 溝 | やや開く浅い「U」字状 | 38~72 | 20~50 | 37.7 | |
| 15 | 溝1 | 「U」字状 | 25~155 | 110 | 15.2 | |
| 16 | 堀2 | やや開く浅い「U」字状 | 35~54 | 13~20 | 40.0 | |
| 17 | 堀2 | やや開く浅い「U」字状 | 76~90 | 12~44 | 22.4 | |
| 堀跡 | 堀1 | 薬研状 | 168~210 | 30~66 | 107.1 | |

第87表 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑一覧表

(単位cm)

| No. | 旧名称 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------------|------|-----------|-----------|------|----|
| 3 | | 不明 | (181×103) | - | 10.2 | |
| 4 | | 不明 | 180×134 | 160×107 | 13.6 | |
| 5 | 土坑42 | 不明 | (193)×120 | (187)×95 | 30.0 | |
| 6 | | 不整形 | (98)×89 | (91)×65 | 30.0 | |
| 7 | | 方形 | 125×83 | 102×60 | 35.0 | |
| 9 | | 不明 | 274×(70) | 232×(60) | 55.1 | |
| 10 | | 不明 | (99×25) | (18×7) | 56.1 | |
| 11 | | 方形 | 108×76 | 99×65 | 10.7 | |
| 12 | 土坑11 | 方形 | 197×91 | 175×70 | 17.2 | |
| 13 | | 楕円形 | 109×87 | 70×60 | 28.0 | |
| 14 | | 不明 | 117×(26) | 99×(21) | 20.1 | |
| 15 | 土坑49 | 不明 | (252×137) | (250×136) | 33.2 | |
| 16 | | 不整形 | 223×75 | 197×53 | 16.2 | |
| 17 | 土坑44 | 不明 | 156×(49) | 116×(38) | 22.8 | |
| 18 | | 不明 | (102)×61 | (81)×31 | 41.4 | |
| 19 | | 不明 | (421)×72 | (409)×59 | 34.1 | |
| 20 | | 不明 | (222×130) | (190×112) | 43.2 | |
| 21 | | 不明 | (157×78) | (115×67) | 25.1 | |
| 22 | 土坑45・46・47 | 不明 | (107)×77 | 95×59 | 30.7 | |
| 23 | | 不明 | (180×113) | (172×82) | 18.9 | |
| 24 | | 不明 | (157×80) | (140×67) | 16.1 | |
| 25 | | 不明 | (108×20) | (80×17) | 28.2 | |
| 26 | 土坑25 | 不明 | (146×75) | (126×50) | 60.5 | |
| 27 | | 不明 | (179)×133 | 66×53 | 69.4 | |
| 28 | | 楕円形 | 98×58 | 74×36 | 32.7 | |
| 29 | | 不明 | 190×175 | 143×105 | 99.3 | |

| No. | 旧名称 | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------------|-------|-----------|-----------|------|----|
| 30 | | 円形 | 164×163 | 139×132 | 77.7 | |
| 31 | | 不明 | (126)×86 | (115×78) | 34.7 | |
| 32 | | 方形 | 67×64 | 54×51 | 12.1 | |
| 33 | | 不明 | (299×278) | 120×97 | 10.2 | |
| 34 | | 不明 | (76×73) | (67×61) | 16.1 | |
| 36 | | 不明 | 215×(94) | 194×(94) | 24.8 | |
| 37 | | 円形 | 103×97 | 72×71 | 38.5 | |
| 38 | | 方形 | 325×211 | 303×192 | 26.3 | |
| 39 | 土坑35 | 不明 | 175×(154) | 149×(141) | 11.1 | |
| 40 | 土坑53 | 不明 | 520×62 | 503×41 | 23.1 | |
| 41 | 土坑54 | 不明 | (220)×126 | (193)×104 | 37.0 | |
| 42 | 土坑5 | 不明 | (135×31) | - | - | |
| 43 | | 方形 | 231×79 | 205×62 | 31.5 | |
| 44 | | 不明 | 115×75 | 100×55 | 18.5 | |
| 45 | | 不明 | 246×(91) | 74×(56) | 78.8 | |
| 46 | | 方形 | 300×110 | 271×76 | 27.4 | |
| 47 | 土坑45・46・47 | 不明 | (118×97) | 86×63 | 28.0 | |
| 48 | 土坑15 | 方形 | 105×92 | 82×72 | 29.2 | |
| 50 | | 円形 | 121×108 | 45×42 | 41.3 | |
| 51 | | 不明 | 148×(90) | 117×(83) | 15.6 | |
| 52 | | 不明 | 135×(46) | 120×(39) | 37.3 | |
| 53 | 土坑35・40 | 不明 | (79×57) | (76×48) | 15.3 | |
| 54 | 土坑41 | 不明 | (112×66) | (113)×42 | 11.0 | |
| | 土坑1 | 溝2に変更 | | | | |
| | 土坑2 | 溝1に変更 | | | | |
| | 土坑8 | 溝7に変更 | | | | |

第88表 浄禅寺跡遺跡第29地点ピット一覧表

(単位cm)

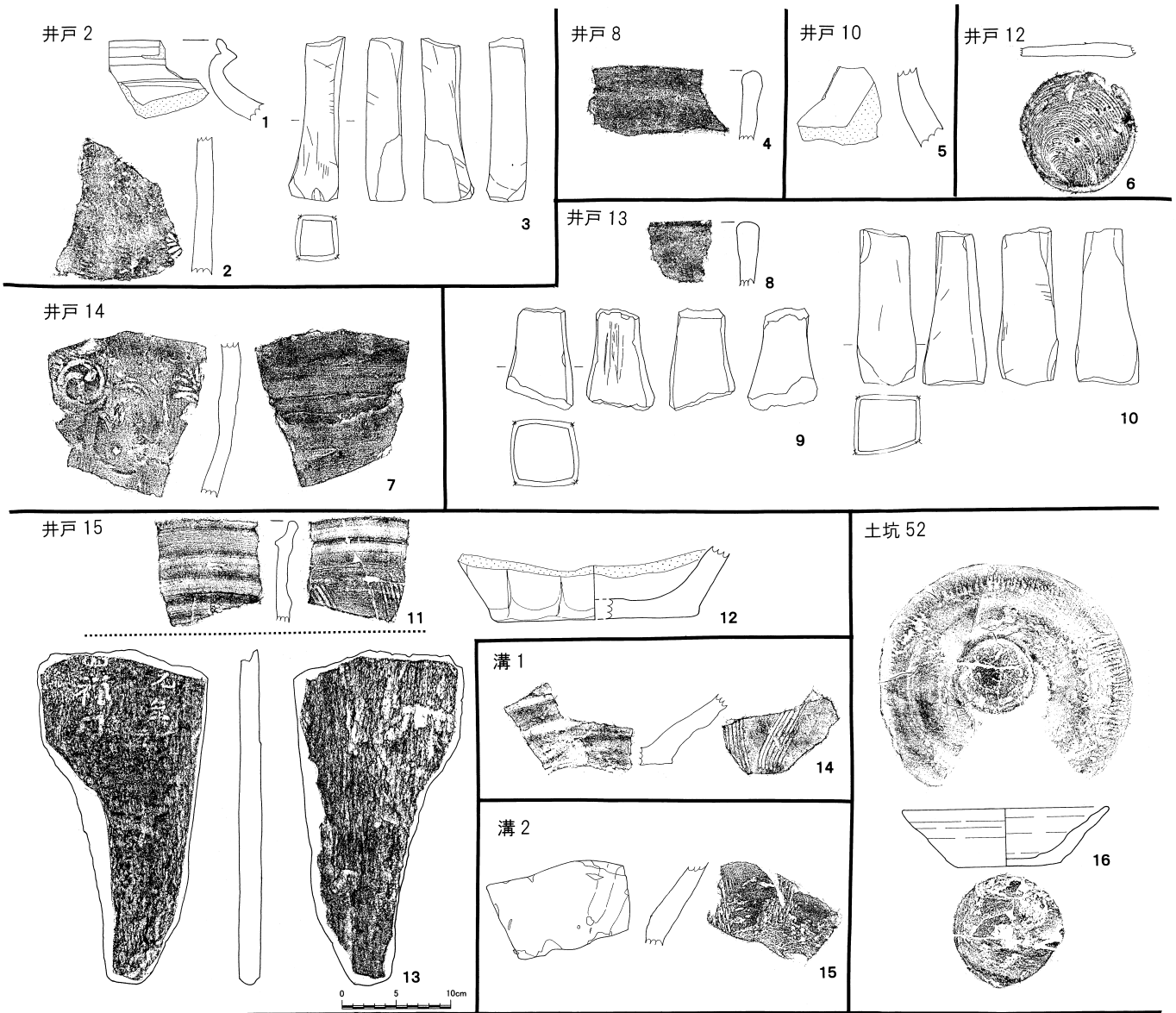
| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|---------|---------|------|------------|
| 1 | 方形 | 24×19 | 13×11 | 19.3 | 第157図 |
| 2 | 不整形 | (51)×44 | 13×13 | 43.2 | 第157図 |
| 3 | 方形 | 35×25 | 15×12 | 57.8 | 第157図 |
| 4 | 方形 | 48×34 | 25×18 | 46.6 | 第157図 |
| 5 | 方形 | 48×34 | 15×12 | 53.5 | 第157図 |
| 6 | 方形 | 36×35 | 10×8 | 38.4 | 第157図 |
| 7 | 方形 | 40×(28) | 11×9 | 85.2 | 第157図 |
| 8 | 楕円形 | 48×28 | 10×7 | 40.2 | 第157図 |
| 9 | 方形 | 23×21 | 12×9 | 24.1 | 第157図 |
| 10 | 方形 | 26×22 | 14×13 | 46.3 | 第157図 |
| 11 | 方形 | 27×23 | 11×9 | 41.3 | 第157図 |
| 12 | 方形 | 37×30 | 20×13 | 30.5 | 第157図 |
| 13 | 方形 | 25×23 | 16×10 | 39.1 | 第157図 |
| 14 | 方形 | 33×31 | 18×15 | 39.0 | 第157図 |
| 15 | 円形 | 35×26 | 20×17 | 47.0 | 第157図 |
| 16 | 不明 | 40×(17) | 15×5 | 50.9 | 第157図 |
| 17 | 方形 | 30×27 | 18×15 | 24.8 | 第157図 |
| 18 | 方形 | 43×39 | 25×16 | 21.4 | 第156図 |
| 19 | 方形 | 43×36 | 11×11 | 71.8 | 第156図 |
| 20 | 不明 | 29×18 | 11×9 | 28.3 | 第156図 |
| 21 | 円形 | 33×31 | 13×13 | 46.5 | 第157図 |
| 22 | 円形 | 39×38 | 26×23 | 20.5 | 第157図 |
| 23 | 方形 | 43×35 | 14×5 | 39.1 | 第157図 |
| 24 | 方形 | 24×23 | 14×13 | 25.0 | 第157図 |
| 25 | 円形 | 33×24 | 13×10 | 19.4 | 第157図 |
| 26 | 方形 | 24×23 | 13×13 | 18.7 | 第157図 |
| 27 | 円形 | 29×29 | 8×8 | 47.8 | 第157図HP291 |
| 28 | 円形 | 35×31 | 10×5 | 36.8 | 第157図 |
| 29 | 円形 | 30×27 | 13×8 | 55.5 | 第157図 |
| 30 | 円形 | 31×31 | 8×5 | 61.5 | 第157図 |
| 31 | 方形 | 23×21 | 11×6 | 65.1 | 第157図 |
| 32 | 円形 | 32×31 | 20×15 | 15.3 | 第157図 |
| 33 | 方形 | 27×24 | 12×5 | 67.7 | 第157図 |
| 34 | 方形 | 30×29 | 23×23 | 27.0 | 第157図HP251 |
| 35 | 円形 | 35×30 | 20×15 | 64.8 | 第157図 |
| 36 | 不明 | (21×19) | (19×11) | 24.1 | 第157図 |
| 39 | 方形 | 33×29 | 16×10 | 28.9 | 第156図 |
| 40 | 方形 | 39×33 | 24×14 | 67.8 | 第156図 |
| 45 | 方形 | 29×(31) | 21×14 | 33.3 | 第159図 |
| 46 | 方形 | 37×(49) | 23×17 | 48.9 | 第159図 |
| 48 | 不整形 | 50×41 | 15×12 | 68.4 | 第156図HP148 |
| 49 | 方形 | 35×34 | 16×16 | 52.7 | 第156図 |
| 52 | 方形 | 28×20 | 11×5 | 49.1 | 第156図 |
| 53 | 円形 | 26×26 | 17×13 | 52.5 | 第156図 |
| 54 | 方形 | 25×25 | 13×12 | 33.3 | 第156図 |
| 55 | 方形 | 31×(29) | 17×5 | 43.4 | 第156図 |
| 56 | 円形 | 28×25 | 13×10 | 44.6 | 第156図 |
| 57 | 方形 | 28×25 | 13×11 | 35.3 | 第156図 |
| 58 | 方形 | 29×25 | 10×7 | 58.9 | 第156図 |
| 59 | 方形 | 27×22 | 8×8 | 15.8 | 第156図 |
| 60 | 方形 | 30×26 | 11×7 | 47.6 | 第157図 |
| 62 | 方形 | 38×(32) | 20×13 | 46.3 | 第157図 |
| 63 | 方形 | 27×(25) | 19×15 | 52.5 | 第157図 |
| 64 | 方形 | 43×39 | 18×17 | 70.0 | 第157図 |
| 65 | 方形 | 27×(25) | 14×11 | 29.5 | 第157図 |
| 66 | 方形 | 39×37 | 14×13 | 49.1 | 第157図 |
| 67 | 円形 | 50×45 | 15×8 | 22.0 | 第157図 |
| 68 | 円形 | (25)×21 | 11×8 | 30.0 | 第157図 |
| 69 | 円形 | 25×25 | 17×11 | 18.5 | 第157図 |
| 70 | 円形 | 30×25 | 15×8 | 35.0 | 第157図 |
| 71 | 方形 | 34×33 | 14×13 | 54.4 | 第157図 |
| 73 | 方形 | 47×35 | 19×17 | 51.5 | 第157図 |
| 74 | 方形 | 21×20 | 8×8 | 53.9 | 第157図 |
| 75 | 円形 | 34×28 | 15×13 | 34.0 | 第157図 |
| 76 | 方形 | 27×27 | 17×17 | 30.6 | 第157図 |
| 77 | 方形 | 42×33 | 20×18 | 55.3 | 第157図 |
| 78 | 方形 | 30×30 | 17×15 | 45.1 | 第157図 |
| 79 | 不整形 | 34×24 | 25×17 | 23.6 | 第157図 |
| 80 | 方形 | 30×28 | 19×17 | 26.4 | 第157図 |
| 81 | 方形 | 27×(25) | 16×14 | 38.1 | 第157図 |
| 82 | 方形 | 25×(25) | 18×15 | 49.3 | 第157図 |
| 83 | 方形 | 22×20 | 14×13 | 30.6 | 第157図 |
| 86 | 方形 | 45×34 | 23×22 | 49.6 | 第157図 |

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|-------|---------|---------|------|------------|
| 87 | 方形 | 60×30 | 40×20 | 49.4 | 第157図 |
| 88 | 方形 | 30×29 | 20×20 | 36.4 | 第157図 |
| 89 | 方形 | 39×35 | 24×18 | 21.2 | 第157図 |
| 90 | 方形 | (45)×41 | 20×20 | 58.8 | 第157図 |
| 91 | 方形 | 30×20 | 14×8 | 28.0 | 第157図 |
| 92 | 方形 | 29×29 | 14×13 | 23.9 | 第157図 |
| 93 | 方形 | 27×23 | 7×6 | 21.3 | 第157図 |
| 94 | 方形 | 64×42 | 26×13 | 56.4 | 第157図 |
| 95 | 方形 | 35×29 | 29×20 | 52.2 | 第157図 |
| 96 | 方形 | 38×36 | 11×11 | 39.5 | 第157図 |
| 97 | 方形 | 19×15 | 10×4 | 68.0 | 第157図 |
| 98 | 方形 | 21×(18) | 14×8 | 35.1 | 第157図 |
| 99 | 方形 | 45×41 | 25×12 | 47.4 | 第157図 |
| 100 | 方形 | 28×22 | 19×7 | 30.5 | 第157図 |
| 101 | 方形 | 20×18 | 12×11 | 22.4 | 第157図 |
| 102 | 方形 | 19×18 | 7×6 | 25.9 | 第157図 |
| 103 | 方形 | 22×20 | 9×7 | 30.8 | 第157図 |
| 104 | 方形 | 21×18 | 8×6 | 20.3 | 第157図 |
| 106 | 方形 | 35×30 | 20×14 | 48.1 | 第157図 |
| 107 | 方形 | 27×25 | 15×15 | 45.8 | 第157図 |
| 108 | 方形 | 20×16 | 14×9 | 21.6 | 第157図 |
| 109 | 方形 | 23×19 | 19×11 | 22.6 | 第157図 |
| 110 | 不明 | 33×(25) | 20×(20) | 26.8 | 第157図 |
| 111 | 方形 | 28×26 | 16×15 | 35.1 | 第157図 |
| 113 | 方形 | 40×31 | 16×16 | 68.6 | 第157図 |
| 118 | 方形 | 34×25 | 15×15 | 30.8 | 第157図 |
| 119 | 不整形 | 41×27 | 12×7 | 25.8 | 第160図 |
| 120 | 方形 | 23×22 | 10×9 | 20.8 | 第160図 |
| 121 | 不明 | 63×(55) | 35×(40) | 33.7 | 第163図 |
| 122 | 方形 | 24×23 | 17×17 | 23.4 | 第163図 |
| 123 | 方形 | 40×32 | 19×19 | 44.4 | 第163図 |
| 124 | 楕円形 | 57×30 | 19×15 | 47.1 | 第163図 |
| 125 | 不整形 | 37×32 | 18×17 | 39.6 | 第163図 |
| 126 | 方形 | 53×35 | 18×14 | 50.8 | 第163図 |
| 127 | 円形 | 32×30 | 14×6 | 56.1 | 第164図 |
| 128 | 方形 | 43×35 | 22×18 | 40.6 | 第163図 |
| 129 | 円形 | 39×38 | 20×11 | 42.2 | 第163図 |
| 130 | 円形 | 32×26 | 6×5 | 17.6 | 第163図 |
| 131 | 円形 | (32×30) | 18×12 | 55.9 | 第163図 |
| 132 | 方形 | (45×45) | 17×16 | 54.1 | 第163図 |
| 133 | 不整形 | (45×38) | 20×15 | 51.7 | 第163図 |
| 134 | 円形 | 27×27 | 15×14 | 20.4 | 第163図 |
| 135 | 円形 | 29×27 | 19×18 | 37.8 | 第163図 |
| 136 | 円形 | 33×32 | 16×11 | 59.6 | 第163図 |
| 137 | 円形 | 36×27 | 17×10 | 23.9 | 第162図 |
| 138 | 円形 | 31×30 | 17×13 | 42.5 | 第162図 |
| 139 | 円形 | 32×28 | 16×13 | 47.9 | 第162図 |
| 140 | 円形 | 32×31 | 13×11 | 27.7 | 第162図 |
| 141 | 方形 | 52×47 | 22×11 | 39.5 | 第161図 |
| 142 | 方形 | 53×(35) | 13×8 | 45.4 | 第161図 |
| 143 | 不明 | 38×(28) | 22×11 | 39.5 | 第160図HP121 |
| 144 | 円形 | 24×21 | 9×5 | 26.7 | 第159図 |
| 147 | 方形 | 38×35 | 22×17 | 32.0 | 第159図 |
| 148 | 方形・方形 | 44×38 | 19×18 | 38.4 | 第159図 |
| 149 | 三角形 | 42×29 | 26×18 | 19.6 | 第159図 |
| 150 | 円形 | 27×26 | 8×7 | 24.1 | 第160図 |
| 151 | 不整形 | 73×30 | 15×12 | 57.6 | 第160図 |
| 152 | 方形 | 25×24 | 11×9 | 55.5 | 第160図 |
| 153 | 不明 | 57×(22) | 6×5 | 54.4 | 第160図 |
| 154 | 円形 | 35×31 | 7×7 | 37.4 | 第160図 |
| 155 | 方形 | 28×25 | 12×10 | 36.6 | 第160図 |
| 156 | 円形 | 27×20 | 10×6 | 50.2 | 第163図 |
| 157 | 方形 | 23×22 | 12×12 | 22.0 | 第160図 |
| 158 | 方形 | 59×(36) | 29×15 | 45.3 | 第161図 |
| 159 | 方形 | 23×22 | 13×8 | 19.9 | 第159図 |
| 160 | 方形 | 27×26 | 10×8 | 25.7 | 第159図 |
| 161 | 方形 | 19×15 | 13×10 | 29.7 | 第159図 |
| 162 | 円形 | 38×33 | 19×17 | 35.4 | 第161図 |
| 163 | 円形 | 35×27 | 17×14 | 24.6 | 第161図 |
| 164 | 不明 | 81×(36) | 10×(9) | 37.9 | 第163図 |
| 165 | 不明 | 36×(16) | 12×(8) | 33.0 | 第161図 |
| 166 | 不明 | 27×(17) | 13×(11) | 20.3 | 第159図 |
| 167 | 不明 | 22×(19) | 11×(9) | 23.4 | 第160図 |

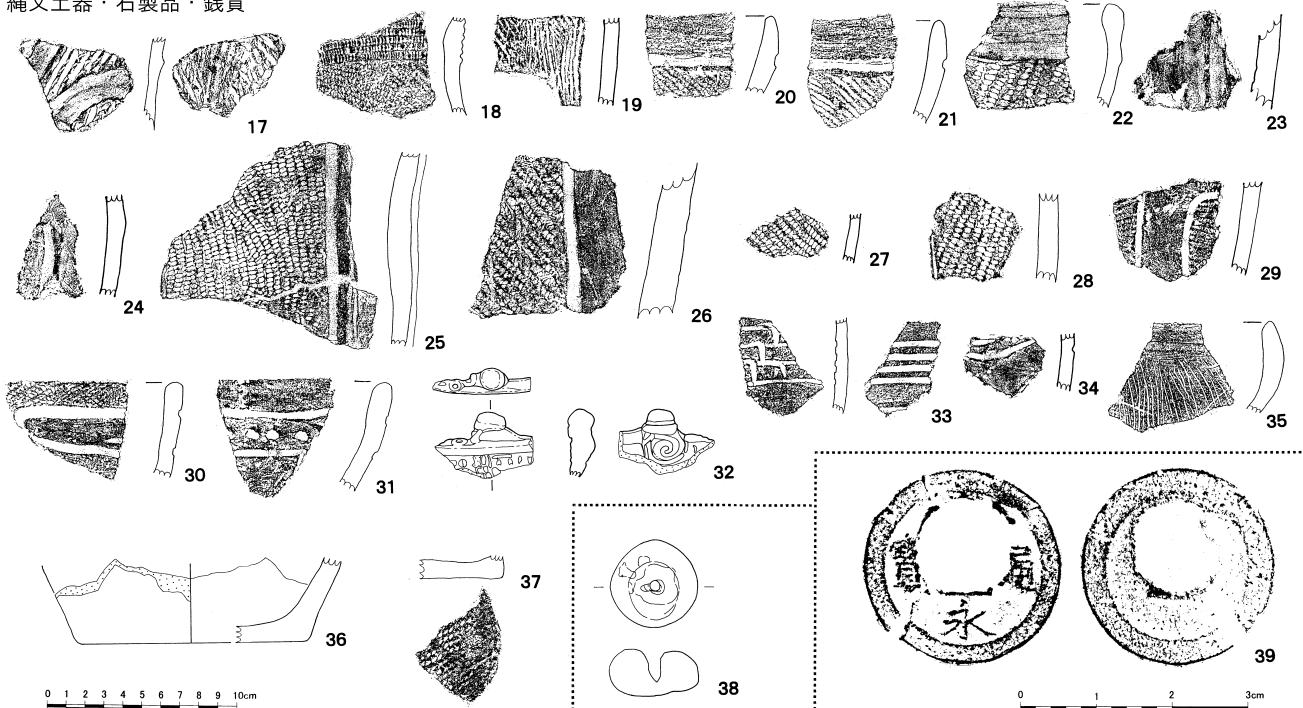
(単位cm)

| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|---------|---------|------|------------|
| 168 | 円形 | 19×(20) | 8×7 | 24.0 | 第160図 |
| 169 | 不明 | 27×(-) | 13×(12) | 50.8 | 第160図 |
| 170 | 方形 | 23×22 | 10×6 | 19.9 | 第160図 |
| 171 | 楕円形 | 36×25 | 24×10 | 15.5 | 第160図 |
| 172 | 方形 | 23×19 | 13×12 | 16.0 | 第160図 |
| 173 | 不明 | (89×21) | (22×3) | 41.8 | 第161図HP159 |
| 176 | 方形 | 19×17 | 7×6 | 25.8 | 第163図 |
| 179 | 円形 | 37×30 | 13×12 | 45.7 | 第160図 |
| 180 | 方形 | 34×31 | 15×11 | 48.3 | 第160図 |
| 181 | 不整形 | 43×33 | 14×12 | 36.4 | 第160図 |
| 182 | 方形 | 37×34 | 16×13 | 42.1 | 第160図 |
| 183 | 方形 | 25×18 | 18×13 | 19.4 | 第160図 |
| 184 | 不明 | 34×27 | 18×12 | 32.4 | 第160図 |
| 185 | 方形 | 35×27 | 8×8 | 29.8 | 第160図 |
| 186 | 方形 | 27×23 | 17×16 | 43.1 | 第160図 |
| 187 | 方形 | 28×27 | 17×16 | 39.2 | 第160図 |
| 188 | 円形 | 23×20 | 12×11 | 43.9 | 第160図 |
| 189 | 不明 | 29×27 | 18×16 | 37.4 | 第160図 |
| 190 | 方形 | 27×26 | 15×13 | 39.0 | 第160図 |
| 191 | 方形 | 28×27 | 16×16 | 35.5 | 第160図 |
| 192 | 方形 | 26×25 | 13×13 | 39.4 | 第160図 |
| 193 | 円形 | 26×23 | 18×16 | 46.0 | 第160図 |
| 194 | 方形 | 27×26 | 16×15 | 29.2 | 第163図 |
| 200 | 円形 | 31×28 | 22×15 | 20.9 | 第161図 |
| 201 | 方形 | 35×29 | 20×16 | 26.2 | 第161図 |
| 202 | 楕円形 | 55×42 | 39×25 | 28.8 | 第161図 |
| 203 | 方形 | 34×26 | 12×11 | 40.2 | 第159図 |
| 204 | 円形 | 36×(21) | 5×3 | 32.1 | 第161図 |
| 205 | 方形 | 54×29 | 20×17 | 67.1 | 第161図 |
| 206 | 方形 | 69×41 | 13×13 | 82.9 | 第161図 |
| 207 | 方形 | 26×24 | 16×16 | 34.4 | 第157図 |
| 208 | 方形 | 25×22 | 16×11 | 35.8 | 第159図 |
| 209 | 方形 | 25×22 | 15×12 | 19.2 | 第159図 |
| 210 | 方形 | 31×27 | 15×14 | 29.4 | 第159図 |
| 211 | 方形 | 21×18 | 13×10 | 41.3 | 第159図 |
| 212 | 方形 | 20×18 | 15×12 | 15.4 | 第159図 |
| 213 | 方形 | 23×21 | 12×12 | 25.8 | 第159図 |
| 214 | 方形 | 31×28 | 14×11 | 46.9 | 第159図 |
| 215 | 不整形 | 63×35 | 45×28 | 64.6 | 第160図 |
| 216 | 方形 | 32×29 | 15×11 | 52.2 | 第160図 |
| 217 | 三角形 | 53×37 | 32×11 | 61.2 | 第160図 |
| 218 | 円形 | 42×35 | 25×21 | 52.5 | 第160図 |
| 219 | 方形 | 30×24 | 12×11 | 48.1 | 第160図 |
| 220 | 円形 | 25×22 | 6×4 | 36.1 | 第160図 |
| 221 | 不明 | 25×25 | 14×10 | 30.6 | 第160図 |
| 222 | 方形 | 27×22 | 13×12 | 29.0 | 第159図 |
| 224 | 方形 | 28×22 | 14×12 | 33.8 | 第163図 |
| 225 | 円形 | 27×26 | 12×7 | 26.1 | 第163図 |
| 226 | 円形 | 30×24 | 10×10 | 36.4 | 第163図 |
| 227 | 方形 | 40×33 | 21×16 | 36.8 | 第163図 |
| 228 | 円形 | 39×35 | 24×15 | 54.2 | 第163図 |
| 229 | 方形 | 31×30 | 16×15 | 48.4 | 第163図 |
| 230 | 方形 | 40×35 | 23×17 | 48.6 | 第156図 |
| 231 | 方形 | 46×30 | 14×10 | 28.0 | 第156図 |
| 232 | 楕円形 | 47×31 | 17×16 | 26.6 | 第156図 |
| 233 | 方形 | 40×33 | 21×11 | 45.3 | 第156図 |
| 234 | 円形 | 29×23 | 16×11 | 25.8 | 第156図 |
| 235 | 不整形 | 40×28 | 24×11 | 29.2 | 第156図 |
| 236 | 円形 | 29×22 | 13×13 | 44.9 | 第156図 |
| 237 | 方形 | 30×21 | 11×10 | 30.0 | 第156図 |
| 238 | 方形 | 37×37 | 17×17 | 50.7 | 第156図 |
| 239 | 円形 | 32×29 | 19×17 | 22.5 | 第156図 |
| 240 | 方形2個 | 52×41 | 15×14 | 53.8 | 第156図 |
| 241 | 方形2個 | 38×37 | 18×10 | 48.5 | 第156図 |
| 242 | 方形 | 39×38 | 12×10 | 69.4 | 第156図 |
| 243 | 方形 | 44×37 | 17×12 | 72.3 | 第156図 |
| 244 | 楕円形 | 37×22 | 15×10 | 50.4 | 第156図 |
| 245 | 方形 | 50×31 | 17×10 | 71.2 | 第156図 |
| 246 | 方形 | 47×35 | 15×14 | 71.7 | 第156図 |
| 247 | 方形 | 30×25 | 11×11 | 39.5 | 第156図 |
| 248 | 方形 | 34×30 | 11×10 | 40.3 | 第156図 |
| 249 | 方形 | 33×32 | 12×10 | 33.9 | 第156図 |
| 250 | 方形 | 38×(22) | 20×12 | 32.8 | 第157図 |

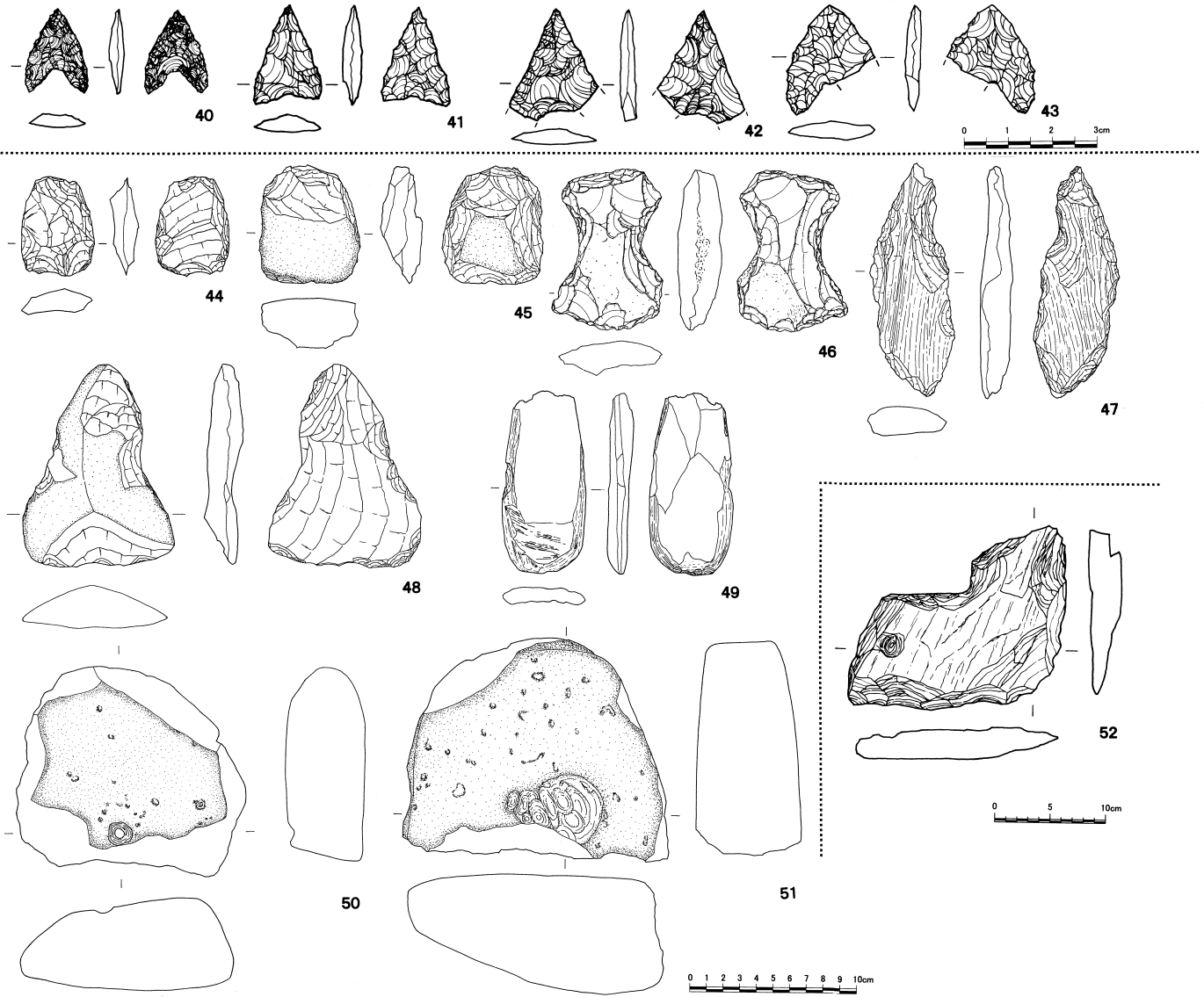
| No. | 平面形態 | 確認面径 | 底径 | 深さ | 備考 |
|-----|------|-----------|-----------|------|------------|
| 252 | 方形 | 48×33 | 20×16 | 64.5 | 第157図 |
| 253 | 方形 | 73×42 | 21×18 | 76.3 | 第157図 |
| 254 | 方形2個 | 40×38 | 25×23 | 80.4 | 第157図 |
| 255 | 方形 | 38×30 | 24×19 | 44.5 | 第157図 |
| 256 | 方形 | 24×23 | 19×13 | 34.5 | 第157図 |
| 257 | 方形 | 30×27 | 17×17 | 44.5 | 第157図 |
| 258 | 方形 | 29×28 | 25×23 | 56.6 | 第157図 |
| 259 | 方形 | 20×19 | 11×9 | 22.2 | 第157図 |
| 260 | 方形 | 18×18 | 10×10 | 32.6 | 第157図 |
| 261 | 方形 | 53×39 | 23×20 | 63.1 | 第157図 |
| 262 | 方形 | 27×25 | 16×11 | 12.0 | 第157図 |
| 263 | 方形 | 27×17 | 11×11 | 20.5 | 第157図 |
| 264 | 方形 | 55×55 | 16×15 | 80.0 | 第157図 |
| 265 | 方形 | 31×(22) | 21×(19) | 26.0 | 第157図 |
| 266 | 円形 | 51×35 | 20×18 | 34.5 | 第157図 |
| 267 | 方形 | 39×33 | 21×18 | 51.5 | 第157図 |
| 268 | 方形 | 65×(54) | 23×14 | 44.3 | 第157図 |
| 269 | 方形 | 38×37 | 19×17 | 37.5 | 第157図 |
| 270 | 円形 | 29×(16) | 12×8 | 31.6 | 第157図 |
| 271 | 円形 | (35)×(15) | (30)×(11) | 29.8 | 第157図 |
| 272 | 方形 | 17×17 | 10×8 | 86.6 | 第157図 |
| 273 | 方形 | 28×26 | 13×12 | 94.7 | 第157図 |
| 275 | 円形 | 30×24 | 17×13 | 39.0 | 第157図 |
| 276 | 方形 | 42×40 | 23×22 | 33.5 | 第157図 |
| 277 | 方形 | 23×20 | 14×8 | 26.0 | 第157図 |
| 278 | 方形 | 44×28 | 20×15 | 29.7 | 第157図 |
| 279 | 方形 | 34×30 | 16×15 | 57.8 | 第157図 |
| 281 | 方形 | 67×38 | 13×13 | 44.2 | 第157図 |
| 282 | 方形 | 20×19 | 13×10 | 26.3 | 第157図 |
| 283 | 方形 | 23×21 | 12×12 | 23.0 | 第157図 |
| 284 | 方形 | 22×22 | 9×8 | 53.5 | 第157図 |
| 285 | 方形 | 23×19 | 16×13 | 22.8 | 第163図 |
| 286 | 円形 | 28×28 | 15×14 | 24.3 | 第163図 |
| 287 | 不整形 | 76×64 | 19×12 | 58.8 | 第163図 |
| 288 | 方形 | 28×27 | 18×11 | 23.4 | 第163図 |
| 290 | 楕円形 | 49×34 | 22×20 | 39.4 | 第162図 |
| 291 | 円形 | 26×25 | 17×15 | 41.0 | 第163図 |
| 292 | 円形 | 29×27 | 14×12 | 34.3 | 第163図 |
| 293 | 方形 | 18×14 | 10×4 | 31.2 | 第163図 |
| 294 | 円形 | 30×20 | 15×10 | 57.7 | 第161図 |
| 295 | 円形 | 24×16 | 11×6 | 20.0 | 第161図 |
| 296 | 不整形 | 49×44 | 30×16 | 48.2 | 第162図 |
| 297 | 方形 | 44×26 | 15×14 | 23.5 | 第157図 |
| 298 | 方形 | 50×32 | 14×13 | 29.5 | 第157図 |
| 299 | 方形 | 30×28 | 21×19 | 24.5 | 第157図 |
| 300 | 方形 | 22×17 | 14×12 | 19.5 | 第157図 |
| 301 | 方形 | 35×34 | 20×15 | 55.5 | 第157図 |
| 302 | 方形 | 49×41 | 31×18 | 50.0 | 第157図 |
| 303 | 方形 | 45×36 | 15×15 | 74.6 | 第157図 |
| 304 | 方形 | 33×33 | 14×12 | 54.0 | 第157図 |
| 305 | 円形 | 36×33 | 14×14 | 30.5 | 第157図 |
| 306 | 方形 | 41×30 | 12×7 | 69.6 | 第156図 |
| 307 | 円形 | 54×50 | 12×11 | 49.0 | 第156図 |
| 308 | 方形 | 21×17 | 14×13 | 56.5 | 第157図 |
| 309 | 方形 | 33×25 | 17×17 | 43.9 | 第157図 |
| 310 | 方形 | 35×23 | 30×16 | 37.2 | 第157図 |
| 311 | 方形 | 35×(25) | 19×18 | 66.1 | 第157図 |
| 312 | 方形 | 29×26 | 20×17 | 40.0 | 第157図 |
| 313 | 方形 | 26×22 | 13×10 | 35.3 | 第157図 |
| 314 | 方形 | 30×26 | 17×13 | 35.4 | 第157図 |
| 315 | 方形 | 31×25 | 22×19 | 32.7 | 第157図 |
| 316 | 方形 | 41×(39) | 15×13 | 58.7 | 第157図 |
| 317 | 方形 | 27×26 | 12×7 | 15.3 | 第157図 |
| 318 | 方形 | 40×34 | 14×12 | 70.0 | 第157図 |
| 319 | 方形 | 33×28 | 22×21 | 67.1 | 第156図 |
| 320 | 方形 | 17×16 | 10×7 | 34.3 | 第157図 |
| 321 | 不整形 | 25×19 | 11×8 | 41.8 | 第156図 |
| 322 | 方形 | 16×14 | 9×5 | 17.5 | 第157図 |
| 323 | 方形 | 25×(21) | 18×(13) | 33.6 | 第156図 |
| 325 | 方形 | 31×31 | 21×21 | 21.4 | 第157図 |
| 326 | 方形 | 25×20 | 5×4 | 60.7 | 第157図 |
| 327 | 不明 | 26×(16) | 15×10 | 16.9 | 第157図HP272 |



縄文土器・石製品・銭貨



第166図 浄禅寺跡遺跡第29地点出土遺物① (1/4・1/6・1/1)



第167図 浄禪寺跡遺跡第29地点出土遺物② (2/3・1/4・1/6)

第89表 浄禅寺跡遺跡第29地点出土遺物観察表

| No. | 出土遺構名 | 種別・器種 | 単位cm・g | | | 技法・文様・その他 | 推定産地 | 推定年代 | 残存・備考 |
|-----|-------|---------|--------|---------|-------|--|------|--------------|-------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅・内径 | 高さ・厚さ | | | | |
| 1 | 井戸2 | 陶器・大甕 | - | - | - | 口縁部N字状口縁、自然釉 | 常滑 | 13世紀中～14世紀 | 口縁部 |
| 2 | 井戸2 | 陶器・甕 | - | - | - | 黄灰色、外面菊印花文 | - | 中世 | 胴部 |
| 3 | 井戸2 | 石製品・砥石 | (9.9) | 3.1 | 2.2 | 石質：凝灰岩/重量95.4g | - | 中近世 | 2/3 |
| 4 | 井戸8 | 瓦質土器・鉢 | - | - | - | 紐作り成形/内面横方向撫で | 在地 | - | 口縁部 |
| 5 | 井戸10 | 陶器・甕 | - | - | - | 轆轤成形/内面茶褐色に外面黄緑色灰釉 | 常滑 | 中世 | 頸部 |
| 6 | 井戸12 | 須恵器・坏 | - | (7.0) | - | 轆轤成形/回転切り痕、白色海綿骨針含む | 南比企 | - | 底部 |
| 7 | 井戸14 | 陶器・甕 | - | - | - | 灰色、三ツ巴文、割れ口磨痕有り転用砥石 | - | - | 胴部 |
| 8 | 井戸13 | 土器・浅鉢 | - | - | - | 無文口縁部 | - | 縄文中期 | 口縁部 |
| 9 | 井戸13 | 石製品・砥石 | (6.0) | 4.0 | 4.0 | 石質：凝灰岩/重量117.6g | - | 中近世 | 1/2 |
| 10 | 井戸13 | 石製品・砥石 | (9.4) | 3.6 | 3.2 | 石質：凝灰岩/重量197.1g | - | 中近世 | 2/3 |
| 11 | 井戸15 | 陶器・摺鉢 | - | - | - | 轆轤成形/口縁端部内側に突起が巡る、櫛目6本単位 | 瀬戸美濃 | 16世紀後半 | 口縁部 |
| 12 | 井戸15 | 陶器・甕 | - | - | - | 胴下半から右方向に撫でヒダ状調整痕有り | 常滑 | - | 底部 |
| 13 | 井戸15 | 板碑 | (18.3) | (14.8) | 2.8 | 石質：緑泥片岩/重量1,167.1g/ □元年 丁巳 □禪門/1257(正嘉元)年、1317(文保元)年とみられる | - | 13世紀中～14世紀前半 | 一部 |
| 14 | 溝1 | 陶器・摺鉢 | - | - | - | 轆轤成形/櫛目6本単位 | - | 中世 | 底部 |
| 15 | 溝2 | 陶器・摺鉢 | - | - | - | 轆轤成形/櫛目8本単位 | 瀬戸美濃 | 中世 | 胴部 |
| 16 | 土坑52 | 土器・かわらけ | 12.5 | 6.7 | 3.8 | にぶい褐色/轆轤成形/底部回転切り・板状圧痕、内面上部にトビガンナ状の幅1～1.5mm長さ2cmの刻みを全周させその上に粘土で化粧を施す/内外面は表面剥離有り、内外面煤付着 | 在地 | 14世紀 | 3/4 |
| 17 | 表土 | 縄文土器 | - | - | - | 細隆起線文の間に沈線施文、胎土に繊維・金雲母含む | - | 縄文早期後葉 | 胴部 |
| 18 | 土坑30 | 縄文土器 | - | - | - | 地文R L 縄文+6条結節浮線文、金雲母大量に含む | - | 縄文前期末葉 | 胴部 |
| 19 | 堀跡 | 縄文土器 | - | - | - | 5本単位木口状工具の条線文 | - | 縄文中期? | 胴部 |
| 20 | 堀跡 | 縄文土器 | - | - | - | 口縁部無文+横位沈線+R 1 縄文、20と21は同一個体とみられる | - | 加曾利E III | 口縁部 |
| 21 | 堀跡 | 縄文土器 | - | - | - | | - | | |
| 22 | 表土 | 縄文土器 | - | - | - | 口縁部無文+横位微隆帯+L R 縄文 | - | 加曾利E IV | 口縁部 |
| 23 | P131 | 縄文土器 | - | - | - | 微隆帯+磨消 | - | 加曾利E IV | 胴部 |
| 24 | P131 | 縄文土器 | - | - | - | | - | | |
| 25 | 堀跡 | 縄文土器 | - | - | - | 地文R L +微隆帯+沈線+磨消 | - | 加曾利E IV | 胴部 |
| 26 | 堀跡 | 縄文土器 | - | - | - | 地文L r +沈線+磨消 | - | 加曾利E IV | 胴部 |
| 27 | P132 | 縄文土器 | - | - | - | 地文L R | - | 加曾利E | 胴部 |
| 28 | P132 | 縄文土器 | - | - | - | 地文R L +沈線 | - | 加曾利E | 胴部 |
| 29 | 堀跡 | 縄文土器 | - | - | - | 地文L r +沈線+磨消 | - | 加曾利E IV | 胴部 |
| 30 | 表土 | 縄文土器 | - | - | - | 地文L r +沈線区画内磨消縄文 | - | 称名寺I | 口縁部 |
| 31 | 表土 | 縄文土器 | - | - | - | 沈線区画内列点文 | - | 称名寺III | 口縁部 |
| 32 | 表土 | 縄文土器 | - | - | - | 口唇部突起+口唇沈線と刺突、口唇内面は沈線渦巻文、外面は刺突隆帯+8字状隆帯 | - | 堀之内2 | 口縁部 |
| 33 | 表土 | 縄文土器 | - | - | - | 外面段差沈線文、内面並行沈線 | - | 加曾利B 1 | 胴部 |
| 34 | P46 | 縄文土器 | - | - | - | 沈線文+磨消 | - | 縄文中期～後期 | 胴部 |
| 35 | 表土 | 縄文土器 | - | - | - | 木口状工具の細い条線文 | - | 縄文中期 | 口縁部 |
| 36 | 土坑1 | 縄文土器 | - | - | - | 胴下部～底部、外面・底面無文 | - | 縄文中期 | 底部 |
| 37 | 井戸1 | 縄文土器 | - | - | - | 網代痕有り | - | 縄文後期 | 底部 |
| 38 | 表土 | 石製品・不明 | 4.5 | - | 2.4 | 円形でやや厚みのある扁平礫の中央部を穿孔するが貫通はしていない/重量69.3g | - | 中近世 | - |
| 39 | トレンチ7 | 銭貨 | 2.5 | - | 0.11 | 寛永通寶/重量2.6g/(新寛永)裏面より穿孔 | - | 1697年(初鑄) | 一部欠 |
| 40 | 堀跡 | 石器・石鏃 | 1.9 | 1.4 | 0.3 | 石質：黒曜石/重量0.55g | - | 縄文時代 | 完形 |
| 41 | トレンチ8 | 石器・石鏃 | 2.2 | 1.5 | 0.4 | 石質：チャート/重量1.04g | - | 縄文時代 | 完形 |
| 42 | 堀跡 | 石器・石鏃 | 2.4 | 2.1 | 0.4 | 石質：石英/重量1.41g | - | 縄文時代 | 脚部一部欠 |
| 43 | 表土 | 石器・石鏃 | 2.5 | 1.9 | 0.4 | 石質：チャート/重量1.41g | - | 縄文時代 | 脚部一部欠 |
| 44 | P6 | 石器・打製石斧 | 5.7 | 4.3 | 1.3 | 石質：泥岩/重量45.96g | - | 縄文時代 | 完形 |
| 45 | 井戸16 | 石器・打製石斧 | 7.0 | 6.0 | 2.8 | 石質：泥岩/重量131.7g | - | 縄文時代 | 完形 |
| 46 | 井戸8 | 石器・打製石斧 | 9.5 | 6.5 | 3.0 | 石質：細粒砂岩/重量159.7g | - | 縄文時代 | 完形 |
| 47 | 井戸14 | 石器・打製石斧 | 13.9 | 4.7 | 1.8 | 石質：緑泥片岩/重量156.2g | - | 縄文時代 | 完形 |
| 48 | 堀跡 | 石器・打製石斧 | 12.0 | 9.0 | 2.1 | 石質：黒色細粒砂岩/重量251.5g | - | 縄文時代 | 完形 |
| 49 | 表土 | 石器・磨製石斧 | (10.8) | 5.0 | 1.4 | 石質：輝緑岩/重量108.1g | - | 縄文時代 | 一部欠 |
| 50 | 井戸11 | 石器・石皿凹石 | (11.9) | (13.8) | 5.4 | 石質：砂岩/重量1,303.5g | - | 縄文時代 | 一部 |
| 51 | 井戸8 | 石器・石皿凹石 | (12.8) | (15.9) | 7 | 石質：砂岩/重量2,077.8g | - | 縄文時代 | 1/2 |
| 52 | 井戸15 | 石器・凹石 | (14.8) | (18.3) | 2.8 | 石質：雲母片岩/重量1,167.1g | - | 縄文時代 | 一部 |

第6章 浄禪寺跡遺跡第30地点の本調査

I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成によるものである。2007年9月14日から10月9日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、調査区北側部分について隣地境の壁や上下水道管等の埋設等で遺跡へ影響が及び開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査を実施することになった。その他、建物建設部分は30cm以上の保護層が保たれるため保存措置とした。

調査区は遺跡範囲の西部で浄禪寺の境内内に有り、かつて浄禪寺川の湧水場所とされていた場所の南方約30mに位置する。旧道により三角形の区域は東南西の三方から北に向かって挿鉢状に傾斜する。

本調査は2007年10月9日から開始し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図の作成と写真撮影を行ない、同年11月2日に調査を終了した。検出した遺構は中世から近世の茶毘跡5基、木炭窯1基、土坑15基、ピット61基、縄文時代の落とし穴6基である。落とし穴、土坑、ピットの詳細については第I部第18章IV浄禪寺跡遺跡第30地点参照。

II 遺構と遺物

(1) 茶毘跡

茶毘跡は全部で5基検出した。茶毘跡1・3が隣接しピット59と重複し、ピット59は茶毘跡より古い。

【茶毘跡1】本調査区の西部で東側には茶毘跡3が位置する。平面形態はT字状を呈する。主体部の結合部壁周辺と、主体部反対側の壁が最も良く焼けている。底部から覆土層に太さ約5～8cmの炭化物が残りその上に細かな炭化物と焼土、骨片と釘などが出土した。炭化物は主体部全体に48～88cmの楕円形範囲、骨片は29～42cmの楕円形範囲に広がる。

焚口(煙道)から主体部にかけては約10°の傾斜で溝状に掘り込まれている。

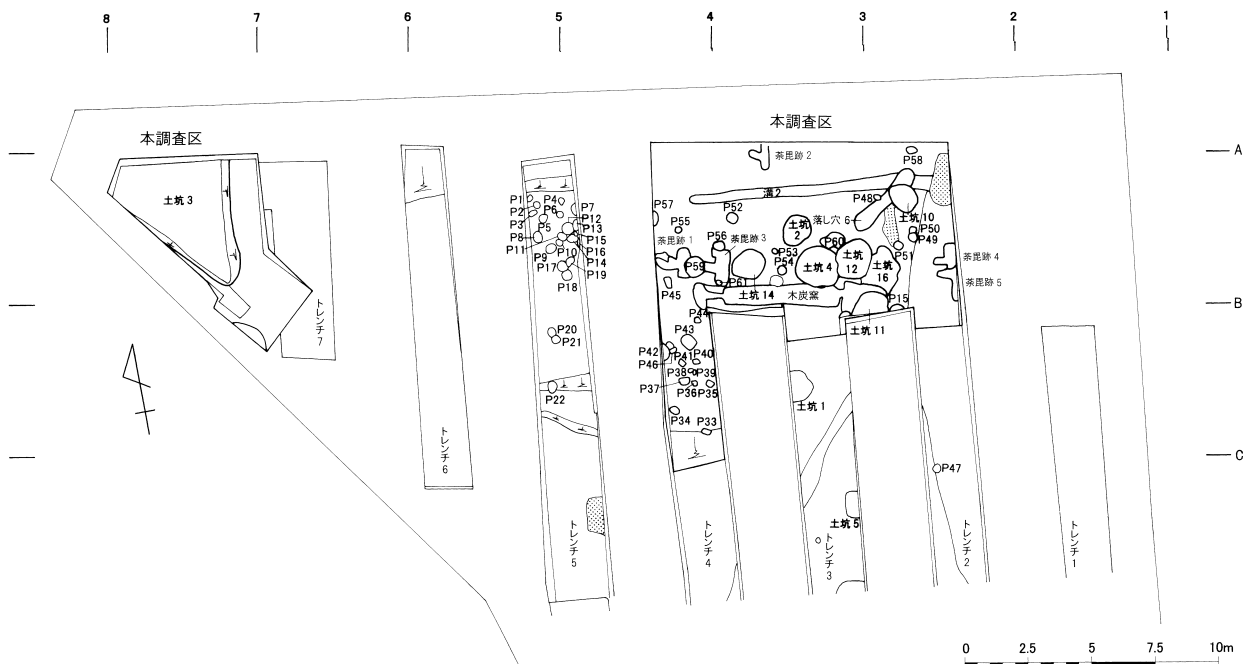
規模は焚口の長さ54cm・幅22～25cm・深さ14.3cm、焚口から主体部までの長さ102cmである。主体部は長軸109cm・幅50cm・深さ36.5cmである。

【茶毘跡2】本調査区の北部に位置する。平面形態はT字状を呈する。焚口の壁から主体部の結合部壁周辺と、主体部反対側の壁が最も良く焼けている。炭化物は主体部全体に広がる。

焚口(煙道)から主体部にかけては約24°の傾斜で溝状に掘り込まれている。

規模は焚口の長さ(44)cm・幅20cm・深さ20.9cm、焚口から主体部までの長さ75cmである。主体部は長軸106cm・幅30cm・深さ30.1cmである。

【茶毘跡3】本調査区の西部で西側に茶毘跡1が位置する。平面形態はT字状を呈する。主体部の結合部壁と、主体部反対側の壁が最も良く焼けている。焚口(煙道)から主体部にかけては約28°の傾斜で溝状に掘り込まれている。炭化物の広がり焚口から主体部全



第168図 浄禪寺跡遺跡第30地点遺構配置図 (1/300)

体に、骨片は焚口と主体部の結合部周辺の35~69cmの楕円形範囲に広がる。

規模は焚口の長さ67cm・幅25~33cm・深さ46.6cm、焚口から主体部までの長さ113cmである。主体部は長軸133cm・幅45cm・深さ47.2cmである。

【茶毘跡4】本調査区の東部に位置し調査区外へ延び、茶毘跡5と重複し本遺構が新しい。焚口と主体部の一部を検出したのみで全体形は不明であるが、T字状を呈するとみられる。

焚口(煙道)から主体部にかけては約20°の傾斜で掘り込まれている。

規模は焚口の長さ74cm・深さ19.5cmである。主体部の深さは31cmである。

【茶毘跡5】本調査区の東部に位置し調査区外へ延び、茶毘跡4と重複し本遺構が古い。焚口と主体部の一部を検出したのみで全体形は不明であるが、T字状を呈するとみられる。

焚口(煙道)から主体部にかけては約14°の傾斜で掘り込まれている。

規模は焚口の長さ65cm・深さ45.4cmである。主体部の深さは52cmである。

(2) 木炭窯

本調査区の南部に位置する。削平等により全容は不明である。炭化室は西側、作業場(前底部)と見られる広がり東側に位置する。

平面形態は炭化室が長方形、作業場は方形から台形を呈するとみられる。炭化室の底面は焼けて焼土が広

がり覆土には炭化物もみられた。

炭化室の主軸方位はN-80°-W、窯床傾斜は約2°である。規模は炭化室が全長582cm・上幅90~100cm・下幅65~90cm・深さ19cmである。作業場は長軸(170)cm・短軸100cm・深さ(37)cmである。炭化室中央には主軸線に沿って長さ588cm、上幅20~30cm、下幅5~20cmの溝がはしる。

(3) 土坑3

土坑3は調査区の北西隅、旧道が二股に分かれる部分に位置する。本遺構の南側にみられる溝状部分について、当初は別遺構のイモビツ等とも考えられたが、明確な切り合い関係が確認できないため、本遺構と同時に埋没したものと考えられる。

検出部分は三角形状を呈するが全容は不明である。検出部の規模は確認面径(660)×(410)cm・底径618×(370)cm・深さ123.2cmである。遺構の形状が二股に分かれる道と並行することから、道が築造されてから本遺構が存在したものと考えられる。覆土層2層で焼土と炭化物、近代のコバルト染付の器片が出土、7層からは瀬戸美濃系磁器片が出土している。また覆土層には硬化面が断続的にみられ、人の立ち入りが考えられる。その他の土坑については第37表参照。

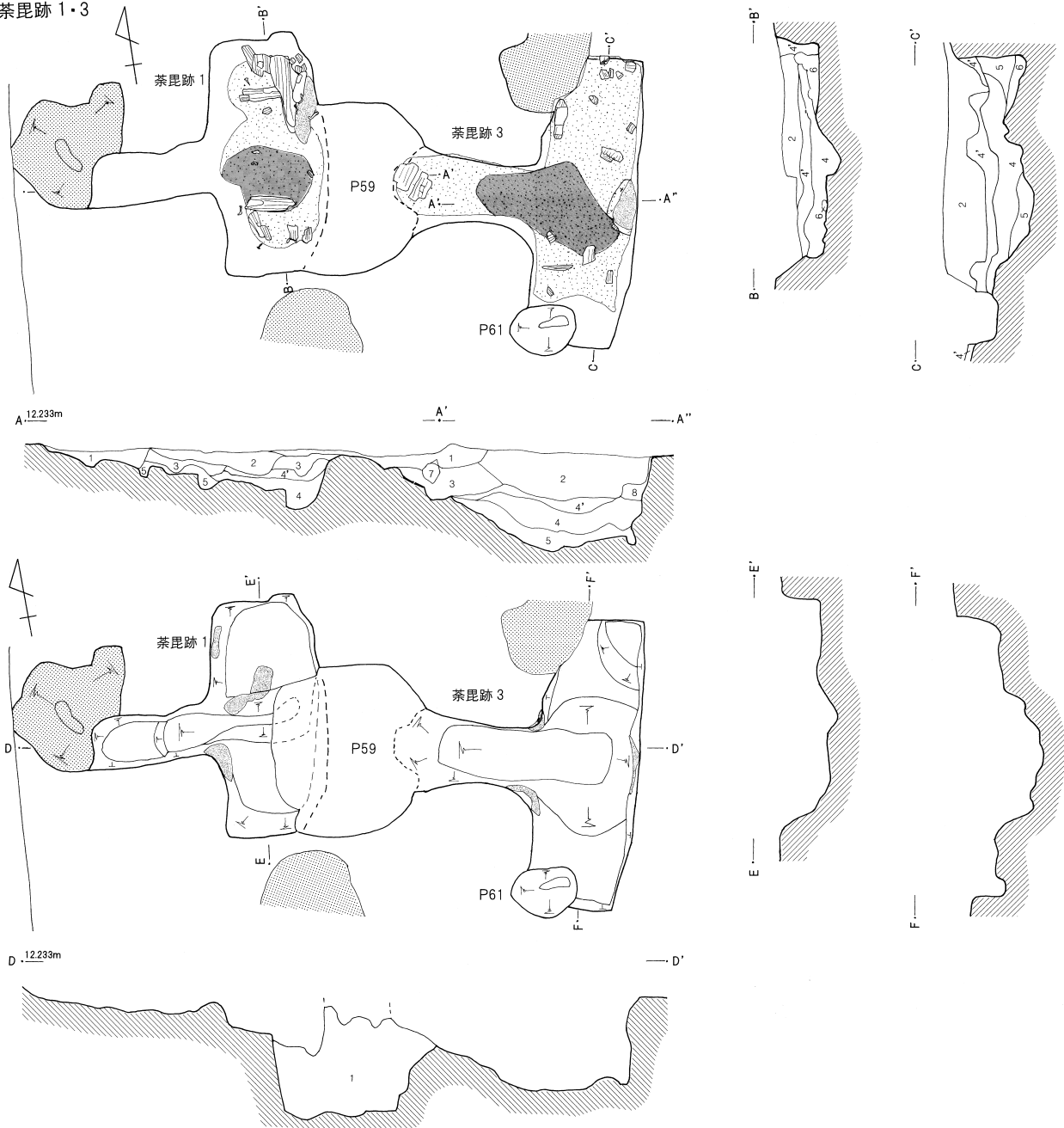
(4) 出土遺物

土坑3覆土層からややまとまった遺物が出土しているが陶磁器は小破片が多い。ただし砥石が3点出土する。茶毘跡1・4からは角釘が複数出土する。遺物の詳細については第90表のとおりである。

第90表 浄禅寺跡遺跡第30地点出土遺物観察表

| No. | 出土遺構名 | 種別・器種 | 単位cm・g | | | | 技法・文様・その他 | 推定産地 | 推定年代 | 残存・備考 |
|-----|-------|----------|--------|---------|-------|--------|---------------------------------------|--------------|-------------|-------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅・内径 | 高さ・厚さ | 重量 | | | | |
| 1 | 土坑3 | 磁器/碗 | - | 3.8 | (3.2) | - | 轆轤成形/染付、外面毛彫り菊花文、見込み二重圏線・花文 | 瀬戸美濃 | 1840~1860年代 | 一部 |
| 2 | | 磁器/小坏 | (7.0) | 2.6 | 2.7 | - | 轆轤成形/断面鉤形高台、コバルト染付櫛歯文、高台内赤上絵でヤマに「吉」銘 | 瀬戸美濃 | 1870年代 | 一部 |
| 3 | | 磁器/紅皿 | 5.2 | 1.6 | 1.6 | - | 型押成形/白磁、外面無釉・型押陰刻唐草文 | 瀬戸美濃 | - | 一部 |
| 4 | | 磁器/小坏 | - | 3.6 | (2.7) | - | 轆轤成形/コバルト染付 | 瀬戸美濃 | 1870年代以降 | 一部 |
| 5 | | 土製品/泥メンチ | 2.5 | 2.0 | 0.5 | 3.10 | 芥子面、? | 在地 | 近世以降 | 完形 |
| 6 | | 土製品/泥メンチ | 2.7 | 2.0 | 0.7 | 3.86 | 芥子面、おかめ | 在地 | 近世以降 | 完形 |
| 7 | | 石製品/砥石 | (5.0) | 2.2 | 1.2 | 23.24 | 石質：凝灰岩/4面砥使用 | - | 中・近世 | 一部残 |
| 8 | | 石製品/砥石 | (9.5) | 2.6 | 1.9 | 68.35 | 石質：凝灰岩/5面砥使用 | - | 中・近世 | 一部欠 |
| 9 | | 石製品/砥石 | (12.0) | 2.5 | 2 | 95.91 | 石質：凝灰岩/5面砥使用 | - | 中・近世 | 一部欠 |
| 10 | | 銭貨 | 2.5 | - | 0.12 | 2.51 | 寛永通寶/(新寛永 文銭) | - | 1668年(初鑄) | 完形 |
| 11 | 茶毘跡1 | 石器/石鏃 | 2.7 | 1.7 | 0.4 | 1.37 | 石質：長石 | - | 縄文時代 | 一部欠 |
| 12 | | 鉄製品/和釘 | (2.2) | 0.4 | 0.2 | 1.26 | 鉄製/断面方形 | - | 13~14世紀 | 先端残 |
| 13 | | 鉄製品/和釘 | 5.1 | 0.5 | 0.3 | 5.72 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | 完形 |
| 14 | | 鉄製品/和釘 | (4.5) | 0.6 | 0.35 | 3.51 | 鉄製/断面方形 | - | 13~14世紀 | 両端欠 |
| 15 | | 鉄製品/和釘 | (4.5) | 0.5 | 0.48 | 5.86 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | 完形 |
| 16 | | 鉄製品/和釘 | (3.8) | 0.4 | 0.2 | 1.50 | 鉄製/断面方形 | - | 13~14世紀 | 頭部欠 |
| 17 | | 鉄製品/和釘 | (3.8) | 0.4 | 0.2 | 3.63 | 鉄製/断面方形 | - | 13~14世紀 | 頭部欠 |
| 18 | | 鉄製品/和釘 | (5.3) | 0.4 | 0.3 | 7.56 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | ほぼ完形 |
| 19 | | 鉄製品/和釘 | (5.3) | 0.4 | 0.3 | 4.34 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | ほぼ完形 |
| 20 | | 鉄製品/和釘 | (2.9) | 0.5 | 0.4 | 1.85 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | 先端欠 |
| 21 | 茶毘跡4 | 鉄製品/和釘 | (4.5) | 0.5 | 0.4 | 4.53 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | 先端欠 |
| 22 | | 鉄製品/和釘 | 3.8 | 0.6 | 0.3 | 2.28 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | 完形 |
| 23 | | 鉄製品/和釘 | (5.3) | 0.4 | 0.3 | 3.51 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | ほぼ完形 |
| 24 | | 鉄製品/和釘 | (4.4) | 0.4 | 0.35 | 3.70 | 鉄製/断面方形、頭部片方に叩き曲げた錠形 | - | 13~14世紀 | ほぼ完形 |
| 25 | | 鉄製品/和釘 | 4.2 | 0.4 | 0.32 | 3.32 | 鉄製/断面方形 | - | 13~14世紀 | 頭部欠 |
| 26 | | P21 | 石製品/砥石 | 8.4 | 4.8 | 3.4 | 120.65 | 石質：凝灰岩/6面砥使用 | - | 中・近世 |
| 27 | 遺構外 | 陶器/播鉢 | - | - | 11.7 | - | 輪轆成形/口縁部横撫で、胴部縦方向撫で、胴下部工具による撫で、ヒダ状を呈す | 常滑 | 15世紀 | 一部 |
| 28 | | 石器/砥石・磨石 | 8.7 | 8.5 | 4.9 | 555.67 | 石質：砂岩 | - | 縄文時代 | 完形 |

茶毘跡 1・3



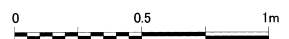
茶毘跡 1

1. 暗褐色土 攪乱
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、1~1.5 cmロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く、同炭化物・焼土僅かに含む
3. 暗褐色土主体 締り有、粘性有、炭化物多く含む全体の色調暗い、5mm 以下ローム粒・焼土粒やや多く同骨片少し含む
- 4・4' 暗褐色土 締り有、粘性有、比較的遺存状態の良い炭化材と土壌化した炭化材多く含む、遺構中央付近は 2 層土混ざる、3 cm 以下骨片比較的多く集中、2 cm 以下ロームブロック・焼土ブロック点在、主体は 2 cm 以下ロームブロック・粒多く含む
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む
6. 黒色土 炭化物

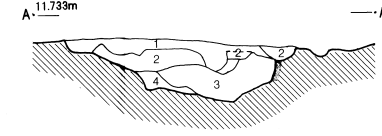
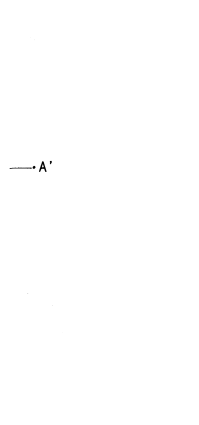
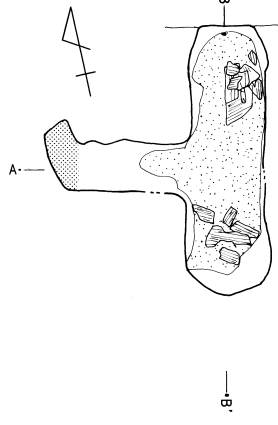
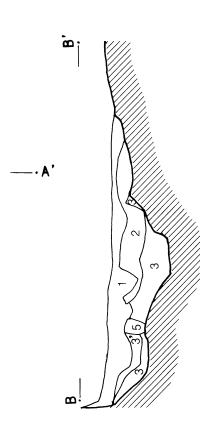
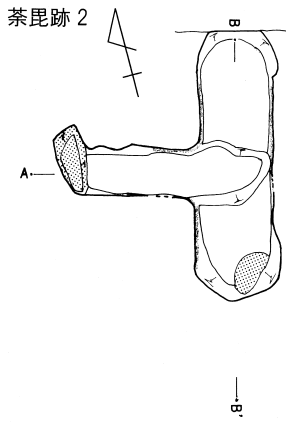
茶毘跡 3

1. 暗褐色土 攪乱
2. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、7 cm 以下ロームブロック多く、5mm 以下ローム粒やや多く、1 cm 以下炭化物少し含む

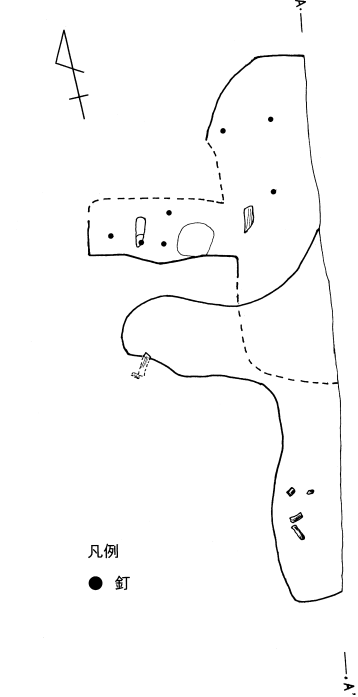
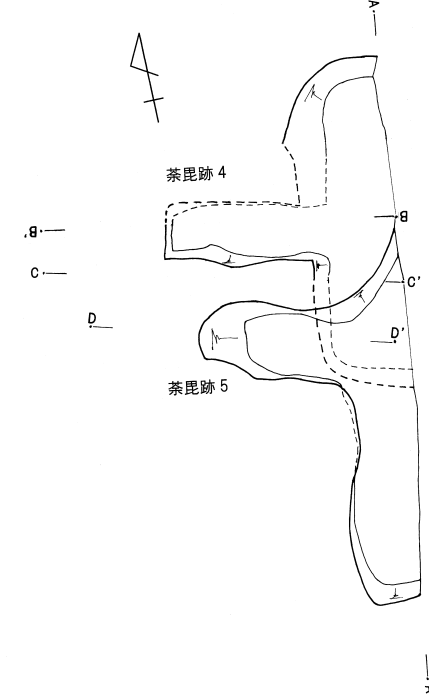
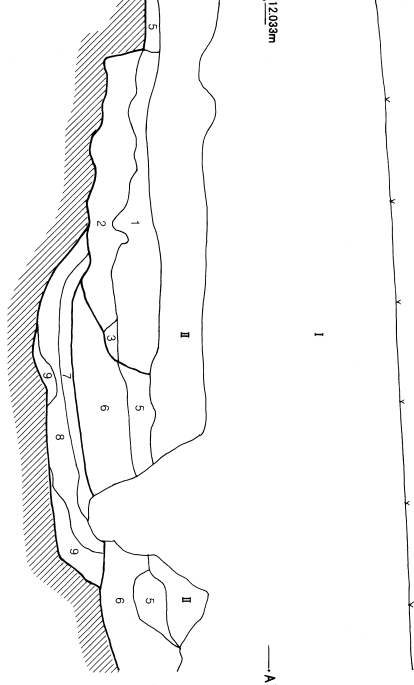
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2 cm 以下ロームブロック、2mm 以下ローム粒少し、1 cm 以下炭化物やや多く含む、全体の色調は 1 層より暗い、5mm 大の還元焼土僅かに含む
4. 暗褐色土 締り有、粘性有、黒色味がかり、土壌化した炭化物多く、5mm 以下ローム粒多く、遺存状態の良い炭化材多く、1 cm 以下骨片比較的多く含む、焼土ブロック点在する
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、土壌化した炭化物と 2mm 以下ローム粒混ざる、3 cm 以下ロームブロックやや多く、骨片僅かに含む
6. 暗褐色土 締り有、粘性有、1 cm 以下ロームブロック多く含む
- ピット 59
1. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、7 cm 以下ロームブロック多く、5 mm 以下ローム粒やや多く、1 cm 以下炭化物少し含む



第169図 浄禪寺跡遺跡第30地点茶毘跡 1・3 (1/30)



茶毘跡 4・5



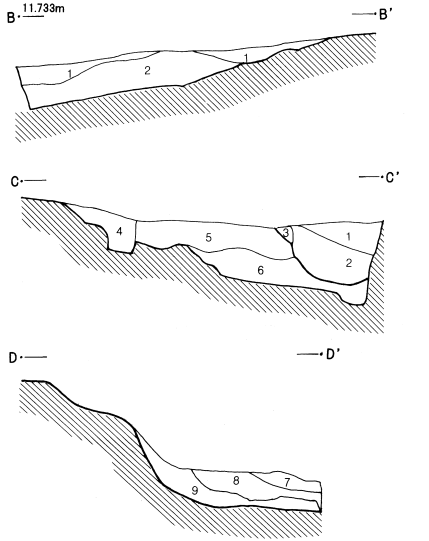
凡例
● 釘

茶毘跡 2

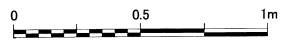
- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、1 cm以下ロームブロック・焼土ブロック・5mm 炭化物少し含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、黒色味、2 cm以下炭化物やや多く、5mm 以下ローム粒・焼土粒やや多く、2 cm焼土ブロック少し含む、3 mm以下骨片少量だが目立つ
- 3・3' 暗褐色土(上面観察) 締り有、粘性有、遺存状態の良い炭化材多く、土壌化したシミ状炭化材多く、2 cm以下ロームブロック・粒多く、1 cm以下骨片比較的多く均一に含む、焼土ブロック点在
- 4.黒褐色土 締りやや弱、粘性有、3mm 以下ローム粒多く含む
- 5.ロームブロック

茶毘跡 4(1~3層)、茶毘跡 5(7~9層)

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒と5mm 以下焼土少し、5mm 以下炭化物やや多く含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性弱、1.5 cm以下炭化物多量、1 cm以下焼土ブロックやや多く、2mm 以下ローム粒少し、骨片・釘含む
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒、5mm 以下炭化物少し含む

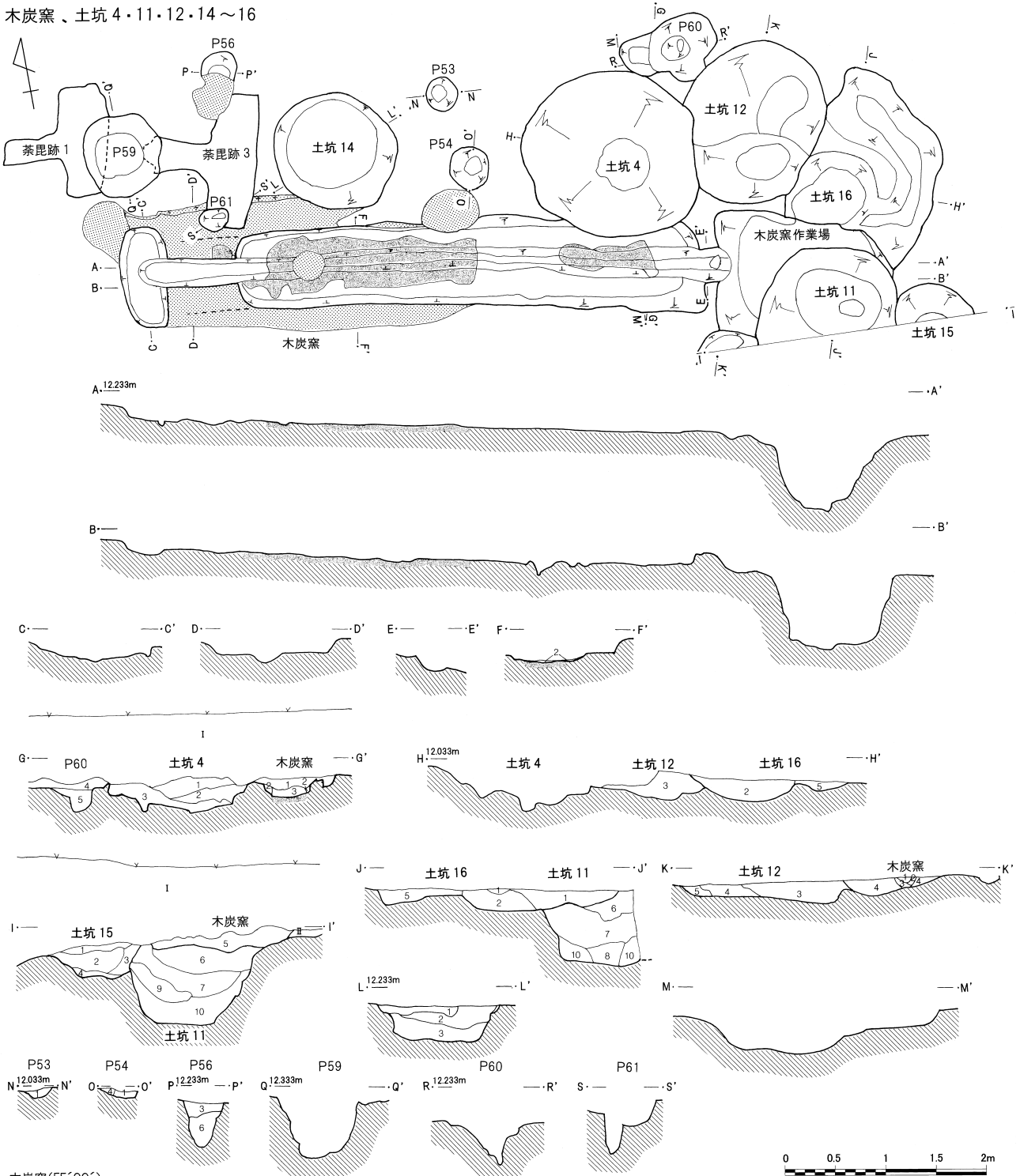


- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状ローム、2mm 以下ローム粒やや多く含む、色調明るい。
- 4~6層は茶毘跡 4と茶毘跡 5の間にある間層
- 5.暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、同炭化物少し、1 cm以下シミ状黒褐色土ブロック少し含む
- 6.暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下黄白色土粒多く、3mm 以下ローム粒やや多く、3mm 以下焼土・5mm 以下炭化物少し、5 cm以下シミ状黒褐色土少し含む色調は5層より暗い、茶毘跡 5を覆う包含層か
- 7.暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く、シミ状黒褐色土やや多く、1 cm以下炭化物少し含む、6層より黄白色粒少ない
- 8.暗褐色土 締り強、粘性有、1.5 cm以下炭化物多く、2mm 以下焼土少し、骨片少し含む、2mm 以下ローム粒少し含む
- 9.暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、1 cm以下炭化物少し、2mm 以下黄褐色焼土少し、シミ状黄灰色土少し含む



第170図 浄禪寺跡遺跡第30地点茶毘跡 2・4・5 (1/30)

木炭窯、土坑4・11・12・14～16



木炭窯(FF'GG')

- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒、1cm炭化物・焼土ブロック少し含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む、3層と壁面の間に落ち込むような堆積
- 3.黒褐色土 締り有、粘性やや弱、1cm以下炭化物多量、5~20mm ローム・焼土ブロック少し含む、ローム粒少し含む

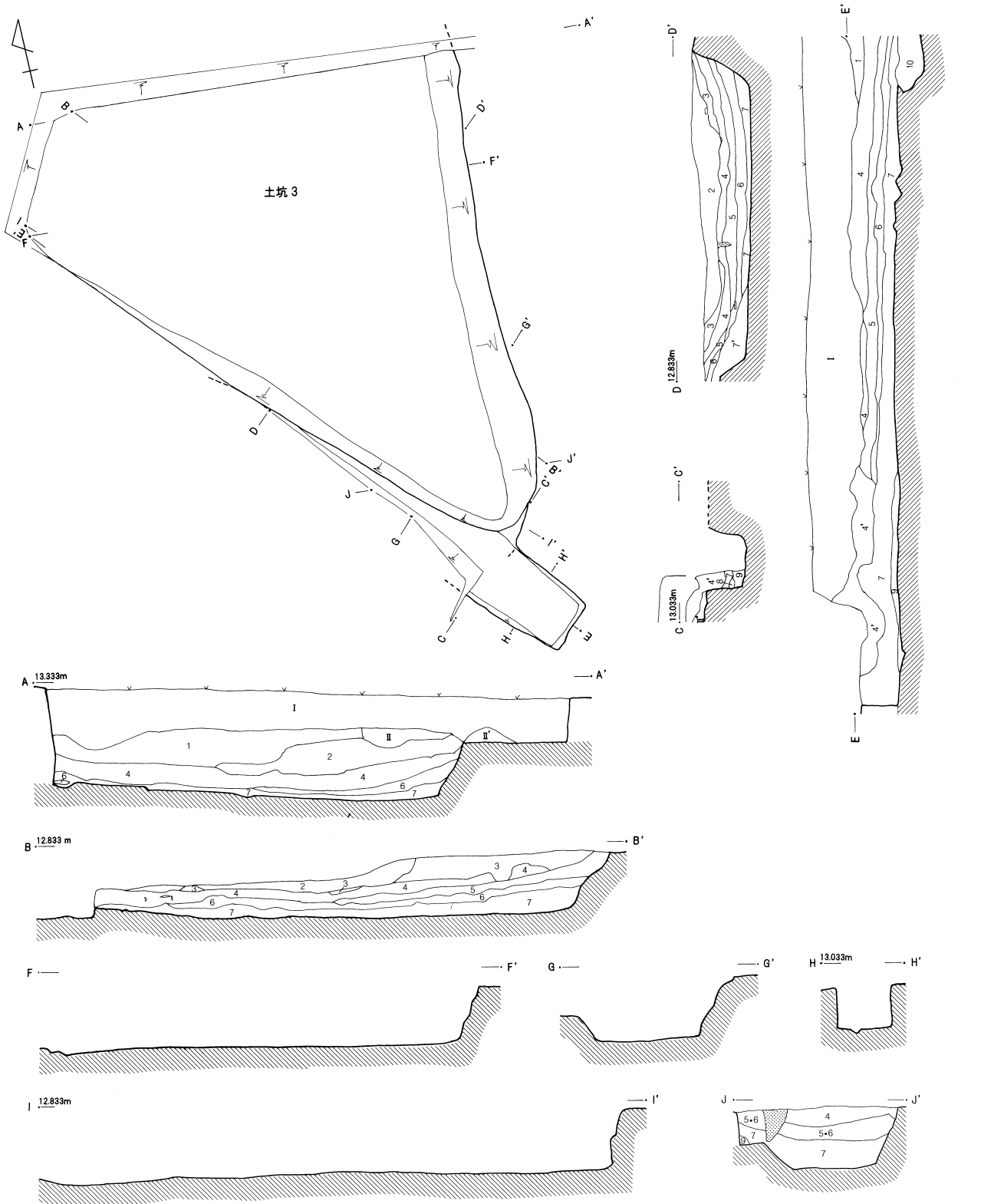
木炭窯(II',KK')

- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、1.5mm以下炭化物材、3mm以下ローム粒・焼土粒やや多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下焼土粒多く、5mm以下炭化物やや多く含む
- 3.暗褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む、土坑12よりローム粒小さめで整う
- 4.暗褐色土 締り有、粘性有、3cmと5~10mmロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 5.暗褐色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く、シミ状黒褐色土やや多く含む
- 土坑4・ピット60(GG')
- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、5~10mmロームブロック少し、黒褐色味強い
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒多く、5~10mmロームブロックやや多く、大型ソフトロームブロック含む
- 3.暗褐色土 締り有、粘性有、2層に似るが1~5cmロームブロック多く含む
- 4.暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む
- 5.黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5~15mmロームブロックやや多く含む

土坑11・12・16(HH'・II'・JJ')

- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、3cmと5~10mmロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 2.暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック多く、シミ状黒色土少し含む、ローム粒やや多く含む1層より色調明るい
- 3.暗褐色土 締り強、粘性有、1cmロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒多く含む
- 4.暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒少し、色調3層より明るい
- 5.暗褐色土 締り強、粘性有、ソフト質ローム主体、5~10mmロームブロック多く含む
- 6.黒褐色土 締り有、粘性有、暗褐色土主体にシミ状黒色土多く、5~30mm ロームブロックやや多く、ローム粒少し含む
- 7.暗褐色土 締り有、粘性有、6cmと5~20mmロームブロックやや多く、ローム粒と3cm以下黒色土ブロック少し含む
- 8.暗褐色土 締り有、粘性強、シミ状黒褐色土やや多く、5~20mmロームブロックやや多く、ローム粒少し含む、2層より暗い
- 9.暗褐色土 締り有、粘性強、4cm以下ロームブロック少し、シミ状黒色土少し、5mm以下ローム粒多く含む明るい
- 10.暗褐色土 締り有、粘性強、1~3層より締り強い、3cm以下暗褐色ロームブロック多く、ローム粒少し、1~2cm黒色土ブロック少し含む

第171図 浄禪寺跡遺跡第30地点木炭窯・土坑①・ピット① (1/60)



土坑 3

I 表土 暗褐色耕作土 ローム粒・炭化物やや多く含む

II 表土 ロームブロック・暗褐色土ブロックやや多く含む

II' 締り強、粘性やや弱、地山ロームに黒褐色土貫入、ブロック状呈す

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土粒少し、1.5 cm 以下炭化物均一にやや多く、1 cm 焼土ブロック僅かに含む

2. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、3 cm 以下炭化物多く、4 cm 以下焼土ブロック多く、2mm 以下ローム粒少し含む、板状鉄製品少量含む、主体はやや硬い粘土質でボソボソする

3. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒多く、1 cm ロームブロック少し、1 cm 以下炭化物僅かに含む

4. 暗褐色土 締り強、粘性有、粘土質で硬い、1 cm ロームブロック僅かに、3mm 以下ローム粒と 2 cm 以下炭化物少し、焼土粒僅かに含む

4' 4 層に似るが、黒褐色味強く、締り弱い、6 cm 以下ロームブロック少し含む

5. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む硬い

6. 黒褐色土 締り強、粘性有、粘土質で硬い、最大 8 cm、1.5 cm 以下ロームブロック、3mm 以下ローム粒少し、2mm 以下炭化物僅かに含む

7. 暗黄褐色土 締り硬化、粘性有、表面は硬化する、最大 9 cm、1 cm 以下ロームブロック・粒多く含む、主体は黒褐色土、北東部の薄い堆積では 1 cm 以下焼土ブロック多く、踏み固められたように硬化、最下部は酸化により赤化

7' 暗黄褐色土 ローム粒主体層

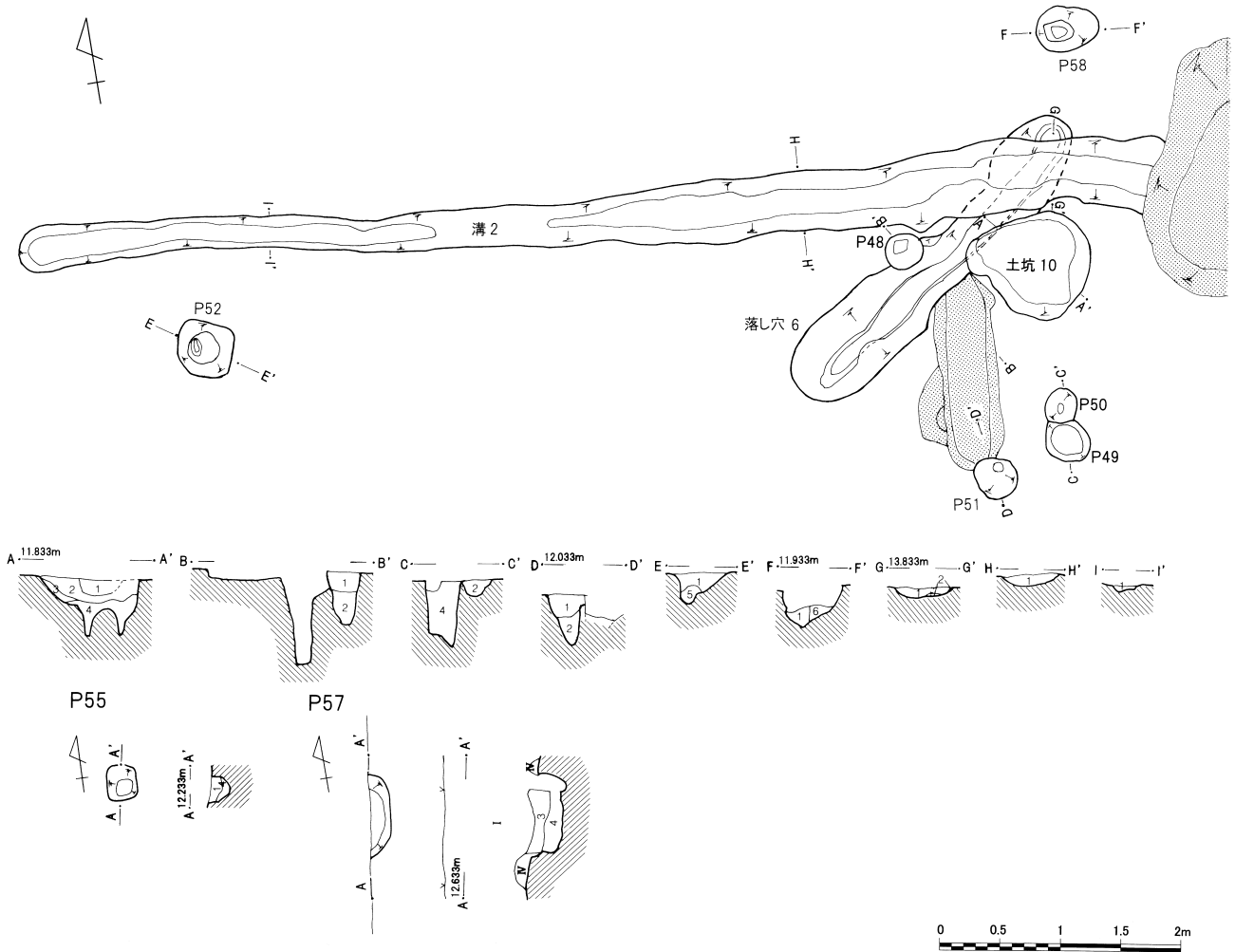
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く含む

9. 黒褐色土 締り強、粘性有、硬く締まる、5~1.5 cm ロームブロック・粒やや多く含む、最下部に黒褐色土薄く堆積

10. 黒褐色土主体 締り良、粘性やや弱、最大 12cm、ロームブロック主体、古い植物痕か、土坑 3 の覆土では無い



第172図 浄禅寺跡遺跡第30地点土坑② (1/60)



土坑 10

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、硬化(酸化)する、黒色味、2mm 以下ローム粒やや多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、5mm 以下黒色土粒少し含む
- 3.暗褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含み色調明るい

土坑 14

- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、1.5 cm 以下ロームブロックやや多く、2mm 以下ローム粒やや多く含む、灰色味
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、1~3 cmロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む、3層より明るい
- 3.黒褐色土 締り強、粘性有、1~7 cmロームブロックやや多く、5mm 以下ローム粒やや多く含む

土坑 15

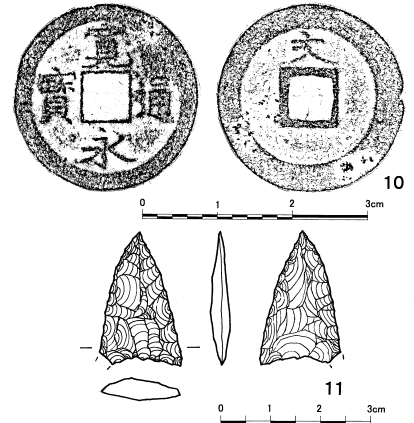
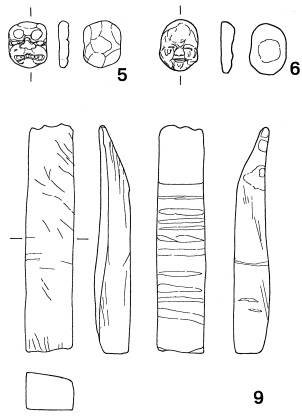
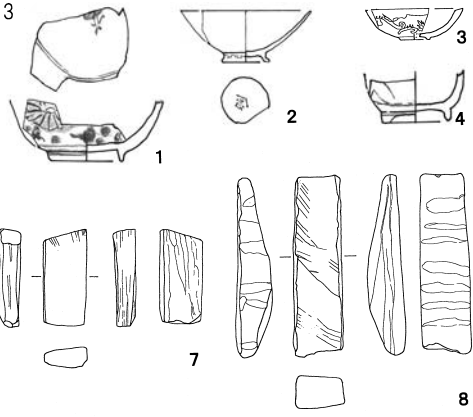
- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、シミ状黒褐色土やや多く、1 cm 以下ローム粒・ブロックやや多く含む
- 3.暗褐色土 締り良く強、粘性有、5~10mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む
- 4.暗褐色土 締り良く強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含み 3層より明るい

溝 2

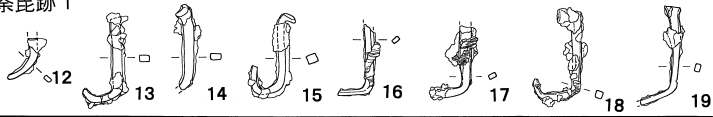
- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下のローム粒をやや多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有
ピット 48~50・52~58・60・61
- 1.暗褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む
- 2.暗褐色土 締り有、粘性有、1層より暗め、1 cm 以下ロームブロック・粒少し含む
- 3.暗褐色土 締り有、粘性有、1~3 cm 以下ロームブロック・5 mm 以下ローム粒やや多く含む
- 4.黒褐色土 締り強、粘性有、5~15mm ロームブロックやや多く、5mm 以下ローム粒少し含む
- 5.暗褐色土 締り有、粘性有、1 cm 以下ロームブロック・粒主体
- 6.暗褐色土 締り強、粘性弱、8 cm 以下ロームブロック多く含む
ピット 51
- 1.暗褐色土 締り強、粘性有、1.5 cm 以下シミ状ロームブロックやや多く、2mm 以下炭化物僅かに含む
- 2.黒褐色土 締り強、粘性有、4 cm 以下ロームブロックやや多く含む、ローム粒少ない

第173図 浄禅寺跡遺跡第30地点土坑③・ピット②・溝 (1/60)

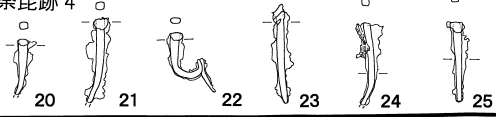
土坑 3



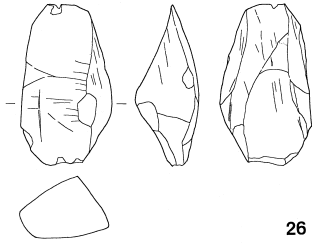
茶毘跡 1



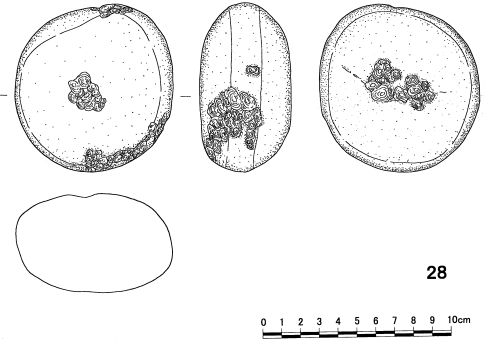
茶毘跡 4



P21



遺構外



第174図 浄禅寺跡遺跡第30地点出土遺物 (1/4・2/3・1/1)

第Ⅲ部 ま と め

第1章 2007年度の調査について

2007(平成19)年度の埋蔵文化財調査は、32件の試掘調査のうち3件が個人住宅建設に伴う本調査、2件が公共工事(消防分団車庫・道路築造)に伴う本調査、8件が民間開発に伴う本調査に移行した。その他、19件の工事立会を行なった。工事立会を除いた開発面積69,902㎡のうち3,497㎡を本調査したことになる。

開発の内容は、共同住宅や分譲住宅など相続に伴う開発が近年は増えている。また、再開発も個人住宅の建替をはじめ、様々な開発に及んでいる。

以下、本年度に行なった調査のうち、時代別に主な遺構と遺物について概観する。

【旧石器時代】今年度は鶴ヶ岡外遺跡第5地点で旧石器時代の遺構を検出した。鶴ヶ岡外遺跡は川越江川右岸の台地縁辺に位置し、江川からは約15mの距離にあり現谷底とは3～4mの比高差がある。これまでに第1・2・5地点で旧石器時代の石器集中や礫群を確認しており、川越江川の右岸沿いに点在する旧石器時代遺跡の在り方が良くわかる。今年度本調査を行なった第5地点は第2地点の南側に隣接し、石器集中間の距離は30～40mしか離れていない。出土層位も立川ロームⅣ～Ⅴ層ではほぼ同じとみられる。今後、両地点を含めた整理作業を行ない、遺物の接合関係なども併せて確認、検討して行く必要がある。

松山遺跡第43地点の調査で、旧上福岡地域の遺跡で初めて発掘調査によって旧石器時代の石器が出土した。出土地点は福岡江川と新河岸川から離れた場所にありナイフ形石器1点のみの出土である。また出土状況も風倒木とみられるローム土から出土しており、旧石器時代の遺構は確認されていない。しかし隣接する三芳町などでは、雨季や大雨などの時に現れる野水などの湧水周辺に旧石器時代の遺跡が確認されており、松山遺跡でも同様の遺構が発見される可能性は高い。

【縄文時代】早期とみられる遺構に川崎遺跡第22地点の炉穴がある。4基のまとまった炉穴を検出したが出土遺物が無いため時期の特定は出来ない。しかし、隣接する地下式坑の覆土層から胎土に繊維を含む貝殻条痕文土器が出土しており早期末の炉穴の可能性が考えられる。早期から前期と思われる遺構には浄禅寺跡遺跡第30地点の落とし穴がある。トレンチと本調査区の

一部で6基検出した。出土遺物が無いため時期の特定は難しいが、南側の道路を隔てた第14・15地点では縄文時代早期の炉穴7基と落とし穴1基などを検出しており、本地点遺構群に関連するものと思われる。

前期では上福岡貝塚第1地点で黒浜期の貝層に伴う住居跡2軒を検出した。1937年の調査以来70年ぶりに確認された遺構と遺物は同貝塚が今なお健在であり、一級の資料を有する遺跡であることが確認された。次章で上福岡貝塚の調査について取り上げる。

中期では3遺跡で住居跡を検出した。西遺跡で勝坂Ⅱ式期1軒、勝坂から加曽利Ⅴ式期1軒、加曽利Ⅴ式期1軒の住居跡と集石土坑6基、土坑12基などを検出した。加曽利Ⅴ式期の住居跡は本遺跡で初の検出である。西遺跡は中期中葉の勝坂式期から後半の加曽利Ⅴ式期を中心とする集落と考えられてきた。今回の調査と第1次調査以降の成果をみると、勝坂Ⅱ式期から加曽利Ⅴ式期古相段階に最も集落としてのピークを迎える。出土土器や石器は、同時期の遺物としては大型のものや作りが精巧なものが多く、他地域からの直接的な搬入とともに拠点集落であったことが考えられる。また、住居跡覆土層や遺構外出土土器には中期初頭の五領ヶ台式や前葉の阿玉台式土器も含まれ、僅かに後期初頭の称名寺式土器もみられることから、集落の存続期間は小規模ながらも長期間続いていたものと考えられる。(第49表参照)

浄禅寺跡遺跡第32地点でも2基の埋甕を有する住居跡1軒を検出した。隣接する第27地点では加曽利Ⅴ式期の屋外埋甕や土坑墓などの遺構を検出しており、狭小地の土地利用の活発さが窺える。

東台遺跡第49地点では、中期から後期の住居跡6軒の存在を確認し、うち1軒を検出した。5軒の住居跡については保存措置とした。173号住居跡の覆土層中からは堀之内1式の屋外埋甕1基が出土、また遺構外からではあるが本遺跡で初めて土偶が出土した。東台遺跡は180軒を越す住居跡と多数の遺構と遺物の他に石棒等も出土している。今回の土偶の出土により集落内で土偶祭祀などが行なわれていたことが考えられるが、大規模集落であるとともに拠点集落であったことの裏付けといえる。

亀居遺跡第62地点では、狹沢式期の土器を伴う土坑墓とみられる遺構を含む11基の土坑を新たに検出した。集落構造における、居住地域範囲と墓域の空間利用を検討する貴重な発見である。福岡新田遺跡第1地点では遺構外からではあるが、縄文時代中期前半の土器片がまとまって出土した。今後は本遺跡でも住居跡の遺構などが発見される可能性が出てきた。

【古代】滝遺跡第14地点で、奈良・平安時代の住居跡を7軒調査した。第14号住居跡からは8世紀前半の続比企型坏が10数点出土した。口縁部外面と内面に赤彩を施す。口径は12.5～13cm、約14cm、約15cmの3タイプがある。口唇部沈線の有無は大きさには関係なくほぼ半々にみられる。また、第13号住居跡からは8世紀前半から中葉の相模型坏(註1)も出土している。本地点から約90m北東に位置する第2次4・5号住居跡からは、8世紀後半の相模型坏や甕がまとまって出土している。他の住居跡もほぼ8世紀前半から中頃のものと思われる。第15号住居跡と第17号住居跡出土の須恵器甕と坏は転用硯として再利用されている。(註6)

川崎遺跡第22地点では中世の地下式坑の覆土層から9世紀の須恵器・瓦・瓦塔などの破片が出土した。瓦塔は1975年3月30日から5月10日に行なった川崎遺跡新井氏宅の調査で、9世紀中葉とみられる屋蓋部の一部が出土している。本調査地点とは直線で30～40mの距離にあるが同一個体の可能性がある。今回の調査でも布目瓦(丸瓦と平瓦)の破片が出土しており、瓦塔を安置した瓦葺きの建物の存在が考えられよう。第91表と第175図に川崎遺跡から出土した瓦を参考資料として報告する。(註7)

【中世】上福岡貝塚第1地点、松山遺跡第43地点で断面が逆台形状の堀跡を検出した。亀久保堀跡遺跡や神明後遺跡、松山遺跡などで確認される堀跡に類似する。古代から中・近世期の遺構とすれば上福岡貝塚では初めての確認である。長宮遺跡第28地点の井戸3で13～14世紀の在り系播鉢や、第29地点堀跡の底から石臼が出土した。両遺構とも近世の遺物を含まれないことから、中世に遡るものと考えられる。駒林遺跡第4地点の土坑も覆土層の状態から近世以前に遡るものと考えられる。

浄禅寺跡遺跡第29地点では掘立柱建物跡3棟をはじめ地下式坑や井戸・堀跡など多数の遺構を確認した。土坑52出土のかわけや井戸2・15から出土する陶器や板碑片など、13～14世紀に遡るものがみられる。掘

立柱建物跡は3棟が重複し、また土坑群も重なることから4期以上の長期に渡って土地利用がされていたことが分かる。さらに井戸群も本村遺跡同様に水脈に沿った配置をする。旧苗間村の村落は富士見さいかい川沿いの右岸に連なっており、現在でもその屋敷地の面影をみる事が出来る。しかし今回の調査でこれまでとは異なる砂川左岸沿いで中世期に遡る集落跡(屋敷地跡)が確認された。近世以降は人家もほとんどみられず畑地として利用され、1960年代以降は宅地開発が進んだ地域である。旧苗間地区には「神明前」「神明後」「お寺山」「根田」などの地名があるが、今回の調査区周辺は「天王」と呼ばれていたと伝えられる。こうした点からも、周辺の遺構の広がりには注意するとともに、旧苗間村集落の範囲についての再検討が課題である。

浄禅寺跡遺跡第30地点の調査で木炭窯1基と茶毘跡5基、土坑15基などを検出した。木炭窯出土と茶毘跡1・2出土炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、木炭窯出土資料で 530 ± 25 年BP(1 σ の暦年代でAD1410～1440年)、茶毘跡1出土資料で 680 ± 70 年BP(同AD1270～1320年、AD1350～1390年)、茶毘跡2出土資料で 790 ± 60 年BP(同AD1210～1280年)の年代が示された。(附編 浄禅寺跡遺跡第30地点調査の放射性炭素年代測定結果参照)。浄禅寺の寺域内で火葬による葬送行為が行なわれていたことは、浄禅寺の前身が中世に遡る可能性が高いものと考えられる。14世紀中葉の板碑が浄禅寺の寺域縁辺から数点出土している事も今回の調査成果と符号する。浄禅寺跡遺跡第29・30地点の調査は浄禅寺と苗間村の地域史を解明する上で特に注目される。

【近世・近代】福岡新田遺跡第1地点で近世以降の安楽寺に伴う遺構と遺物が確認されたが、安楽寺の縁起(伝承では創建は1463(寛正4)年創建)に係わる時期のものは確認されなかった。北側トレンチ1で1cm以下のしみ状焼土が多く出土し、溝1の覆土層と礎石の版築層に3cm以下の焼土と炭化物が互層でみられたが、1831(天保2)年火災の痕跡と考えられる。

大井宿遺跡第15地点の調査では、トレンチによる試掘調査であったため全容は不明であるが、土坑1～3で17世紀から18世紀の陶磁器が、また溝からは19世紀の遺物が出土した。今回検出した溝は南側に隣接する第11地点調査区(第11地点では「大溝1」)から延びるもので、本調査区からさらに東側に延び、本村遺跡に入る。大井・苗間地区の区画整理事業以前に存在した

用水路と繋がっていた可能性も考えられる。第11地点でも溝覆土の上層から19世紀前葉から中葉の陶磁器が出土しているが、溝が掘られた時期などは不明である。

近現代では、上福岡貝塚第1地点の調査で旧陸軍造兵廠福岡工場（川越製造所）「通称火工廠」に伴う遺構と遺物が確認された。火工廠については上福岡市教育委員会発行の市史調査報告書第15集(1998)や、上福岡市立歴史民俗資料館資料館調査報告1（平和関係事業）、旧陸軍の施設(1992)・第22回特別展東京第一陸軍造兵廠の奇跡(2007)などの図録に詳しく報告されている。今回発見された遺構ではコンクリート製の水溜と配水管につながった消火栓がほぼ完全な姿で見つかった。水溜はこれまでも他の場所で確認されているが、周辺にコンクリート製の柵を埋設した跡などを初めて検出した。水溜は第1期工事で作られたもので、第2・3期工事で作られたものと比較して鉄筋の量が多い。施工も木枠を組んでコンクリートを流し込み構築しているが、後期のものは土を掘り直接コンクリートを流し込むなど物資欠乏と作りの粗雑さが目立つ。

消火栓は一部を欠くが本体は完形品である。製造元は(株)建設工業と判明したが納入時期については確認出来なかった。消火栓本体と配水管を結ぶ乙型継手管部分の刻印は、1937（昭和12）年12月31日に竣工した水槽塔の送水管と配水管に刻印されていたものと同じである。水槽塔は2004（平成16）年6月に解体撤去された。大正期から昭和初期の建造物や施設、消防関係の博物館などを幾つか管見したが、同時期の消火栓が以外に残されていないことが判明した。制作年代、製作企業が分かる資料として貴重な資料である。消火栓本体にある「特許自動不凍消火栓」の特許については(株)建設工業社に保管されていた2点（a、b）の実用新案出願公告の史料がある。

a. 昭和八年実用新案出願公告第二一九六号（願書番号昭和七年第一六八五号、出願昭和七年一月二十六日、

公告昭和八年二月十五日、出願人考案者 小宮山倭亮、代理人弁理士 津村 収）。

b. 昭和八年実用新案出願公告第一〇二四号（願書番号昭和七年第二七六八三号、出願昭和七年十月二十八日、公告昭和八年七月十四日、出願人考案者 小宮山倭亮、代理人弁理士 津村 収）。本消火栓の構造を外観から観察した限りでは、史料bに添付されている図面と類似するため、刻印の「特許」は放水口の開閉の弁と排水口の弁に関するものと考えられる。製造年代は1933（昭和8）年から1937（昭和12）年の間と推測される。また、同社の大正～昭和初期における屋外自動不凍消火栓の納入先リストに火工廠の名は記載されていなかったが、軍の機密に関係する部分が多いためではないかと推測される。（註8）

註(1) 土肥孝、宮崎朝雄、金子直行、細田勝、黒坂禎二、西井幸雄、山口真由美『上福岡貝塚資料－山内清男考古資料3－』奈良国立文化財研究所史料第33冊 奈良国立文化財研究所 1992年

註(2) 笹森健一「教育委員会に保存されていた資料について」で報告された「地形測量（住居址配置）図」。『考古文献資料(1) 上福岡貝塚』市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会 1994年

註(3) 関野 克博士「埼玉県福岡村縄紋前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号他 1938年

註(4) 酒詰伸男『日本貝塚地名表』日本科学社 1959年

註(5)(6) 加藤恭朗氏、根本靖氏、坂野千登勢氏をはじめ「古代の入間を考える会」の皆様にご教示を賜りました。

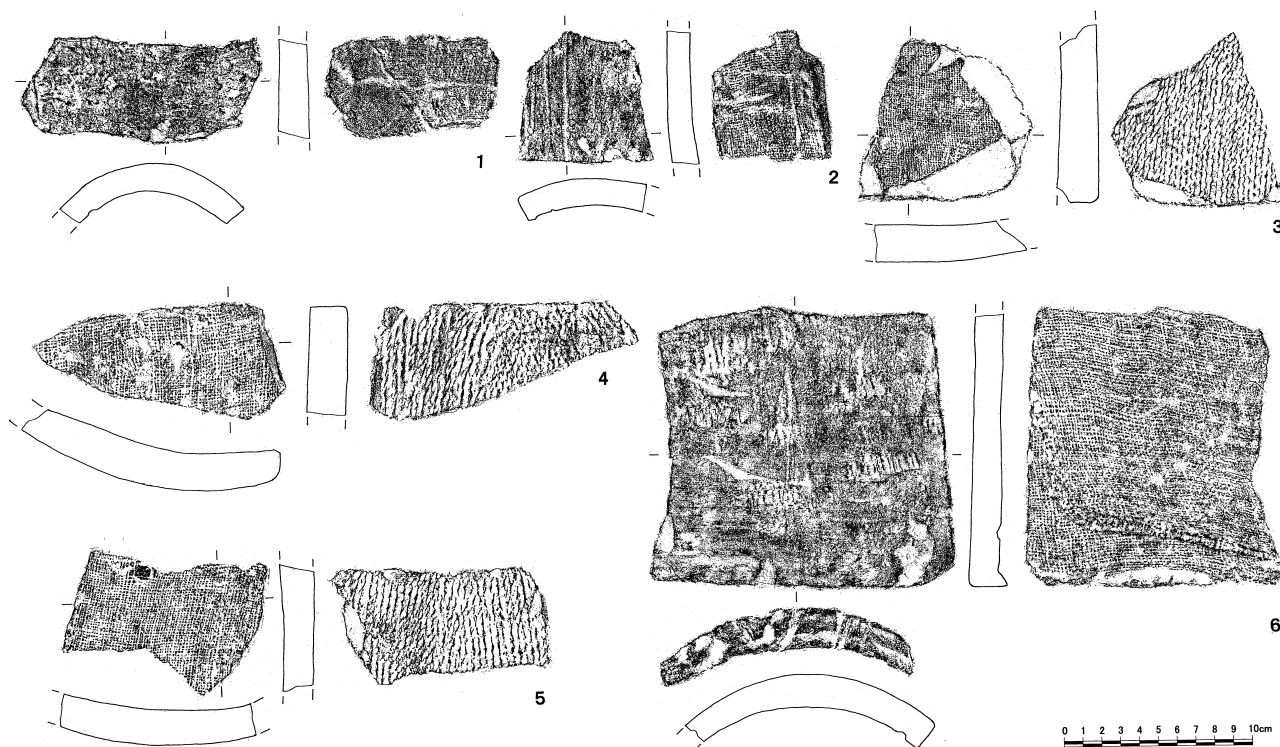
註(7) 川崎遺跡出土の瓦について宮昌之氏、石川安司氏より御教示を賜りました。

註(8) (株)取締役会長 小宮山亮次氏、取締役総括総務部長 富家克彦氏から消火栓に関する情報の提供と、昭和6年発行『建設工業社長小宮山倭亮述 工場火災の防御に就て』などの貴重な史料提供と共に多数の御教示を賜りました。記して感謝申し上げます。

第91表 川崎遺跡1・2次調査出土瓦観察表

(単位cm)

| No. | 出土遺構名 | 種別・器種 | （括弧付き残存値） | | | 技法/文様/その他/注記No. | 推定産地 | 推定年代 | 残存・備考 |
|-----|--------------|-------|-----------|--------|-------------|---|------|------|-------|
| | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | | |
| 1 | 1次調査 | 瓦/丸瓦 | (5.8) | (9.8) | 1.5 | 暗灰・灰色/粘土紐桶巻作り/須恵質/凸面撫で・自然袖付着、側面撫で、凹面布目・縄圧痕有り/K1-T1-6 | - | 9世紀 | 破片 |
| 2 | 2次調査 | 瓦/丸瓦 | (7.2) | (6.7) | 1.5 | 灰白～灰色/桶巻作り/須恵質/凸面撫で、凹面布目/K2-87023 | - | 9世紀 | 広端部片 |
| 3 | 1次調査 | 瓦/平瓦 | (9.3) | (9.4) | 2.1 | にぶい黄褐色/一枚作り/須恵質/凸面・広端面撫で、凹面布目、凸面縄目/K1. 2804 | 南比企? | 9世紀 | 広端部片 |
| 4 | 1次調査 | 瓦/平瓦 | (6.2) | (13.8) | 1.98 | 灰白～灰色/一枚作り/須恵質/側面・凸面・狭端面撫で、凹面布目、凸面縄目/K1. TSA | 南比企? | 9世紀 | 狭端部片 |
| 5 | 2次調査 | 瓦/平瓦 | (8.1) | (10.4) | 1.8 | 灰白～灰色/一枚作り/須恵質/凹面布目、凸面縄目/K2-9101 | 南比企? | 9世紀 | 破片 |
| 6 | 1次調査 土坑5? | 瓦/丸瓦 | (14.6) | (15.0) | 1.3～ 2.2 | 灰白/桶巻作り/須恵質/側面・凸面・広端面撫で、凹面布目で縄圧痕有り、凸面撫でに縄目が残る、胎土砂多い/K?土坑? | - | 9世紀 | 狭端部欠 |



第175図 川崎遺跡第1・2次調査出土瓦 (1/4)

引用・参考文献

新井和之 1982『黒浜式土器』『縄文文化の研究3』雄山閣
 小林達雄・小川忠博 1989『縄文土器大観』1~4小学館
 戸沢充則 1994『縄文時代研究事典』東京堂出版
 埼玉県歴史資料館 1994『資料館ガイドブック11 埼玉の瓦塔』
 大川清・鈴木公雄・工業普通 1996『日本土器事典』雄山閣
 富士見市立水子貝塚資料館 2002『縄文海進と貝塚～富士見市と周辺の貝塚』
 山形県長井市古代の丘資料館 2003『右撚り・左撚り ―縄文の土器文様と紐の撚り―』山形県長井市教育委員会
 土曜考古学研究会 1979~2007『土曜考古』創刊号1979、第4号1981、第5号1982、第7号1983、第10号1985、第13号1989、第20号1996、第23号1999、第27号2003、第31号2007
 埼玉考古学会 2006『埼玉の考古学Ⅱ』六一書房
 埼玉考古学会 1990~1992『埼玉考古』第27号1990、第28号1991、第29号1992
 鈴木敏昭 1990『埼玉考古別冊3 シンポジウム 大木、有尾、そして黒浜―縄文前期中葉土器群にみる系統と交流の実態―』埼玉考古学会
 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998~2008『研究紀要』第4号1988、第6号1989、第7号1990、第9号1992、第10号1993、第14号1998、第18号2003、第23号2008
 埼玉県文化財担当者会 1999『埼玉の縄文前期-埼玉地区縄文時代前期調査報告書-』
(報告書)
 折原繁 他 1974『埼玉県富士見市所在ハケ上遺跡・打越遺跡・北通遺跡 付 ハケ上遺跡B地点発掘調査報告書』文化財報告第7冊富士見市教育委員会
 会田明・荒井幹夫 他 1980『宮廻遺跡』富士見市遺跡調査報告第10集富士見市遺跡調査会
 高橋教・会田明 1982『打越遺跡X』富士見市文化財報告第25集 富士見市教育委員会
 会田明・荒井幹夫 1985『富士見市遺跡群Ⅲ』富士見市文化財報告第34集 富士見市教育委員会
 富士見市教育委員会市史編さん室 1986『富士見市史 資料編2 考古』
 小野正文 他 1986『釈迦堂Ⅰ 山梨県中央自動車道埋蔵文化財包蔵発掘調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第17集 山梨県教育委員会・日本道路公団
 劔持和夫・金子直行 1986『中矢下・夕日ノ沢・上前原沢・芝口ラネ・後山北谷・滝尾塚』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第57集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
 田中和之・小宮雪晴 他 1991『黒浜貝群 天神前遺跡』埼玉県蓮田市文化財調査報告書第17集 蓮田市教育委員会
 今泉泰之・伊藤彰敏・石原道知 1993『埼玉県児玉郡三里町東山遺跡出土 瓦塔・瓦堂解体修復報告書』埼玉県教育委員会
 富士見市教育委員会 1994『史跡水子貝塚一環境整備事業報告―』
 早坂廣人・荒井幹夫 1995『水子貝塚 史跡整備に伴う発掘調査報告書』富士見市教育委員会
 荏原淳・長谷川清一 2001『宮前遺跡―第1次・第2次調査の記録―』庄和町文化財調査報告第6集 埼玉県庄和町教育委員会
 長谷川清一・森山高 2005『浅間下遺跡第3次 香取廻遺跡第2・5次 愛宕遺跡第2次 原遺跡第2次 馬場遺跡―範囲確認調査―』庄和町文化財調査報告第14集 埼玉県庄和町教育委員会
 植松剛・井上純子 2005『向台遺跡―第1次～第3次調査―』杉戸町文化財調査報告書第13集 埼玉県杉戸町教育委員会
 田中和之・小宮雪晴 2005『～黒浜貝群～宿浦遺跡・宿下遺跡・宿上遺跡・天神前遺跡』蓮田市文化財調査報告書第40集 蓮田市教育委員会
 戸沢充則・千葉敏朗・石川正行・小川直裕・秋本雅彦 2006『下宅部遺跡Ⅰ(1)(2)』東京都都市整備局西部住宅建設事務所・東村山市遺跡調査会・下宅部遺跡調査団
 戸沢充則・千葉敏朗・黒瀧王恵 2006『下宅部遺跡Ⅱ』東京都都市整備局西部住宅建設事務所・東村山市遺跡調査会・下宅部遺跡調査団
 小宮雪晴・田中和之 2008『関山貝塚―第4調査地点― 根金大山遺跡―第2調査地点― 荒川附遺跡―第21調査地点―』埼玉県蓮田市文化財調査報告書第45集 埼玉県蓮田市教育委員会
 ※ ふじみ野市教育委員会、上福岡市教育委員会、大井町教育委員会、上福岡市遺跡調査会(上福岡ハケ遺跡調査会等含む)、大井(町)遺跡調査会、上福岡(市立)歴史民俗資料館、大井(町立)郷土資料館、上福岡市史・大井町史関係の報告書や図録などを含む刊行物は紙面の都合上割愛した。上福岡貝塚の調査に関する文献は、本書第58表上福岡貝塚調査一覧表および第Ⅱ部第2章Ⅰ(2)を参照。

第2章 上福岡貝塚第1地点の調査成果について

I 上福岡貝塚縄文時代前期住居跡の配置について

(1) はじめに

上福岡貝塚では1937(昭和12)年に山内清男、関野克両博士が中心に縄文時代の住居跡24軒(A~X地点 竪穴住居址)を確認し、このうち前期の住居跡8軒(C・D・F・G・I・J・K・M)の発掘調査を行なった。8軒の概要等については第109図と第93表のとおりである。残る16軒については、住居跡の存在を確認しただけで検出は行っていない。その後、今回の第1地点の調査まで縄文時代の住居跡は確認されていない。

今回、第1地点の調査で検出した2軒の住居跡は、過去に検出した痕跡が見られないことから、先の8軒の住居跡と明らかに異なる。残る未検出16軒の住居跡との関係について、上福岡貝塚の集落や貝塚の配置などを考える上で検証してみたい。

(2) 1937(昭和12)年青焼図「地形測量(住居址配置)図」と第1地点1・2号住居跡

山内・関野博士が確認または検出した住居跡の配置について、これまでに以下の4種類の配置図面が確認されている。

- a. 山内清男博士の1965(昭和40)年『郷土史料』第2集と1967(昭和42)年『山内清男・先史考古学論文集』第2冊に掲載された「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」にある、「埼玉県入間郡福岡村大字上福岡 昭和十二年一~七月」と記載された図(以下「山内図」と呼ぶ)。
 - b. 関野 克博士の1938(昭和13)年『人類学雑誌』第53巻第8号、1965(昭和40)年『郷土史料』第2集に掲載された「埼玉県福岡村縄紋前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」に記載された図「第1図上福岡遺跡図」(以下「関野図」と呼ぶ)。
 - c. 福岡村郷土史刊行会の1957(昭和32)年『福岡村市』に掲載された「旧火工廠内竪穴住居跡及貝塚発掘地点(○印)図」(以下「福岡村史図」と呼ぶ)。
 - d. 笹森健一の「教育委員会に保存されていた資料について」1994(平成6)年市史調査報告書第5集『考古文献資料(1)上福岡貝塚』上福岡市教育委員会刊行で報告された青焼図「地形測量(住居址配置)図」(以下「白石青焼図」と呼ぶ)。
- a~d各図の出自や概要については笹森健一「教育

委員会に保存されていた資料について」註(2)が詳細に述べているのでそちらを参照されたいが、それぞれの図の特性を再認識した上で、あらためて住居跡の配置をみてみたい。

笹森の検証でも、山内図および関野図は白石青焼図からの派生図であり、福岡村史図は関野図からの派生図であることが分かる。従って全ての基となったのが白石青焼図であり、1937年調査の遺構配置を考える際に、白石青焼図に山内図を重ねたものが、現段階では最も正確に遺構配置を記録したものと考える。また、1992(平成4)年に奈良文化財研究所が刊行した『上福岡貝塚資料』山内清男考古資料3に掲載されている図「上福岡貝塚周辺の発掘調査成果」は、山内図に刊行時の現況図を重ねたもので、山内図の派生図と考え今回の参考資料からは除外した。

白石青焼図は地形図に火工廠の区画配置などを重ねて作成しているため、図中に記されたA~Q地点住居址の配置が最も正確であると考えられる。白石青焼図と山内図を同一縮尺にして重ね合わせてみると、僅かなずれがみられ、山内図は白石青焼図を完全にコピーしたものではないと考えられる。山内図がどの時点で白石青焼図を写したのか不明であり、R~X地点住居址、a~ε地点住居址の他に東側2基の古墳がどのような基準で追加記載されたのか現時点では確認出来ない。しかし昭和12年という時代と調査の背景などを考え併せるならば、両図の記録資料としての信頼性と価値は高く、同時期の他の発掘調査における記録図などと比べても、両図の精度は群を抜いていることは周知のとおりである。

白石青焼図・山内図と第1地点の住居配置を現在の都市計画図に重ね合わせたものが、第108図上福岡貝塚遺構配置図である。1・2号住居跡はGとW地点住居址の間に位置する。G地点住居址は発掘調査が行なわれ遺構写真や図面記録も有り遺物も出土しているため今回検出したものと明確に異なる。W地点住居址は未検出住居址16軒のうちの1軒で、図面上では1・2号住居跡と5mほどの範囲内にある。白石青焼図に山内図からS・T・U・V・W・X地点住居址を加えた図が第176図である。註(9)

【W地点住居址=1号住居跡の可能性】1号住居跡は覆土上層の遺構確認面付近に土器片が多数出土するが

貝層は全くみられない。貝層が確認されるのは覆土中層から床面付近にかけてである。ただし、火工廠の水溜や消火栓・排水管に掘削され、当時も住居跡と認識されていた可能性があり、工事が着工されている状況で発掘調査の対象から外されたものとも考えられる。上福岡市史編集専門員であった川名広文氏が、調査に参加された慶応義塾大学名誉教授(聞き取り調査時)の江坂輝彌氏への聞き取り調査でも「関山式ないし黒浜式の貝層のない堅穴も何軒かあった」と述べられている。註(10)

【W地点住居址 = 2号住居跡の可能性】 2号住居跡は遺構確認面から貝層が確認され、さらに火工廠工事以前の耕作でも貝層が多数掘り起こされている事が今回の調査で明らかとなり、当時から住居跡として認識されていた可能性は高い。

以上のように1937年の調査で確認されたW地点住居址と今回調査した住居跡の関係については、周辺部のより広範囲な調査を見なければその特定は難しい。

(3) 1937(昭和12)年発掘調査の状況

1937年の発掘調査について、調査に至る経過や調査の経過・成果は両博士の報告や論考と、上福岡市史編纂事業にともなう各調査でも詳細が明らかになりつつあるが、白石護郎氏が作成した住居址配置図から新たな様子が読み取れる。

1937年の調査で、なぜ8軒(C・D・F・G・I・J・K・M)の住居跡が検出されたのか、山内博士が1937(昭和12)年4月3日に当遺跡を訪れた時点で、A～GないしH地点までの住居跡が確認されていたことが白石青焼図から読み取れる。A～Q地点住居址名の下に記された記号(1、20・1、24～6、17など)と「福岡構内貝塚出土品 昭和一二年一月二十五日」の遺物写真に縄文土器・石器・貝殻が撮影されその下にC～E・Gの記号がある。1937年1～2月の時点でG地点住居址まで確認されていたことが分かる。

検出された8軒の住居跡を白石青焼図でみると、全ての住居跡は火工廠の防爆土塁の外側に位置し、S～U地点住居址の3軒も建物の構造をみると基礎部分から外れていた可能性が考えられる。即ち火工廠は同年12月25日の開場式に向け工事を急いでおり、建物建設に並行して発掘調査が行なえるのは、建物間の狭間や道路部分に限られていたものと推察される。今回第1地点調査区の土層断面に防爆土塁の築造痕跡が確認され、それをみると防爆土塁の築造部分は土を削らずに

土盛されている。つまりその下部に存在する遺跡については当時も確認されず、未発見の遺構が存在する可能性が考えられる。川名広文氏が指摘註(10)したとおりに今回新たな遺構と遺物が発掘された。第1地点発掘調査時に周辺状況を観察した限りでも、建物の隙間や道路の他に火工廠時代の木造建物も残っており、これらは基礎もそれほど深くないものとみられ、遺構と遺物が存在する可能性がある。以上の点から、上福岡貝塚は遺跡として健在であり、今後も開発行為などに十分な対応をとると共に、新たな調査成果に期待したい。

II 上福岡貝塚第1地点出土土器について

上福岡貝塚第1地点出土の縄文時代前期の土器について概観してみたい。

今回の土器分類は、隣接するG・W地点出土土器との比較・検討も考慮し、奈良文化財研究所史料 第33、『上福岡貝塚資料 山内清男考古資料3』の分類基準を用いた。山内資料の黒浜式土器などの分類基準は、複数地点住居跡の土器に対し設けられたものであるため、若干の変更を以下のとおり行なった。

第1類第1種を有尾式とし、第2種に渦巻文を有するものを加え、第5種の格子目文をa～cに細分。

第4類貝殻文土器群を第1種貝殻背圧痕文と第2種貝殻腹縁文に分け、さらに第1種をa・b・cに細分。

第8類には甲信系土器を新たに追加。

(1) 1号住居跡出土土器について

出土土器は総数2,271点で、復元可能な個体数は10点(第115～116図)である。数量的には第2類土器が最も多く次に第1類、第4類、第8類土器と続く。第2類土器群の破片には第1類土器群の胴部片なども含まれるため単純な比較は出来ないが、復元個体数でみるならば第2類第4種の付加条縄文がやや目立つ。

分類種別でみると、第1類土器群では第1種と第2種の口縁部に鋸歯状文(菱形文)もつ類で、工具による爪形文はやや少なく半截竹管状工具を用いた沈線文が多い。山内博士の調査した住居跡と比べると黒浜式土器の多く出土したJ地点住居址出土土器に類似する。D地点住居址出土土器は、第1類第4種の口縁部文様帯に半截竹管状工具による幅狭の杵状区画文を配する土器や、第1類第6種のコンパス文を含む土器を含む点で1号住居跡と様相を異にする。また、同じ黒浜式期の住居跡である川崎遺跡第4次調査第1号住居跡は、

有尾式土器の復元個体は無く破片での比較であるが、沈線文より爪形文が多い傾向がみられる。

第2類土器群では、口縁部に工具による菱形文を配する有尾式土器の胴部を除き、縄文施文のみによる羽状縄文からの菱形構成は少なく斜縄文が主体である。この点はD・J地点住居跡出土土器の傾向と一致する。先述の川崎遺跡1号住居跡出土土器は、上福岡貝塚1号住居跡出土土器(第115図5・6)の器形と酷似するが、明確な羽状縄文による菱形構成を配する。第1類土器群の有尾式土器など、工具施文土器の爪形文の有無などと合わせ、川崎遺跡第4次調査出土土器群との関係は非常に興味深い。

第4類土器群で貝殻腹縁文の土器は底部1点のみで、他は全て貝殻背圧痕文である。第115図2は貝殻背圧痕とR1縄文を施文する点で特殊といえる。第4類土器群と他の土器群との出土状況による時期差などは確認できなかった。

施文方法や文様以外では、土器製作を途中で終了したような器形の土器が目立つ。ただし縄文などの文様は施文され完成品として使用されている。第115図2、第116図10・11・79は胴部から短い頸部を経て口縁部に至る。本来はさらにもう1～2段の粘土紐の積み上げ後、追加成形技法などにより第116図9のような器形になるものと考えられる。施文は貝殻背圧痕や付加条縄文などが多くみられる。

(2) 2号住居跡出土土器について

2号住居跡出土土器は総数348点、復元可能な個体数は4点(第128図)と1号住居跡に比べ少ない。

2号住居跡で主体を占めるのは、1号住居跡同様に第2類第1種と第2種の地文に無節や単節縄文を施文する土器群、第4種の付加条縄文を施文する類である。2号住居跡の特徴は、第1類土器群と第4類土器群がほとんどみられず、僅かに出土する破片も攪乱出土や表土層出土のもの他に覆土上層出土で、総量に占める割合を考慮しても少ない。時期的なものか、その他の要因に起因するのか貝層の形成要素と合わせて考える必要がある。

第128図2は1・2号住居跡の復元可能土器のなかで、羽状縄文による菱形構成を確認出来る唯一の個体である。本地点の出土土器は羽状縄文を施文するものは若干みられるが、全体で菱形を構成するものは極端に少ない。

第128図1と3は、土器上半の施文手法に共通性が

みられる。同じ縄文原体を異方向に回転施文し、縦位区画の「仕切り」を作り出す。3は無節R1斜縄文を地文に、4ヶ所(単位)で同じ縄文原体を条が縦位になるように施文する。1も器形は若干異なるが同様の手法で、条を縦位方向に施文する部分が2単位確認できる。両土器とも胴部下半では同方向の縄文のみで、異方向の縄文や区画は認められない。1、3の土器は偶発的または辻褃合わせに施文したのではなく、明らかに意図して計画的な単位として施文している。本文では第2類第1種としたが第2類第3種異条斜縄文の土器としても良い類である。

口縁上部の縦位区画の構成は、関山式から黒浜式や有尾式土器にみられるが、縄文原体の回転方向や原体自体を替えて文様構成に変化を与える手法は、羽状縄文の菱形構成の作出と共通しており黒浜式期の一様相なのか、または突起を4単位貼り付けるものや肋骨文など縦位区画の意識と繋がるものなのか、今後の検討課題としたい。

Ⅲ 今後の課題

1・2号住居跡が集落の最も南側に位置する事から、今回の調査では関山式土器は1点も出土していない。関山式期と黒浜式期では集落の配置が異なることが改めて確認されたと言えるが、集落全般について現段階では十分な検討を加えることは難しく、今後の調査に期待したい。

1・2号住居跡の貝層から出土した動物遺体は、出土状況や貝類の組成などが全く異なる様相を呈していた。山内博士の調査による動物遺体のサンプルとの比較では、種類のには大きな違いは見られなかったが、当時の写真などを見ると、かなりの規模の貝層がみられその様相は多種多様であったと考えられる。1・2号住居跡の各貝層間の問題や動物遺体を含めた周辺の自然環境などについては、川崎遺跡など周辺の遺跡も含めて改めて検討を行ないたい。

今回の出土土器については、ほぼ黒浜式と有尾式に限定されることから、古入間湾沿岸における一括資料として貴重である。今後は1937年の出土土器や、川崎遺跡や水子貝塚など周辺遺跡出土土器群との関係をより深くみていきたい。上福岡貝塚を語る上で必ず問題となる、山内清男博士が実績報告でとりあげた「～別型式二属スラシイ」土器群の問題については、新発見も無いことから今回は敢えて触れなかった。石器に

についても全く触れることが出来なかった点も含め、今後の研究・検討課題としたい。

最後に上福岡貝塚第1地点出土の縄文土器について、新井和之氏、黒坂禎二氏、下村克彦氏、鈴木徳雄氏、高野博光氏、田中和之氏、早坂廣人氏、山口逸弘氏をはじめ多くの方々から貴重なご助言とご指導をいただきました。また国立奈良文化財研究所埋蔵文化財セン

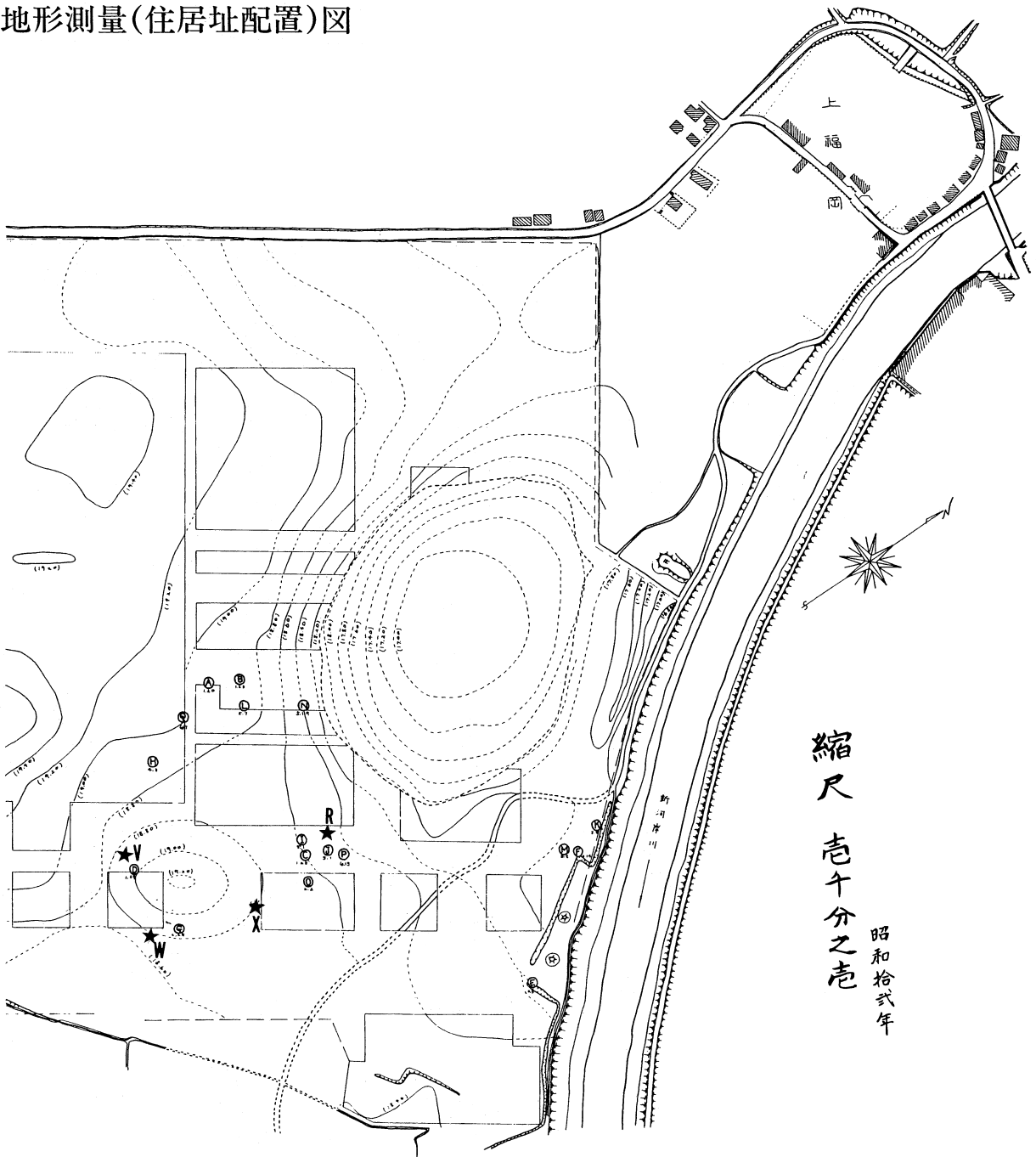
ターの小澤毅氏には山内清男考古資料の見学についてご配慮を賜りました。記して感謝申し上げます。

(鍋島直久)

註(9) 上福岡市教育委員会1994『考古文献資料(1)上福岡貝塚』市史調査報告第5集 P.L.29図に加筆

註(10) 川名広文1997「この人と語る・上福岡貝塚の発掘」『きんもくせい』市史研究第三号 上福岡市教育委員会

地形測量(住居址配置)図



※本図は1/1,000の原図を1/4に縮小し、1/4,000として再トレースしたものに、山内図よりR、V、W、X地点住居跡を加筆。

第176図 上福岡貝塚地形測量(住居址配置)図

第92表 川崎遺跡縄文時代前期住居跡一覧表

(単位cm)

| 住居番号 | 調査年度 | 調査名 | 調査率 | 平面形()は推定 | 規模()は残存値 | 炉 | 貝層 | 周溝 | 総柱数(主柱) | 壁柱 | 主軸方位 | 時期 | 備考 | 文献 |
|------|------|-----------|------|-------------|----------------|----|----|----|---------|------|---------|----------|--------------------|-----------------------------------|
| 1J | 1974 | 第1次L.N.03 | 2/3掘 | ほぼ方形 | 420×380×14 | ○ | | | 11(11) | | N-16°-E | 諸磯a式 | | 川崎遺跡第1次調査概報 |
| 2J | 1974 | 第1次L.N.19 | 2/3掘 | (長方形) | 不明×550×12 | ○ | | ○ | 35 | (28) | N-42°-E | 黒浜式 | 拡張住居 | |
| 3J | 1974 | 第1次L.N.20 | 2/3掘 | (長方形) | 560×420×60 | ○2 | | | 29(8) | (11) | N-59°-E | 黒浜式 | | |
| | 1975 | 宅地添1次-A地区 | 完掘 | 不整形 | 330~390×430×25 | ○ | ○ | | 45(8) | | N-22°-W | 黒浜式 | | 郷土史料第27集 |
| 9J | 1975 | 第2次L.N.08 | 1/2掘 | (隅丸長方形) | ?×570×? | ○ | | | | ○ | N-88°-E | 関山式・諸磯式 | 2軒重複? | 川崎遺跡第2次調査概報 |
| 12J | 1975 | 第2次L.N.25 | | 長方形 | ?×450×? | ○ | | | 42 | ○ | N-68°-W | 関山式 | L21と複合しL29によって切られる | |
| 10J | 1975 | 第2次L.N.34 | 完掘 | 方形に近い | 520×480×20 | | | | 7 | | N-15°-W | 黒浜式?縄文前期 | L N16と複合 | |
| 11J | 1975 | 第2次L.N.35 | 完掘 | (隅丸長方形) | 255×150×10 | | | | 1 | | 不明 | | L N06と複合 | |
| 13J | 1975 | 第2次L.N.50 | 2/3掘 | 長方形 | 620×460×12 | ○ | | | 42 | 40 | N-35°-W | 関山式? | | |
| 4J | 1975 | 第2次L.N.70 | 1/2掘 | (隅丸長方形) | ?×330×? | | | | 10 | | 不明 | 黒浜・諸磯a式 | | |
| 5J | 1975 | 第2次L.N.73 | 完掘 | 隅丸長方形 | 350×260×? | ○ | | | | ○ | N-6°-W | 花積下層式? | 複合住居 | |
| 6J | 1975 | 第2次L.N.74 | 完掘 | 隅丸長方形 | 820×810×? | ○ | | | | | N-80°-W | | | |
| 7J | 1975 | 第2次L.N.76 | 完掘 | 隅丸長方形 | 390×290×? | ○ | | | | | N-10°-E | | | |
| 8J | 1975 | 第2次L.N.77 | 完掘 | 隅丸長方形? | ?×?×? | ○ | | | | | 不明 | | | |
| 14 | 1977 | 第3次7号住居跡 | 完掘 | 不明 | ?×?×? | | | | 14 | | 不明 | 花積下層式? | | 郷土史料第21集 |
| 15 | 1977 | 第3次8号住居跡 | 完掘 | (隅丸長方形) | (540)×470×10 | ○ | | | 14(4) | | 不明 | 花積下層式 | | 郷土史料第24集 |
| 16 | 1979 | 第4次1号住居 | 完掘 | 隅丸長方形 | 645×505×40 | ○ | ○ | | 37(8) | | N-36°-E | 黒浜式 | | 郷土史料第24集 |
| 17 | 1979 | 第6次2号住居1A | 一部 | 不明 | 不明 | ○ | ○ | ○ | 12 | | 不明 | 黒浜式? | 1B・1C住居重複 | 郷土史料第24集 |
| 18 | 1990 | 第14次1号住居 | 完掘 | (隅丸長方形~長方形) | (470)×425×(10) | ○3 | ○ | | 52(10) | ○ | N-52°-E | 関山式 | | 郷土史料第41集 |
| 19 | 1995 | 第16次大型住居跡 | 完掘 | 隅丸長方形 | 1287×862×? | ○2 | | | 6 | | N-45°-E | 黒浜式 | 大型住居 | 「川崎遺跡第16次の調査説明会資料」 「私たちの埋蔵文化財」 |
| | 1999 | | | | | | | | | | 関山式 | | | |

第93表 上福岡貝塚縄文時代前期住居跡一覧表

(単位cm)

| 新住居番号 | 調査年度 | 調査名 | 調査率 | 平面形()は推定 | 規模()は残存値 | 炉 | 貝層 | 周溝 | 総柱数(主柱) | 壁柱 | 主軸方位 | 時期 | 備考 | 文献 |
|-------|------|-------|------|-----------|----------------|-------------|-----|-----|---------|-------|-----------|---------|-------------------|--------|
| A | 1937 | A | | | | | | | | | | | | |
| B | 1937 | B | | | | | | | | | | | | |
| C | 1937 | C | C-1 | 完掘 | 隅丸矩形 | 500×440×70 | ○ | (○) | ○ | 29 6 | ○ | N-56°-E | 黒浜式 | 拡張有 |
| | | | C-2 | 完掘 | 隅丸矩形 | 620×530×70 | ○ | (○) | ○ | 29 | ○ | N-56°-E | 黒浜式 | |
| D | 1937 | D | D-1 | 完掘 | 隅丸不整形 | 350×500×100 | ○ | (○) | ○ | 85 | 12 | N-43°-E | 黒浜式に近いもの | 拡張有 |
| | | | D-2 | 完掘 | 隅丸不整形 | 420×560×100 | ○ | (○) | ○ | 85 4 | | N-43°-E | 黒浜式に近いもの | |
| | | | D-3 | 完掘 | 隅丸不整形 | 400×580×100 | ○ | (○) | ○ | 85 4 | | N-43°-E | 黒浜式に近いもの | |
| | | | D-4 | 完掘 | 隅丸不整形 | 560×600×100 | ○ | (○) | ○ | 85 4 | | N-43°-E | 黒浜式に近いもの | |
| | | | D-5 | 完掘 | 隅丸不整形 | 570×600×100 | ○ | (○) | ○ | 85 4 | | N-43°-E | 黒浜式に近いもの | |
| | | | D-6 | 完掘 | 隅丸不整形 | 650×600×100 | ○ | (○) | ○ | 85(6) | | N-43°-E | 黒浜式に近いもの | |
| | | | D-7 | 完掘 | 隅丸不整形 | 760×600×100 | ○ | (○) | ○ | 85(6) | | N-43°-E | 黒浜式に近いもの | |
| | | | D-8 | 完掘 | 隅丸不整形 | 750×600×100 | ○ | (○) | ○ | 85(6) | | N-43°-E | 黒浜式に近いもの | |
| E | 1937 | E | | | | | | | | | | | | |
| F | 1937 | F | 1/3掘 | (長方形) | (400)×(320)×70 | ○ | (○) | ○ | 19 6 | ○ | (N-40°-W) | 黒浜式 | | |
| G | 1937 | G | 1/2掘 | (隅丸台形) | (500)×(340)×70 | ○2 | (○) | | 16(4) | ○ | (N-26°-E) | 黒浜式 | | |
| H | 1937 | H | | | | | | | | | | | | |
| I | 1937 | I | I-1 | 完掘 | 隅丸矩形 | 510×420×80 | ○ | (○) | ○ | 45 4 | | N-54°-E | 黒浜式 | 拡張有 |
| | | | I-2 | 完掘 | 隅丸矩形 | 570×470×80 | ○ | (○) | ○ | 45(6) | 15 | N-54°-E | 黒浜式 | |
| J | 1937 | J | | | | | | | | | | | | |
| K | 1937 | K | 1/2掘 | (長方形) | (690)×(290)×60 | ○ | (○) | ○ | 52 6 | 32 | N-56°-E | 黒浜式 | | 市内遺跡群4 |
| L | 1937 | L | | | | | | | | | N-49°-W | 関山式 | 拡張有 | |
| M | 1937 | M | | | | | | | | | | | | |
| N | 1937 | N | | | | | | | | | | | | |
| O | 1937 | O | | | | | | | | | | | | |
| P | 1937 | P | | | | | | | | | | | | |
| Q | 1937 | Q | | | | | | | | | | | | |
| R | 1937 | R | | | | | | | | | | | | |
| S | 1937 | S | | | | | | | | | | | | |
| T | 1937 | T | | | | | | | | | | | | |
| U | 1937 | U | | | | | | | | | | | | |
| V | 1937 | V | | | | | | | | | | | | |
| W | 1937 | W | | | | | | | | | | | | |
| X | 1937 | X | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 2007 | 1号住居跡 | 2/3掘 | (隅丸長方形) | (585)×546×60 | ○ | ○ | ○ | 12 6 | | N-75°-E | 黒浜式 | 拡張の可能性有り、X住の可能性有り | 市内遺跡群4 |
| 2 | 2007 | 2号住居跡 | 完掘 | (台形) | 380×380×32 | ○ | ○ | | 5 3 | | N-46°-W | 黒浜式 | X住の可能性有り | |

本書第2章 I (2) 及び第58表上福岡貝塚調査一覧表参照

附編 浄禅寺跡遺跡第30地点調査の放射性炭素年代測定

株式会社古環境研究所

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、呼吸作用や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。過去における大気中の ^{14}C 濃度は変動しており、年代値の算出に影響を及ぼしていることから、年輪年代学などの成果を利用した較正曲線により ^{14}C 年代から暦年代に較正する必要がある。

ここでは、浄禅寺跡遺跡第30地点調査で検出された炭焼窯および茶毘跡の年代を明らかにするために、加速器質量分析法および液体シンチレーションカウンタによる β -線計数法を用いて放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料は、第30地点で検出された炭焼窯より出土した炭化物No.8、同茶毘跡1より出土した炭化材No.2、同茶毘跡2より出土した炭化材No.8の3点である。放射性炭素年代測定の手順は以下のとおりである。

表1 測定試料及び処理

| 試料名 | 地点 | 種類 | 前処理・調整 | 測定法 |
|------|----------------|-----|------------|-------------|
| No.1 | 第30地点炭焼窯 No.8 | 炭化物 | 酸-アルカリ-酸洗浄 | AMS |
| No.2 | 第30地点茶毘跡1 No.2 | 炭化材 | 酸-アルカリ-酸洗浄 | Radiometric |
| No.3 | 第30地点茶毘跡2 No.8 | 炭化材 | 酸-アルカリ-酸洗浄 | Radiometric |

※AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

※Radiometricは液体シンチレーションカウンタによる β -線計数法

3. 結果

年代測定の結果を表2に示す。

表2 測定結果

| 試料名 | 測定No. (PED-) | ^{14}C 年代 ¹⁾ (年BP) | $\delta^{13}\text{C}$ ²⁾ (‰) | 補正 ^{14}C 年代 ³⁾ (年BP) | 暦年代(西暦) ⁴⁾ |
|------|-----------------|---|--|--|---|
| No.1 | 10473 | 520 ± 24 | -10.1 | 530 ± 25 | 1 σ : cal AD 1410 ~ 1440 2 σ : cal AD 1320 ~ 1350, cal AD 1390 ~ 1440 |
| No.2 | 242107 | 630 ± 70 | -21.6 | 680 ± 70 | 1 σ : cal AD 1270 ~ 1320, cal AD 1350 ~ 1390 2 σ : cal AD 1220 ~ 1410 |
| No.3 | 242108 | 820 ± 70 | -26.7 | 790 ± 60 | 1 σ : cal AD 1210 ~ 1280 2 σ : cal AD 1160 ~ 1290 |

(1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は国際的慣例により Libbyの5568年を使用した（実際の半減期は5730年）。

(2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

(3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰)に標準化することによって得られる年代である。

(4) 暦年代 Calendar Age

^{14}C 年代測定値を実際の年代値（暦年代）に近づけるには、過去の宇宙線強度の変動などによる大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正する必要がある。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新の較正曲線であるIntCal04ではBC24050年までの換算が可能である（樹木年輪データはBC10450年まで）。

暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。 1σ （68%確率）と 2σ （95%確率）は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma \cdot 2\sigma$ 値が表記される場合もある。

4. 所見

放射性炭素年代測定の結果、第30地点で検出された炭焼窯出土の炭化物では 530 ± 25 年BP（ 1σ の暦年代でAD1410～1440年）、同茶毘跡1出土の炭化材では 680 ± 70 年BP（同AD1270～1320年、AD1350～1390年）、同茶毘跡2出土の炭化材では 790 ± 60 年BP（同AD1210～1280年）の年代値が得られた。

文献

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

尾畷大真（2005）INTCAL98からIntCal04へ。学術創成研究費 弥生農耕の起源と東アジアNo.3 - 炭素年代測定による高精度編年体系の構築 -, p.14-15.

中村俊夫（1999）放射性炭素法。考古学のための年代測定学入門。古今書院, p.1-36.

報告書抄録

| 書名 | 市内遺跡群4 | シリーズ名 | ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第5集 | | | |
|--------------------------------|--|------------------|------------------------------------|----------------------|----------------|--------------------|
| 編集者 | 鍋島直久 | 著者 | 鍋島直久、笹森健一、阿部常樹、一木絵理、住田雅和、越村篤、大久保明子 | | | |
| 編集機関 | ふじみ野市教育委員会 | 所在地 | 〒356-8555 ふじみ野市大井中央一丁目1番1号 | | | |
| 発行日 | 2009年(平成21年)3月30日 | | TEL 049(261)2811 | | | |
| 所収遺跡地点名 | 所在地 | 市町村コード | 北緯 | 調査開始 | 調査面積 | 調査原因 |
| | 遺跡コード | | 東経 | 調査終了 | m ² | 調査担当者 |
| 種別/主な時代・主な遺構・主な遺物 | | | | | | |
| 特記事項 | | | | | | |
| にし せいせきだいい ちてん 西遺跡第1地点 | にし 西2-2068-1・3・4、2069-1 | 112453 25-001 | 35°52'23" 139°30'15" | 20070604 20070801 | 1200 | 共同住宅及び分譲住宅 鍋島直久 |
| | 集落跡/縄文時代中期住居跡3軒、集石土坑6基、土坑12基、溝1本、ピット68基、縄文土器、石器 | | | | | |
| | 縄文時代中期(貉沢式期から加曾利EⅡ式期)の集落範囲が広がって確認された。 | | | | | |
| かわさき せいせきだいい ちてん 川崎遺跡第22地点 | かわさき 川崎171-1、174-10 | 112453 25-003 | 35°53'17" 139°31'05" | 20070424 20070522 | 104 | 消防分団車庫 越村篤 |
| | 集落跡/縄文時代炉穴4基、土坑2基、地下式坑2基、穴蔵1基、溝1本、縄文土器、瓦塔、古代瓦、陶磁器他 | | | | | |
| | 中世地下式坑は中世村落の配置を研究する上で、瓦塔や古代瓦は村落内の寺院等を研究する上で重要である。 | | | | | |
| かみふくおか いづかだいい ちてん 上福岡貝塚第1地点 | かみふく 福岡2-1500-23・63 | 112453 25-006 | 35°52'47" 139°31'30" | 20070521 20070612 | 124 | 変電所増築 鍋島直久 |
| | 集落跡・貝塚/縄文時代前期住居跡2軒、集石土坑1基、堀跡1本、近代水溜・消火栓、縄文土器、石器 | | | | | |
| | 学史的に著名な貝塚で、新たに縄文時代前期中葉(黒浜式期)の貝層を伴う住居跡2軒が確認された。他にも遺構、遺物が保存されている可能性が高く今後の調査に期待したい。 | | | | | |
| たき せいせきだいい ちてん 滝遺跡第13地点 | たき 滝2-2-6 | 112453 25-008 | 35°52'40" 139°31'38" | 20071024 20071101 | 113 | 共同住宅 越村篤 |
| | 集落跡/縄文時代焼土範囲2ヶ所、縄文時代以降ピット11基、中・近世溝1本検出 | | | | | |
| | 焼土範囲やピット等の遺構は遺跡の範囲を知る上で貴重である。 | | | | | |
| たき せいせきだいい ちてん 滝遺跡第14地点 | たき 滝2-5-11・17 | 112453 25-008 | 35°52'43" 139°31'37" | 20071120 20071206 | 92 | 分譲住宅 鍋島直久 |
| | 集落跡/奈良・平安時代住居跡7軒、井戸1基、土坑1基、溝5本、須恵器、土師器 | | | | | |
| | 14号住居跡から8世紀の比企型土器がまとまって出土した。 | | | | | |
| ながみや せいせきだいい ちてん 長宮遺跡第28地点 | ながみや 長宮2-1-8 | 112453 25-009 | 35°52'35" 139°31'43" | 20070606 20070622 | 135 | 個人住宅 越村篤 |
| | 集落跡/中・近世井戸5基、土坑9基、ピット13基、縄文土器、石器、中・近世陶磁器、板碑、砥石 | | | | | |
| | 中・近世期の遺構と遺物は遺跡の時期を判別し集落の配置等を研究する上で貴重である。 | | | | | |
| ながみや せいせきだいい ちてん 長宮遺跡第29地点 | ながみや 長宮2-4-6の一部 | 112453 25-009 | 35°52'39" 139°31'44" | 20071204 20071205 | 145 | 共同住宅 鍋島直久 |
| | 集落跡/中・近世期井戸2基、土坑1、堀跡1本、溝5本、ピット10基、縄文土器、陶磁器、砥石、石臼 | | | | | |
| | 中・近世の遺構と遺物は遺跡の範囲を確定し集落の研究をする上で貴重である。 | | | | | |
| まつやま せいせきだいい ちてん 松山遺跡第43地点 | まつやま 築地2-5-2 | 112453 25-010 | 35°52'22" 139°31'52" | 20070411 20070424 | 281 | 分譲住宅 鍋島直久 |
| | 集落跡/古代～近世期堀跡1本、溝2本、土坑2基、旧石器ナイフ形石器、泥面子 | | | | | |
| | 南側調査区から続く堀跡を確認、本遺跡で初めて旧石器時代の遺物が出土した。 | | | | | |
| こまばやし せいせきだいい ちてん 駒林遺跡第4地点 | こまばやし 駒林B地区7街区-3・4 | 112453 25-013 | 35°51'57" 139°31'19" | 20070611 20070613 | 72 | 共同住宅 鍋島直久 |
| | 集落跡・中世墳墓/土坑1基 | | | | | |
| | 遺跡の西側で遺構が確認されたことは遺跡範囲を知る上で貴重である。 | | | | | |
| ふくおか せいせきだいい ちてん 福岡新田遺跡第1地点 | ふくおか 駒林字寺脇861-1、866-1、 865、862、864の一部 | 112453 25-015 | 35°52'12" 139°32'02" | 20071009 20071024 | 185 | 寺院 鍋島直久 |
| | 集落跡/縄文時代遺物包含層、井戸2基、土坑6基、溝5本、ピット21基、縄文土器、陶磁器他 | | | | | |
| | 本遺跡で初めて確認された縄文時代の包含層は遺跡の時期と範囲を知る上で貴重である。 | | | | | |
| かめくぼ せいせきだいい ちてん 亀居遺跡第62地点 | かめくぼ 亀久保2-12-3 | 112453 30-030 | 35°51'49" 139°30'28" | 20080107 20080118 | 170 | 共同住宅 越村篤 |
| | 集落跡/縄文時代中期土坑11基、ピット30基 | | | | | |
| | 土坑から出土した縄文時代中期貉沢式期の小型土器は、遺構の属性を検討する上で貴重である。 | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|--|------------------|-----------------------------|----------------------|-----|------------------|--|
| にし ほんらいせきだい ちてん 西ノ原遺跡第135地点 | うれしの 野1-5-2 | 112453 30-001 | 35° 51' 21" 139° 31' 12" | 20071105 20071112 | 25 | 集合住宅駐車場造成 越村篤 | |
| | 集落跡/縄文時代土坑1基、ピット3基 | | | | | | |
| | 遺跡の中央部で確認された遺構は集落の構成を考える上で貴重である。 | | | | | | |
| にし ほんらいせきだい ちてん 西ノ原遺跡第141地点 | いちさわ 市沢1-8-8 | 112453 30-001 | 35° 51' 23" 139° 31' 30" | 20070508 20070509 | 81 | 店舗兼事務所 鍋島直久 | |
| | 集落跡/時期不明土坑1基、ピット1基 | | | | | | |
| | 遺跡の東端部で確認された遺構は遺跡の範囲を知る上で貴重である。 | | | | | | |
| しんめいうしろ いせきだい ちてん 神明後遺跡第31地点 | なえま 苗間284 | 112453 30-041 | 35° 51' 36" 139° 31' 41" | 20070803 20070807 | 72 | 個人住宅 鍋島直久 | |
| | 集落跡/土坑2基 | | | | | | |
| | 旧村落内で確認された遺構は中世以降の屋敷地の配置を知る上で貴重である。 | | | | | | |
| なえま びがしく ぼ いせきだい ちてん 苗間東久保遺跡第25地点 | なえま あざびがしく ぼ 苗間字 東久保631-3 | 112453 30-020 | 35° 51' 46" 139° 31' 52" | 20070711 20070723 | 176 | 個人住宅 越村篤 | |
| | 集落跡/ピット4基、縄文土器 | | | | | | |
| | 遺跡の西部で確認された遺構は遺跡の範囲を知る上で貴重である。 | | | | | | |
| じょうぜん じ あといせきだい ちてん 浄 禅寺跡遺跡第9地点 | なえま あざしんめいうしろ 苗間字神明後 353-4 | 112453 30-022 | 35° 51' 37" 139° 31' 49" | 20070522 20070524 | 70 | 個人住宅 鍋島直久 | |
| | 集落跡・寺院跡/溝1本、縄文土器、近世陶磁器、瓦質土器 | | | | | | |
| | 旧浄禅寺境内で確認された遺構は寺院の配置を知る上で貴重である。 | | | | | | |
| じょうぜん じ あといせきだい ちてん 浄 禅寺跡遺跡第29地点 | なえま 苗間570-1・2、571-1・2、575 | 112453 30-022 | 35° 51' 39" 139° 31' 55" | 20070925 20071106 | 818 | 分譲住宅 鍋島直久 | |
| | 集落跡・寺院跡/掘立柱建物跡3棟、地下式坑1基、井戸15基、土坑15基、堀跡1本、溝17本、ピット291基 | | | | | | |
| | 旧苗間村の一部とみられる遺構と遺物を確認した。中・近世村落を研究する上で貴重である。 | | | | | | |
| じょうぜん じ あといせきだい ちてん 浄 禅寺跡遺跡第30地点 | なえま 苗間359-1 | 112453 30-022 | 35° 51' 36" 139° 31' 48" | 20071009 20071102 | 100 | 分譲住宅 越村篤 | |
| | 集落跡・寺院跡/縄文時代炉穴1基、落とし穴6基、土坑15基、茶毘跡5基、木炭窯1基、ピット61基、近世陶磁器 | | | | | | |
| | 旧浄禅寺境内で確認した中世茶毘跡と木炭窯は、寺の縁起と村落配置を研究する上で重要である。 | | | | | | |
| じょうぜん じ あといせきだい ちてん 浄 禅寺跡遺跡第31地点 | なえま あざしんめいうしろ いちぶ 苗間字神明後 342-14の一部 | 112453 30-022 | 35° 51' 38" 139° 31' 52" | 20080219 20080305 | 109 | 個人住宅 鍋島直久 | |
| | 集落跡・寺院跡/縄文時代中期後半住居跡1軒、炉穴1基、土坑1基、ピット26基、縄文土器、石器 | | | | | | |
| | 縄文時代中期後半の住居跡は同時期の集落や遺跡範囲を研究する上で重要である。 | | | | | | |
| じょうぜん じ あといせきだい ちてん 浄 禅寺跡遺跡第32地点 | なえま あざしんめいうしろ 苗間字神明後 342-15・10、340-17 | 112453 30-022 | 35° 51' 38" 139° 51' 38" | 20080225 20080304 | 40 | 個人住宅 鍋島直久 | |
| | 集落跡・寺院跡/堀跡1本、ピット1基、縄文土器 | | | | | | |
| | 旧浄禅寺境内から確認された溝は寺院の配置を知る上で貴重である。 | | | | | | |
| おおい しゆくいせきだい ちてん 大井宿遺跡第15地点 | おおい 大井1-5-3 | 112453 30-010 | 35° 51' 06" 139° 31' 01" | 20070801 20070810 | 65 | 個人住宅 越村篤 | |
| | 集落跡/近世以降の土坑4基、溝、ピット17基、近世陶磁器、土器、石製品 | | | | | | |
| | 隣の調査区から南北に延びる溝は、宿場の範囲や土地利用を知る上で貴重である。 | | | | | | |
| おおい し やかたあといせき 大井氏館跡遺跡 だい ちてん 第22地点 | おおい あざにしほら 大井字西原954-1 | 112453 30-037 | 35° 50' 57" 139° 31' 03" | 20071127 20071201 | 37 | 寺院庫裏 越村篤 | |
| | 集落跡/近世以降の礎石3基、土坑4基、ピット25基、近世陶磁器、石製品 | | | | | | |
| | 徳性寺境内で確認された遺構は同寺院の建物配置を知る上で貴重である。 | | | | | | |
| おおい とうえいせきだい ちてん 大井戸上遺跡第6地点 | おおい あざびがしだい 大井字 東台798-1 | 112453 30-014 | 35° 50' 51" 139° 31' 10" | 20080325 20080328 | 30 | 個人住宅 越村篤 | |
| | 集落跡/ピット49基 | | | | | | |
| | 屋敷地内で確認されたピット（柵列）は屋敷地の土地利用を知る上で貴重である。 | | | | | | |
| びがしだい いせきだい ちてん 東台遺跡第49地点 | おおい あざびがしだい 大井字 東台646、647-1、665 | 112453 30-024 | 35° 51' 02" 139° 31' 26" | 20080131 20080201 | 30 | 道路築造 鍋島直久 | |
| | 集落跡/住居跡6軒、屋外埋壘、集石土坑2基、土坑1基、粘土採掘坑1基、溝6本他、土偶、土器、石器 | | | | | | |
| | 本遺跡で初めて出土した土偶は集落内における祭祀活動を研究する上で貴重である。 | | | | | | |



鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区A試掘調査



鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区B試掘調査



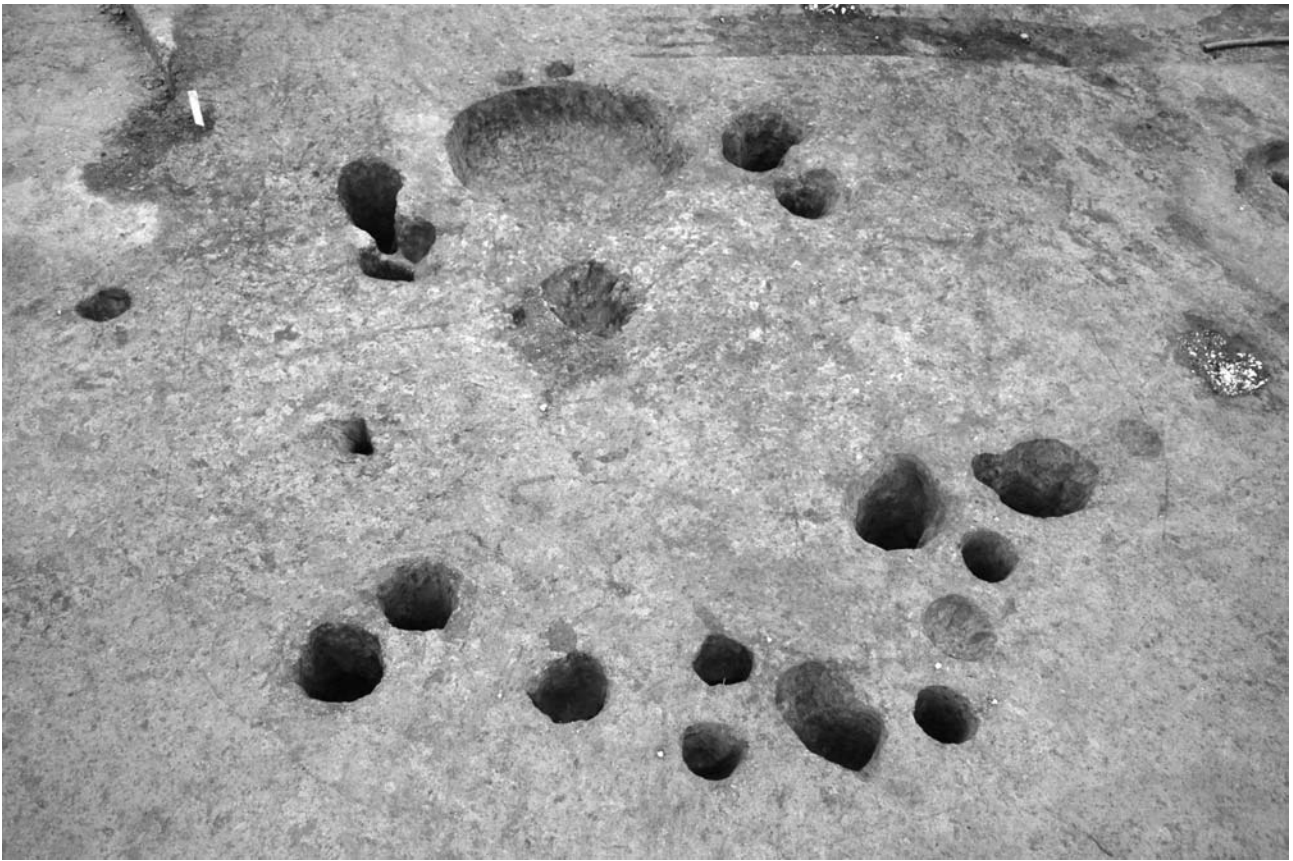
鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区B試掘調査



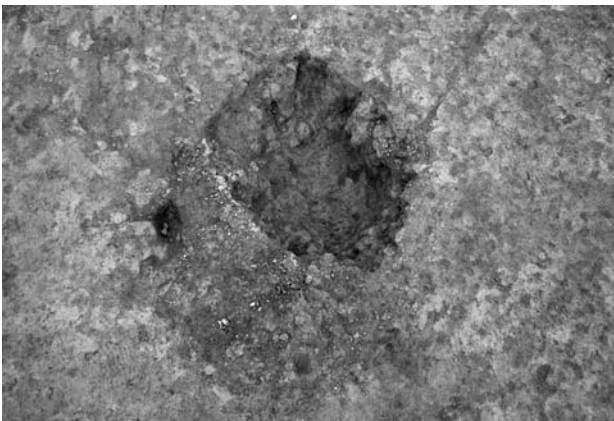
鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区D試掘調査



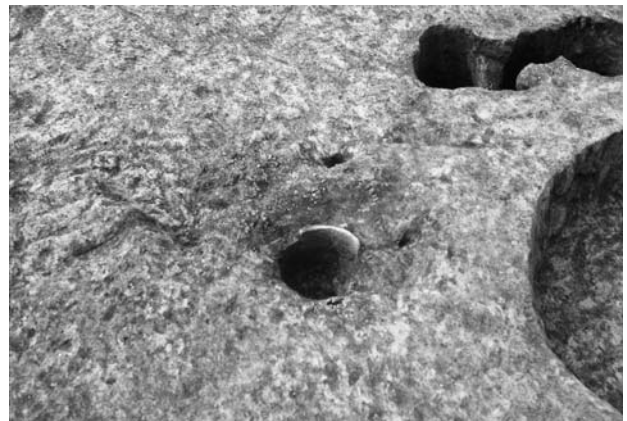
西遺跡第1次調査2号住居跡



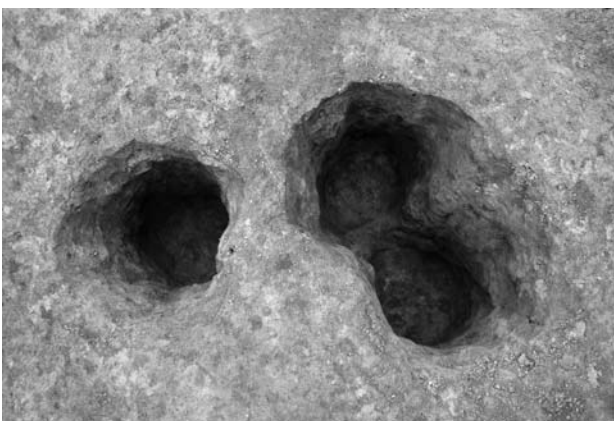
西遺跡第1地点2号住居跡



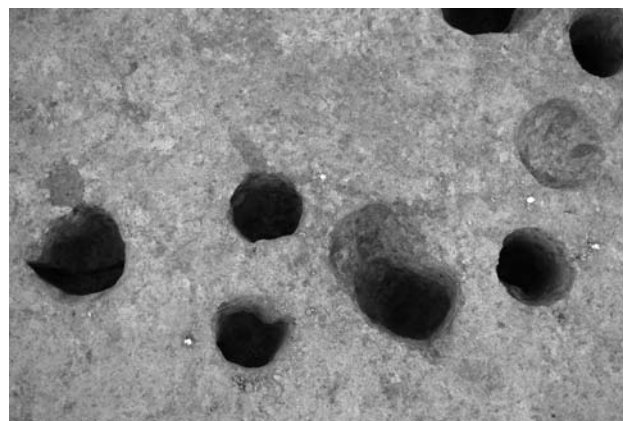
西遺跡第1地点2号住居跡炉



西遺跡第1地点2号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点2号住居跡ピット1~3



西遺跡第1地点2号住居跡ピット6・13~18



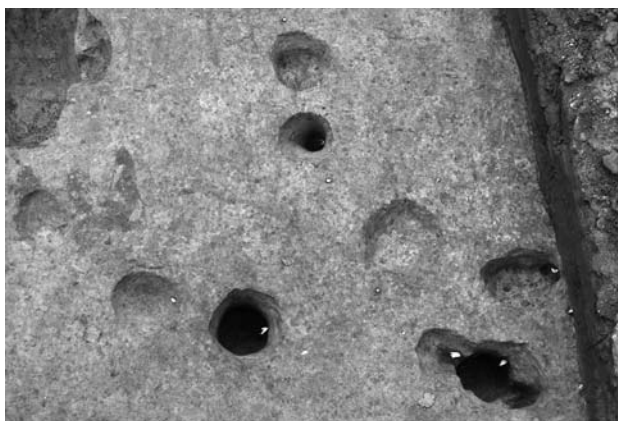
西遺跡第1次調査10号住居跡



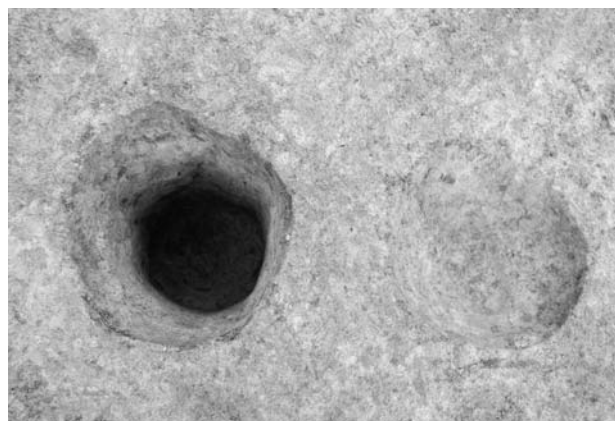
西遺跡第1次調査10号住居跡



西遺跡第1地点10号住居跡



西遺跡第1地点10号住居跡炉・ピット1・4～9・12



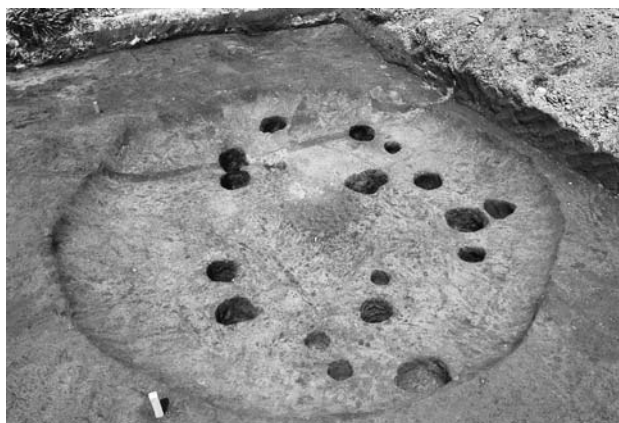
西遺跡第1地点10号住居跡ピット1・5



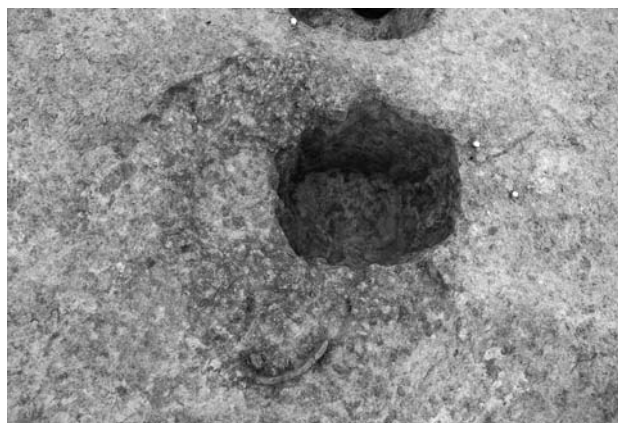
西遺跡第1次調査12号住居跡



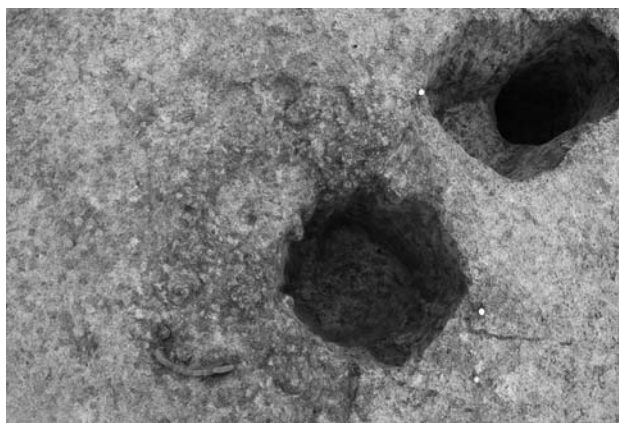
西遺跡第1地点12・22号住居跡



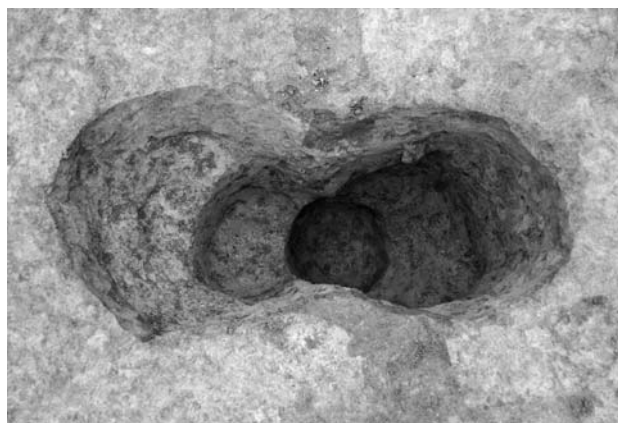
西遺跡第1次調査12号住居跡



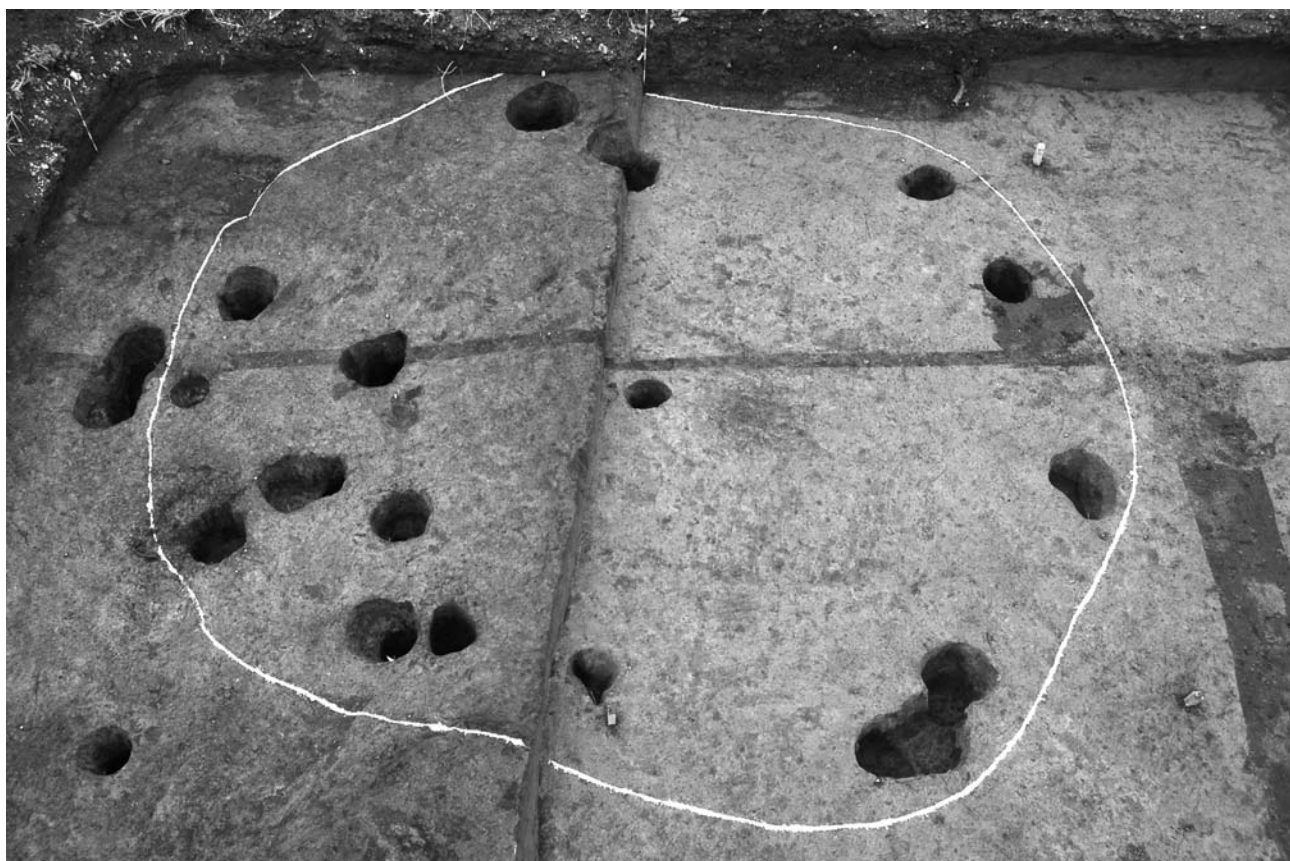
西遺跡第1地点12号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点12号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点12号住居跡ピット3



西遺跡第1地点22号住居跡



西遺跡第1次調査16号住居跡



西遺跡第1地点16号住居跡



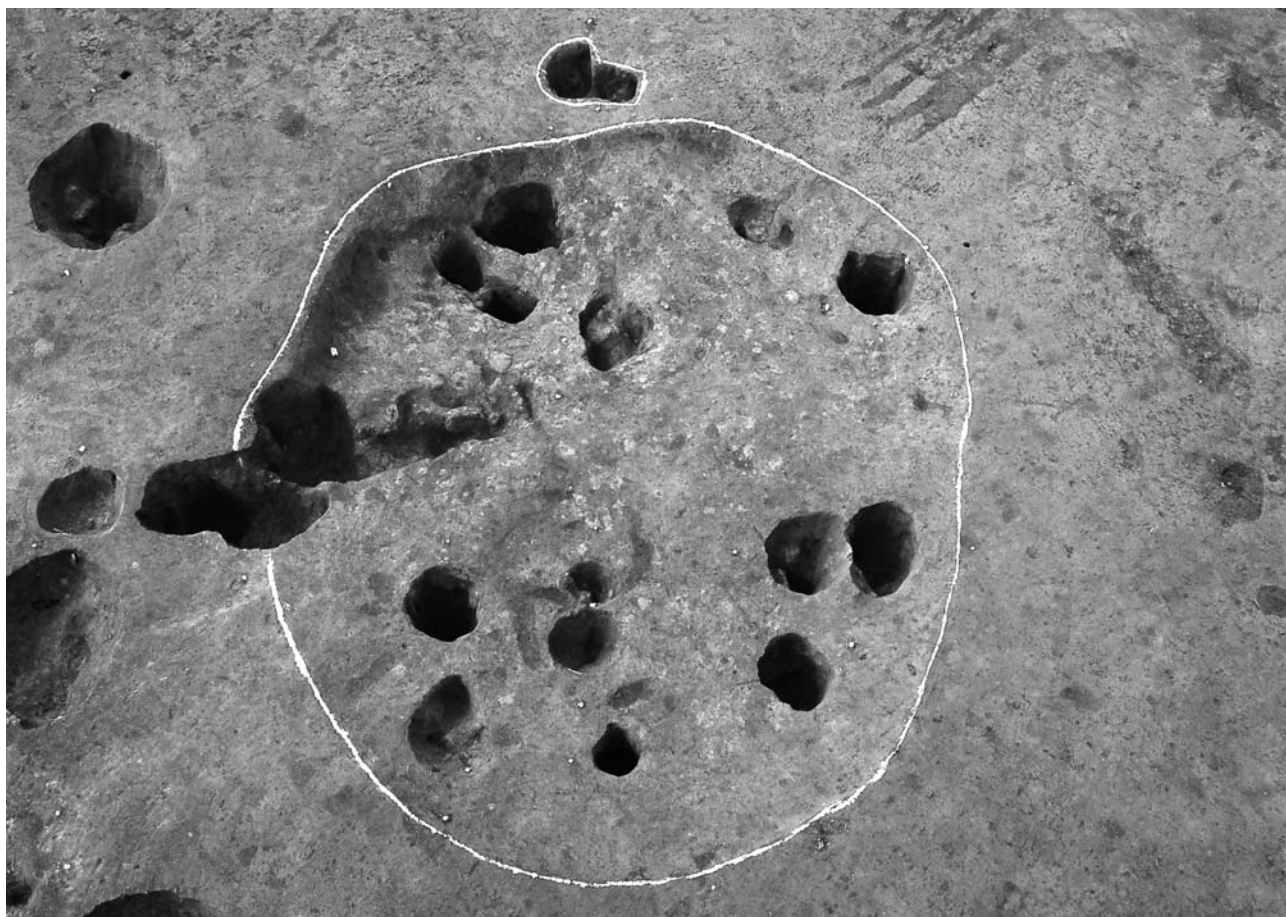
西遺跡第1地点16号住居跡炉



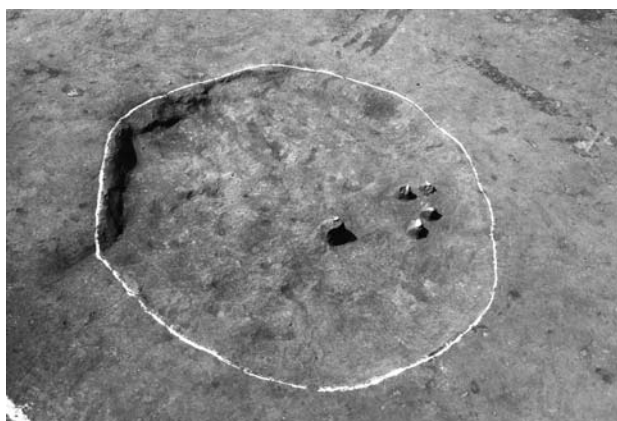
西遺跡第1地点16号住居跡ピット



西遺跡第1地点16号住居跡ピット 4・5・13~16・23~26



西遺跡第1地点20号住居跡



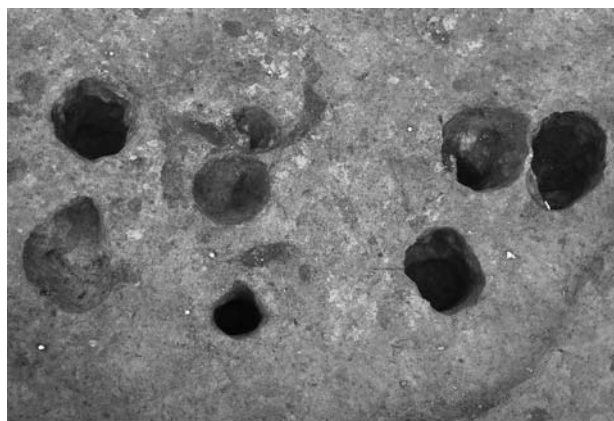
西遺跡第1地点20号住居跡遺物出土状況



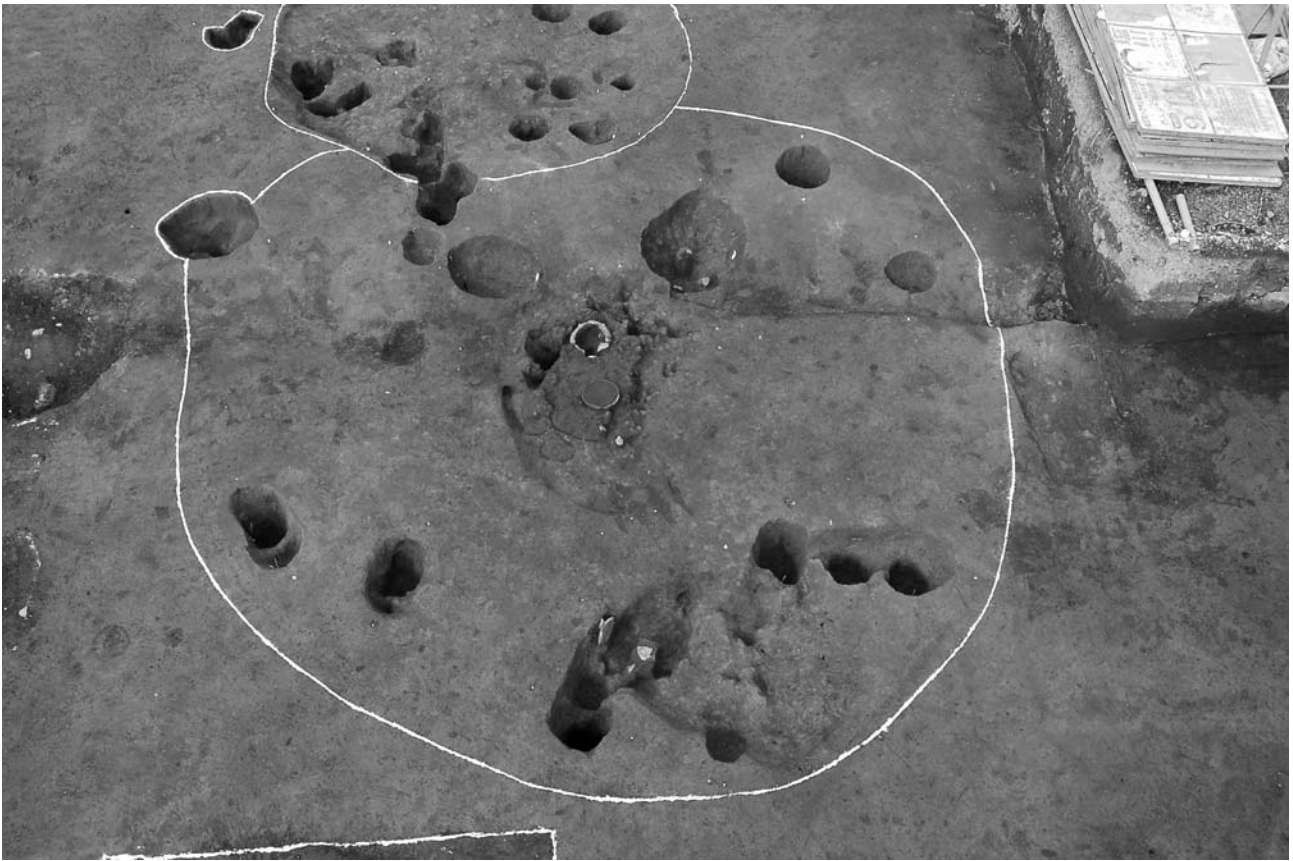
西遺跡第1地点20号住居跡遺物出土状況



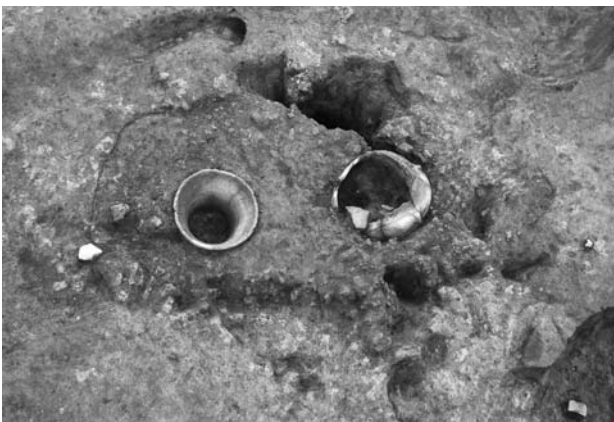
西遺跡第1地点20号住居跡ピット10・11・14



西遺跡第1地点20号住居跡ピット2～9



西遺跡第1地点23号住居跡



西遺跡第1地点23号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点23号住居跡炉



西遺跡第1地点23号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点23号住居跡ピット22・24・25



西遺跡第1次調査全景



西遺跡第1次調査全景



西遺跡第1次調査全景



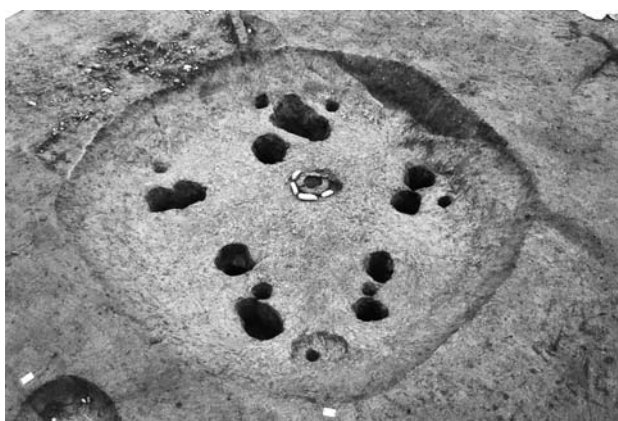
西遺跡第1次調査1号住居跡



西遺跡第1次調査3号住居跡



西遺跡第1次調査4号住居跡遺物出土状況



西遺跡第1次調査4号住居跡



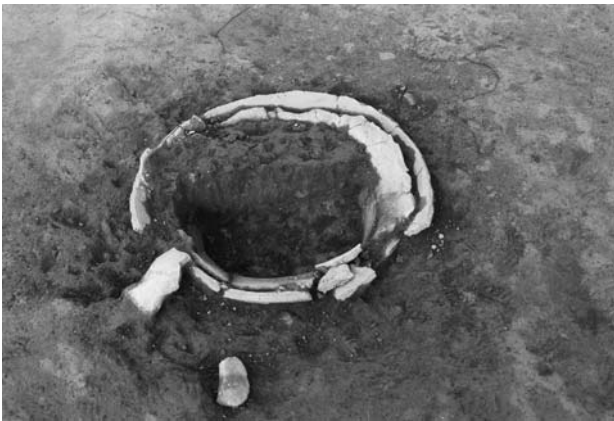
西遺跡第1次調査4号住居跡炉



西遺跡第1次調査5・7号住居跡



西遺跡第1次調査7号住居跡炉



西遺跡第1次調査7号住居跡炉



西遺跡第1次調査9・10・12・17号住居跡



西遺跡第1次調査9号住居跡



西遺跡第1次調査9号住居跡炉



西遺跡第1次調査6号住居跡



西遺跡第1次調査8号住居跡



西遺跡第1次調査12号住居跡



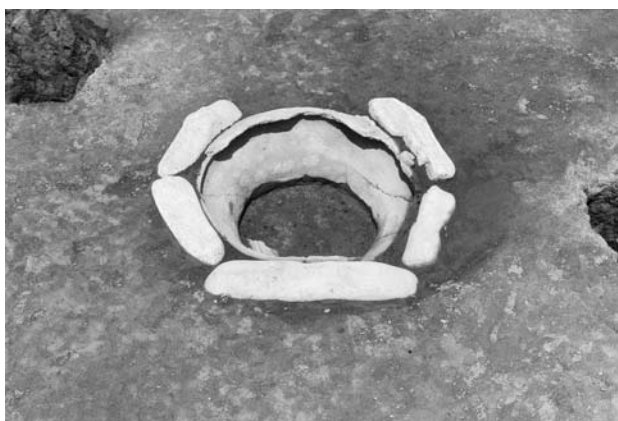
西遺跡第1次調査13~15号住居跡



西遺跡第1次調査13号住居跡炉



西遺跡第1次調査13~16号住居跡



西遺跡第1次調査15号住居跡炉



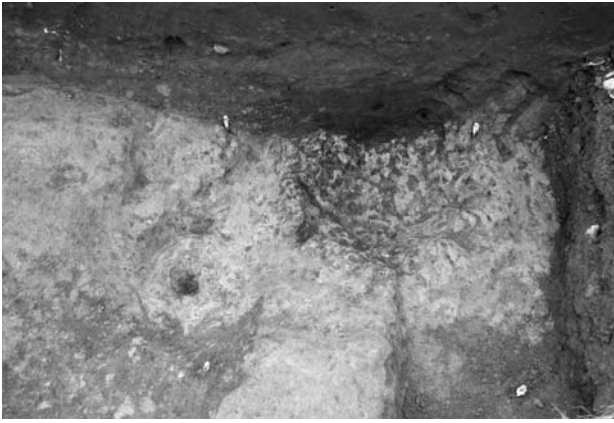
西遺跡第1次調査16号住居跡



西遺跡第1次調査9・10・12・17号住居跡



西遺跡第1次調査17号住居跡



西遺跡第1地点集石土坑1



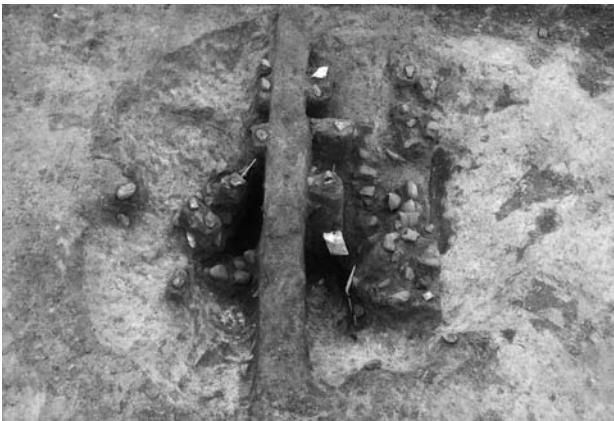
西遺跡第1地点集石土坑1



西遺跡第1地点集石土坑2



西遺跡第1地点集石土坑2



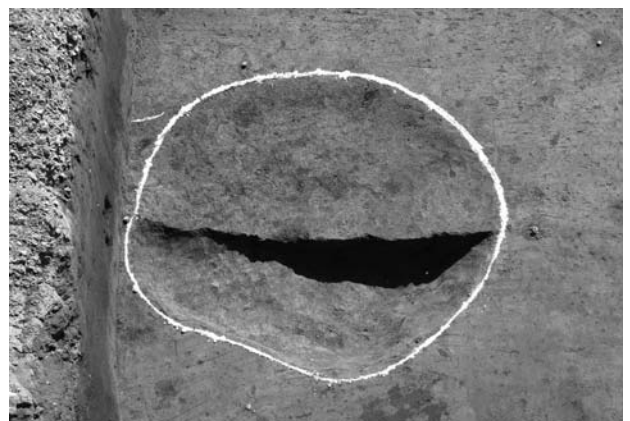
西遺跡第1地点集石土坑3



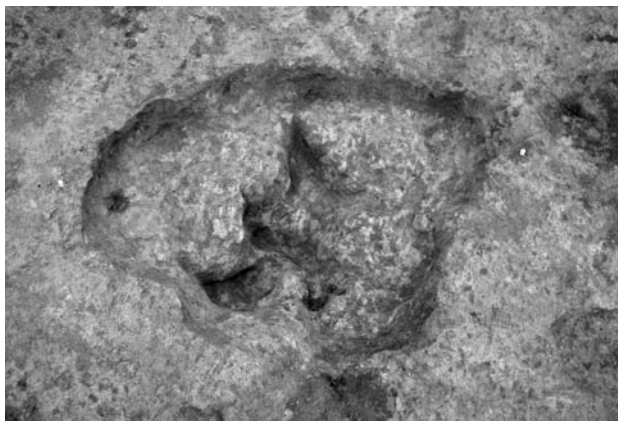
西遺跡第1地点集石土坑4



西遺跡第1地点集石土坑5



西遺跡第1地点集石土坑6



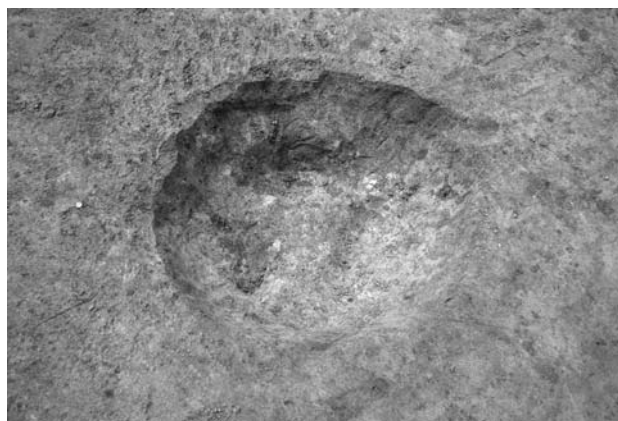
西遺跡第1地点土坑2



西遺跡第1地点土坑3



西遺跡第1地点土坑4



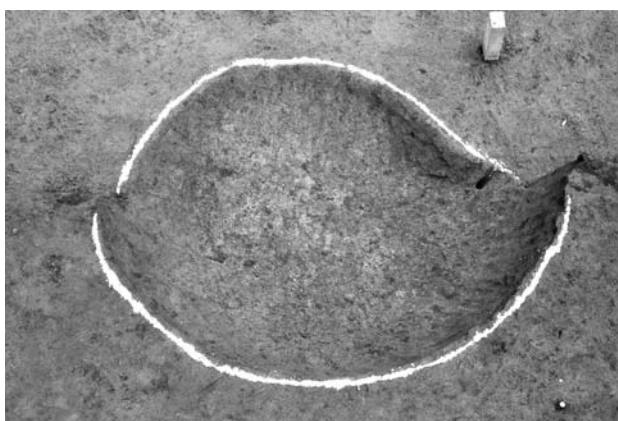
西遺跡第1地点土坑5



西遺跡第1地点土坑6



西遺跡第1地点土坑6~9

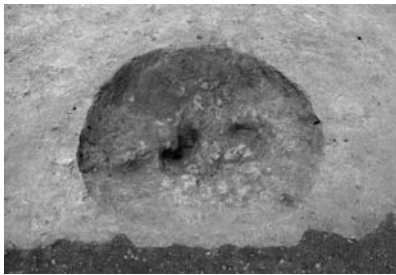


西遺跡第1地点土坑11

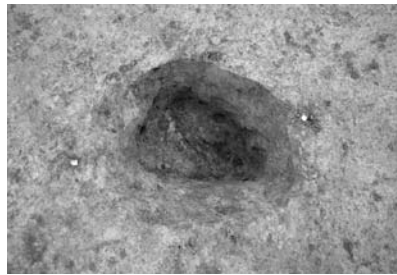


西遺跡第1地点土坑12・13

西遺跡第1地点⑭



西遺跡第1地点土坑14



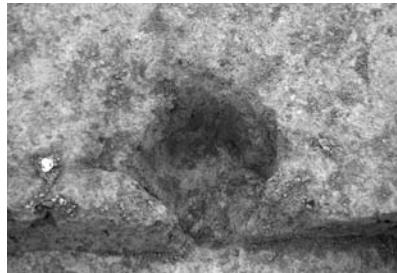
西遺跡第1地点ピット1



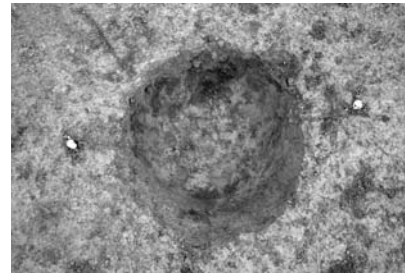
西遺跡第1地点ピット2



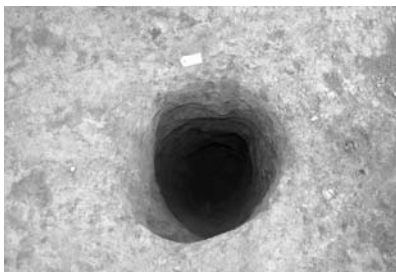
西遺跡第1地点ピット3・4



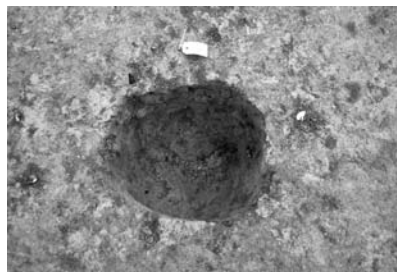
西遺跡第1地点ピット5



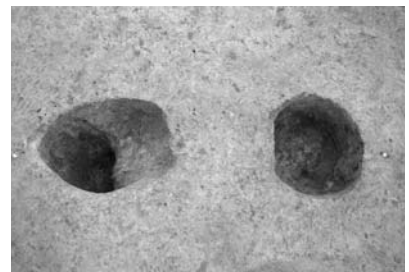
西遺跡第1地点ピット6



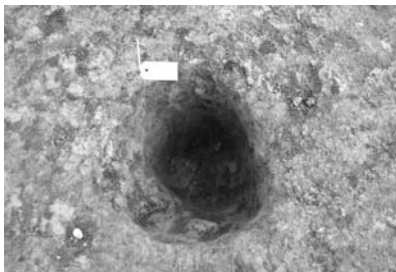
西遺跡第1地点ピット8



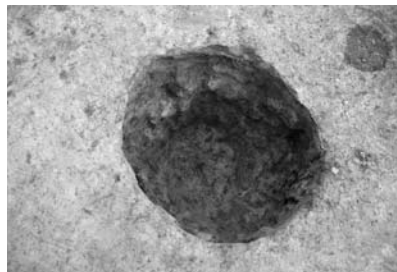
西遺跡第1地点ピット9



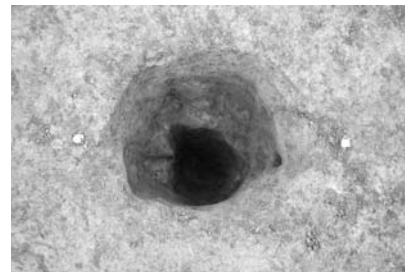
西遺跡第1地点ピット10・11



西遺跡第1地点ピット12



西遺跡第1地点ピット13



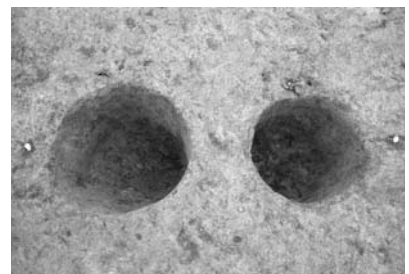
西遺跡第1地点ピット14



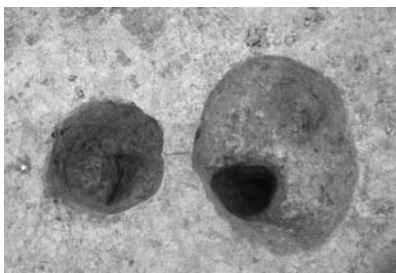
西遺跡第1地点ピット15



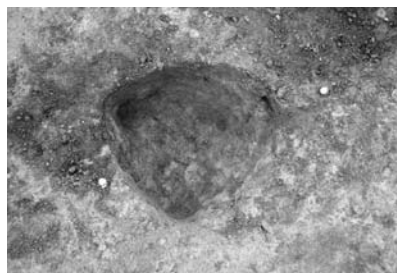
西遺跡第1地点ピット16



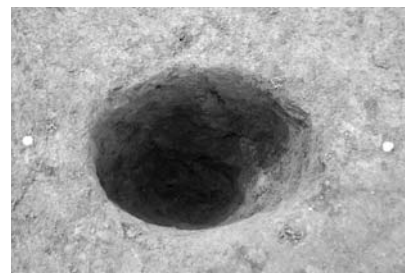
西遺跡第1地点ピット17・18



西遺跡第1地点ピット19・20



西遺跡第1地点ピット21



西遺跡第1地点ピット24

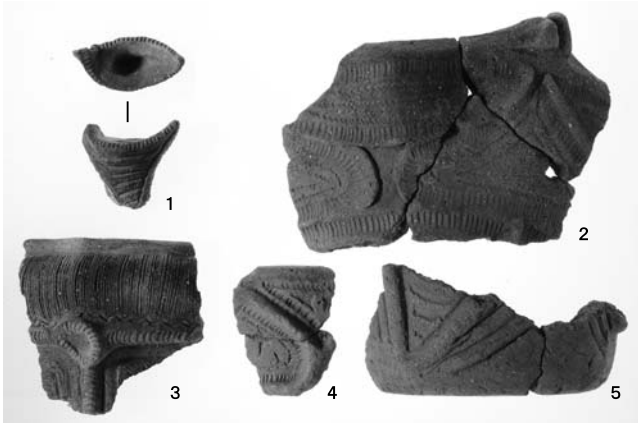


西遺跡第1地点本調査全景

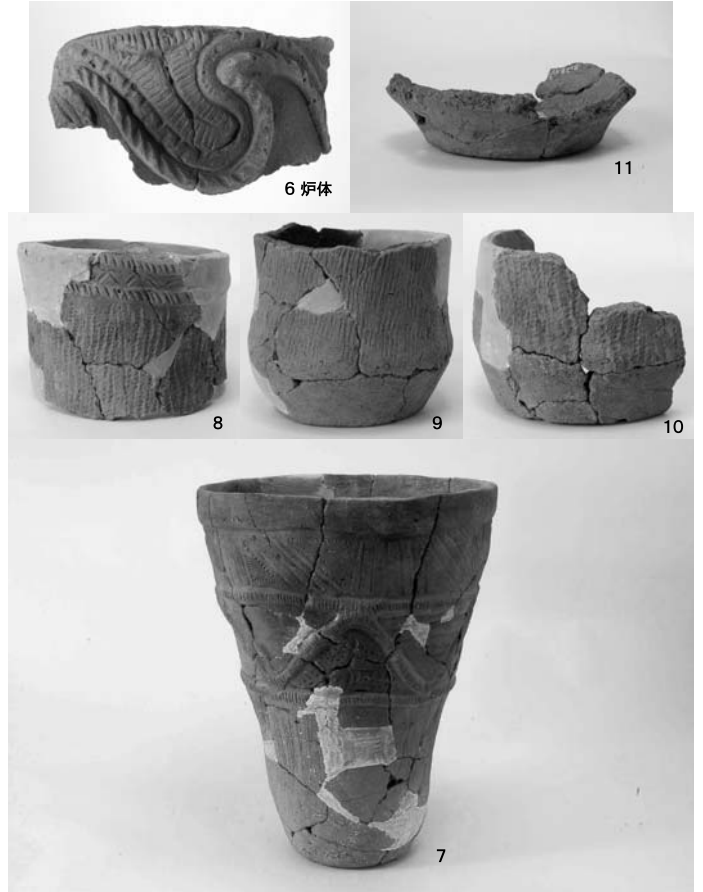


西遺跡第1地点本調査全景

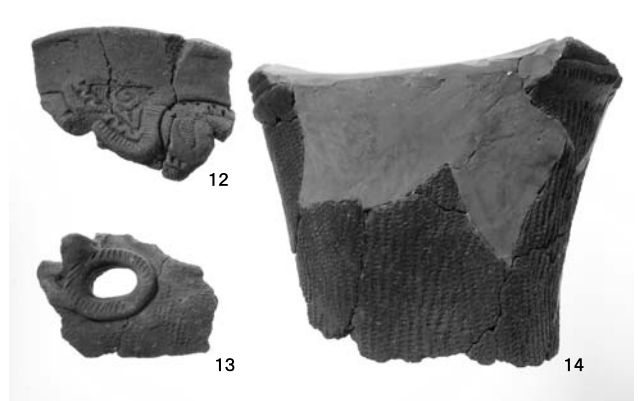
1号住居跡



2号住居跡



3号住居跡



4号住居跡



西遺跡 1 ~ 4号住居跡出土土器No.1~19

4号住居跡



5・7号住居跡

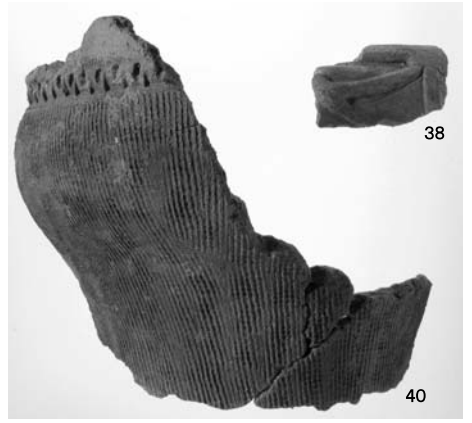


西遺跡4・5・7号住居跡出土土器No.20~35

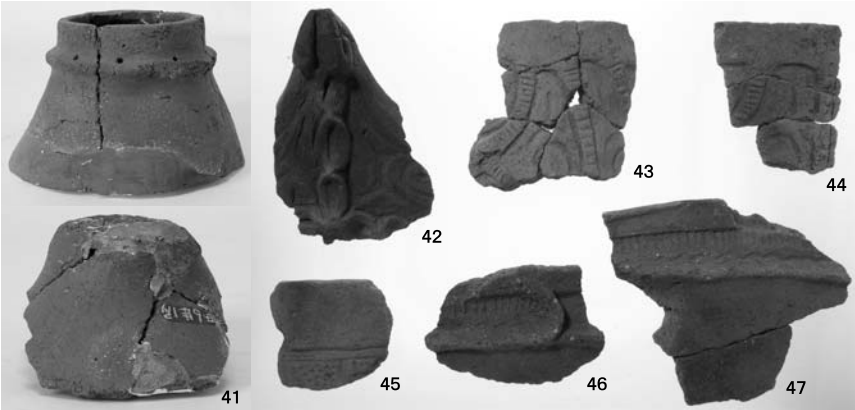
5・7号住居跡



5号住居跡



6号住居跡



8号住居跡



12号住居跡



10号住居跡



15号住居跡



13号住居跡



56 炉体



57 炉体



58

16号住居跡



59



61 炉体



62



63



66



67



68



70



64



69



71



72



73

19号住居跡

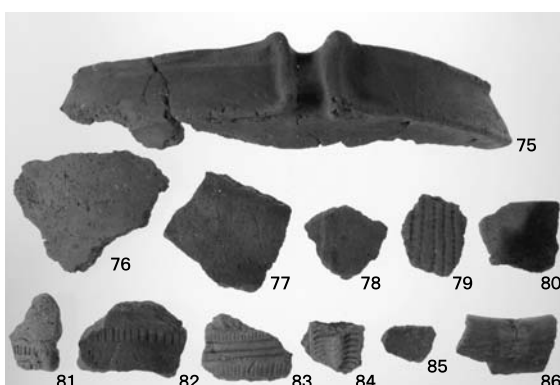


65



74 炉体

20号住居跡



75

76

77

78

79

80

81

82

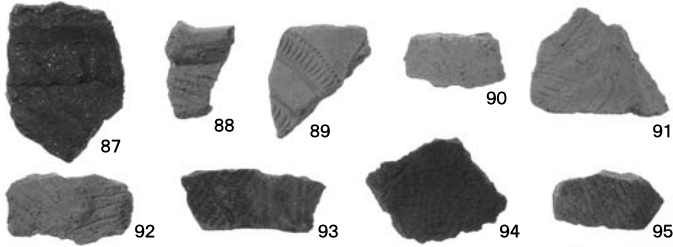
83

84

85

86

22号住居跡



23号住居跡



第1次調査土坑6



第1次調査土坑3



第1次調査土坑66



第1次調査土坑19



第1次
遺構外

土坑6

土坑10

P1

P13

集石土坑2

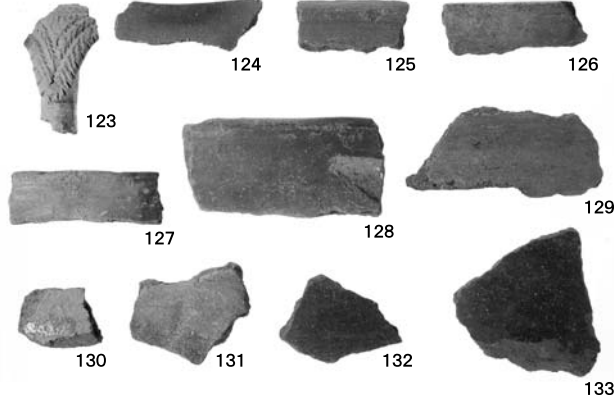
P8

P14

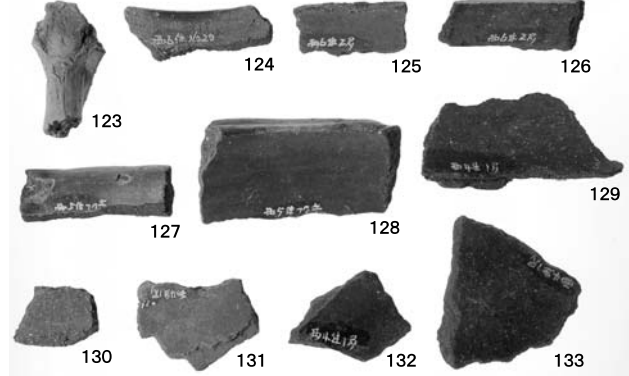
集石土坑4

P24

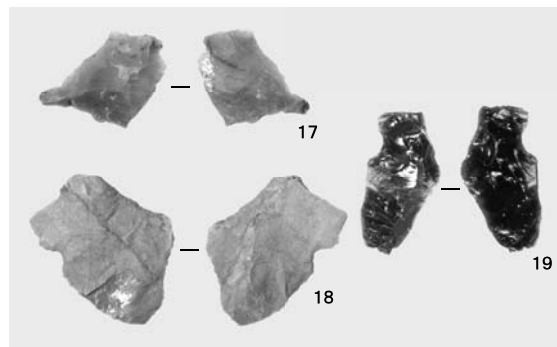
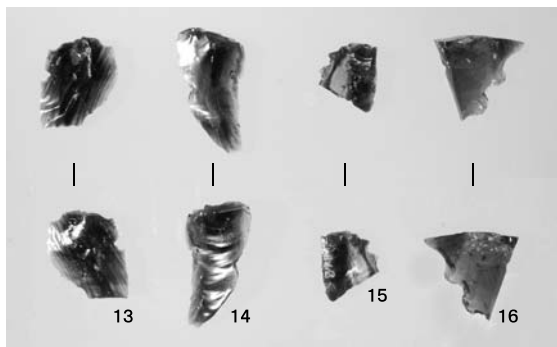
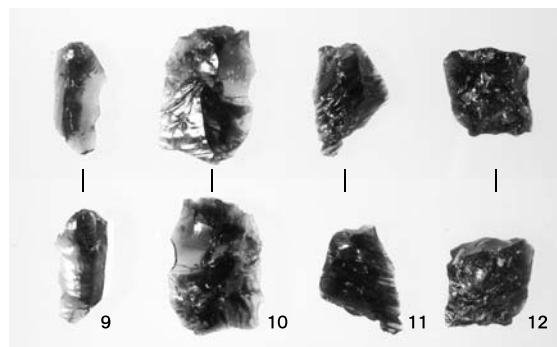
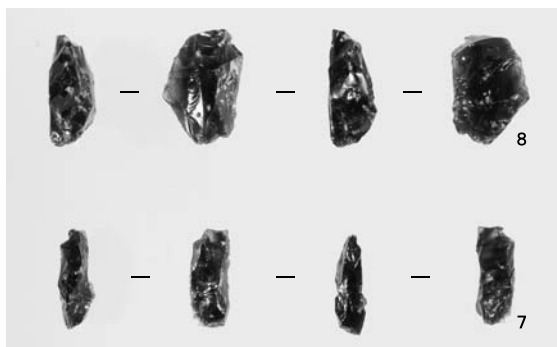
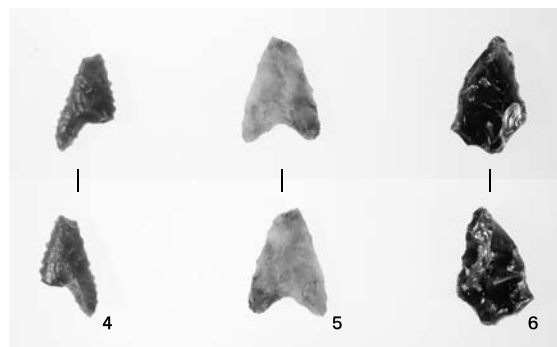
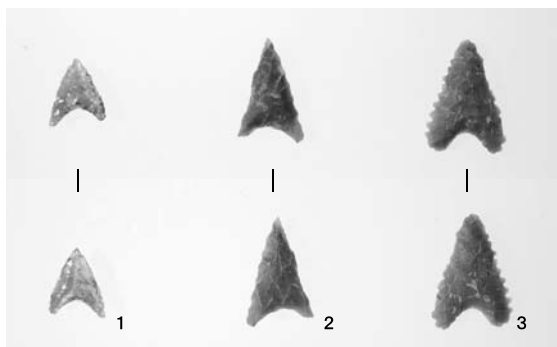
塗彩土器(表面)



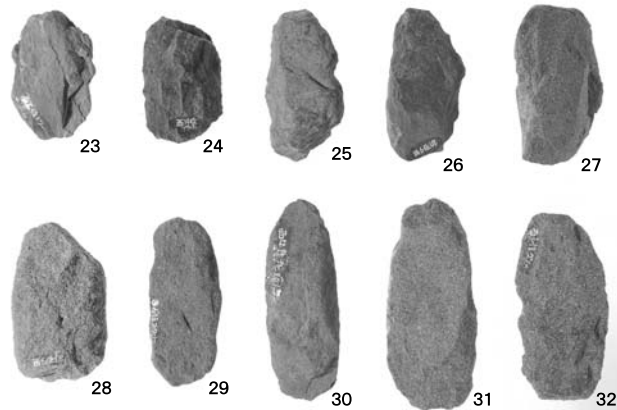
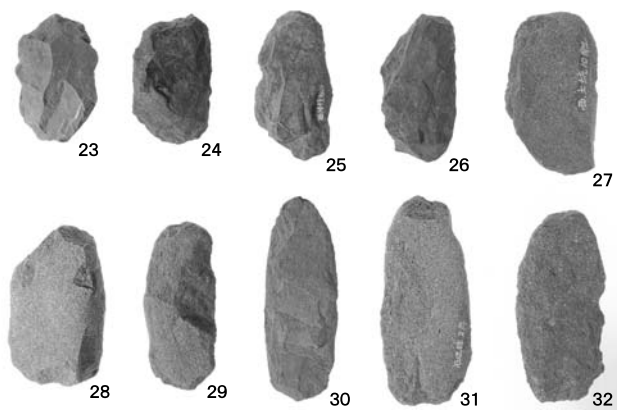
(裏面)



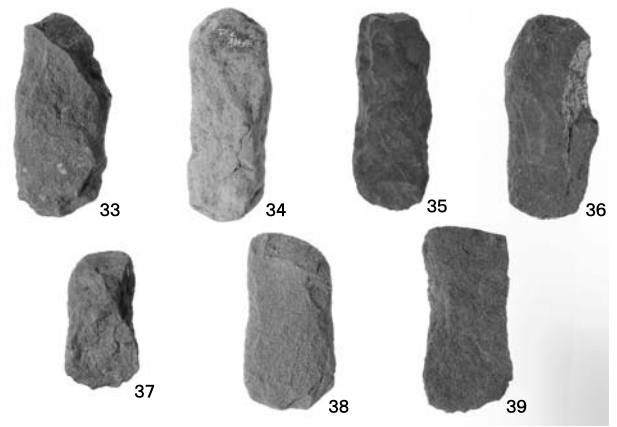
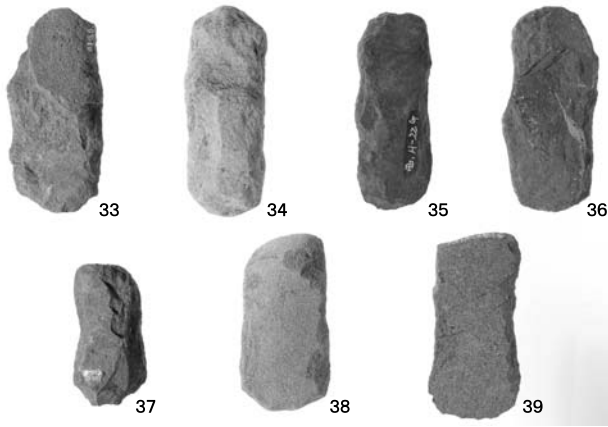
西遺跡22・23号住居跡、第1次調査土坑3・6・19・66、遺構外、土坑6・10、P1・8・13・14、集石土坑2・4出土遺物、塗彩土器No.87~133



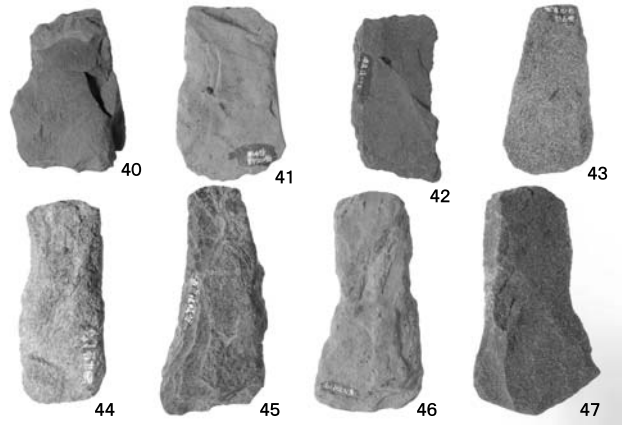
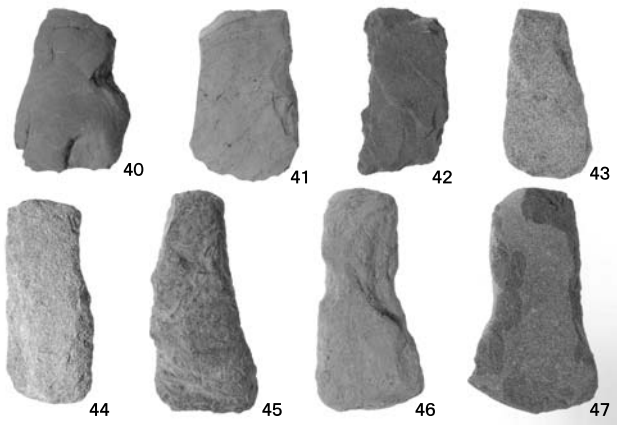
西遺跡出土石器No.1~22



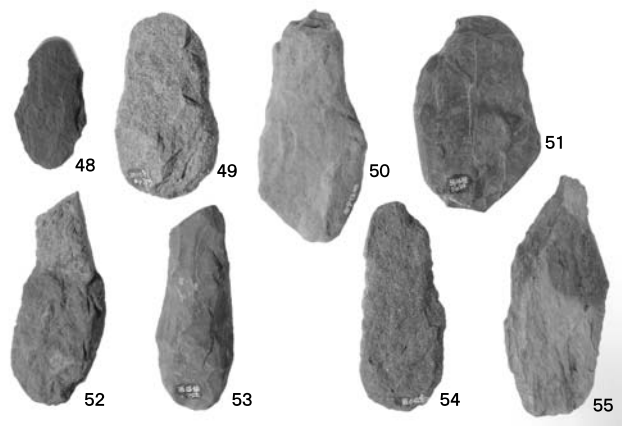
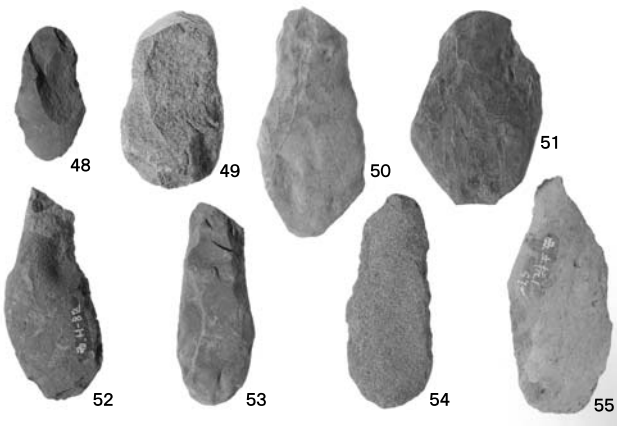
西遺跡出土石器No.23~32 (左：表面、右：裏面)



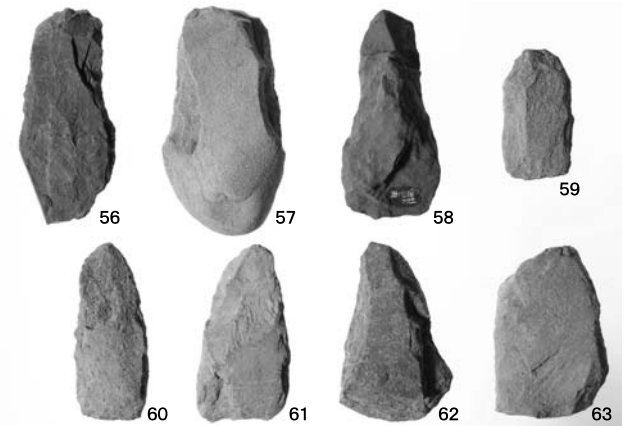
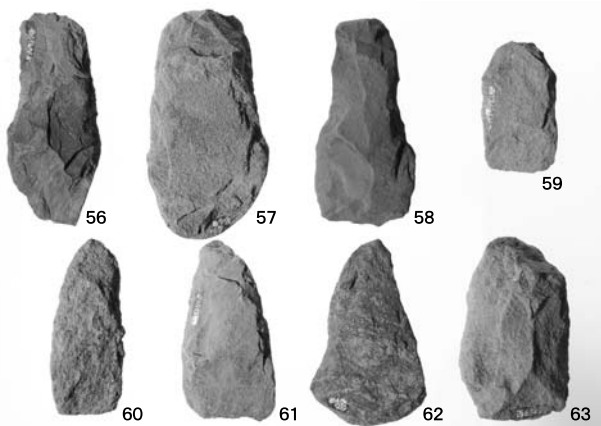
西遺跡出土石器No.33~39 (左：表面、右：裏面)



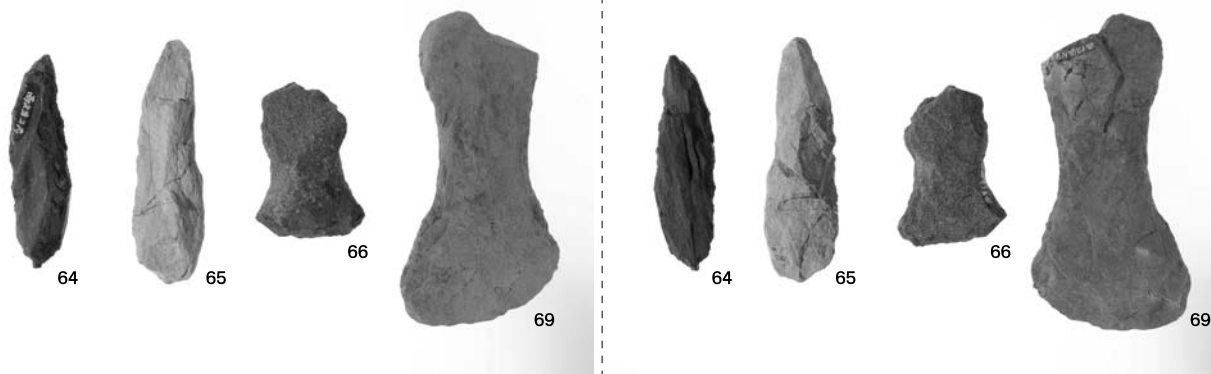
西遺跡出土石器No.40~47 (左：表面、右：裏面)



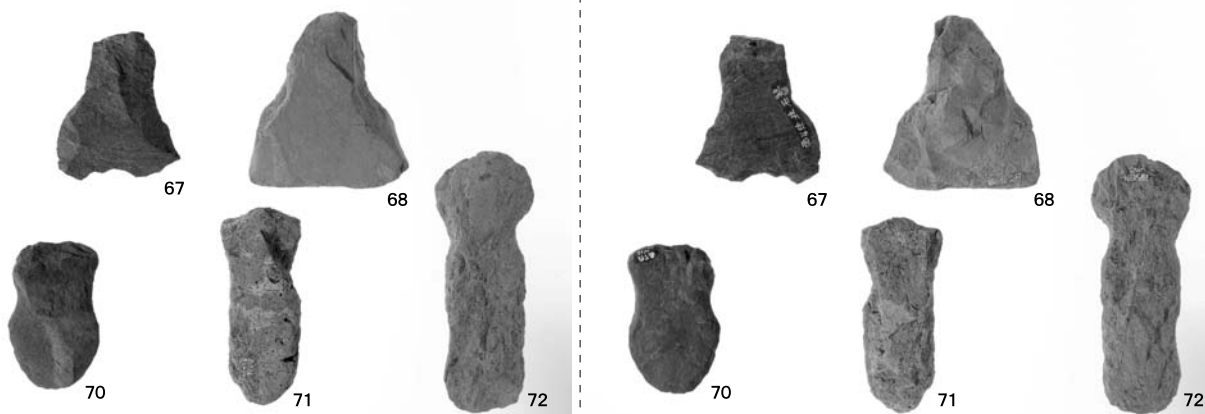
西遺跡出土石器No.48~55 (左：表面、右：裏面)



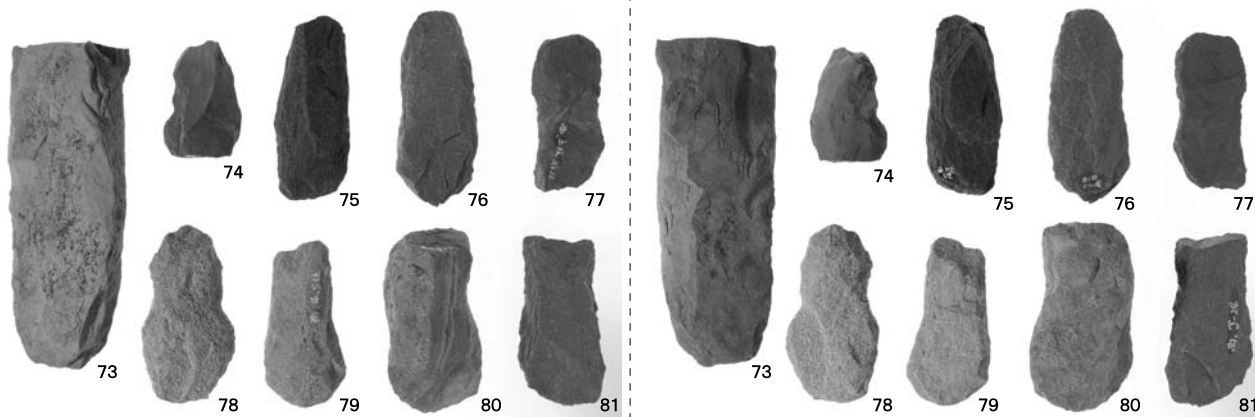
西遺跡出土石器No.56~63 (左：表面、右：裏面)



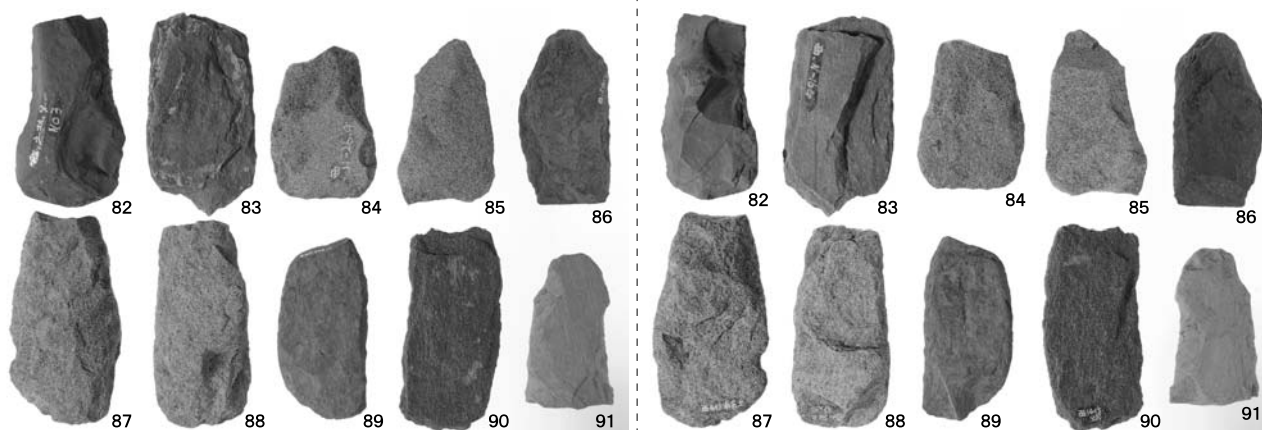
西遺跡出土石器No.64~66・69 (左：表面、右：裏面)



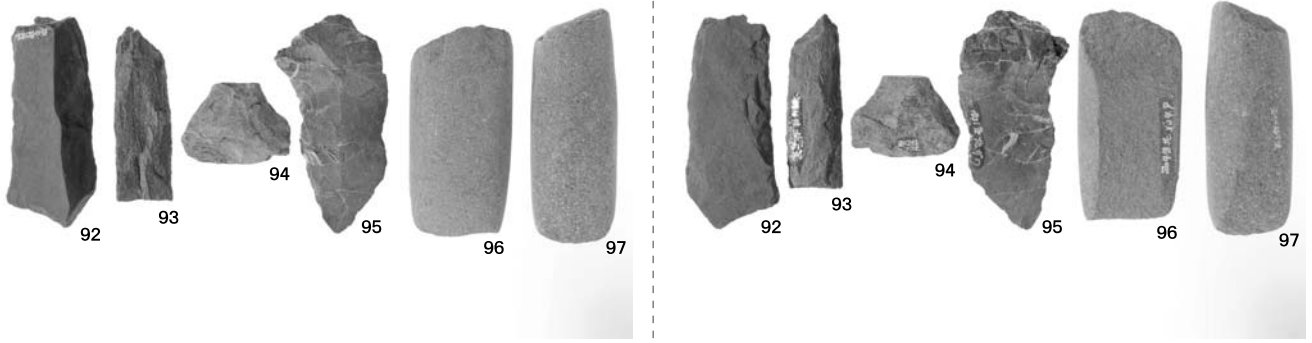
西遺跡出土石器No.67・68・70~72 (左：表面、右：裏面)



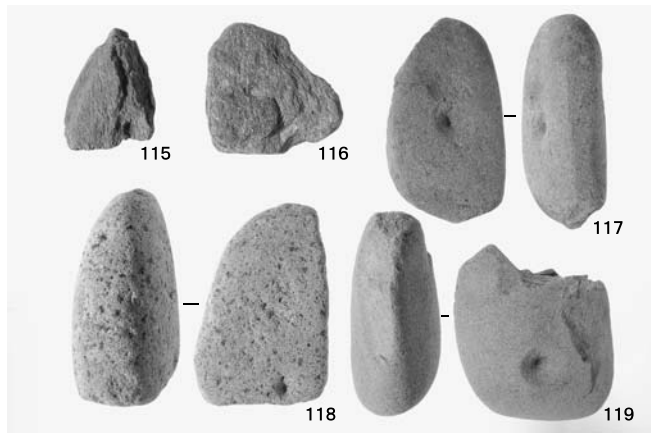
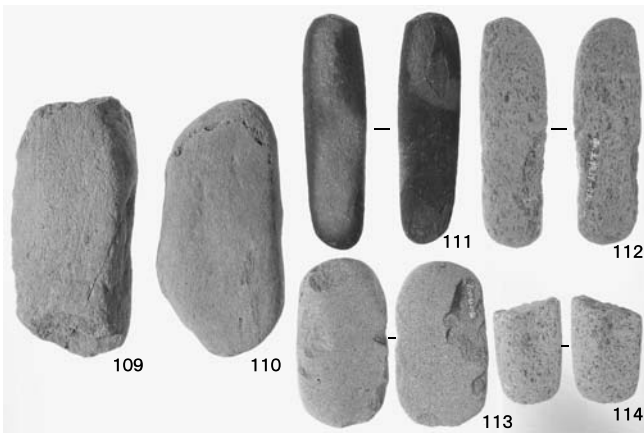
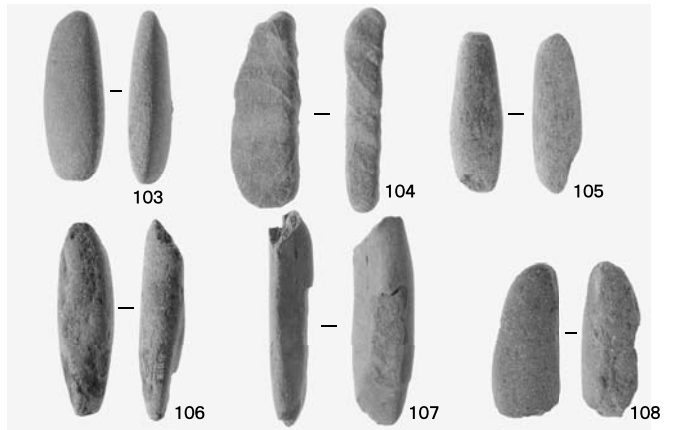
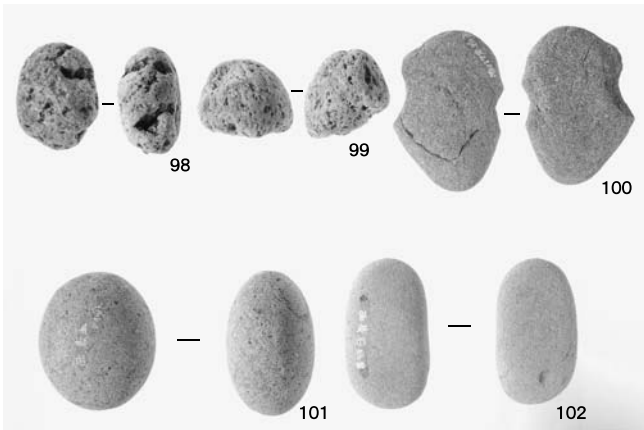
西遺跡出土石器No.73~81 (左：表面、右：裏面)



西遺跡出土石器No.82~91 (左：表面、右：裏面)



西遺跡出土石器No.92~97 (左:表面、右:裏面)



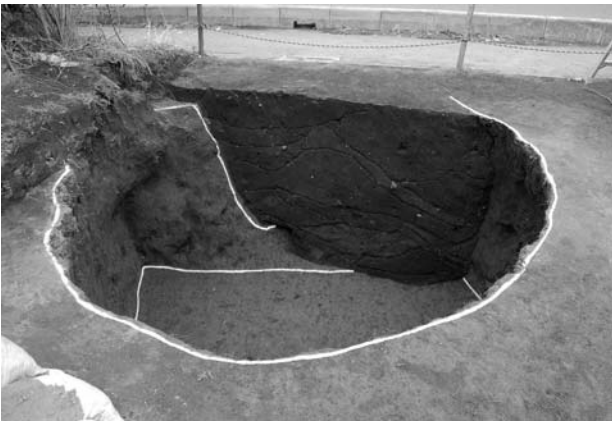
西遺跡出土石器No.98~121



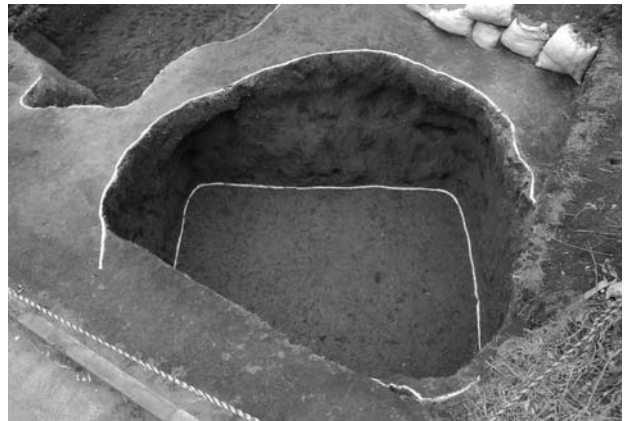
川崎遺跡第22地点地下式坑 1



川崎遺跡第22地点地下式坑 1



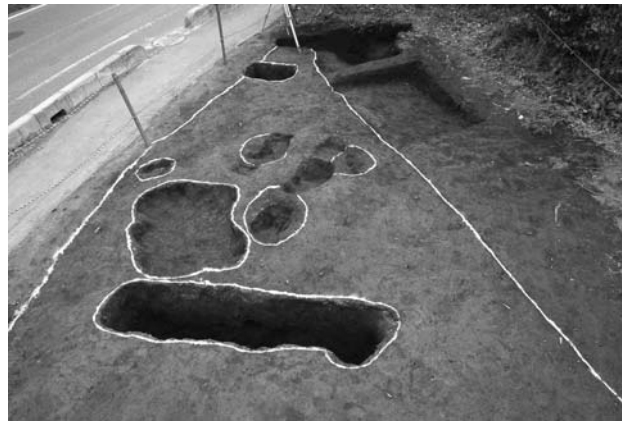
川崎遺跡第22地点地下式坑 2



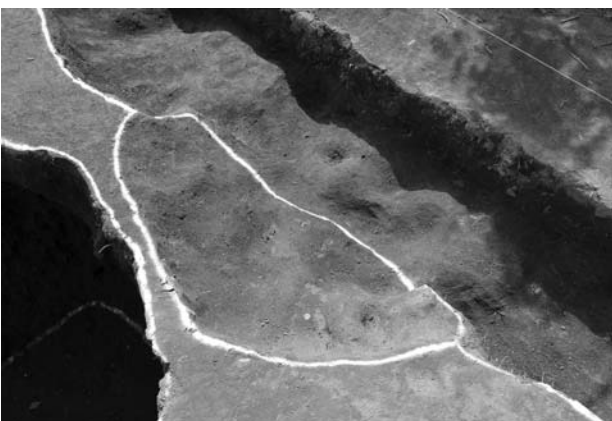
川崎遺跡第22地点地下式坑 2



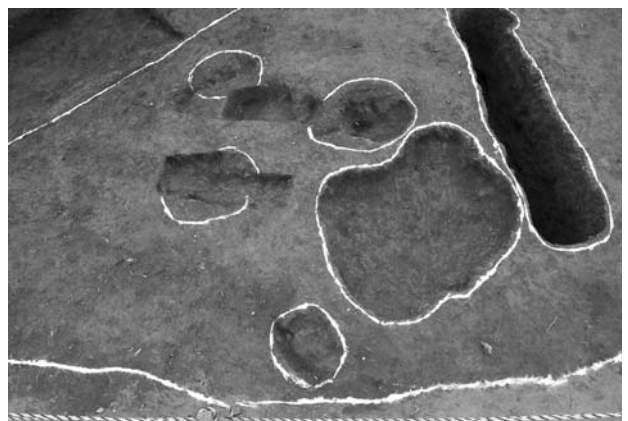
川崎遺跡第22地点穴蔵



川崎遺跡第22地点土坑 1・炉穴



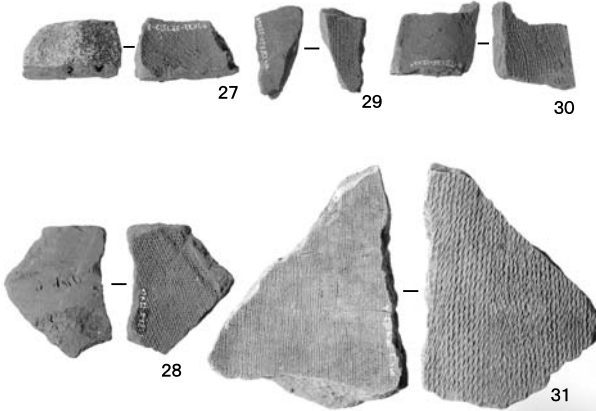
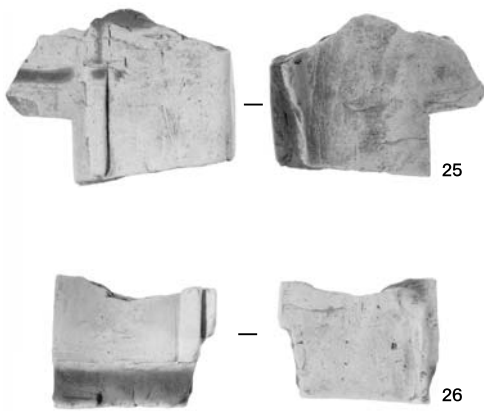
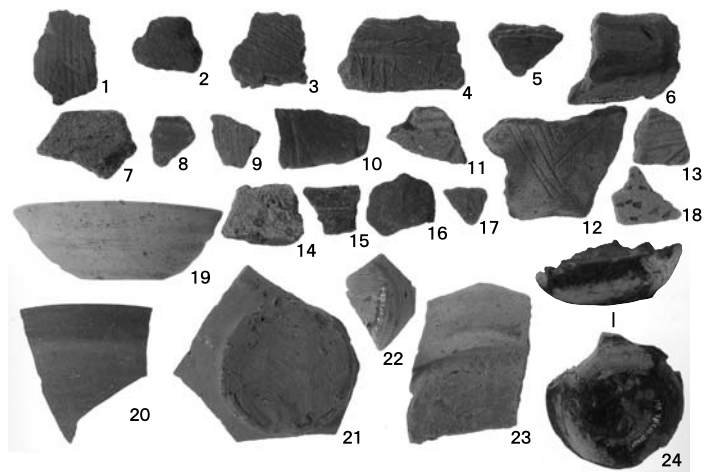
川崎遺跡第22地点土坑 2



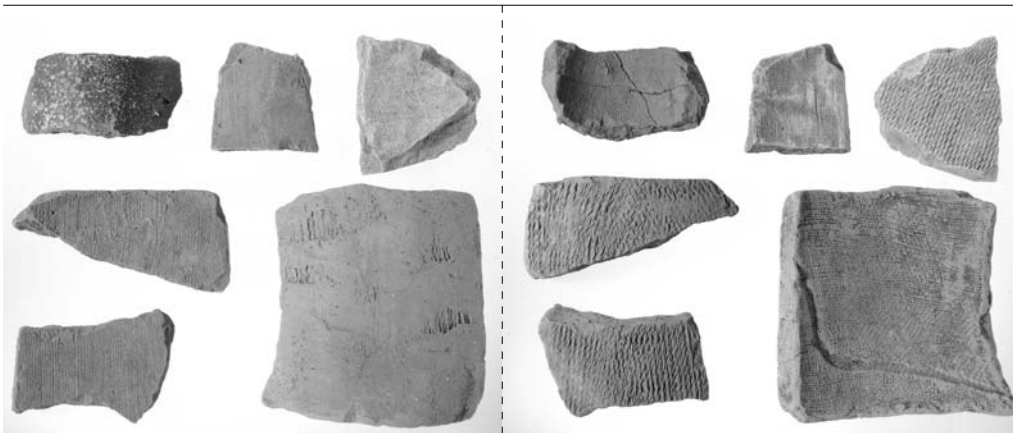
川崎遺跡第22地点炉穴



川崎遺跡第22地点溝



川崎遺跡第22地点出土遺物No.1~34



川崎遺跡第1・2次調査出土瓦（左：凸面、右：凹面）



川崎遺跡第24地点試掘調査



川崎遺跡第24地点試掘調査方形プラン



上福岡貝塚第1地点近景



上福岡貝塚第1地点近景



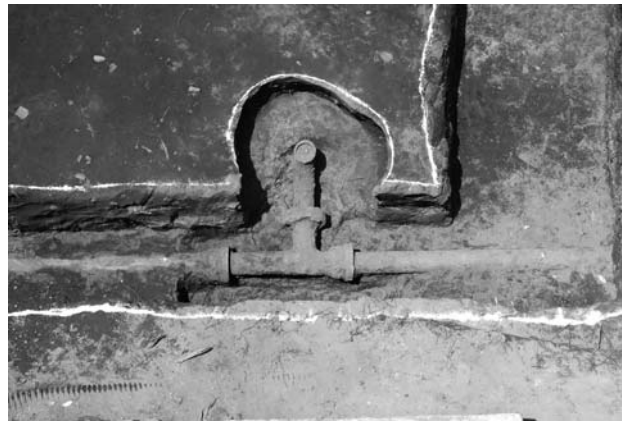
上福岡貝塚第1地点試掘調査遺構確認状況



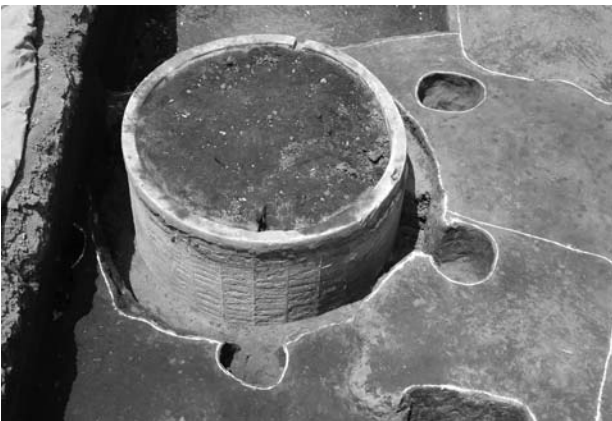
上福岡貝塚第1地点遺構確認状況



上福岡貝塚第1地点消火栓出土状況



上福岡貝塚第1地点消火栓配水管出土状況



上福岡貝塚第1地点水溜



上福岡貝塚第1地点水溜



1

←地上式双口型不凍消火栓



2

配水管刻印



2

配水管刻印



1

消火栓



1

消火栓刻印



1

消火栓刻印



2

配水管と乙型継手管



1

消火栓排水口



1

乙型継手管



1

乙型継手管刻印



上福岡貝塚第1地点集石土坑



上福岡貝塚第1地点集石土坑



上福岡貝塚第1地点全景



上福岡貝塚第1地点掘土層



上福岡貝塚第1地点調査前遺構確認状況(南東から)



上福岡貝塚第1地点全景(南東から)



上福岡貝塚第1地点1号住居跡



上福岡貝塚第1地点1号住居跡炉



上福岡貝塚第1地点1号住居跡土層



上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況



上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況



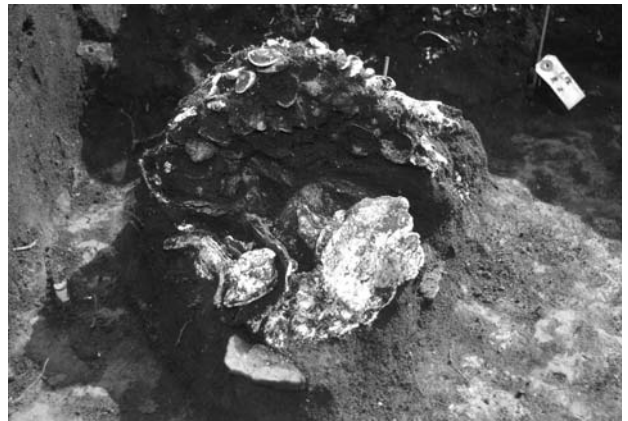
上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況



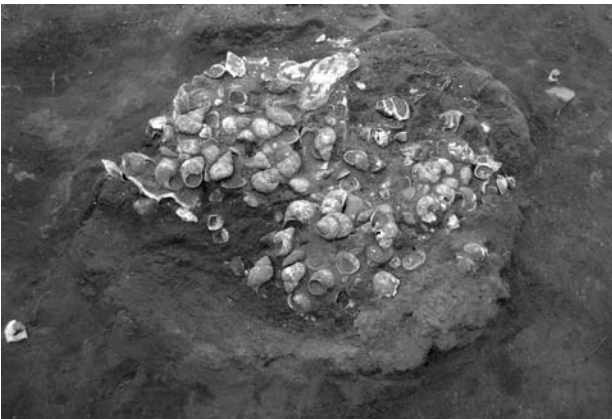
上福岡貝塚第1地点1号住居跡床面遺物出土状況



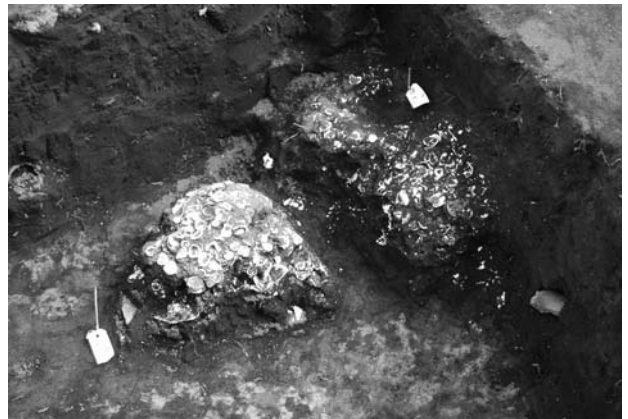
上福岡貝塚第1地点1号住居跡ピット5遺物出土状況



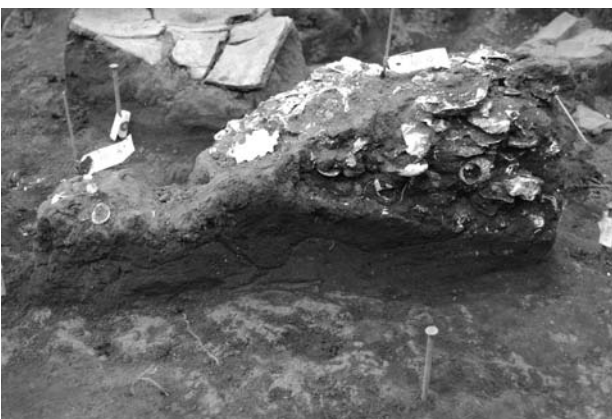
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層1土層



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層2オオタニシ出土状況



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層1・2



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層3・4土層



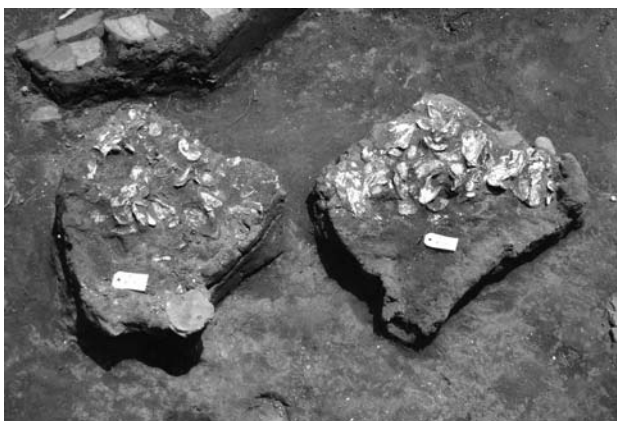
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層5



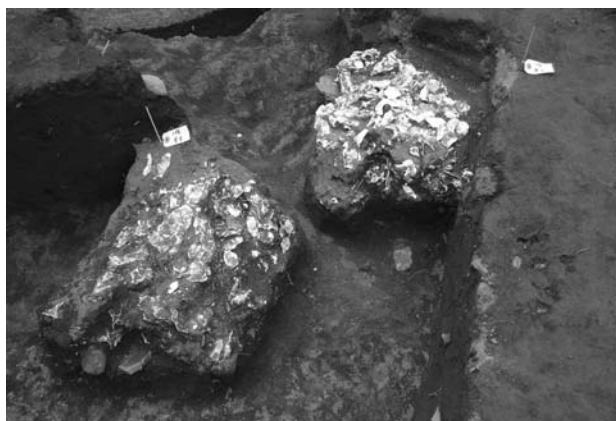
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層6



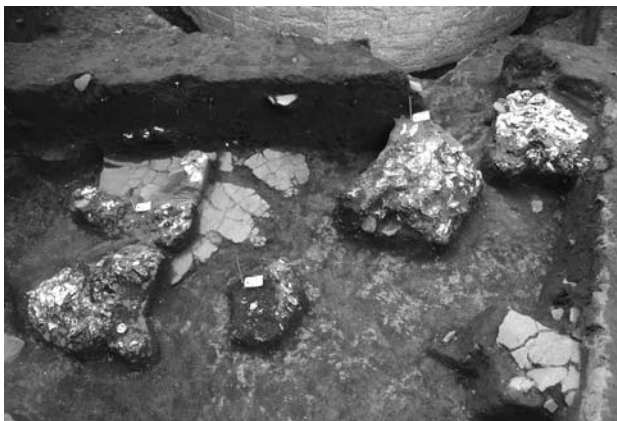
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層7



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層8・9



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層8・9



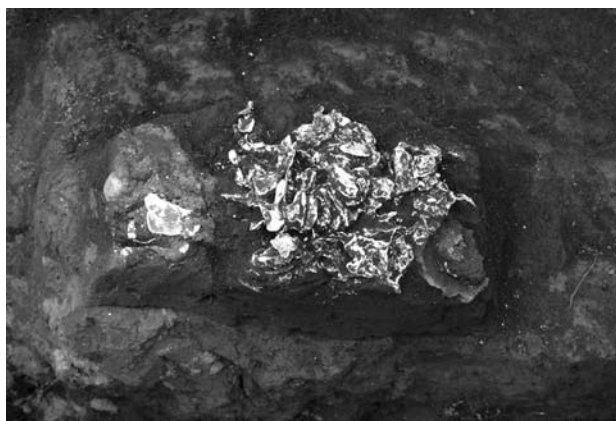
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層10~12



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層11



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層12



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層14



上福岡貝塚第1地点2号住居跡



上福岡貝塚第1地点2号住居跡炉



上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況



上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況



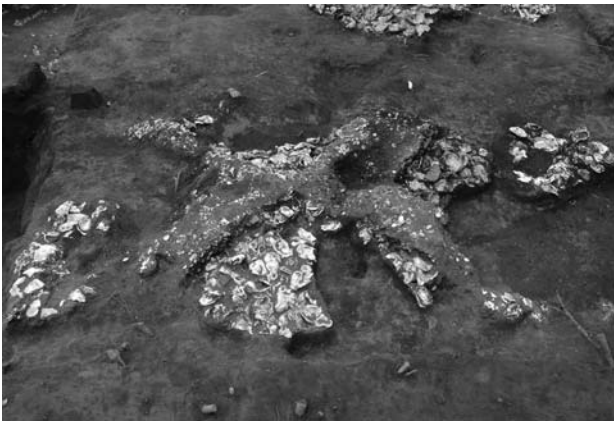
上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況



上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ



上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ



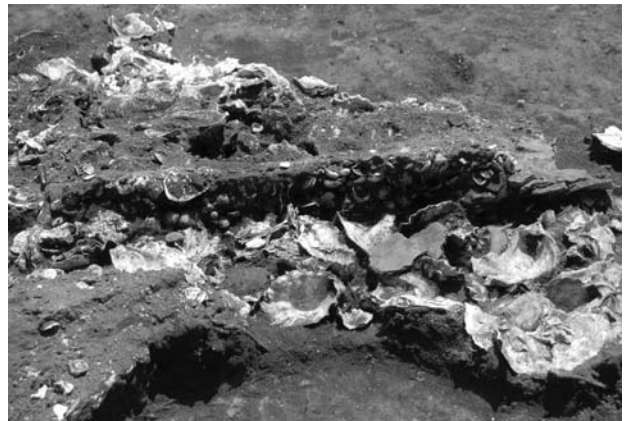
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ



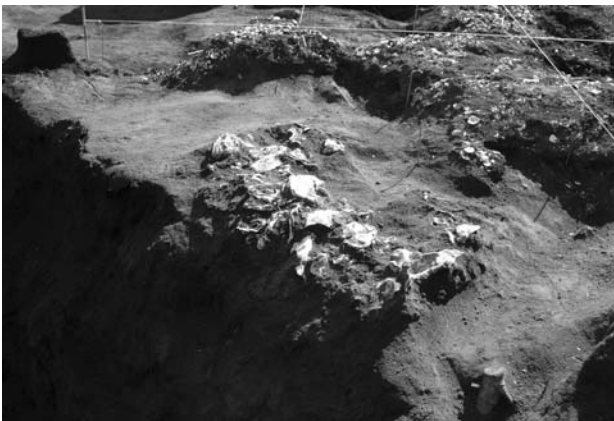
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ～Ⅳマガキ①・②出土状況



上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ土層



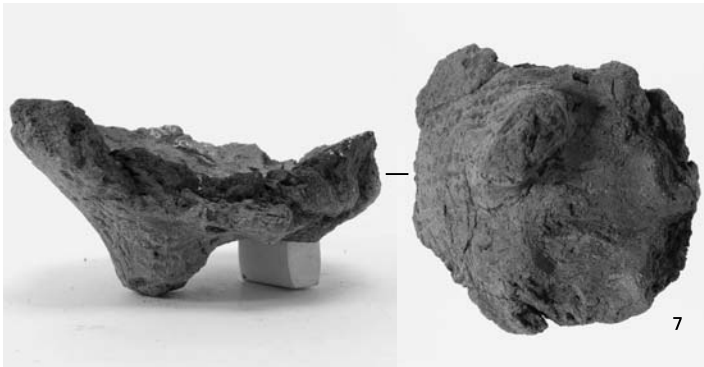
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ土層



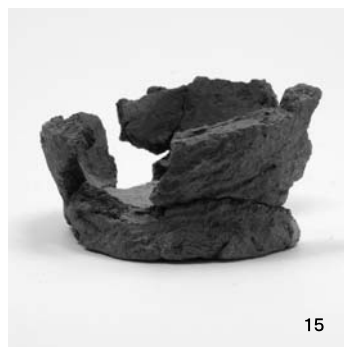
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅲ



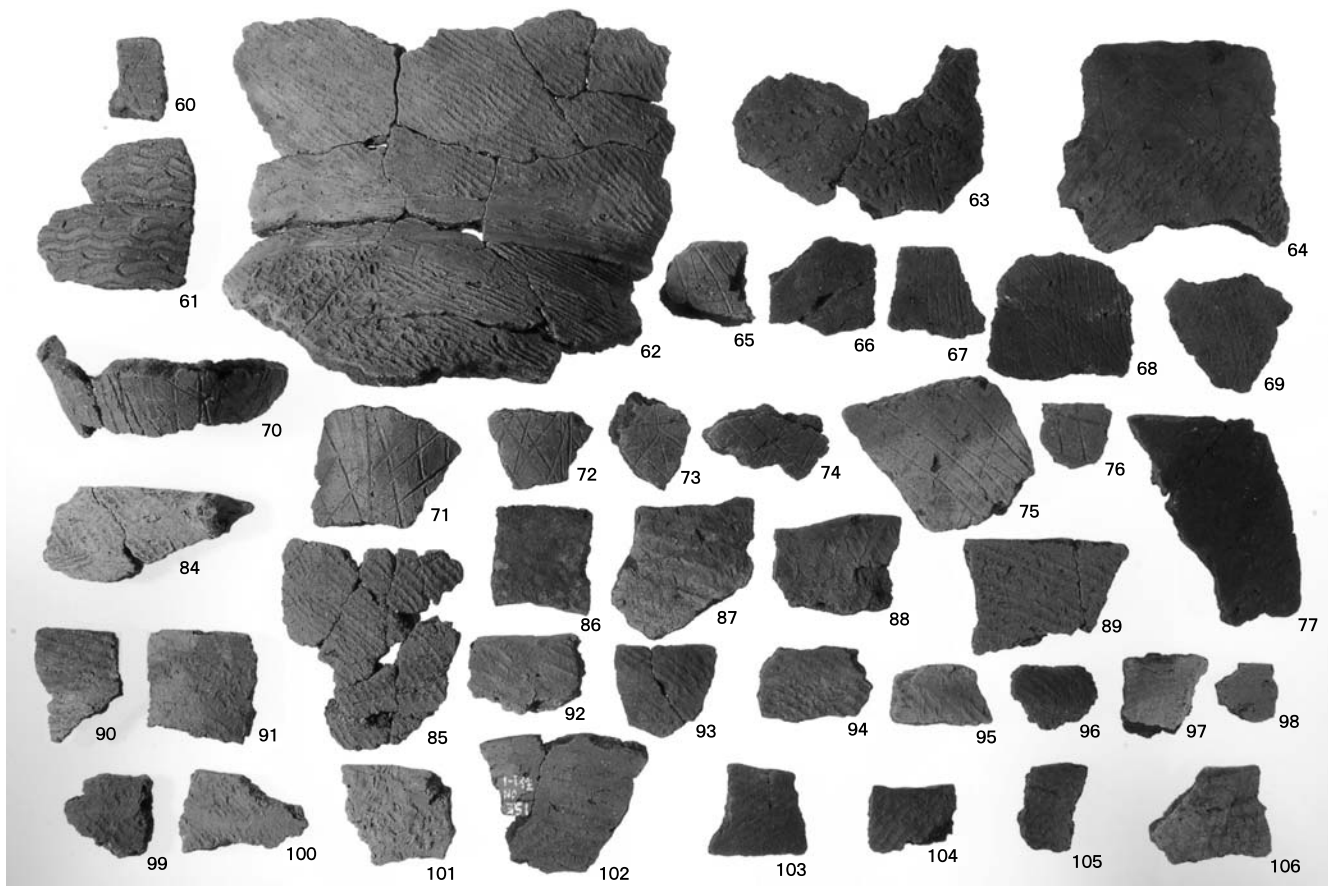
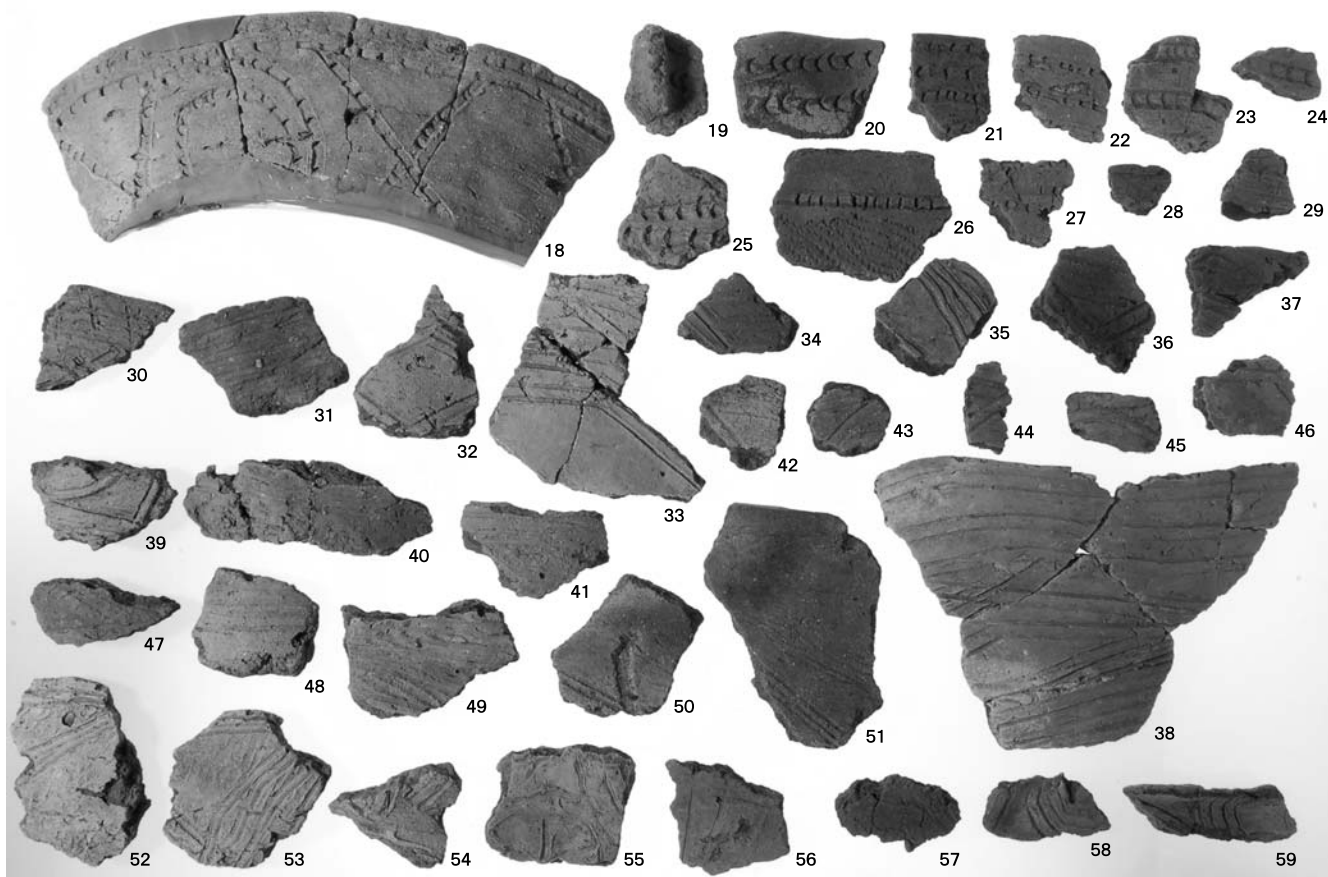
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅳ



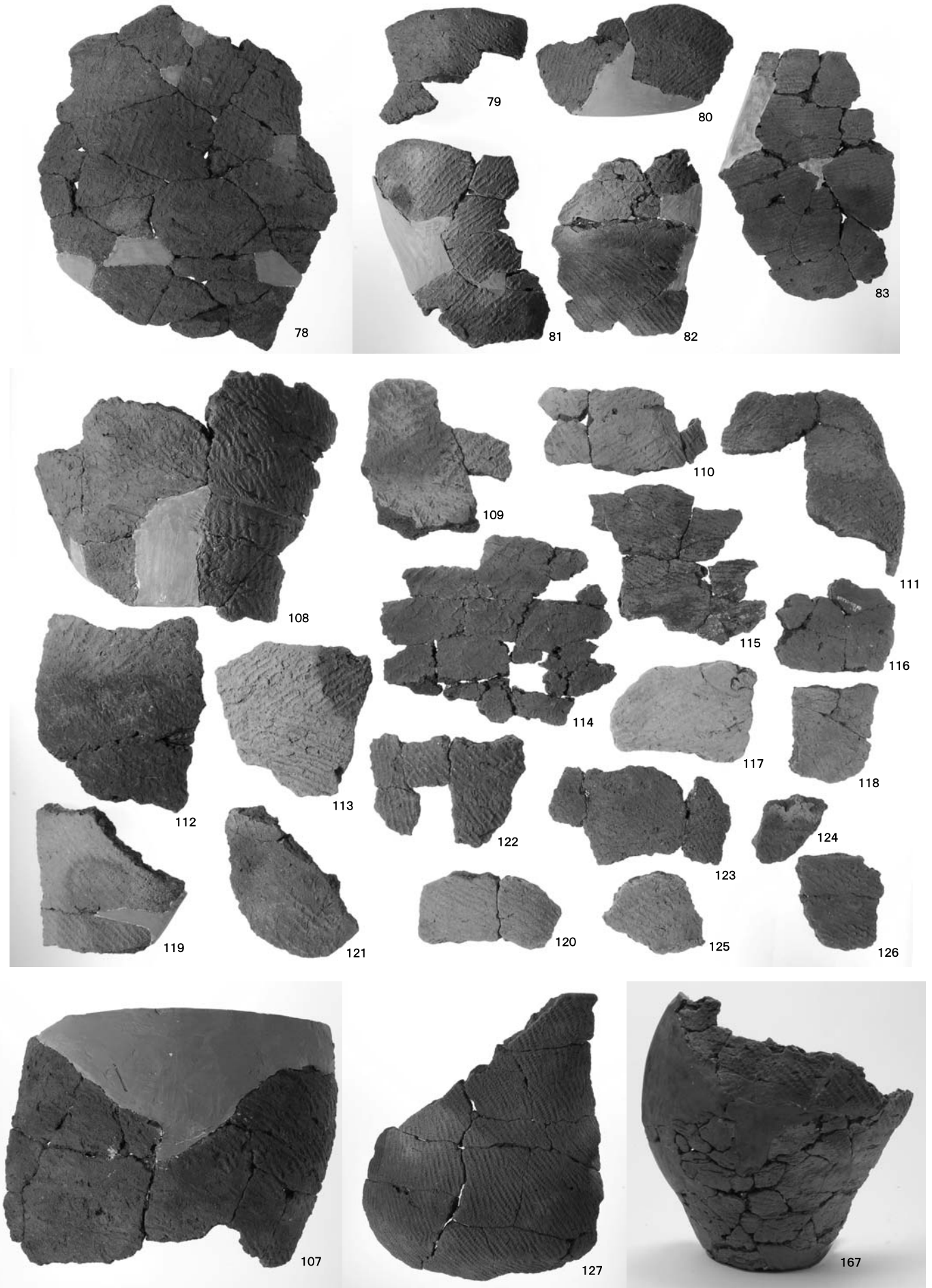
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.1~8



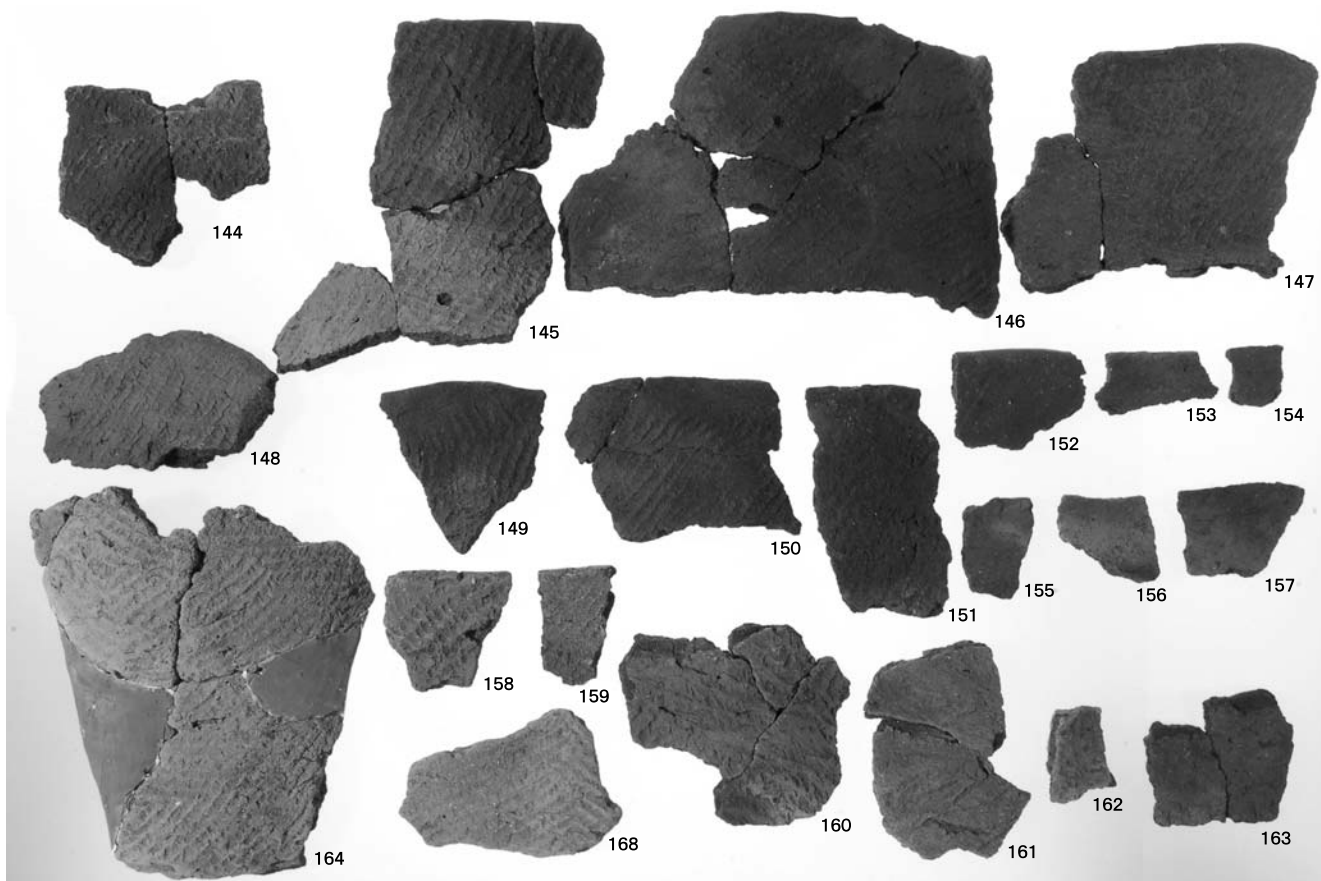
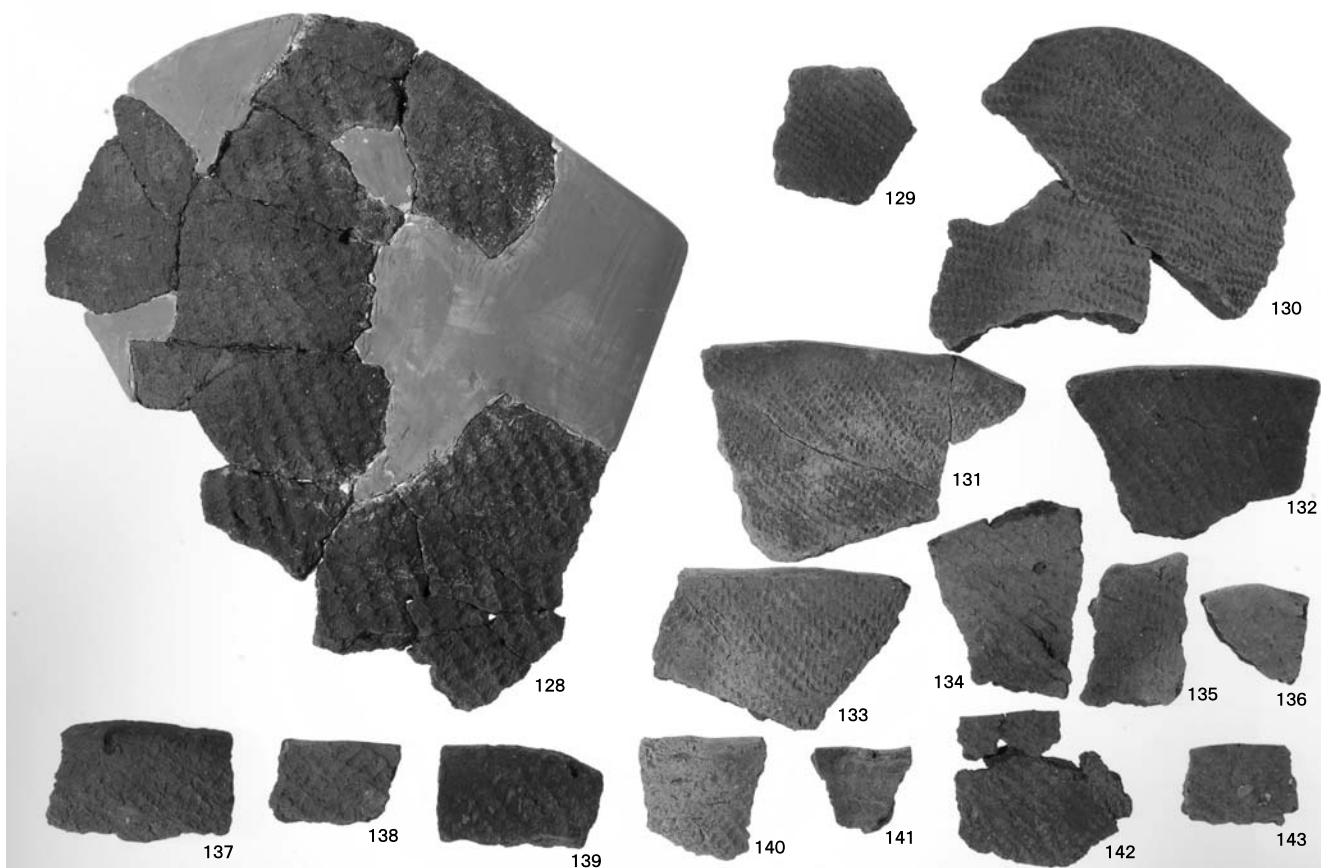
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.9~17



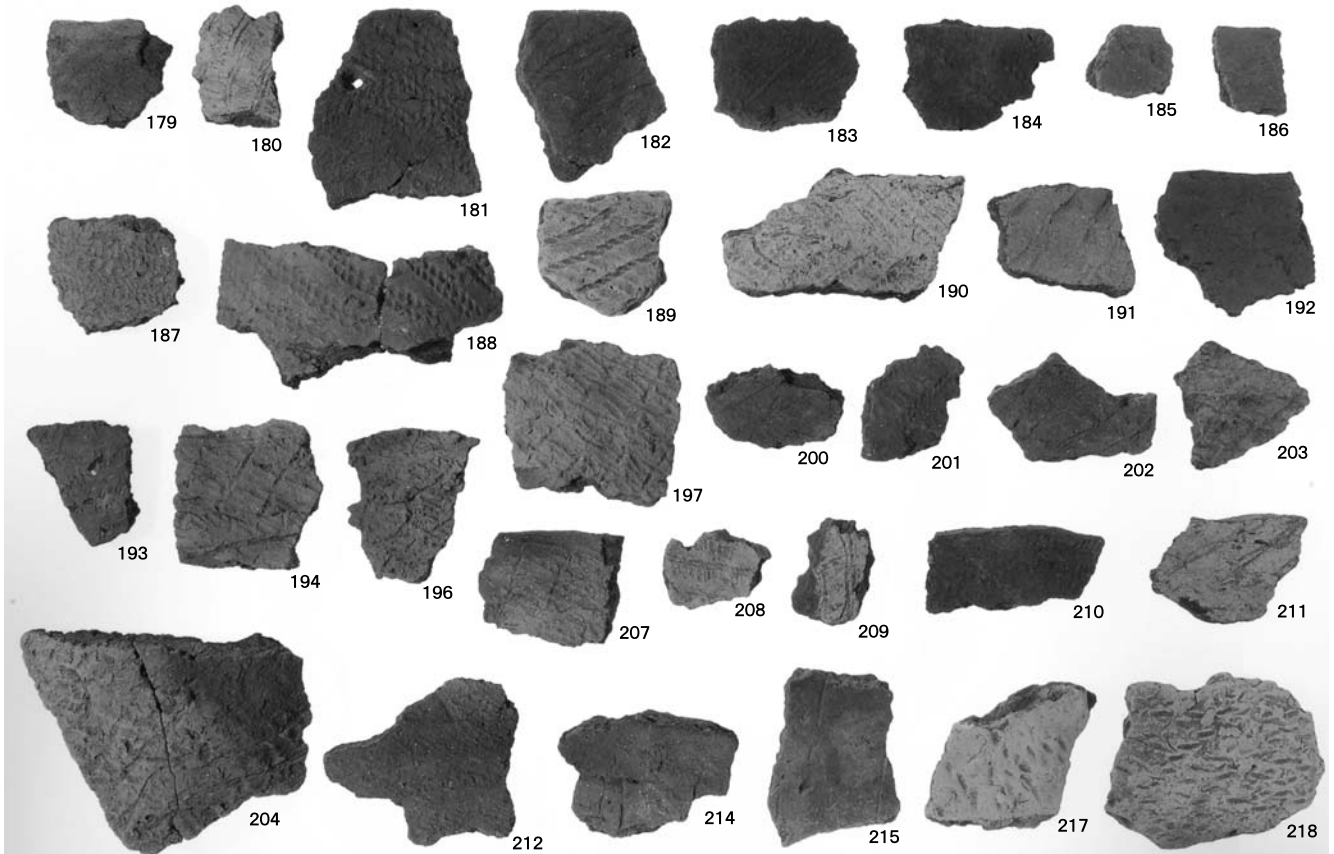
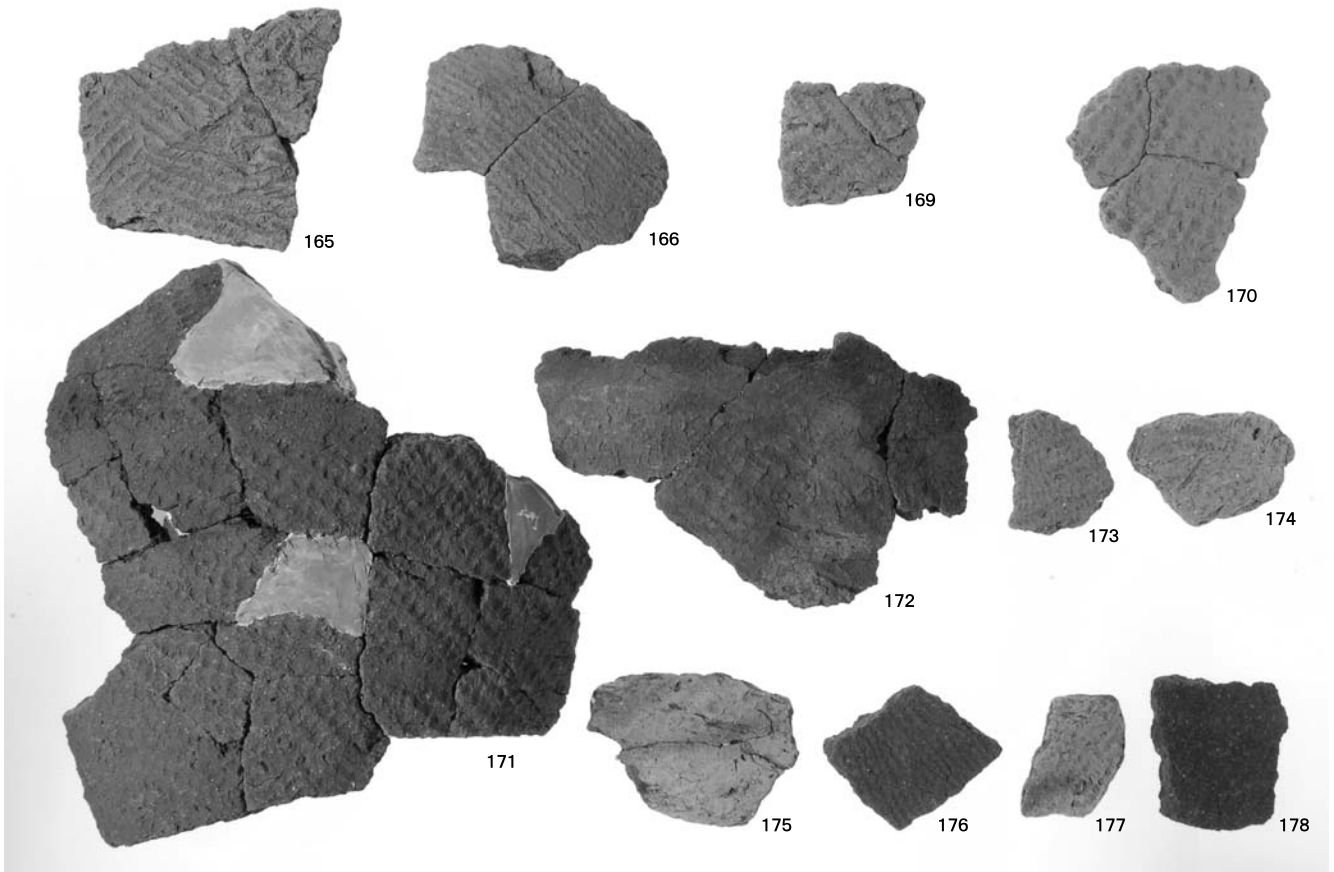
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.18~77・84~106



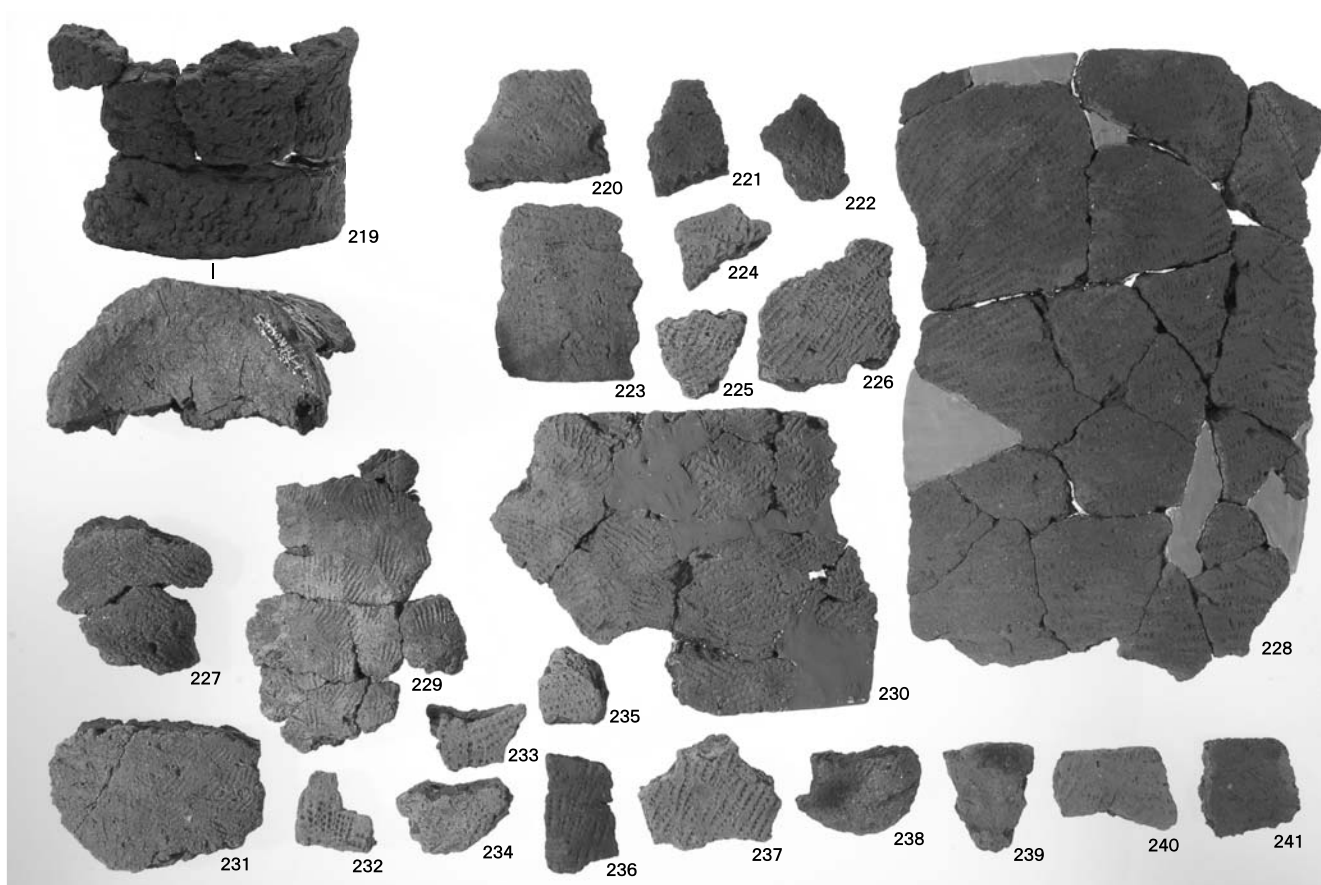
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.78~83・107~127・167



上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.128~164・168



上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.165・166・169～194・196・197・200～204・207～212・214・215・217・218



上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.195・198・199・205・206・213・216・219～241



276



277



278



275



279



281



280



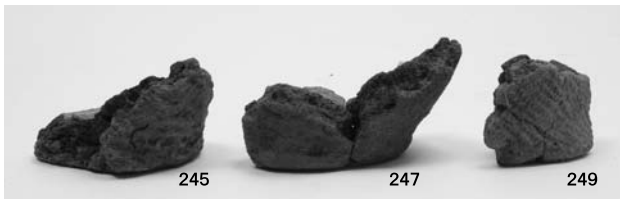
242



243



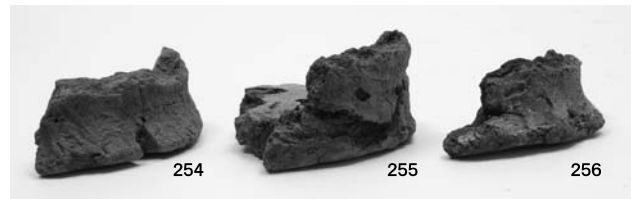
244



245

247

249



254

255

256



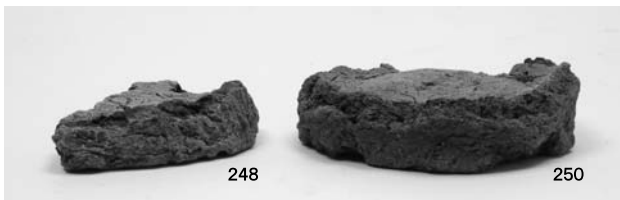
246



257

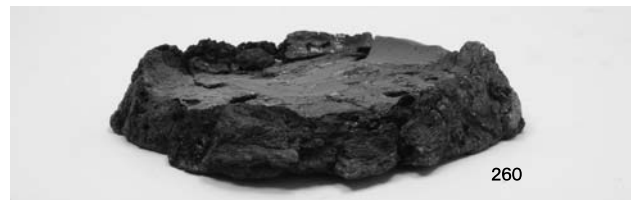
258

259



248

250



260



251

252

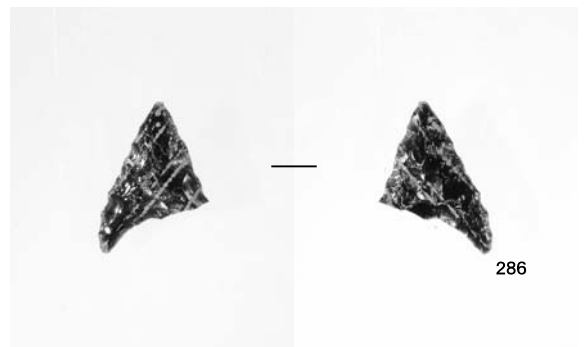
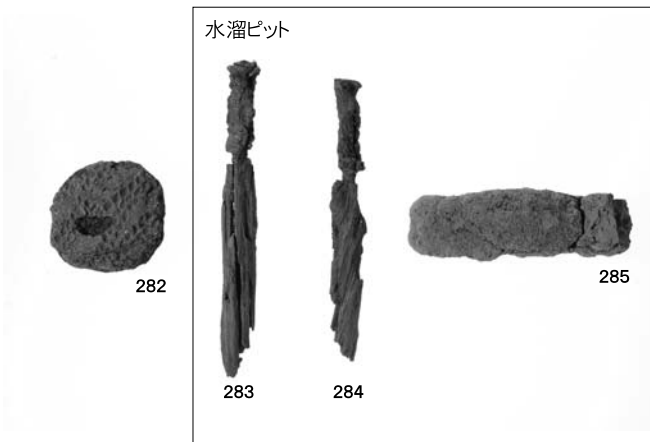
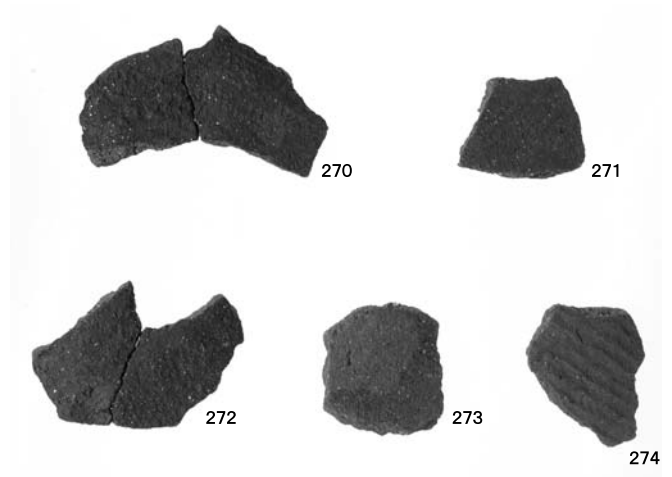
253



261

262

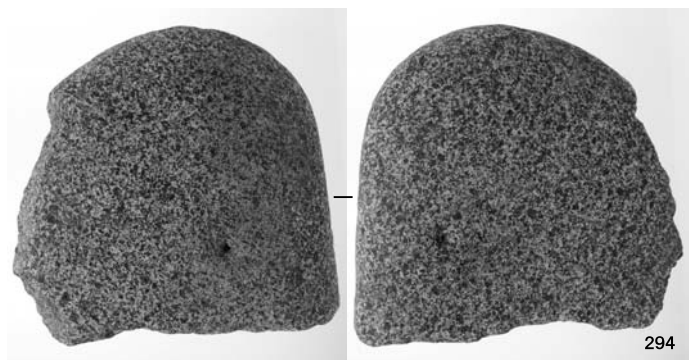
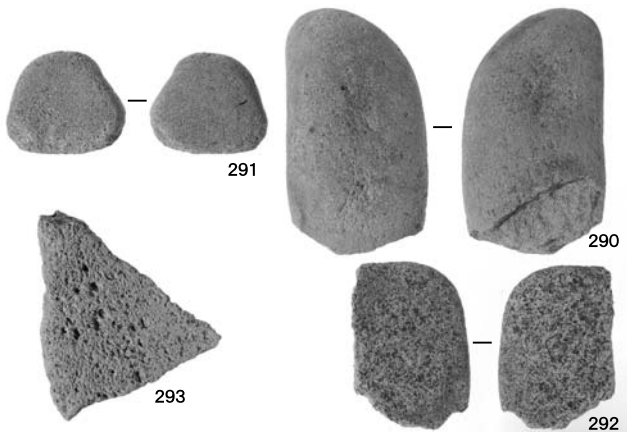
264



No.287~289(表面)



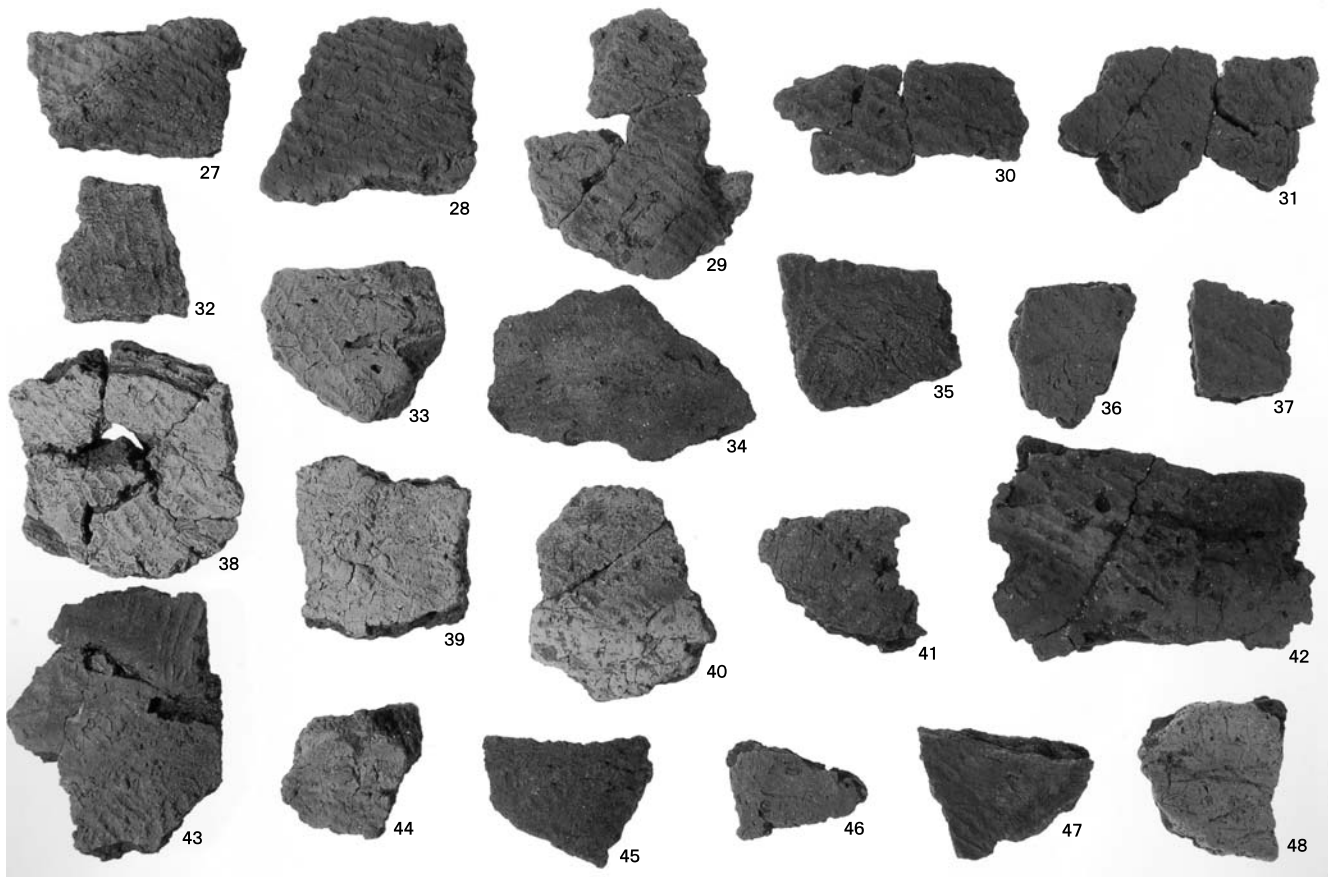
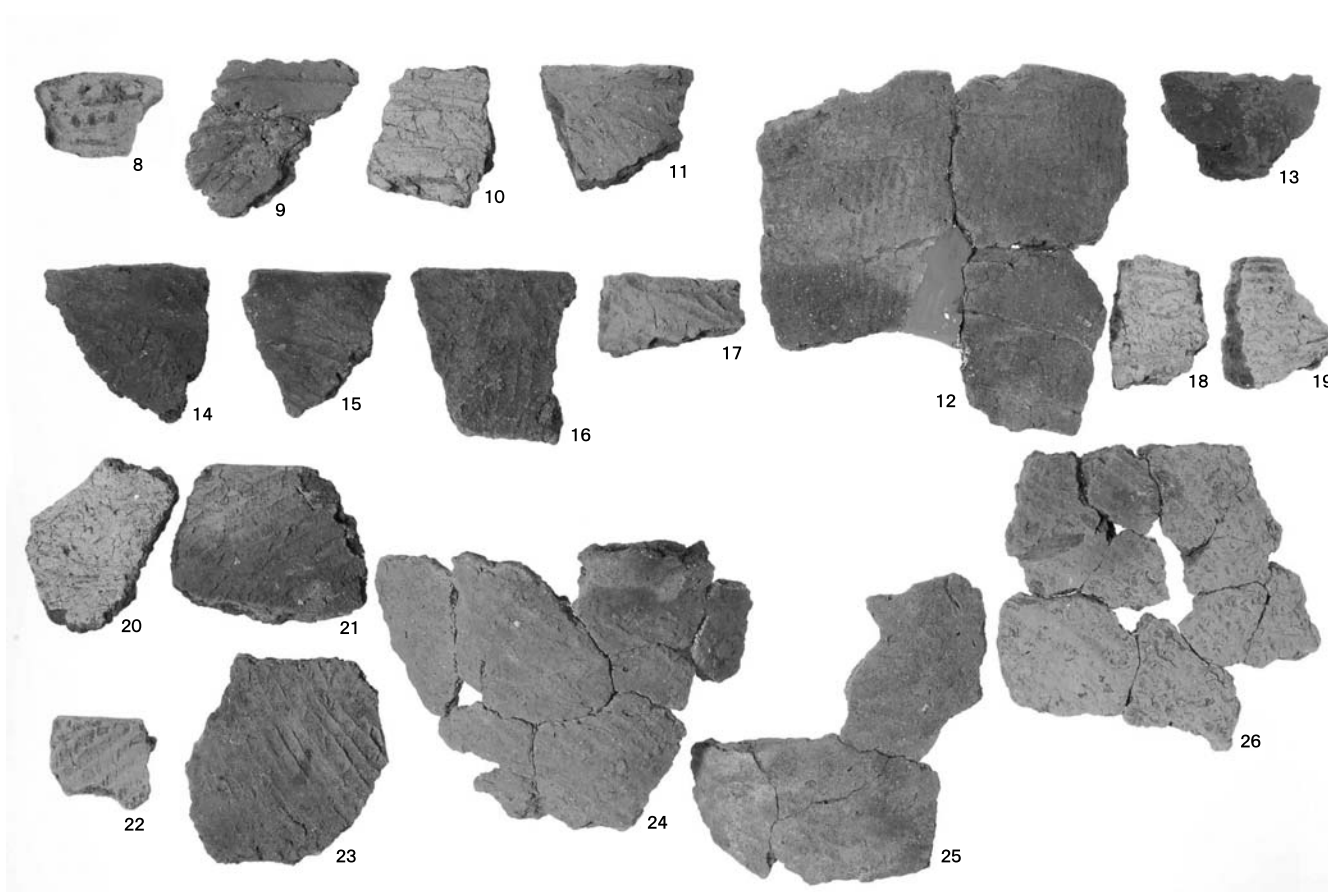
(裏面)



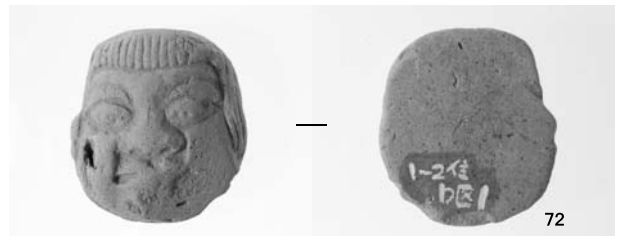
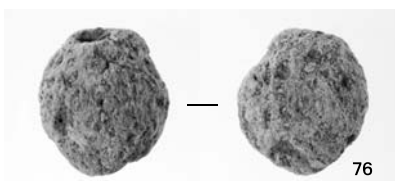
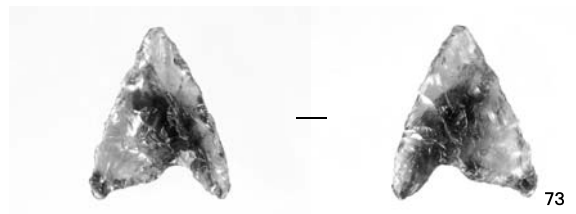
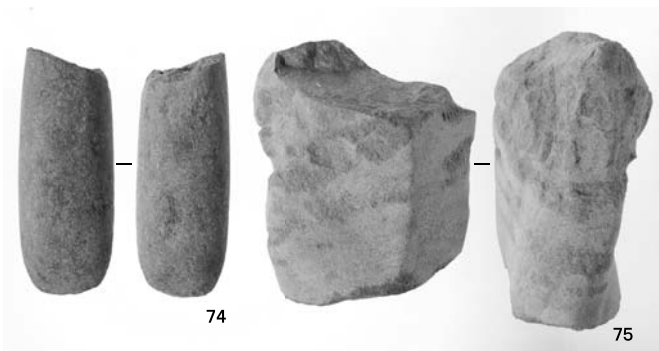
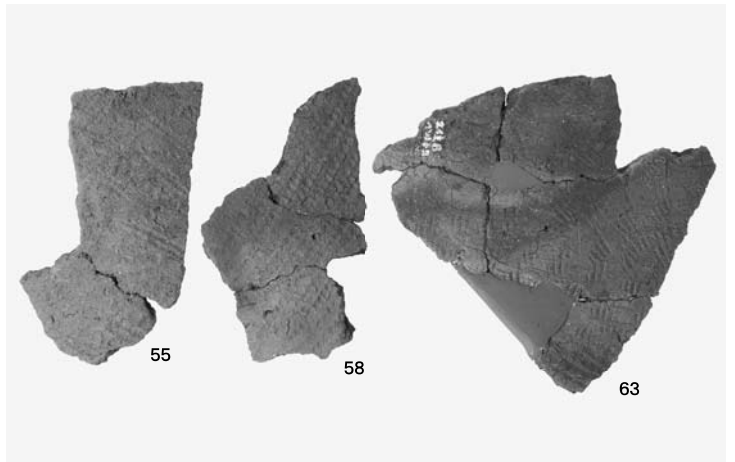
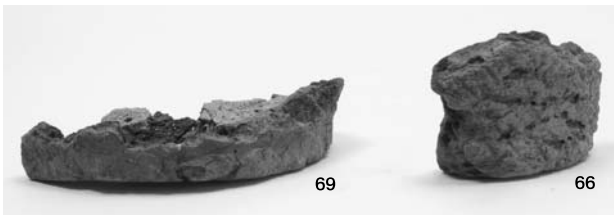
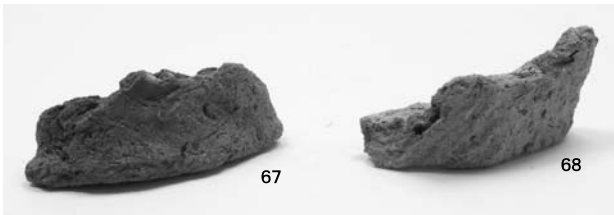
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.263・265~274・282~294、水溜ピット出土遺物



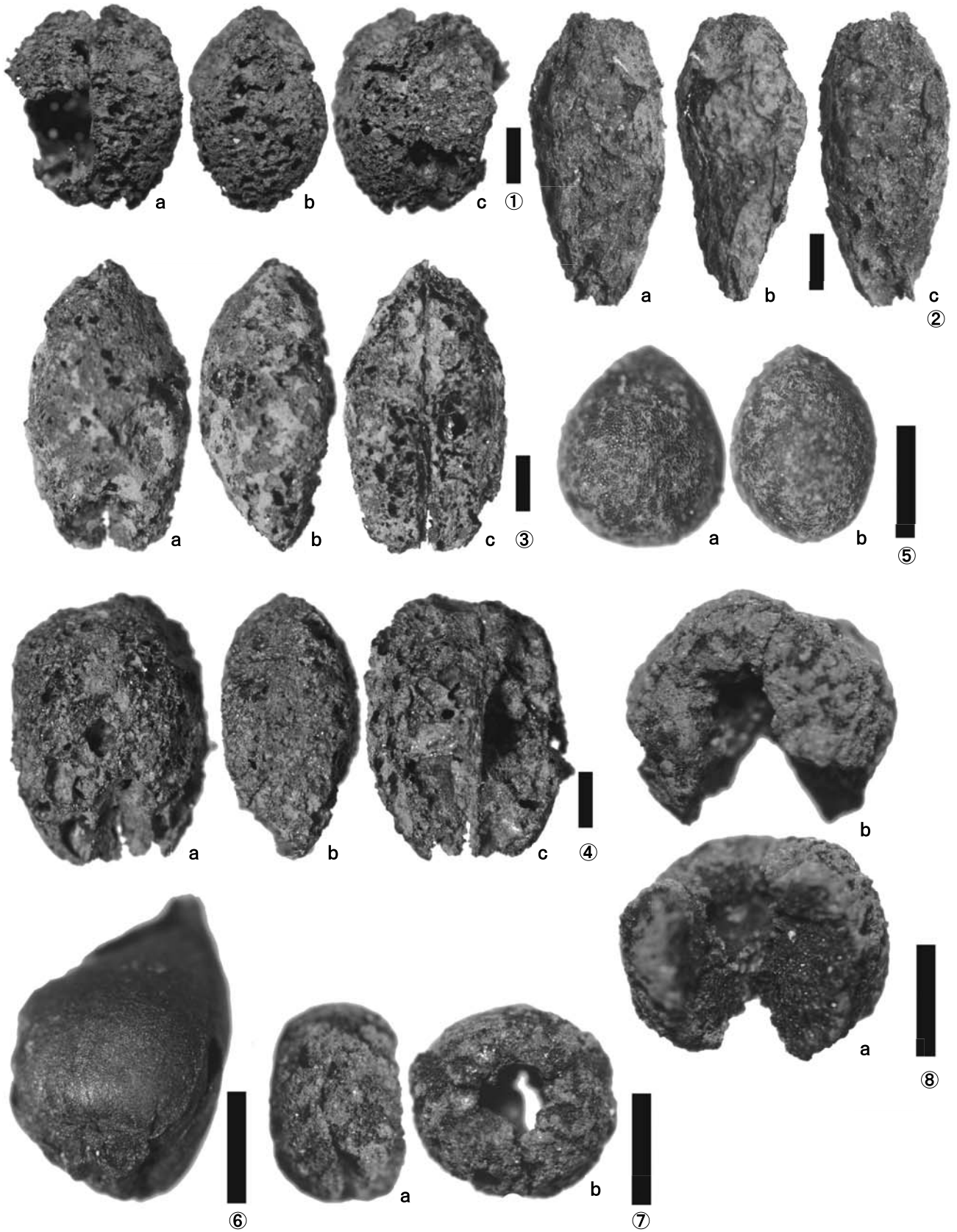
上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物No.1~7



上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物No.8~48



上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物No.49~76



- ①オオムギ 2号住居跡 貝層 I (1層)
- ②オオムギ 2号住居跡 貝層 I (4層)
- ③オオムギ 2号住居跡 貝層 I
- ④コムギ 2号住居跡 貝層 I (1層)

- ⑤涙滴型種子 2号住居跡 貝層 II
- ⑥タデ属 2号住居跡 貝層 V
- ⑦ビーズ状体 2号住居跡 貝層 II
- ⑧ビーズ状体 2号住居跡 貝層 V

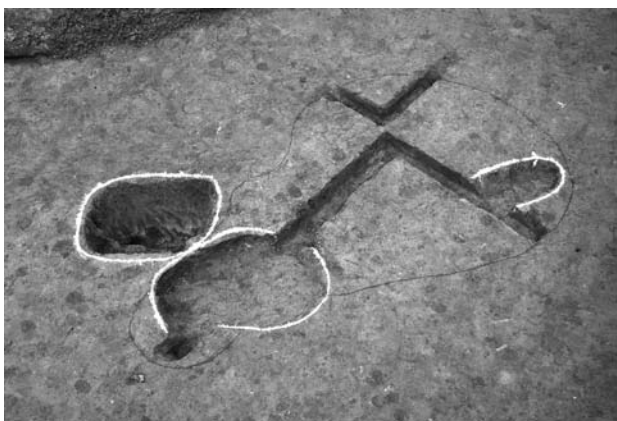
黒棒は1mm、a, b, cは同一資料の異なった方向からの写真。



滝遺跡第13地点試掘調査近景



滝遺跡第13地点試掘調査トレンチ1・2



滝遺跡第13地点焼土2・ピット11



滝遺跡第13地点土坑1、ピット9・10、溝1



滝遺跡第13地点ピット3～6



滝遺跡第14地点近景



滝遺跡第14地点試掘調査トレンチ1



滝遺跡第14地点溝4



滝遺跡第14地点13号住居跡



滝遺跡第14地点13号住居跡貼り床



滝遺跡第14地点13号住居跡竈



滝遺跡第14地点13号住居跡



滝遺跡第14地点13号住居跡



滝遺跡第14地点14号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第14地点14号住居跡竈周辺遺物出土状況



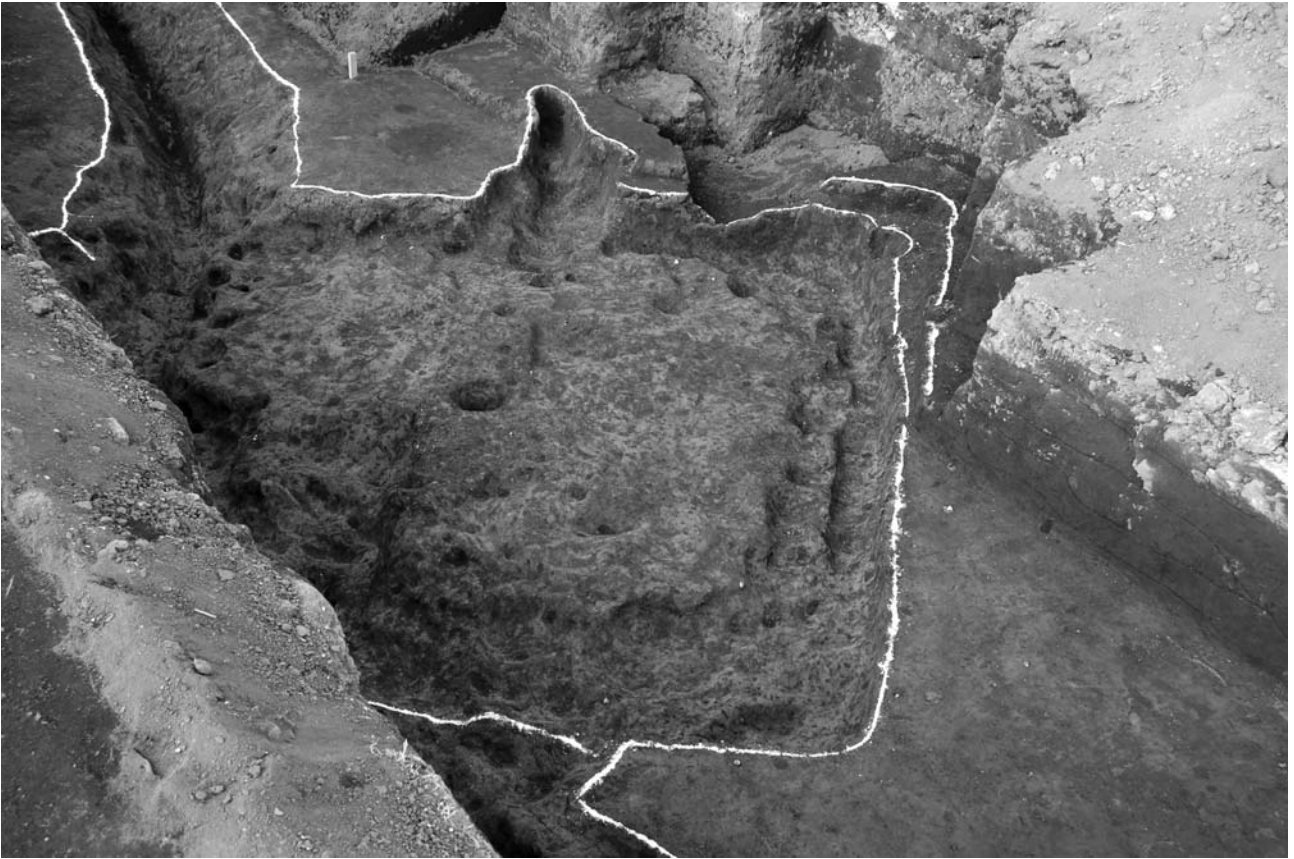
滝遺跡第14地点14号住居跡遺物出土状況



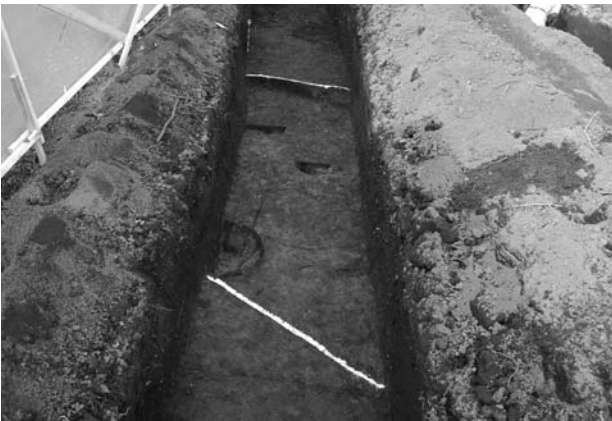
滝遺跡第14地点14号住居跡完掘



滝遺跡第14地点14号住居跡竈



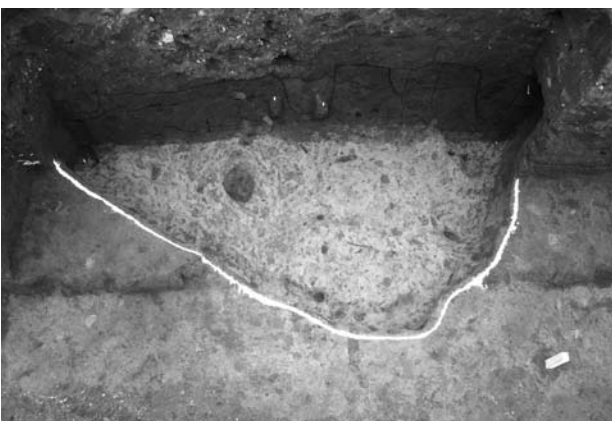
滝遺跡第14地点14号住居跡



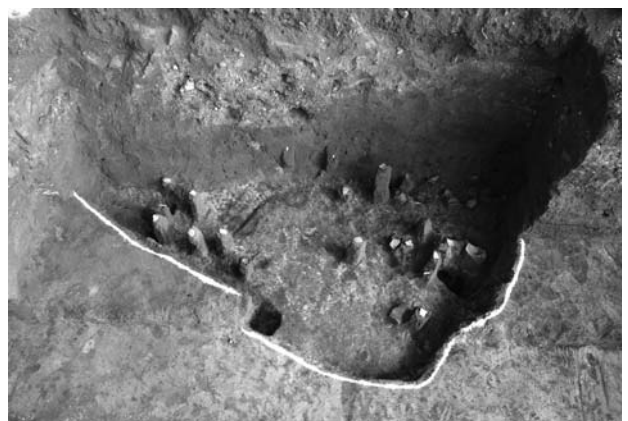
滝遺跡第14地点15号住居跡



滝遺跡第14地点15号住居跡



滝遺跡第14地点16号住居跡



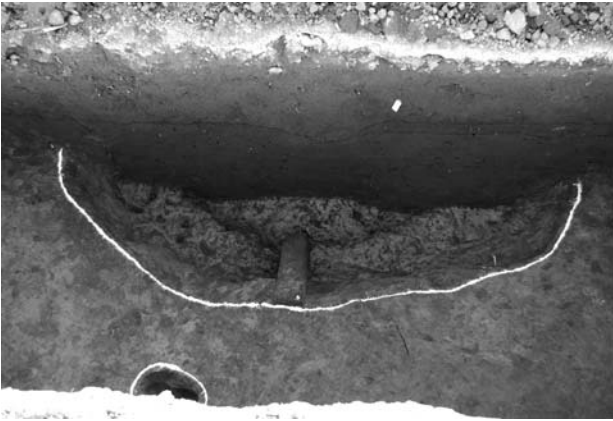
滝遺跡第14地点16号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第14地点16号住居跡土層



滝遺跡第14地点17号住居跡



滝遺跡第14地点17号住居跡



滝遺跡第14地点18号住居跡、溝2・3



滝遺跡第14地点18号住居跡、溝2・3



滝遺跡第14地点溝1



滝遺跡第14地点溝5

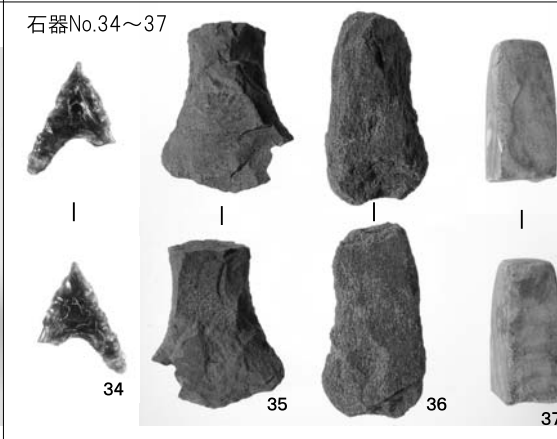
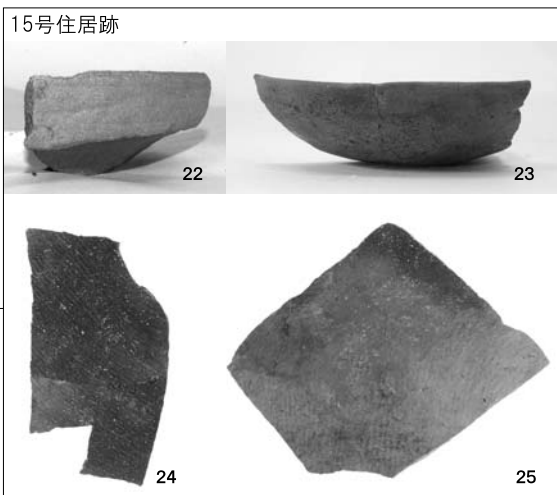
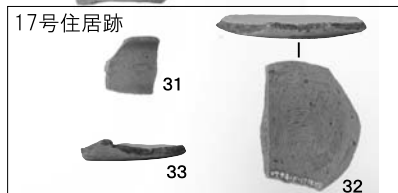


滝遺跡第14地点土坑1

13号住居跡



14号住居跡

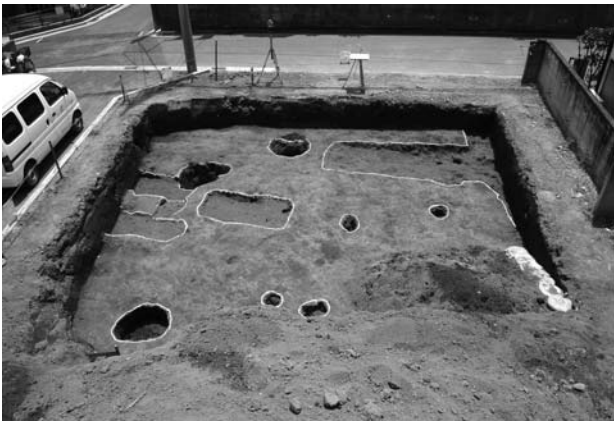




長宮遺跡第27地点試掘調査近景



長宮遺跡第27地点試掘調査全景



長宮遺跡第28地点本調査南側全景



長宮遺跡第28地点土坑1



長宮遺跡第28地点土坑2・7~10、井戸5、ピット8・9・13



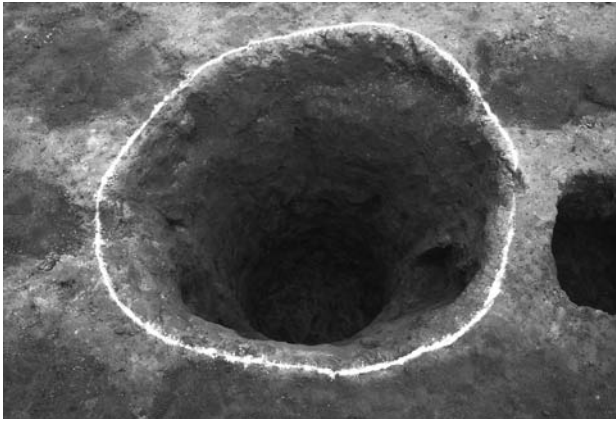
長宮遺跡第28地点土坑7~10、井戸4・5、ピット13



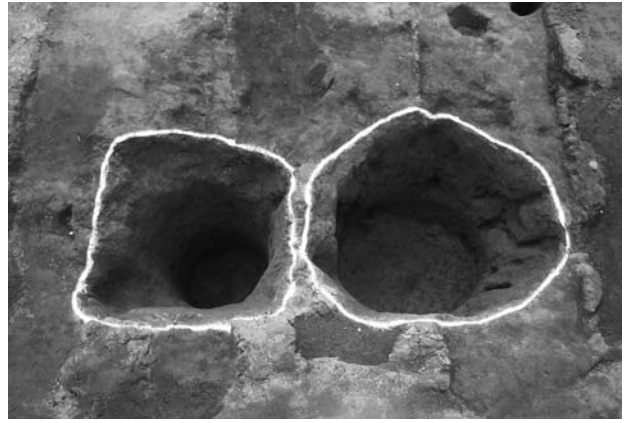
長宮遺跡第28地点土坑8~10、ピット13



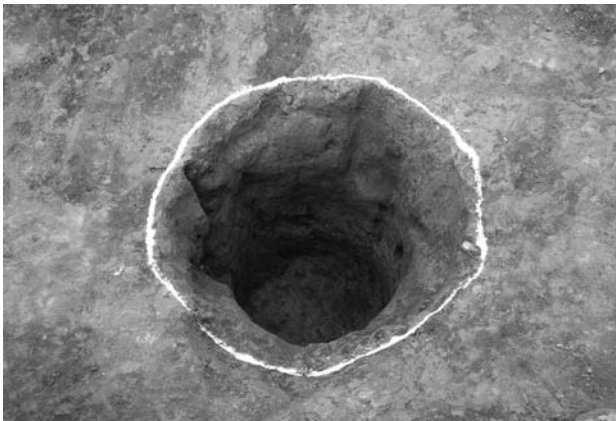
長宮遺跡第28地点本調査北側全景



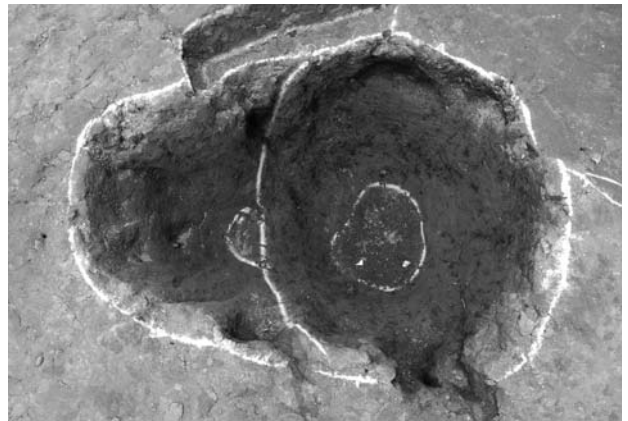
長宮遺跡第28地点井戸1



長宮遺跡第28地点井戸2・3



長宮遺跡第28地点井戸4



長宮遺跡第28地点井戸5

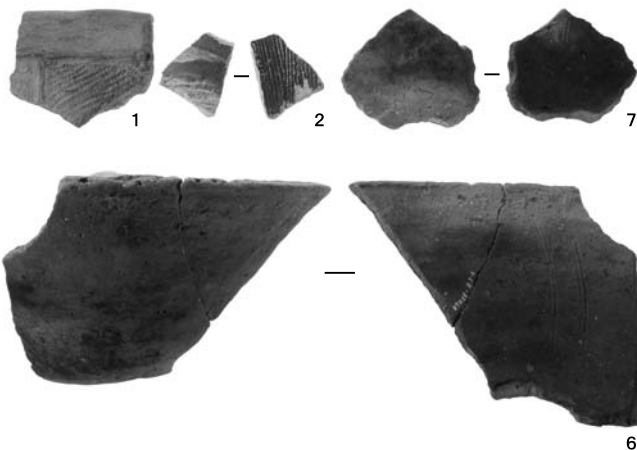


長宮遺跡第28地点本調査南側ピット群



長宮遺跡第28地点本調査北側全景

井戸1・3



長宮遺跡第28地点出土遺物No.1~8

遺構外



長宮遺跡第28地点出土遺物No.9

遺構外



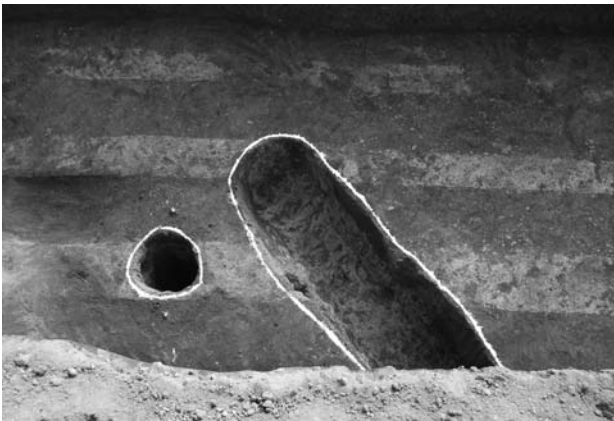
長宮遺跡第28地点出土遺物No.10・11



長宮遺跡第29地点試掘調査全景



長宮遺跡第29地点トレンチ1、溝4・5



長宮遺跡第29地点トレンチ1、溝3、ピット10



長宮遺跡第29地点トレンチ2、溝



長宮遺跡第29地点トレンチ3、溝、ピット4・5



長宮遺跡第29地点トレンチ3、堀



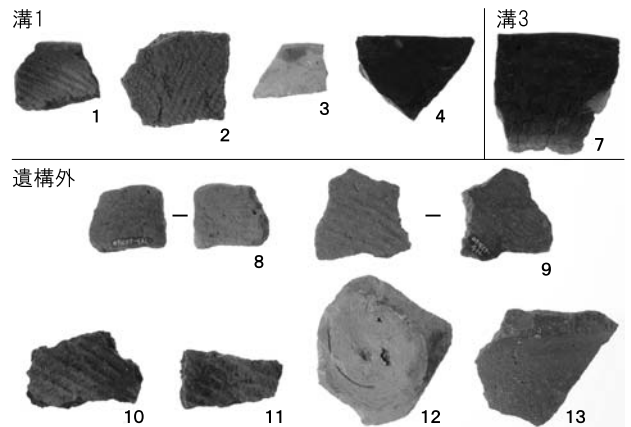
長宮遺跡第29地点堀遺物出土状況



長宮遺跡第29地点井戸 1



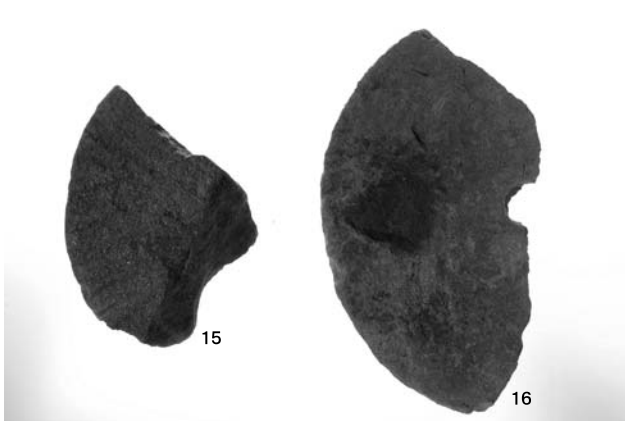
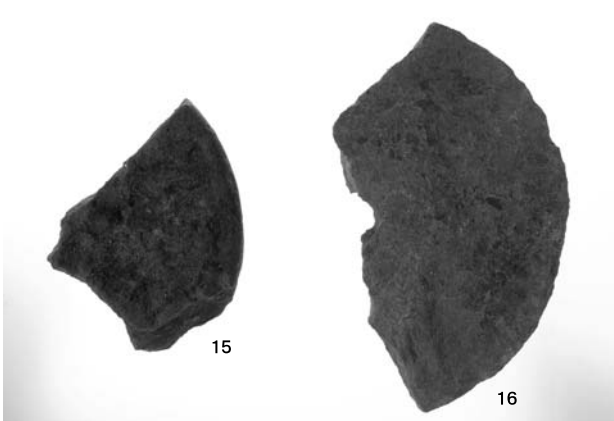
長宮遺跡第29地点井戸 2



長宮遺跡第29地点溝 1・3・遺構外出土遺物
No.1~4・7~13



長宮遺跡第29地点溝 2・遺構外出土遺物No.5・6・14 (左：表面、右：裏面)



長宮遺跡第29地点遺構外出土遺物No.15・16 (左：表面、右：裏面)



亀居遺跡第62地点試掘調査近景



亀居遺跡第62地点本調査全景



亀居遺跡第62地点本調査全景



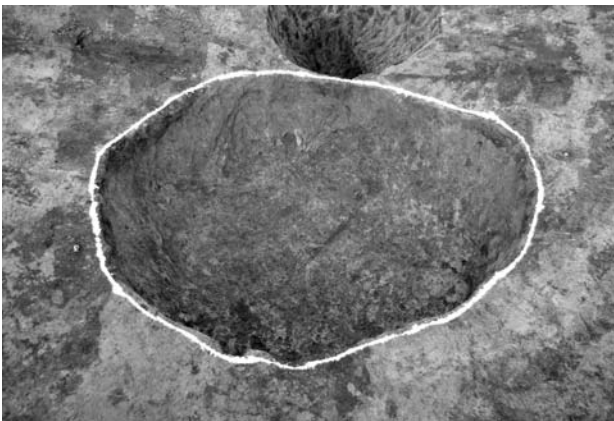
亀居遺跡第62地点本調査表土除去風景



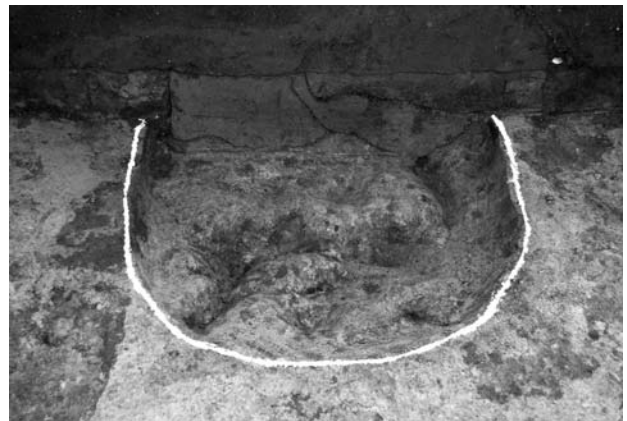
亀居遺跡第62地点本調査全景



亀居遺跡第62地点土坑 3



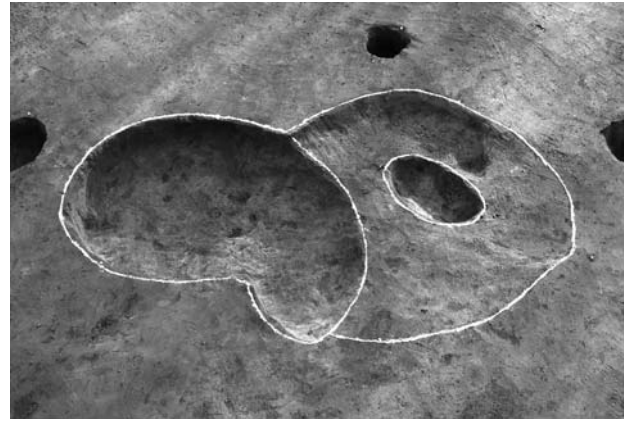
亀居遺跡第62地点土坑 4



亀居遺跡第62地点土坑 5



亀居遺跡第62地点土坑6



亀居遺跡第62地点土坑7・8



亀居遺跡第62地点土坑1・9



亀居遺跡第62地点土坑9 遺物出土状況



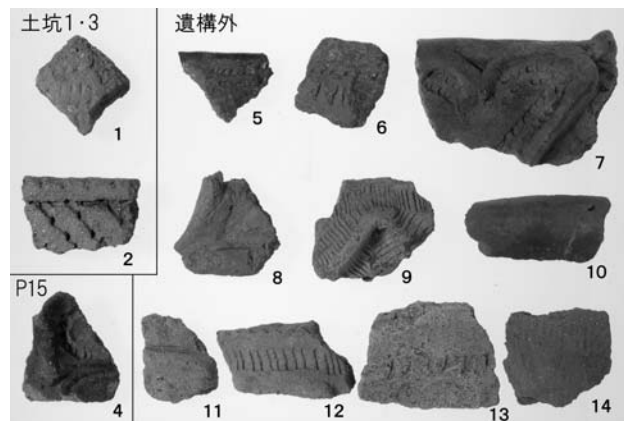
亀居遺跡第62地点土坑10、ピット25



亀居遺跡第62地点土坑11



亀居遺跡第62地点土坑9 出土土器



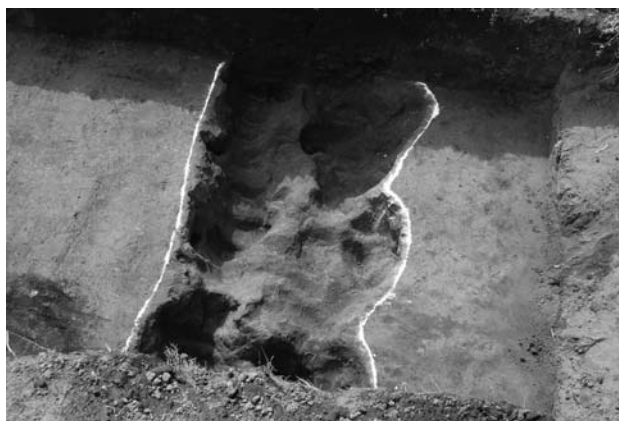
亀居遺跡第62地点土坑1・3、ピット15、遺構外出土遺物
No.1・2・4~14



松山遺跡第43地点試掘調査近景



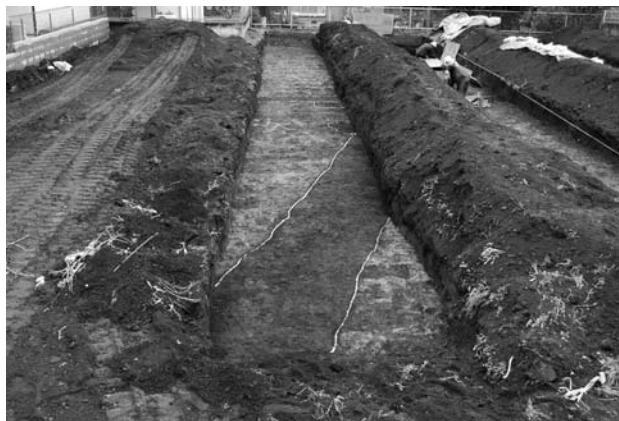
松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ 1



松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ 2



松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ 3



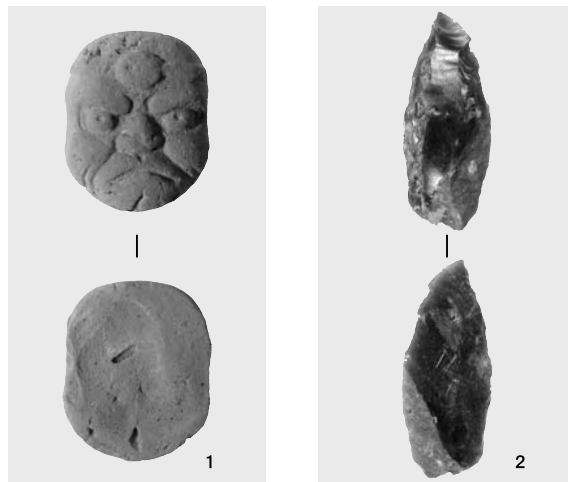
松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ 4



松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ 4



松山遺跡第43地点土坑 1



松山遺跡第43地点出土遺物No.1・2



江川東遺跡第14地点試掘調査トレンチ1



江川東遺跡第14地点試掘調査トレンチ2



江川東遺跡第15地点試掘調査トレンチ1・2



江川東遺跡第15地点試掘調査トレンチ3・4



江川東遺跡第15地点出土遺物



東久保遺跡第65地点試掘調査トレンチ1



東久保遺跡第65地点試掘調査トレンチ2



東中学校西遺跡第31地点近景



駒林遺跡第4地点試掘調査近景



駒林遺跡第4地点試掘調査トレンチ1



駒林遺跡第4地点土坑1



駒林遺跡第4地点試掘調査風景



福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ1



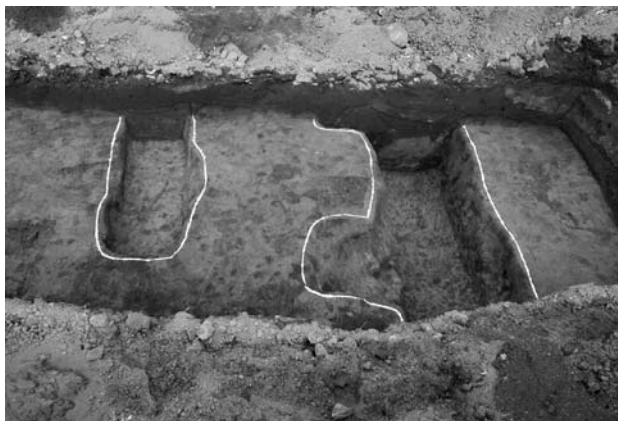
福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ2



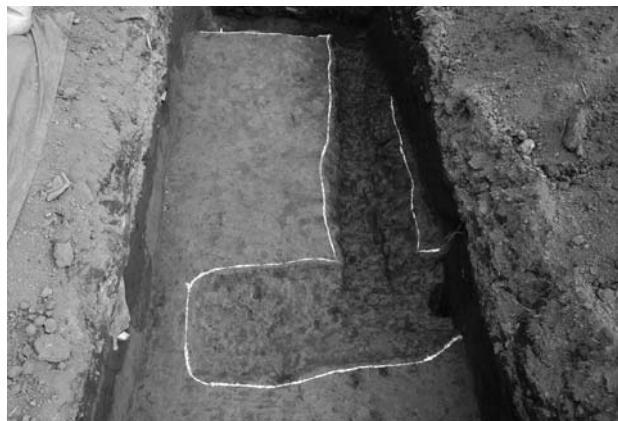
福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ3



福岡新田遺跡第1地点土坑4、溝1



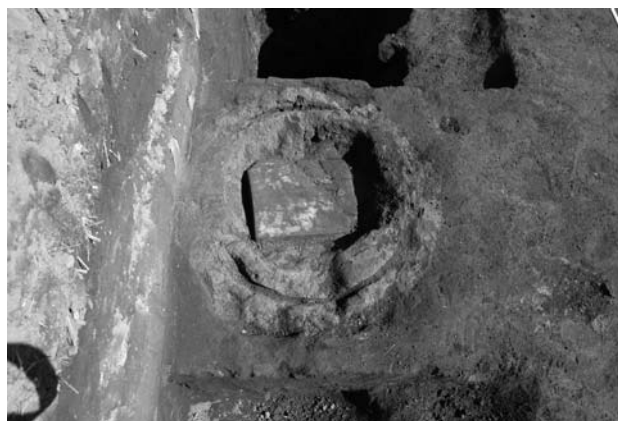
福岡新田遺跡第1地点土坑4、溝1



福岡新田遺跡第1地点土坑5、溝5



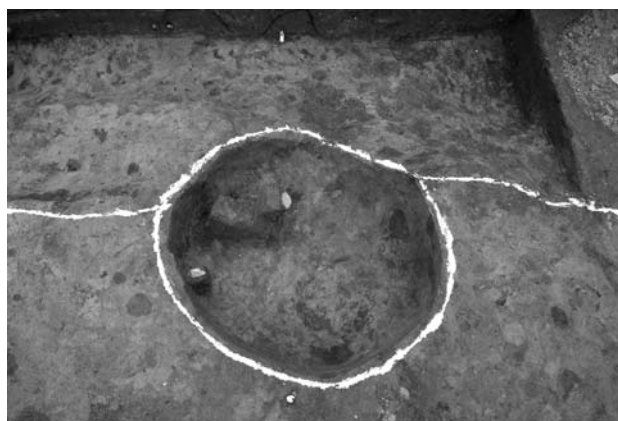
福岡新田遺跡第1地点土坑6、溝2



福岡新田遺跡第1地点井戸2



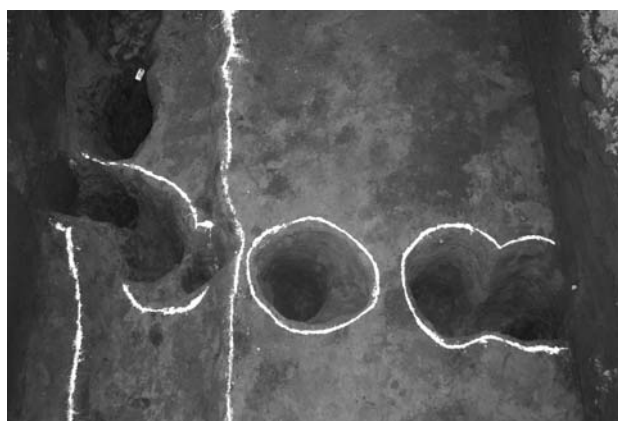
福岡新田遺跡第1地点ピット1～4



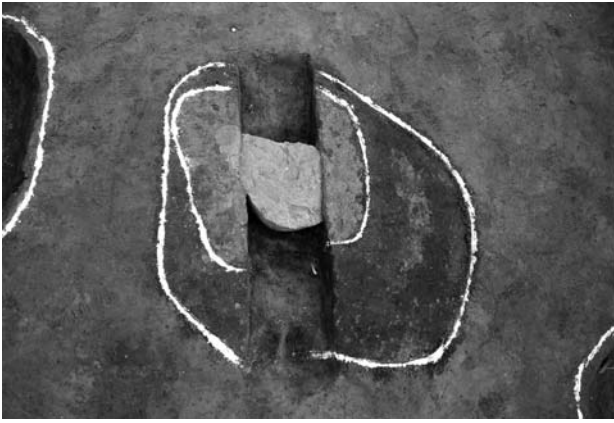
福岡新田遺跡第1地点ピット7



福岡新田遺跡第1地点ピット9・10



福岡新田遺跡第1地点ピット16～20



福岡新田遺跡第1地点礎石



福岡新田遺跡第1地点縄文土器出土状況



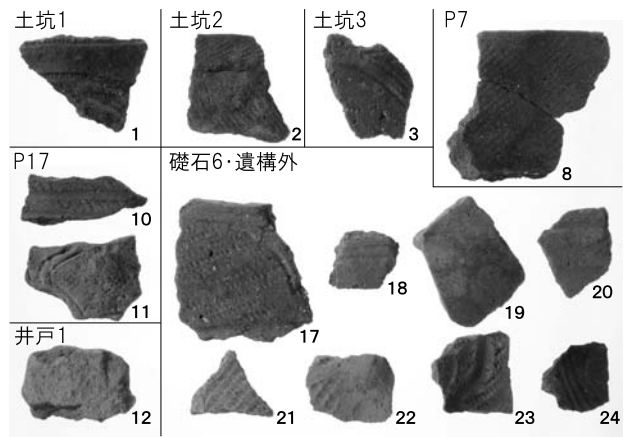
福岡新田遺跡第1地点礎石3



福岡新田遺跡第1地点試掘調査風景



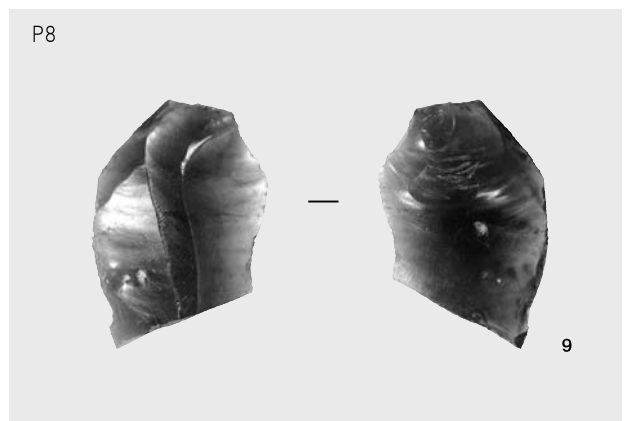
福岡新田遺跡第1地点試掘調査風景



福岡新田遺跡第1地点出土遺物
No.1~3・8・10~12・17~24



福岡新田遺跡第1地点出土遺物No. 4

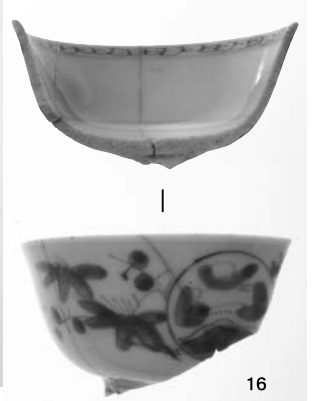


福岡新田遺跡第1地点出土遺物No. 9

土坑4



溝1



井戸2



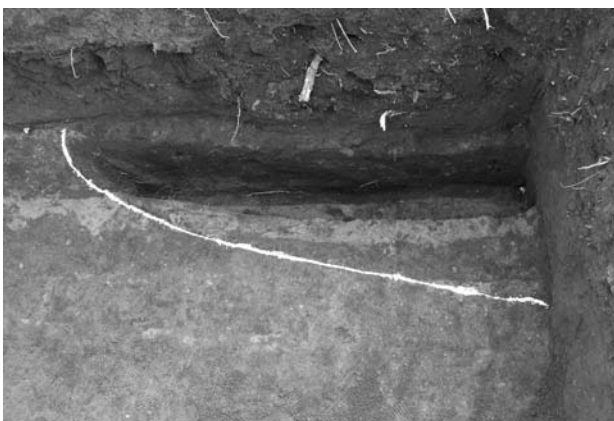
福岡新田遺跡第1地点出土遺物No.5~7・13~16



西ノ原遺跡第135地点試掘調査トレンチ1



西ノ原遺跡第135地点試掘調査トレンチ2



西ノ原遺跡第135地点土坑



西ノ原遺跡第135地点ピット1~3



西ノ原遺跡第140地点試掘調査近景



西ノ原遺跡第140地点試掘調査トレンチ 1



西ノ原遺跡第140地点試掘調査トレンチ 2



西ノ原遺跡第140地点試掘調査トレンチ 4・5



西ノ原遺跡第141地点試掘調査トレンチ 1



西ノ原遺跡第141地点試掘調査トレンチ 2



西ノ原遺跡第141地点土坑



西ノ原遺跡第141地点ピット



神明後遺跡第31地点試掘調査トレンチ1



神明後遺跡第31地点試掘調査トレンチ4



神明後遺跡第31地点土坑1・2



神明後遺跡第32地点試掘調査トレンチ1



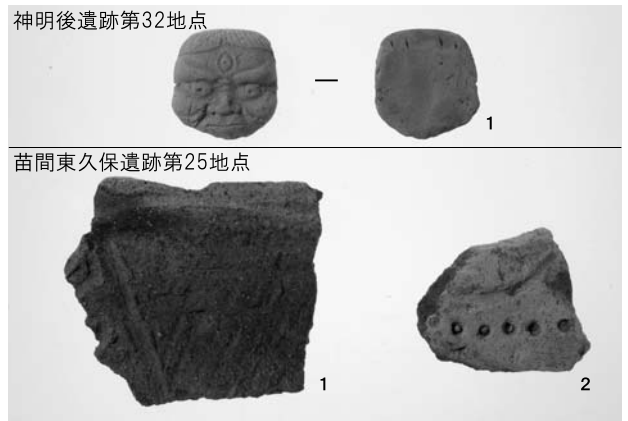
神明後遺跡第32地点試掘調査トレンチ2



苗間東久保遺跡第25地点試掘調査全景



苗間東久保遺跡第25地点試掘調査トレンチ1、ピット1～3



神明後遺跡第32地点

苗間東久保遺跡第25地点

神明後遺跡第32地点・苗間東久保遺跡第25地点
出土遺物



浄禅寺跡遺跡第9地点本調査近景



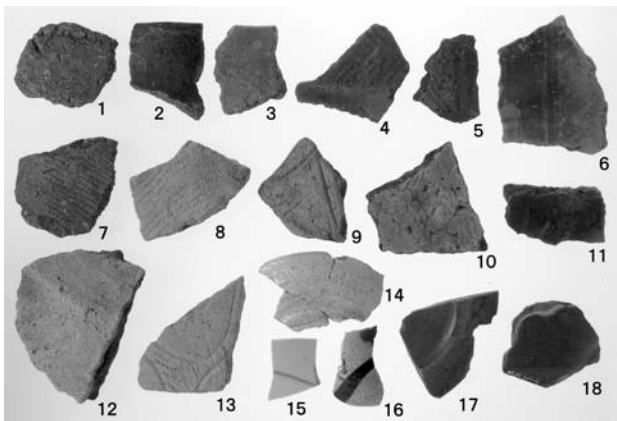
浄禅寺跡遺跡第9地点本調査表土除去風景



浄禅寺跡遺跡第9地点本調査溝



浄禅寺跡遺跡第9地点本調査溝土層



浄禅寺跡遺跡第9地点出土遺物No.1~18



浄禅寺跡遺跡第29地点地下式坑、ピット



浄禅寺跡遺跡第29地点井戸1



浄禅寺跡遺跡第29地点井戸2



浄禅寺跡遺跡第29地点井戸3



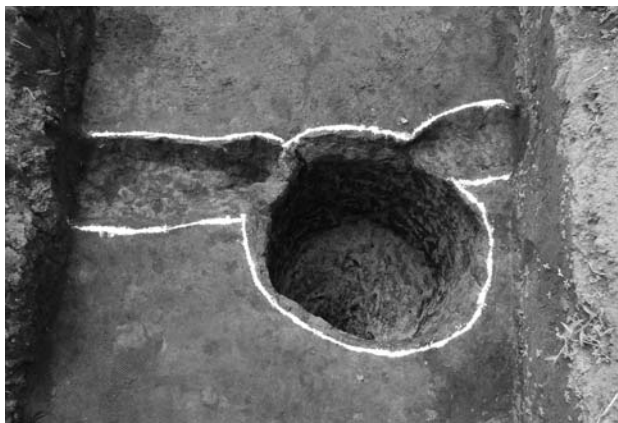
浄禅寺跡遺跡第29地点井戸4・13



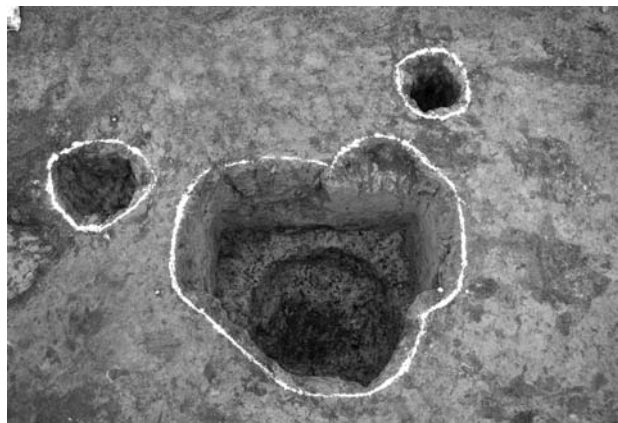
浄禅寺跡遺跡第29地点井戸4 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第29地点井戸6、堀跡1



浄禅寺跡遺跡第29地点井戸8、溝3



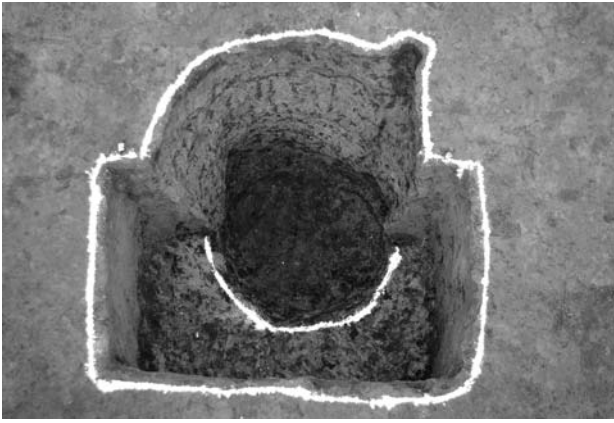
浄禅寺跡遺跡第29地点井戸9



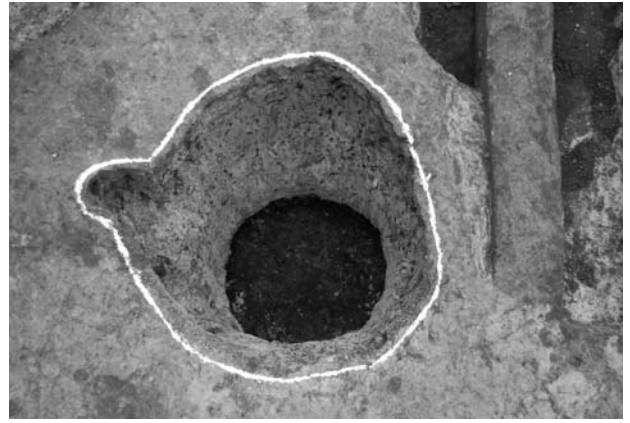
浄禅寺跡遺跡第29地点井戸10



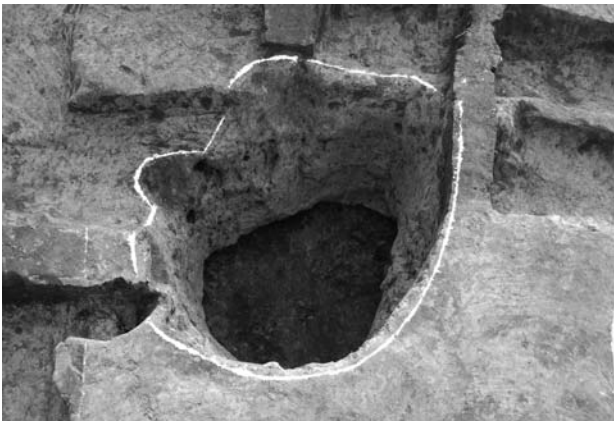
浄禅寺跡遺跡第29地点井戸11



浄禅寺跡遺跡第29地点井戸12



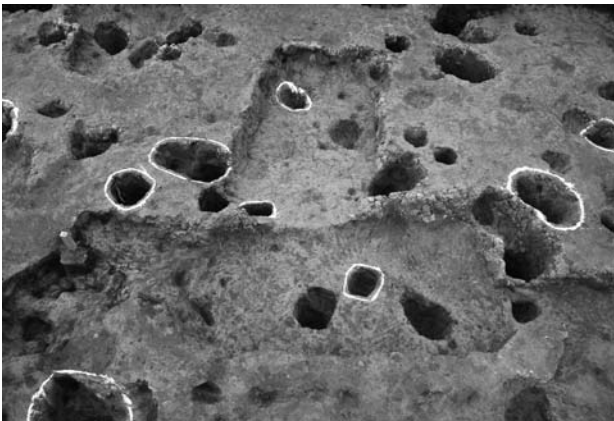
浄禅寺跡遺跡第29地点井戸13



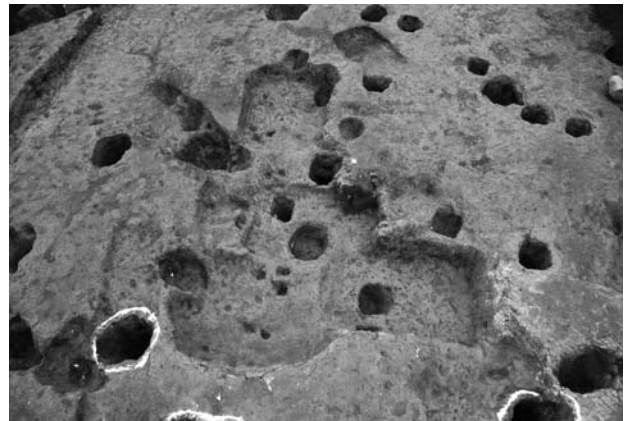
浄禅寺跡遺跡第29地点井戸14



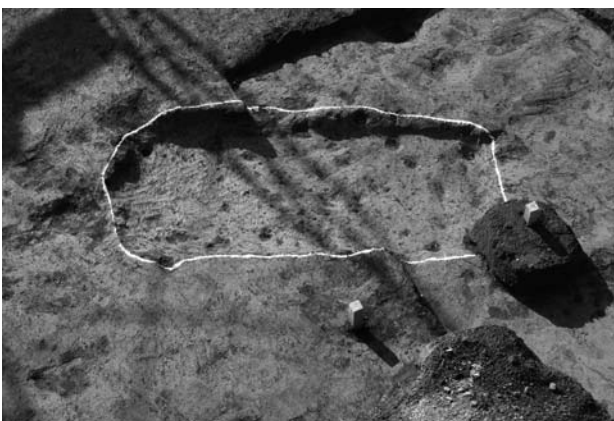
浄禅寺跡遺跡第29地点井戸15周辺



浄禅寺跡遺跡第29地点土坑5・40・41



浄禅寺跡遺跡第29地点土坑6・7・22・47・48



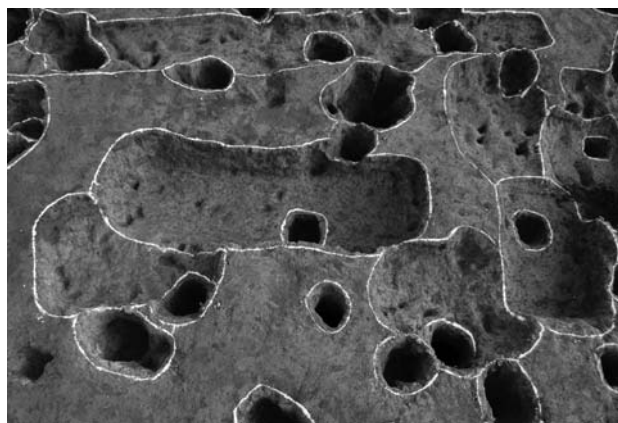
浄禅寺跡遺跡第29地点土坑12



浄禅寺跡遺跡第29地点土坑15、溝2・3



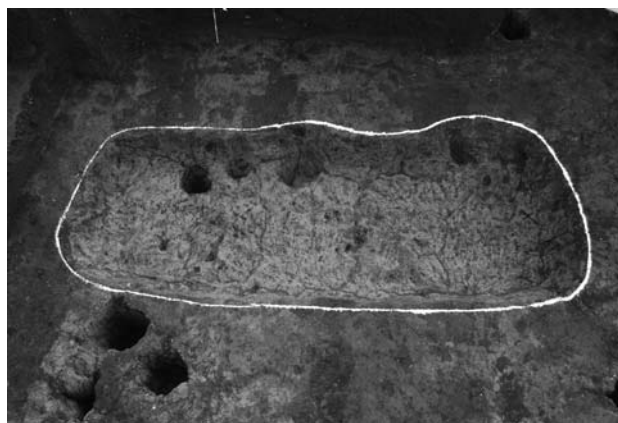
浄禅寺跡遺跡第29地点土坑38周辺



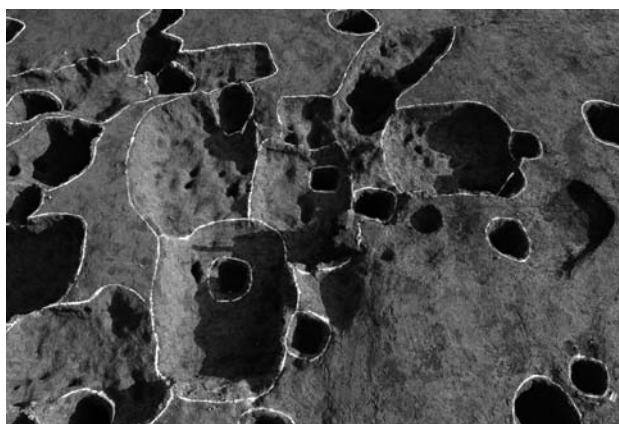
浄禅寺跡遺跡第29地点土坑43・44・47周辺



浄禅寺跡遺跡第29地点土坑45



浄禅寺跡遺跡第29地点土坑46



浄禅寺跡遺跡第29地点土坑47・48周辺



浄禅寺跡遺跡第29地点土坑50



浄禅寺跡遺跡第29地点堀跡



浄禅寺跡遺跡第29地点溝1・2



浄禅寺跡遺跡第29地点溝 8



浄禅寺跡遺跡第29地点溝 8



浄禅寺跡遺跡第29地点溝12、井戸 4・5・13・14、土坑42



浄禅寺跡遺跡第29地点D-6、E-6区周辺



浄禅寺跡遺跡第29地点D-5、E-6区周辺



浄禅寺跡遺跡第29地点D-5~6、E-5~6区掘立柱建物跡



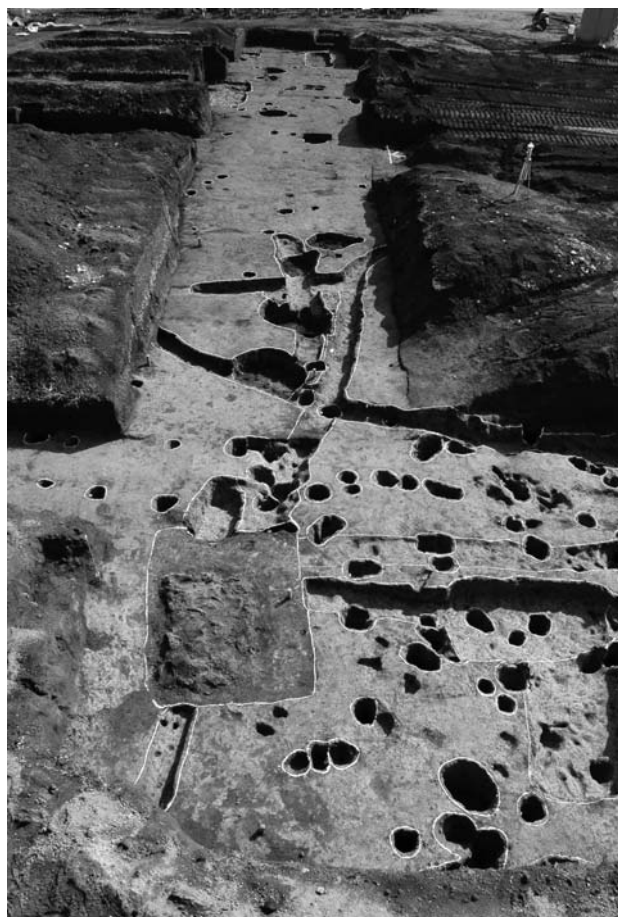
浄禅寺跡遺跡第29地点I~K-2~4区周辺



浄禅寺跡遺跡第29地点本調査全景（東から）



浄禅寺跡遺跡第29地点本調査D・E区全景（東から）



浄禅寺跡遺跡第29地点本調査4・5区全景（北から）



浄禅寺跡遺跡第29地点本調査10・11区全景（北から）



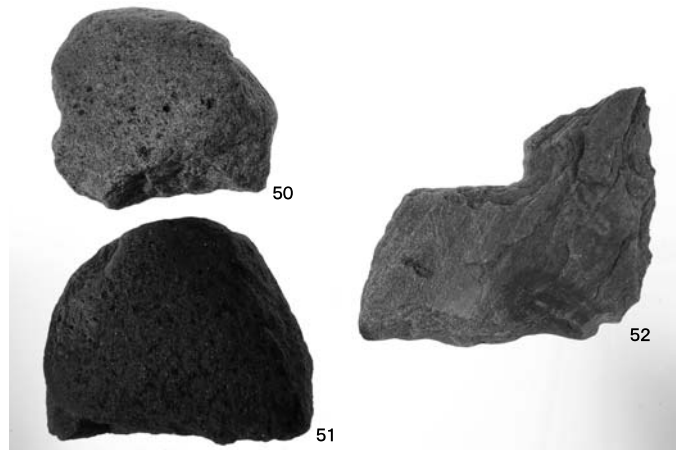
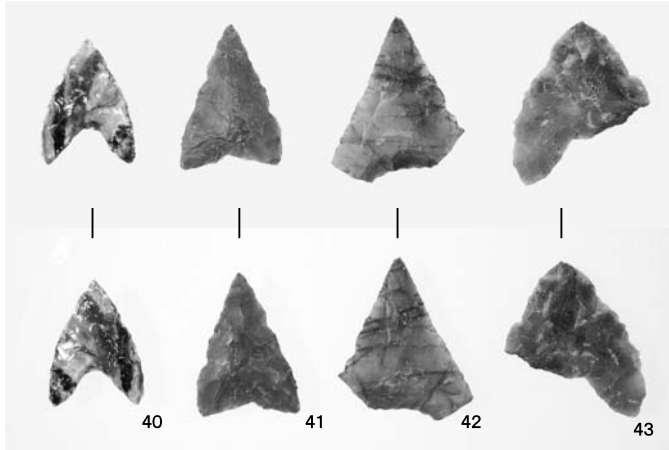
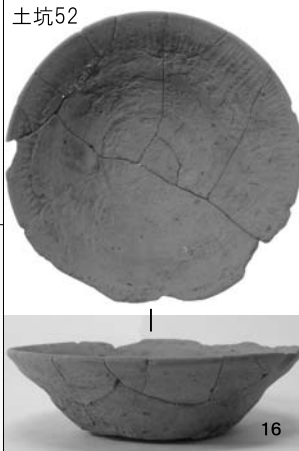
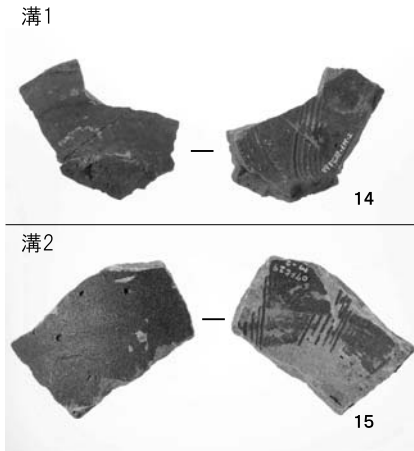
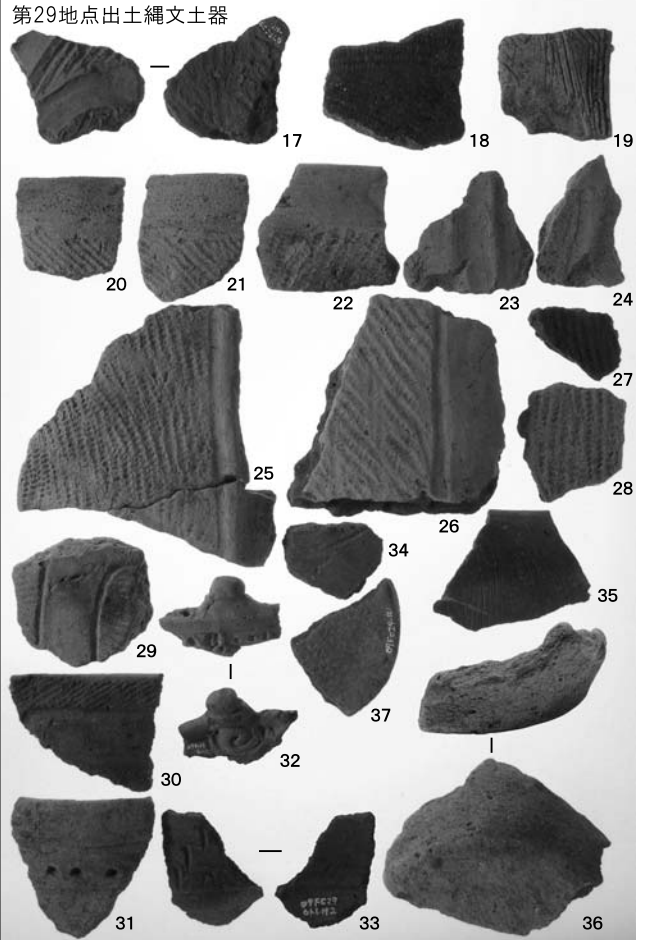
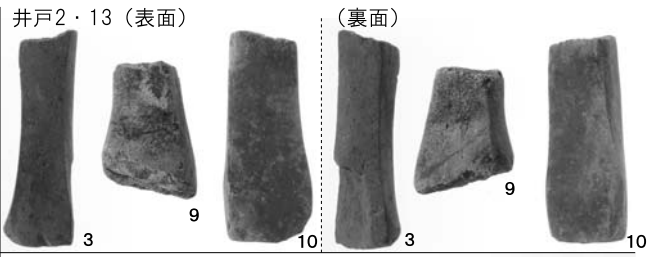
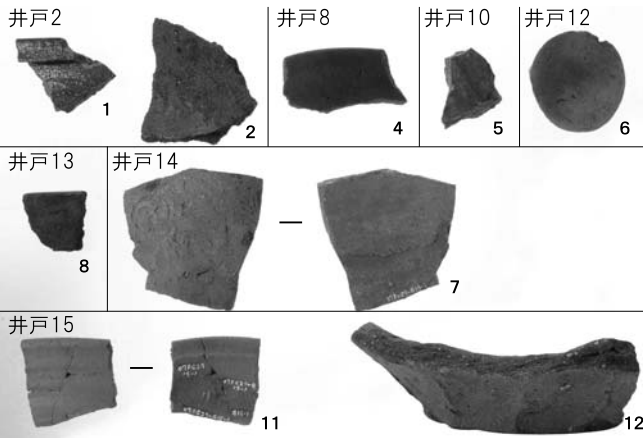
浄禅寺跡遺跡第29地点本調査I～M-19・20区全景（北から）

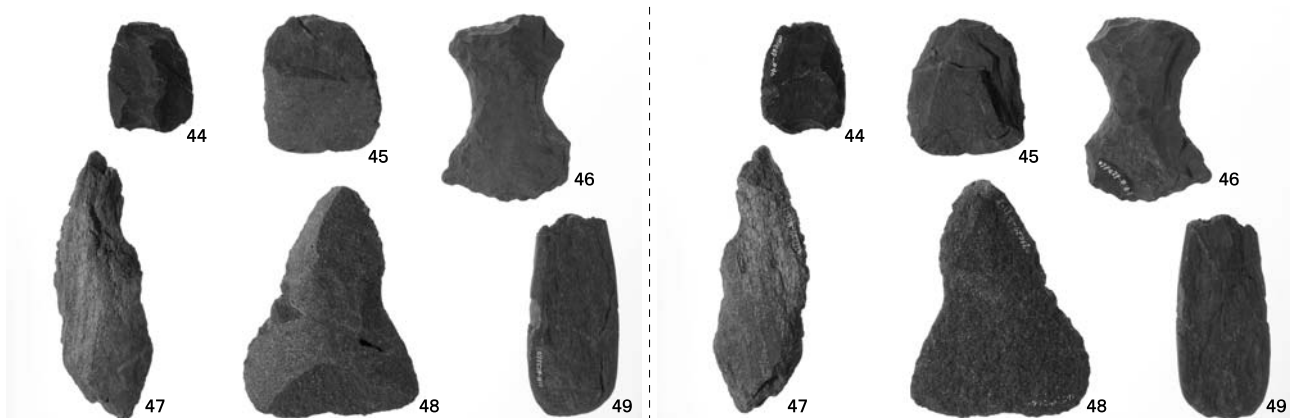


浄禅寺跡遺跡第29地点本調査I区全景（西から）



浄禅寺跡遺跡第29地点本調査全景（北から）





浄禅寺跡遺跡第29地点出土石器No.44~49 (左：表面、右：裏面)



浄禅寺跡遺跡第30地点
試掘調査トレンチ 2



浄禅寺跡遺跡第30地点
試掘調査トレンチ 3



浄禅寺跡遺跡第30地点試掘調査トレンチ 4



浄禅寺跡遺跡第30地点炉穴 1



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴 1



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴 2



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴3



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴4



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴5



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑1



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑2・4、溝1



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑5



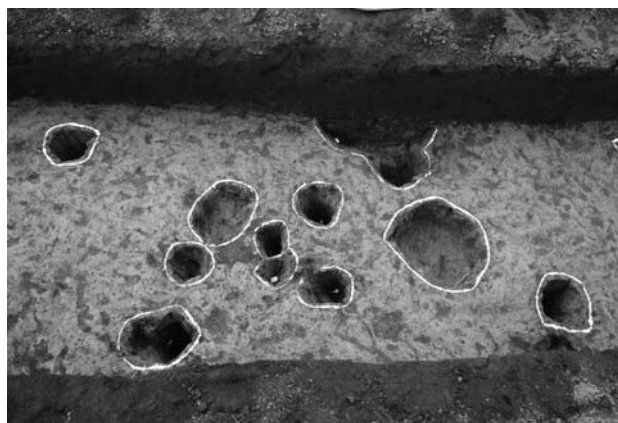
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑7



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑8



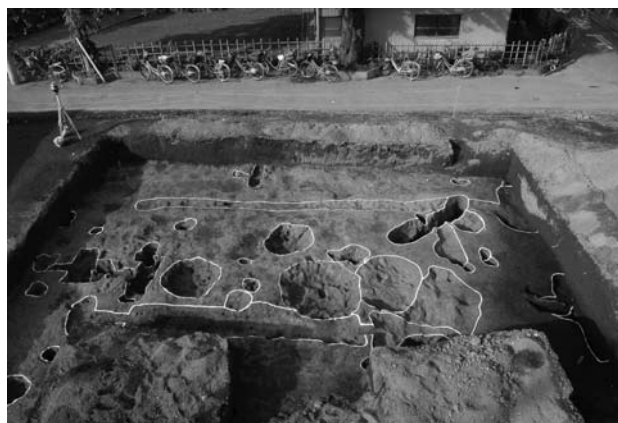
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑9



浄禅寺跡遺跡第30地点トレンチ4、ピット



浄禅寺跡遺跡第30地点トレンチ5、ピット



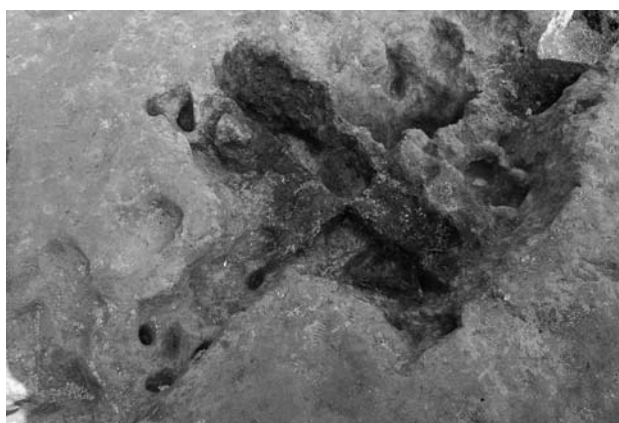
浄禅寺跡遺跡第30地点本調査全景



浄禅寺跡遺跡第30地点本調査全景



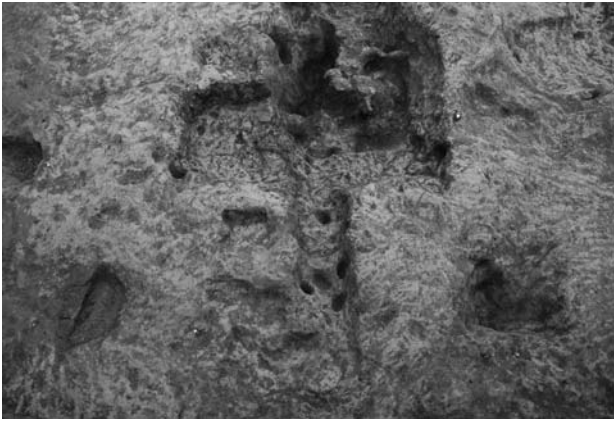
浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 1



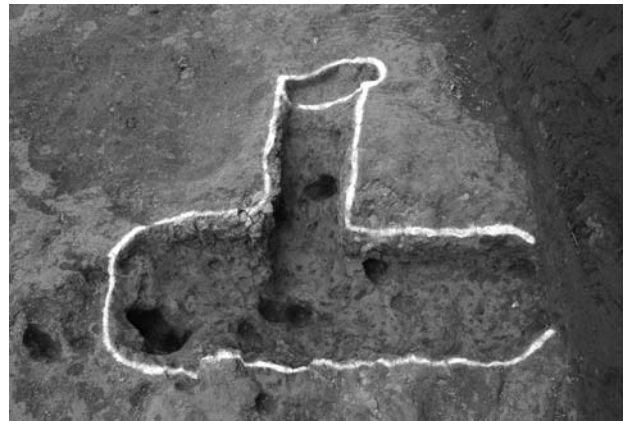
浄禅寺跡遺跡第30地点
茶毘跡 1・3



浄禅寺跡遺跡第30地点
茶毘跡 1・3



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 2 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 2



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 3 遺物出土状況



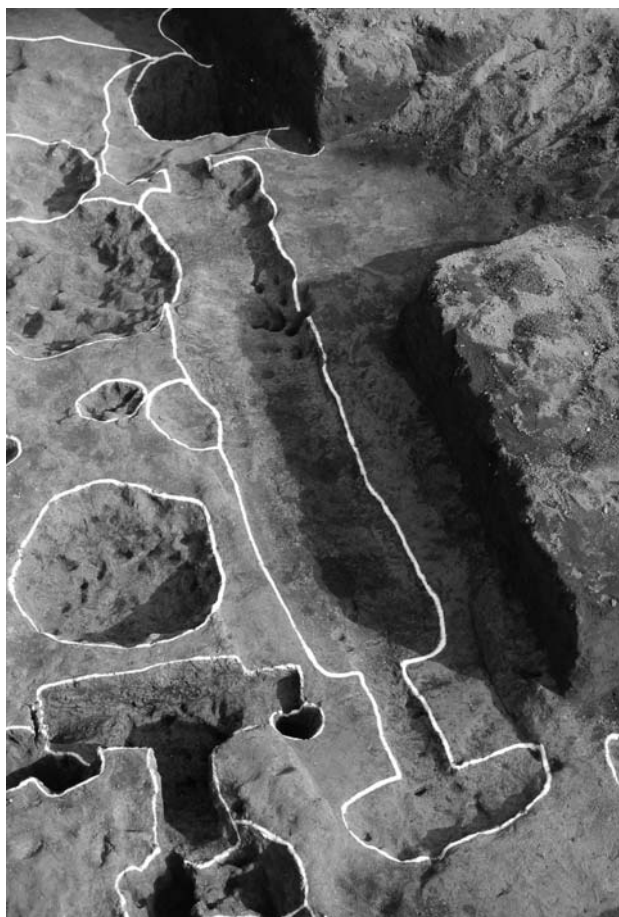
浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 3



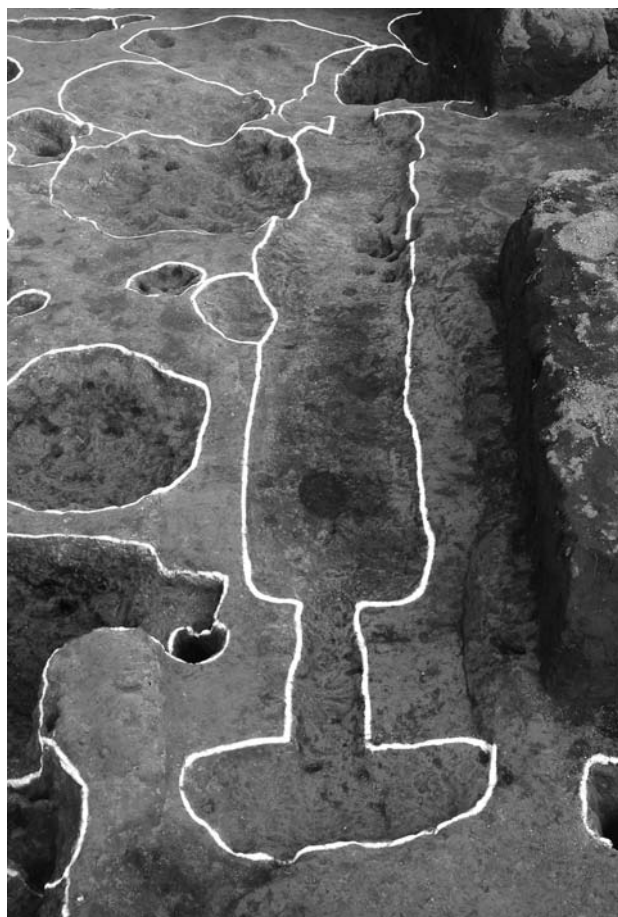
浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 4



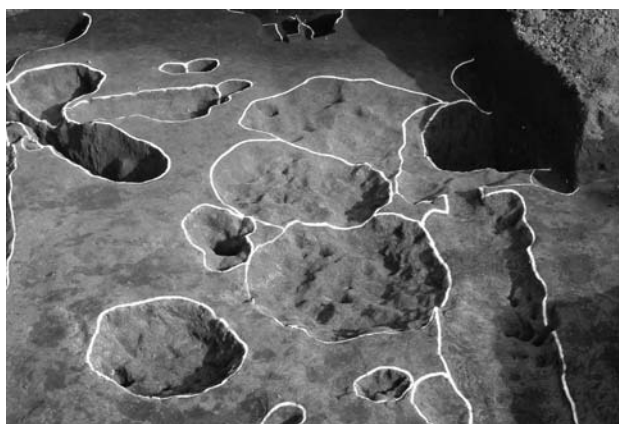
浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 4・5



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 1・3、木炭窯



浄禅寺跡遺跡第30地点木炭窯



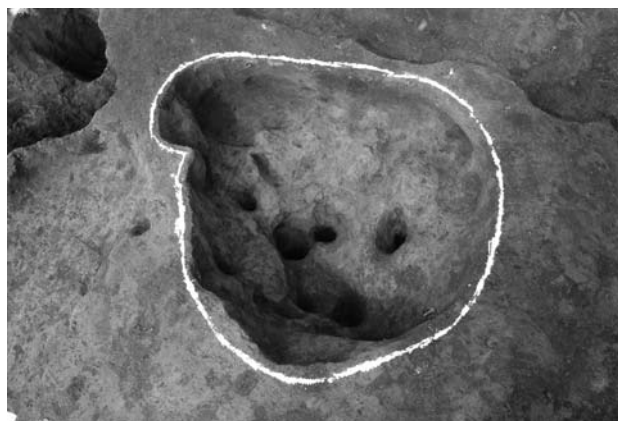
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑 4・11・12・15・16



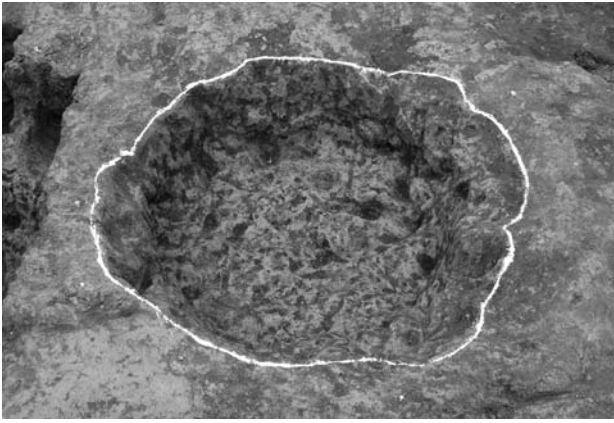
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑 3 土層



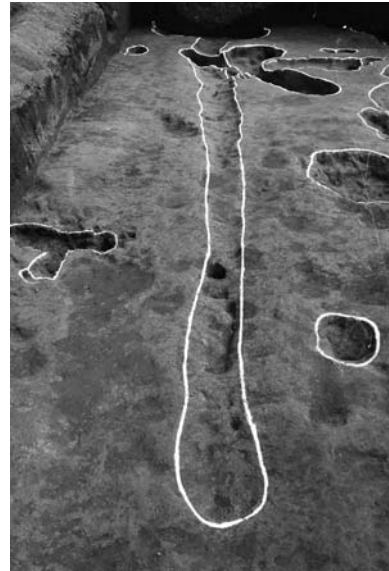
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑 3



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑10

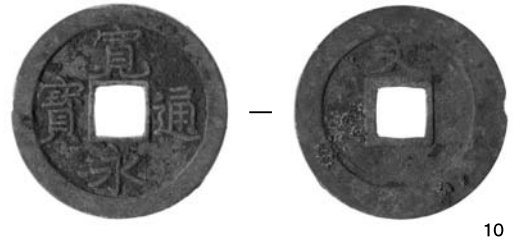
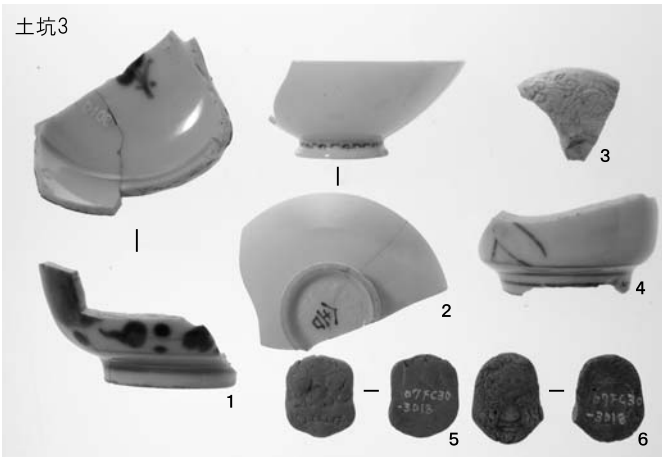


浄禅寺跡遺跡第30地点土坑14

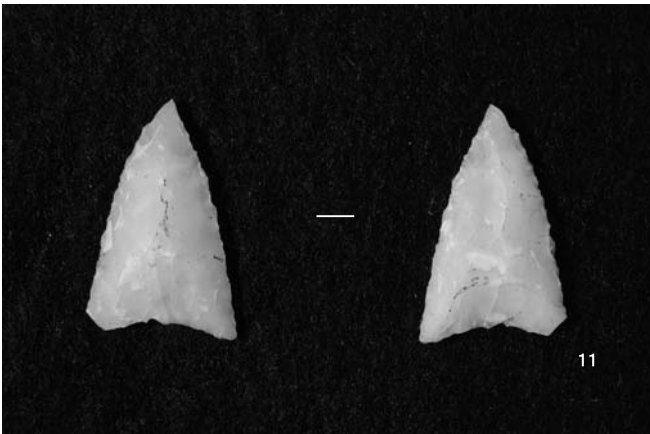


浄禅寺跡遺跡第30地点溝

土坑3

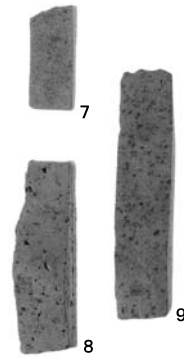


10

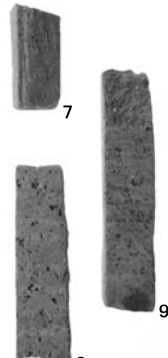


11

No.7~9 (表面)



(裏面)

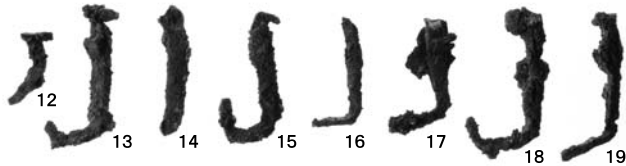


P21

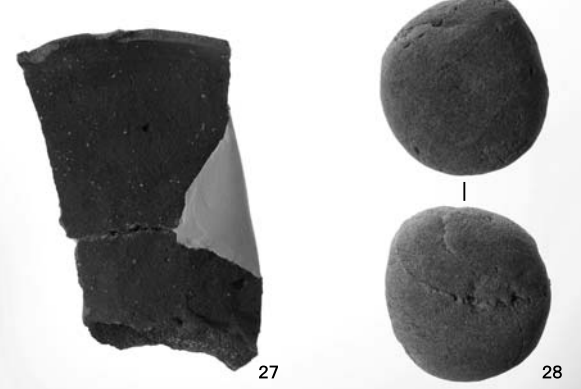


26

茶毘跡1



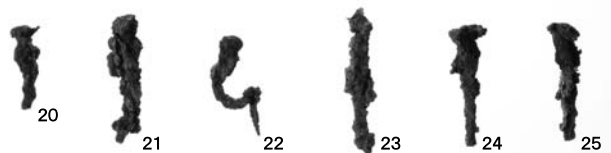
遺構外

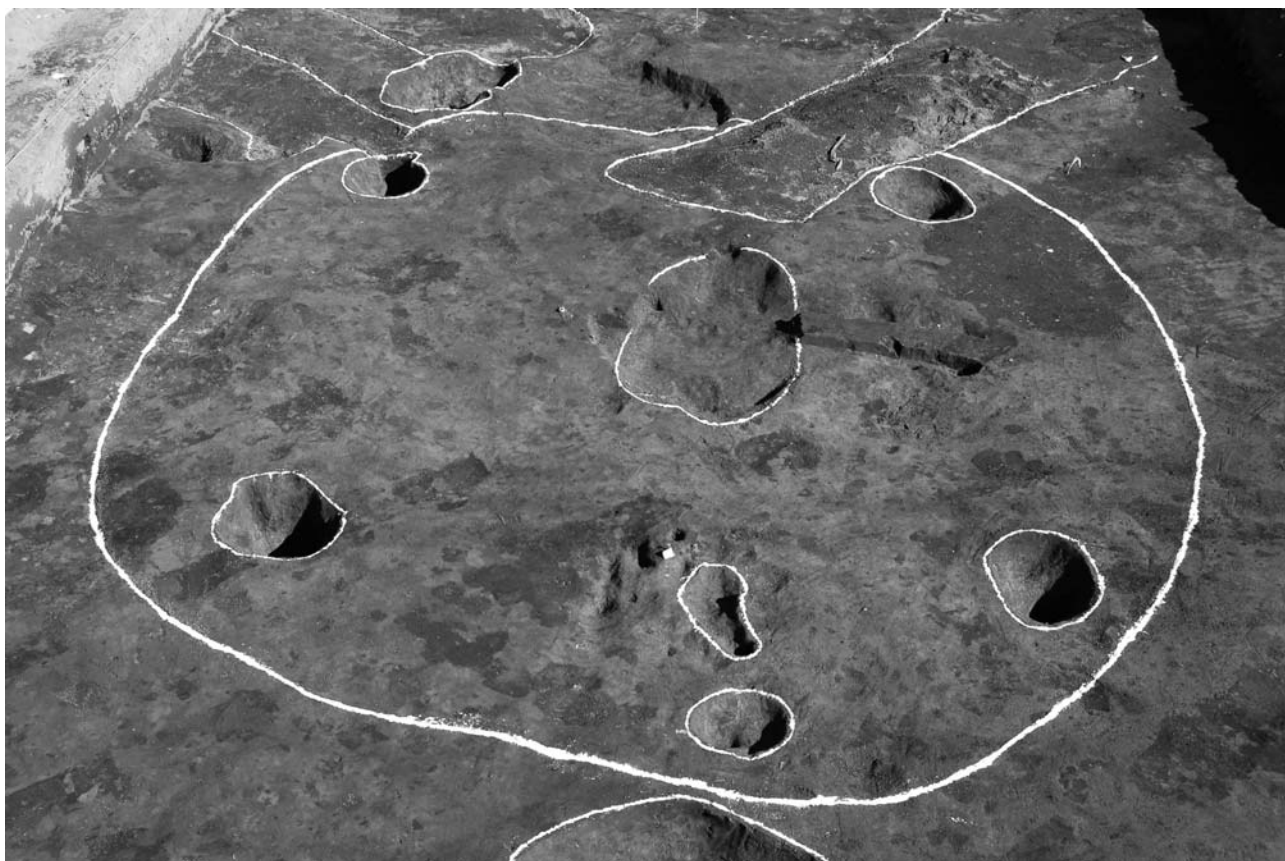


27

28

茶毘跡4





浄禅寺跡遺跡第31地点 3号住居跡



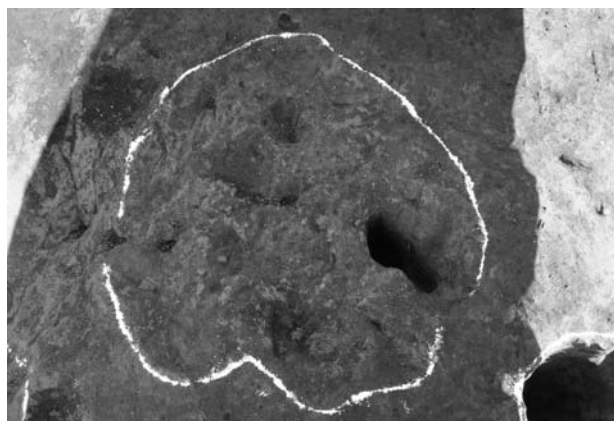
浄禅寺跡遺跡第31地点 3号住居跡



浄禅寺跡遺跡第31地点炉遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第31地点 3号住居跡埋甕



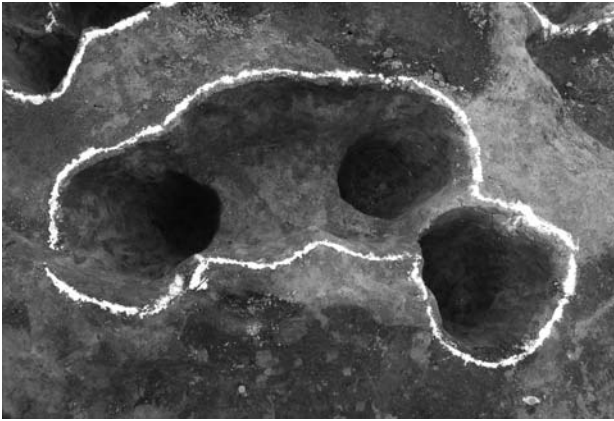
浄禅寺跡遺跡第31地点炉穴



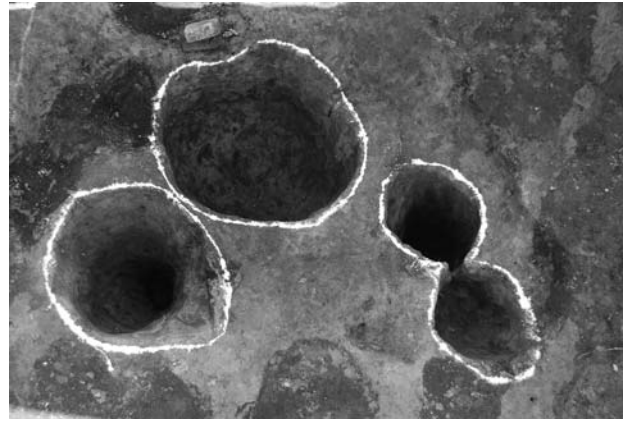
浄禅寺跡遺跡第31地点土坑 1



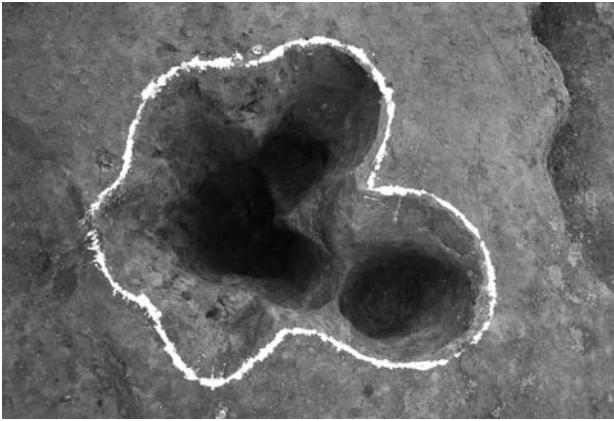
浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 6～8・14



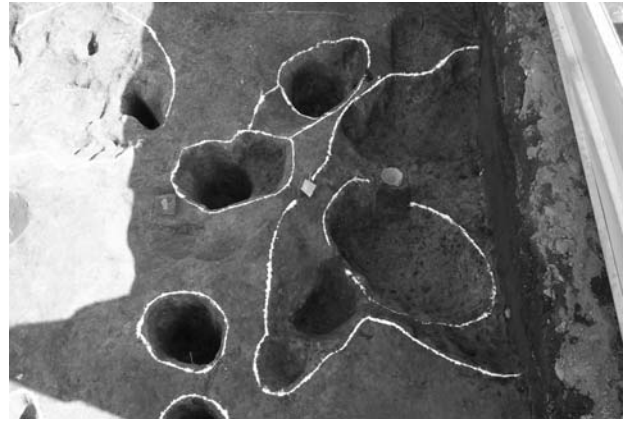
浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 6・22・23



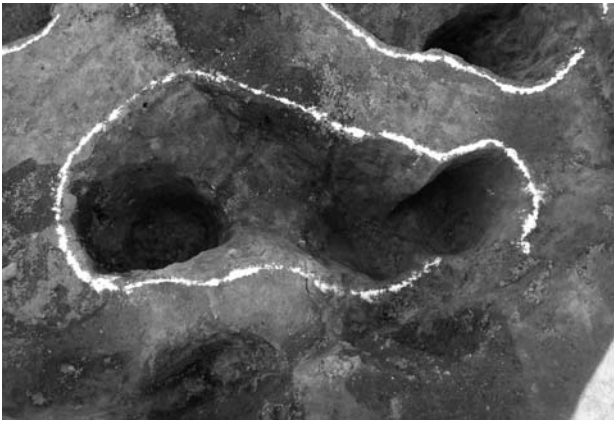
浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 7・8・24・25



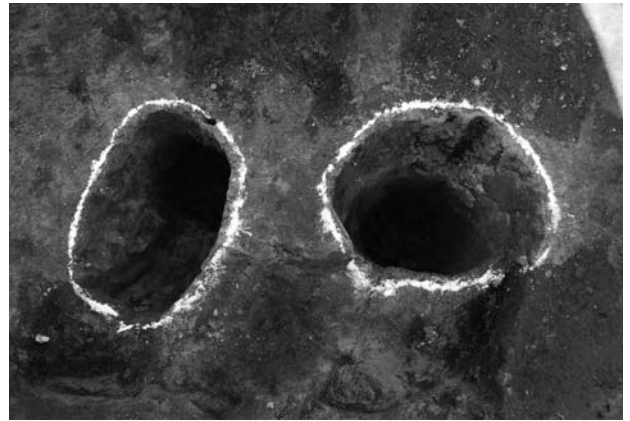
浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 11



浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 12・13・18



浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 14・21



浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 15・17

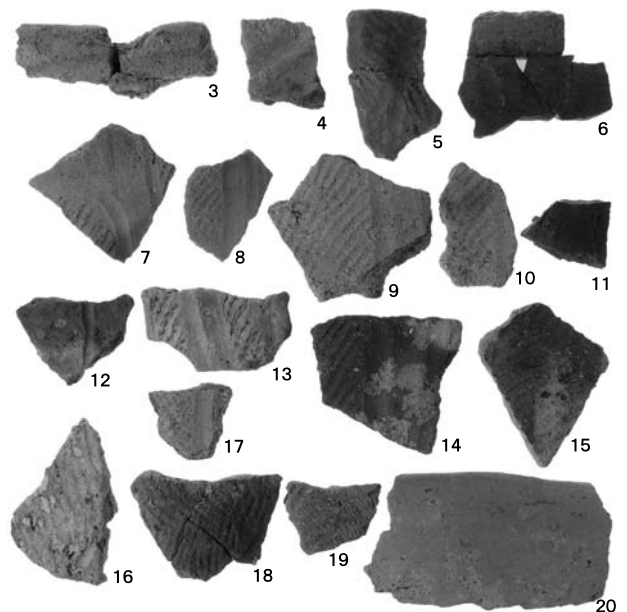
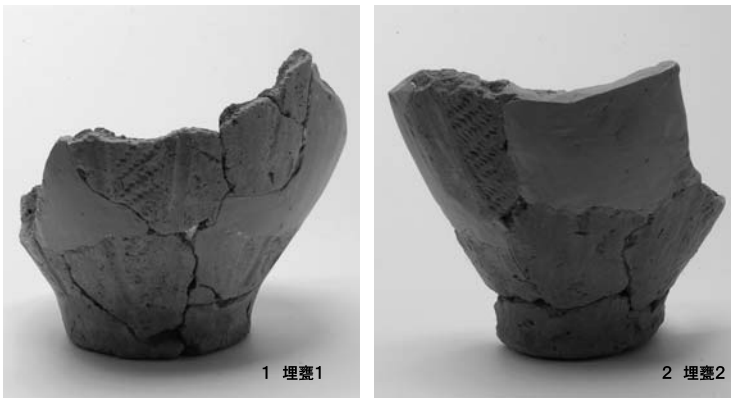


浄禅寺跡遺跡第31地点本調査南側調査区全景

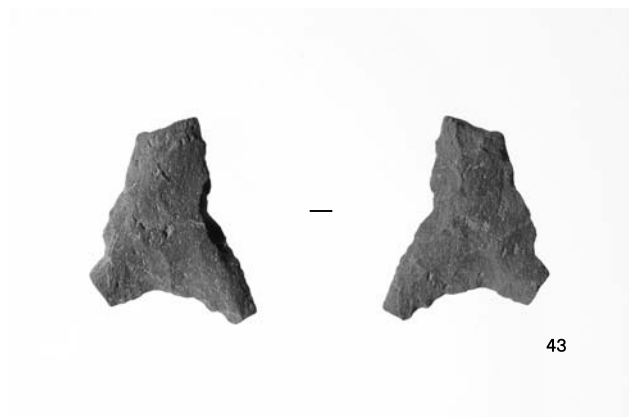
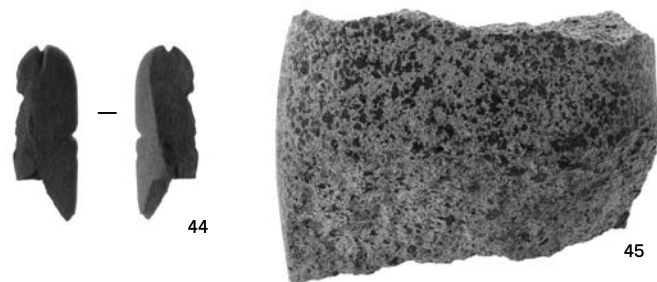
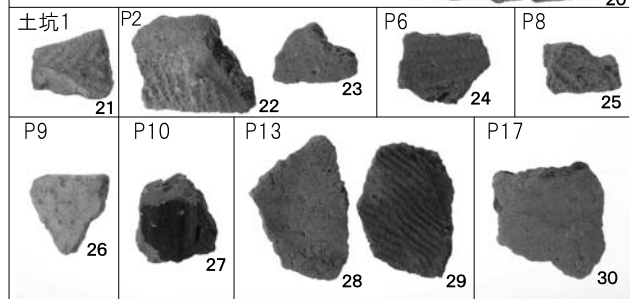
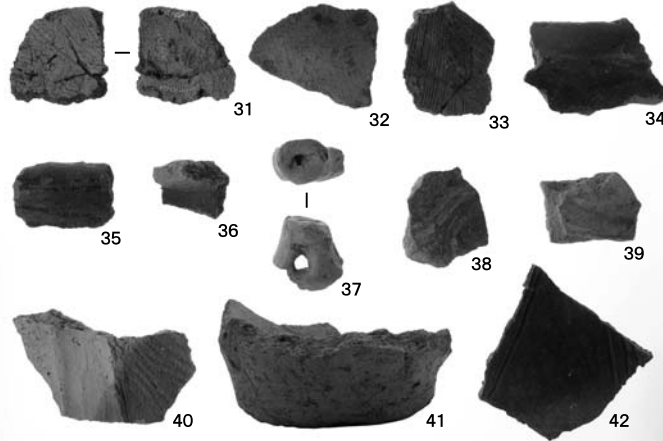


浄禅寺跡遺跡第31地点本調査南側調査区全景

3号住居跡



遺構外

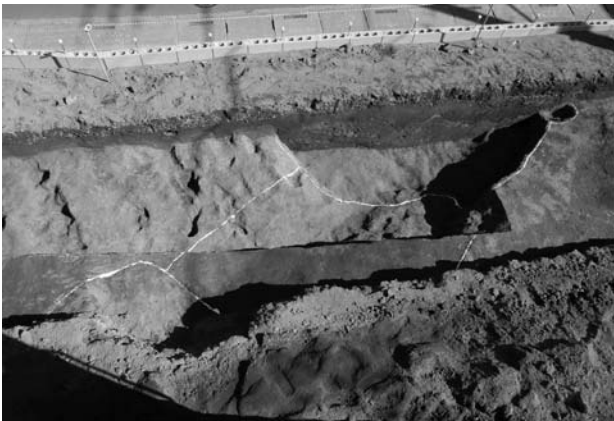




浄禅寺跡遺跡第32地点試掘調査トレンチ 1



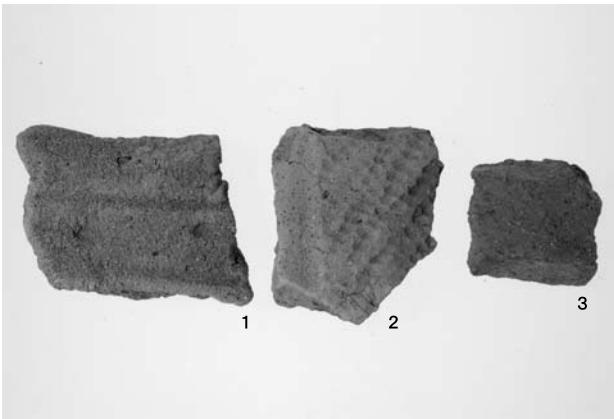
浄禅寺跡遺跡第32地点試掘調査トレンチ 1、堀跡



浄禅寺跡遺跡第32地点試掘調査トレンチ 1、堀跡



浄禅寺跡遺跡第32地点試掘調査トレンチ 1、堀跡



浄禅寺跡遺跡第32地点出土遺物



大井宿遺跡第15地点試掘調査近景



大井宿遺跡第15地点試掘調査トレンチ 1



大井宿遺跡第15地点試掘調査トレンチ 2



大井宿遺跡第15地点土坑 1



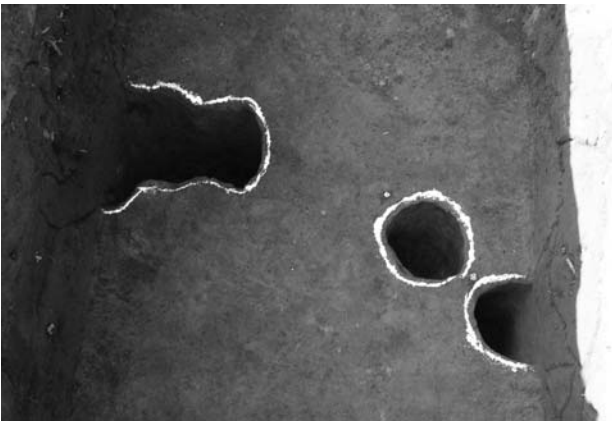
大井宿遺跡第15地点土坑 2



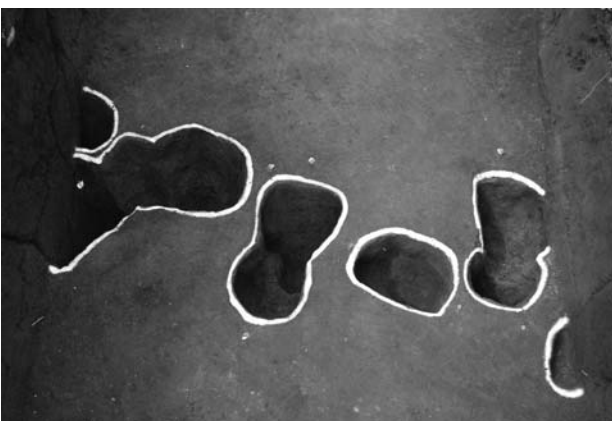
大井宿遺跡第15地点土坑 3



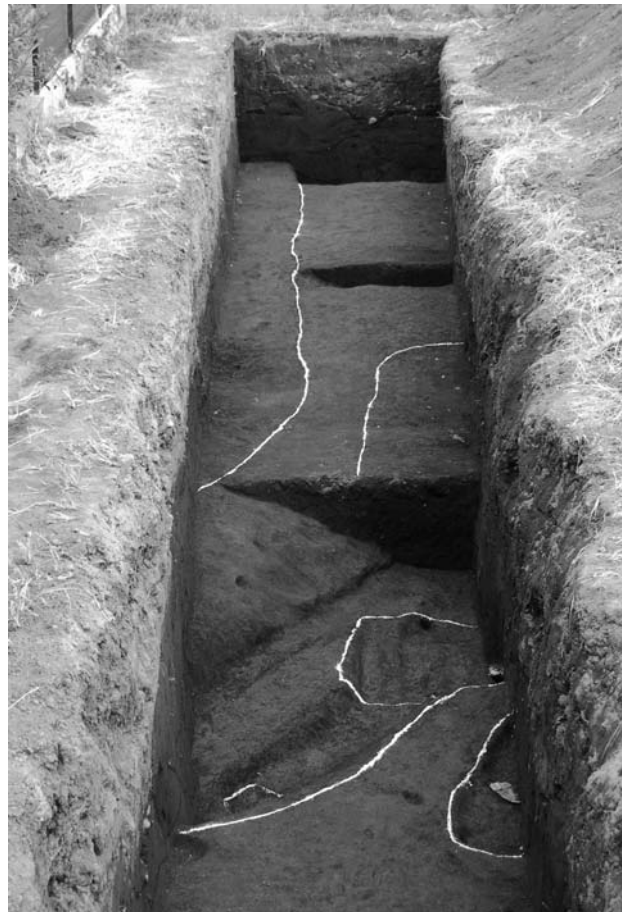
大井宿遺跡第15地点土坑 4



大井宿遺跡第15地点ピット 1～4



大井宿遺跡第15地点ピット 7～16



大井宿遺跡第15地点溝

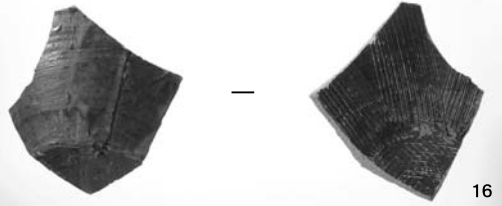


大井宿遺跡第15地点溝

土坑1



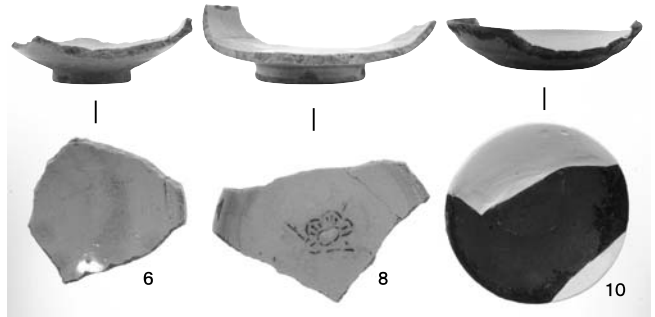
溝



土坑2・溝



土坑2



土坑2



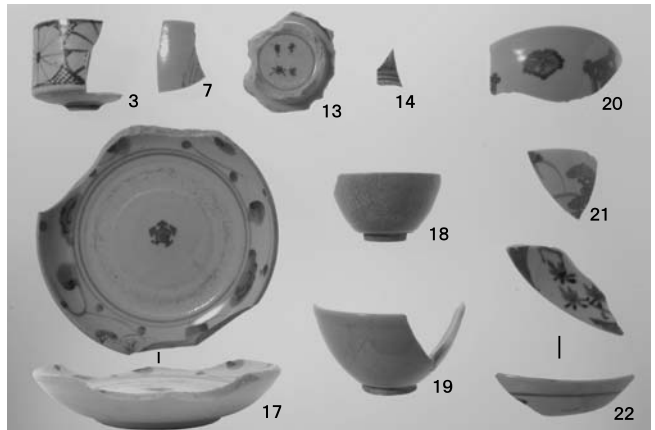
土坑2



土坑2

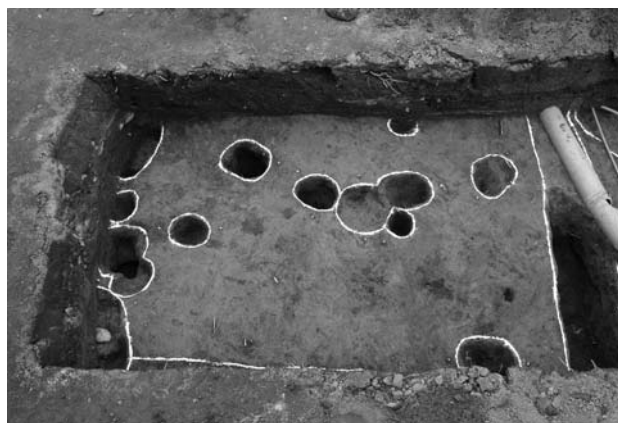


土坑2・3、遺構外





大井氏館跡遺跡第22地点試掘調査近景



大井氏館跡遺跡第22地点試掘調査トレンチ 1



大井氏館跡遺跡第22地点試掘調査トレンチ 1



大井氏館跡遺跡第22地点試掘調査トレンチ 2



大井氏館跡遺跡第22地点礎石



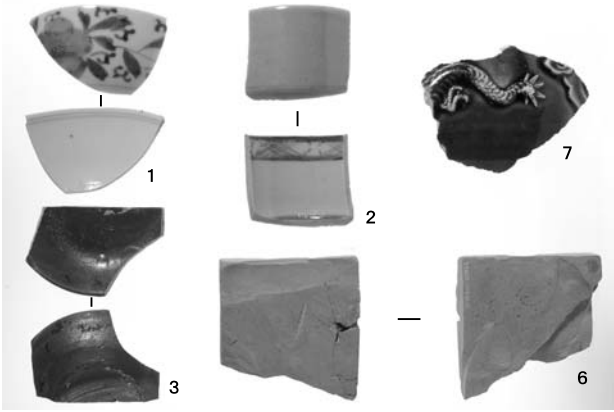
大井氏館跡遺跡第22地点礎石



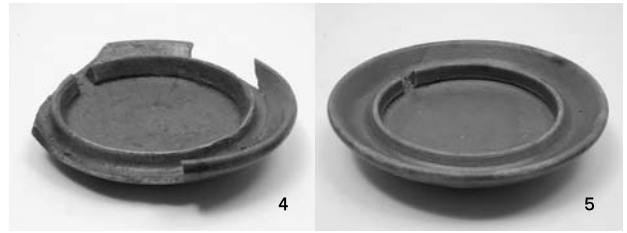
大井氏館跡遺跡第22地点礎石、土坑 4



大井氏館跡遺跡第22地点土坑 1



大井氏館跡遺跡第22地点土坑2・礎石2・遺構外
出土遺物No.1~3・6・7



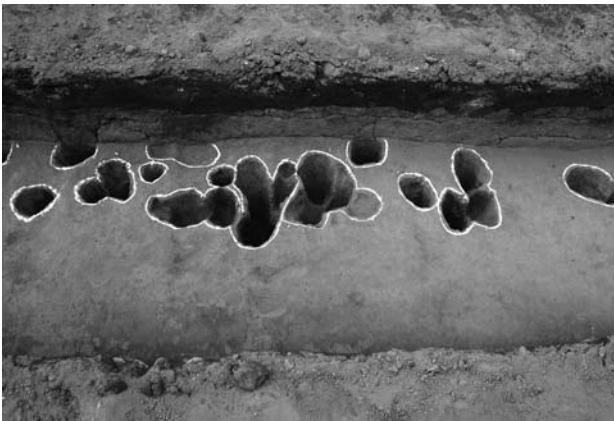
大井氏館跡遺跡第22地点土坑2出土遺物No.4・5



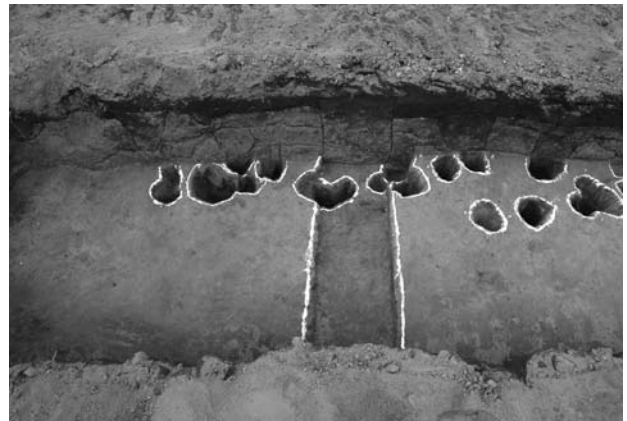
大井戸上遺跡第6地点試掘調査トレンチ



大井戸上遺跡第6地点ピット2~11・20~22



大井戸上遺跡第6地点ピット12~19・23~35



大井戸上遺跡第6地点ピット31~49



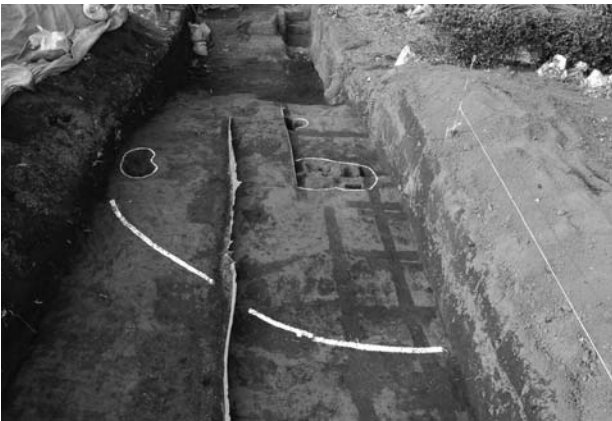
東台遺跡第49地点近景



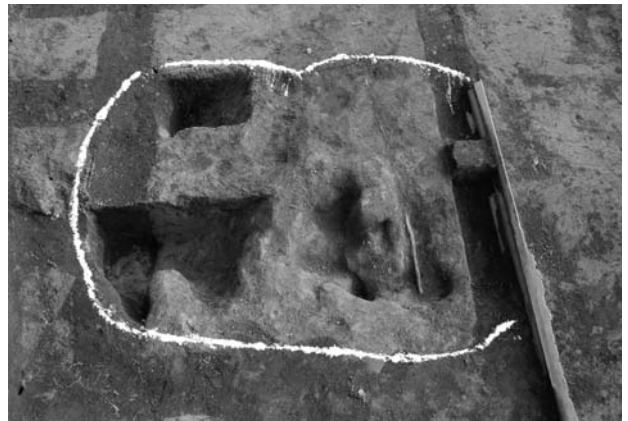
東台遺跡第49地点近景（北側斜面調査区）



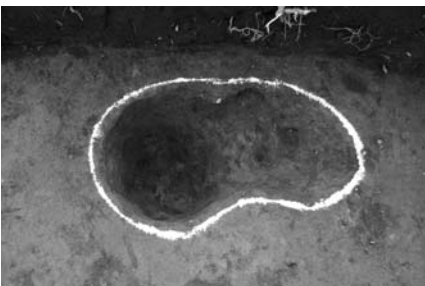
東台遺跡第49地点171号住居跡



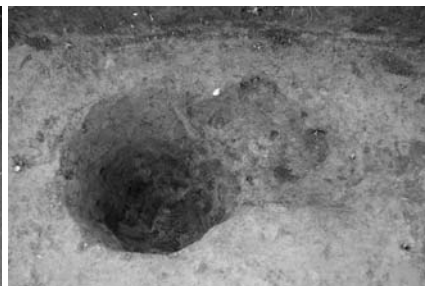
東台遺跡第49地点171号住居跡



東台遺跡第49地点171号住居跡炉



東台遺跡第49地点171号住居跡ピット1



東台遺跡第49地点171号住居跡ピット2



東台遺跡第49地点171号住居跡ピット3



東台遺跡第49地点住居跡遺構確認状況



東台遺跡第49地点住居跡



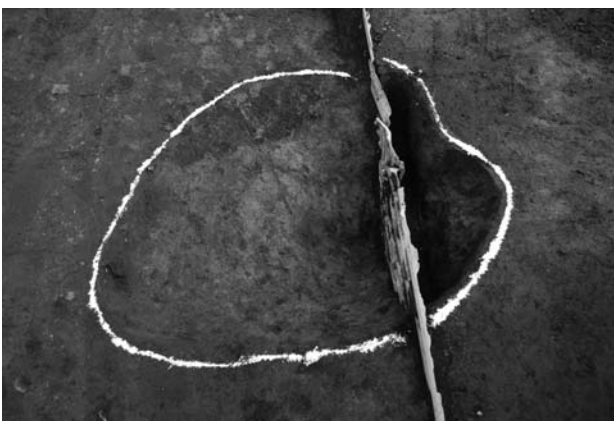
東台遺跡第49地点埋甕出土状況



東台遺跡第49地点埋甕出土状況



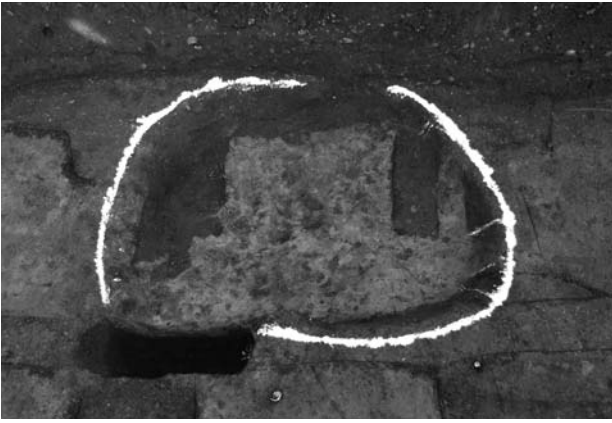
東台遺跡第49地点集石土坑 1



東台遺跡第49地点集石土坑 1



東台遺跡第49地点集石土坑 2



東台遺跡第49地点集石土坑2



東台遺跡第49地点全景



東台遺跡第49地点粘土採掘坑・土坑1 (南から)



東台遺跡第49地点粘土採掘坑・土坑1 (北から)



東台遺跡第49地点粘土採掘坑土層



東台遺跡第49地点溝



東台遺跡第49地点出土遺物No.1



東台遺跡第49地点出土遺物No.2

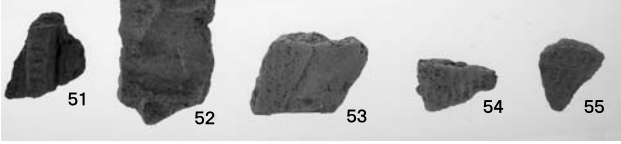
172号住居跡



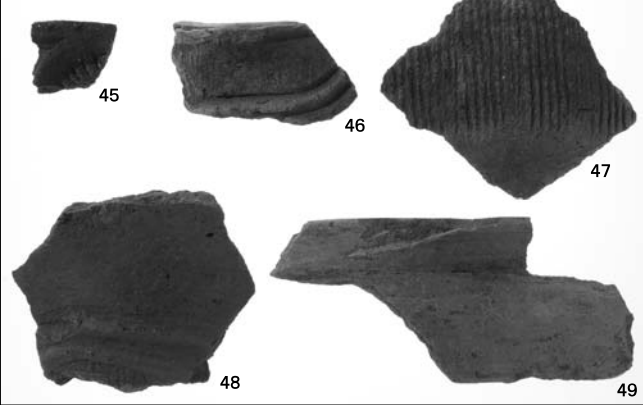
屋外埋甕



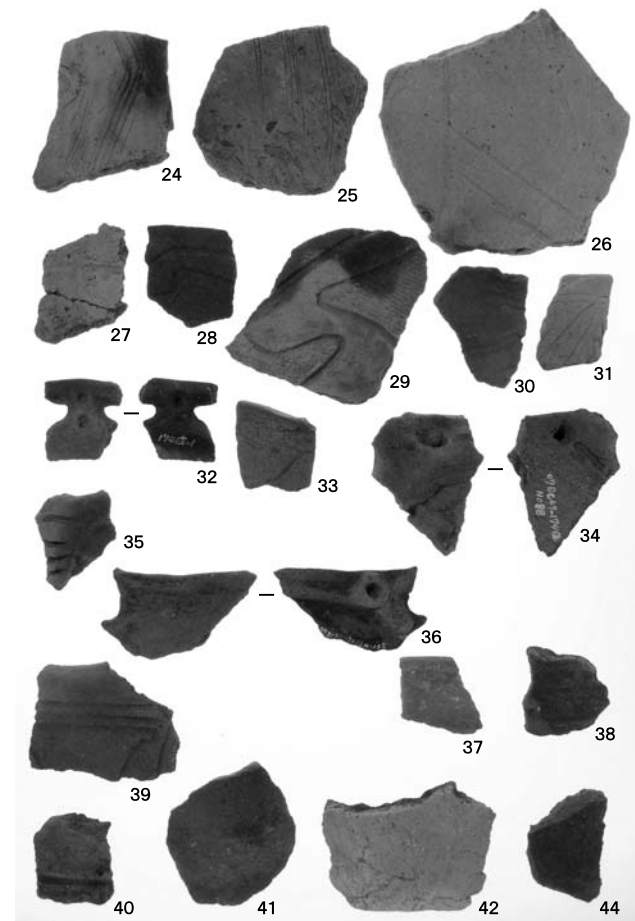
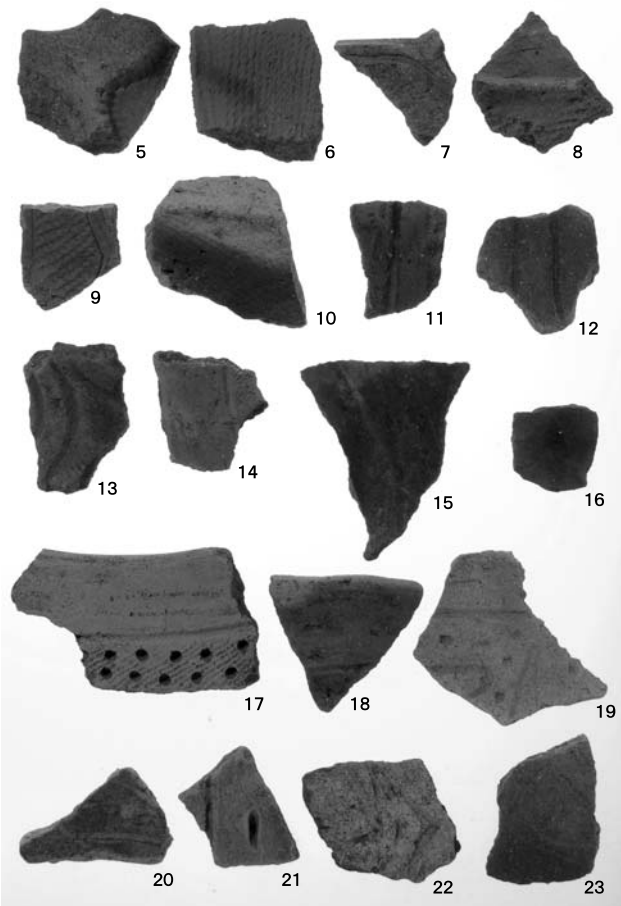
集石土坑1



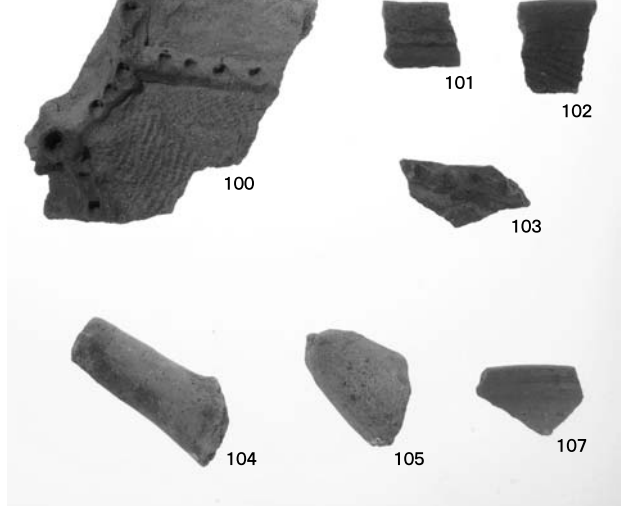
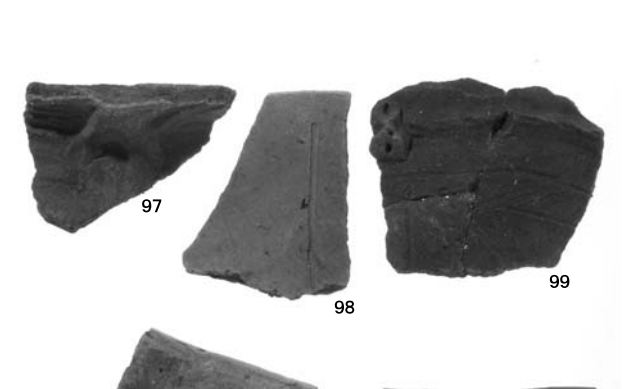
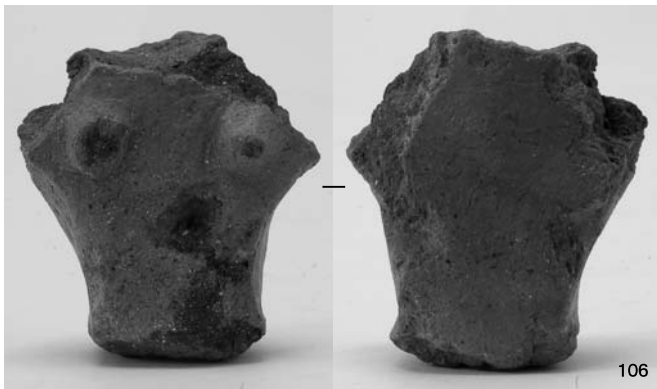
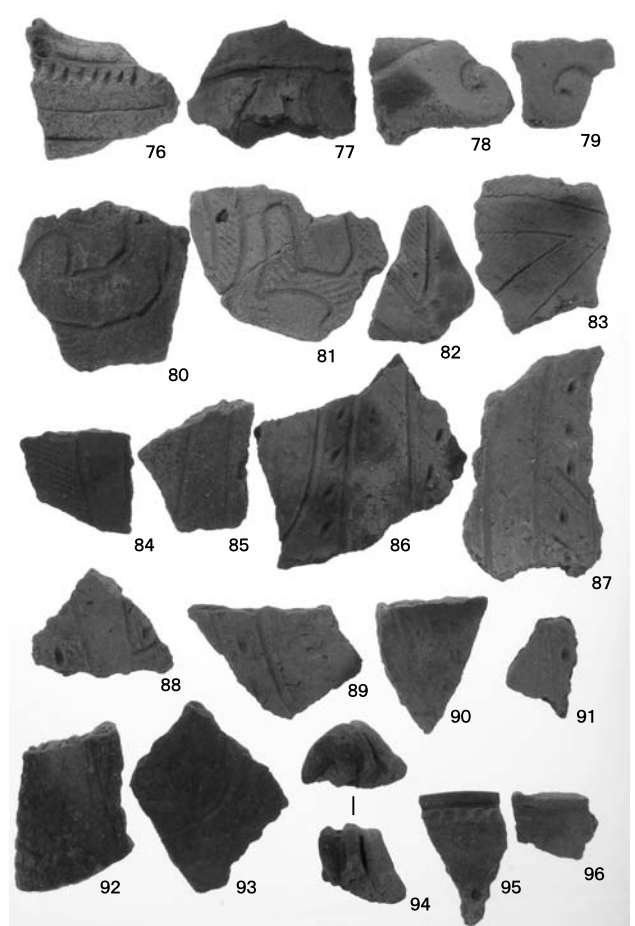
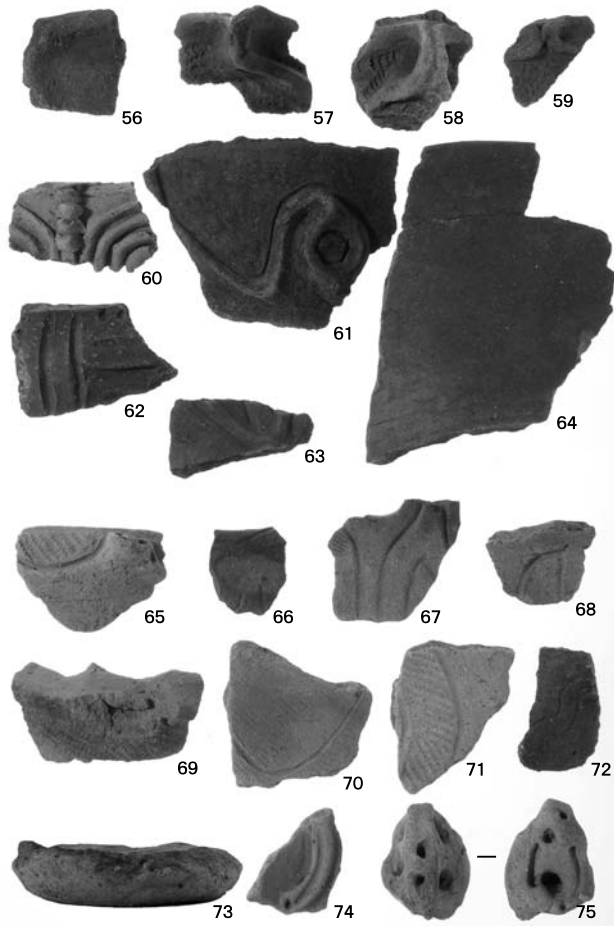
175号住居跡



174号住居跡



遺構外



東台遺跡第49地点出土遺物No.56~107



苗間東久保遺跡第25地点



長宮遺跡第28地点



浄禅寺跡遺跡第29地点 3



西遺跡第1地点 1



東久保遺跡第65地点



浄禅寺跡遺跡第29地点 4



西遺跡第1地点 2



神明後遺跡第31地点



浄禅寺跡遺跡第31地点



西遺跡第1地点 3



浄禅寺跡遺跡第29地点 1



大井戸上遺跡第6地点



滝遺跡第14地点



浄禅寺跡遺跡第29地点 2



東台遺跡第49地点



上福岡貝塚第1地点
1号住居跡発掘調査風景1



上福岡貝塚第1地点
2号住居跡発掘調査風景4



上福岡貝塚第1地点遺跡見学2



上福岡貝塚第1地点
1号住居跡発掘調査風景2



上福岡貝塚第1地点
2号住居跡発掘調査風景5



上福岡貝塚第1地点遺跡見学会



上福岡貝塚第1地点
2号住居跡発掘調査風景1



上福岡貝塚第1地点実測風景



上福岡貝塚第1地点調査参加者1



上福岡貝塚第1地点
2号住居跡発掘調査風景2



上福岡貝塚第1地点
水溜調査風景



上福岡貝塚第1地点調査参加者2



上福岡貝塚第1地点
2号住居跡発掘調査風景3



上福岡貝塚第1地点
遺跡見学1



上福岡貝塚第1地点
調査参加者3

整理作業風景①



上福岡貝塚第1地点
貝の洗浄1



上福岡貝塚第1地点
貝の分類1



上福岡貝塚第1地点
重量計測



上福岡貝塚第1地点
貝の洗浄2



上福岡貝塚第1地点
貝の分類2



上福岡貝塚第1地点
データ入力



上福岡貝塚第1地点
貝の洗浄3



上福岡貝塚第1地点
貝の分類3



上福岡貝塚第1地点
データ入力



上福岡貝塚第1地点
貝の洗浄4



上福岡貝塚第1地点
貝の分類4



上福岡貝塚第1地点
貝の同定



上福岡貝塚第1地点
乾燥



上福岡貝塚第1地点
貝の分類5



上福岡貝塚第1地点
報告書打ち合わせ



遺物水洗 1



遺物実測 1



遺物写真撮影 2



遺物水洗 2



遺物実測 2



図面整理 1



遺物復元 1



遺物実測 3



図面整理 2



遺物復元 2



遺物
実測 4



図面清書



遺物拓本



遺物写真撮影 1



図版作成

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第5集

埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群4

2009年3月23日印刷

2009年3月30日発行

発行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8555 埼玉県ふじみ野市大井中央1丁目1番1号

TEL 049-261-2811

FAX 049-266-6271

印刷 株式会社文化新聞社
